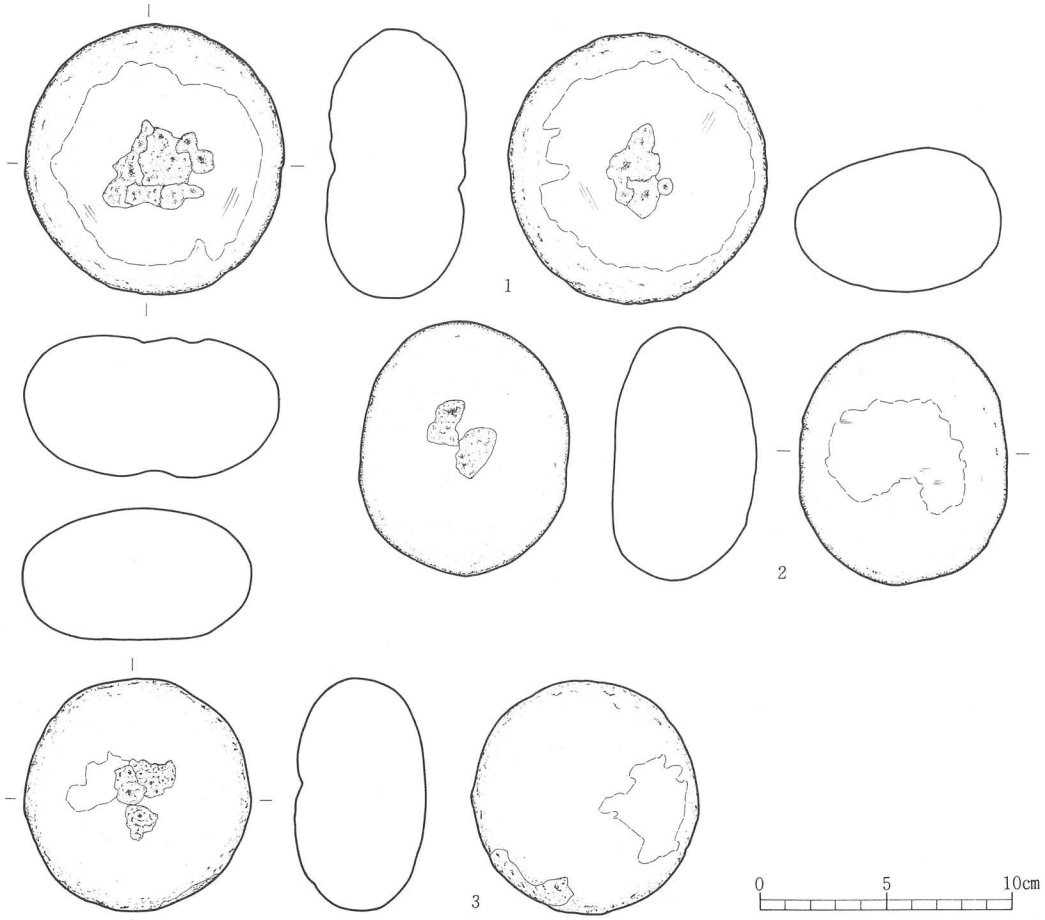
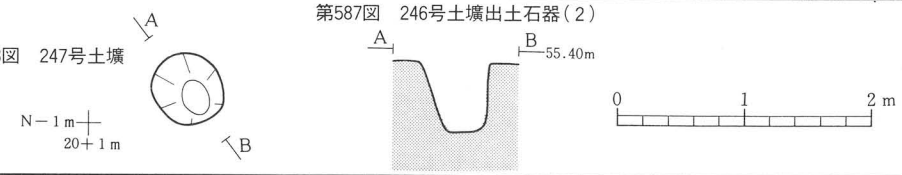


No.	種別	層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	礫石器	堆積土	180×101×56	815.0		凹－両面、磨－両面	
2	礫石器	堆積土	102×82×58	682.0		凹－片面、磨－片面、片側面	
3	礫石器	堆積土	94×89×53	606.0		凹－片面、敲－片側面、磨－両面	

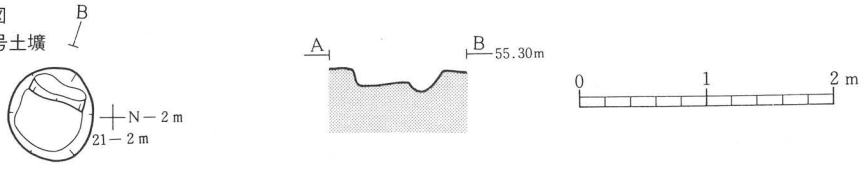
第587図　246号土壙出土石器(2)

第588図　247号土壙



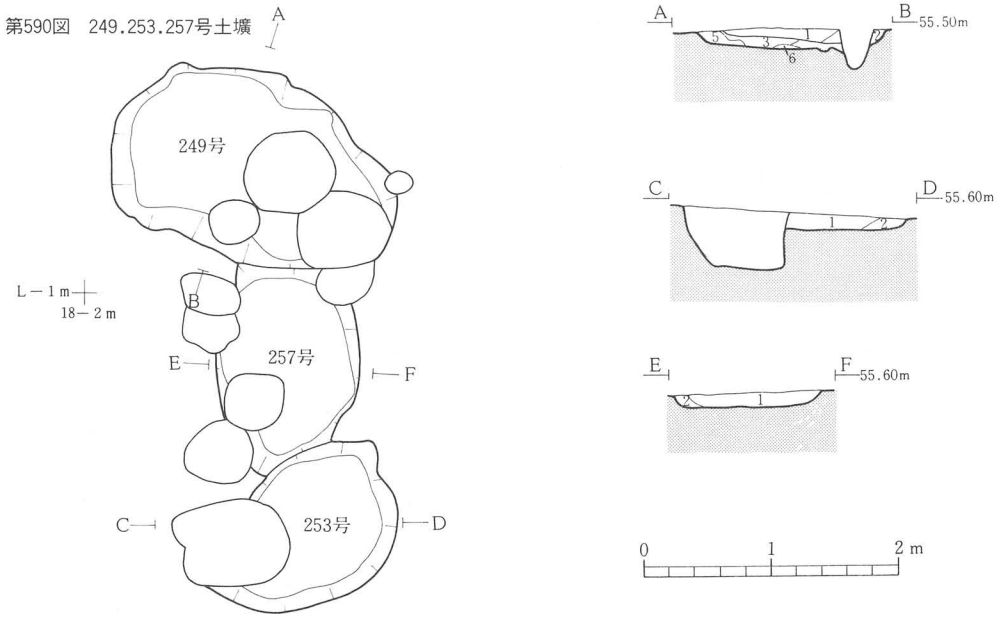
No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
247	M－20	第4層上面	円形	57×55	55	

第589図
248号土壙



No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
248	M－20	第4層上面	円形	75×68	19	底面北側が一段低くなっている。

第590図　249.253.257号土壙



249号土壙（L－17a）土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	褐　10YR4/4	シルト	炭化物、ローム粒微量に含む
	2	褐　7.5YR4/3	シルト	ローム粒多量、炭化物少量含む
2	3	暗褐　7.5YR3/3	シルト	炭化物少量含む
	4	褐　10YR4/4	シルト	
	5	暗褐　7.5YR3/4	シルト	
	6	褐　10YR4/4	シルト	ローム粒多量に含む

253号土壙（K－17a）土層註記表

層No.	土色	土性	備考
1	暗褐　7.5YR3/3	シルト	炭化物少量含む
2	黄褐　2.5Y5/4	シルト	炭化物少量含む

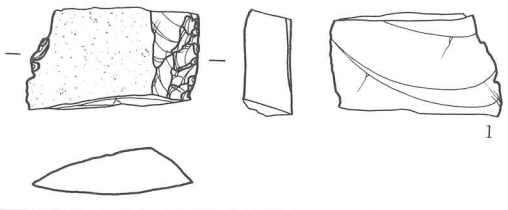
257号土壙（K－17e）土層註記表

層No.	土色	土性	備考
1	暗褐　10YR3/4	シルト	炭化物を含む
2	褐　10YR4/4	シルト	

No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
249	L－17・18	第4層上面	楕円形	230×145	18	257土壙を切る。中央部より南東側を2個のピットに切られる。中央部南に39×35×22のピット有。
253	K－17・18	第4層上面	楕円形基調	170×117	15	4掘立柱建物跡に切られ、257土壙を切る。
257	K・L－17・18	第4層上面	楕円形基調	(83)×57	15	249、253土壙、5個のピットに切られる。

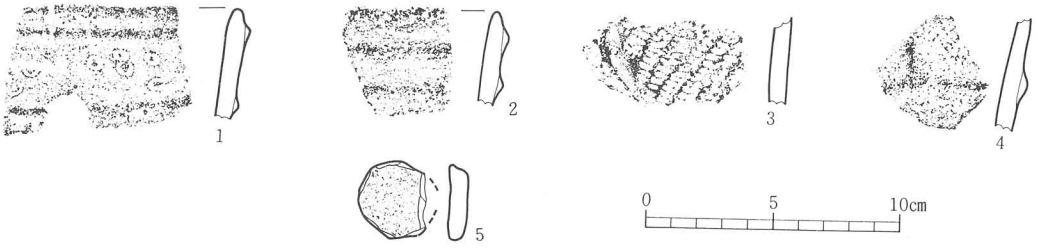
No.	層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	堆積土	深鉢	R撚糸文	磨キ（斜）	B VI	
2	堆積土	深鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横）	X	
3	堆積土	深鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横）	X	

第591図　249号土壙出土土器



No.	種別	層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	スクレイパー	堆積土	(21.10)×(33.30)×9.55	8.55	頁岩	――	

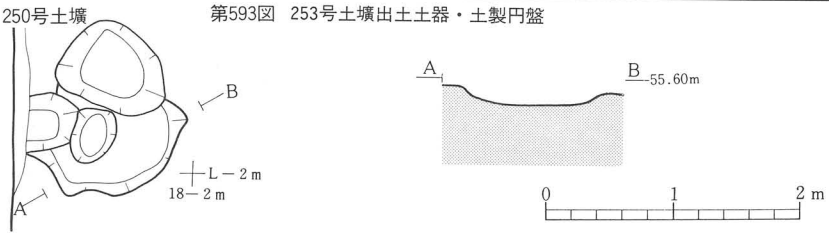
第592図　249号土壙出土石器



No.	層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	堆積土	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	XorXI	
2	堆積土	深鉢	隆線文	マメツ	XorXI	
3	堆積土	深鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（横）		
4	堆積土	深鉢	隆線文	マメツ		
5	堆積土	土製円盤				

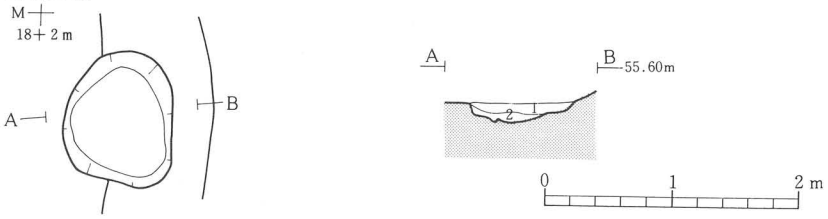
第593図　253号土壙出土土器・土製円盤

第594図　250号土壙



No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
250	L－17	第4層上面	不整形	113×(85)	15	西側の調査区外へ延びる。底面中央・北・西側をピットに切られる。

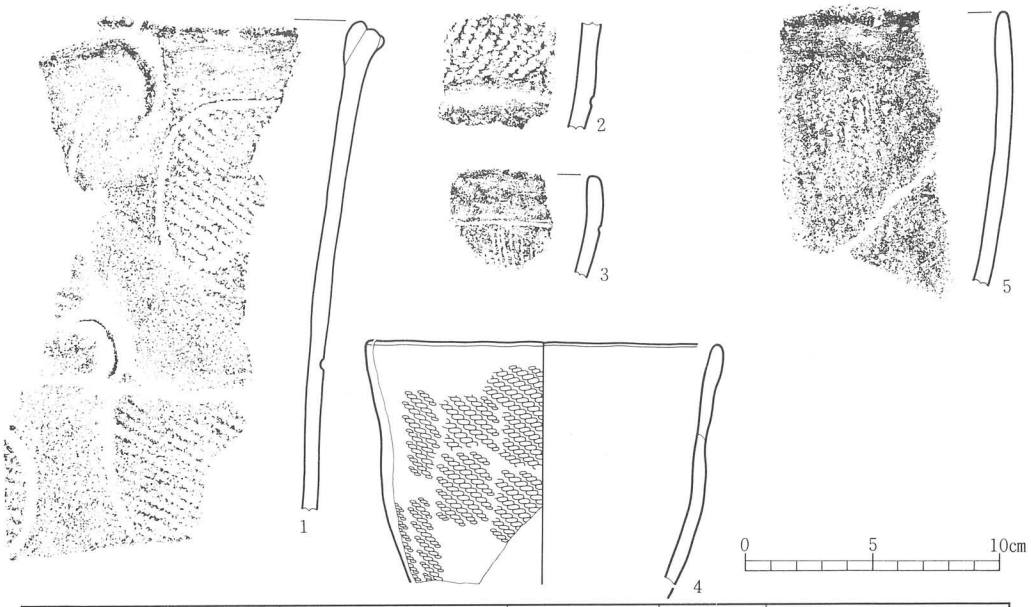
第595図　251号土壙



251号土壙（L－18a）土層註記表

層No.	土色	土性	備考
1	暗褐　10YR3/4	シルト	炭化物を多く含む
2	褐　10YR4/4	シルト	炭化物を若干含む

No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
251	L－18	第4層上面 （2・16溝底面）	楕円形	110×85	15	2、16溝に切られる。



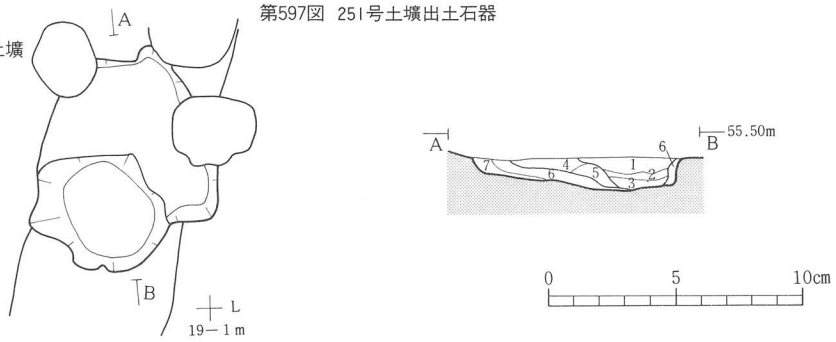
No.	層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	堆積土	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	隆線文・磨キ（横）	X5b	
2	堆積土	深鉢	RL縄文	ナデ(斜)・磨キ(横)		
3	堆積土	深鉢	沈線文・R撚糸文	磨キ（横）	B IV	
4	堆積土	深鉢	LR縄文・磨キ	磨キ（横・縦）	B VI	
5	堆積土	深鉢	LR縄文	磨キ（横・縦）	B VI	

第596図　251号土壙出土土器

No.	種別	層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	石鏃B	1・2層	(21.85)×17.15×7.35	1.75	チャート	――	

第597図　251号土壙出土石器

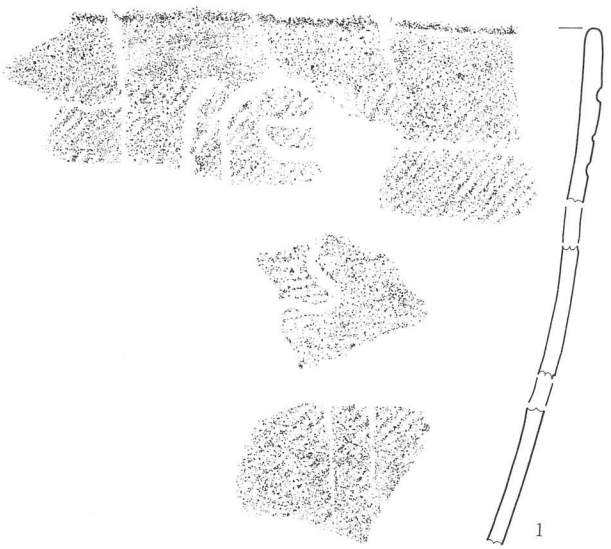
第598図
252号土壙



252号土壙（L－18b）土層註記表

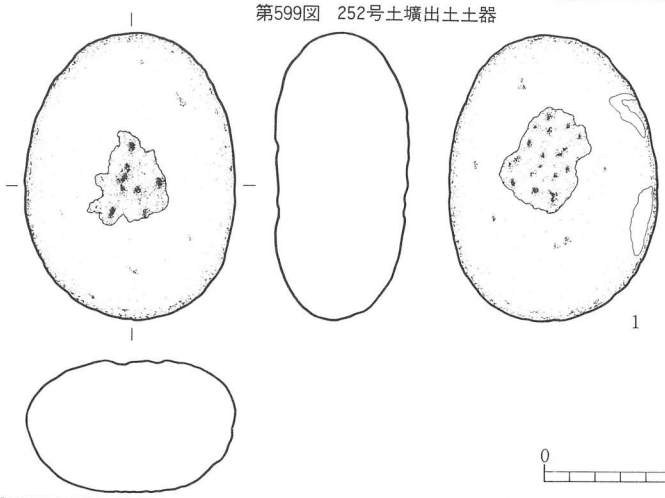
層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	褐　10YR4/4	シルト	
	2	褐　10YR4/4	シルト	黄色のローム粒をわずかに含む
	3	褐　10YR4/4	粘土質シルト	
2	4	暗褐　10YR3/3	シルト	黄色のロームの粒とまじり合う
	5	暗褐　10YR3/3		わずかに黄色土粒子を含む
3	6	黒褐　10YR3/2	粘土質シルト	わずかに黄色土粒子を含む
	7	黄褐　10YR5/6	ローム	褐色土とまじり合う

No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
252	L－18	第4層上面	楕円形基調	165×(160)	23	2、16溝、ピット4個に切られる。底面南側は一段低くなっている。



No.	層　位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	堆積土	深　鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	XI2	

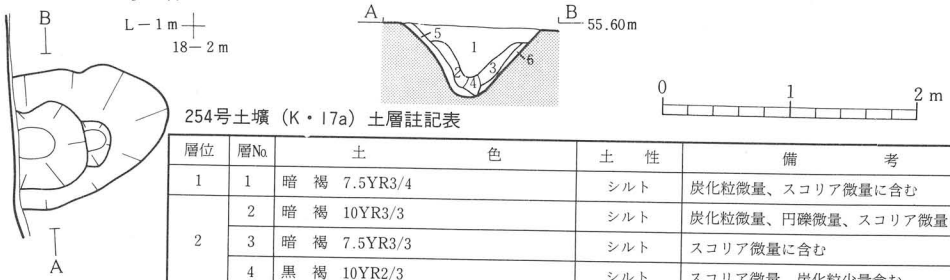
第599図　252号土壙出土土器



No.	種　別	層　位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	礫石器	堆積土	114×82×51	619.0		凹－両面	

第600図　252号土壙出土石器

第601図　254号土壙

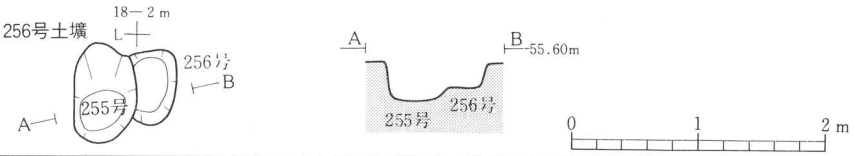


254号土壙（K・17a）土層註記表

層位	層No.	土　色	土　性	備　考
1	1	暗　褐　7.5YR3/4	シルト	炭化粒微量、スコリア微量に含む
2	2	暗　褐　10YR3/3	シルト	炭化粒微量、円礫微量、スコリア微量に含む
	3	暗　褐　7.5YR3/3	シルト	スコリア微量に含む
	4	黒　褐　10YR2/3	シルト	スコリア微量、炭化粒少量含む
3	5	褐　　7.5YR5/6	シルト	炭化物微量に含む
	6	褐　　7.5YR4/4	シルト	ローム少量含む

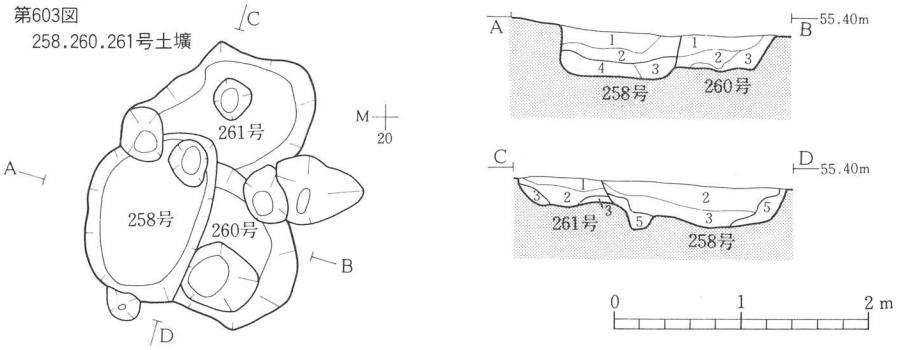
No.	地　区	確　認　面	平 面 形	規　模	壁　高	備　考
254	L－17	第4層上面	楕円形基調	(120)×110	55	西側の調査区外へ延びる。

第602図　255.256号土壙



No.	地　区	確　認　面	平　面　形	規　模	壁　高	備　考
255	K－17	第4層上面	楕円形	80×(48)	27	256土壙を切る。
256	K－17	第4層上面	楕円形基調	58×(35)	20	255土壙に切られる。

第603図
258.260.261号土壙



258号土壙（L－19a）土層註記表

層位	層No.	土　色	土　性	備　考
1	1	褐　10YR4/4	シルト	黄色ローム粒をブロック状に多く含む
	2	暗　褐　10YR3/4	シルト	炭化物を含む
2	3	暗　褐　10YR3/3	シルト	黄色ローム粒を若干含む
	4	褐　10YR4/4	シルト	黄色ローム粒がまじり合う
3	5	黄　褐　10YR5/8	粘土質シルト	黄色ローム多量に含む

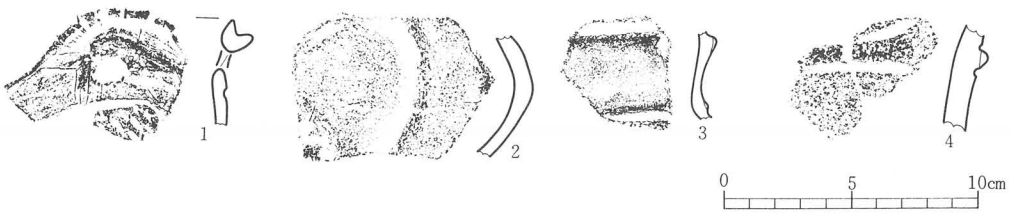
260号土壙（L－19d）土層註記表

層No.	土　色	土　性	備　考
1	褐　10YR4/4	シルト	
2	黒　褐　10YR2/2	シルト	炭化物多量に含む
3	褐　10YR4/4	シルト	ローム粒多量に含む

261号土壙（L－19e）土層註記表

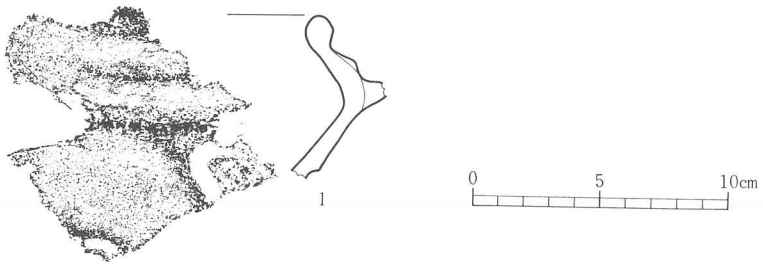
層位	層No.	土　色	土　性	備　考
1	1	褐　10YR4/4	シルト	
	2	暗　褐　10YR3/4	シルト	黄色ロームをブロック状に含む
2	3	黄　褐　10YR5/8	粘土質シルト	

No.	地　区	確　認　面	平　面　形	規　模	壁　高	備　考
258	L－19	第4層上面	不整楕円形	145×95	45	260、261土壙を切る。底面北部に35×30×15のピット有。
260	L・19	第4層上面	不整円形基調	115×(80)	20	258土壙、ピットに切られ、261土壙を切る。東、南側に50×30×25、55×50×15のピット、凹み有。
261	L・M－19	第4層上面	不整楕円形基調	(120)×(110)	32	258、260土壙・ピット3個に切られる。底面中央に33×30×18のピット有。



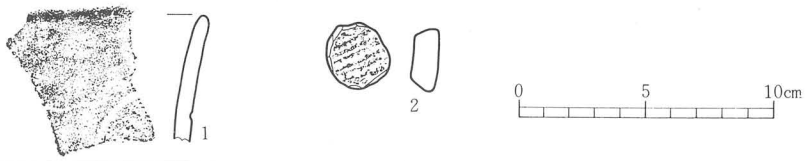
No.	層　位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	堆積土	深　鉢	沈線文・L撚糸文・穿穴	ナデ・磨キ（横・斜）	X	
2	堆積土	深　鉢	沈線文	磨キ（横）	X	
3	堆積土	深　鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横）	X	
4	堆積土	深　鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横）	XorXI	

第604図　258号土壙出土土器



No.	層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	堆積土	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）	X	

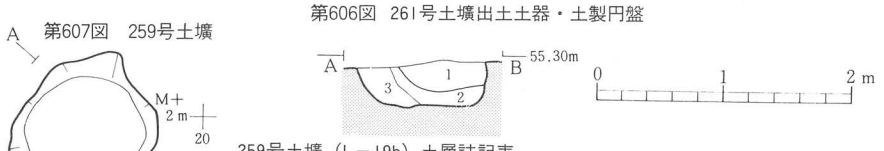
第605図　260号土壙出土土器



No.	層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
2	堆積土	土製円盤				

第606図　261号土壙出土土器・土製円盤

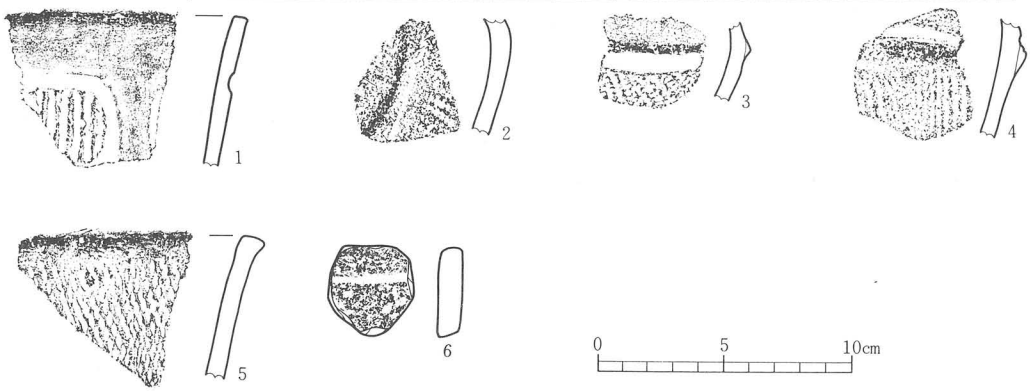
第607図　259号土壙



259号土壙（L－19b）土層註記表

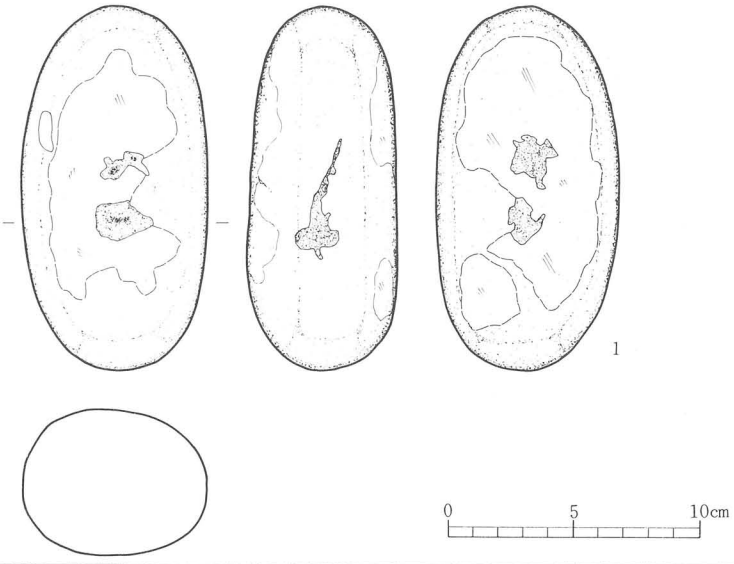
層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	暗褐 10YR3/4	シルト	黄色ローム土粒、礫を若干含む
2	2	暗褐 10YR3/3	シルト	炭化物を若干含む
	3	暗褐 10YR3/3	粘土質シルト	黄色ローム粒を斑点状に含む

No	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
259	L－19	第4層上面	不整円形	125×103	30	南側をヒットに切られる。底面南部に21×17×15のピット有。



No.	層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	堆積土	深鉢	沈線文・L撚糸文	ナデ・磨キ（横・斜）	X	
2	堆積土	深鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横）		
3	堆積土	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）		
4	堆積土	深鉢	隆線文・沈線文・L撚糸文	磨キ（横・斜）		
5	堆積土	深鉢	L撚糸文	ナデ・磨キ（横）	B VI	
6	堆積土	土製円盤				

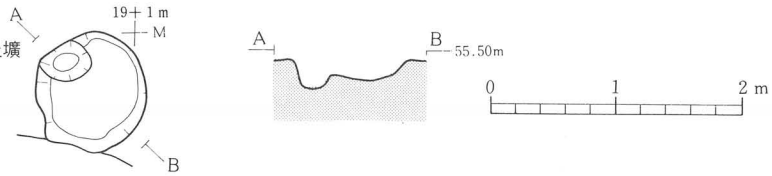
第608図　259号土壙出土土器・土製円盤



No.	種別	層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	礫石器	堆積土	144×73×60	971.5		凹－両面、敲－片側面、磨－全面	

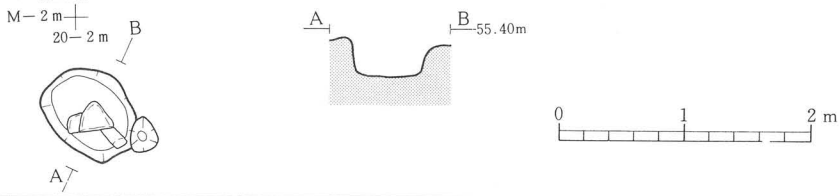
第609図　259号土壙出土石器

第610図　262号土壙



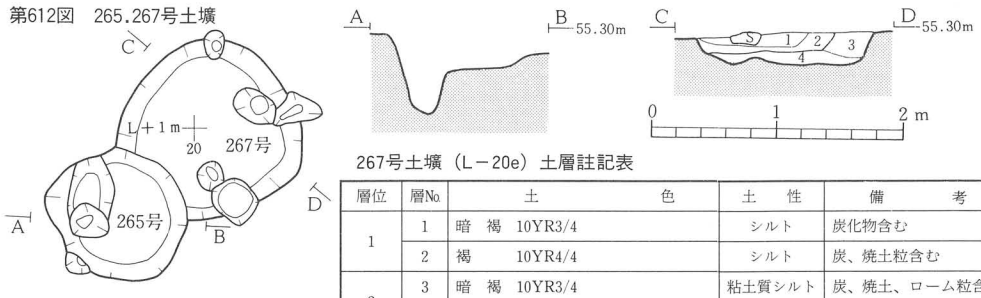
No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
262	L－19	第4層上面	不整円形基調	(95)×90	11	16溝に切られる。北側に32×35×10のピット有。

第611図　264号土壙



No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
264	L－19	第4層上面	不整楕円形	80×63	28	南東部分ピットに切られる。

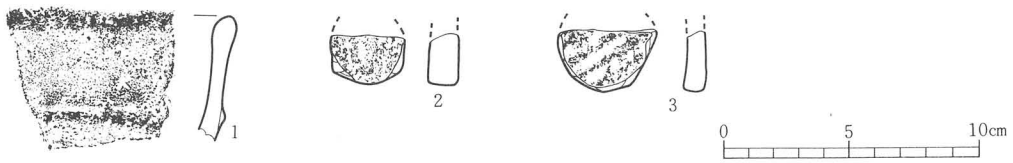
第612図　265.267号土壙



267号土壙（L－20e）土層註記表

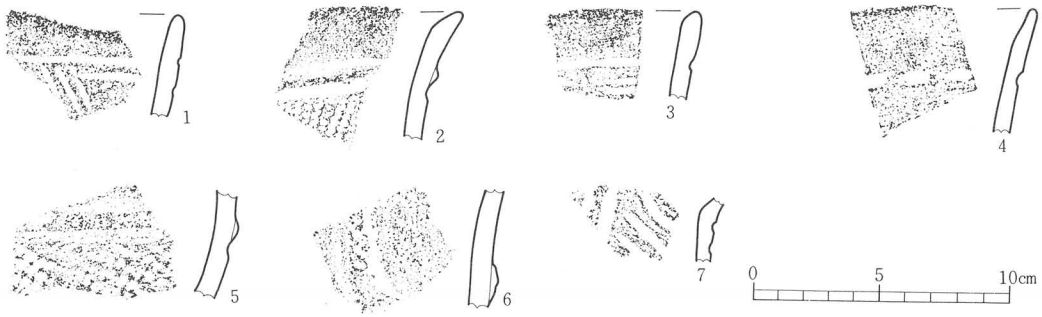
層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	暗褐　10YR3/4	シルト	炭化物含む
	2	褐　10YR4/4	シルト	炭、焼土粒含む
2	3	暗褐　10YR3/4	粘土質シルト	炭、焼土、ローム粒含む
	4	暗褐　10YR3/4	粘土質シルト	

No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
265	L－19	第4層上面	不整円形	115×100	21	267土壙を切る。底面西側に60×35×35のピット有。
267	L－19・20	第4層上面	円形基調	142×(123)	25	265土壙・4個のピットに切られる。



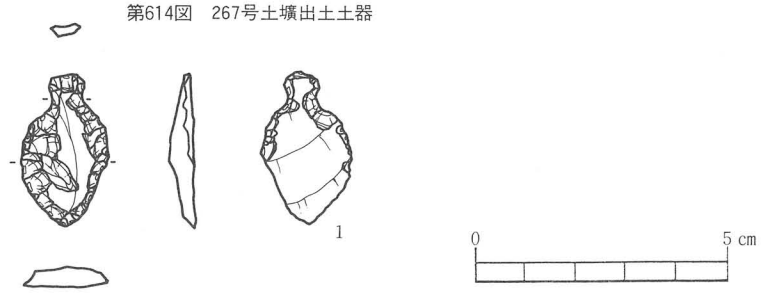
No.	層　位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	堆積土	深　鉢	隆線文	ナデ・磨キ（横）		
2	堆積土	土製円盤				
3	堆積土	土製円盤				

第613図　266号土壙出土土器・土製円盤



No.	層　位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	堆積土	深　鉢	沈線文	磨キ（横）	XI	
2	堆積土	深　鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）	BI	
3	堆積土	深　鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	BIV	
4	堆積土	深　鉢	刺突文	磨キ（横）	BV	
5	堆積土	深　鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横・縦）		
6	堆積土	深　鉢	隆線文・刻目文	磨キ（横・縦）		
7	堆積土	深　鉢	沈線文	磨キ（横）	XI	

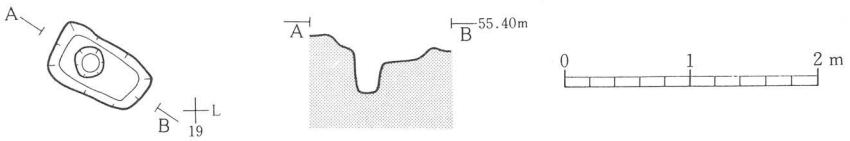
第614図　267号土壙出土土器



No.	種　別	層　位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	石　匙	堆積土	22.90×17.30×5.50	2.10	頁　岩	――	加工後焼けている

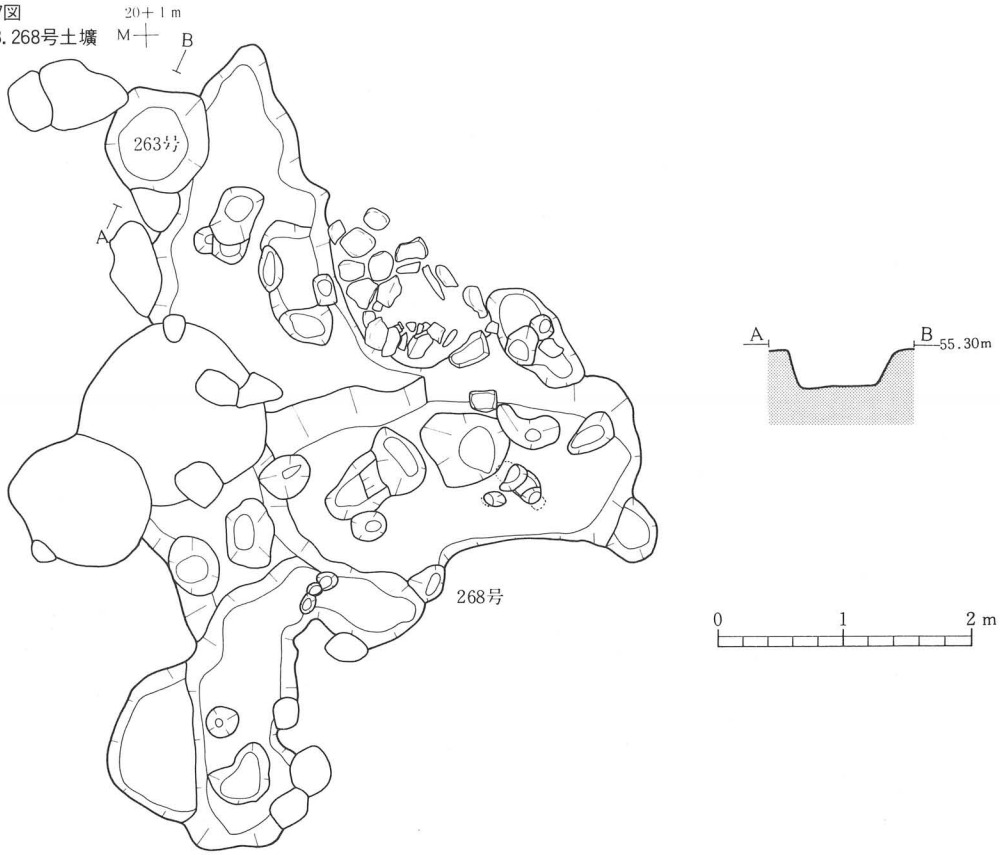
第615図　267号土壙出土石器

第616図　266号土壙

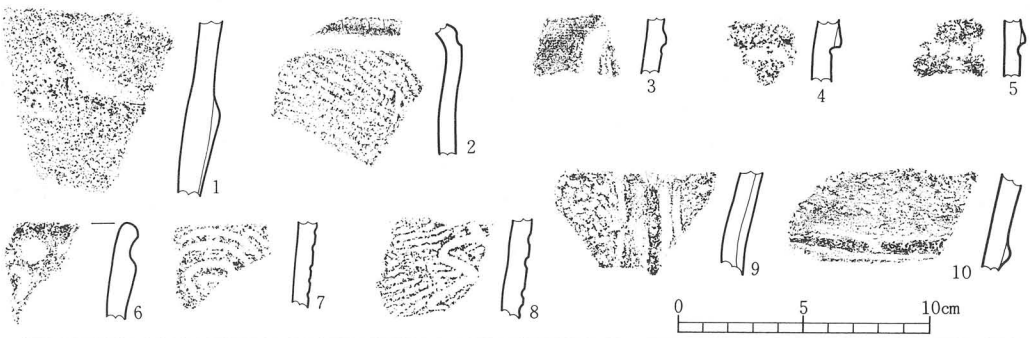


No.	地　区	確　認　面	平 面 形	規　模	壁　高	備　考
266	L－19	第4層上面	不整長方形	82×50	10	底面中央部に25×25×34のピット有。

第617図
263. 268号土壙

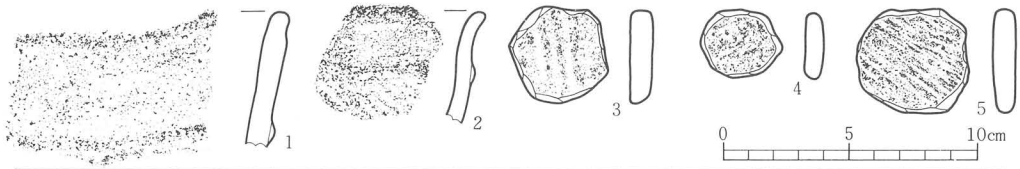


No.	地　区	確　認　面	平　面　形	規　模	壁　高	備　考
263	L−19・20	第4層上面	不整円形	80×78	25	ピットに切られ、268土壙を切る。
268	K・L−19・20	第4層上面	不整形	——	——	不定形の落ち込みで、一個の遺構か複数の土壙の切合いか不明。



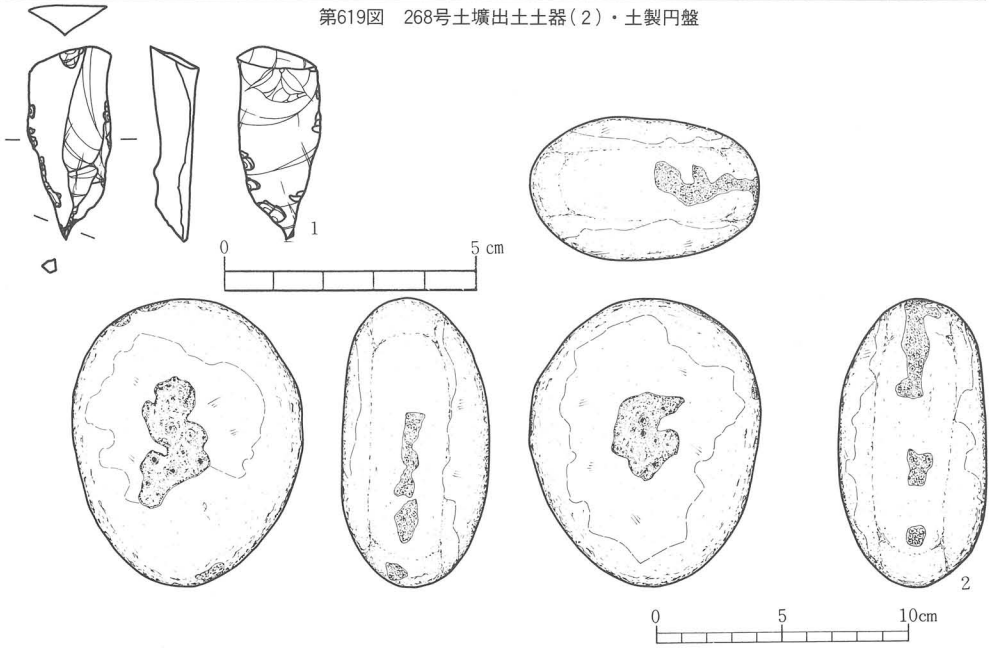
No.	層　位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	堆積土	深　鉢	隆線文・不明縄文	磨キ（横・斜）	X	
2	堆積土	深　鉢	沈線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）		
3	堆積土	深　鉢	沈線文・R撚糸文	磨キ（横）	X	
4	堆積土	深　鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	X	
5	堆積土	深　鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	X	
6	堆積土	深　鉢	沈線文・刺突文	ナデ（横）	XI	
7	堆積土	深　鉢	沈線文	磨キ（横）	XI	
8	堆積土	深　鉢	沈線文・R縄文	磨キ（斜）	XI 3a	
9	堆積土	深　鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	ナデ(斜)・磨キ(横)		
10	堆積土	深　鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（横）		

第618図　268号土壙出土土器（1）



No.	層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	堆積土	深鉢	隆線文	磨キ（横）	B I	
2	堆積土	深鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（横・縦）	B I	
3	堆積土	土製円盤				
4	堆積土	土製円盤				
5	堆積土	土製円盤				

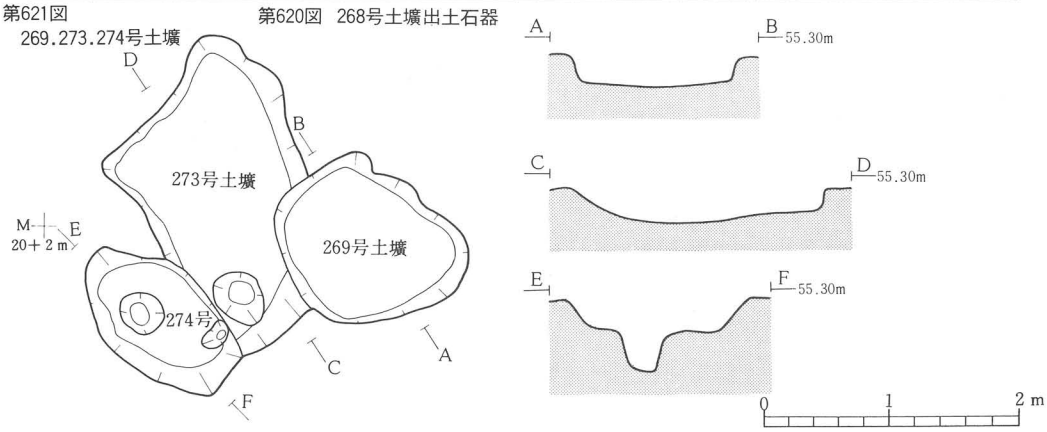
第619図　268号土壙出土土器（2）・土製円盤



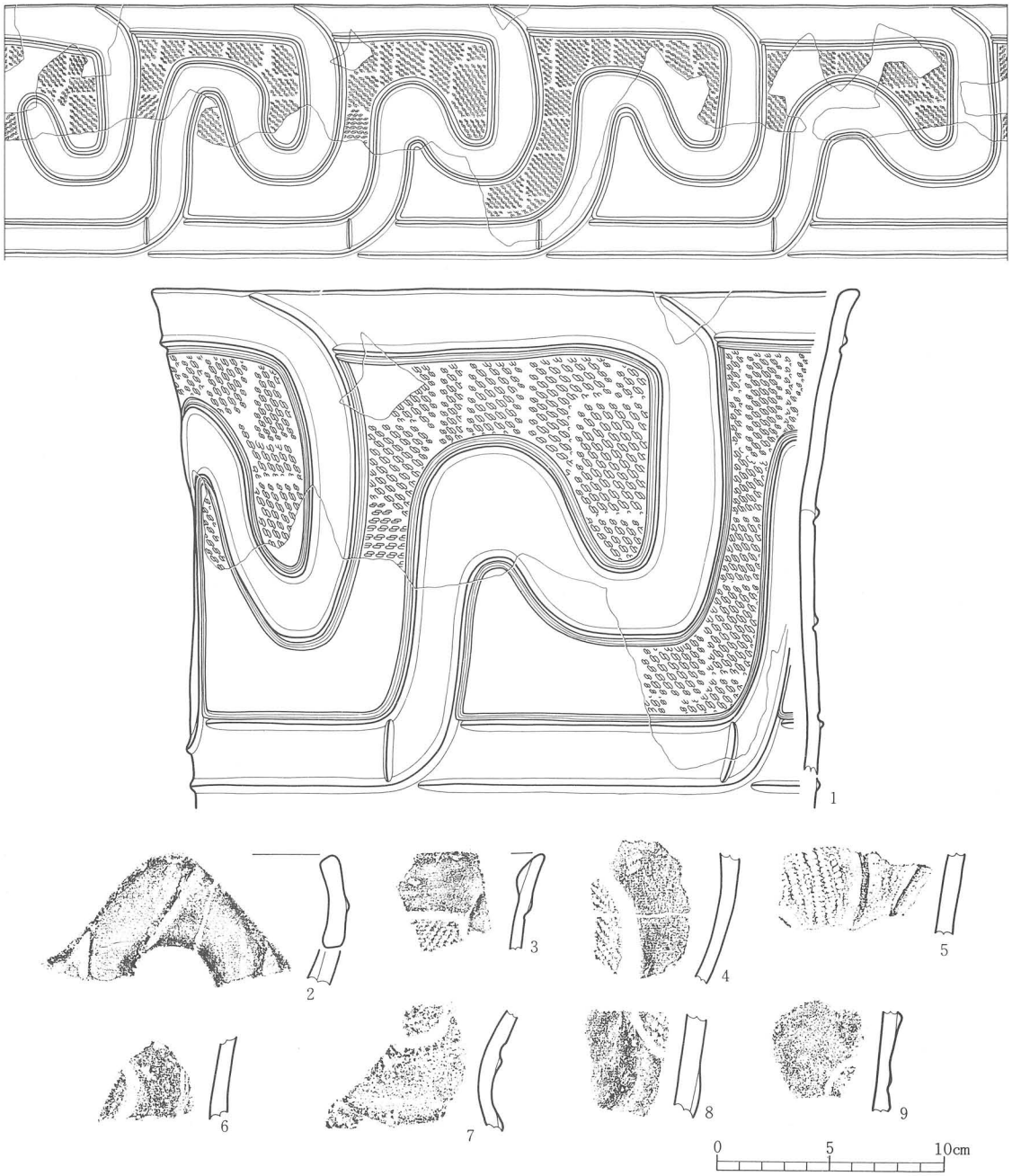
No.	種別	層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	石錐	堆積土	38.60×16.55×9.40	4.80		―	
2	礫石器	堆積土	114×91×59	785.5		凹－両面、敲－両端 両側面、磨－両面	

第621図　269.273.274号土壙

第620図　268号土壙出土石器

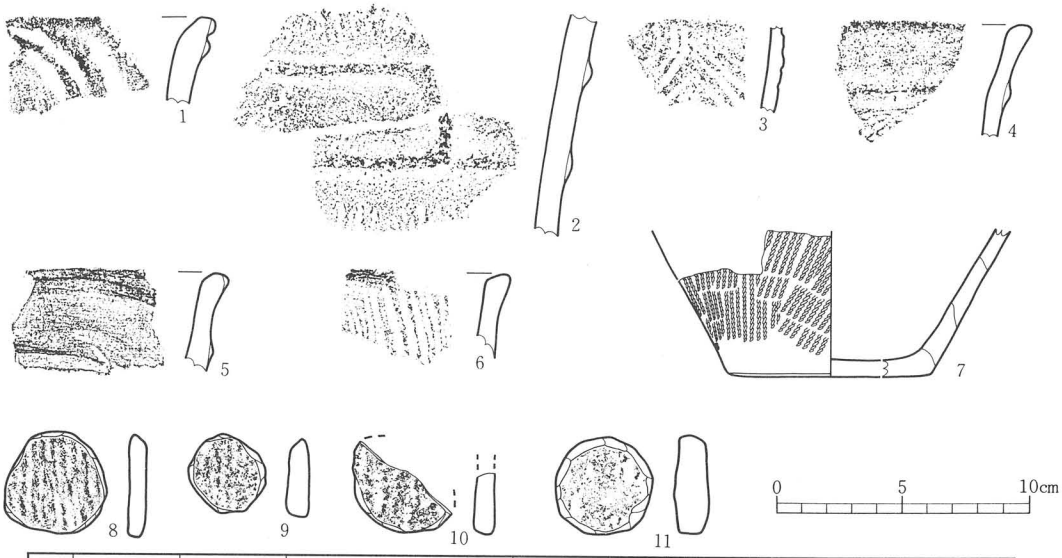


No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
269	L－20・21	第4層上面	不整楕円形基調	(157)×137	20	15住居跡、273土壙を切っている。
273	J・M－20	第4層上面	不整方形	197×150	26	15住居跡を切り、269、274土壙に切られる。底面南側に48×36×70のピット有。
274	L－20	第4層上面	不整楕円形	145×85	26	273土壙を切る。底面中央部、東部に37×30×30、25×15×30のピット有。3土壙の遺物は分離できなかった。



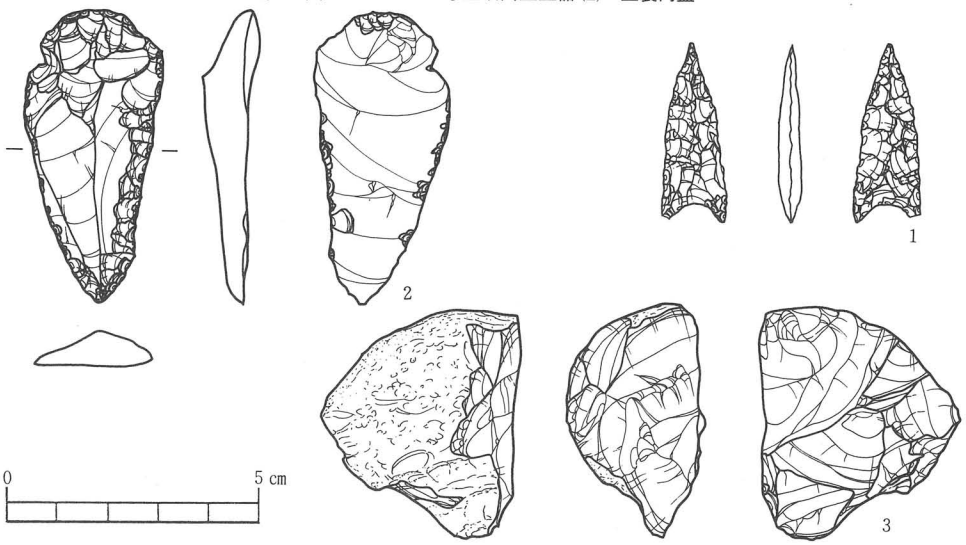
No.	層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	堆積土	深鉢	隆線文・沈線文・LRL縄文・磨キ	磨キ（横・縦）	X7	
2	堆積土	深鉢	隆線文	磨キ（横）	X	
3	堆積土	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	隆線文・磨キ（横）	X	
4′	堆積土	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
5	堆積土	深鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
6	堆積土	深鉢	沈線文	磨キ（横）	X	
7	堆積土	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
8	堆積土	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
9	堆積土	深鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横）	X	

第622図　269・273・274号土壙出土土器（1）



No.	層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	堆積土	深鉢	隆線文・沈線文	ナデ（斜）		XI	
2	堆積土	深鉢	隆線文・R撚糸文	磨キ（横）		XorXI	
3	堆積土	深鉢	沈線文	磨キ（横）		XI	
4	堆積土	深鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横）		BI	
5	堆積土	深鉢	隆線文	ナデ・磨キ（横）		BI	
6	堆積土	深鉢	R撚糸文	磨キ（横）		BVI	
7	堆積土	深鉢	L撚糸文・磨キ	磨キ（横）	磨キ		
8	堆積土	土製円盤					
9	堆積土	土製円盤					
10	堆積土	土製円盤					
11	堆積土	土製円盤					

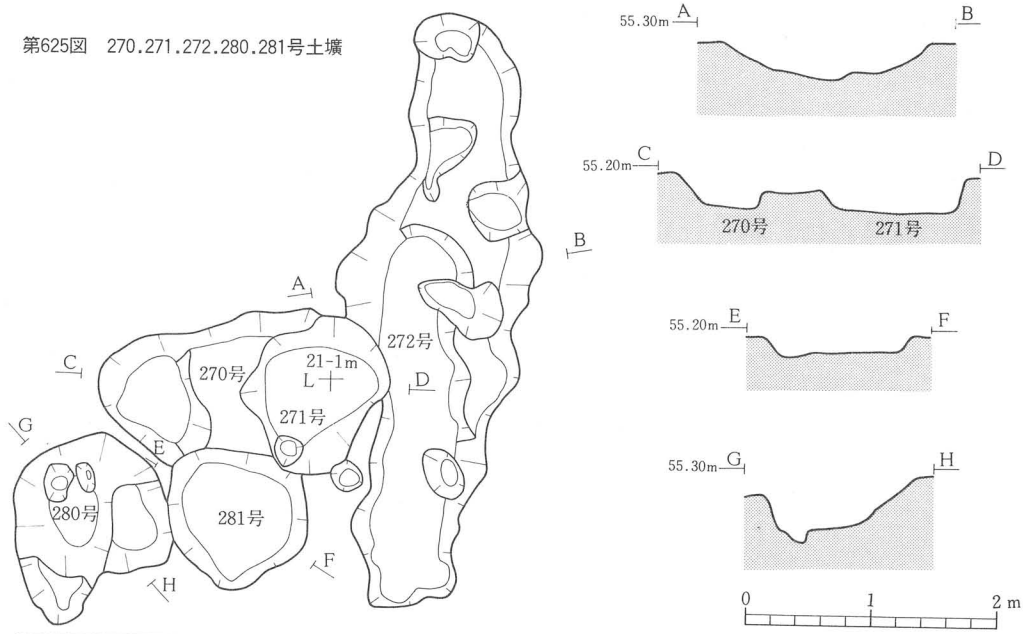
第623図　269・273・274号土壙出土土器(2)・土製円盤



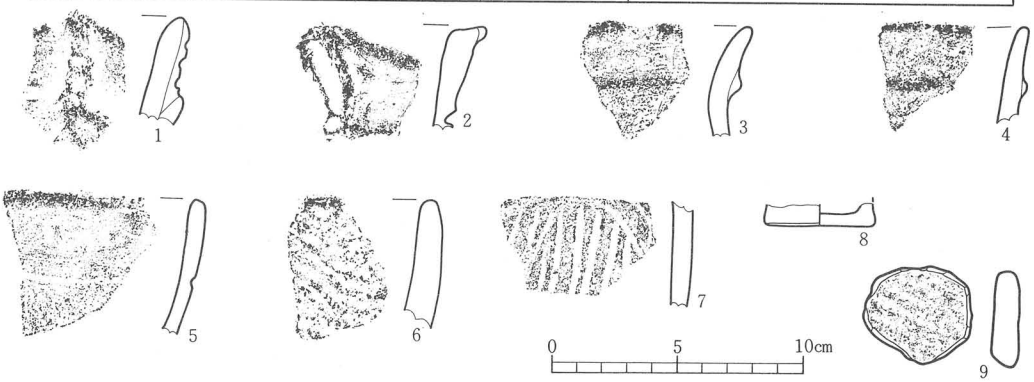
No	種別	層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	石鏃A	堆積土	(35.10)×(13.00)×4.50	1.50	頁岩		
2	スクレイパー	堆積土	58.05×27.35×9.75	10.40	頁岩		
3	石核	堆積土	46.50×39.50×27.75	42.15	玉髄		

第624図　269・273・274号土壙出土石器

第625図　270.271.272.280.281号土壙

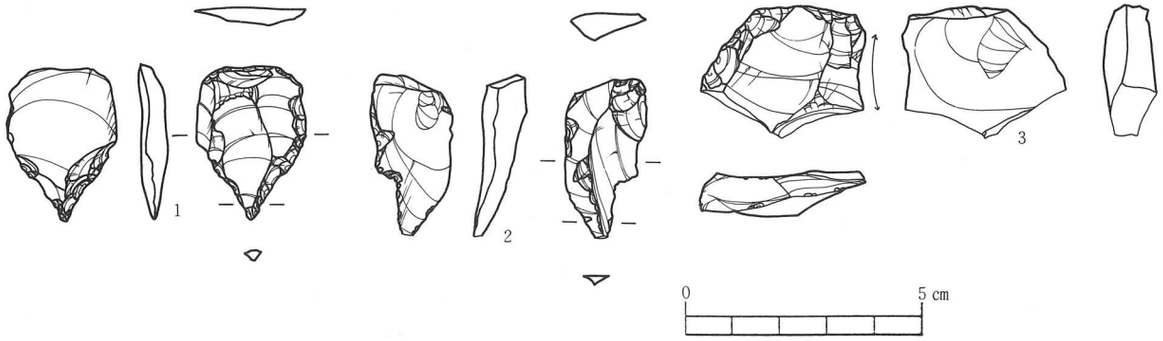


No.	地　区	確　認　面	平　面　形	規　模　壁　高	備　考
270	K・L－20	第４層上面	不整楕円形基調	(190)×(120)　28	271、281土壙に切られる。
271	K・L－20	第４層上面	不整楕円形	127×(120)　25	270、272、281土壙を切る。底面南に25×23×11のピット有。
272	K・L－20・21	第４層上面	不整長楕円形	425×165　25	271土壙に切られる。底面に５個のピット有。凸凹している。
280	K－20	第４層上面	不整形	157×133　35	281土壙に切られる。底面東、南側が一段高くなっている。北側に30×25×13、25×13×16のピット有。
281	K－20	第４層上面	不整円形	118×110　15	271土壙に切られ、270、280土壙を切る。



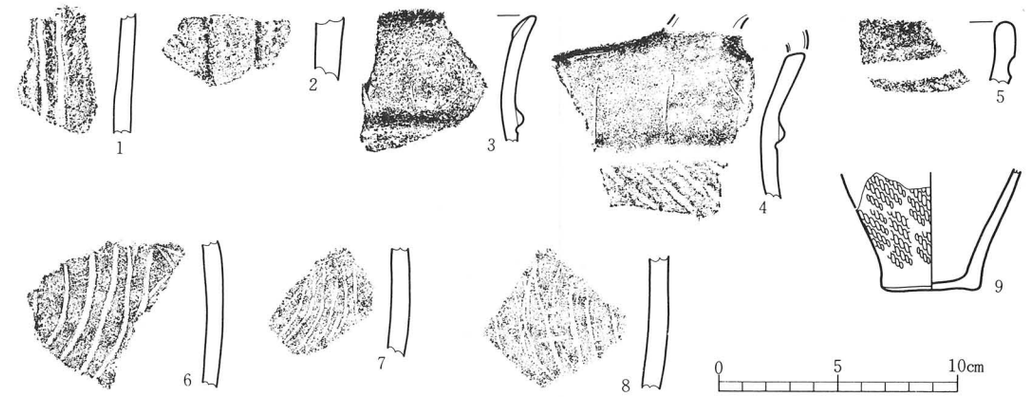
No.	層　位	器　形	外　面	内　面	底　部	分　類	備　考
1	堆積土	深　鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横・斜）		XI5	
2	堆積土	深　鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横・縦）		XI5	
3	堆積土	深　鉢	隆線文・不明縄文	磨キ（横）		B I	
4	堆積土	深　鉢	隆線文	磨キ（横）		B I	
5	堆積土	深　鉢	隆線文・L撚糸文	ナデ・磨キ（横）		B IV	
6	堆積土	深　鉢	R縄文	磨キ（横）		B VI	
7	堆積土	深　鉢	沈線文	磨キ（横）			
8	堆積土	ミニュチュア	ナ　デ	ナ　デ	ナ　デ		
9	堆積土	土製円盤					

第626図　270号土壙出土土器・土製円盤



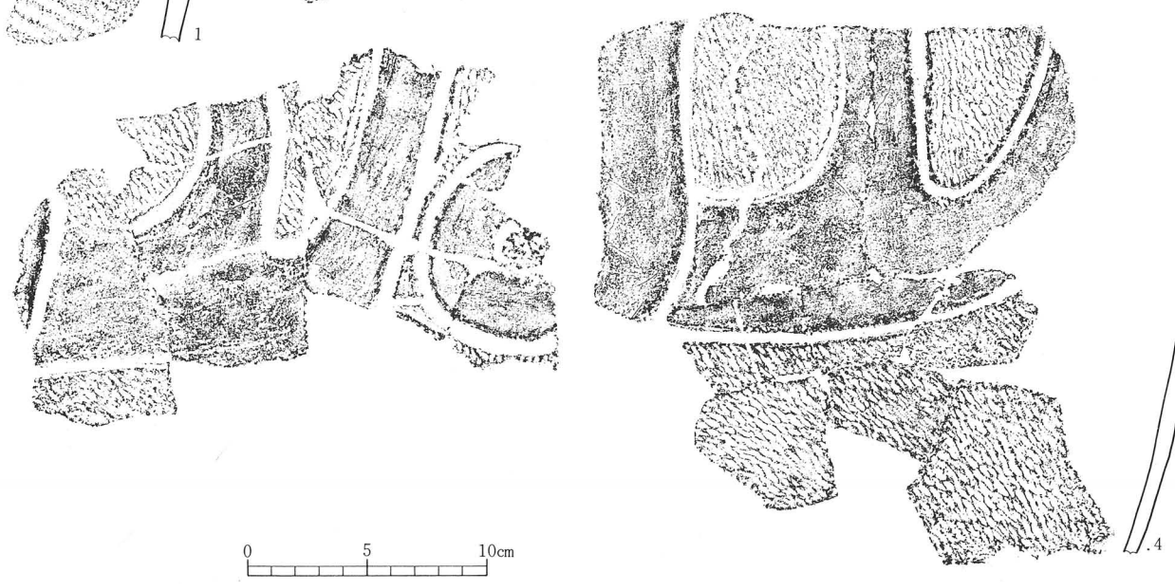
No.	種　別	層　位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	石　錐	堆積土	32.30×23.05×5.40	3.90		――	
2	石　錐	堆積土	(33.45)×17.30×9.25	3.35	頁　岩	――	
3	スクレイパー	堆積土	(27.65)×(34.10)×10.90	7.65	頁　岩	――	

第627図　270号土壙出土石器

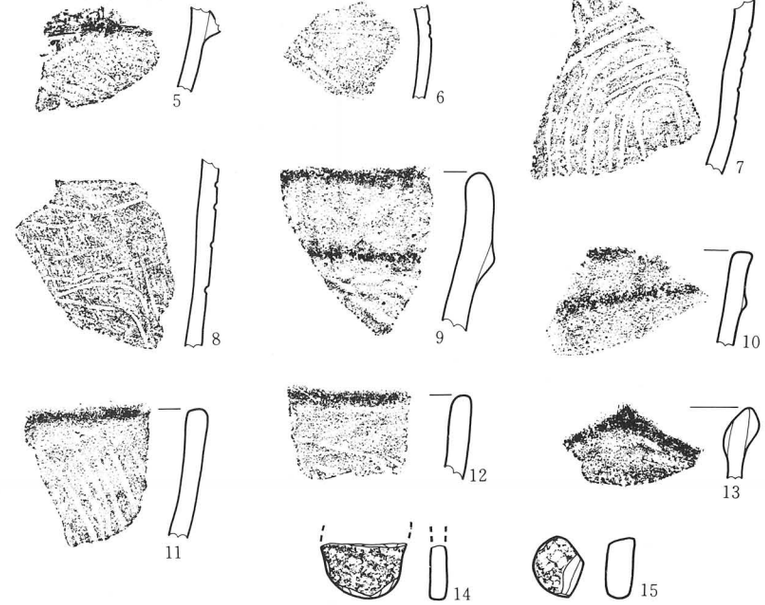


No.	層　位	器　形	外　面	内　面	底　部	分　類	備　考
1	堆積土	深　鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	ナデ（縦）			
2	堆積土	深　鉢	隆線文	磨キ（横）			
3	堆積土	深　鉢	隆線文・沈線文	マメツ		B II	
4	堆積土	深　鉢	隆線文・沈線文・R撚糸文	磨キ（横）		B II	
5	堆積土	深　鉢	沈線文・LR縄文	ナデ(斜)・磨キ(横)		B IV	
6	堆積土	深　鉢	沈線文	磨キ（横）			
7	堆積土	深　鉢	沈線文	ナデ（横）			
8	堆積土	深　鉢	沈線文	ナデ（横）			
9	堆積土	ミニュチュア	RL縄文・磨キ	磨キ（横）	磨　キ		

第628図　271号土壙出土土器

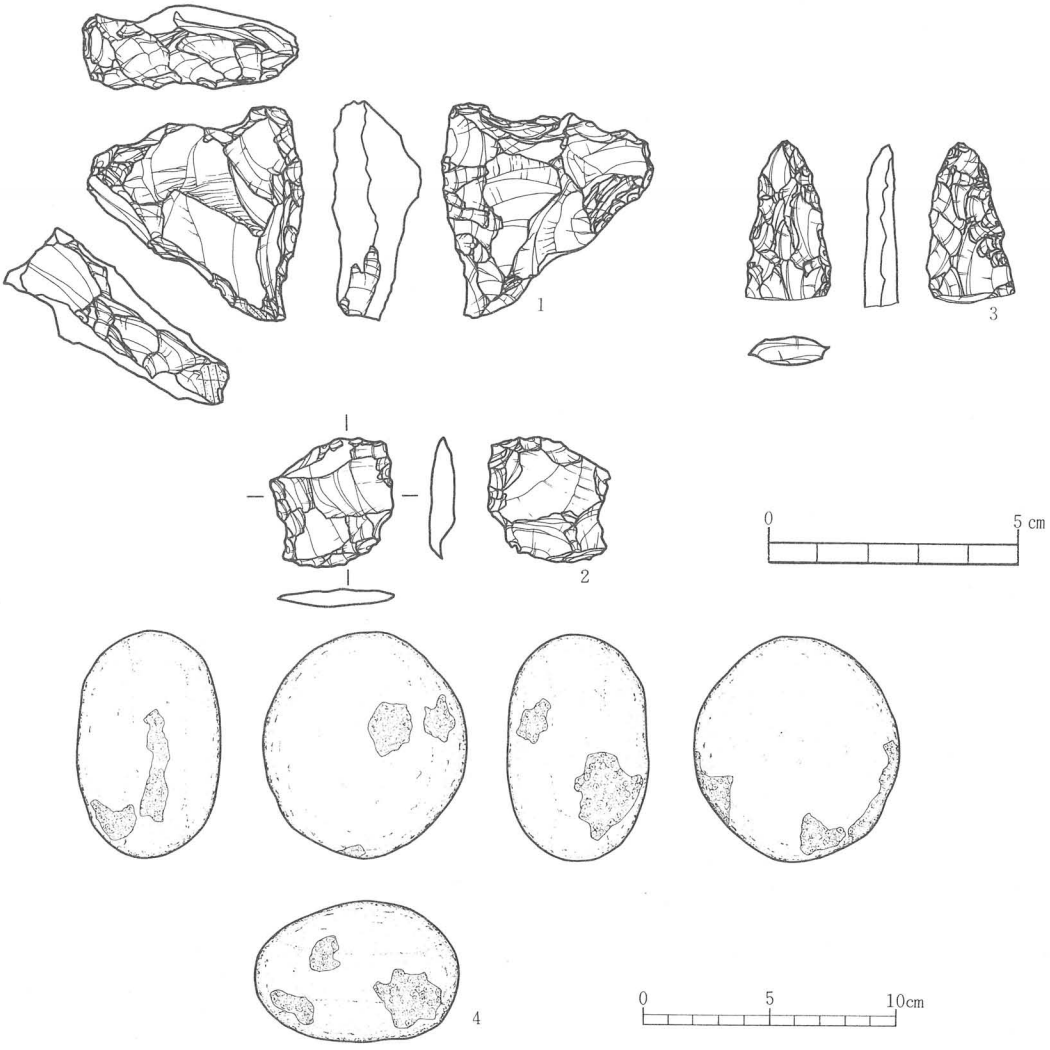


No.	層　位	器　形	外　面	内　面	底　部	分　類	備　考
1	堆積土	深　鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横・斜）		X	
2	堆積土	深　鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（横）		X	
3	堆積土	深　鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（縦）		X	
4	堆積土	深　鉢	隆線文・沈線文・R撚糸文	ナデ・磨キ（横）		X6or7	
5	堆積土	深　鉢	隆線文・不明縄文	磨キ（横）			
6	堆積土	深　鉢	沈線文	磨キ（斜）			
7	堆積土	深　鉢	沈線文	ナデ・磨キ（横）			



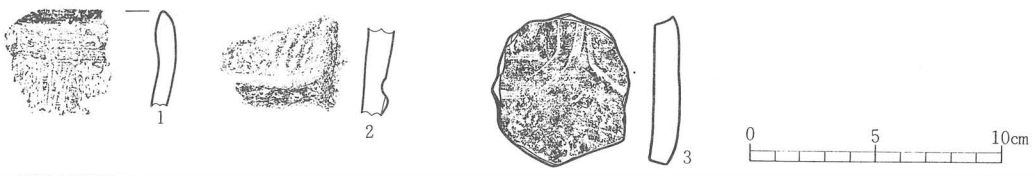
No.	層　位	器　形	外　面	内　面	底　部	分　類	備　考
8	堆積土	深　鉢	沈線文	ナデ(斜)・磨キ(横)			
9	堆積土	深　鉢	隆線文・L縄文	ナデ・磨キ（横）		B I	
10	堆積土	深　鉢	隆線文	磨キ（横）		B I	
11	堆積土	深　鉢	沈線文	磨キ（横）		B VI	
12	堆積土	深　鉢	沈線文	ナデ（横）		B VI	
13	堆積土	深　鉢	隆線文	隆線文・磨キ（横）		B VII	
14	堆積土	土製円盤					
15	堆積土	土製円盤					

第629図　272号土壙出土土器・土製円盤



No.	種　別	層　位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	スクレイパー	堆積土	42.35×42.10×17.05	24.70	頁　岩	――	
2	ピエス・エスキーユ	堆積土	26.20×24.30×5.10	3.30	頁　岩	――	
3	ポイント	堆積土	(32.00)×(17.05)×(6.65)	3.20		――	
4	礫石器	堆積土	89×80×57	553.0		敲一片側面	

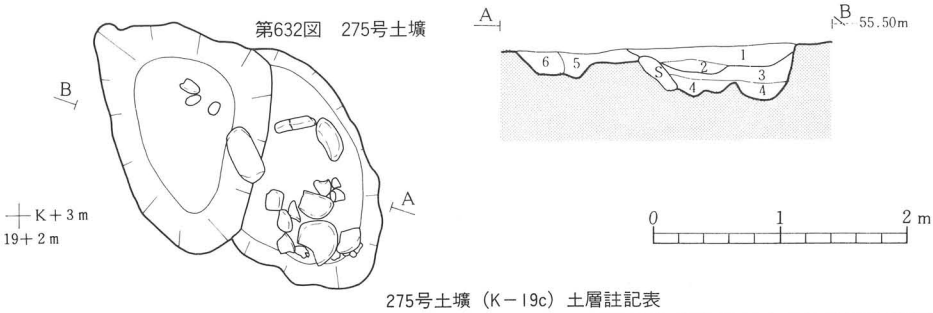
第630図　272号土壙出土石器



No.	層　位	器　形	外　面	内　面	底　部	分　類	備　考
1	堆積土	深　鉢	櫛歯文	ナデ・磨キ（横）		B VI	
2	堆積土	深　鉢	隆線文・沈線文・L撚糸	ナデ（斜）			
3	堆積土	土製円盤					

第631図　280号土壙出土土器・土製円盤

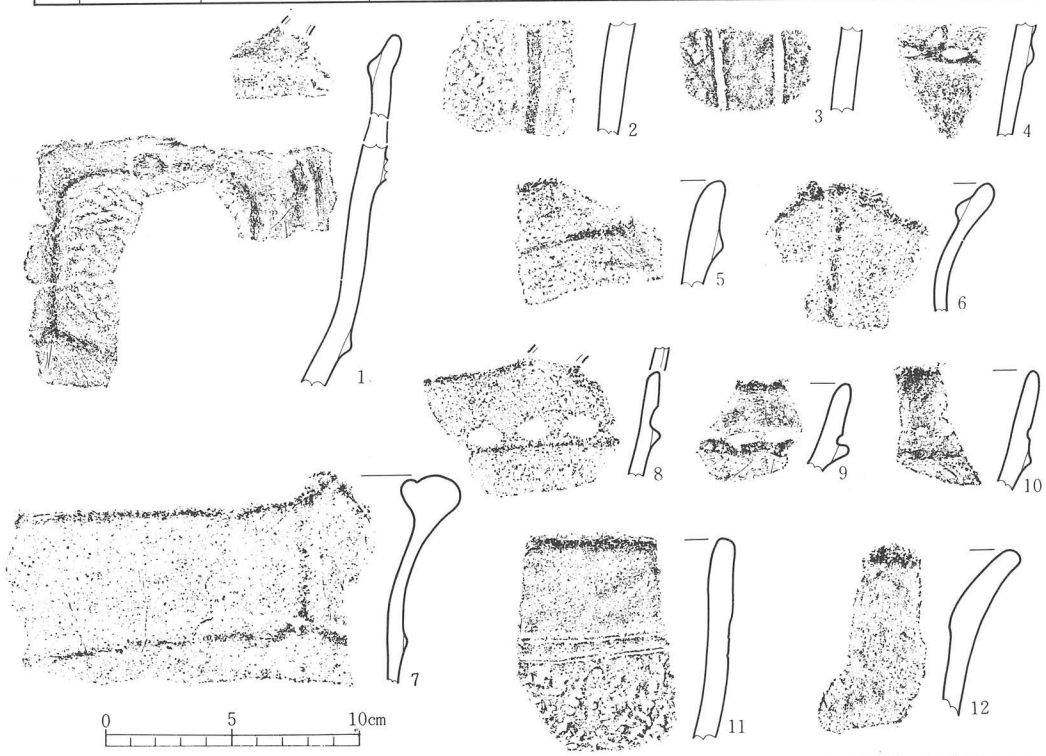
第632図　275号土壙



275号土壙（K－19c）土層註記表

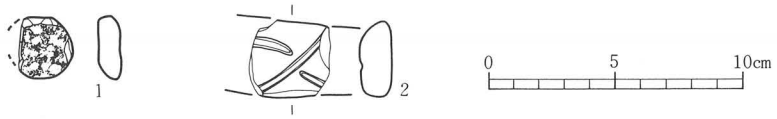
層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	暗褐 7.5YR3/4	シルト	スコリア、炭化物、小礫含む
	2	褐 7.5YR4/4	シルト	スコリア1層より多く含む。小礫含む
2	3	黒褐 7.5YR2/3	粘土質シルト	スコリア、炭化物、小礫含む
	4	褐 10YR4/4	シルト	スコリア含む
3	5	暗褐 10YR3/4	粘土質シルト	ローム粒多量に含む
	6	褐 7.5YR4/3	シルト	スコリア、炭化物、小礫含む

No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
275	K－19	第4層上面	不整楕円形	285×175	45	東側が一段高くなっており、117×60の石組がある。石組下部には127×94×25の掘り方がある



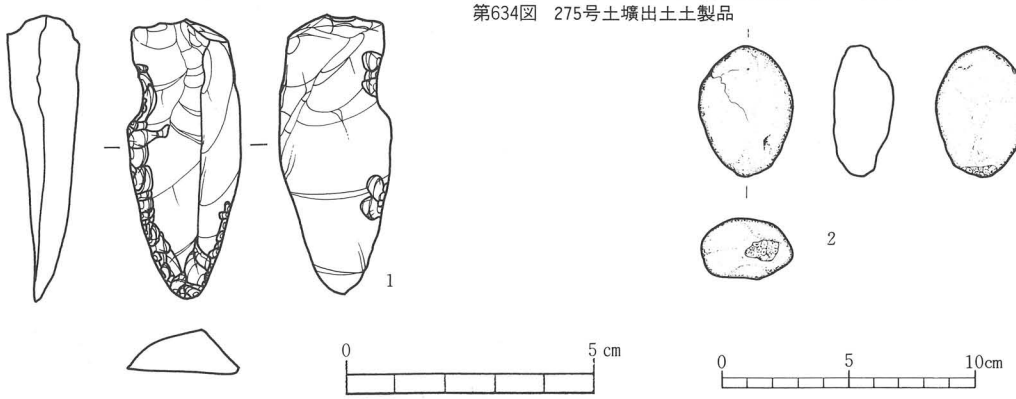
No.	層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	堆積土	深鉢	隆線文・LR縄文	ナデ(縦)・磨キ(横)	X	
2	堆積土	深鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（斜）		
3	堆積土	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
4	堆積土	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）		
5	堆積土	深鉢	隆線文・不明縄文	ナデ・磨キ（横）	B I	
6	1層	深鉢	隆線文	隆線文・マメツ	B I	
7	1層	深鉢	隆線文・不明縄文	磨キ（横）	B I	
8	堆積土	深鉢	隆線文・刺突文・不明縄文	磨キ（横）	B III	
9	1層	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	B III	
10	堆積土	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	B III	
11	1層	深鉢	沈線文・RL縄文	ナデ・磨キ（横）	B IV	
12	1層	深鉢	磨キ	磨キ（横・斜）	B VII	

第633図　275号土壙出土土器



No.	層位	種別	No.	層位	種別
1	堆積土	土製円盤	2	1 層	不明土製品

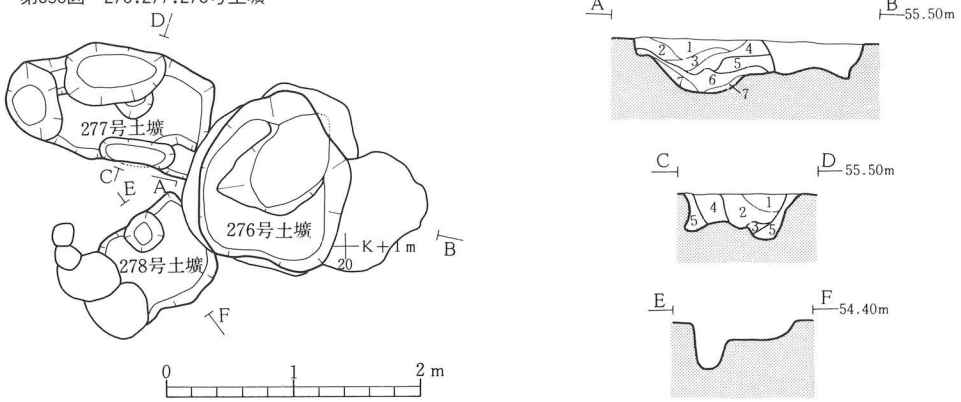
第634図　275号土壙出土土製品



No.	種別	層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	スクレイパー	堆積土	55.35×22.25×14.55	12.55		――	
2	礫石器	堆積土	52×37×23	45.0		敲―一端	

第635図　275号土壙出土石器

第636図　276.277.278号土壙



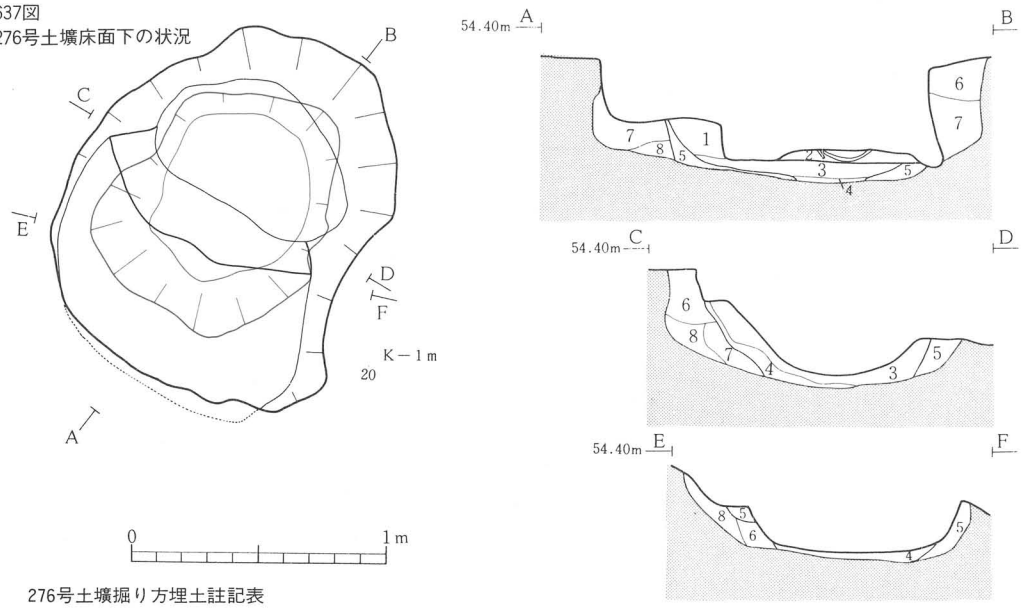
276号土壙（K－19d）土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	暗　褐　7.5YR3/3	シルト	スコリア、炭化物を若干含む
	2	暗　褐　10YR3/4	シルト	スコリア、焼土粒若干含む
	3	暗　褐　10YR3/3	シルト	スコリア２層より多く含む。焼土粒、炭化物若干含む
2	4	暗　褐　7.5YR3/3	シルト	スコリア、焼土粒少量含む
	5	褐　　7.5YR4/4	シルト	スコリア若干含む
3	6	暗　褐　5YR3/2	粘土質シルト	多量の焼土、砂粒を含む
	7	暗　褐　10YR3/3	粘土質シルト	炭化物、焼土多量に含む

277号土壙（K－19b）土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	褐　　10YR4/6	シルト	スコリア、微量の炭化物含む
	2	褐　　10YR4/4	シルト	少量のスコリア含む
2	3	黄　褐　10YR5/6	シルト	ローム粒含む
	4	明　褐　7.5YR5/6	シルト	ローム粒含む
3	5	明黄褐　10YR6/6	粘土質シルト	ロームブロック含む

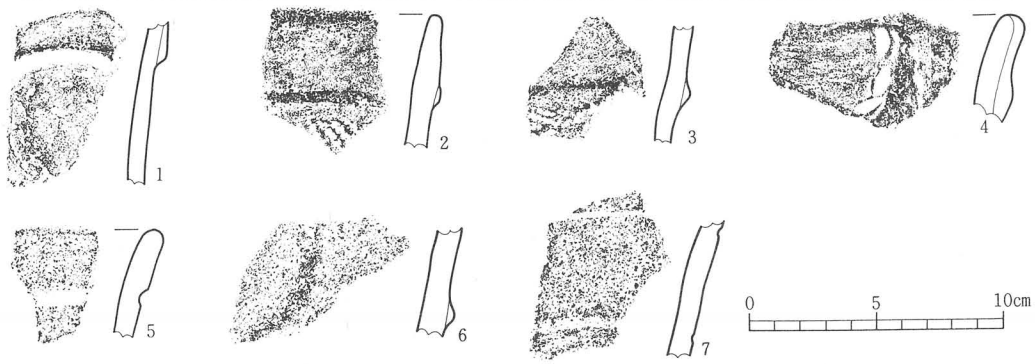
第637図
276号土壙床面下の状況



276号土壙掘り方埋土註記表

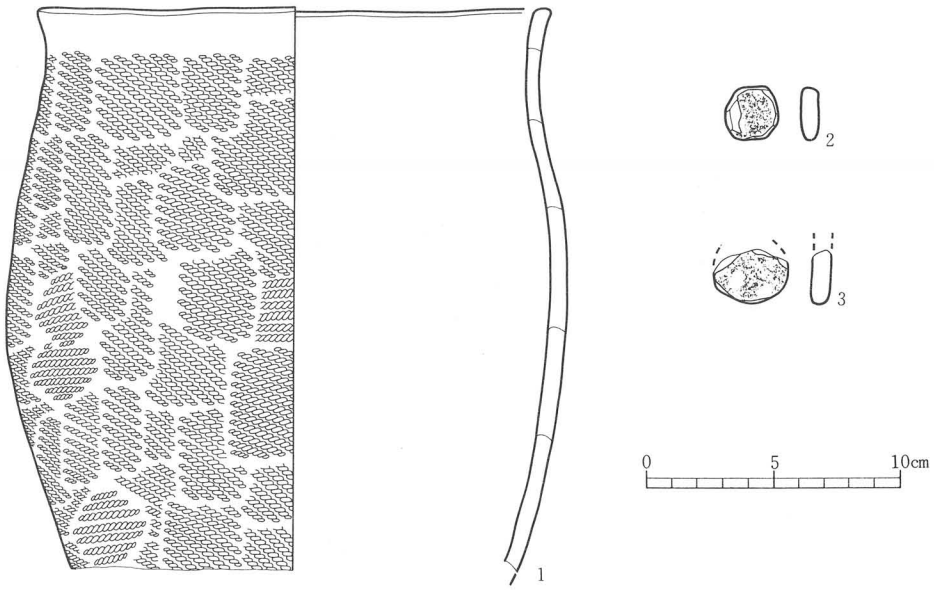
層位	層No.	土色	土性	備考
掘り方1	1	橙色 5YR6/8	粘土	
	2	明赤褐色 5YR5/8	粘土	2次床面
	3	明赤褐色 5YR5/8	粘土	1次床面
	4	暗赤褐色 5YR3/6	シルト	炭化物、焼土粒含む
掘り方2	5	暗褐色 10YR3/4	シルト	炭化物、焼土粒多量に含む
掘り方3	6	黄褐色 10YR5/6	粘土	褐色土含む
	7	暗褐色 10YR3/3	シルト	炭化物、焼土、黄色土粒含む
	8	明黄褐色 10YR6/6	粘土	褐色土含む

No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
276	K－19	第4層上面	不整楕円形	158×134	41	277、278土壙を切る。土壙底面に粘土を貼り付け、床面を形成している。床面は2枚あり、壁面とともに焼けしまっている。
277	K－19	第4層上面	長楕円形基調	(163)×110	35	275、276土壙に切られている。床面は大きな凸凹が多い。
278	K－19	第4層上面	不整長方形基調	115×80	10	276土壙、ピットに切られる。底面に3個のピットがある。



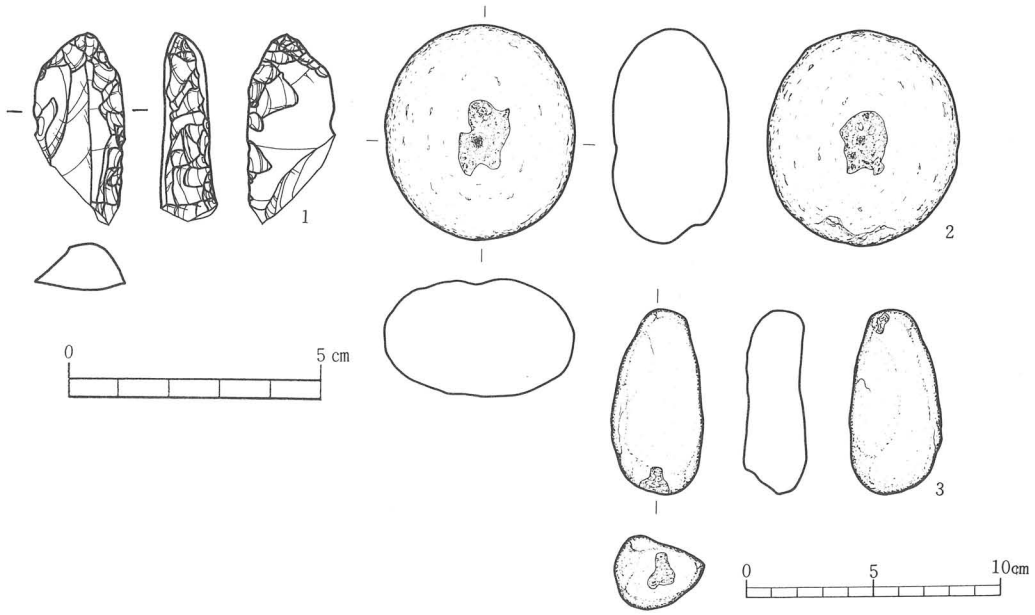
No.	層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	第2次床	深鉢	隆線文・沈線文	ナデ・磨キ（横）		X	
2	第1次床	深鉢	隆線文・LR縄文	ナデ・磨キ（横）		B I	
3	掘り方埋土	深鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（横）			
4	堆積土	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）		B III	
5	堆積土	深鉢	沈線文	磨キ（横）		B IV	
6	堆積土	深鉢	隆線文	磨キ（横）			
7	堆積土	深鉢	沈線文	マメツ			

第638図　276号土壙出土土器（1）



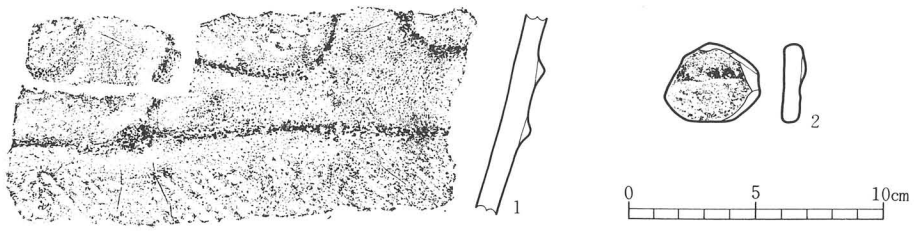
No.	層　位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	2次床	深　鉢	LR縄文・磨キ	磨キ(横・縦)・ケズリ	B VI	
2	堆積土	土製円盤				
3	堆積土	土製円盤				

第639図　276号土壙出土土器(2)・土製円盤



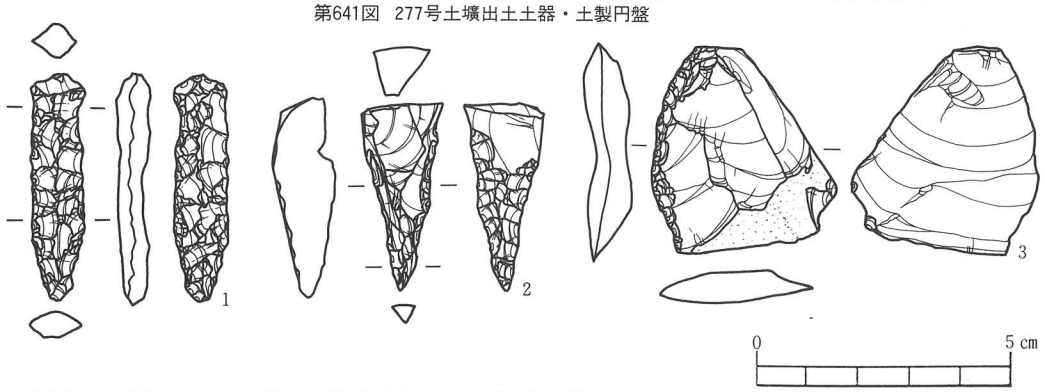
No.	種　別	層　位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石　材	使用痕	備　考
1	スクレイパー	堆積土	(47.85)×(18.00)×(10.90)	6.50	頁　岩	———	
2	礫石器	堆積土	86×75×49	378.0		凹－両面	
3	礫石器	1　層	74×34×26	88.0		敲－両端	

第640図　276号土壙出土石器



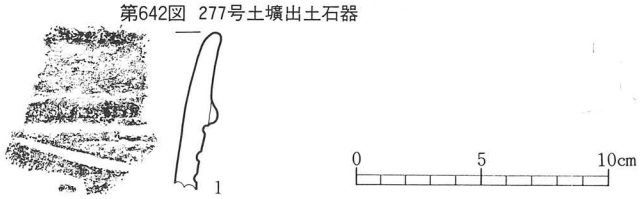
No.	層　位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	堆積土	深　鉢	隆線文・R撚糸	磨キ（横）	X6or7	
2	1　層	土製円盤				

第641図　277号土壙出土土器・土製円盤



No.	種　別	層　位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	石　匙	1　層	45.40×10.70×6.75	3.35		——	
2	石　錐	1　層	37.25×15.85×11.65	5.00	頁　岩	——	
3	スクレイパー	1　層	41.10×36.20×8.80	11.85	頁　岩	——	

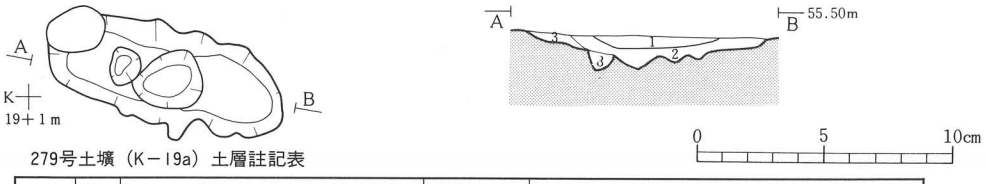
第642図　277号土壙出土石器



No.	層　位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	堆積土	深　鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横）	XI	

第643図　278号土壙出土土器

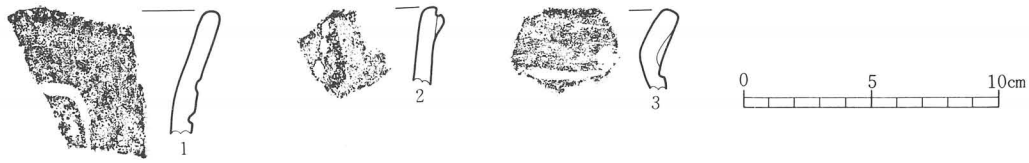
第644図　279号土壙



279号土壙（K－19a）土層註記表

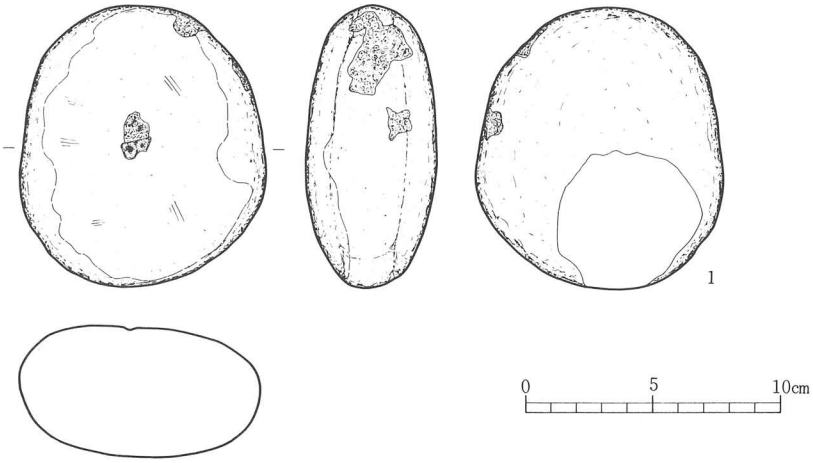
層位	層No.	土　色	土　性	備　考
1	1	極暗褐　7.5YR2/3	シルト	スコリア少量含む
2	2	褐　7.5YR4/6	シルト	ローム粒含む
	3	褐　7.5YR4/4	粘土質シルト	ローム粒含む

No.	地　区	確　認　面	平 面 形	規　模	壁　高	備　考
279	J・K－19	第4層上面	長楕円形	195×88	23	北西部ピットに切られる。底面西側、中央部に35×30×15、55×45×18のピット、凹み有。



No.	層　位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	堆積土	深　鉢	沈線文・刺突文	磨キ（横）	X	
2	堆積土	深　鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	B III	
3	堆積土	深　鉢	沈線文	ナデ・磨キ（横）	B I	

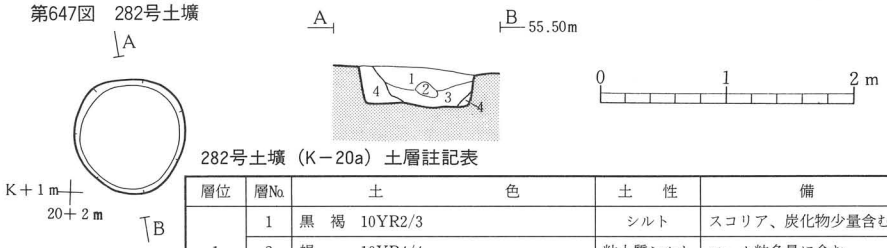
第645図　279号土壙出土土器



No.	種　別	層　位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使　用　痕	備　考
1	礫石器	堆積土	112×96×53	787.5		凹－片面、敲－片側面、磨－片面	

第646図　279号土壙出土石器

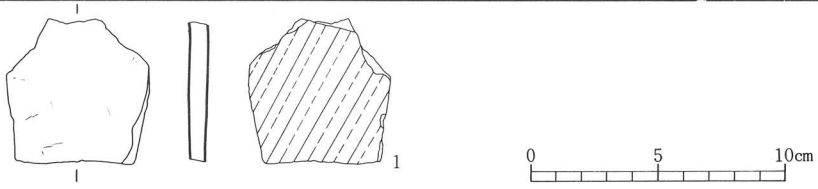
第647図　282号土壙



282号土壙（K－20a）土層註記表

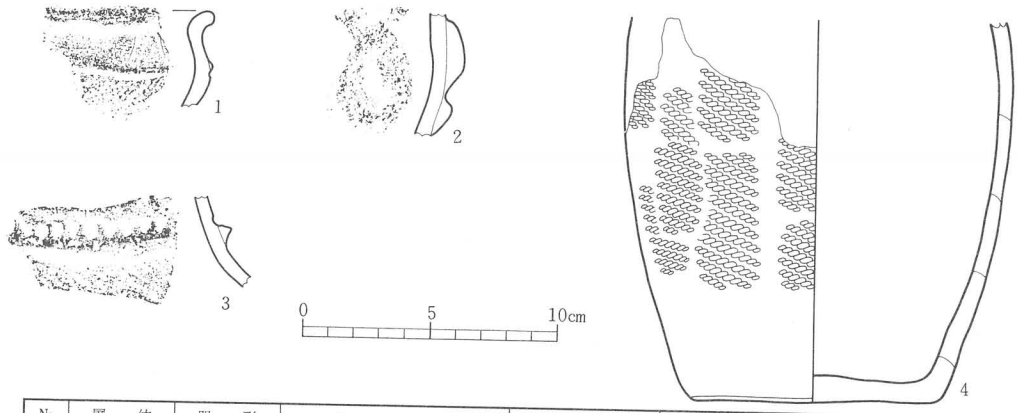
層位	層No.	土　色	土　性	備　考
1	1	黒　褐　10YR2/3	シルト	スコリア、炭化物少量含む
	2	褐　10YR4/4	粘土質シルト	ローム粒多量に含む
	3	褐　10YR4/6	シルト	スコリア、炭化物、焼土粒含む
2	4	黄　褐　10YR5/6	粘土質シルト	スコリア、炭化物、焼土粒含む

No.	地　区	確　認　面	平　面　形	規　模	壁　高	備　考
282	K－20	第4層上面	円　形	92×90	37	



No.	種　別	層　位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使　用　痕	備　考
1	石　皿	1　層	(59)×(56)×(8)	41.5		磨－片面	

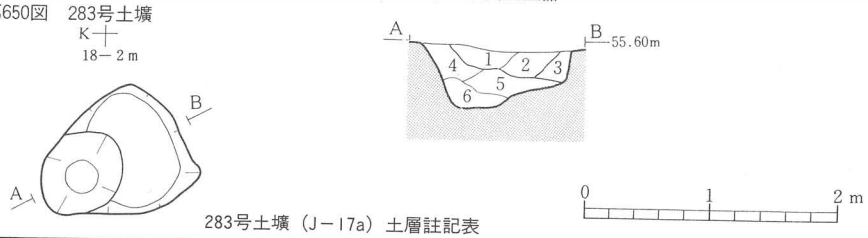
第648図　282号土壙出土石器



No.	層　位	器　形	外　面	内　面	底　部	分　類	備　考
1	堆積土	深　鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）		B I	
2	1　層	深　鉢	隆線文・貼付文	ナデ・磨キ（横）		X	
3	1　層	深　鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）		X	
4	堆積土	深　鉢	LR縄文	マメツ	網代痕・磨　キ		

第649図　282号土壙出土土器

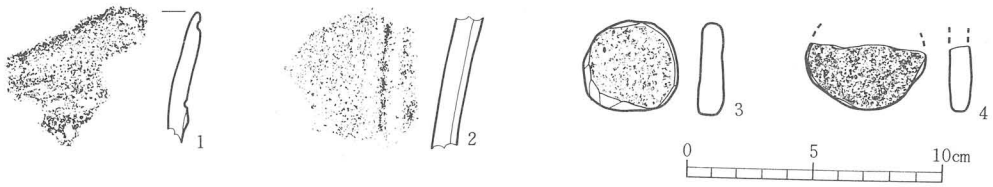
第650図　283号土壙



283号土壙（J－17a）土層註記表

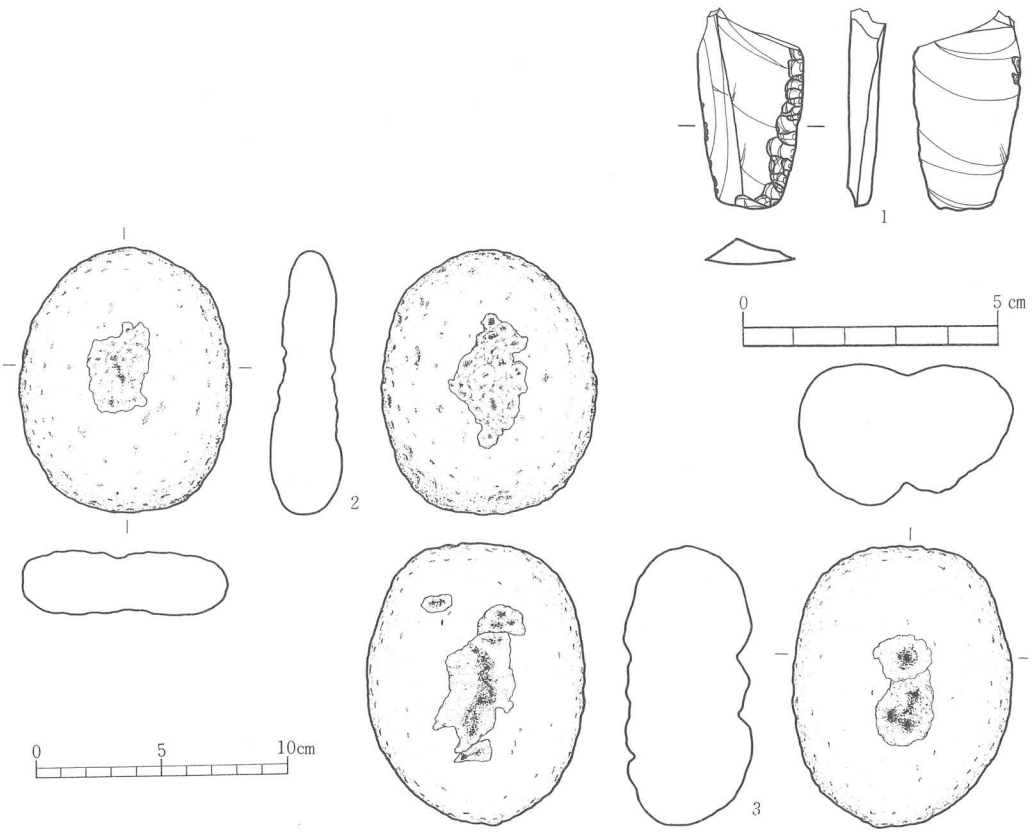
層位	層No.	土　色	土　性	備　考
1	1	暗　褐　10YR3/4	シルト	風化礫微量、炭化物少量、ローム粒少量、風化礫微量に含む
	2	黒　褐　10YR2/2	シルト	炭化粒多量に含む
2	3	明赤褐　2.5YR5/8	粘　土	ローム粒含む
3	4	褐　　10YR4/4	シルト	風化礫多量、炭化物少量含む
	5	暗　褐　10YR3/3	シルト	まんべんなく炭化物多量に含む
	6	にぶい黄褐　10YR4/3	シルト	炭化物少量、風化礫粒少量含む

No.	地　区	確　認　面	平　面　形	規　模	壁　高	備　考
283	J－17	第4層上面	不整形	120×100	35	底面西部に70×62×28の凹み有。



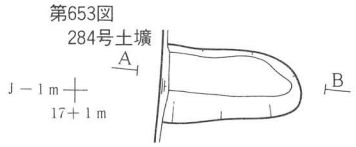
No.	層　位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	堆積土	深　鉢	刺突文	磨キ（横）	B II	
2	堆積土	深　鉢	隆線文	磨キ（斜）		
3	堆積土	土製円盤				
4	堆積土	土製円盤				

第651図　283号土壙出土土器・土製円盤

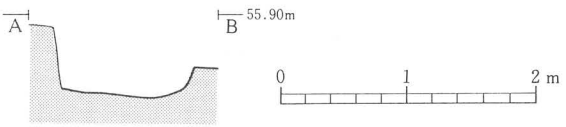


No.	種別	層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	スクレイパー	堆積土	(39.90)×(20.85)×(6.80)	4.75	頁岩	——	
2	礫石器	堆積土	105×85×28	300.5		凹－両面	
3	礫石器	堆積土	112×86×55	598.0		凹－両面	

第653図

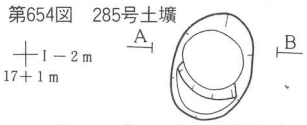


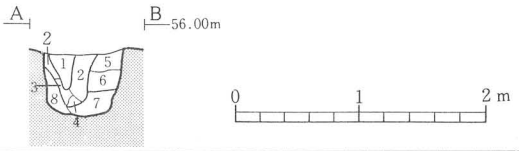
第652図　283号土壙出土石器



No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
284	L－17	第4層上面	長楕円形基調	(105)×63	21	西側の調査区外へ延びる。

第654図　285号土壙



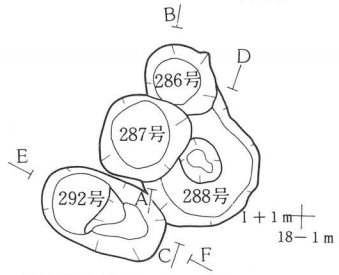


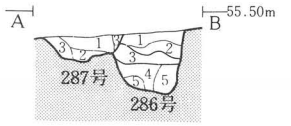
285号土壙（I－17c）土層註記表

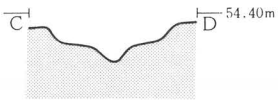
層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	褐　10YR4/6	シルト	ローム粒、炭化物含む
2	2	黄褐　10YR5/6	砂質シルト	ローム粒、炭化物、焼土粒含む
	3	褐　10YR4/4	粘土質シルト	ローム粒、焼土粒含む
	4	にぶい黄褐　10YR4/3	粘土質シルト	若干の焼土粒含む
3	5	にぶい黄褐　10YR5/4	シルト	ローム粒、炭化物含む
	6	にぶい黄褐　7.5YR5/4	シルト	ローム粒、炭化物含む
4	7	褐　7.5YR4/6	粘土質シルト	ローム粒、炭化物、焼土粒含む
	8	黄褐　10YR5/8	シルト質粘土	ローム粒多く含む

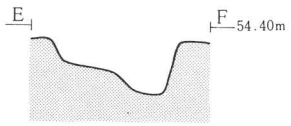
No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
285	L－17	第4層上面	楕円形	89×64	55	底面南側が一段高くなっている。

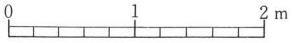
第655図　286.287.288.292号土壙











286号土壙（I－17b）土層註記表

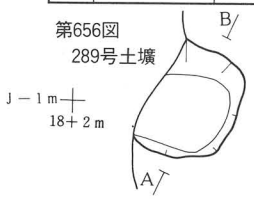
層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	褐　7.5YR4/6	シルト	ローム粒、炭化物含む
	2	褐　7.5YR4/4	砂質シルト	ローム粒、炭化物、焼土粒含む
2	3	褐　10YR4/6	シルト	ローム粒含む
3	4	褐　10YR4/4	シルト	ローム粒、炭化物含む
	5	黄褐　10YR5/6	粘土質シルト	ローム粒、炭化物含む

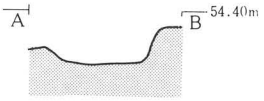
287号土壙（I－17a）土層註記表

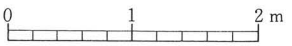
層No.	土色	土性	備考
1	褐　7.5YR4/4	シルト	スコリア、炭化物含む
2	暗褐　7.5YR3/4	砂質シルト	炭化物、砂粒少量含む
3	褐　10YR4/6	砂質シルト	ローム粒含む

No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
286	I－17	第4層上面	不整円形基調	57×(50)	54	287土壙に切られ、288土壙を切る。
287	I－17	第4層上面	不整円形	70×65	20	286、288土壙を切る。
288	I－17	第4層上面	不整楕円形基調	(105)×95	21	286、287、292土壙に切られる。底面中央に38×30×13のピット有。
292	I－17	第4層上面	楕円形	102×60	40	288土壙を切る。底面西側が一段高くなっている。

第656図
289号土壙

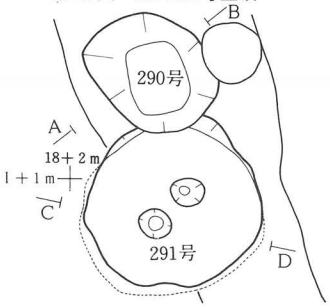


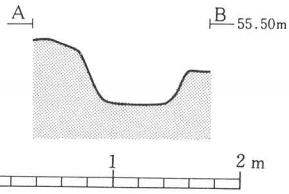


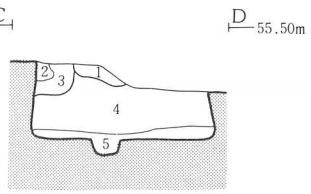


No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
289	I－18	第5層（16溝壁面）	不整方形基調	90×(70)	28	上部、西半部を16溝に切られる。

第657図　290.291号土壙





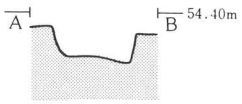


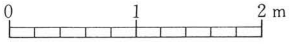
291号土壙（I－18a）土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	褐　7.5YR4/4	シルト	焼土、炭化物含む
2	2	褐　10YR4/4	粘土質シルト	
	3	暗褐　7.5YR3/4	粘土質シルト	炭化物を含む
3	4	褐　10YR4/6	粘土	
	5	褐　10YR4/6	粘土	

No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
290	I－18	第5層（16溝底面）	不整楕円形	100×85	41	16溝に切られ、291土壙を切る。
291	I－18	第4層上面	円形基調	136×134	63	290土壙、16溝に切られる。底面中央部に28×23×15、28×21×13のピット有。

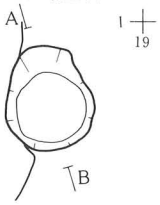
第658図
293号土壙

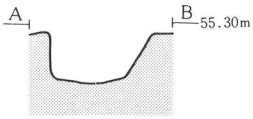


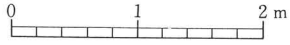


No.	地　区	確　認　面	平　面　形	規　模	壁　高	備　考
293	H・I－17	第４層上面	不整円形	77×68	25	20溝に切られる。

第659図　294号土壙

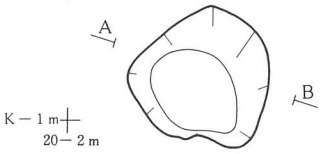


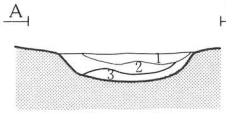


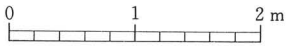


No.	地　区	確　認　面	平　面　形	規　模	壁　高	備　考
294	H－18	第４層上面	円形基調	83×(70)	35	16溝に切られる

第660図　295号土壙





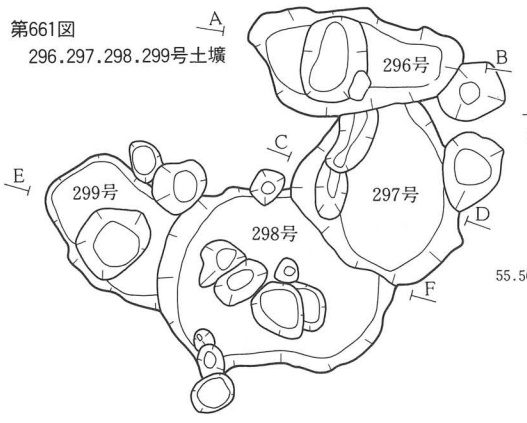


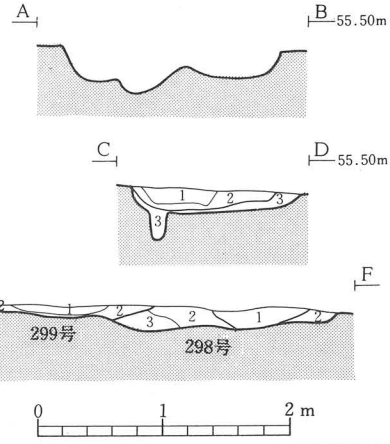
295号土壙（J－19d）土層註記表

層位	層No.	土　色	土　性	備　考
1	1	褐　7.5YR4/6	シルト	スコリア、炭化物微量に含む
	2	褐　10YR4/6	シルト	スコリア含む
2	3	黄　褐　10YR5/6	粘土質シルト	スコリア含む

No.	地　区	確　認　面	平　面　形	規　模	壁　高	備　考
295	J－19	第４層上面	不整円形	110×110	28	

第661図
296.297.298.299号土壙





No.	地　区	確　認　面	平　面　形	規　模	壁　高	備　考
296	J－19	第４層上面	長楕円形	173×84	30	279土壙を切る。底面中央に68×53×22の凹み有。
297	J－19	第４層上面	不整円形	(155)×145	25	296土壙ピットに切られ、298土壙を切る。底面西側に幅20～30、長さ105、深さ５～10の溝有。
298	J－19	第４層上面	不整楕円形基調	(175)×150	13	297、299土壙に切られる。底面に５個のピット有。
299	J－19	第４層上面	不整隅丸長方形	150×72	10	ピットに切られ、298土壙を切る。底面中央に60×50×43の凹み有。

297号土壙（J－19b）土層註記表

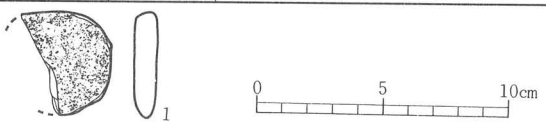
層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	暗褐 10YR3/4	粘土質シルト	スコリア少量含む
	2	暗褐 10YR3/3	粘土質シルト	スコリア、炭化物含む
2	3	褐 10YR4/6	粘土質シルト	ローム粒含む

298号土壙（J－19a）土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	褐 10YR4/6	シルト	スコリア少量含む
2	2	暗褐 10YR3/4	粘土質シルト	ローム粒を多く含む
	3	暗褐 7.5YR3/4	粘土質シルト	スコリア若干含む

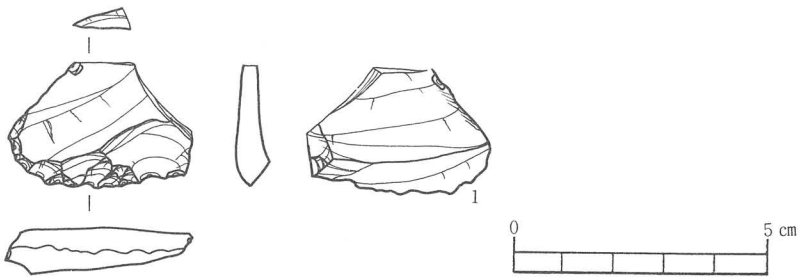
299号土壙（J－19a'）土層註記表

層No.	土色	土性	備考
1	暗褐 10YR3/4	シルト	スコリア少量含む
2	褐 10YR4/6	粘土質シルト	



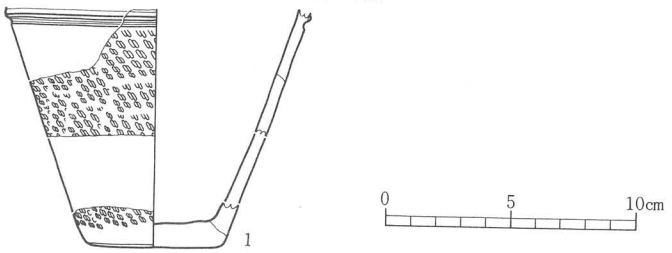
No.	層位
1	堆積土

第662図　296号土壙出土土製円盤



No.	種別	層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	二次加工ある剝片	堆積土	(24.90)×36.15×9.10	6.40	頁岩	——	

第663図　296号土壙出土石器

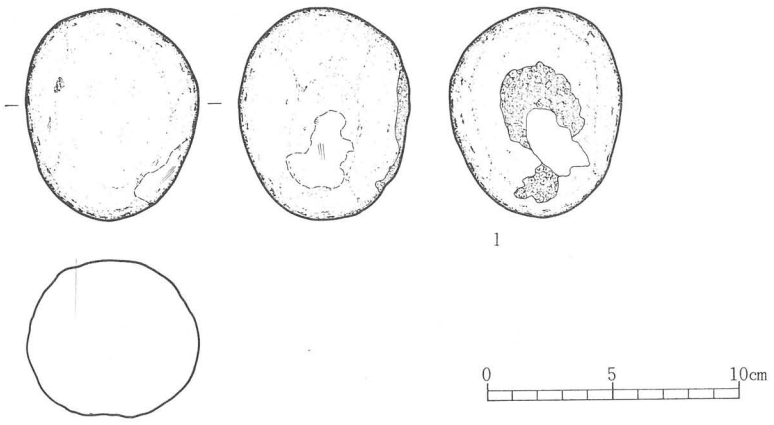


No.	層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	堆積土	深鉢	隆線文・沈線文・LRL縄文・磨キ	磨キ（横）	ナデ		

第664図　297号土壙出土土器

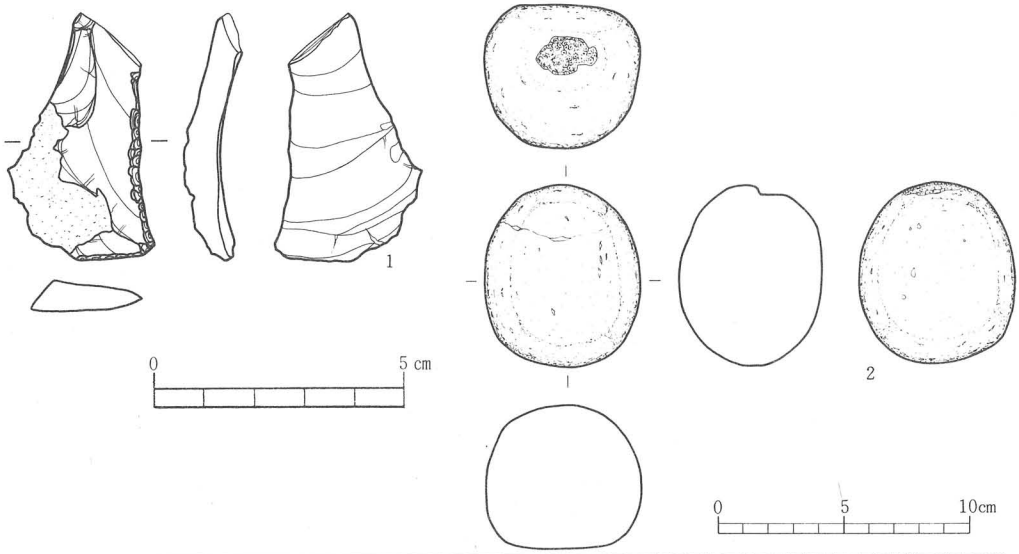
No.	種別	層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	石鏃A	堆積土	(21.30)×(12.50)×3.55	0.45		——	

第665図　297号土壙出土石器（1）



No.	種　別	層　位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	礫石器	堆積土	84×69×65	505.0		敲－片面、磨－片面	

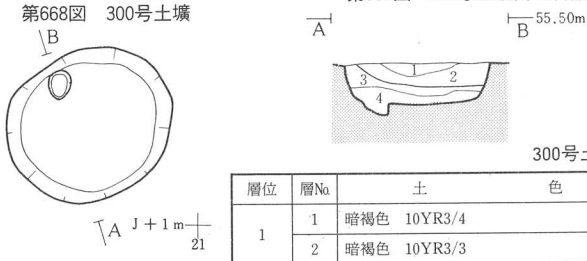
第666図　297号土壙出土石器(2)



No.	種　別	層　位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	スクレイパー	堆積土	(49.15)×(28.35)×7.05	7.25	頁　岩	――	
2	礫石器	堆積土	71×62×58	335.5		敲－一端	

第667図　298号土壙出土石器

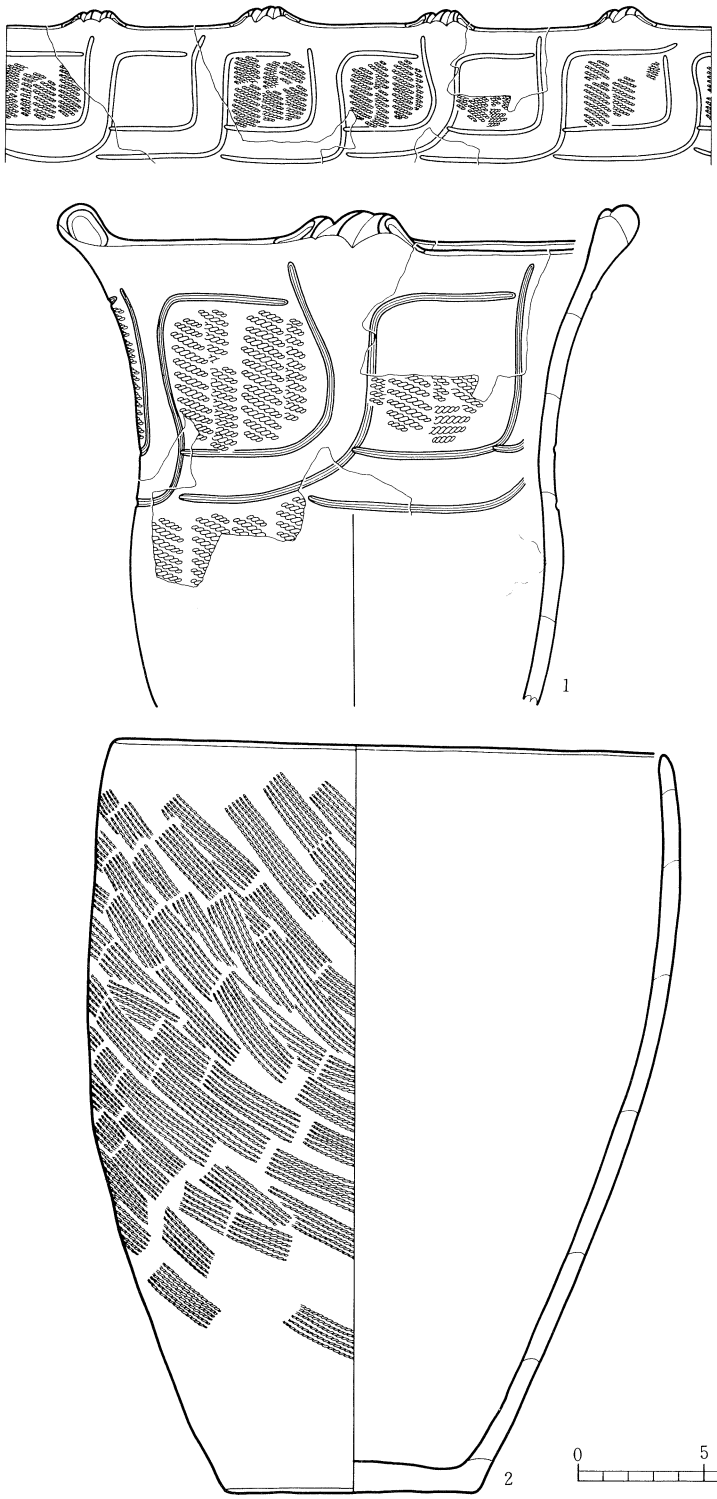
第668図　300号土壙



300号土壙（J－20a）土層註記表

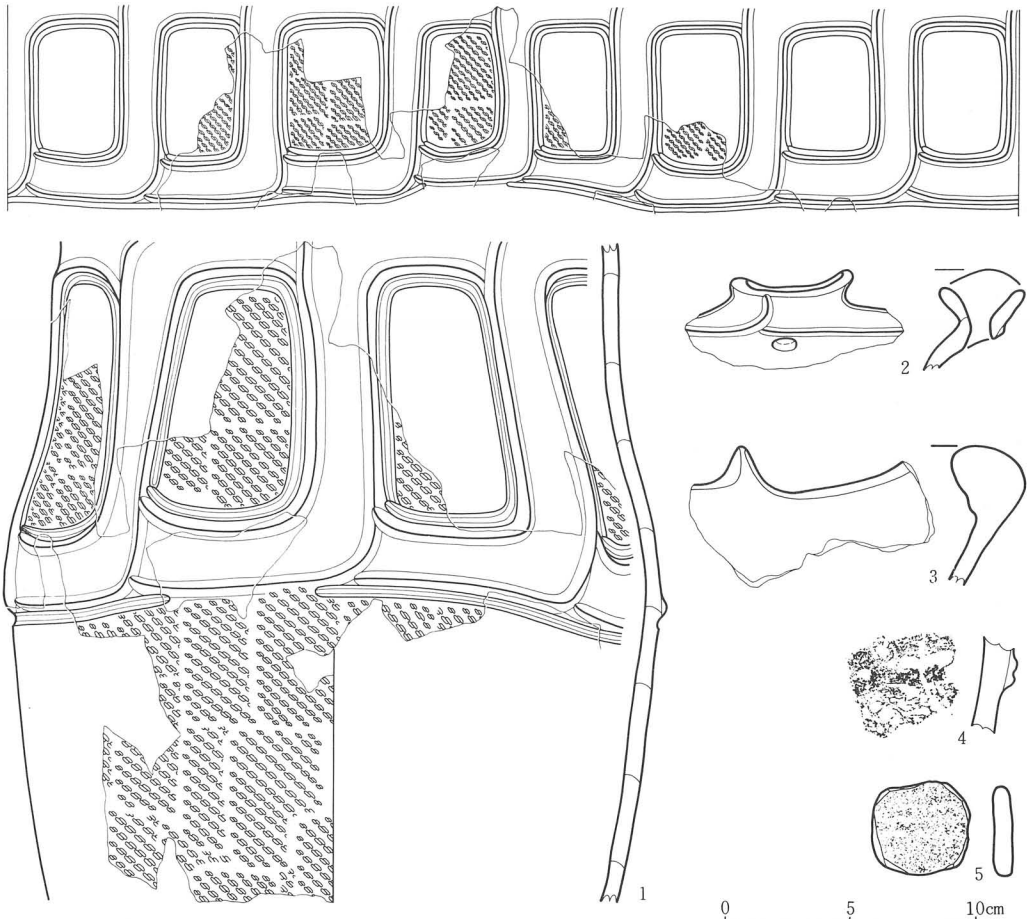
層位	層No.	土　色	土　性	考
1	1	暗褐色　10YR3/4	シルト	炭化物、スコリア含む
	2	暗褐色　10YR3/3	シルト	炭化物、スコリア層No.1より多く含む
2	3	褐　色　10YR4/4	粘土質シルト	炭化物、スコリア層No.2より多く含む
	4	黄褐色　10YR5/6	シルト質粘土	ローム粒多量に含む

No.	地　区	確　認　面	平 面 形	規　模	壁　高	備　考
300	J－20	第4層上面	不整円形	120×125	39	303土壙を切る。底面北部に25×17×10のピット有。



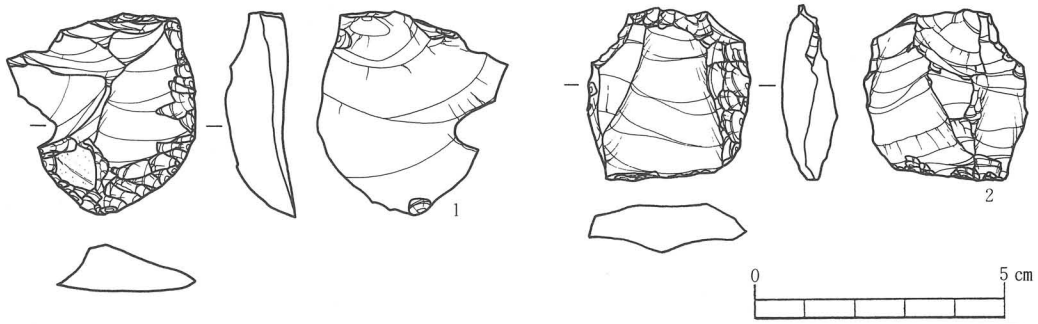
No.	層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	堆積土	深鉢	沈線文・LR縄文・磨キ	マメツ		X6	
2	埋No.2	深鉢	撚糸文L・磨キ	磨キ（縦・横）	網代痕	B VI	

第669図　300号土壙出土土器（1）



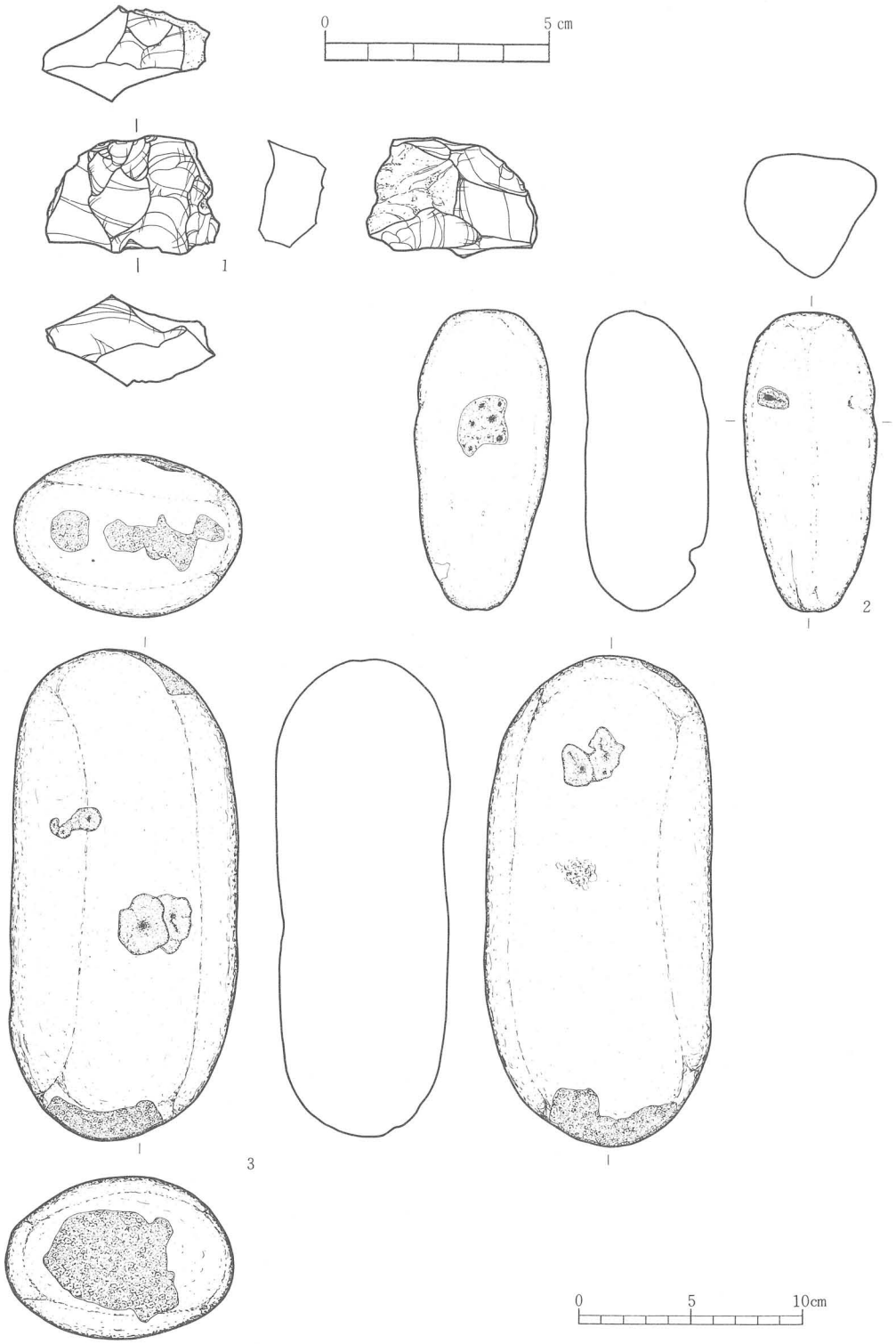
No.	層　位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	2層	深　鉢	隆線文・沈線文・縄文LRL・磨キ	磨キ（横）	X6	
2	堆積土	深　鉢	磨　キ	磨キ（横）	XI	
3	堆積土		隆線文・ミガキ	磨キ（横）	XI	
4	2　層	深　鉢	隆線文・刺突文・LR縄文	磨キ（横・縦）	XI	
5	層No.2	土製円盤				

第670図　300号土壙出土土器（2）・土製円盤



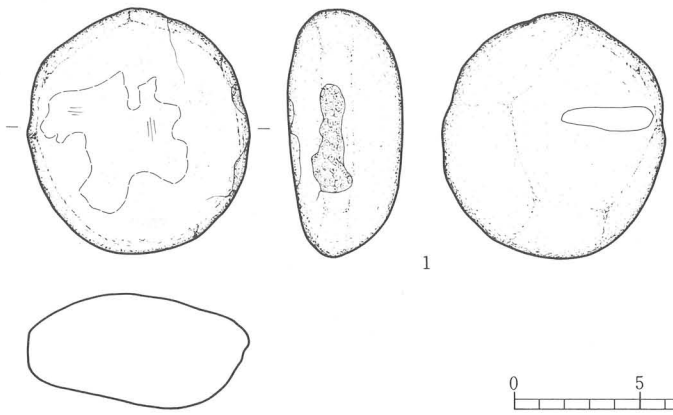
No.	種　別	層　位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使　用　痕	備　考
1	スクレイパー	2　層	40.10×37.00×11.60	12.70	頁　岩	——	
2	ピエス・エスキーユ	2　層	34.60×32.50×11.25	11.50	頁　岩	——	

第671図　300号土壙出土石器（1）



No.	種　別	層　位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	石　核	堆積土	26.80×38.70×21.30	16.40	鉄石英	——	
2	礫石器	2　層	134×58×57	526.0		凹－片面	
3	礫石器	2　層	219×100×79	2600.5		凹－両面、敲－両端	

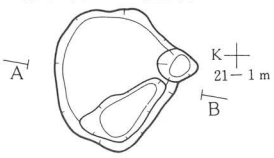
第672図　300号土壙出土石器(2)



No.	種別	層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	礫石器	2層	97×83×45	539.5		敲一片側面・磨一片面	

第673図　300号土壙出土石器(3)

第674図　301号土壙



301号土壙（J－20b）

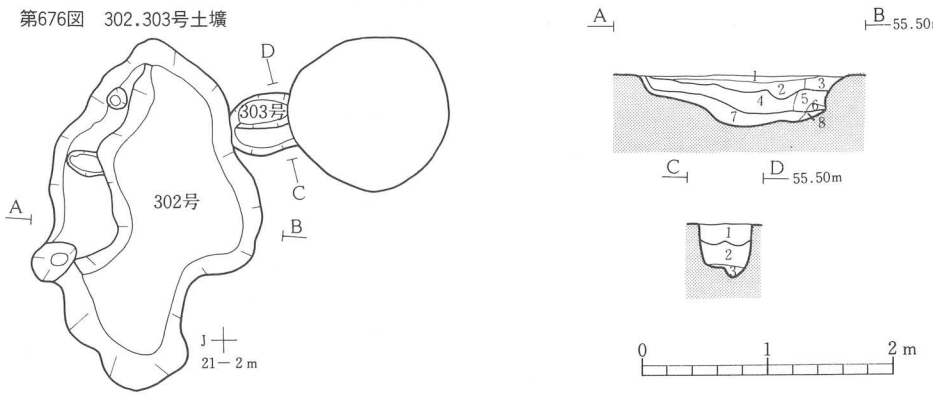
層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	褐 10YR4/4	シルト	スコリア含む
2	2	褐 10YR4/6	粘土質シルト	ローム粒多量に含む
	3	褐 10YR5/6	粘土質シルト	ローム粒多量に含む

No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
301	J－20	第4層上面	不整円形	110×110	27	底面東端に32×25×20のピット有。底面南側は一段低くなっている。

No.	層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	堆積土	深鉢	隆線文・ミガキ	隆線文 ミガキ（横）		

第675図　301号土壙出土土器

第676図　302.303号土壙



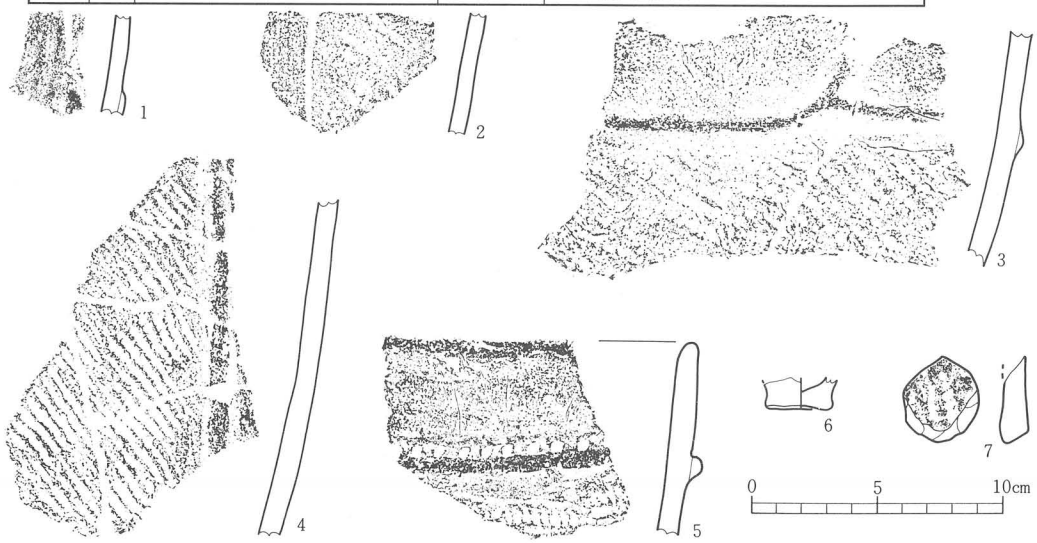
No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
302	J－20	第4層上面	不整形	270×168	34	303土壙を切っている。西側に40×30×13のピット有。底面北西側は一段高くなっている。
303	J－19	第4層上面	楕円形基調	(45)×48	42	300、302土壙に切られる。底面は北側が一段低くなっている。

302号土壙（J－20c）土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	暗褐 10YR4/3	シルト	スコリア少量含む
	2	暗褐 7.5YR3/3	シルト	スコリア、炭化物少量含む
	3	黄褐 10YR5/8	粘土質シルト	ローム粒含む
2	4	暗褐 10YR3/4	粘土質シルト	ローム粒多く含む
	5	黄褐 10YR5/6	シルト質粘土	
	6	黄褐 7.5YR5/8	粘土	
3	7	褐 10YR4/4	シルト質粘土	ローム粒含む
	8	明黄褐 10YR6/8	粘土	

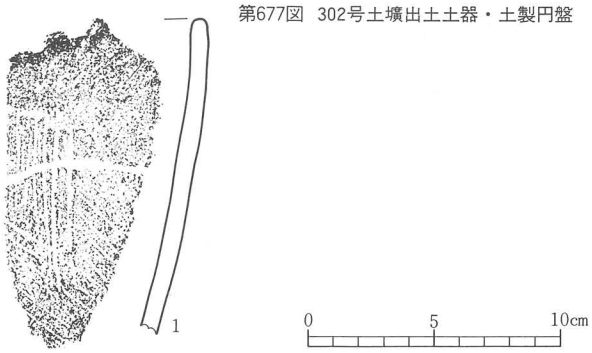
303号土壙（J－20d）土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	暗褐色 10YR3/3	シルト	スコリア少量含む
2	2	褐色 10YR4/4	粘土質シルト	ローム粒、砂粒含む
	3	黄褐色 10YR5/6	粘土質シルト	ローム粒、砂粒含む



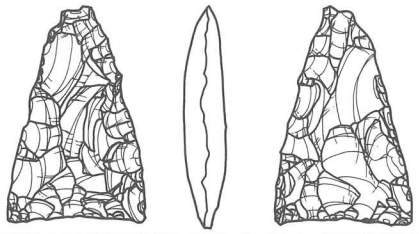
No.	層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	堆積土	深鉢	隆線文・沈線文	磨キ（斜）			
2	堆積土	深鉢	沈線文・L縄文	磨キ（横）			
3	堆積土	深鉢	隆線文・LR縄文	ナデ・磨キ（横）		X	
4	堆積土	深鉢	隆線文・沈線文・L縄文	磨キ（横・縦）		XorXI	
5	堆積土	深鉢	隆線文・刺突文・LR縄文	ナデ・磨キ（横）		B III	
6	堆積土	ミニチュア	磨キ	磨キ（横）	磨キ		
7	堆積土	土製円盤					

第677図　302号土壙出土土器・土製円盤



No.	層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	堆積土	深鉢	沈線文・条線文	ナデ・磨キ（横）	XorXI	

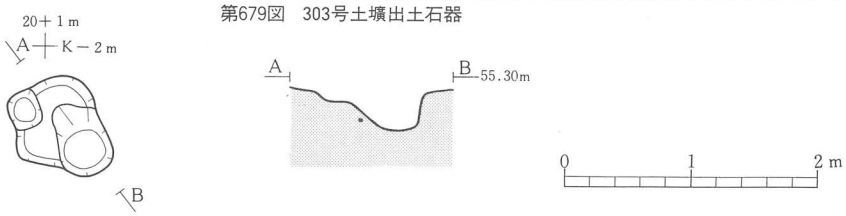
第678図　303号土壙出土土器



No.	種別	層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	ポイント	堆積土	43.80×27.10×8.60	7.45		——	

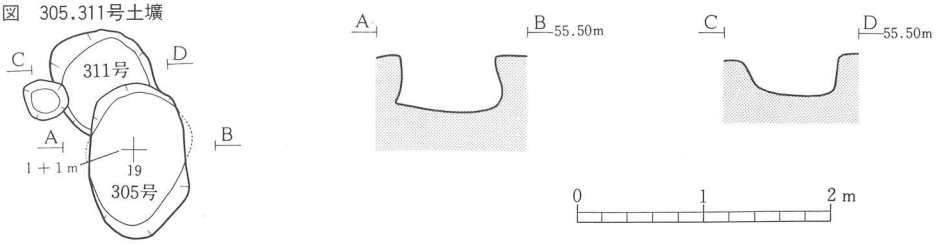
第679図　303号土壙出土石器

第680図
304号土壙

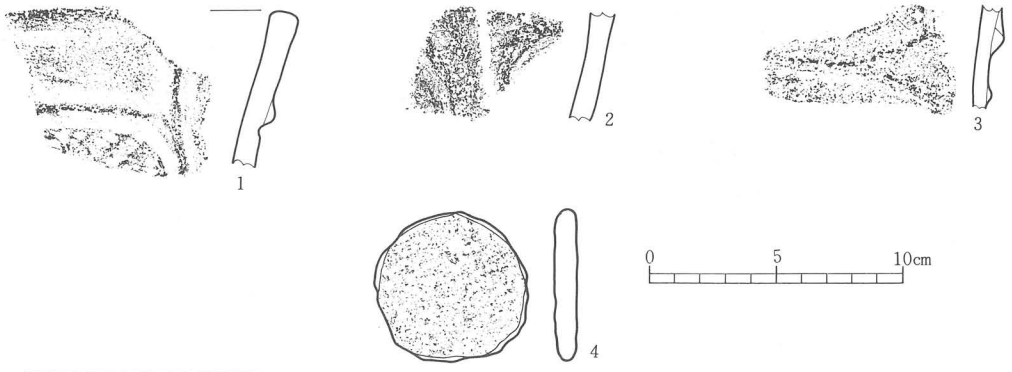


No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
304	J－19	第4層上面	不整形	88×75	27	底面北西部に30×25×13のピット有。南側に60×43×25の凹み有。

第681図　305.311号土壙

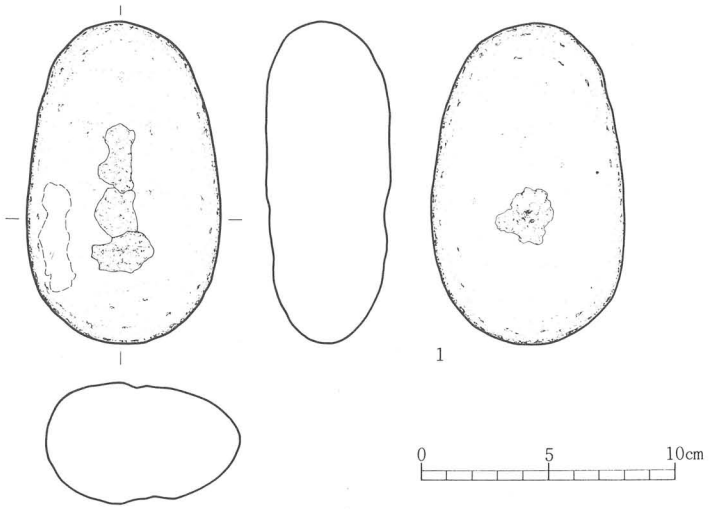


No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
305	I－18・19	第4層上面	楕円形	120×75	40	311土壙を切る。
311	L－18・19	第4層上面	不整円形基調	73×(60)	26	305土壙、ピットに切られる。



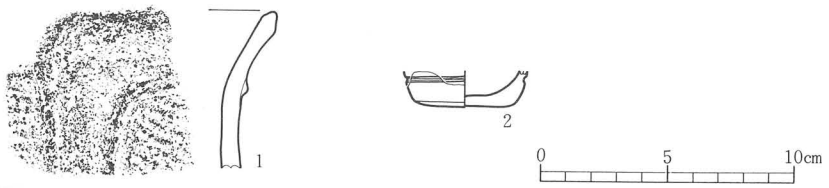
No.	層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	堆積土	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）	X6or7	
2	堆積土	深鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横）	X	
3	堆積土	深鉢	隆線文・不明縄文	磨キ（横）	X	
4	堆積土	土製円盤				

第682図　305号土壙出土土器・土製円盤



No.	種別	層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	礫石器	堆積土	128×77×47	695.5		凹－両面、磨－片面	

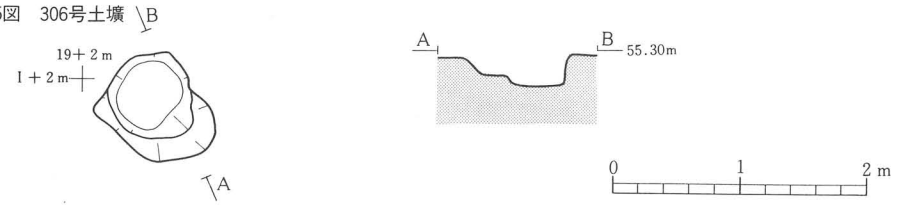
第683図　305号土壙出土石器



No.	層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	堆積土	深鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（横）		X6or7	
2	堆積土	深鉢	沈線文・マメツ	マメツ	マメツ		

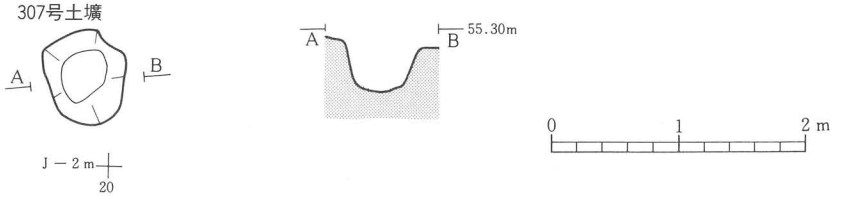
第684図　311号土壙出土土器

第685図　306号土壙



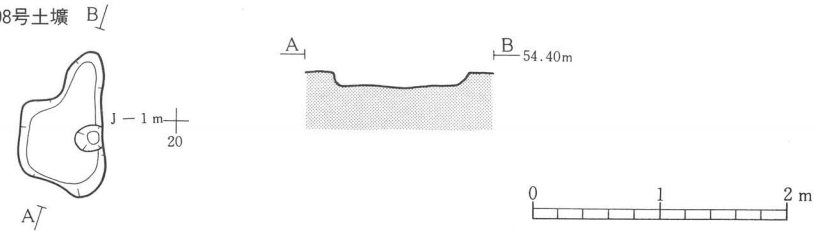
No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
306	I－19	第4層上面	不整楕円形	93×75	23	底面南側が一段高くなっている

第686図　307号土壙



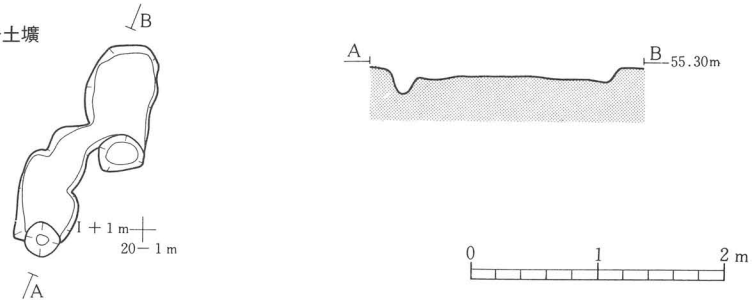
No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
307	I－19・20	第4層上面	不整楕円形	77×65	36	

第687図　308号土壙



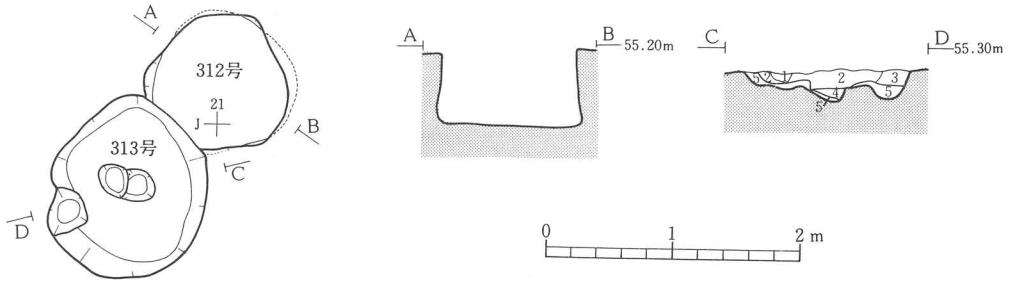
No.	地　区	確　認　面	平 面 形	規　模	壁　高	備　考
308	I－19	第4層上面	不整形	117×69	11	底面東側に22×20×12のピット有。

第688図　310号土壙



No.	地　区	確　認　面	平 面 形	規　模	壁　高	備　考
310	I－19	第4層上面	不整形	185×55	10	底面南端に28×25×13のピット有。

第689図　312.313号土壙

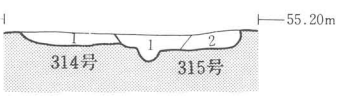


313号土壙（J－20d）土層註記表

層位	層No.	土　色	土　性	備　考
1	1	褐　7.5YR4/6	シルト	ローム粒若干含む
	2	褐　10YR4/6	シルト	スコリア、炭化物含む
2	3	褐　10YR4/4	シルト	ローム粒含む
	4	暗褐　10YR3/4	シルト	ローム粒、炭化物含む
3	5	黄褐　10YR5/6	シルト	ロームブロック含む

No.	地　区	確　認　面	平 面 形	規　模	壁　高	備　考
312	I・J－20・21	第4層上面	不整円形	113×108	57	313土壙に切られる。
313	I・J－20	第4層上面	不整円形	145×125	10	312土壙を切る。底面西側、中央部に32×37×12、45×25×10のピット有。

第690図　314.315号土壙



314号土壙（I－20d）土層註記表

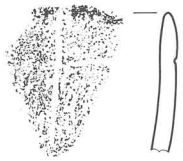
層No.	土色	土性	備考
1	暗褐 10YR3/4	シルト	黄色土粒子を若干含む

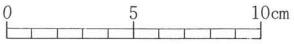
315号土壙（I－20g）土層註記表

層No.	土色	土性	備考
1	暗褐 10YR3/3	シルト	炭化物、黄褐色土粒子を含む
2	褐 10YR4/4	シルト	炭化物を多く含む、黄色ロームをブロツクに含む

No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
314	I－20	第4層上面	楕円形基調	(70)×70	14	315土壙に切られる。
315	I－20	第4層上面	円形	110×105	13	314土壙を切る。底面北東、南に27×20×12、25×20×11のピット有。

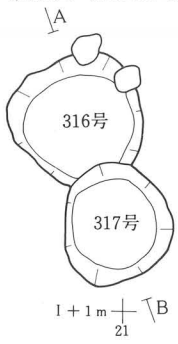
第691図　315号土壙出土土器

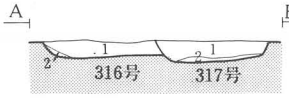




No.	層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	堆積土	深鉢	沈線文・R撚糸文	磨キ（横）	XorXI	

第692図　316.317号土壙





316号土壙（I－20e）土層註記表

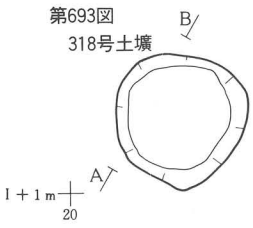
層No.	土色	土性	備考
1	暗褐 10YR3/4	シルト	炭化物、焼土、黒色土粒子含む
2	褐 10YR4/4	シルト	ローム土と混合

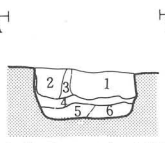
317号土壙（I－20f）土層註記表

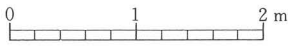
層No.	土色	土性	備考
1	暗褐 10YR3/4	シルト	炭化物、焼土粒若干含む
2	褐 10YR4/4	シルト	ローム土と混合

No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
316	I－20・21	第4層上面	不整円形基調	105×(90)	11	317土壙に切られる。
317	I－20・21	第4層上面	円形	95×90	17	316土壙を切る。

第693図
318号土壙







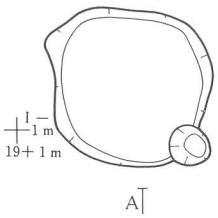
318号土壙（I－20a）土層註記表

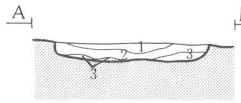
層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	黄褐 10YR5/8	シルト質粘土	ローム粒含む
	2	褐 10YR4/4	粘土質シルト	ローム粒含む
	3	褐 10YR4/6	粘土質シルト	ローム粒含む
2	4	明黄褐 10YR6/8	シルト質粘土	ローム粒含む
3	5	暗褐 10YR3/4	粘土質シルト	ローム粒、炭化物を含む
	6	暗褐 10YR3/3	粘土質シルト	炭化物を含む

No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
318	I－20	第4層上面	円形	95×95	42	

第694図

319号土壙　B

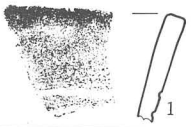


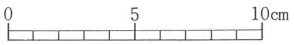


319号土壙（H－19a）土層註記表

層No.	土色	土性	備考
1	黄褐 10YR5/6	粘土	10YR4/4の褐色シルトがまじる
2	暗褐 10YR3/4	シルト	炭化物、焼土を多く含む
3	黄褐 10YR5/6	粘土	10YR4/4の褐色粘土質シルトがまじる

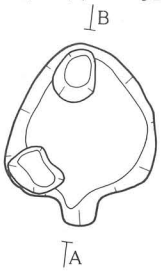
No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
319	H－19	第4層上面	不整円形	160×135	14	南東隅に35×30×34のピット有。



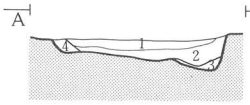


No.	層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	堆積土	深鉢	沈線文	ナデ・磨キ（横）	B IV	

第696図　320号土壙



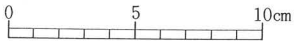
第695図　319号土壙出土土器



320号土壙（H－20a）土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	褐 10YR4/4	シルト	ローム粒若干含む
	2	明褐 7.5YR5/6	シルト	ローム粒、若干の焼土粒含む
2	3	褐 7.5YR4/4	粘土質シルト	炭化物若干含む
	4	黄褐 10YR5/8	粘土質シルト	ロームブロック含む

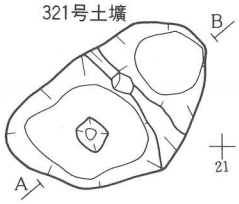
No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
320	H－20	第4層上面	不整形	140×118	16	北端、南西部に43×35×15、40×33×9のピット有。



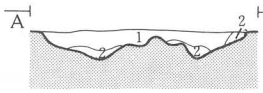
No.	層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	堆積土	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	ナデ(斜)・磨キ(横)		

第698図

321号土壙



第697図　320号土壙出土土器

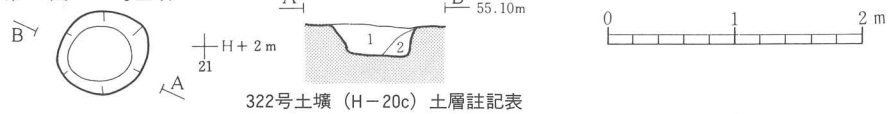


321号土壙（H－20b）

層No.	土色	土性	備考
1	褐 7.5YR4/4	シルト	炭化物、焼土粒、小礫含む
2	黄褐 10YR5/8	粘土質シルト	小礫、砂粒少量含む

No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
321	H－20	第4層上面	楕円形	175×110	15	底面南寄りに25×20×5のピット有。北側の底面は凸凹が多い。

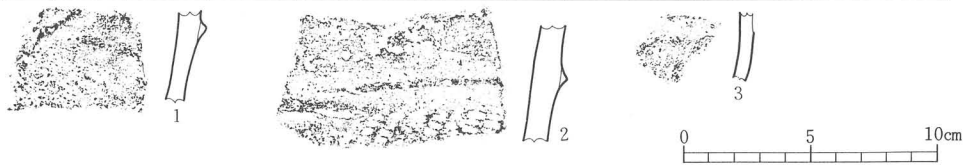
第699図　322号土壙



322号土壙（H－20c）土層註記表

層No.	土　色	土　性	備　考
1	暗　褐　10YR3/4	粘土質シルト	礫を多く含む
2	褐　10YR4/4	粘土質シルト	明黄褐色の小礫、礫を含む

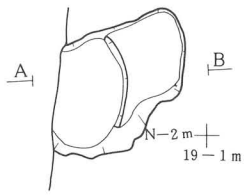
No.	地　区	確　認　面	平　面　形	規　模	壁　高	備　考
322	H－20	第4層上面	円　形	75×67	24	

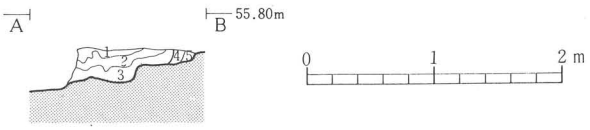


No.	層　位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	堆積土	深　鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（斜）	X	
2	堆積土	深　鉢	隆線文・RL縄文	ナデ(斜)・磨キ(横)	X	
3	堆積土	深　鉢	条線文	磨キ（縦）		

第700図　322号土壙出土土器

第701図　328号土壙

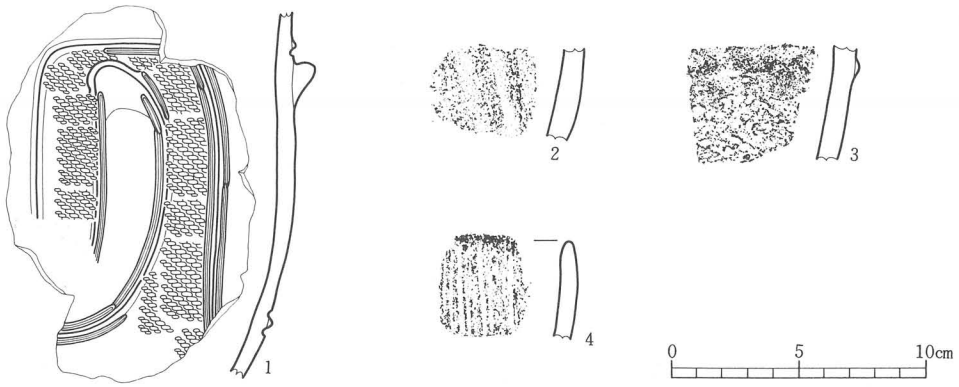




328号土壙（M－18a）土層註記表

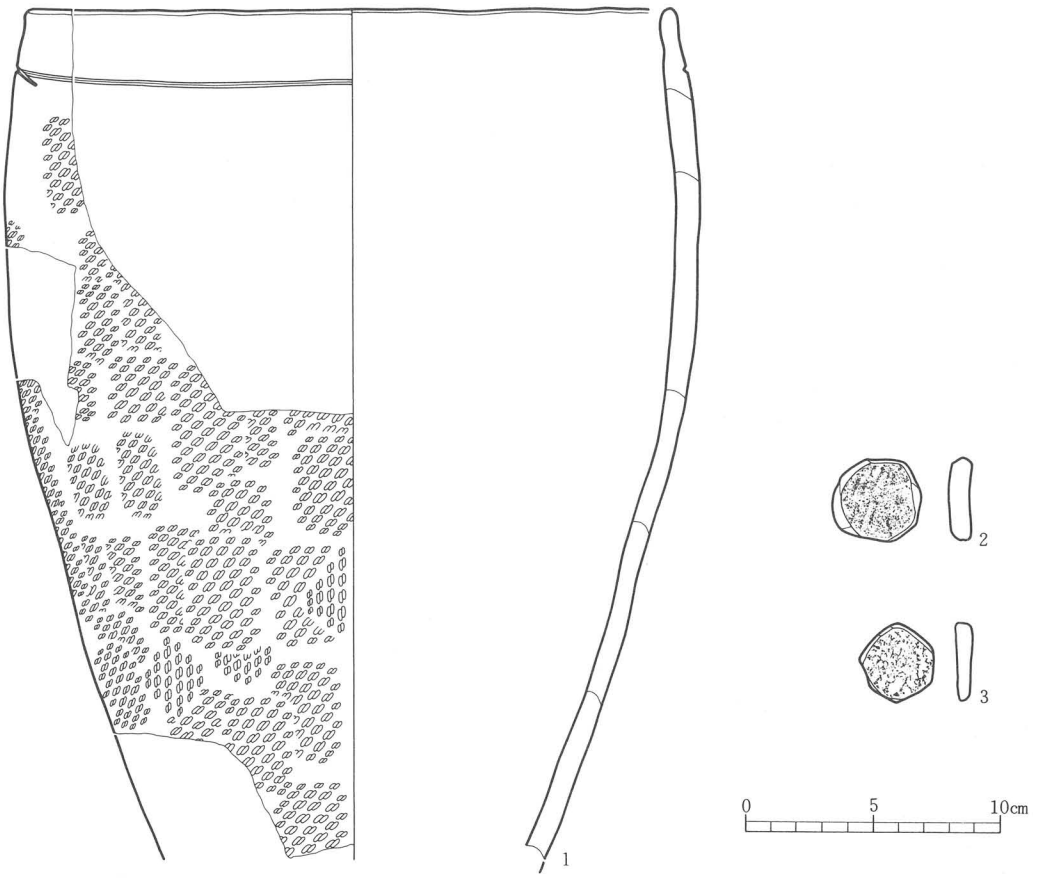
層位	層No.	土　色	土　性	備　考
1	1	暗　褐　10YR3/4	シルト	炭化物、焼土、ローム粒を若干含む
	2	褐　7.5YR4/4	シルト	炭化物、焼土を微量、ローム粒を多く含む
	3	暗　褐　10YR3/4	シルト	炭化物、焼土、ローム粒を微量に含む
2	4	褐　7.5YR4/4	シルト	ローム粒を含む
	5	褐　7.5YR4/4	粘土質シルト	ローム粒を微量に含む

No.	地　区	確　認　面	平　面　形	規　模	壁　高	備　考
328	M－18	第4層上面	不整隅丸長方形基調	(110)×95	29	2溝に切られる。



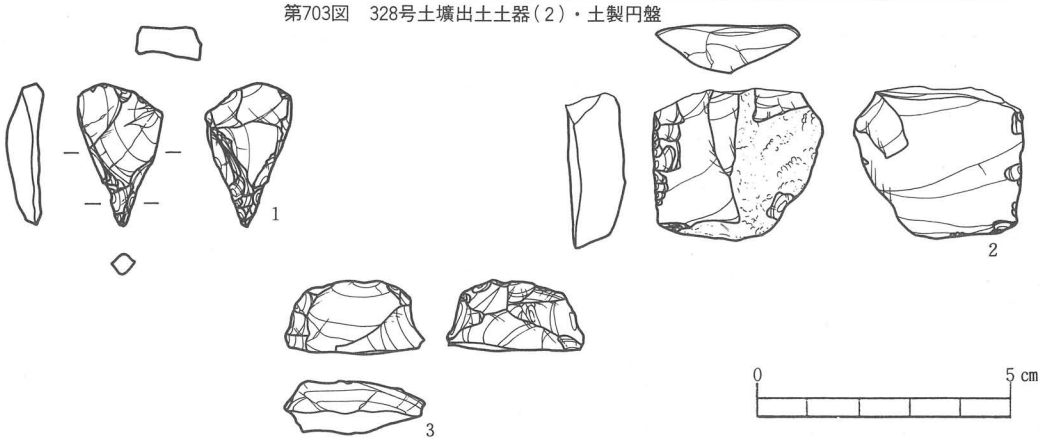
No.	層　位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	堆積土	深　鉢	隆線文・沈線文・LR縄文・磨キ	磨キ（縦）	X	
2	堆積土	深　鉢	隆線文・LR縄文	ナデ（横・斜）・磨キ（横）		
3	堆積土	深　鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）		
4	堆積土	深　鉢	条線文	磨キ（横）	B VI	

第702図　328号土壙出土土器（1）



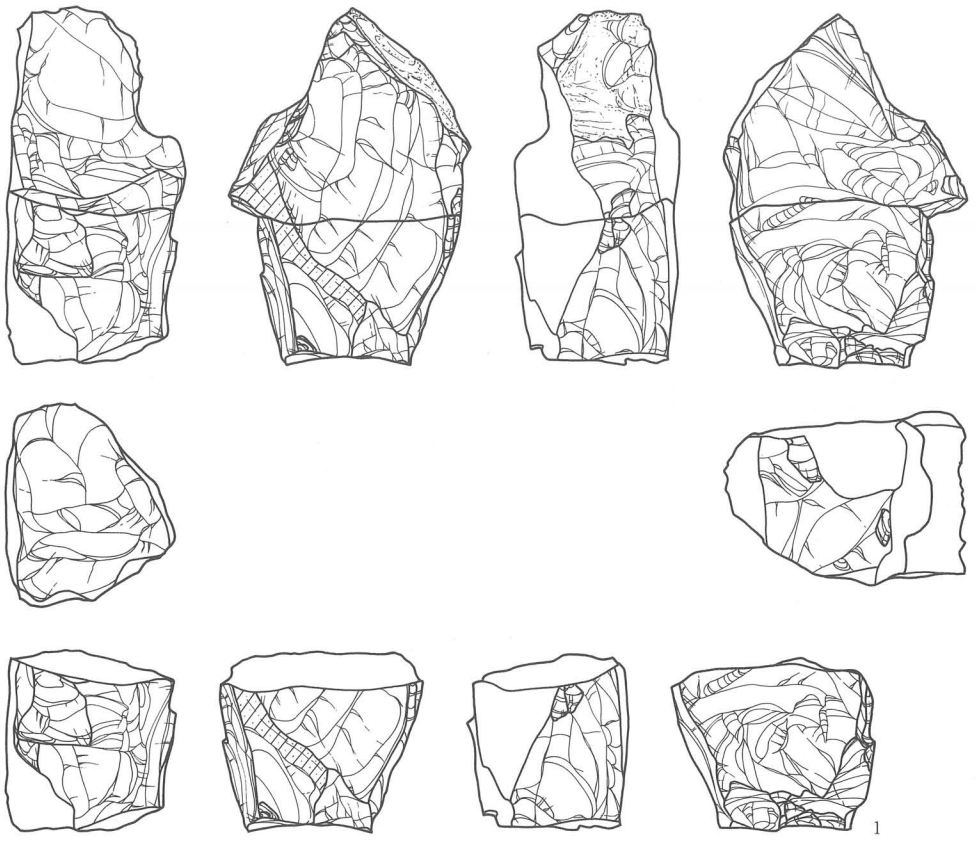
No.	層　位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	堆積土	深　鉢	RLR縄文・磨キ	マメツ	B IV	
2	2　層	土製円盤				
3	2　層	土製円盤				

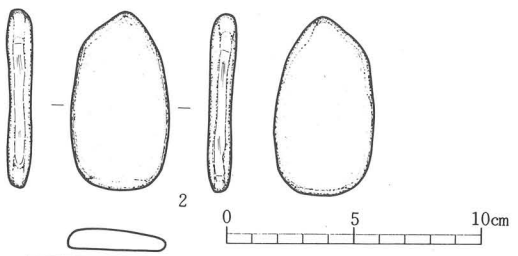
第703図　328号土壙出土土器（2）・土製円盤



No.	種　別	層　位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	石　錐	2　層	28.30×16.85×6.25	2.60	頁　岩	——	
2	スクレイパー	2　層	(30.40)×(33.30)×11.15	11.70	頁　岩	——	
3	石　核	1　層	14.70×27.30×10.65	3.10		——	焼けている

第704図　328号土壙出土石器（1）



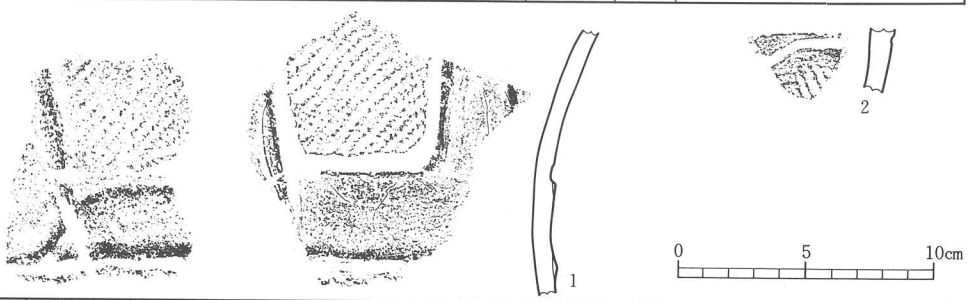


No.	種　別	層　位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	石　核	1　層	70.95×48.20×35.20	106.65	メノウ	——	接合資料
2	礫石器	堆積土	71×38×12	36.6		磨－両側面	

第705図　328号土壙出土石器(2)

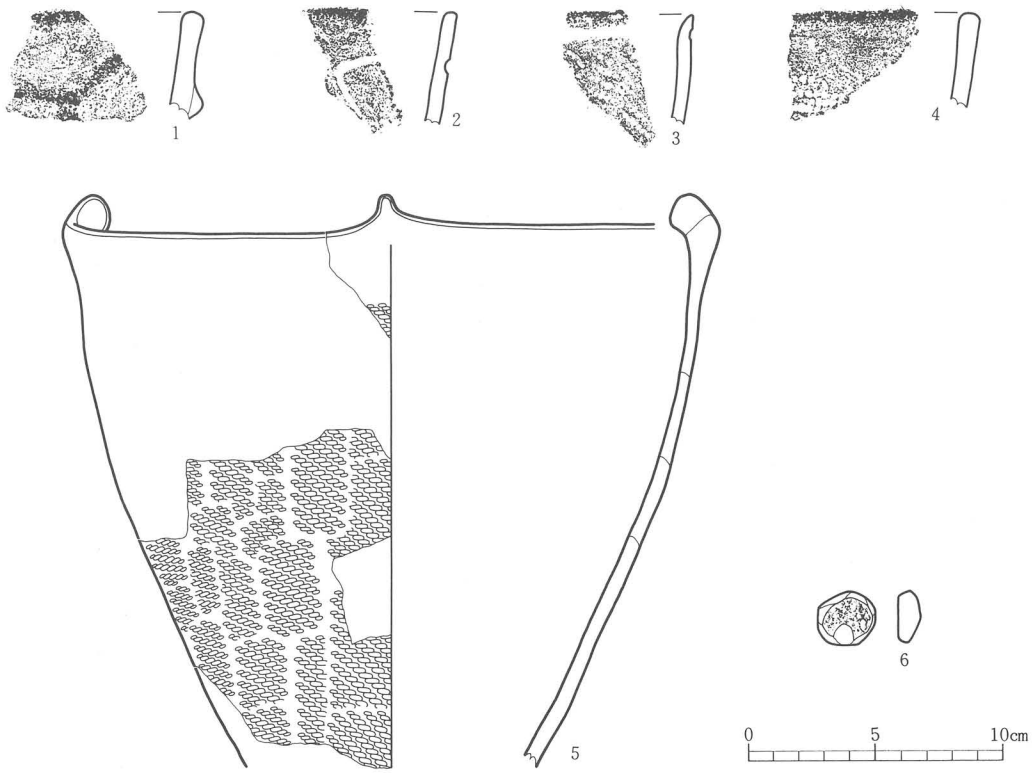
329号土壙

No.	地　区	確　認　面	平 面 形	規　模	壁　高	備　考
329	K－21	第4層上面	——	——	——	遺構の記録不明。



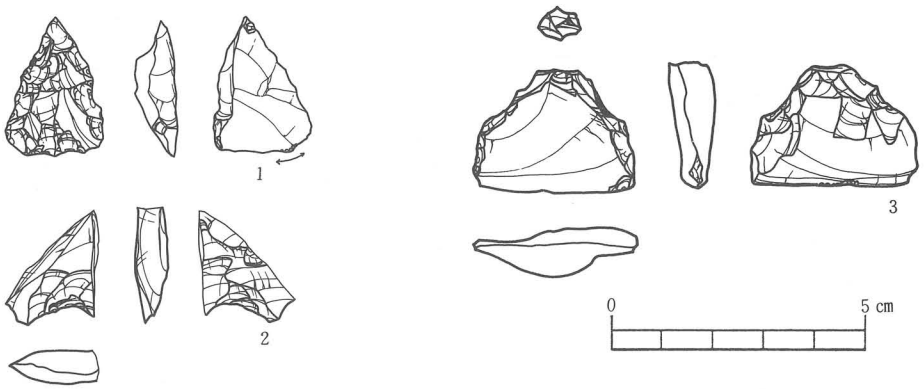
No.	層　位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	堆積土	深　鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	ナデ(横・斜)・磨キ(横)	X6or7	
2	堆積土	深　鉢	隆線文・L撚糸文	磨キ（横）		

第706図　329号土壙出土土器(1)



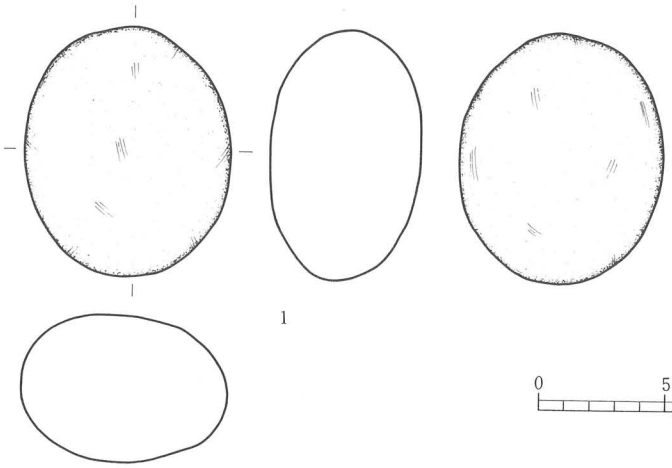
No.	層　位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	堆積土	深　鉢	隆線文	ナデ・磨キ（横）	X	
2	堆積土	深　鉢	沈線文	磨キ（横）	X	
3	堆積土	深　鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	B IV	
4	堆積土	深　鉢	LR縄文	磨キ（横）	B VI	
5	1　層	深　鉢	縄文LR・磨キ	磨キ（縦・横）	B VI	
6	堆積土	土製円盤				

第707図　329号土壙出土土器（2）・土製円盤



No.	種　別	層　位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	石鏃B	堆積土	27.50×19.40×7.45	2.85		――	
2	二次加工ある剝片	堆積土	(22.60)×(18.90)×(6.75)	2.20	頁　岩	――	
3	二次加工ある剝片	堆積土	24.60×32.25×10.10	5.55	頁　岩	――	

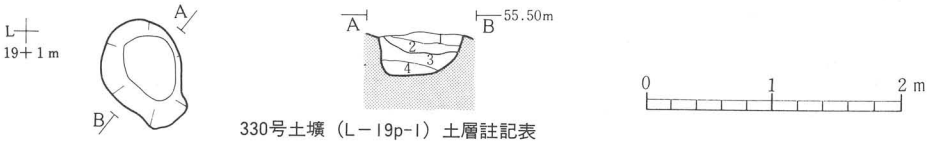
第708図　329号土壙出土石器（1）



No.	種別	層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	礫石器	堆積土	98×81×60	677.5		磨－全面	

第709図　329号土壙出土石器(2)

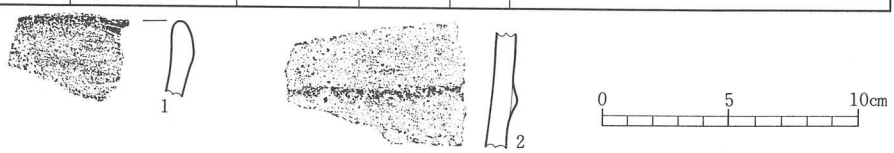
第710図　330号土壙



330号土壙（L－19p-1）土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	暗褐 10YR3/4	シルト	炭化物少量含む
	2	褐 10YR4/4	シルト	
2	3	褐 10YR4/6	粘土質シルト	炭化物、ローム粒含む
	4	暗褐 10YR3/3	シルト	炭化物、ローム粒含む

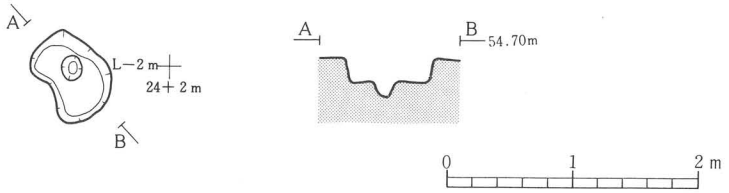
No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
330	K・L－19	第4層上面	不整楕円形	88×64	30	



No.	層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	堆積土	深鉢	磨キ	磨キ（横）	B Ⅶ	
2	堆積土	深鉢	隆線文	磨キ（横）		

第711図　330号土壙出土土器

第712図　332号土壙



No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
332	K－24	第4層上面	不整楕円形	69×58	21	12住居跡炉を切る。底面に19×16×19のピット有。

3．1号竪穴遺構（T－31竪穴遺構）

遺構の確認：調査区西隅S～V－29～31に位置し、第4層上面で確認された。

重　　複：遺構南西部及び北西部の2ケ所で風倒木痕に切られており、本遺構の方が古い。

平 面 形：南北に長い長楕円形を基調とした平面形であると推定される。

規　　模：風倒木痕に切られているため正確な規模は不明であるが、最大長は12.30m、最大幅8.0mである。

堆 積 土：9層に大別される。層No.3及び層No.5は粘土である。

**壁　　**：第4層、第5層からなり、残存高は20～50cmである。底面から緩やかな角度で立ち上がっているが急角度で立ち上がる部分もみられる。

底　　面：第5層を底面としている。底面の北半部はほぼ平坦であるが、小さい凸凹が多数みられる。北端部及び南半部には比較的大規模な凹みがみられる。特に中央部のやや南寄りの部分には、凹みが重なり合うように掘り込まれている。

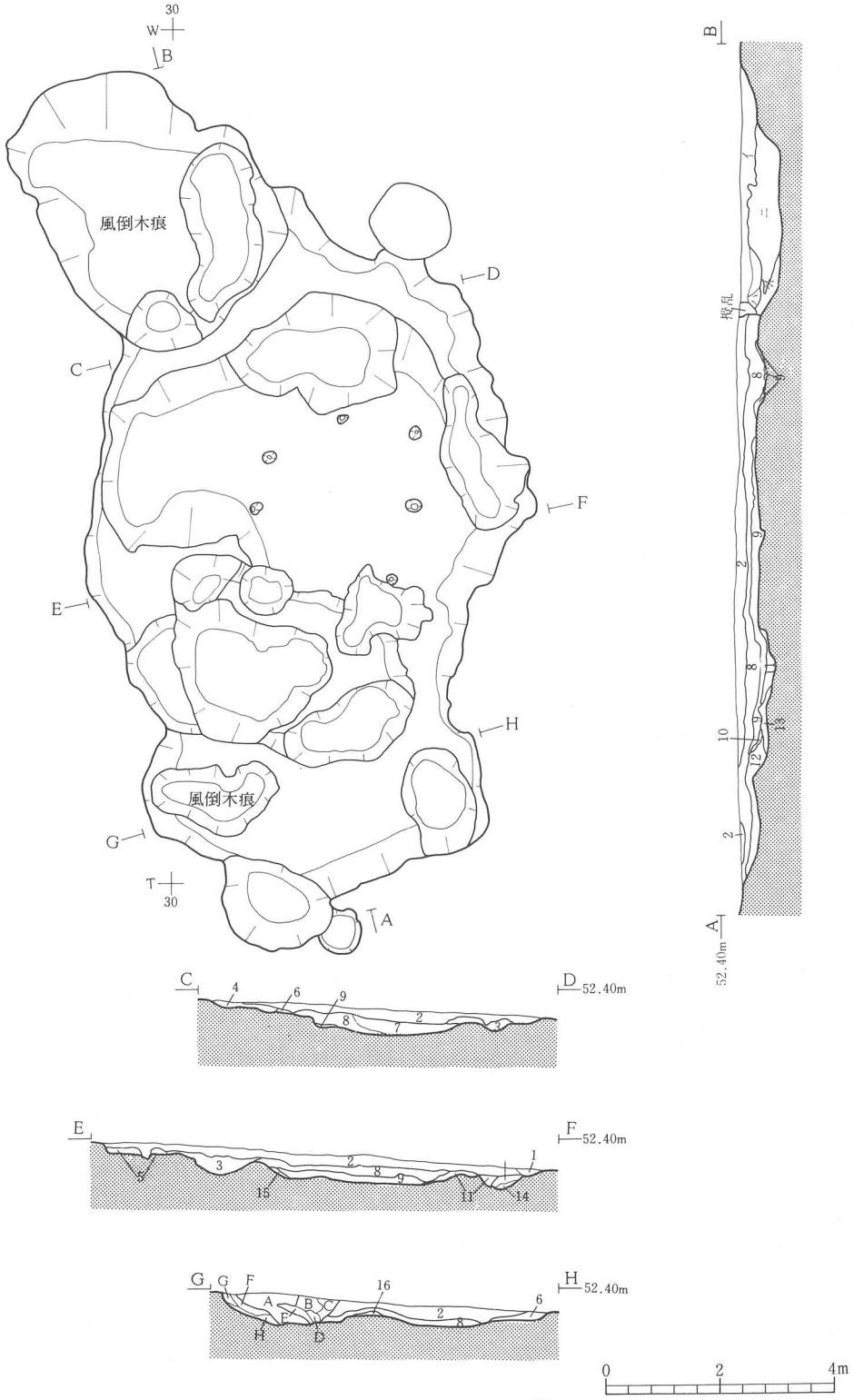
遺物出土状況：堆積土上部からの出土量が多いが、その出土状況に規則性はみられなかった。また、復元資料は、大別2層から出土しているものが多い。堆積土出土としたものは各層位毎に取り上げられておらず、各層に分けられないものを一括した。

44表　1号竪穴遺構出土土器破片集計表

分類＼出土位置			堆積土	1層	2層	底面	合計
口縁部	A	Ⅷ	1				1
		Ⅹ	1				1
		Ⅺ	7	2	1		10
	B	Ⅰ	3				3
		Ⅲ	1				1
		Ⅳ	2	1			3
		Ⅵ	4	1	2		7
		Ⅶ	16	1	1		18
	C		15	2	1		18
小計			50	7	5	0	62
体部	A	Ⅲ	1				1
		Ⅳ	3	2			5
		Ⅶ	1				1
		Ⅷ	2				2
		Ⅹ	16/9	4/1	1/2		21/12
		Ⅺ	17	3	1		21
		ⅩⅢ	3				3
		ⅩⅣ	7	1	2		10
	B		268	54	42	1	365
	C		185	55	25		265
小計			512	120	73	1	706
底部	Ⅱ		3				3
	Ⅳ		6	1			7
	Ⅴ		9	2	3		14
小計			18	3	3	0	24
合計			580	130	81	1	792

45表　1号竪穴遺構出土石器集計表

分類＼出土位置	堆積土	1層	2層	合計
二次加工のある剥片			1	1
微細剥離痕ある剥片	3	2		5
ピエス・エスキーユ	1			1
剥片（チップ含む）	7	1	3	11
小計	11	3	4	18
磨製石斧	1			1
小計	1			1
磨石			1	1
小計			1	1
珪化木	1			1
礫	33	8	1	42
焼礫	15	27	4	47
小計	49	35	5	89
合計	61	38	10	109



第713図　第１号竪穴遺構

第１号竪穴遺構（T－31遺構）土層註記表

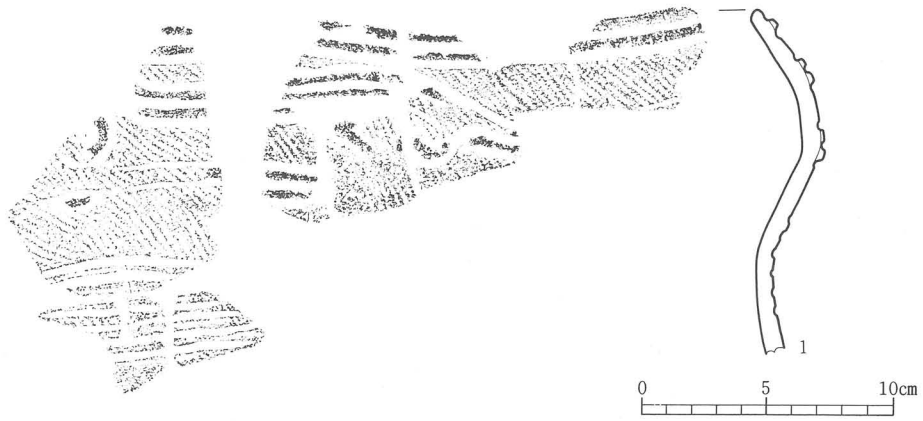
層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	褐 7.5YR4/3	シルト	若干の炭化物を含む
	2	黒褐 7.5YR3/2	シルト	若干の炭化物を含む
2	3	明褐 7.5YR5/6	粘土	
	4	橙 7.5YR6/6	シルト	
	5	明褐 7.5YR5/8	粘土	
3	6	褐 7.5YR4/4	シルト	
4	7	暗褐 7.5YR3/3	シルト	
	8	極暗褐 7.5YR2/3	シルト	
5	9	黒褐 7.5YR2/2	シルト	
6	10	暗褐 7.5YR3/4	シルト	
	11	黒褐 7.5YR3/2	シルト	
7	12	褐 7.5YR4/4	シルト	凝灰岩粒含む
8	13	暗褐 7.5YR3/3	シルト	
	14	暗褐 7.5YR3/4	シルト	
	15	褐 7.5YR4/3	シルト	
9	16	にぶい褐 7.5YR5/4	シルト	

風倒木痕（南側）土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	A	浅黄橙 7.5YR8/6	シルト質砂	
2	B	暗褐 7.5YR3/3	シルト	
	C	暗褐 7.5YR3/4	シルト	
	D	暗褐 7.5YR3/3	シルト	
	E	暗褐 7.5YR3/4	シルト	
3	F	明褐 7.5YR5/6	粘土	
	G	明褐 7.5YR5/6	粘土	暗褐色土を若干含む
	H	褐色 7.5YR4/6	粘土	

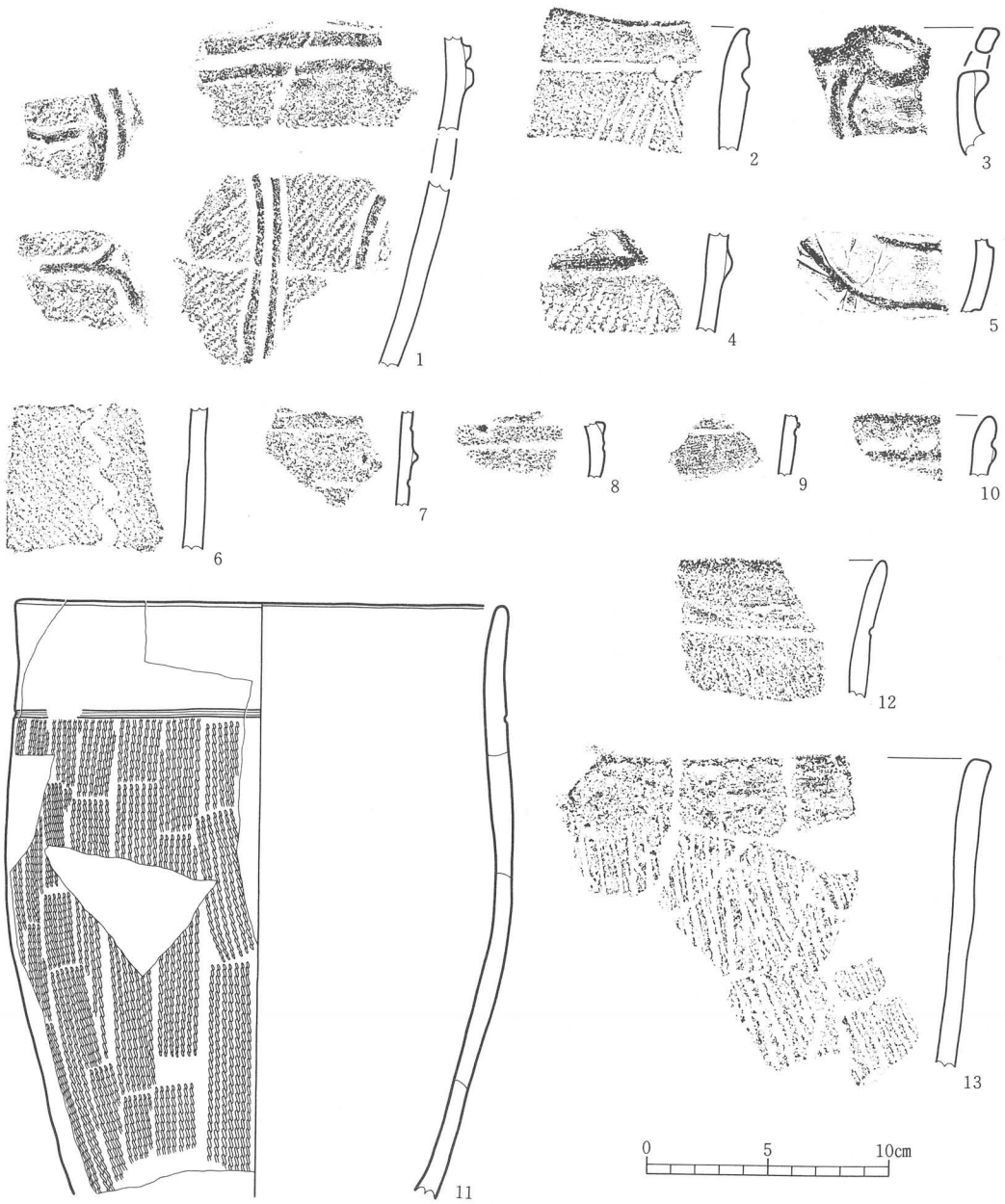
風倒木痕（北側）土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	イ	褐 7.5YR4/3	シルト	
	ロ	褐 7.5YR4/4	シルト	
	ハ	褐 7.5YR4/6	粘土質シルト	
2	ニ	明褐 7.5YR5/6	粘土	
3	ホ	暗褐 7.5YR3/3	シルト	



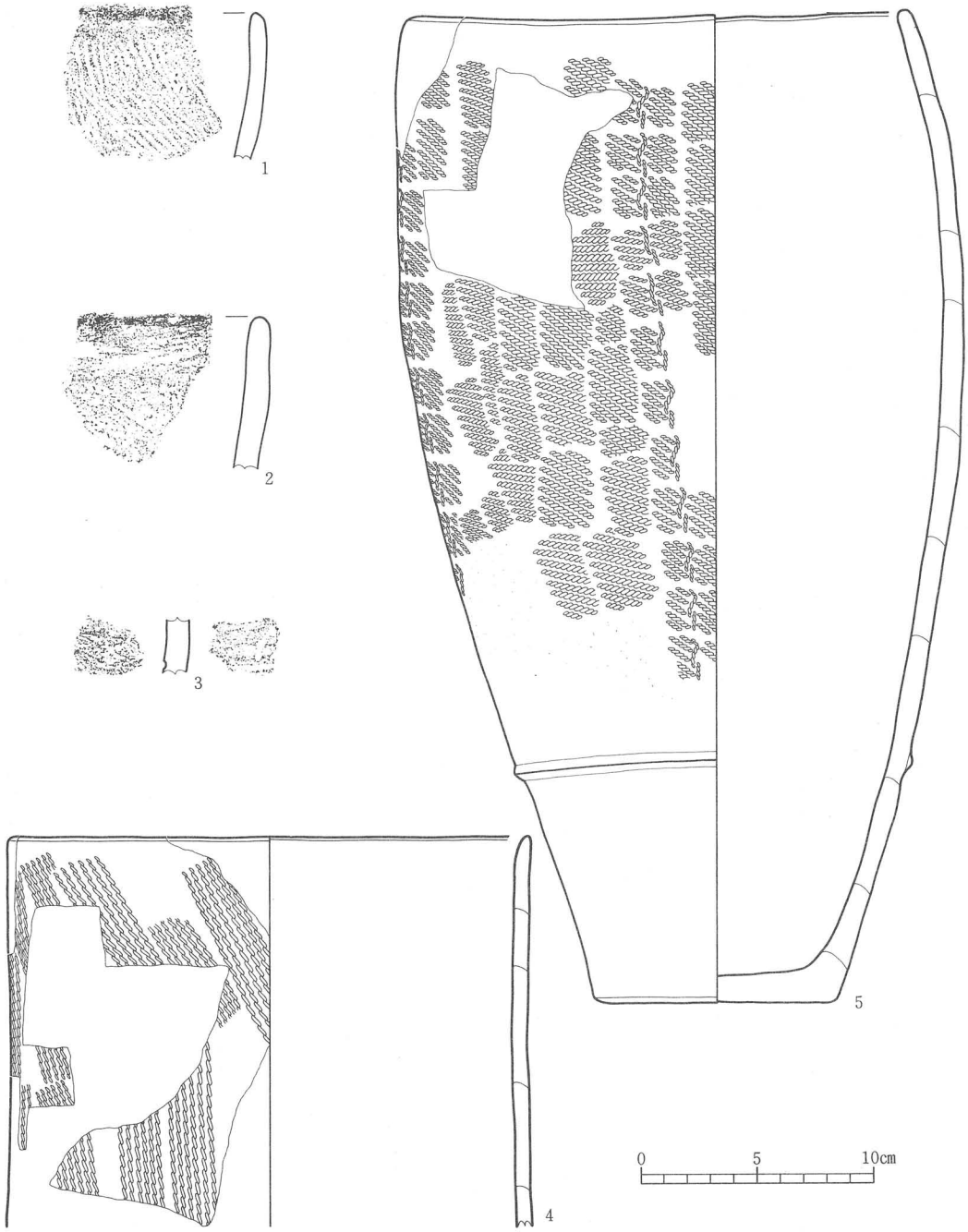
No.	層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	堆積土	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	ナデ・磨キ（横）	Ⅷ	

第714図　１号竪穴遺構出土土器（１）



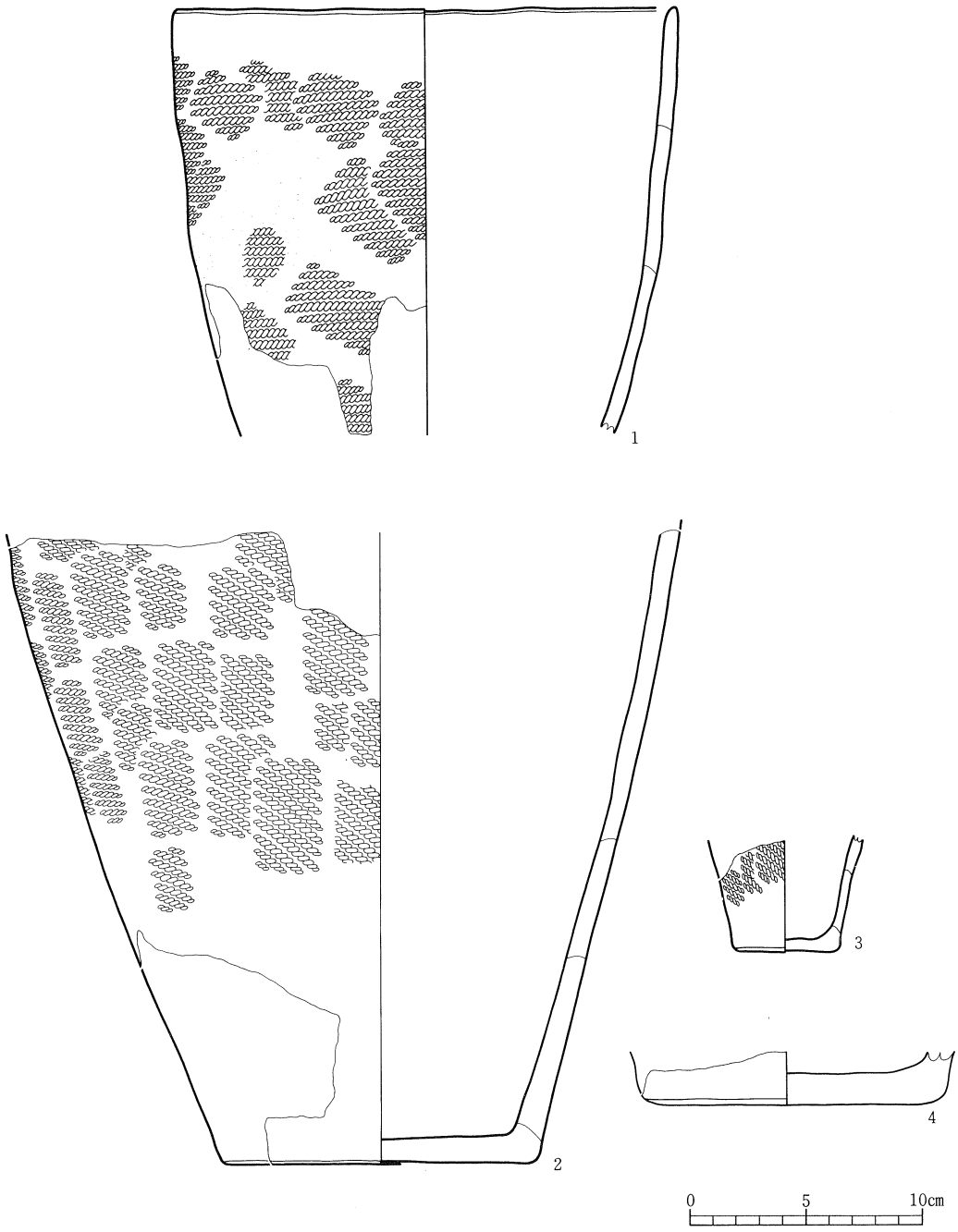
No.	層　位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	堆積土	深　鉢	隆線文・RL縄文	ナデ・磨キ（横）	Ⅷ	
2	1層	深　鉢	沈線文・刺突文	磨キ（横・斜）	XI	
3	堆積土	深　鉢	隆線文	磨キ（横）	XI	
4	堆積土	深　鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横・斜）		
5	堆積土	深　鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横）	XI	
6	堆積土	深　鉢	綾絡文・不明縄文	磨キ（斜）	XI	
7	堆積土	深　鉢	貼瘤・沈線文	磨キ（横）	XIII	
8	堆積土	深　鉢	貼瘤・沈線文	磨キ（横）	XIII	
9	堆積土	深　鉢	貼瘤・沈線文	磨キ（横）	X III	
10	堆積土	深　鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	B III	
11	2層	深　鉢	沈線文・R撚糸文・磨キ	磨キ（横）	B IV	
12	堆積土	深　鉢	沈線文・不明縄文	不　明	B IV	
13	堆積土	深　鉢	R撚糸文	磨キ（横）	B VI	

第715図　1号竪穴遺構出土土器（2）



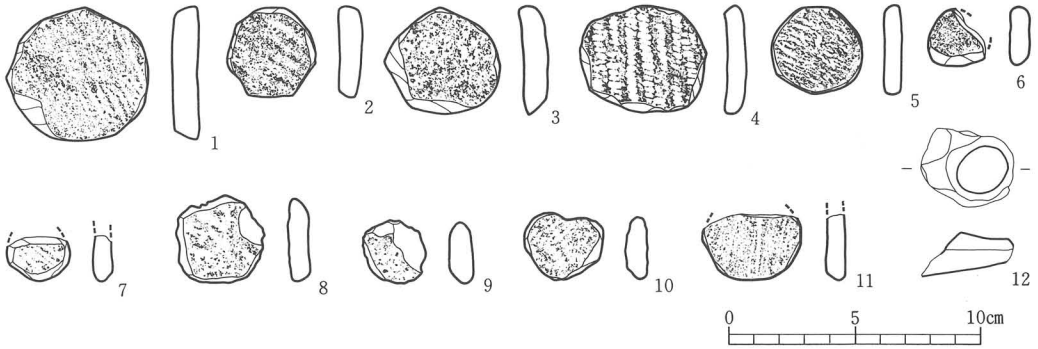
No.	層　位	器　形	外　面	内　面	底　部	分　類	備　考
1	堆積土	深　鉢	R撚糸文	ナデ・磨キ（横）		B VI	
2	1層	深　鉢	R縄文	ナデ・磨キ（横）		B VI	
3	堆積土	深　鉢	ナ　デ	沈線文・磨キ（横）			
4	堆積土	深　鉢	R撚糸文	マメツ		B VI	
5	2層	深　鉢	隆文線LR縄文・磨キ	磨　キ	磨　キ	B VI	

第716図　1号竪穴遺構出土土器（3）



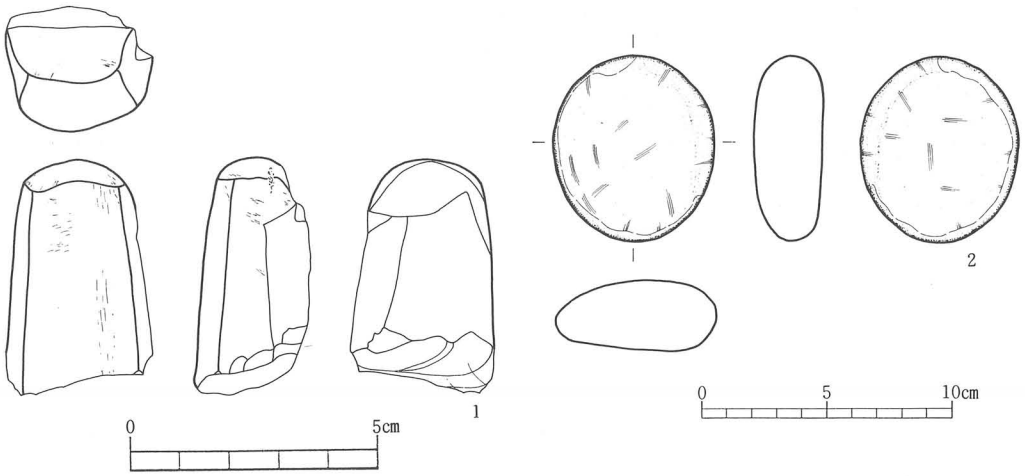
No.	層　位	器　形	外　面	内　面	底　部	分　類	備　考
1	2層上面	深　鉢	LR縄文・磨キ	磨キ（横）		B VI	
2	底　面	深　鉢	LR縄文・削り	マメツ	網代痕		
3	堆積土	ミニチュア	RL縄文	ナデ（横）	ナ　デ		
4	堆積土	深　鉢	ナ　デ	磨キ（横）	網代痕		

第717図　1号竪穴遺構出土土器（4）



No.	層位	種類	No.	層位	種類	No.	層位	種類	No.	層位	種類
1	堆積土	土製円盤	2	堆積土	土製円盤	3	堆積土	土製円盤	4	堆積土	土製円盤
5	堆積土	土製円盤	6	堆積土	土製円盤	7	堆積土	土製円盤	8	堆積土	土製円盤
9	堆積土	土製円盤	10	堆積土	土製円盤	11	堆積土	土製円盤	12	1層	蓋

第718図　1号竪穴遺構出土土製品



No.	種別	層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	磨製石斧	堆積土	(48.85)×(29.45)×(22.90)	47.0			
2	礫石器	2層	74×63×28	199.0		磨－全面	

第719図　1号竪穴遺構出土石器

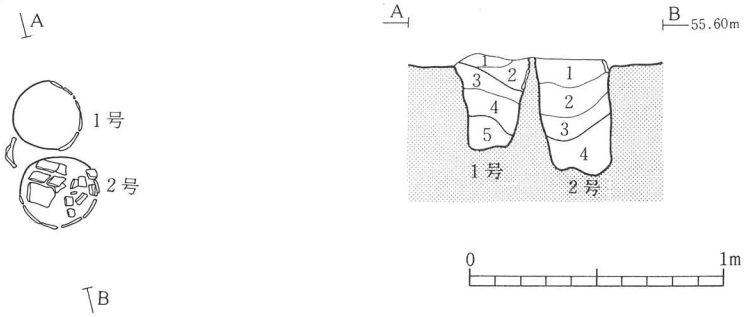
4．埋設土器

調査区内に単独で埋設されている土器が５基検出されている。

１号・２号埋設土器（R－17a、b 埋設土器）

調査区西側R－17に位置し、第３層上面で確認された。しかし、調査時の不備によりR－17内の正確な位置と方向は明確にできなかった。１号、２号の埋設土器は、他の埋設土器と異なり土器の全周は確認されなかったが、土器に沿って円形に土色の違いが認められたため、埋設土器として取扱った。１号埋設土器は、径約28cm の深鉢形土器の体部であり、およそ1/2残存している。口縁部及び底部を欠いている。掘り方は径約30cm、深さ35cm であり、掘り方上部に土器を設置している。２号埋設土器は、径約31cm の深鉢形土器の体部であり、およそ3/4残存して掘り方上部に土器を設置している。２号埋設土器では、破損した体部片が上面にかぶっているという状態であった。１号、２号埋設土器ともに焼土や焼面はみられず、内部にも遺構の性格を表すような特徴的なものはみられなかった。しかし、２個の土器は極めて近接しており、同時期に機能したものであると思われる。

１・２号埋設土器



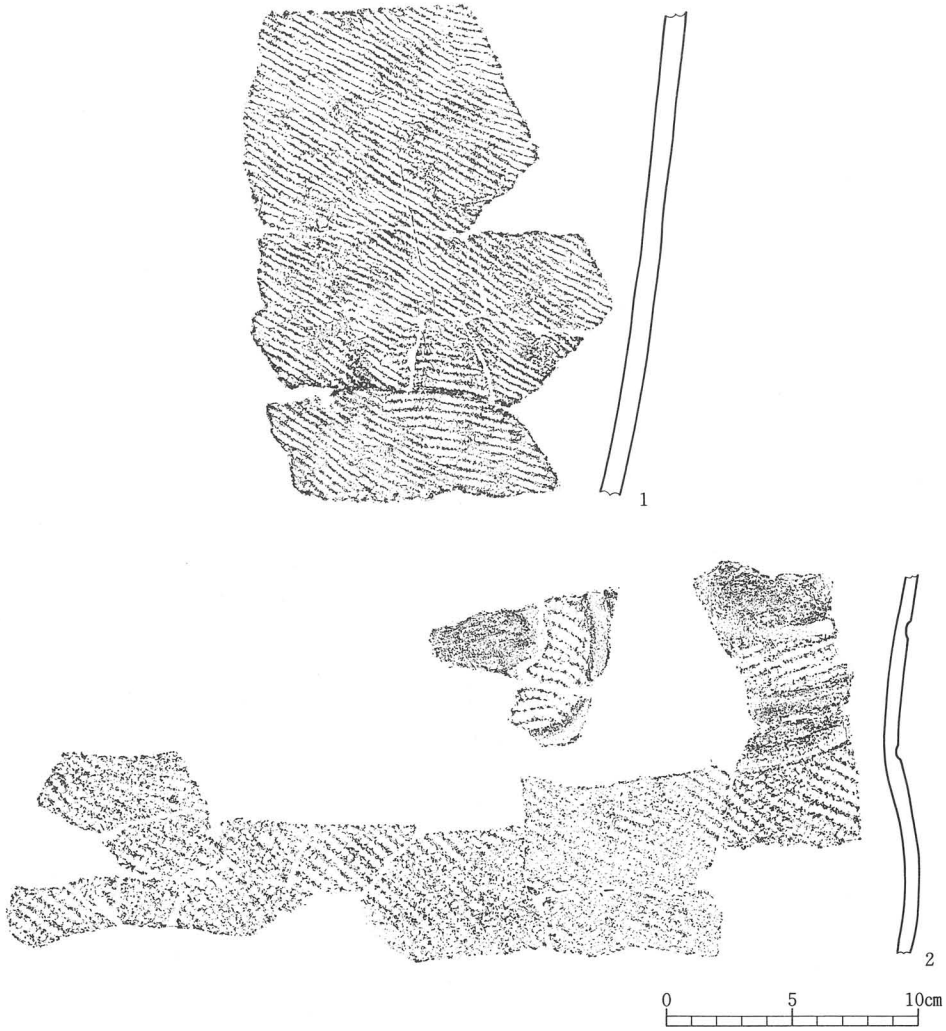
第１号埋設土器　土層註記表

層位	層No.	土　　色	土　性	備　　考
1	1	褐　　10YR4/4	シルト	若干のローム粒含む
	2	にぶい黄褐　10YR4/3	シルト	
2	3	黒　褐　10YR2/2	シルト	少量のスコリア含む
	4	暗　褐　10YR3/4	シルト	少量のスコリア含む
3	5	暗　褐　7.5YR3/4	粘土質シルト	ロームブロック含む

第２号埋設土器　土層註記表

層位	層No.	土　　色	土　性	備　　考
1	1	暗　褐　7.5YR3/3	シルト	少量のスコリア含む
	2	褐　　7.5YR4/4	シルト	少量のスコリア、炭化物含む
	3	暗　褐　7.5YR3/4	シルト	少量のスコリア、炭化物含む
2	4	褐　　7.5YR4/3	粘土質シルト	ロームブロック含む

第720図　１・２号埋設土器



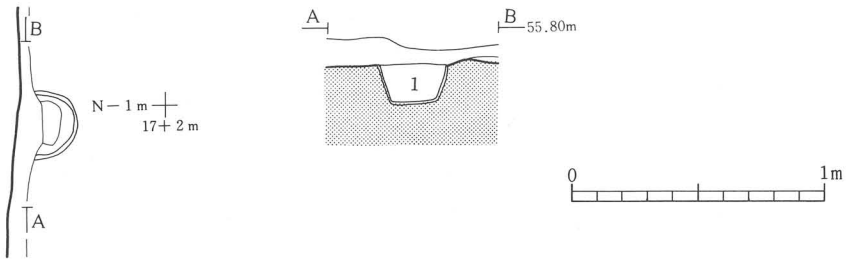
No.	層　位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	埋設土器a	深　鉢	L縄文	磨キ（横）		
2	埋設土器b	深　鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	X	

第721図　1・2号埋設土器

3号埋設土器（M－17埋設土器）

調査区西端M－17に位置し、東西区境に残した畦にかかっており、東半部のみが検出された。確認面は第4層上面である。土器は深鉢形で底部から体部にかけての部分であり、正立の状態で埋設されている。上端径約27cm、下端（底部内面）径約17cmと推定され、内面の深さ14cmで埋設土器、構築方法については、埋戻し保存のため断ち割り精査、土器の取り上げを行っておらず不明である。上面で掘り方プランは確認されていない。

第722図　3号埋設土器

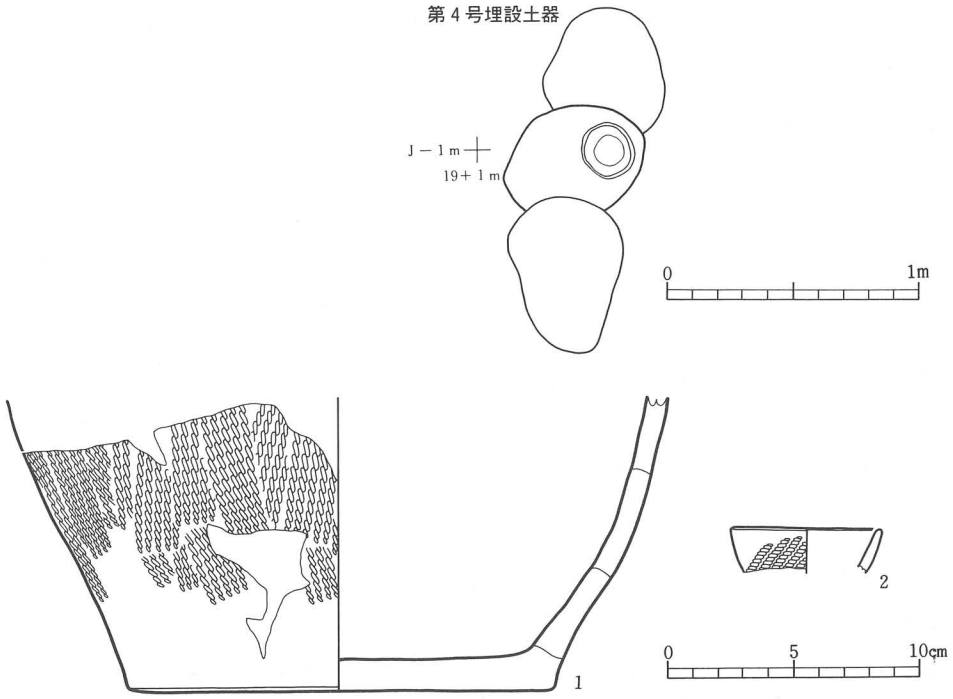


第3号　埋設土器　土層註記表

層No.	土色	土性	備考
1	にぶい黄褐　10YR4/3	粘土質シルト	若干のローム粒含む

4号埋設土器（Ⅰ－19埋設土器）

調査区南西部Ⅰ－19に位置し、第4層上面で確認された。309号土壙を切っており、本遺構の方が新しい。また、後世のピットに切られている。土器は鉢形土器の底部から体部にかけての部分であり、正立の状態で埋設されている。上端径約25cm、下端（底部内面）径約14cm、内面の深さ10cmである。掘り方の規模は長軸56cm、短軸40～50cmの楕円形である。構築方法については、掘り方を断ち割り、土器を取り上げた際の記録が確認できず、掘り方の断面、堆積土の状況等の詳細は不明である。



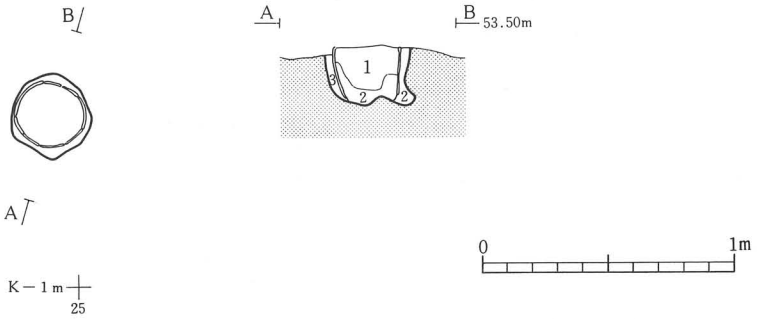
No.	層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	埋設土器2層	深鉢	R撚糸文	マメツ	マメツ		
2	2層	ミニチュア	RL縄文	マメツ			

第723図　第4号埋設土器

5号埋設土器（J－24埋設土器）

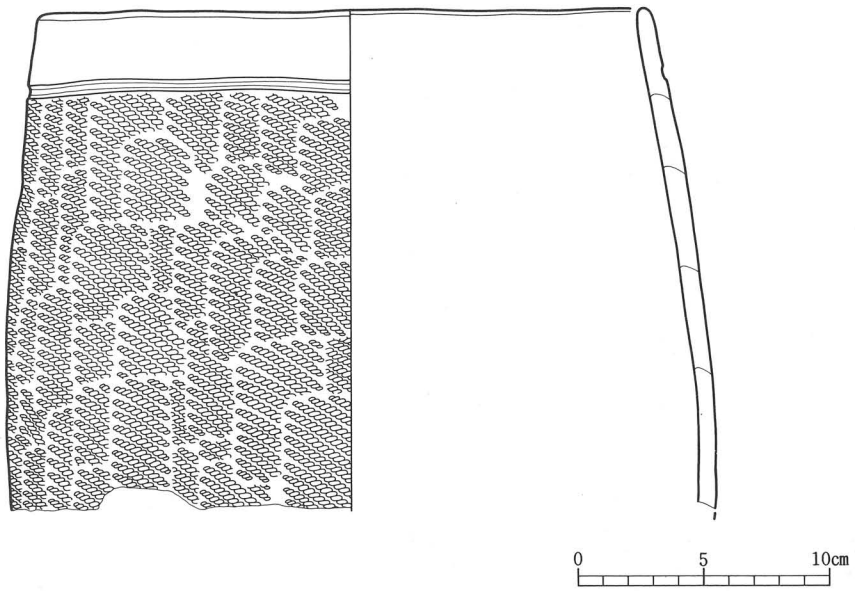
東区南東部J－24・25に位置し、第4層上面で確認された。土器は深鉢形で口縁部を下にして倒立の状態で埋設されている。上端径約28cm、下端（口縁）径24cm、深さ24cmである。構築方法は、径約34cm、深さ23cmのほぼ円形の掘り方を掘り、土器を倒立位に設置し、掘り方内部に土を詰めるという方法で構築している。埋設土器内部には、上部に少量の炭化物、焼土粒が含まれており、下部には、炭化物、砂粒が含まれている。

5号埋設土器



第5号　埋設土器　土層註記表

層No.	土色	土性	備考
1	褐　色　10YR4/6	シルト	少量の炭化物、焼土を含む
2	褐　色　7.5YR4/6	砂質シルト	若干の炭化物、砂粒含む
3	黄褐色　10YR5/6	シルト	



No.	層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	埋設土器	深鉢	沈線文・LR縄文・磨キ	磨　キ	B IV	

第724図　5号埋設土器

5．遺物包含層

調査区内で2ケ所の遺物包含層が確認された。調査区西側のやや北寄りに分布するものと、調査区北側の谷部に分布するものである。

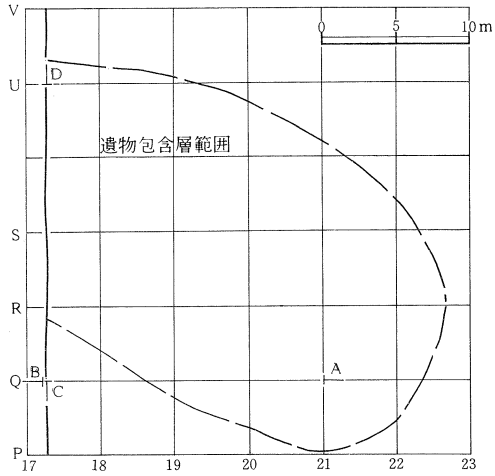
東区西側遺物包含層

位置・範囲：東区西側包含層は、調査区西側やや北寄りのP～U－17～22の第2層を中心として形成されている。この包含層は、西側の調査区外へ広がっていると考えられ、全体の規模は不明である。

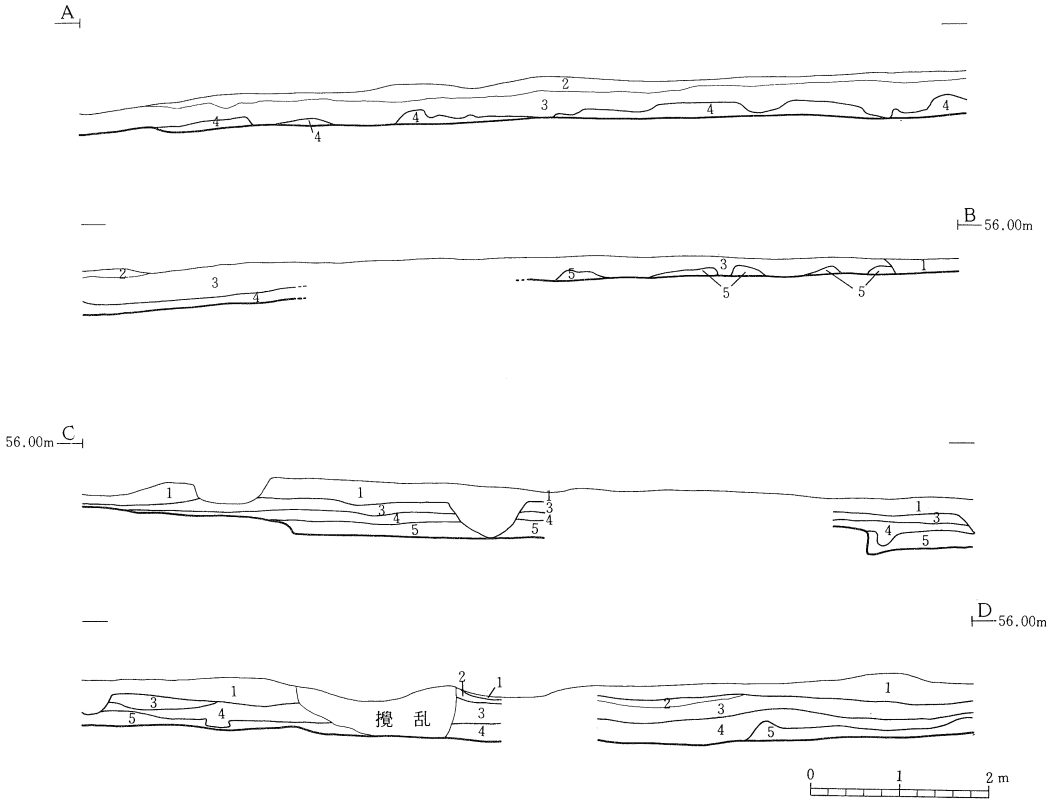
堆積状況：この地区の土層の堆積状況は、1層（表土）＝基本層第1層、2a層（遺物包含層）＝基本層第2層上部、2b層（遺物包含層）＝基本層第2層下部、3層（遺物包含層）＝基本層第3層、4層（地山、ローム漸移層）＝基本層第4層、5層（地山、ローム層）＝基本層第5層である。2a層のみがP－20・21からT・U－17にかけて分布する層であり、他の層は調査区北半部には基本的に分布している層である。他地区の第2層、第3層と明確に区別することができなかったが、遺物が多量にまとまって出土し、しかも土器には復元可能なものや大破片が多いことなど、他の地区にはない出土状況が認められたことから遺物包含層として取り扱った。

遺物の出土状況：遺物が特に集中して出土しているのは、R～T－18からP～R－21にまたがる範囲である。この範囲から外れた部分では、離れるに従って徐々に遺物の出土量は少なくなっている。遺物の出土量は2b層が最も多く、2a層、3層の出土量は少なくなっている。特に3層では層の上部に多く、下部では少ないという傾向がある。多くの遺物は各層中から不規則に出土しているが、中には、2b層、3層の層理面に貼り付いている状況ものも認められた。遺物は、縄文中期後葉から後期中葉のものが出土している。各時期の遺物は層位的に明確に分離して出土する状況はみられず、混在するという状況であった。包含層上部では縄文後期前葉から中期末葉の遺物が混在し、下部では中期後葉から末葉の遺物が混在しているという部分もみられるが、全体的傾向がどうかは不明である。

調査時、5mグリッド設定以前に20mのグリッドを設定して調査していたため、遺物包含層についても、20mグリッドで層位的には2a層、2b層を分けずに2層あるいは黒色土として一括して取り上げられたものが大部分であり、整理時に明確に5mグリッド、あるいは2a層、2b層の出土遺物に分離することができなかった。



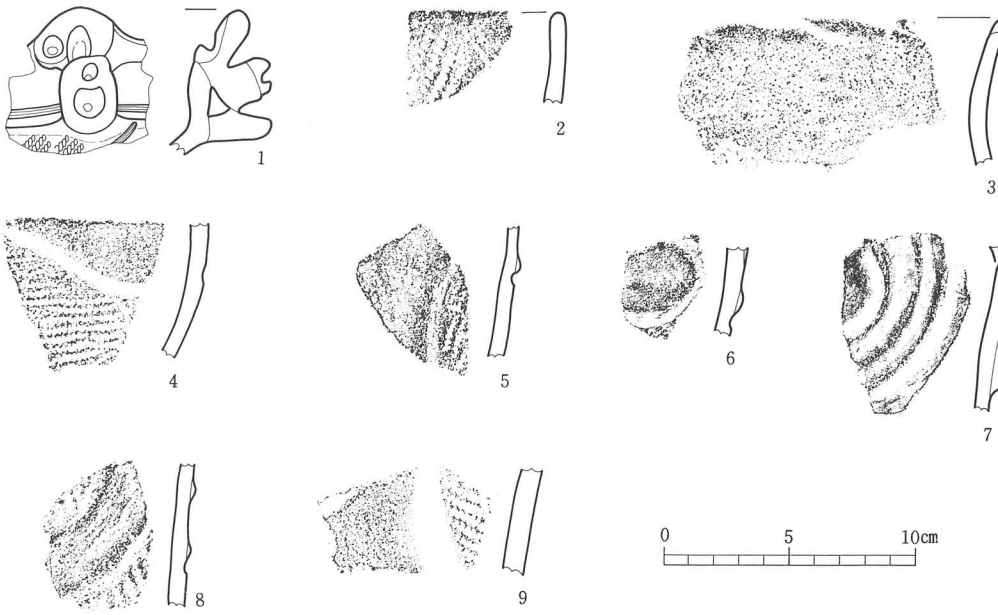
E－14＝P～S－17～20
E－15＝P～S－21～22
E－22＝T～U－17～20
E－23＝T～U－21～22



東区西側遺物包含層土層註記表

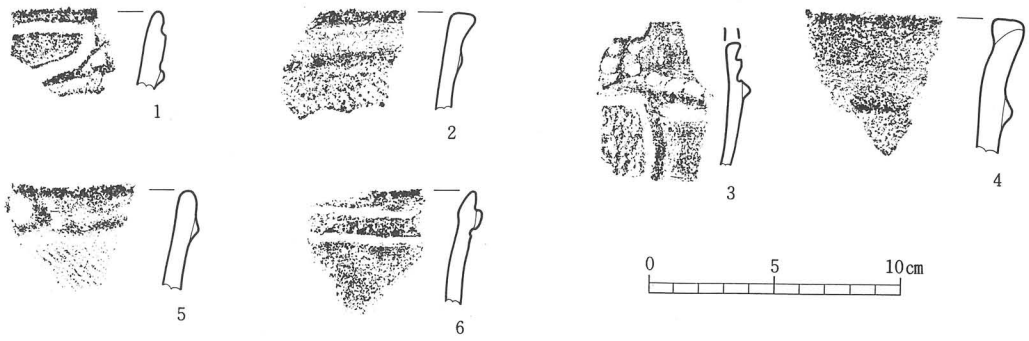
層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	黒褐色　7.5YR2/2	シルト	
2	2	黒褐色　10YR2/3	シルト	多量の風化粗砂、少量の大礫含む　2a 層
	3	黒褐色　7.5YR2/2	粘土質シルト	微量の風化礫含む　2b 層
3	4	褐　色　10YR4/4	シルト	層No. 3 の小ブロック含む
4	5	黄褐色　10YR5/8	粘土質シルト	

第725図　東区西側遺物包含層



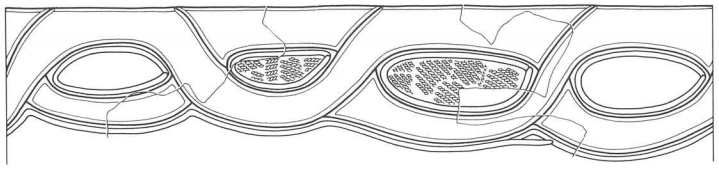
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	P−19・2層上面	——	隆線文・沈線文・刺突文・LR縄文・磨キ	磨キ（横）	XI	
2	P−19・2層上面	深鉢	LR縄文	磨キ（横）	BVI	
3	P−19・2層上面	深鉢	磨キ	磨キ（横）	BVII	
4	P−19・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	ナデ・磨キ（横・斜）	X	
5	P−19・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
6	P−19・2層	深鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横）	X	
7	P−19・2層	深鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横）	X	
8	P−19・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
9	P−19・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	X	

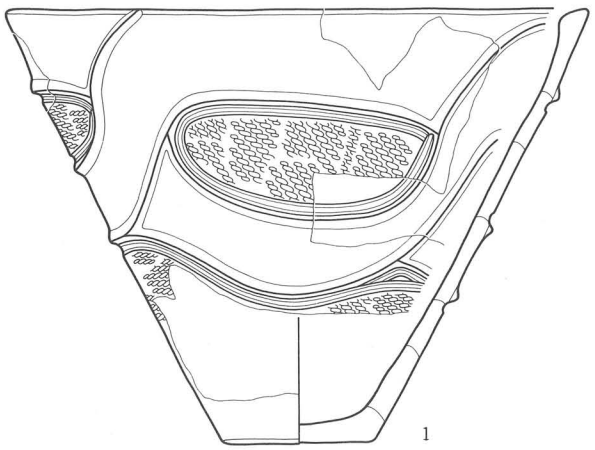
第726図　P−19区　出土土器

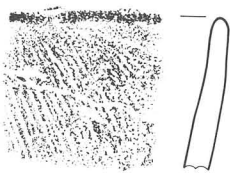


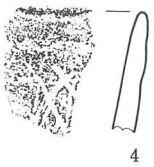
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	P−20・2層	深鉢	隆線文・刺突文・L撚糸文	磨キ（横）	XI	
2	P−20・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文	磨キ（横）	BI	
3	P−20・2層	深鉢	隆線文・L縄文	磨キ（横）	X9	
4	P−20・2層	深鉢	隆線文	ナデ・磨キ（斜）	BI	
5	P−20・2層	深鉢	隆線文	磨キ（斜）	BI	
6	P−20・2層	深鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横）	BI	

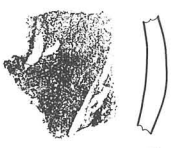
第727図　P−20区　出土土器（1）

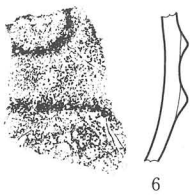


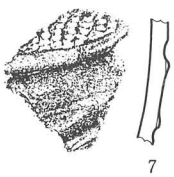


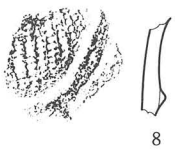


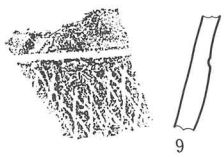






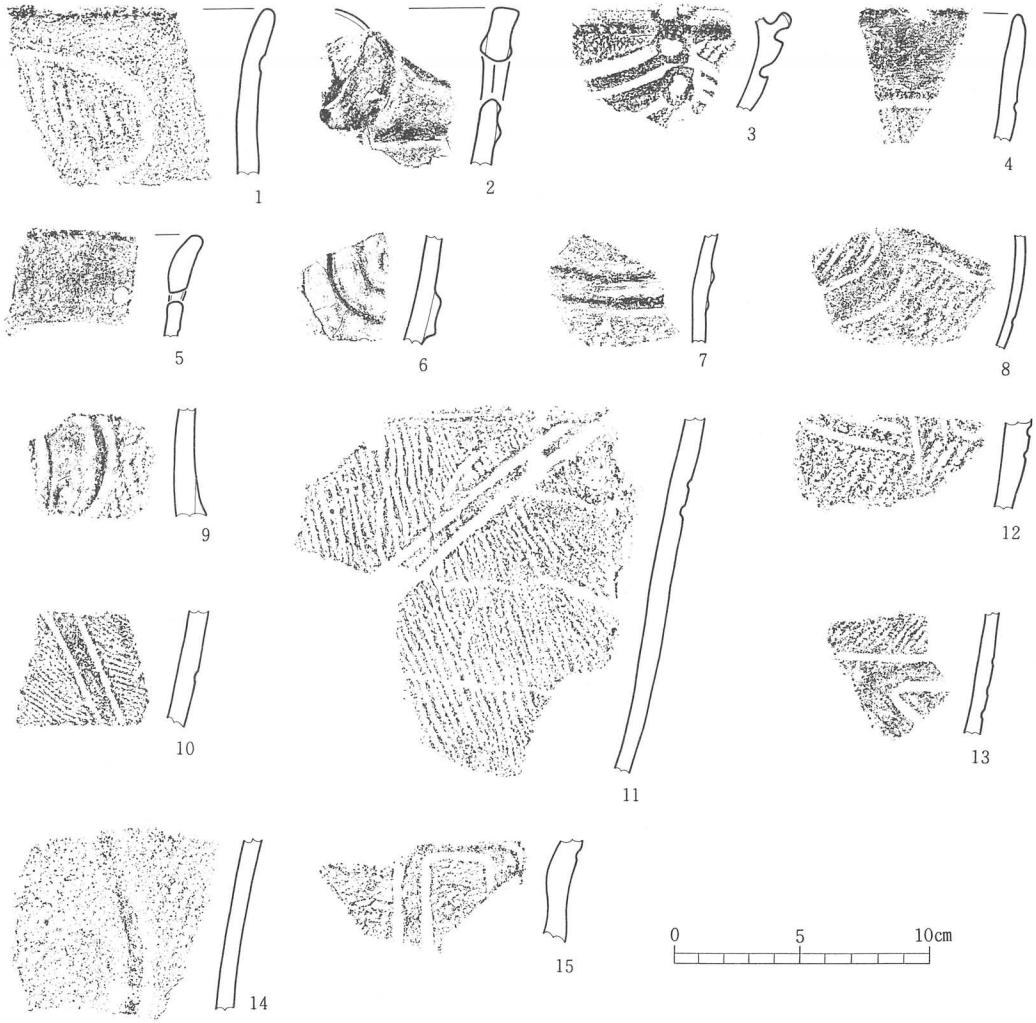






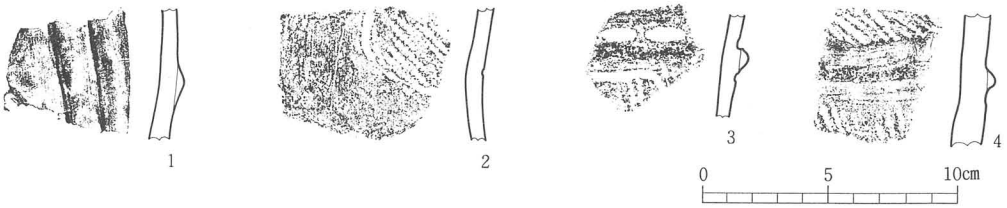
No.	地区・層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	P－20・2層	鉢	隆線文・沈線文・LR縄文・磨キ	磨キ（横）	マメツ	X5a	
2	P－20・2層	深鉢	隆線文	磨キ（斜）		BIII	
3	P－20・2層	深鉢	R撚糸文	磨キ（横）		BVI	
4	P－20・2層	深鉢	沈線文	ナデ・磨キ（横）		X	
5	P－20・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）		X	
6	P－20・2層	深鉢	隆線文	磨キ（横）		X	
7	P－20・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）		X	
8	P－20・2層	深鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横）		X	
9	P－20・2層	深鉢	沈線文	磨キ（横）		X	
10	P－20・2層	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）		X	

第728図　P－20区　出土土器（2）



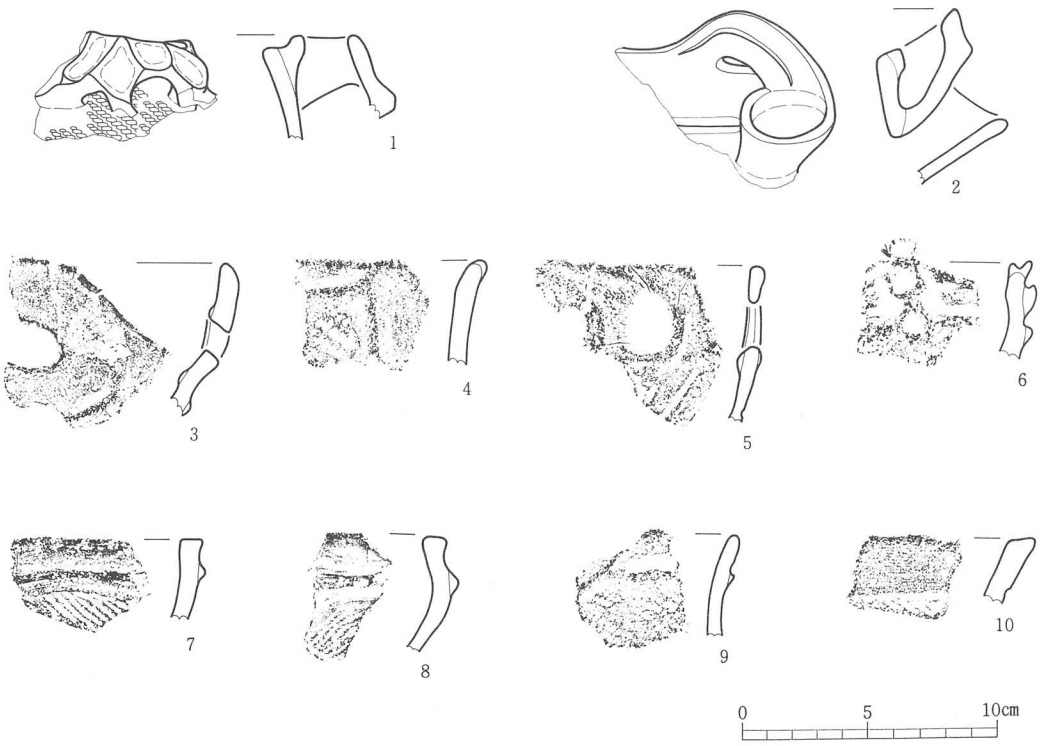
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	P−20・2層	深鉢	沈線文・不明縄文	磨キ（横）	X1	
2	P−20・2層	深鉢	隆線文・沈線文	隆線文・磨キ（横）	X	
3	P−20・2層	深鉢	沈線文・貼付文・LR縄文	磨キ（横）	XI	
4	P−20・2層	深鉢	沈線文	磨キ（横）	BIV	
5	P−20・2層	深鉢	穿孔	磨キ（横）	BIV	
6	P−20・2層	深鉢	隆線文	磨キ（斜）	X	
7	P−20・2層	深鉢	隆線文・RL縄文	ナデ・磨キ（横）	X	
8	P−20・2層	深鉢	沈線文・R縄文	磨キ（斜）	X	
9	P−20・2層	深鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横・斜）	XII	
10	P−20・2層	深鉢	沈線文・R撚糸文	ナデ（斜）	XII	
11	P−20・2層	深鉢	沈線文・R撚糸文	磨キ（横・縦）	XI	
12	P−20・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	XI	
13	P−20・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	XI	
14	P−20・2層	深鉢	沈線文・不明縄文	ナデ（斜）・磨キ（横）	XI	
15	P−20・2層	深鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横・斜）	XI	

第729図　P−20区　出土土器（3）



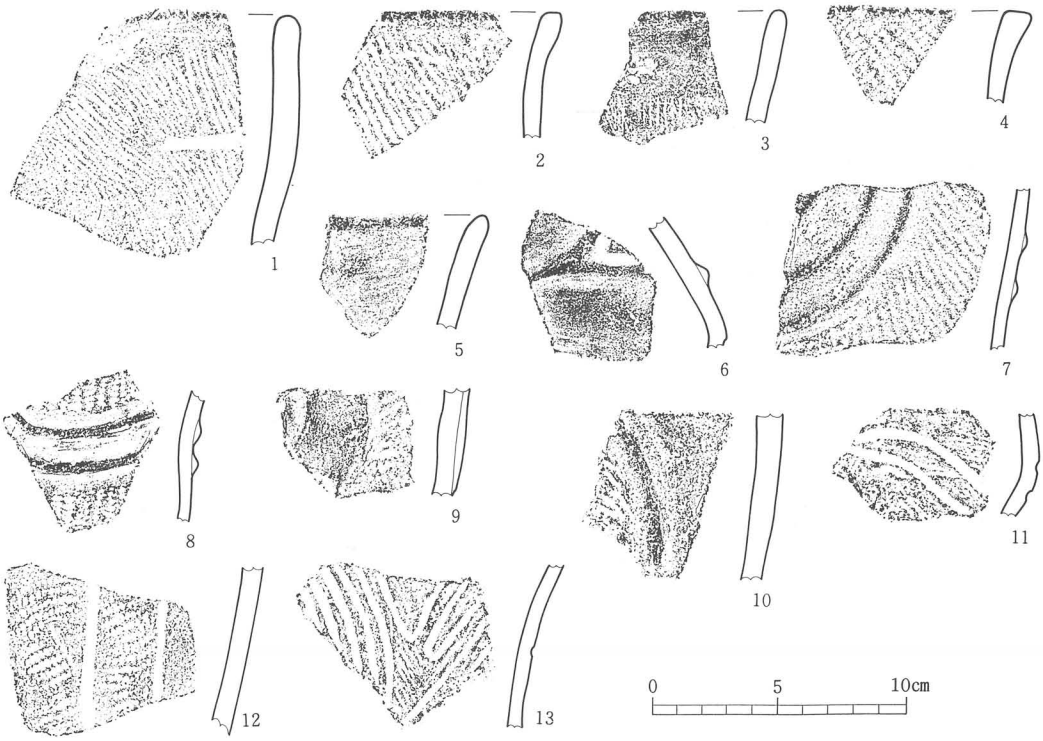
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	P－20・2層	深鉢	隆線文	磨キ（横）	X	
2	P－20・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横・縦）	X	
3	P－20・2層	深鉢	隆線文・刺突文・LR縄文	磨キ（斜）	X	
4	P－20・2層	深鉢	隆線文・RL縄文	ナデ（斜）・磨キ（横）	X	

第730図　P－20区　出土土器（4）



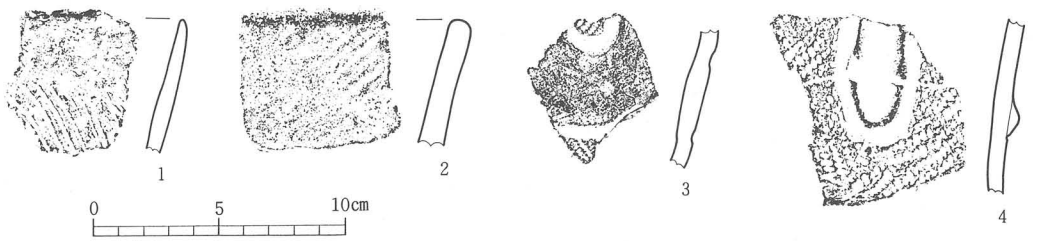
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	P－21・2層	——	隆線文・LR縄文	ナデ（縦）	VIII	
2	P－21・2層	——（注口）	隆線文・磨キ	ナデ（横）	XI	
3	P－21・2層	深鉢	隆線文	隆線文・磨キ（横）	X	
4	P－21・2層	深鉢	隆線文・LR縄文	ナデ（斜）・磨キ（横）	X	
5	P－21・2層	深鉢	沈線文	隆線文・磨キ（縦）	XI	
6	P－21・2層	深鉢	沈線文・貼付文	ナデ・磨キ（横）	XI	
7	P－21・2層	深鉢	隆線文・RL縄文	ナデ・磨キ（横）	BI	
8	P－21・2層	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	ナデ・磨キ（横）	BII	
9	P－21・2層	深鉢	隆線文・刺突文・LR縄文	磨キ（横）	BII	
10	P－21・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（斜）	BIV	

第731図　P－21区　出土土器（1）



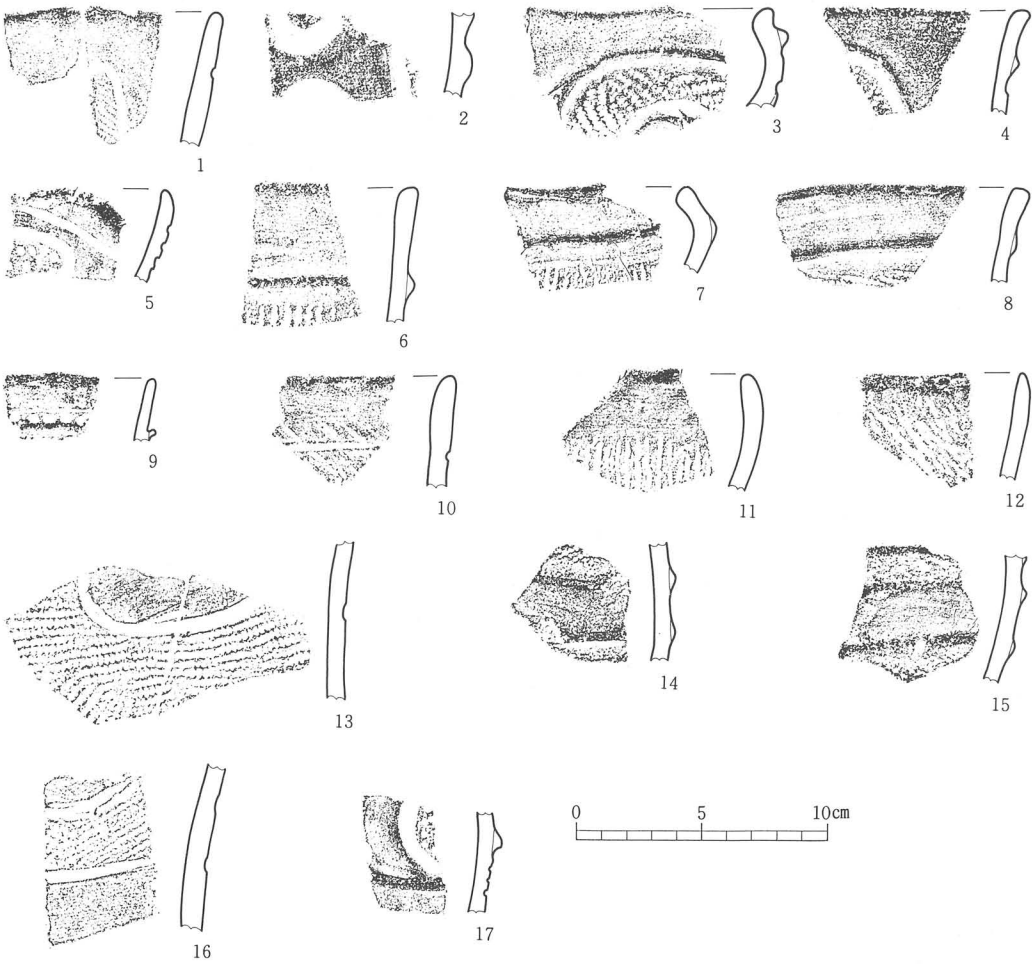
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	P－21・2層	深鉢	沈線文・R撚糸文	磨キ（斜）	BVI	
2	P－21・2層	深鉢	R撚糸文	磨キ（横）	BVI	
3	P－21・2層	深鉢	R撚糸文	磨キ（縦）	BVI	
4	P－21・2層	深鉢	RL縄文	磨キ（横）	BVI	
5	P－21・2層	深鉢	削リ・磨キ	磨キ（横）	BVII	
6	P－21・2層	深鉢	隆線文・沈線文	ナデ（横）	X	
7	P－21・2層	深鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
8	P－21・2層	深鉢	隆線文・LR縄文	ナデ・磨キ（横・斜）	X	
9	P－21・2層	深鉢	隆線文・LR縄文	ナデ・磨キ（横）	X	
10	P－21・2層	深鉢	隆線文・LR縄文	ナデ（斜）・磨キ（横）	XI	
11	P－21・2層	深鉢	沈線文・R縄文	磨キ（横）	XI	
12	P－21・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	XI	
13	P－21・2層	深鉢	沈線文・R縄文	磨キ（横）	XI 6	

第732図　P－21区　出土土器（2）



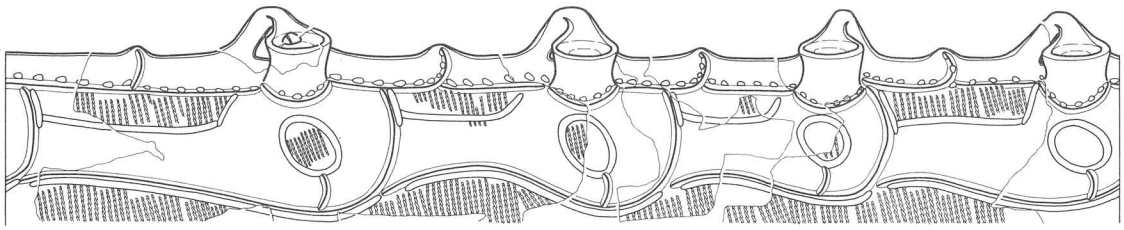
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	P－22・2層	深鉢	R撚糸文	磨キ（横）	BVI	
2	P－22・2層	深鉢	LR縄文	ナデ・磨キ（斜）	BVI	
3	P－22・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	沈線文・ナデ（斜）	X	
4	P－22・2層	深鉢	LR縄文	磨キ（横）	X	

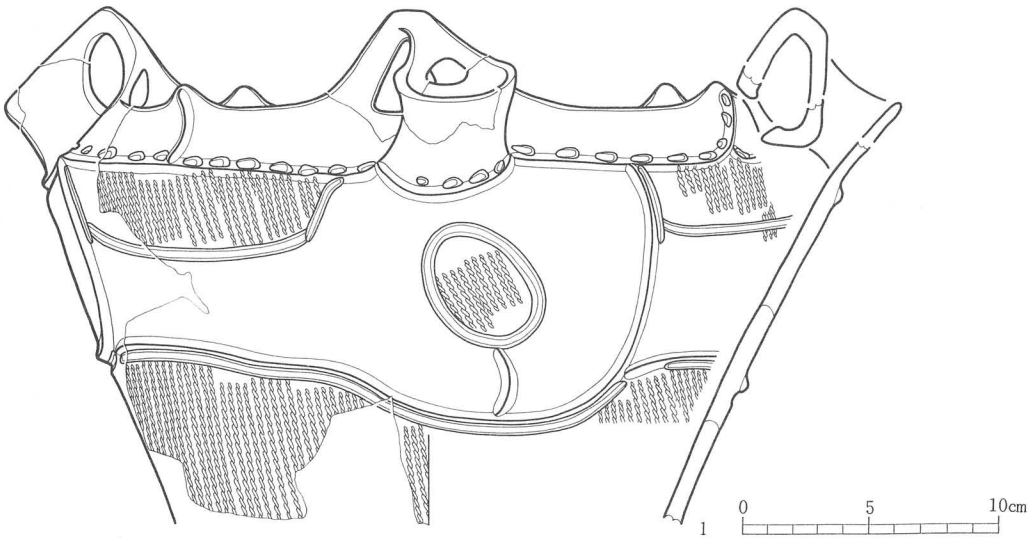
第733図　P－22区　出土土器



No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	Q－18・2a層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	IX	
2	Q－18・2層	深鉢	沈線文	磨キ（横）	IX	
3	Q－18・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）	XI	
4	Q－18・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）	XI	
5	Q－18・2a層	深鉢	沈線文・刺突文	ナデ（斜）	X	
6	Q－18・2a層	深鉢	隆線文・L撚糸文	磨キ（横）	BI	
7	Q－18・2a層	深鉢	隆線文・L撚糸文	ナデ・磨キ（横）	BI	
8	Q－18・2a層	深鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（横）	BI	
9	Q－18・2a層	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	BIII	
10	Q－18・2a層	深鉢	沈線文	磨キ（横）	BIV	
11	Q－18・2a層	深鉢	L撚糸文	磨キ（横）	BVI	
12	Q－18・2a層	深鉢	R撚糸文	ナデ・磨キ（斜）	BVI	
13	Q－18・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	ナデ（縦）	X	
14	Q－18・2層	深鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
15	Q－18・2層	深鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
16	Q－18・2a層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
17	Q－18・2a層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	X	

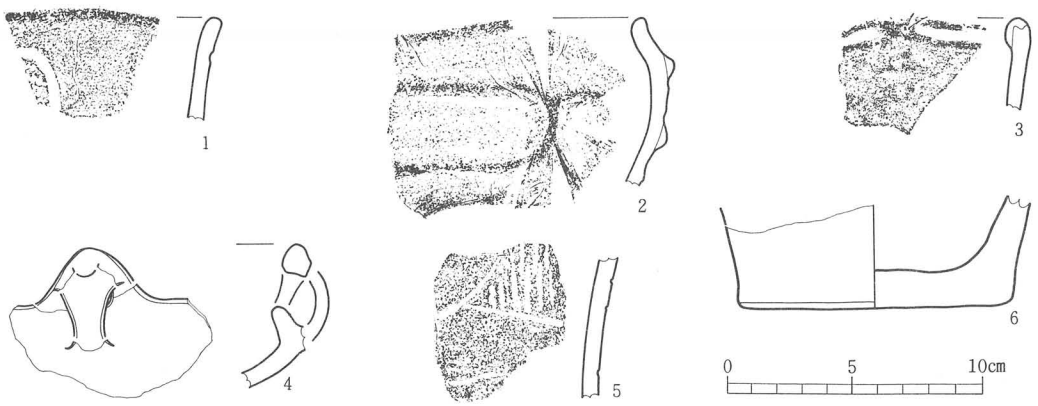
第734図　Q－18区　出土土器（1）





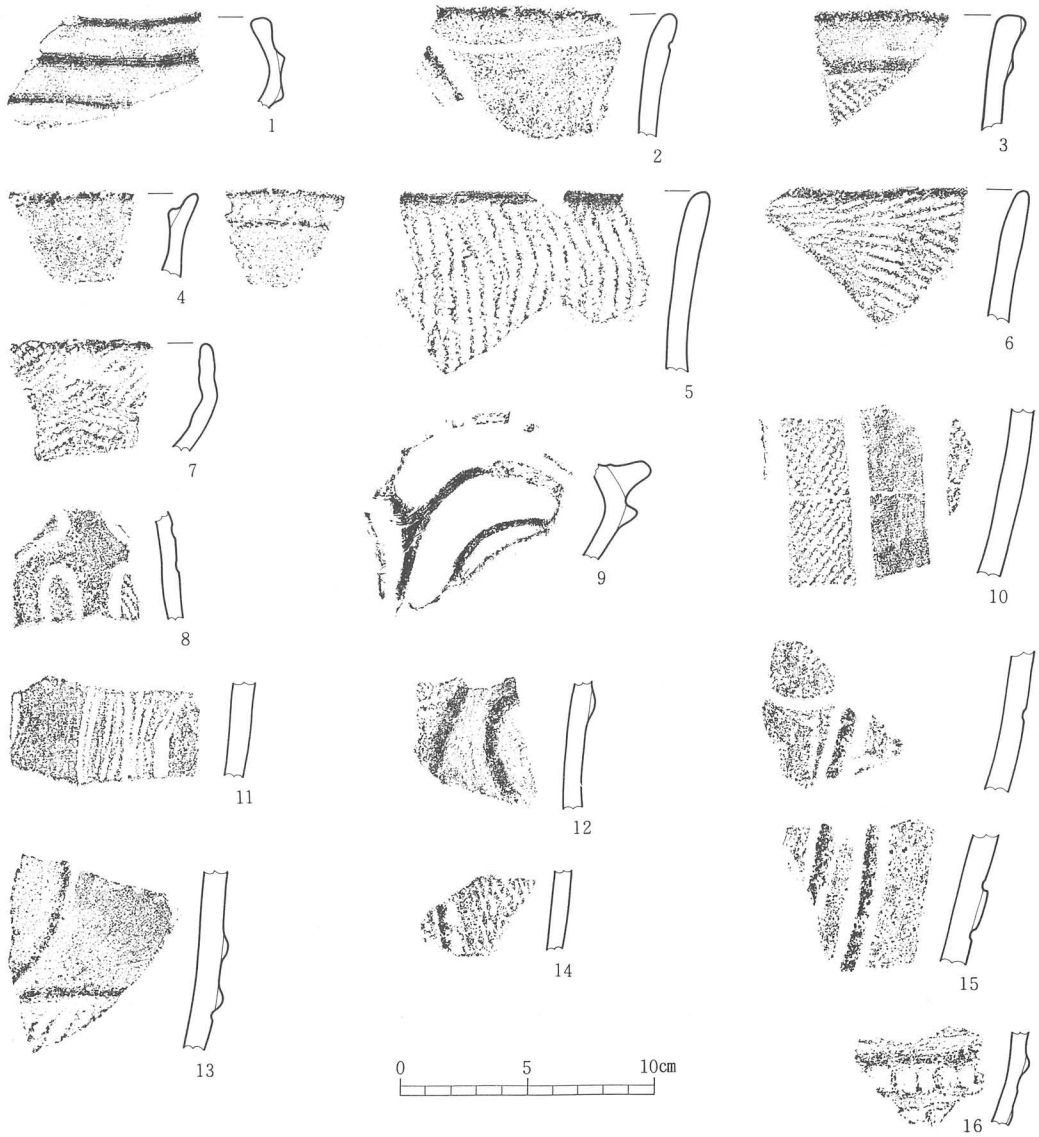
No.	地区・層位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	Q－18・2a層	深　鉢(注口)	隆線文・沈線文・刺突文・R撚糸文・磨キ	磨キ（横・縦）	X9	

第735図　Q－18区　出土土器（2）



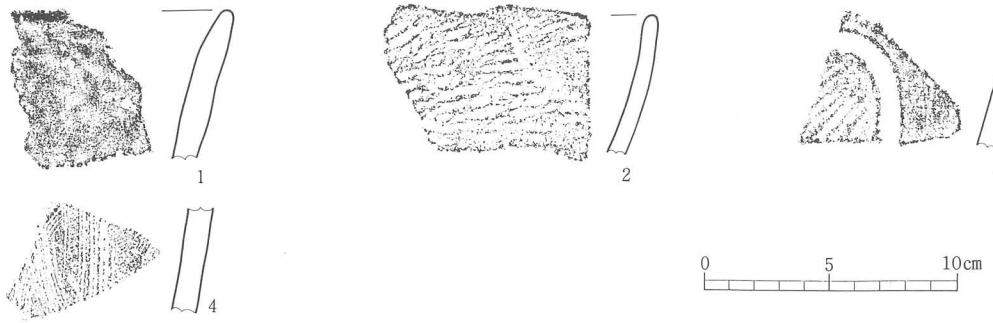
No.	地区・層位	器　形	外　面	内　面	底　部	分　類	備　考
1	Q－19・2層	深　鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）		X	
2	Q－19・2層	深　鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（横）		X2	
3	Q－19・2層	深　鉢	磨　キ	隆線文・磨キ（横）		XI	
4	Q－19・2層	——	磨　キ	磨キ（横）		XI	
5	Q－19・2層	深　鉢	沈線文・R撚糸文	磨キ（横）		X	
6	Q－19・2層	——	磨　キ	磨キ（横）	磨　キ		

第736図　Q－19区　出土土器（1）



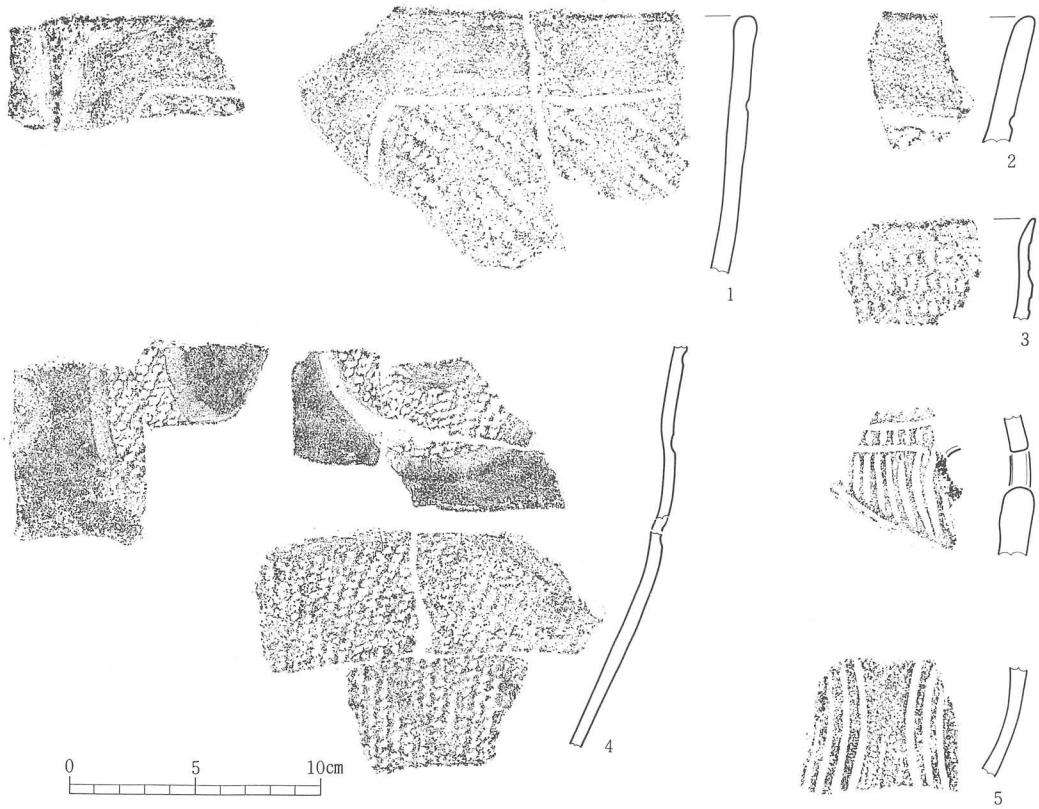
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	Q－19・2層	深鉢	隆線文	ナデ・磨キ（横）	XI 1or2	
2	Q－19・2層	深鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横）	XI	
3	Q－19・2層	深鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（横）	B I	
4	Q－19・2層	深鉢	磨キ	隆線文・刺突文・磨キ（横）	BVII	
5	Q－19・2層	深鉢	RL縄文	ナデ・磨キ（横）	BVI	
6	Q－19・2層	深鉢	R縄文	ナデ・磨キ（横）	BVI	
7	Q－19・2層	深鉢	LR縄文	ナデ（横）	BVI	
8	Q－19・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	IX	
9	Q－19・2層	深鉢	隆線文	磨キ（横）	IX	
10	Q－19・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	IX	
11	Q－19・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（斜）	X	
12	Q－19・2層	深鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
13	Q－19・2層	深鉢	隆線文・沈線文・不明縄文	磨キ（横）	X	
14	Q－19・2層	深鉢	隆線文・刺突文・L撚糸文	磨キ（横）	X	
15	Q－19・2層	深鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横）	XI	
16	Q－19・2層	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	XI	

第737図　Q－19区　出土土器（2）



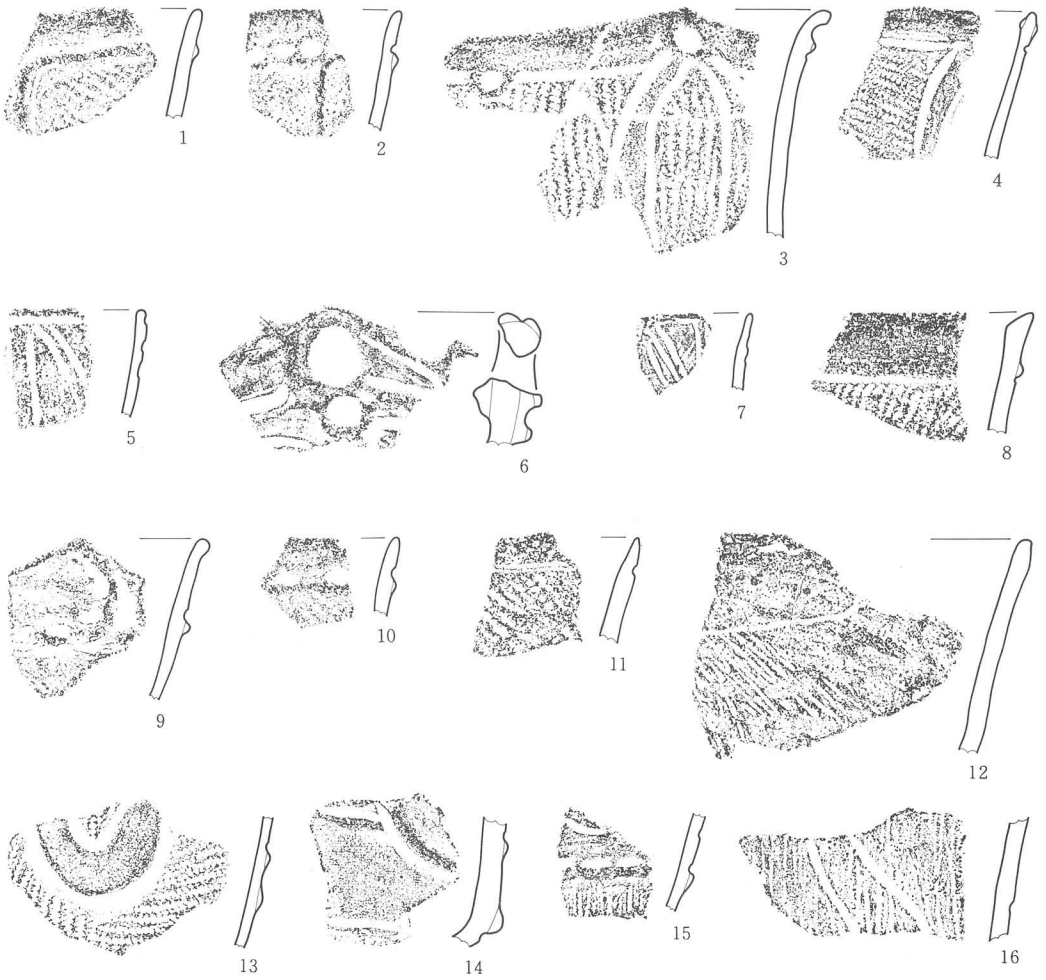
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	Q－19・2a層	深鉢	磨キ	ナデ・磨キ（横）	BVI	
2	Q－19・2a層	深鉢	L縄文	磨キ（斜）	BVI	
3	Q－19・2a層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横・縦）		
4	Q－19・2層	深鉢	条線文	磨キ（縦）		

第738図　Q－19区　出土土器（3）



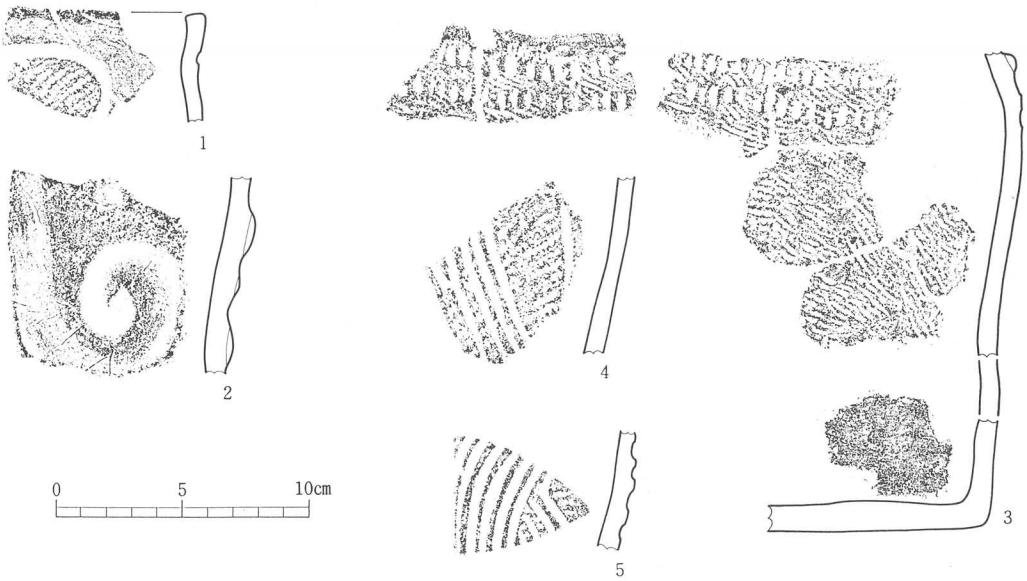
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	Q－20・2層	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
2	Q－20・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	ナデ（斜）・磨キ（横）	BVI	
3	Q－20・2層	深鉢	刺突文	磨キ（横）	XI6	
4	Q－20・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	ナデ・磨キ（横）	X	
5	Q－20・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	XI6	

第739図　Q－20区　出土土器（1）



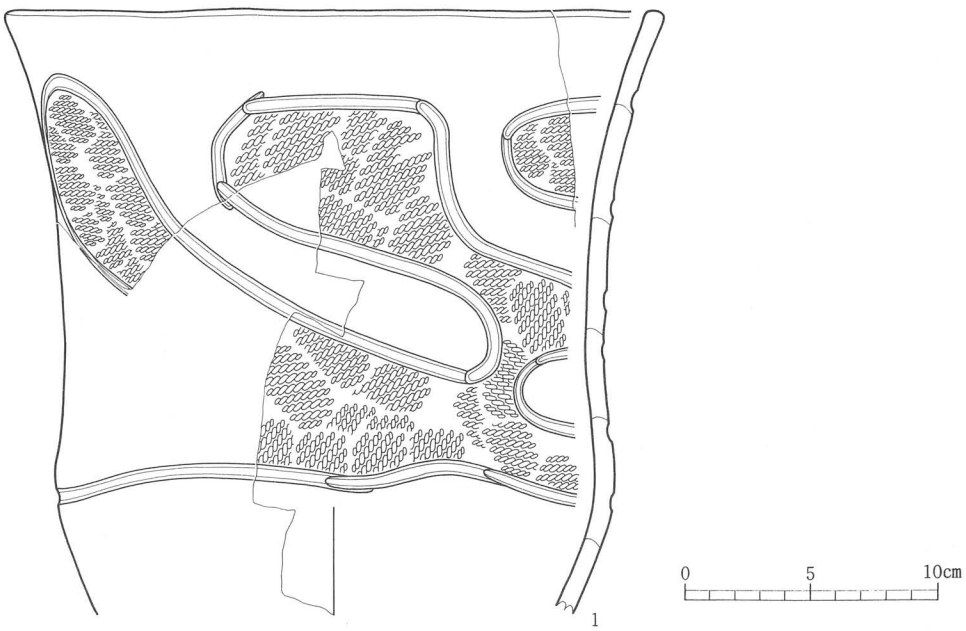
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	Q－20・2層	深鉢	隆線文・LR縄文	ナデ・磨キ（横）	X	
2	Q－20・2層	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	X9	
3	Q－20・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文・LR縄文	磨キ（横）	XI 2	
4	Q－20・2層	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	隆線文・磨キ（横）	XI 1or2	
5	Q－20・2層	深鉢	沈線文	磨キ（横）	XI	
6	Q－20・2層	深鉢	沈線文・貼付文	磨キ（横）	XI	
7	Q－20・2層	深鉢	沈線文・L縄文	磨キ（横）	XI	
8	Q－20・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）	BII	
9	Q－20・2層	深鉢	隆線文・刺突文	ナデ(斜)・磨キ(横)	BIII	
10	Q－20・2層	深鉢	隆線文・刺突文・LR縄文	磨キ（横）	BIII	
11	Q－20・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	ナデ・磨キ（横）	BIV	
12	Q－20・2層	深鉢	R撚糸文	ナデ・磨キ（横）	BVI	
13	Q－20・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
14	Q－20・2層	深鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横）	X	
15	Q－20・2層	深鉢	隆線文・刺突文・L撚糸文	磨キ（横）	X	

第740図　Q－20区　出土土器（2）



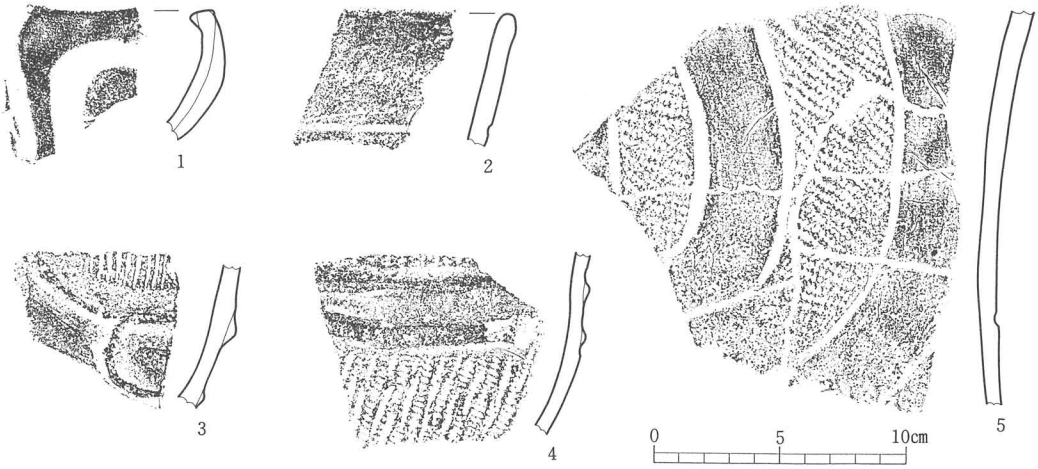
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	Q－20・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	XI	
2	Q－20・2層	深鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横）	IX	
3	Q－20・2層	深鉢	刺突文・L縄文	ナデ・磨キ（縦）	XI	
4	Q－20・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	XI 6	
5	Q－20・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	XI 6	

第741図　Q－20区　出土土器



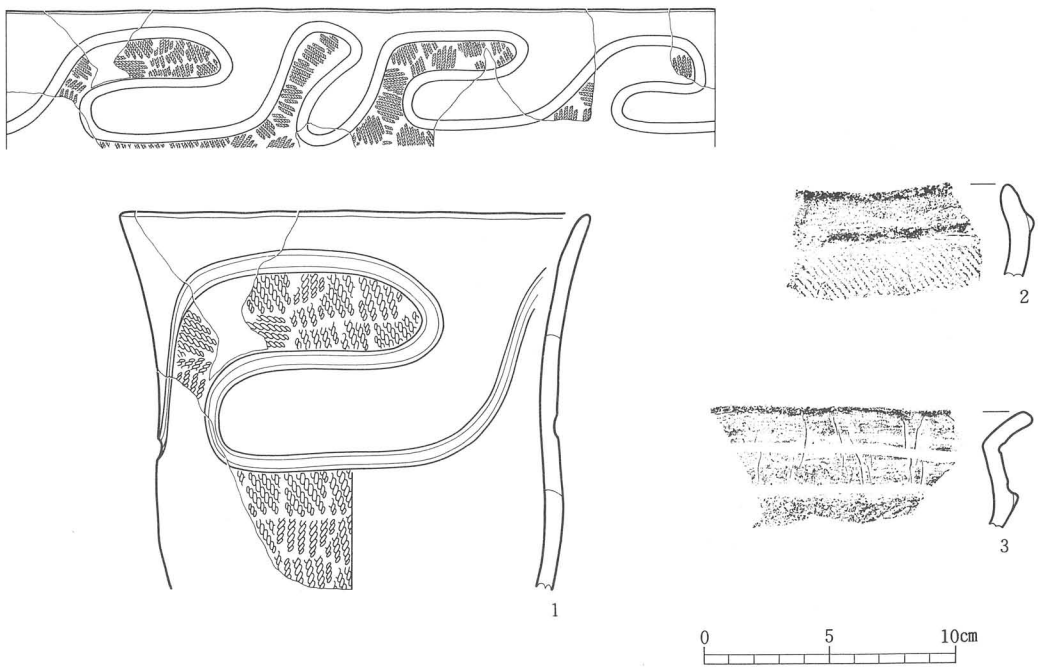
No.	層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	R－17・2層	深鉢	沈線文・LR縄文・磨キ	磨キ（横）	XI 6	

第742図　R－17区　出土土器



No.	地区・層位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	R－18・2b層	深　鉢	隆線文・沈線文・不明縄文	隆線文・磨キ（横）	IX	
2	R－18・2b層	深　鉢	沈線文	ナデ（斜）・磨キ（横）	B IV	
3	R－18・2b層	深　鉢	隆線文・R撚糸文	磨キ（横）	X	
4	R－18・2b層	深　鉢	隆線文・LR縄文	ナデ・磨キ（斜）	X	
5	R－18・2b層	深　鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	X	

第743図　R－18区　出土土器

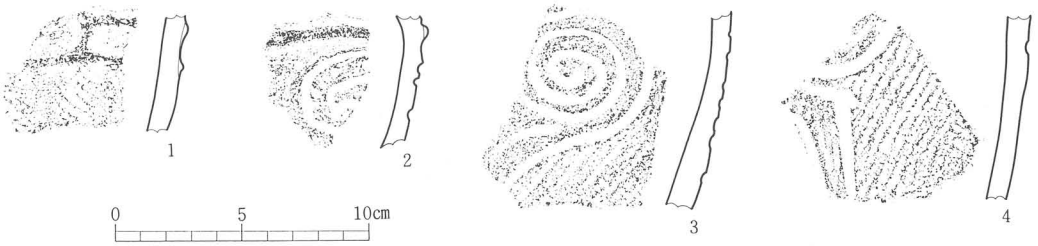


No.	地区・層位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	R－19・2層	深　鉢	沈線文・RL縄文・磨キ	磨キ（横・縦）	X1a	
2	R－19・2層	深　鉢	隆線文・LR縄文	ナデ・磨キ（横）	B I	
3	R－19・2層	深　鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横）	BII	

第744図　R－19区　出土土器

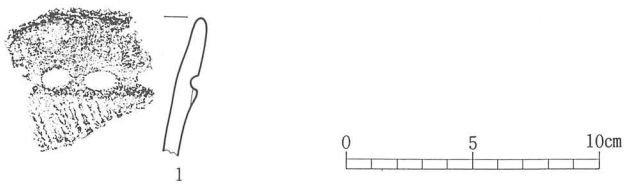
No.	層　位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	R－20・2b層	深　鉢	沈線文・LR縄文・磨キ	磨キ（横）	X1a	
2	R－20・2b層	深　鉢	隆線文・LR縄文	磨ギ（横）	X	
3	R－20・2a層	深　鉢	隆線文・沈線文・刺突文	磨キ（横）	XI	
4	R－20・2b層	深　鉢	沈線文・刺突文・刻目文	沈線文・磨キ（横）	XI	
5	R－20・2b層	深　鉢	R撚糸文	磨キ（横）	BVI	
6	R－20・2b層	深　鉢	LR縄文	ナデ（斜）	BVI	
7	R－20・2b層	深　鉢	隆線文・沈線文・刺突文・刻目文	磨キ（横）	VII	
8	R－20・2b層	深　鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
9	R－20・2b層	深　鉢	隆線文	ナデ・磨キ（横）	X	

第745図　R－20区　出土土器（1）



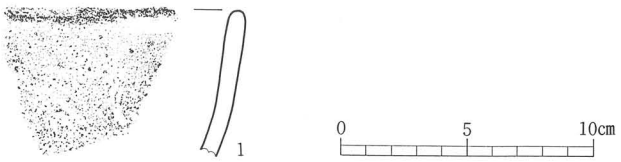
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	R－20・2b層	深鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（縦）	XI	
2	R－20・2b層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文	磨キ（横・縦）	XI	
3	R－20・3層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（斜）	XI 6	
4	R－20・2b層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	XI 2	

第746図　R－20区　出土土器（2）



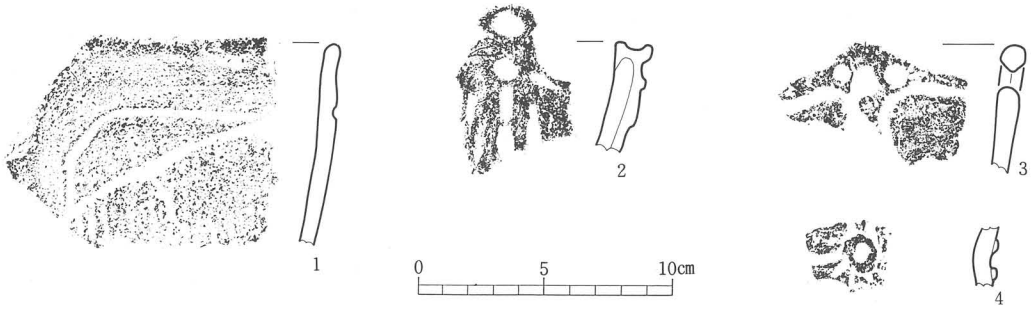
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	S－17	深鉢	刺突文・R撚糸文	磨キ（横）	BIII	

第747図　S－17区　出土土器



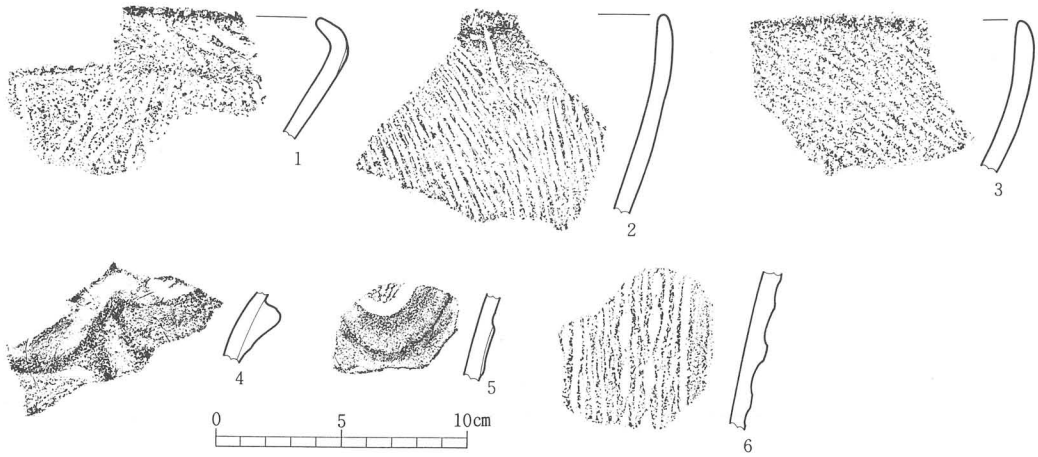
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	S－18・2a層	深鉢	LR縄文	磨キ（横）	BVI	

第748図　S－18区　出土土器



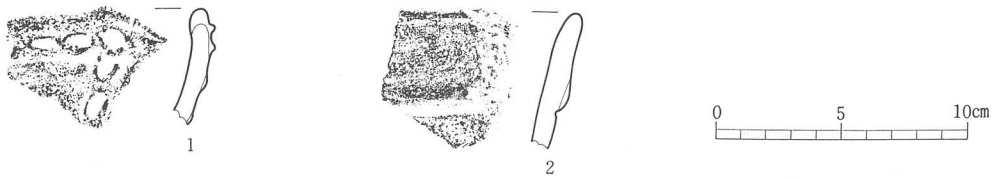
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	S－19・2層	深鉢	沈線文・L撚糸文	磨キ（横）	X	
2	S－19・2層	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横・縦）	XI	
3,4	S－19・2層	深鉢	沈線文・刺突文・貼付文	磨キ（横）	XI	同一個体

第749図　S－19区　出土土器（1）



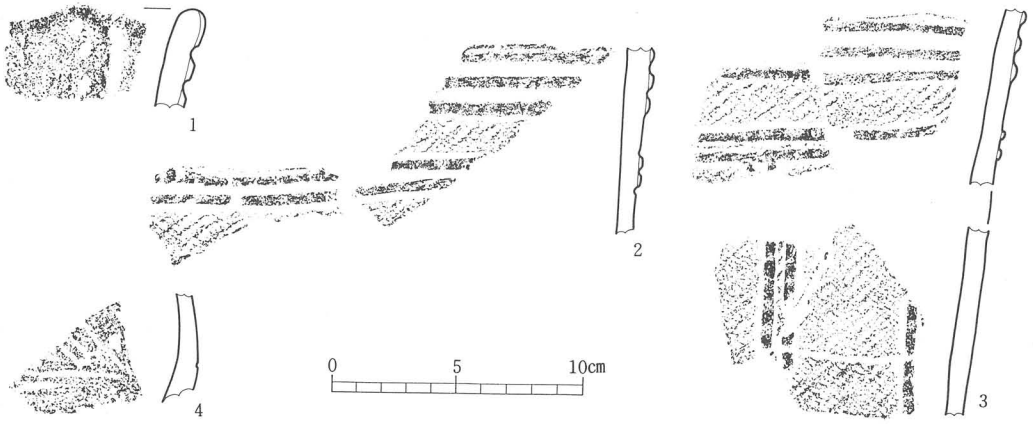
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	S−19・2層	深鉢	沈線文・R撚糸文	磨キ（横）	XIV	
2	S−19・2層	深鉢	R撚糸文	磨キ（斜）	BVI	
3	S−19・2層	深鉢	LR縄文	磨キ（横）	BVI	
4	S−19・2層	深鉢	隆線文	磨キ（横）	X	丹塗
5	S−19・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
6	S−19・2層	深鉢	L撚糸文・刺突文	ナデ・磨キ（斜）	XI	

第750図　S−19区　出土土器（2）



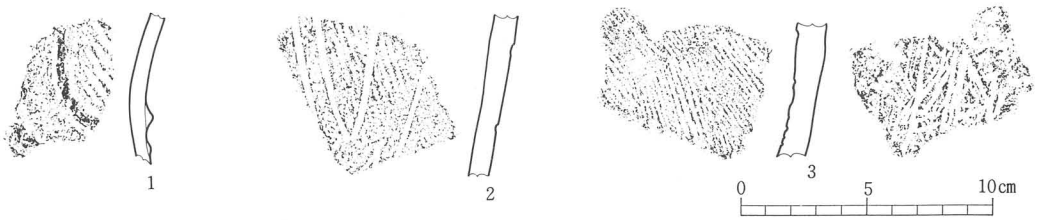
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	S−20・2b層	深鉢	貼付文・刺突文	磨キ（横）	XI	
2	S−20・2b層	深鉢	隆線文・沈線文	マメツ	BII	

第751図　S−20区　出土土器



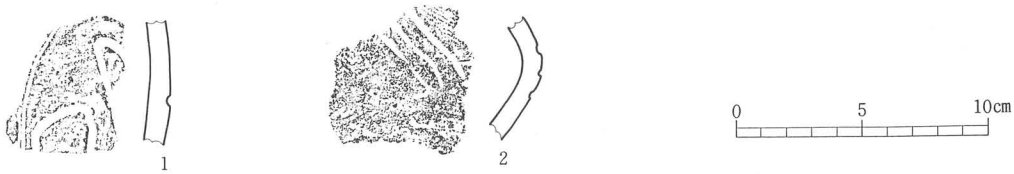
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	T−19・2層	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	BIII	
2	T−19・2b層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）	VIII	
3	T−19・2b層	深鉢	隆線文・沈線文・貼付文・RL縄文	磨キ（横）	VIII	
4	T−19・2層	深鉢	沈線文・刺突文	磨キ（横）		

第752図　T−19区　出土土器（1）



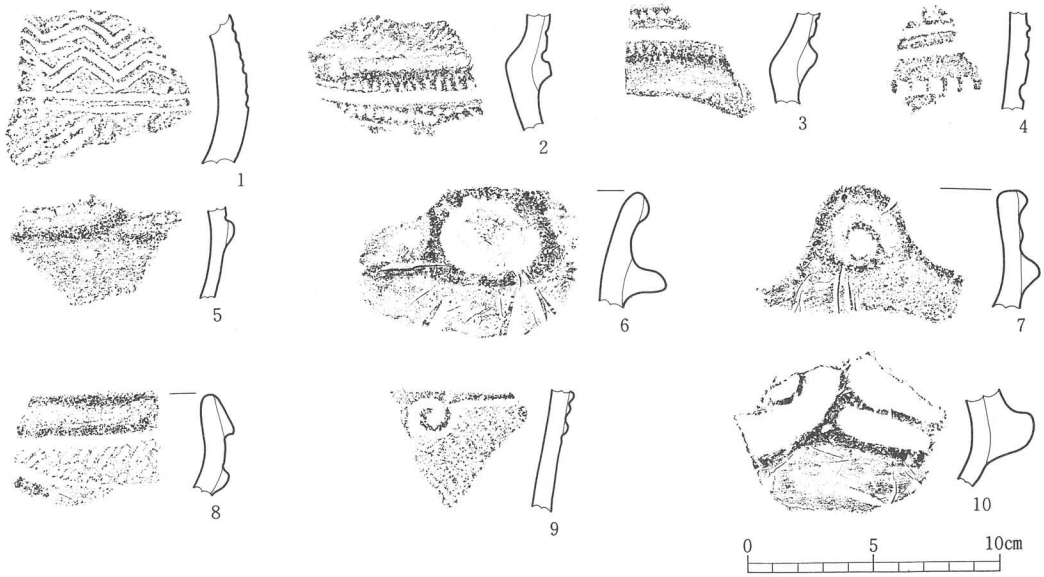
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	T－19・2b層	深鉢	隆線文・L縄文	ナデ（横）	X	
2	T－19・2b層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	XI	
3	T－19・2b層	深鉢	R撚糸文	沈線文	B	

第753図　T－19区　出土土器（2）



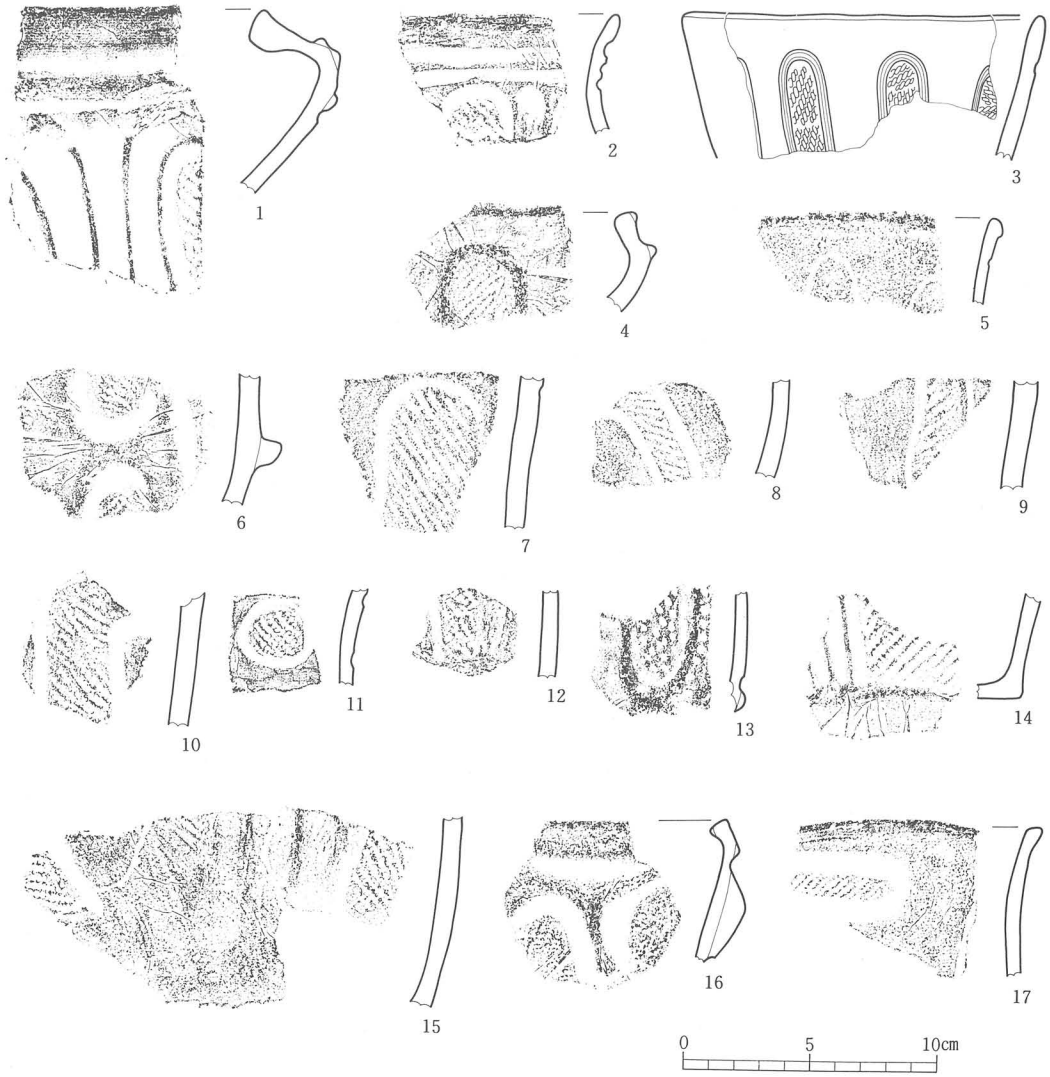
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	T－20・2層	深鉢	沈線文	ナデ・磨キ（斜）	XI	
2	T－20・2層	深鉢	沈線文・R撚糸文	磨キ（横）	XI	

第754図　T－20区　出土土器



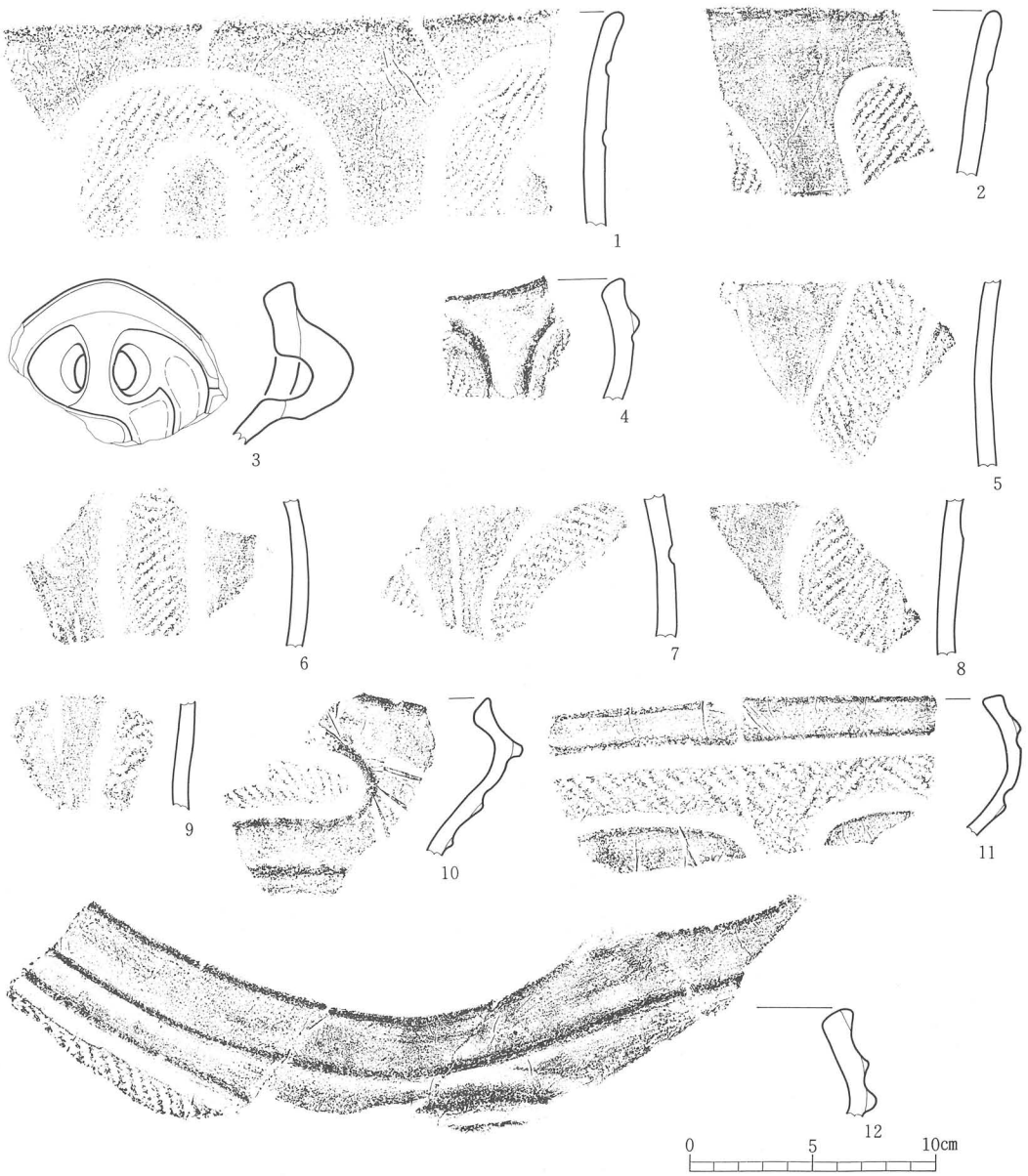
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	E－14・2層	深鉢	沈線文・L縄文	磨キ（横）	V	
2	E－14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文・刻目文・LR縄文	磨キ（横）	VII	同一個体
3	E－14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文・刻目文・LR縄文	磨キ（横）	VII	
4	E－14・2層	深鉢	沈線文・刺突文	磨キ（横）	VII	
5	E－14・2層	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	X	
6	E－14・2層	深鉢	隆線文	磨キ（横）	VIII	
7	E－14・2層	深鉢	隆線文	磨キ（横）	VIII	
8	E－14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刻目文	磨キ（横）	VIII	
9	E－14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）	VIII	
10	E－14・2層	深鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横）	VIII	

第755図　E－14区　出土土器（1）



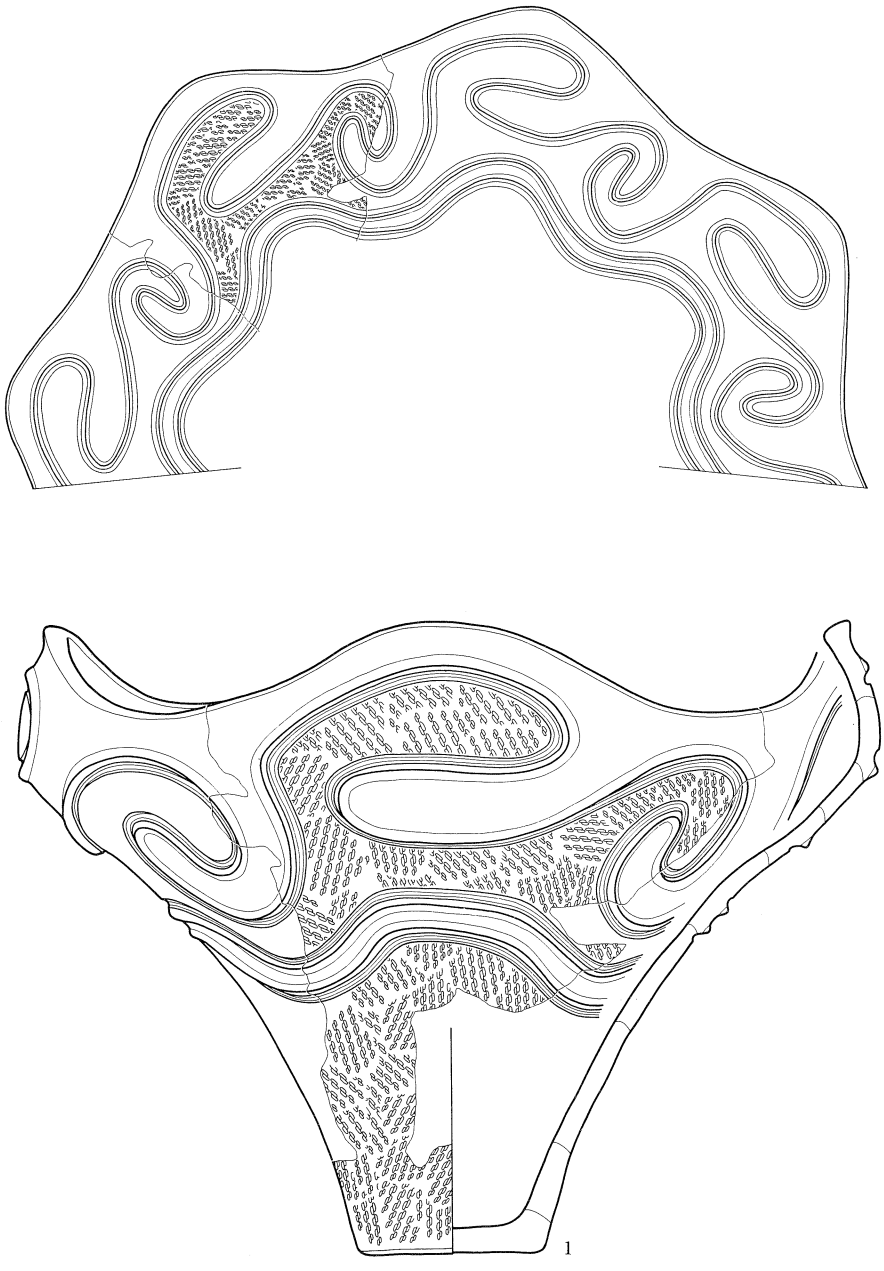
No	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	E−14・2層	——	隆線文・沈線文・LR縄文	ナデ・磨キ（横）	IX	
2	E−14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	IX	
3	E−14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文・磨キ	磨キ（横）	IX	
4	E−14・2層	深鉢	隆線文・L縄文	磨キ（横）	IX	
5	E−14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	IX	
6	E−14・2層	深鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（横）	IX	
7	E−14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横・縦）	IX	
8	E−14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	IX	
9	E−14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	IX	
10	E−14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横・縦）	IX	
11	E−14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	ナデ・磨キ（横・斜）	IX	
12	E−14・2層	深鉢	LR縄文	ナデ（斜）・磨キ（横）	IX	
13	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文	ナデ・磨キ（横）	IX	
14	E−14・2層	深鉢	隆線文・RL縄文	ナデ・磨キ（横）	IX	
15	E−14・2層	深鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（横）	IX	
16	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・貼付文・RL縄文	隆線文・磨キ（横）	IX	
17	E−14・2層	深鉢	沈線文・L縄文	磨キ（横）	IX	

第756図　E−14区　出土土器（2）



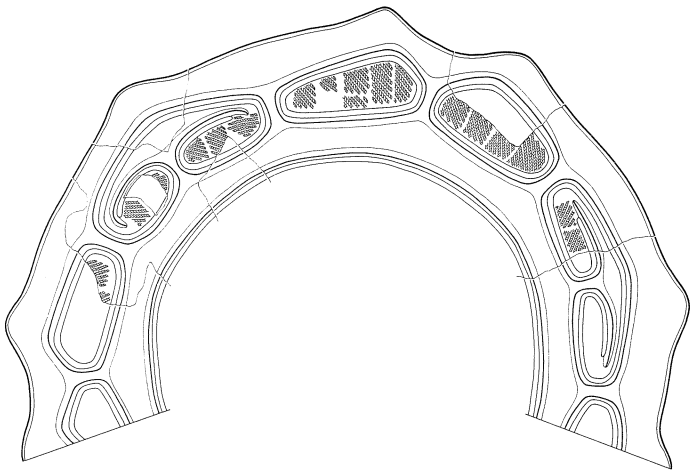
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	E−14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	IX	
2	E−14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	ナデ・磨キ（横）	IX	
3	E−14・2層	深鉢	隆線文・磨キ	磨キ（横）	IX	
4	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）	IX	
5	E−14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	IX	
6	E−14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	IX	
7	E−14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	IX	
8	E−14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	IX	
9	E−14・2層	深鉢	沈線文・RLR縄文	ナデ（横）	IX	
10	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）	X2	
11	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）	X1	
12	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	ナデ・磨キ（横）	X2	

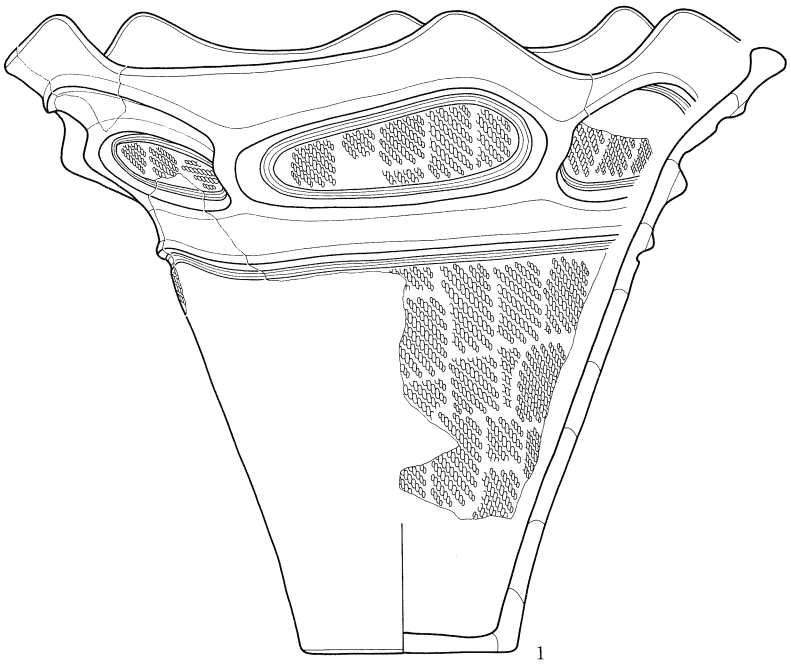
第757図　E−14区　出土土器（3）



No.	層　位	器　形	外　面	内　面	底　部	分　類	備　考
1	E－14・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・RLR縄文・磨キ	磨キ（横）	磨　キ	X1b	

第758図　E－14区　出土土器（4）



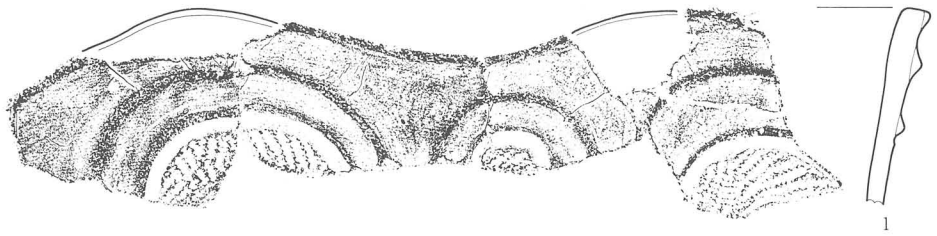


1

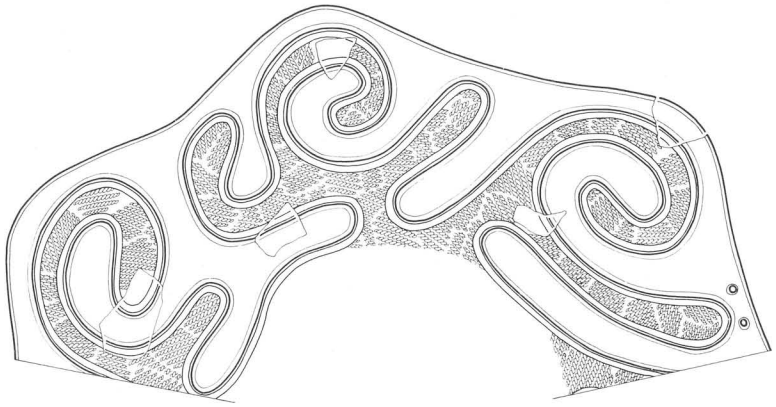
0　5　10cm

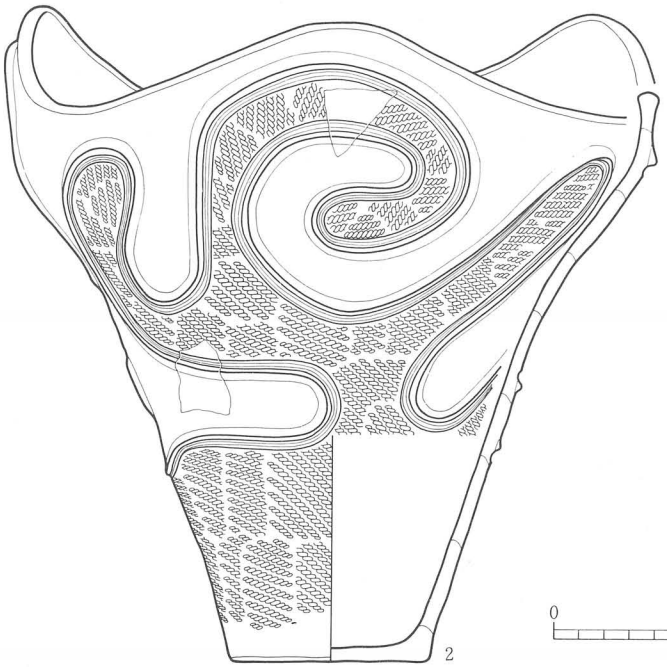
No.	層　位	器　形	外　面	内　面	底　部	分　類	備　考
1	E－14・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・RL縄文・磨キ	磨キ（横）	磨　キ	X2	

第759図　E－14区　出土土器（5）



1



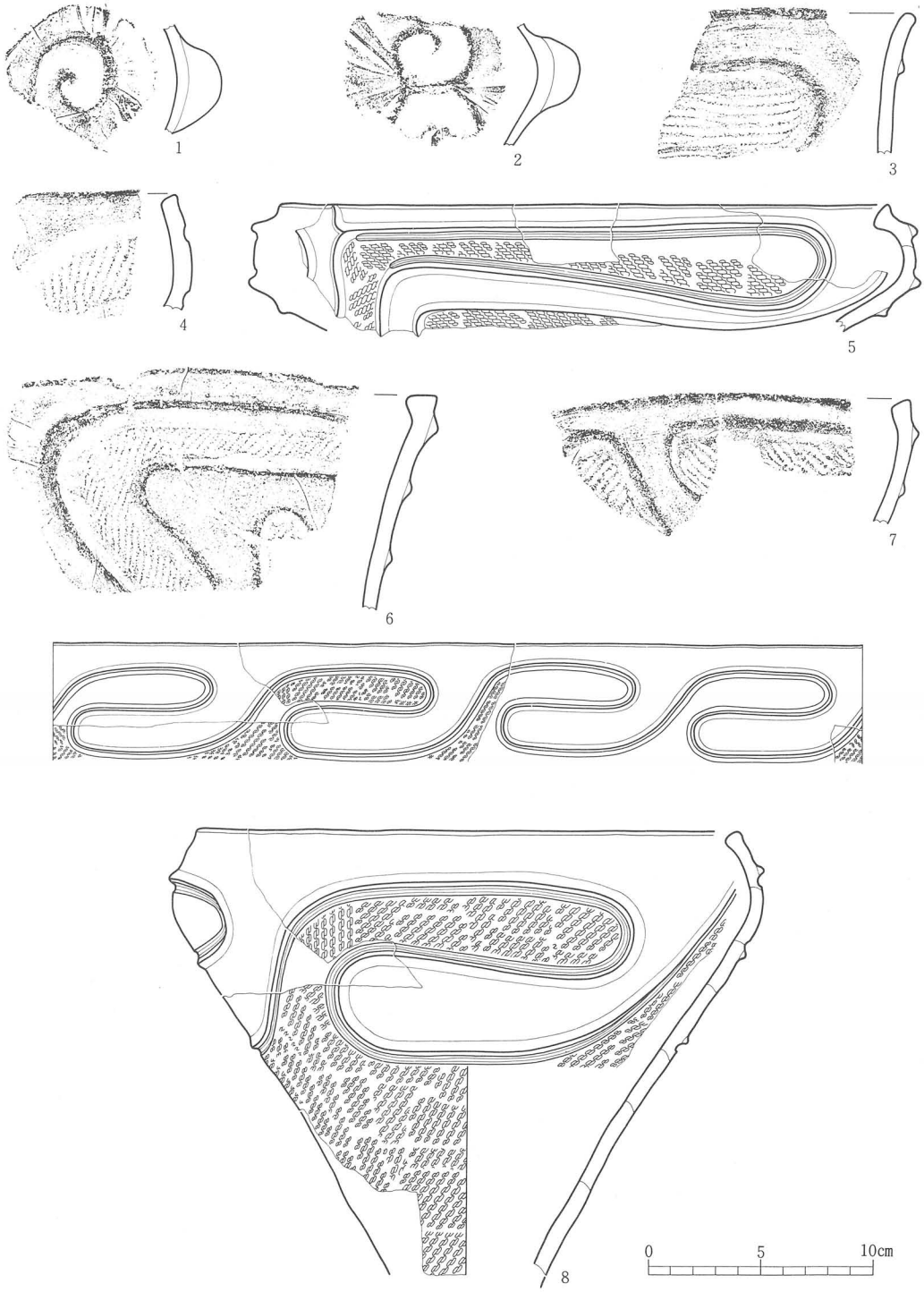


2

0　5　10cm

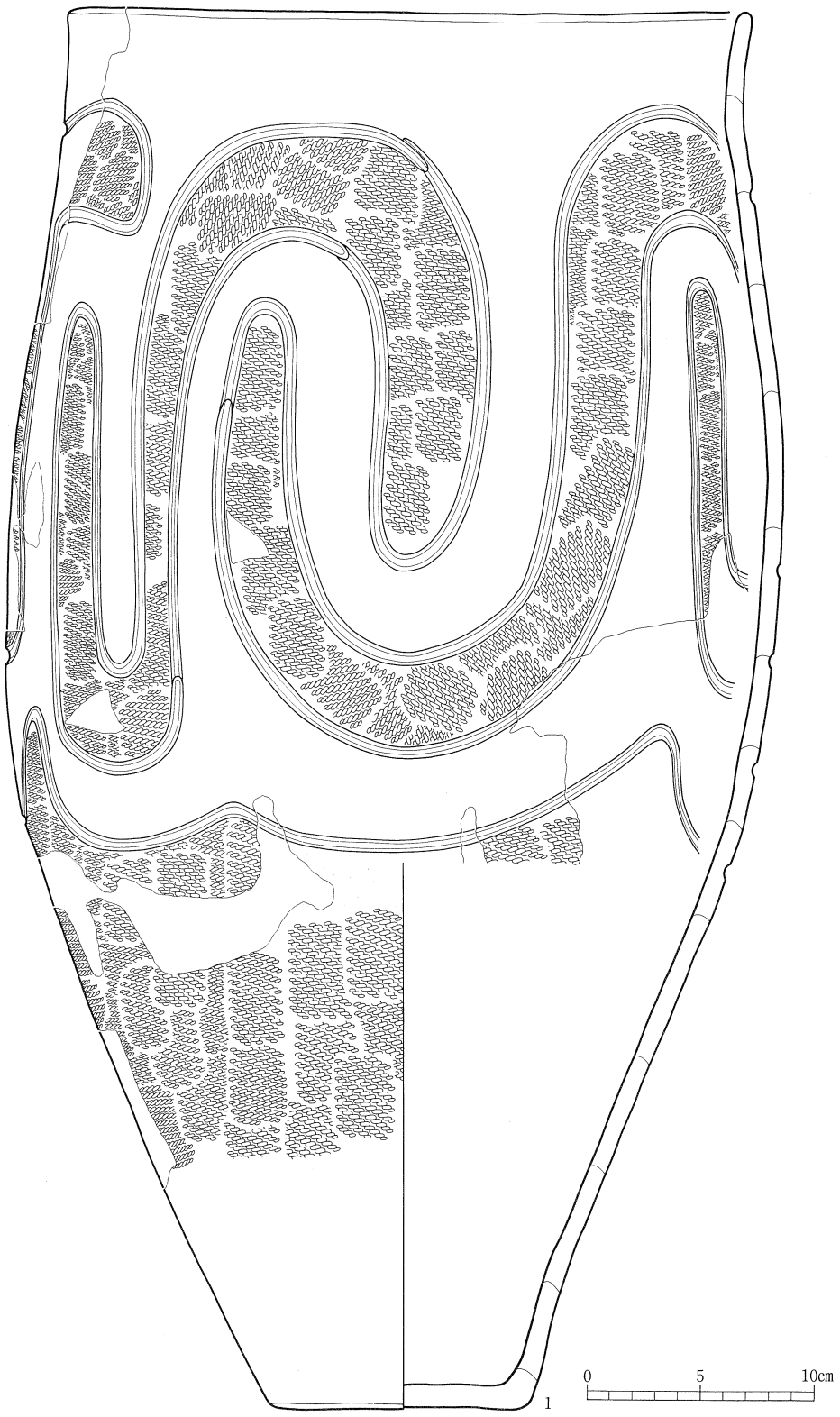
No.	地区・層位	器　形	外　面	内　面	底　部	分　類	備　考
1	E－14・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・RL縄文・磨キ	磨キ（横）		X1	
2	E－14・2相	深　鉢	隆線文・沈線文・LR縄文・磨キ	磨キ（縦・横）	磨　キ	X1a	

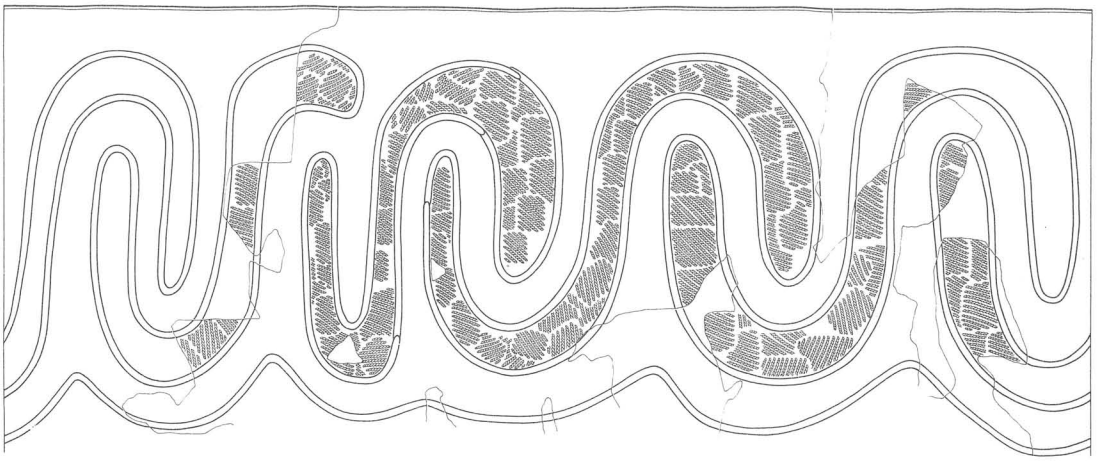
第760図　E－14区　出土土器（6）

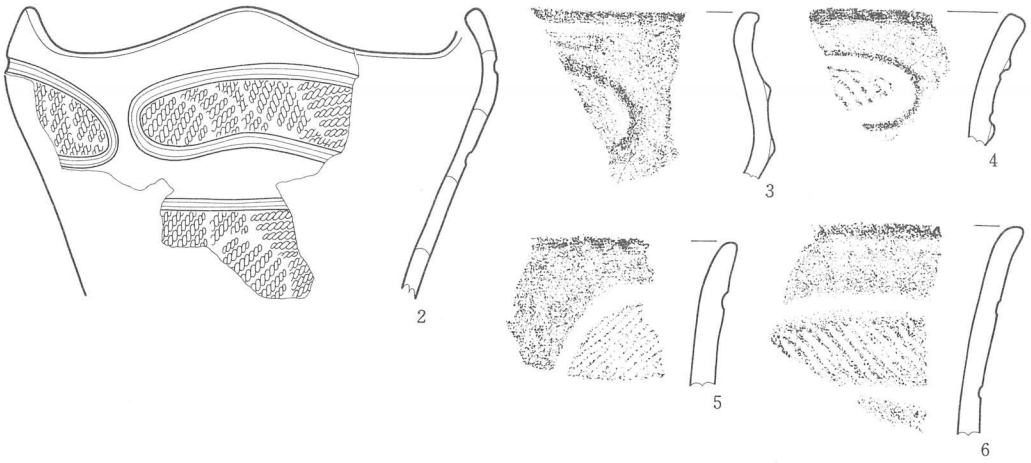


No.	地区・層位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	E－14・2層	深　鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横・縦）	IX	
2	E－14・2層	深　鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横）	IX	
3	E－14・2層	深　鉢	隆線文・LR縄文	ナデ・磨キ（横）	X1	
4	E－14・2層	深　鉢	沈線文・LR縄文	ナデ・磨キ（横）	X1	
5	E－14・2層	深鉢（注口）	隆線文・沈線文・LR縄文・磨キ	磨キ（横）	X1	外面に炭化物付着
6	E－14・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	隆線文・磨キ（横）	X1	
7	E－14・2層	深　鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（横）	X1	
8	E－14・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・RLR縄文・磨キ	磨キ（横）	X1a	

第761図　E－14区　出土土器（7）


0
5
10cm
1





No.	地区・層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	E－14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文・磨キ	磨キ（横）	磨キ	X4	
2	E－14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文・磨キ	磨キ（横）		X2	
3	E－14・2層	深鉢	隆線文	磨キ（横）		X1	
4	E－14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）		X1	
5	E－14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）		X	
6	E－14・2層	深鉢	沈線文・L縄文	磨キ（横）		X	
7	E－14・2層	深鉢	隆線文・L縄文	隆線文・磨キ（横）		X	
8	E－14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）		X	
9	E－14・2層	深鉢	沈線文・不明縄文	磨キ（横）		X	

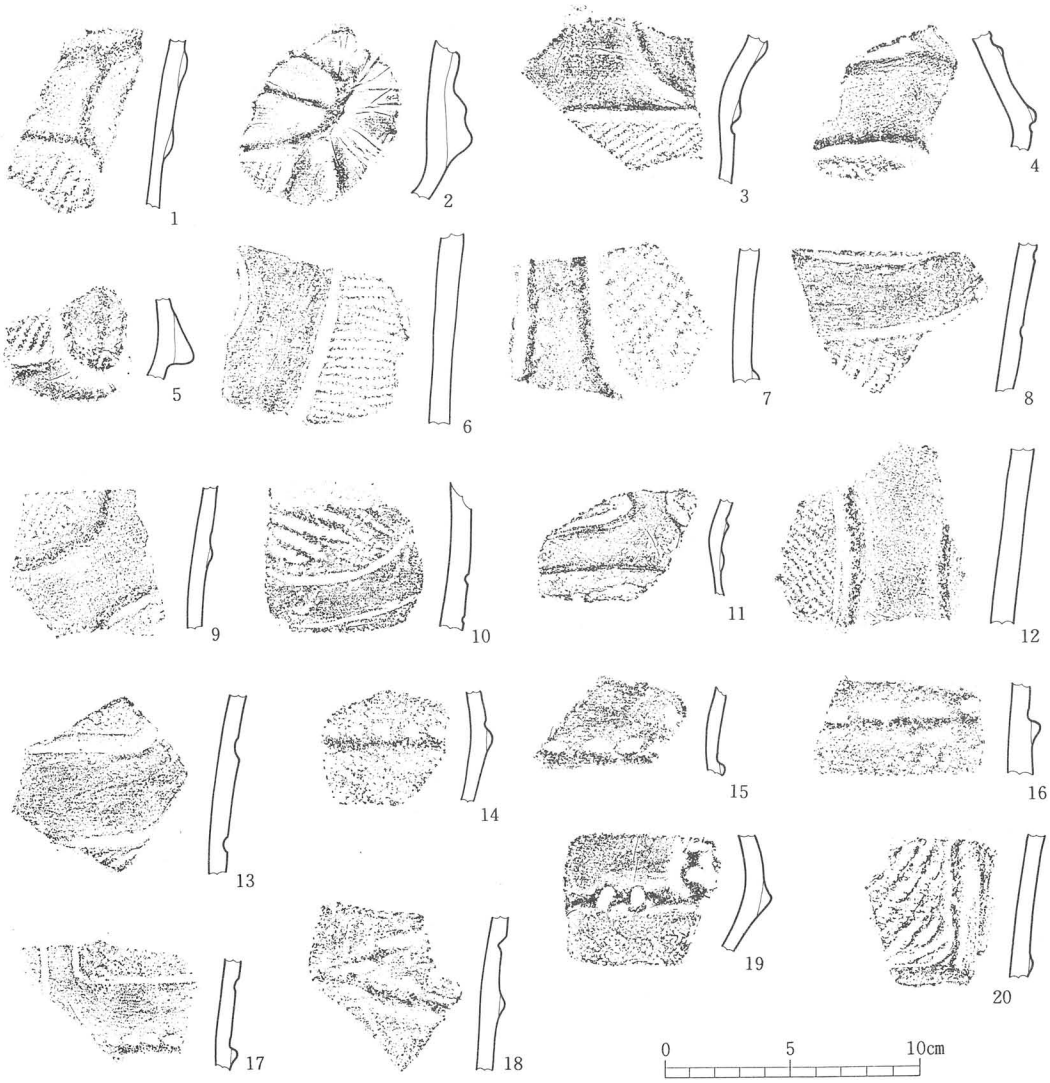
第762図　E－14区　出土土器（8）

No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	E−14・2層	深鉢	隆線文	隆線文・磨キ（横）	X	
2	E−14・2層	深鉢	隆線文・不明縄文	磨キ（横）	X6or7	
3	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文	ナデ・磨キ（横）	X6or7	
4	E−14・2層	深鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横）	X6or7	
5	E−14・2層	深鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（横）	X6or7	
6	E−14・2層	深鉢	隆線文・RL縄文	マメツ	X6or7	
7	E−14・2層	深鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横）	X6or7	
8	E−14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
9	E−14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
10	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横）	X	
11	E−14・2層	深鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
12	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文	磨キ（横・斜）	X	
13	E−14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文・刺突文	磨キ（横）		
14	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刻目文・LR縄文	磨キ（横）	XI 1	
15	E−14・2層	深鉢	隆線文・刻目文	磨キ（横）	XI 1	
16	E−14・2層	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	X 2	
17	E−14・2層	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	IXorX	
18	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）	IX	
19	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・L撚糸文	磨キ（横）	X	

第763図　E−14区　出土土器（9）

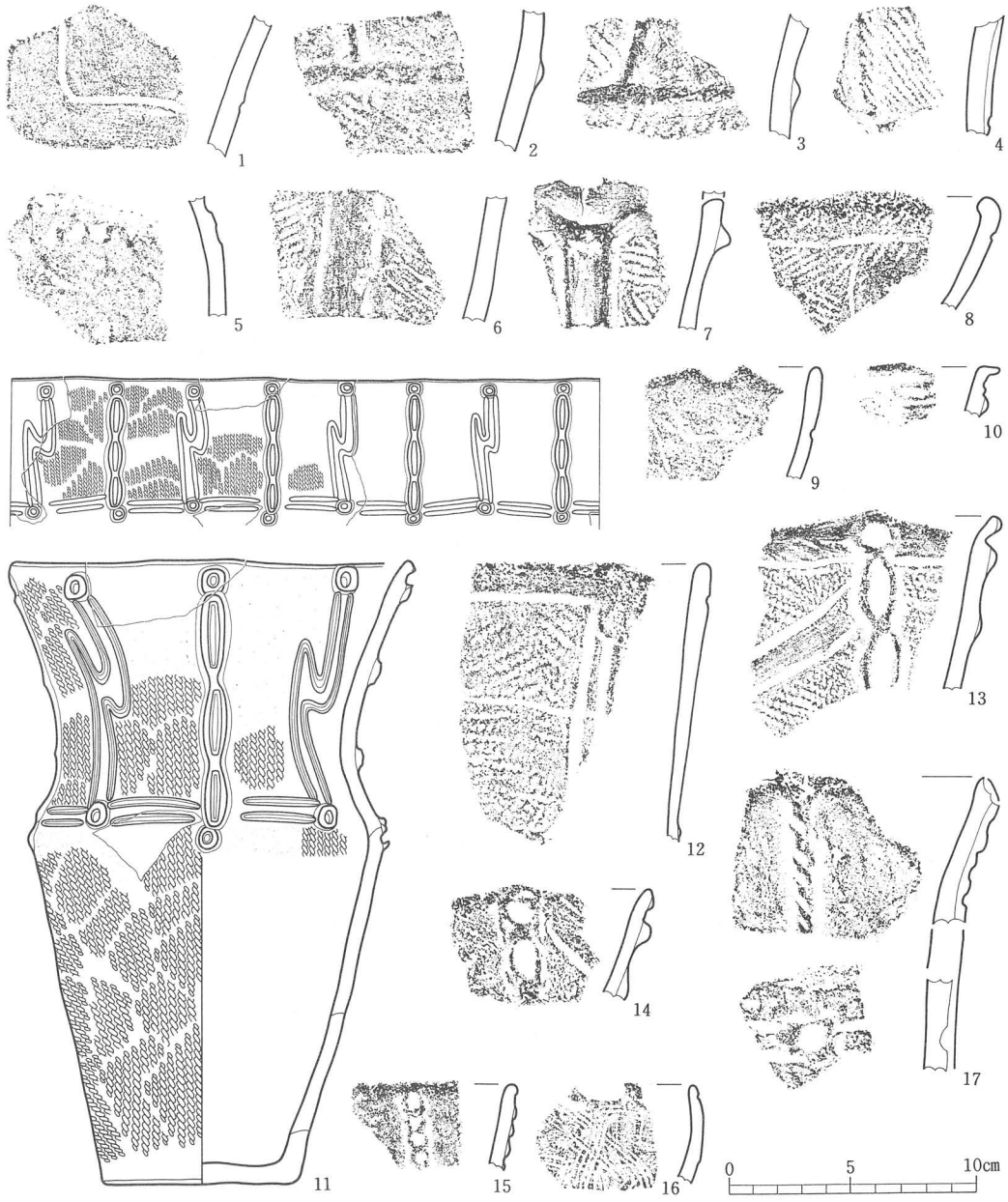
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	E−14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
2	E−14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
3	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）	X4	
4	E−14・2層	深鉢	隆線文・刺突文・RL縄文	ナデ（横・斜）・磨キ（横）	X	
5	E−14・2層	深鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
6	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
7	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
8	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RLR縄文	磨キ（横）	X	
9	E−14・2層	深鉢	隆線文・LR縄文	ナデ（横）	X	
10	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
11	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横・縦）	X	
12	E−14・2層	深鉢	LR縄文	磨キ（横・縦）	X	
13	E−14・2層	深鉢	隆線文・不明縄文	磨キ（横）	X1	
14	E−14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
15	E−14・2層	深鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
16	E−14・2層	深鉢	沈線文	磨キ（横）	X	
17	E−14・2層	深鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横）	X	

第764図　E−14区　出土土器（10）



No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	E−14・2層	深鉢	隆線文・RL縄文	ナデ（斜）	X	
2	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横・縦）	X	
3	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
4	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
5	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	ナデ・磨キ（横）	X	
6	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
7	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	マメツ	X	
8	E−14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横・縦）	X	
9	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（縦）	X	
10	E−14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
11	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
12	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
13	E−14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
14	E−14・2層	深鉢	隆線文・刺突文・R撚糸文	マメツ	X9	
15	E−14・2層	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横・斜）	X9	
16	E−14・2層	深鉢	隆線文・刺突文・RL縄文	磨キ（横）	X9	
17	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文・LR縄文	磨キ（横）	XorXI	
18	E−14・2層	深鉢	隆線文・刺突文・不明縄文	ナデ（横）	XorXI	
19	E−14・2層	深鉢	隆線文・刻目文・LR縄文	ナデ・磨キ（横）	XorXI	
20	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（縦）	XII	

第765図　E−14区　出土土器（11）

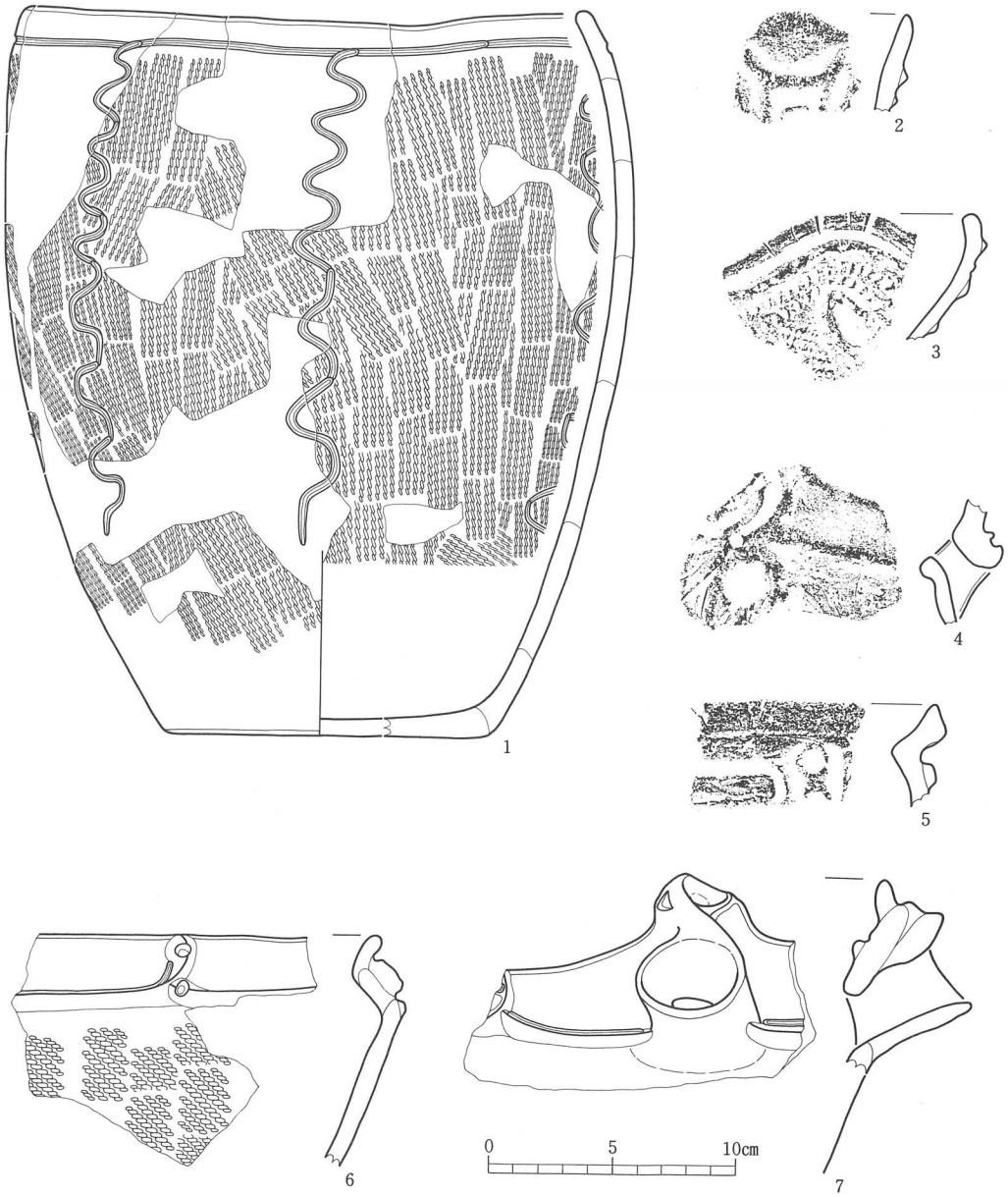


No.	地区・層位	器　形	外　　面	内　　面	底　部	分　類	備　　考
1	E－14・2層	深　鉢	沈線文	磨キ（横・縦）		X	
2	E－14・2層	深　鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（横）		XorXI	
3	E－14・2層	深　鉢	隆線文・RL縄文	ナデ（横）		XorXI	
4	E－14・2層	深　鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横・縦）		XorXI	
5	E－14・2層	深　鉢	刺突文・LR縄文	磨キ（横・斜）			
6	E－14・2層	深　鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）			
7	E－14・2層	深　鉢	隆線文・L縄文	磨キ（横）			
8	E－14・2層	深　鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）			
9	E－14・2層	深　鉢	沈線文・不明縄文	ナデ・磨キ（横）			
10	E－14・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・刺突文	マメツ			
11	E－14・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・貼付文・刺突文・LR縄文	磨キ（縦・横）	磨　キ	XI 1a	
12	E－14・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）		XI 1	
13	E－14・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・刺突文・RL縄文	磨キ（横）		XI 1a	
14	E－14・2層	深　鉢	沈線文・貼付文・刺突文・RL縄文	ナデ・磨キ（横）		XI 1a	
15	E－14・2層	深　鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横・縦）		XI 1a	
16	E－14・2層	深　鉢	刺突文・櫛歯文	磨キ（横・縦）			
17	E－14・2層	深　鉢	隆線文・刺突文・刻目文	ナデ・磨キ（横）		XI	

第766図　E－14区　出土土器（12）

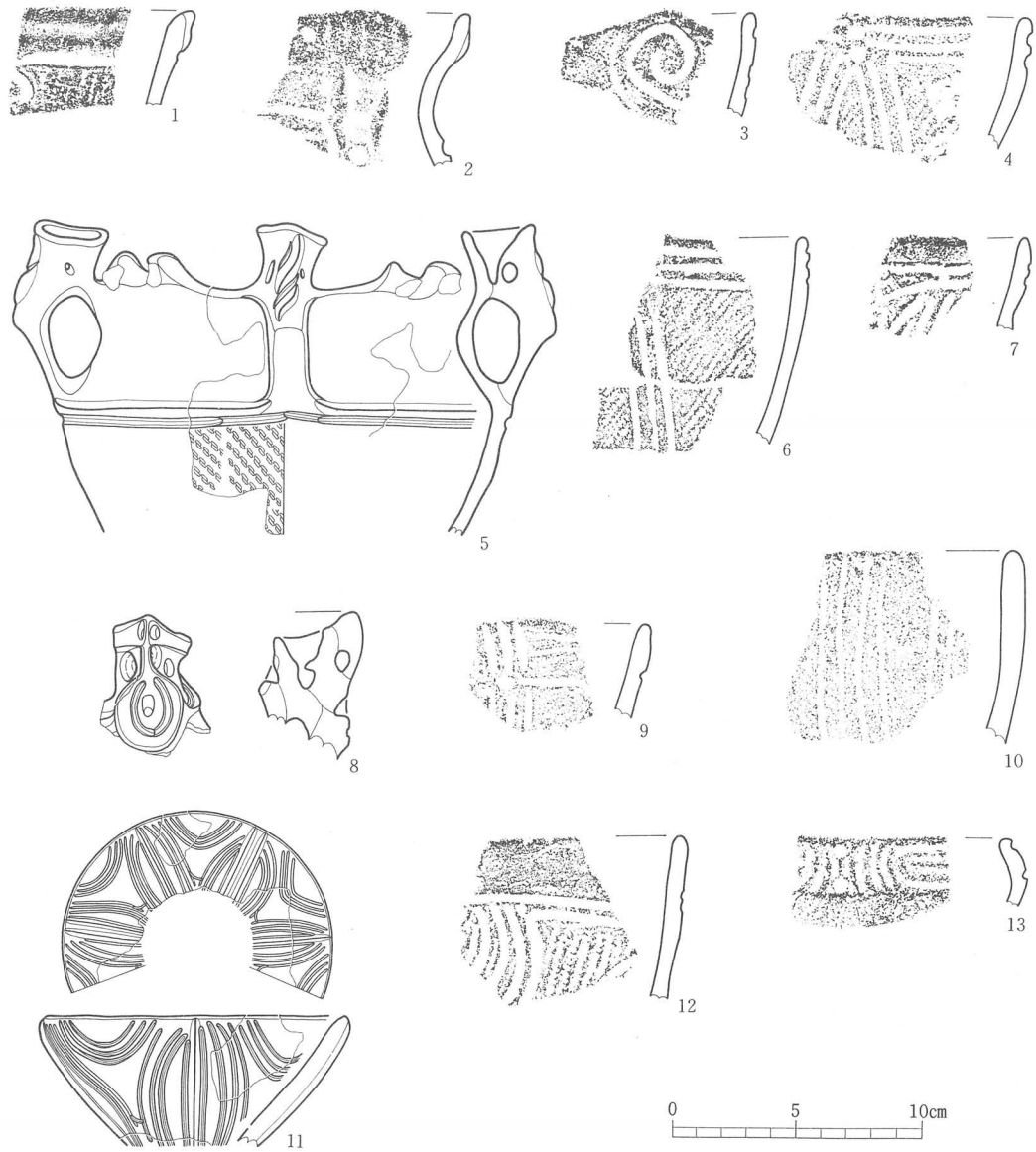
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文	磨キ（横）	XI5	
2	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文	磨キ（横）	XI5	
3	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横）	XI5	
4	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文・R撚糸文	磨キ（横）	XI	
5	E−14・2層	深鉢	沈線文・R撚糸文	磨キ（横）	XI	
6	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）	XI	
7	E−14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	XI	
8	E−14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	XI3b	
9	E−14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	XI	
10	E−14・2層	深鉢	沈線文・L撚糸文	ナデ・磨キ（横）	XI	
11	E−14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	XI	
12	E−14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横・縦）	XI	
13	E−14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	XI	
14	E−14・2層	深鉢	沈線文・刺突文	磨キ（横）	XI	
15	E−14・2層	深鉢	沈線文・刺突文・R撚糸文	磨キ（横）	XI	
16	E−14・2層	深鉢	沈線文・刺突文・RL縄文	ナデ・磨キ（横）	XI2	
17	E−14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	XI2	
18	E−14・2層	深鉢	沈線文・刺突文・LR縄文	磨キ（横）	XI2	
19	E−14・2層	深鉢	沈線文・刺突文・RL縄文	隆線文・磨キ（横）	XI2	

第767図　E−14区　出土土器（13）



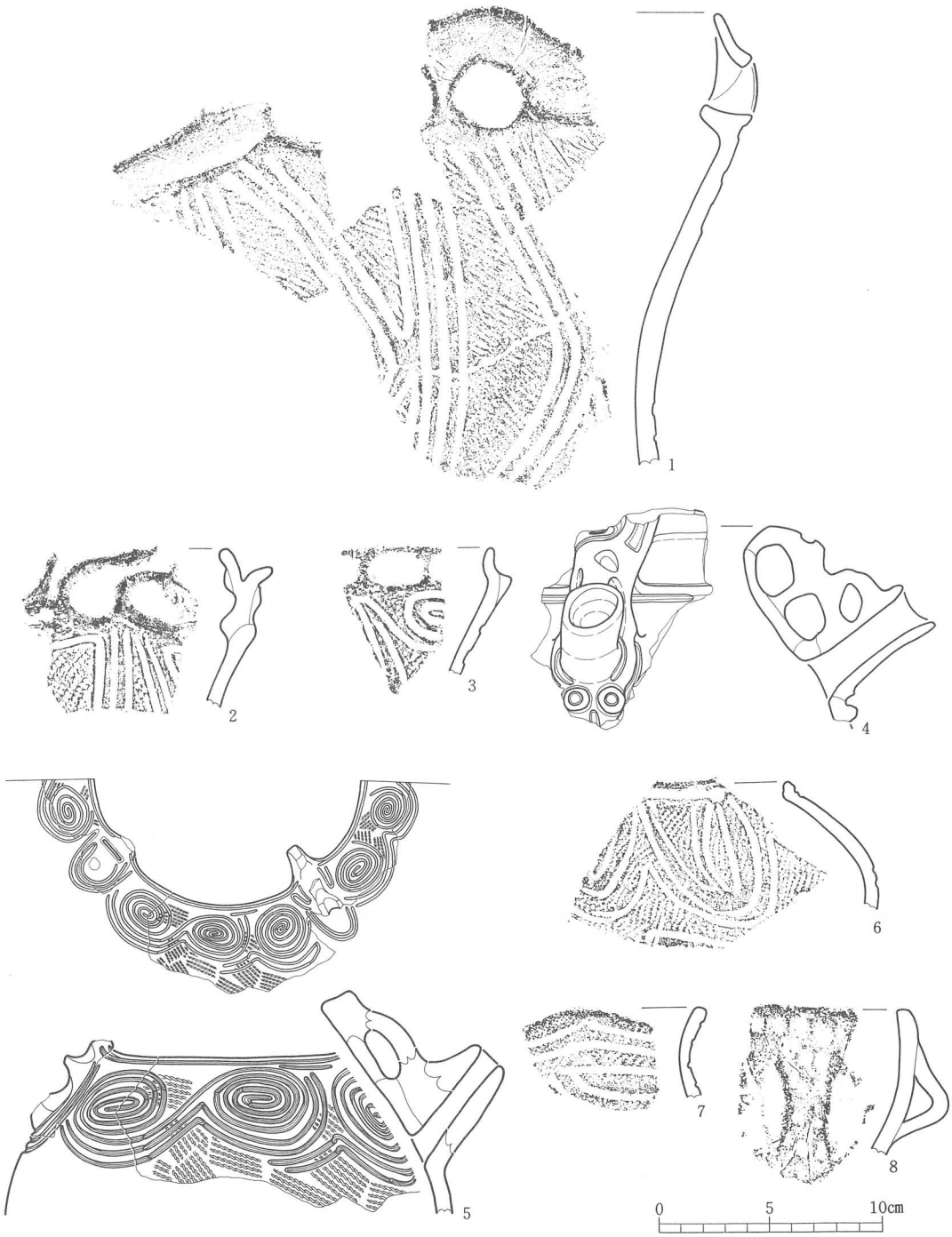
No.	地区・層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	E－14・2層	深鉢	沈線文・R撚糸文・磨キ	磨キ（横・縦・斜）	磨キ	XI3a	
2	E－14・2層	深鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横）		XI	
3	E－14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刻目文・LR縄文	ナデ・磨キ（横）		XI	
4	E－14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文	隆線文・ナデ・磨キ（横）		XI5	
5	E－14・2層	深鉢	沈線文・貼付文	磨キ（横）		XI	
6・7	E－14・2層	深鉢(注口)	隆線文・沈線文・刺突文・LR縄文・磨キ	隆線文・沈線文・刺突文・磨キ			同一個体

第768図　E－14区　出土土器（14）



No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・R撚糸文	磨キ（横）	XI	
2	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文	磨キ（横）	XI	
3	E−14・2層	深鉢	沈線文	磨キ（横）	XI	
4	E−14・2層	深鉢	沈線文・刺突文	磨キ（横）	XI	
5	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RLR縄文・磨キ	磨キ（横）・ケズリ	XI 4	
6	E−14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	XI 6	
7	E−14・2層	深鉢	沈線文	磨キ（横）	XI 6	
8	E−14・2層	——	隆線文・沈線文・刺突文・磨キ	マメツ	XI	
9	E−14・2層	深鉢	沈線文・刺突文	磨キ（横）	XI 6	
10	E−14・2層	深鉢	R撚糸文	磨キ（横）	XI 6	
11	E−14・2層	鉢	隆線文・沈線文	ナデ（横）	XI	
12	E−14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	ナデ・磨キ（横）	XI 6	
13	E−14・2層	深鉢	沈線文・刺突文	磨キ（横）	XI	

第769図　E−14区　出土土器（15）

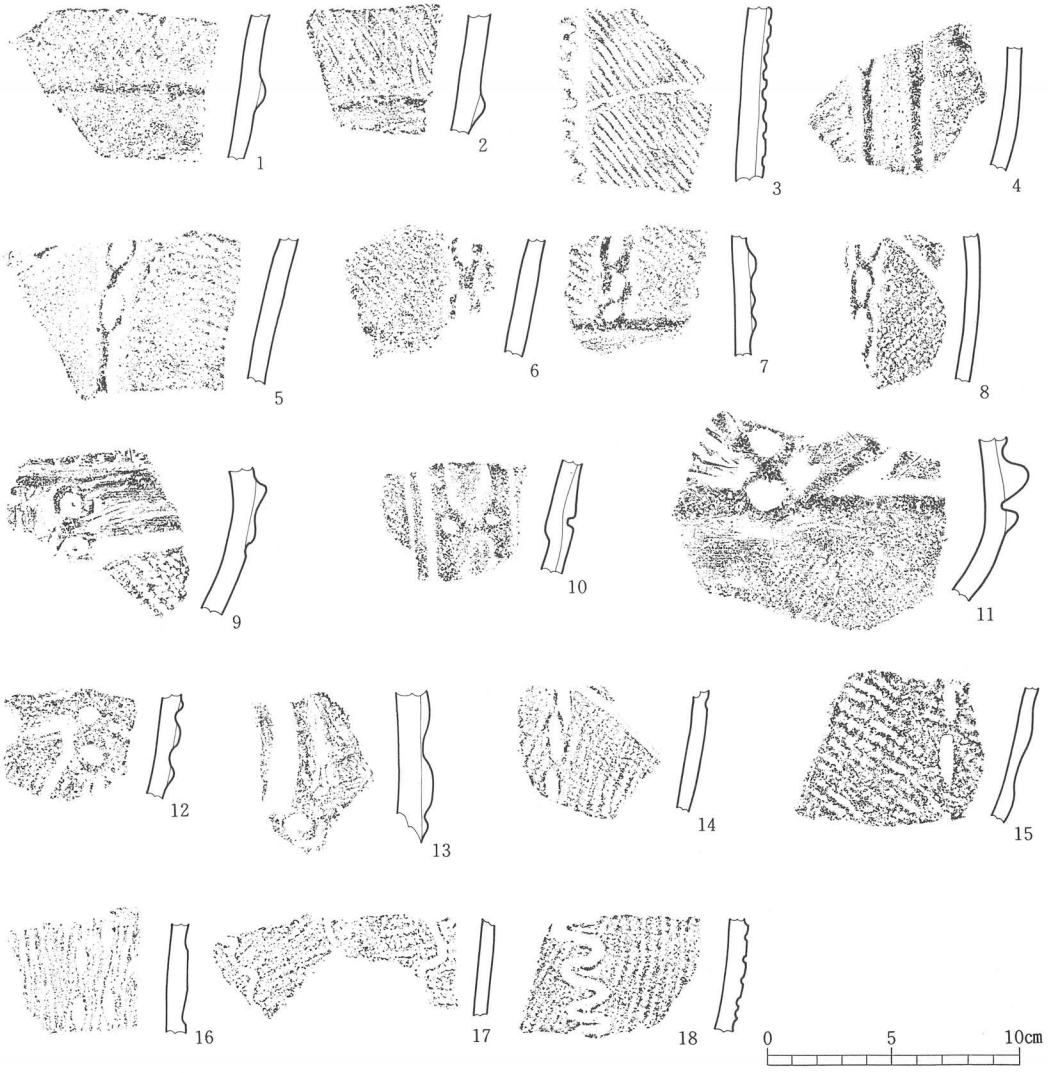


No.	地区・層位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	E－14・2層	深　鉢	沈線文・LR縄文	ナデ・磨キ（横）	XI6	
2	E－14・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・刺突文・LR縄文	隆線文・磨キ（横）	XI6	
3	E－14・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）	XI6	
4	E－14・2層	――（注口）	隆線文・沈線文・刺突文・磨キ	磨キ（横）	XI	
5	E－14・2層	注口土器	沈線文・L撚糸文・磨キ	磨キ（横）	XI	
6	E－14・2層	壷	沈線文・刺突文・LR縄文	ナデ（横・縦）	XI	
7	E－14・2層	深　鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	XI	
8	E－14・2層	深　鉢	貼付文・刺突文	磨キ（横）	XI	

第770図　E－14区　出土土器（16）

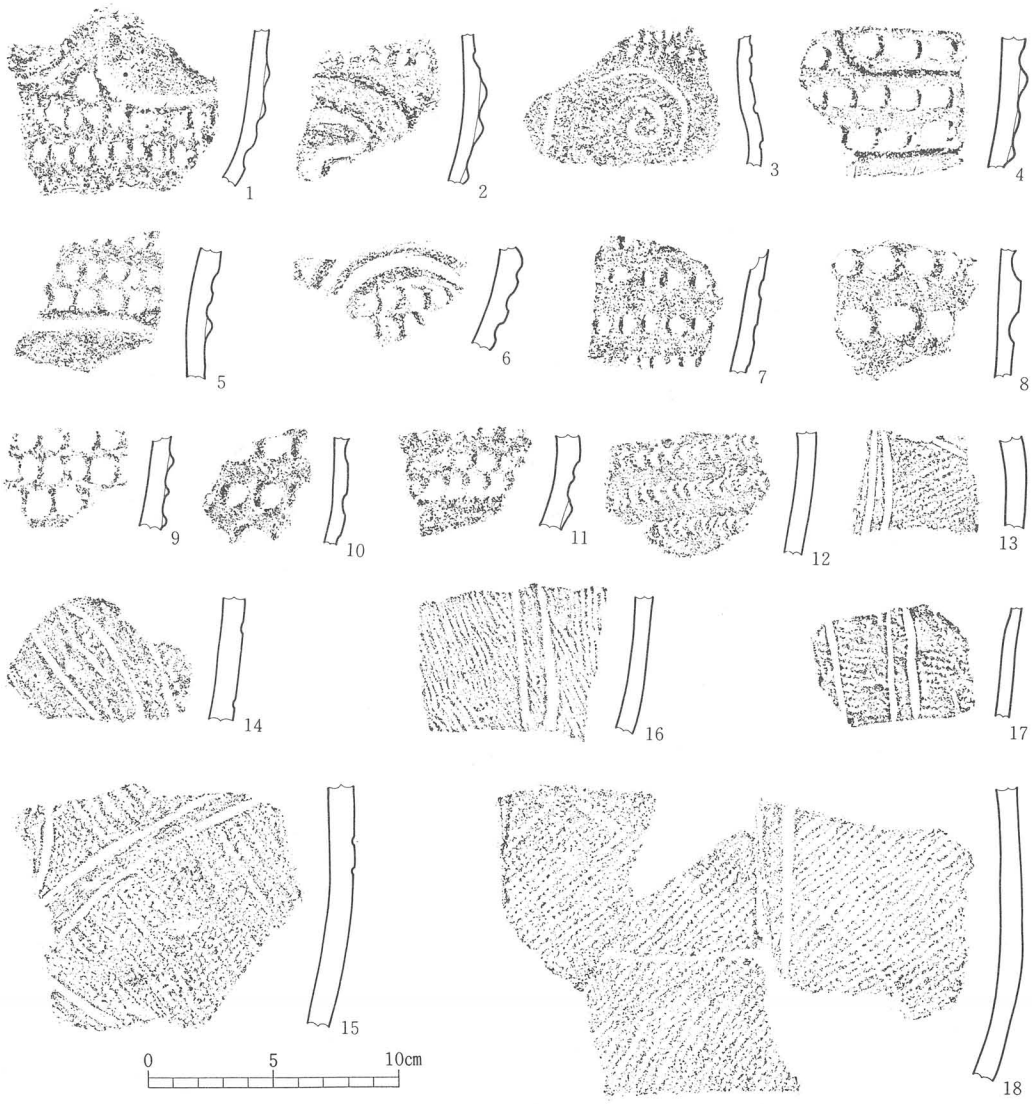
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	E－14・2層	深鉢	沈線文・刺突文・LR縄文	ナデ・磨キ（横）	XI	
2	E－14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横・縦）	XI	
3	E－14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	XI3b	
4	E－14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	XI	
5	E－14・2層	深鉢	沈線文・刺突文・不明縄文	ナデ・磨キ（横）	XI	
6	E－14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	XI	
7	E－14・2層	深鉢	沈線文・R撚糸文	磨キ（横）	XI	
8	E－14・2層	深鉢	沈線文・R撚糸文	磨キ（横）	XI	
9	E－14・2層	深鉢	沈線文・R撚糸文	磨キ（横）	XI	
10	E－14・2層	深鉢	沈線文	磨キ（横）	XI	
11	E－14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横・縦）	XI	
12	E－14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	XI	
13	E－14・2層	深鉢	沈線文・貼付文・不明縄文	磨キ（横）	XI2	
14	E－14・2層	深鉢	貼付文・L撚糸文	磨キ（横）	XI	
15	E－14・2層	深鉢	沈線文・貼付文・不明縄文	磨キ（横）	XI2	
16	E－14・2層	深鉢	沈線文	磨キ（横・縦）	XI	
17	E－14・2層	深鉢	沈線文・刺突文	磨キ（横）	XI	
18	E－14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）	XI	

第771図　E－14区　出土土器（17）



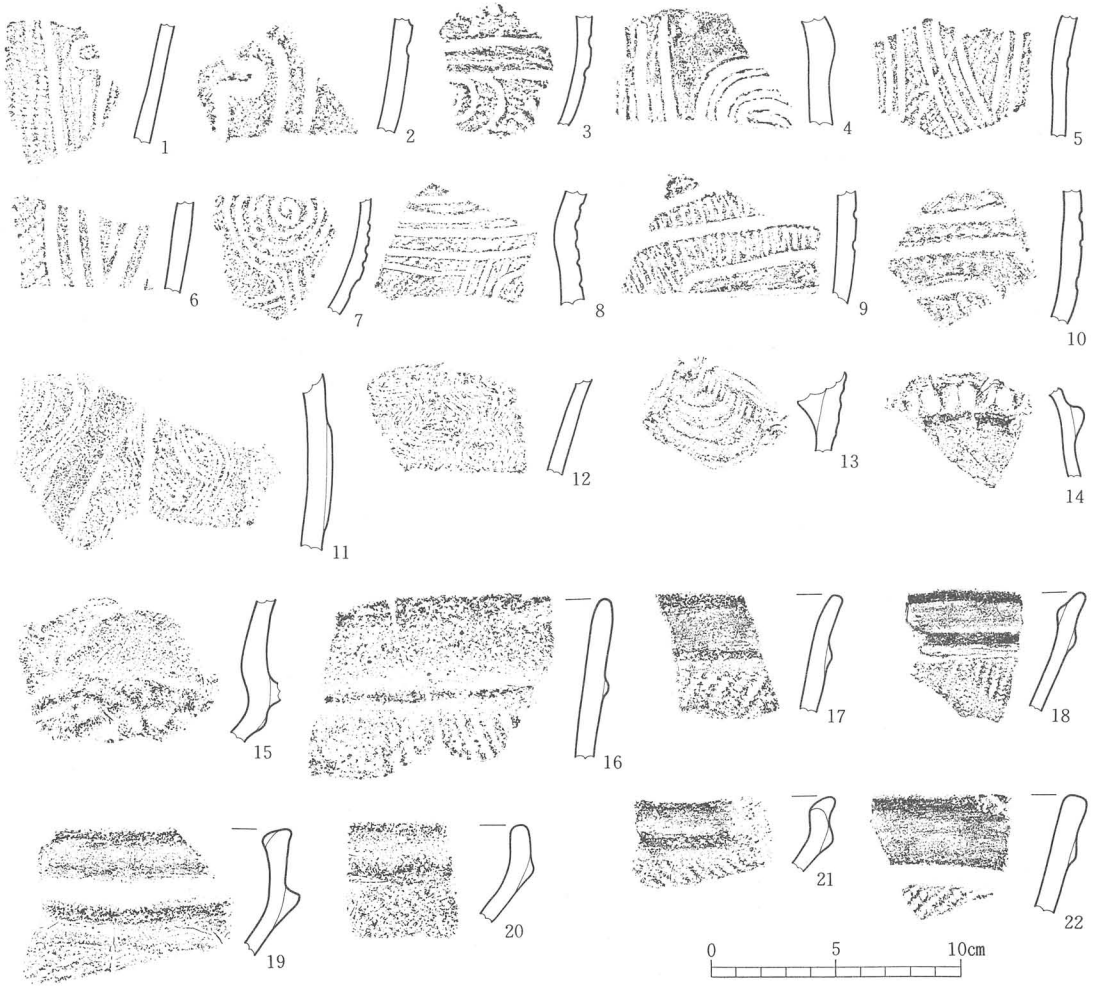
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	E−14・2層	深鉢	隆線文・R撚糸文（綱目）	磨キ（横・縦）		
2	E−14・2層	深鉢	隆線文・R撚糸文（綱目）	ナデ（斜）・磨キ（横）		
3	E−14・2層	深鉢	隆線文・刻目文・L縄文	磨キ（横）	XI 1	
4	E−14・2層	深鉢	隆線文・刺突文・不明縄文	磨キ（横）	XI 1	
5	E−14・2層	深鉢	隆線文・刺突文・不明縄文	磨キ（横）	XI 1	
6	E−14・2層	深鉢	隆線文・刺突文・不明縄文	磨キ（横）	XI 1	
7	E−14・2層	深鉢	隆線文・刺突文・LR縄文	磨キ（横）	XI 1	
8	E−14・2層	深鉢	沈線文・刺突文・RL縄文	磨キ（横）	XI 1	
9	E−14・2層	深鉢	沈線文・貼付文・刺突文・LR縄文	磨キ（横）	XI	
10	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文	ナデ・磨キ（横）	XI 1	
11	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・貼付文・RL縄文	磨キ（横・縦）	XI 1	
12	E−14・2層	深鉢	沈線文・刺突文	磨キ（縦）	XI	
13	E−14・2層	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	XI	
14	E−14・2層	深鉢	沈線文・刺突文・LR縄文	磨キ（横・斜）	XI	
15	E−14・2層	深鉢	刺突文・L縄文	磨キ（縦・斜）	XI	
16	E−14・2層	深鉢	刺突文・L撚糸文	ナデ（横）	XI	
17	E−14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	XI 3a	
18	E−14・2層	深鉢	LR縄文	磨キ（横）	XI 3a	

第772図　E−14区　出土土器（18）



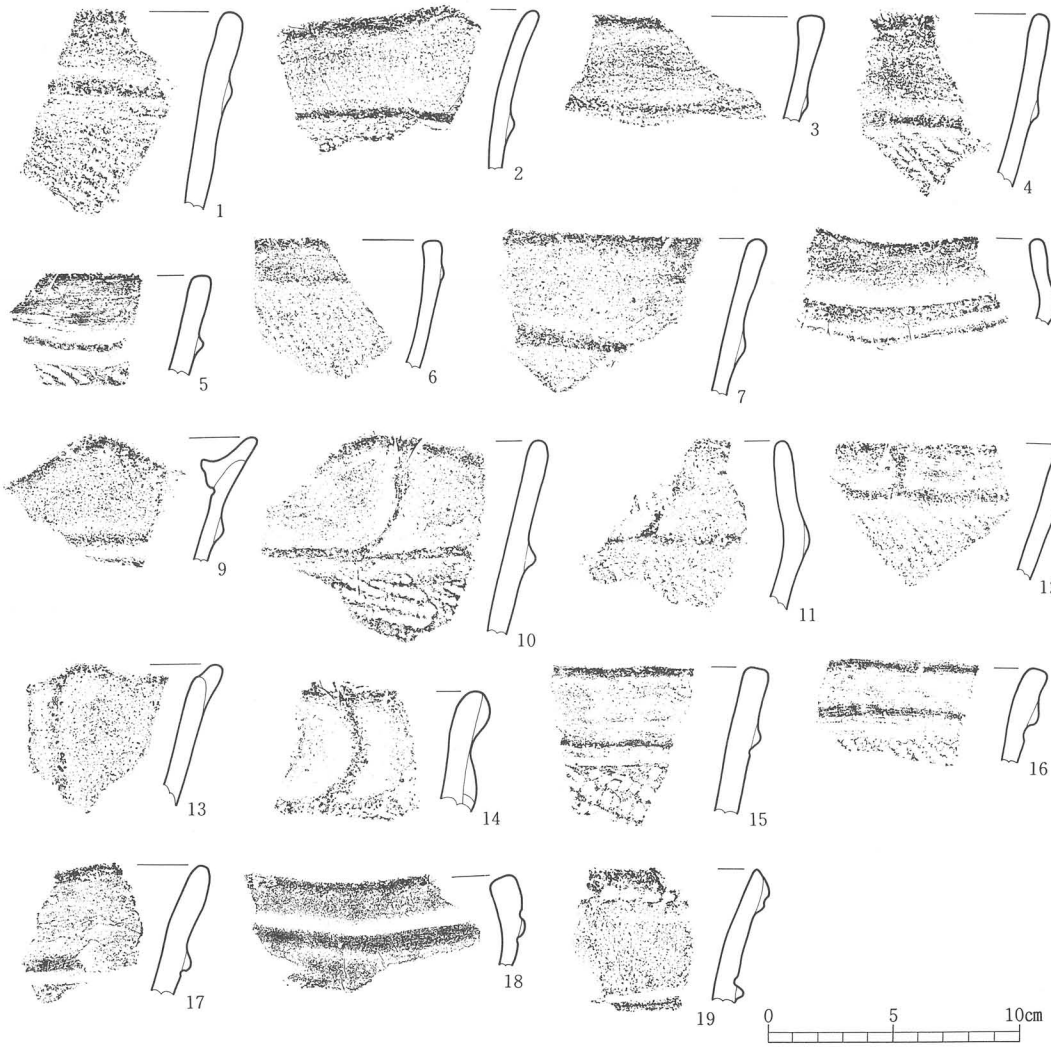
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	E−14・2層	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	XI 7	
2	E−14・2層	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横・縦）	XI	
3	E−14・2層	深鉢	沈線文・刺突文	ナデ・磨キ（横）	XI	
4	E−14・2層	深鉢	隆線文・刺突文	ナデ・磨キ（横）	XI 7	
5	E−14・2層	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横・斜）	XI 7	
6	E−14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文	磨キ（横）	XI 7	
7	E−14・2層	深鉢	刺突文	磨キ（横）	XI 7	
8	E−14・2層	深鉢	刺突文	ナデ・磨キ（横）	XI 7	
9	E−14・2層	深鉢	刺突文	ナデ・磨キ（横）	XI 7	
10	E−14・2層	深鉢	刺突文	磨キ（横）	XI 7	
11	E−14・2層	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	XI 7	
12	E−14・2層	深鉢	刺突文	磨キ（横）	XI	
13	E−14・2層	深鉢	沈線文・L縄文	ナデ・磨キ（横）	XI	
14	E−14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	ナデ・磨キ（横）	XI	
15	E−14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	XI 1	
16	E−14・2層	深鉢	沈線文・R撚糸文	磨キ（横）	XI	
17	E−14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	XI	
18	E−14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横・縦）	XI	

第773図　E−14区　出土土器（19）



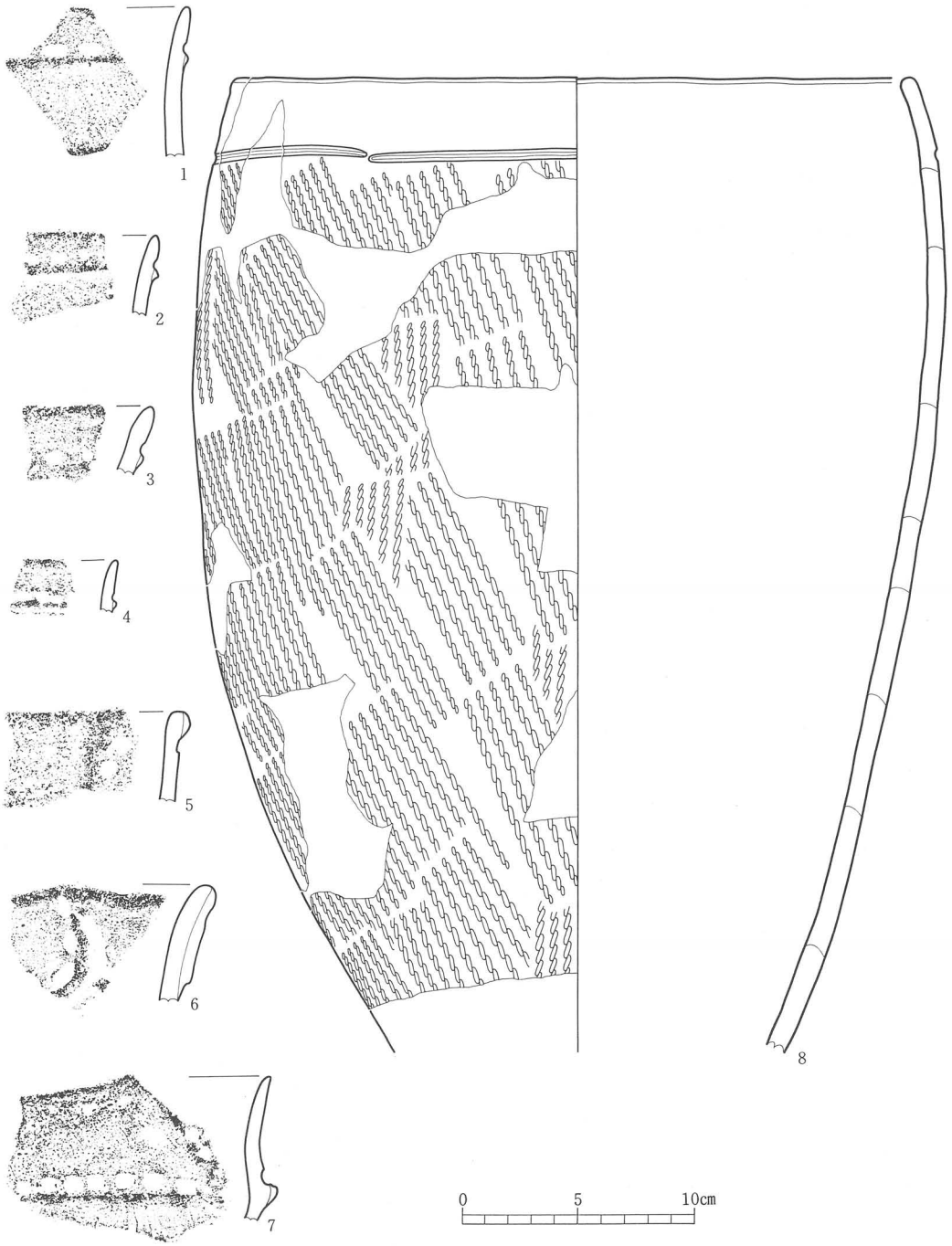
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	E－14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	XI2	
2	E－14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	XI2	
3	E－14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	XI	
4	E－14・2層	深鉢	沈線文	磨キ（横）	XI	
5	E－14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	XI7	
6	E－14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	XI7	
7	E－14・2層	深鉢	沈線文	磨キ（横）	XI	
8	E－14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	XI	
9	E－14・2層	深鉢	沈線文・R撚糸文	磨キ（横）	XI	
10	E－14・2層	深鉢	沈線文・不明縄文	磨キ（横）	XI	
11	E－14・2層	深鉢	隆線文・櫛歯文	磨キ（横）		
12	E－14・2層	深鉢	櫛歯文	磨キ（横）		
13	E－14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刻目文	磨キ（横）	XII	
14	E－14・2層	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）		
15	E－14・2層	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）		
16	E－14・2層	深鉢	隆線文・L撚糸文	磨キ（横）	BI	
17	E－14・2層	深鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横）	BI	
18	E－14・2層	深鉢	隆線文・RL縄文	隆線文・磨キ（横）	BI	
19	E－14・2層	深鉢	隆線文・RL縄文	隆線文・磨キ（横）	BI	
20	E－14・2層	深鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横）	BI	
21	E－14・2層	深鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横）	BI	
22	E－14・2層	深鉢	隆線文・LR縄文	ナデ・磨キ（横）	BI	

第774図　E－14区　出土土器（20）



No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	E－14・2層	深鉢	隆線文・LR縄文	不明	BI	
2	E－14・2層	深鉢	隆線文・LR縄文	ナデ・磨キ（横）	BI	
3	E－14・2層	深鉢	隆線文・不明縄文	磨キ（横）	BI	
4	E－14・2層	深鉢	隆線文・L縄文	磨キ（横）	BI	
5	E－14・2層	深鉢	隆線文・L撚糸文	磨キ（横）	BI	
6	E－14・2層	深鉢	隆線文・L撚糸文	磨キ（横）	BI	
7	E－14・2層	深鉢	隆線文	磨キ（横・縦）	BI	
8	E－14・2層	深鉢	隆線文	ナデ・磨キ（横）	BI	
9	E－14・2層	深鉢	隆線文	隆線文・磨キ（横）	BI	
10	E－14・2層	深鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（横）	BI	
11	E－14・2層	深鉢	隆線文・R撚糸文	磨キ（横・斜）	BI	
12	E－14・2層	深鉢	隆線文・L縄文	磨キ（横）	BI	
13	E－14・2層	深鉢	隆線文	磨キ（横）	BI	
14	E－14・2層	深鉢	隆線文	磨キ（横）	BI	
15	E－14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	ナデ・磨キ（横）	BII	
16	E－14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）	BII	
17	E－14・2層	深鉢	隆線文・沈線文	ナデ・磨キ（横）	BII	
18	E－14・2層	深鉢	隆線文・沈線文	ナデ・磨キ（横）	BII	
19	E－14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文	磨キ（横）	BII	

第775図　E－14区　出土土器（21）

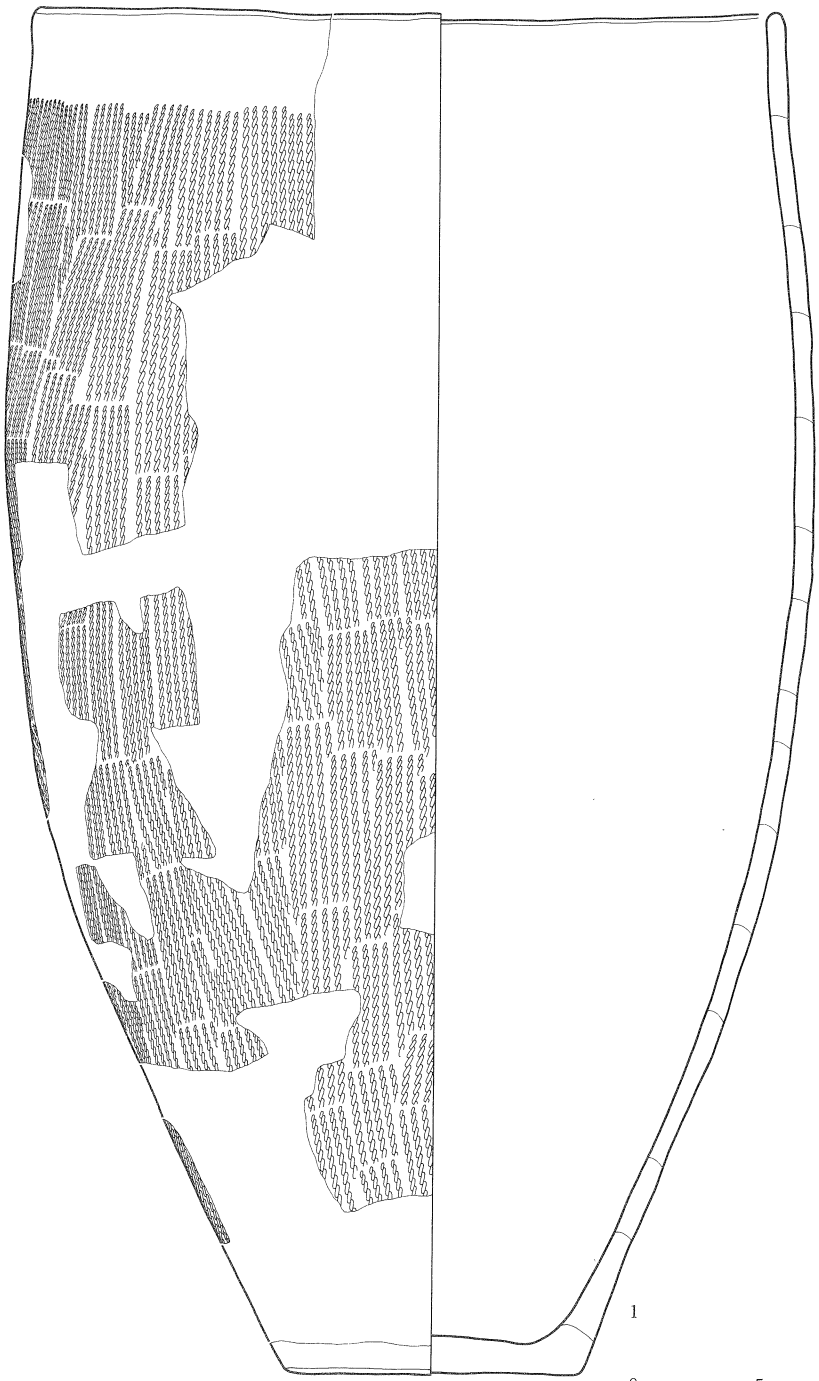


No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	E－14・2層	深鉢	隆線文・刺突文・R撚糸文	磨キ（横）	BIII	
2	E－14・2層	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	BIII	
3	E－14・2層	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	BIII	
4	E－14・2層	深鉢	沈線文・刺突文	磨キ（横）	BIII	
5	E－14・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文	磨キ（横・斜）	BIII	
6	E－14・2層	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	BIII	
7	E－14・2層	深鉢	隆線文・刺突文・R撚糸文	磨キ（横）	BIII	
8	E－14・2層	深鉢	沈線文・L撚糸文	磨キ（横・斜）	BIV	

第776図　E－14区　出土土器（22）

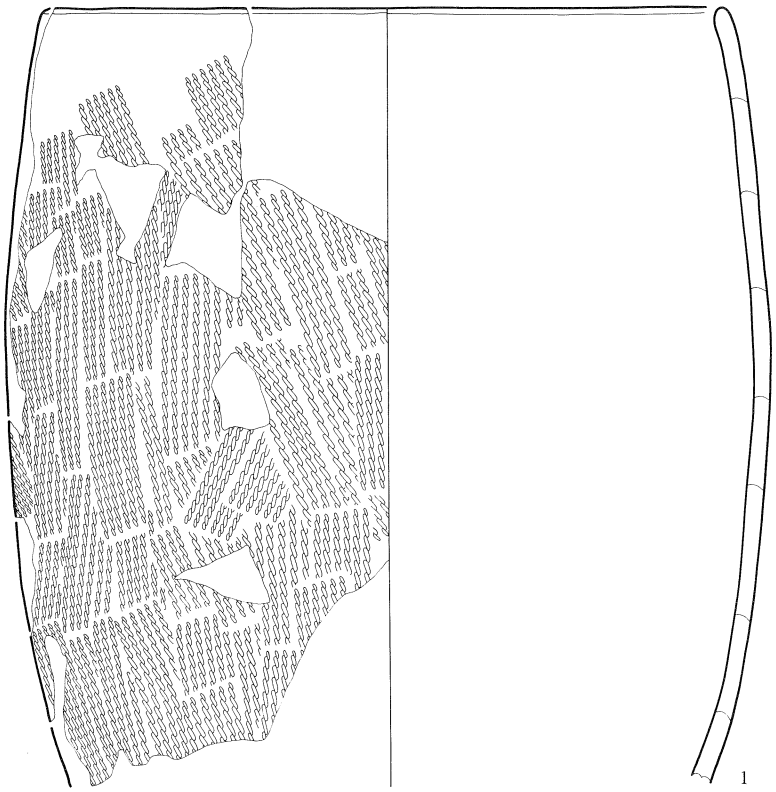
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	E－14・2層	深鉢	沈線文・L撚糸文	磨キ（横）	BIV	
2	E－14・2層	深鉢	沈線文・L縄文	磨キ（横）	BIV	
3	E－14・2層	深鉢	沈線文・L撚糸文	磨キ（横）	BIV	
4	E－14・2層	深鉢	沈線文・R撚糸文	ナデ・磨キ（横）	BIV	
5	E－14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	BIV	
6	E－14・2層	深鉢	沈線文・L撚糸文	磨キ（横）	BIV	
7	E－14・2層	深鉢	沈線文・L縄文	磨キ（横）	BIV	
8	E－14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	BIV	
9	E－14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	BIV	
10	E－14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	BIV	
11	E－14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	BIV	
12	E－14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	BIV	
13	E－14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横・斜）	BIV	
14	E－14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	BIV	
15	E－14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	BIV	
16	E－14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横・縦）	BIV	
17	E－14・2層	深鉢	刺突文・R撚糸文	ナデ・磨キ（横）	BV	
18	E－14・2層	深鉢	沈線文・刺突文	磨キ（横）	BV	
19	E－14・2層	深鉢	刺突文・R撚糸文	磨キ（横）	BV	

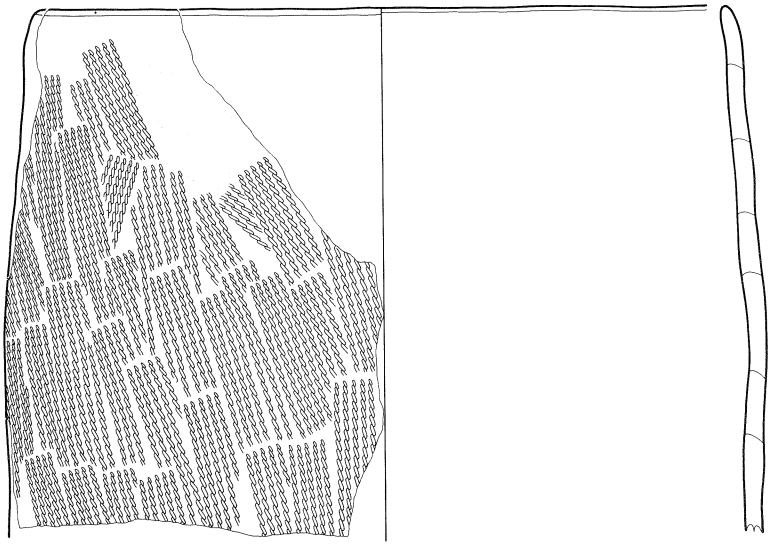
第777図　E－14区　出土土器（23）

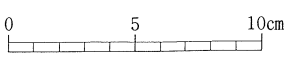


No.	地区・層位	器　形	外　面	内　面	底　部	分　類	備　考
1	E－14・2層	深　鉢	L撚糸文・磨キ	磨キ（横・縦）	磨　キ	BVI	

第778図　E－14区　出土土器（24）

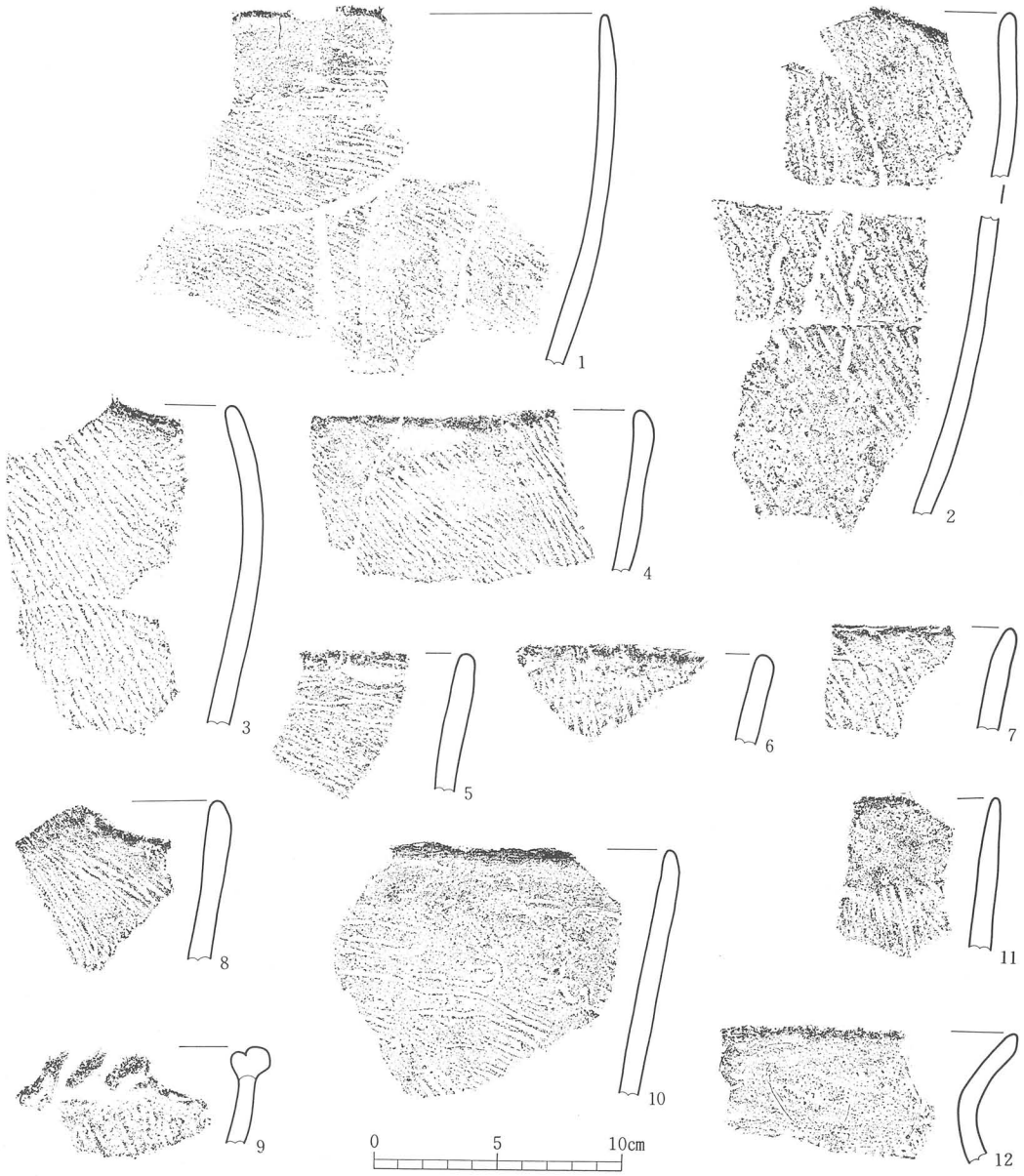






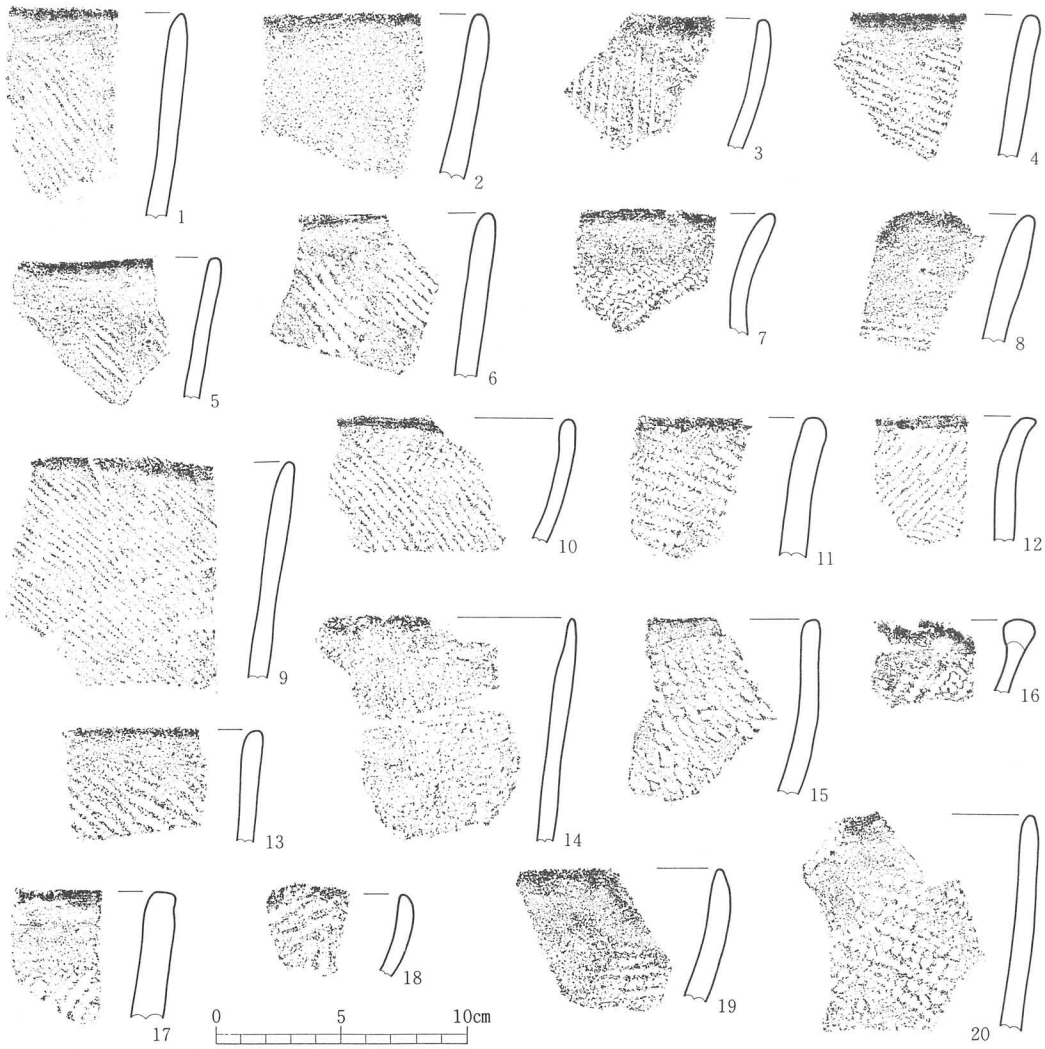
No	地区・層位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	E－14・2層	深　鉢	R撚糸文・磨キ	磨キ（横）	BVI	
2	E－14・2層	深　鉢	R撚糸文・磨キ	磨キ（横）	BVI	

第779図　E－14区　出土土器（25）



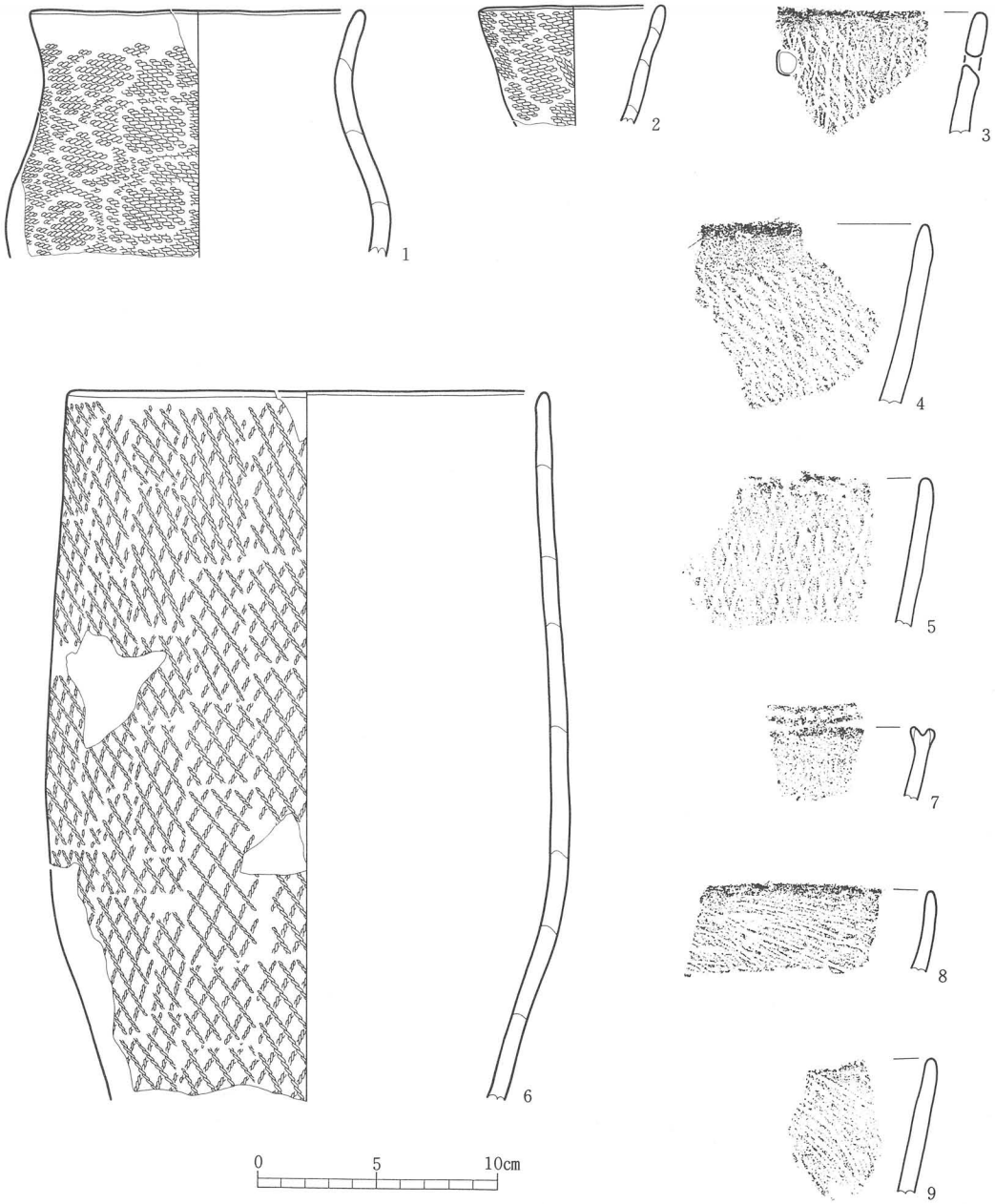
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	E−14・2層	深鉢	R撚糸文	ナデ（横・斜）	BVI	
2	E−14・2層	深鉢	R撚糸文・綾絡文	磨キ（横・斜）	BVI	
3	E−14・2層	深鉢	L撚糸文	磨キ（横・斜）	BVI	
4	E−14・2層	深鉢	R撚糸文	ナデ（横）	BVI	
5	E−14・2層	深鉢	R撚糸文	ナデ・磨キ（横）	BVI	
6	E−14・2層	深鉢	L撚糸文	ナデ（縦）磨キ（横）	BVI	
7	E−14・2層	深鉢	L撚糸文	ナデ・磨キ（横）	BVI	
8	E−14・2層	深鉢	R撚糸文	磨キ（横）	BVI	
9	E−14・2層	深鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（横）	BVI	
10	E−14・2層	深鉢	R撚糸文	ナデ・磨キ（横・斜）	BVI	
11	E−14・2層	深鉢	L撚糸文	磨キ（横・斜）	BVI	
12	E−14・2層	深鉢	R撚糸文	磨キ（横）	BVI	

第780図　E−14区　出土土器（26）



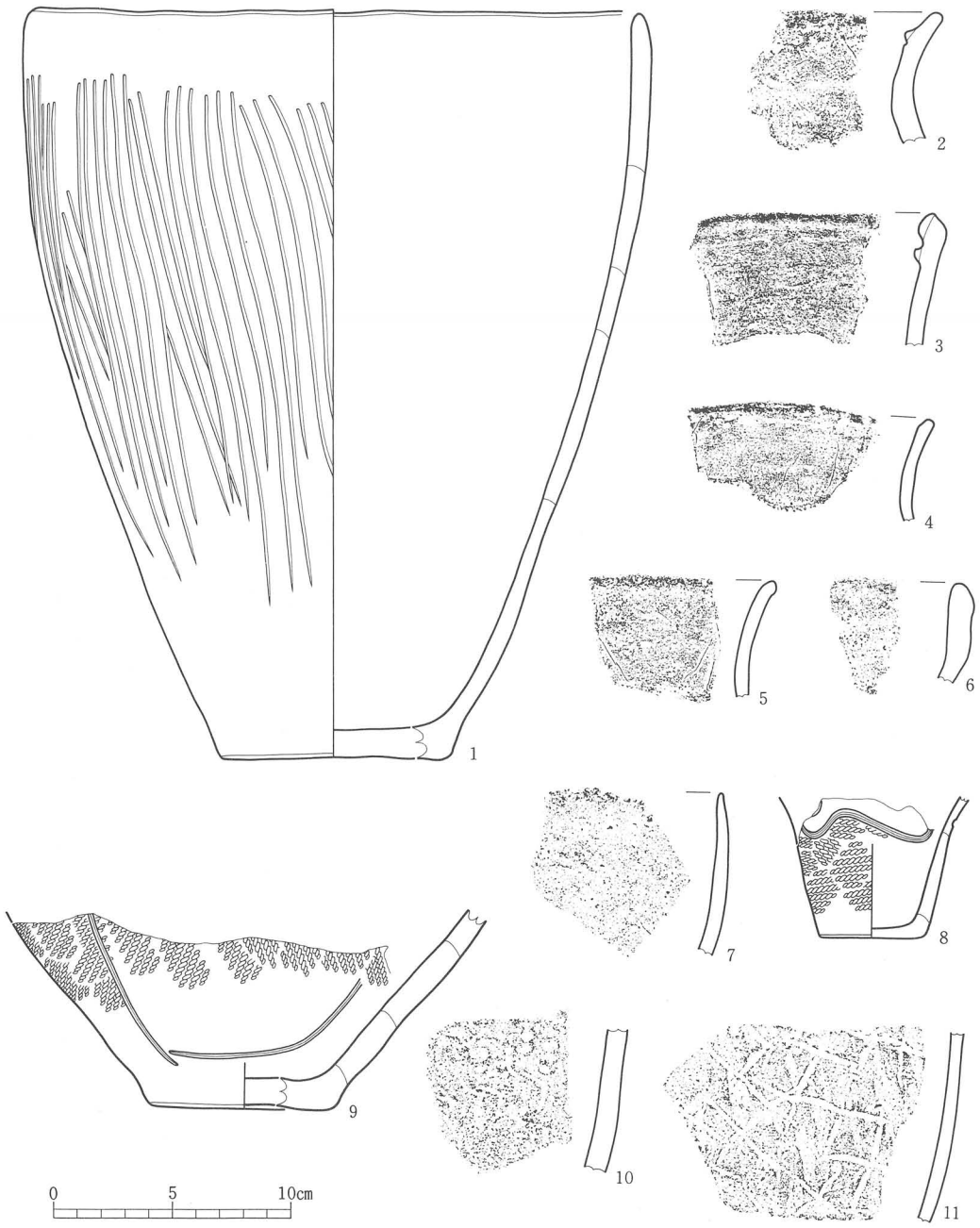
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	E−14・2層	深鉢	R撚糸文	磨キ（横）	BVI	
2	E−14・2層	深鉢	R撚糸文	磨キ（横）	BVI	
3	E−14・2層	深鉢	L撚糸文	磨キ（横）	BVI	
4	E−14・2層	深鉢	LR縄文	磨キ（横）	BVI	
5	E−14・2層	深鉢	RL縄文	磨キ（横）	BVI	
6	E−14・2層	深鉢	RL縄文	磨キ（横）	BVI	
7	E−14・2層	深鉢	RL縄文	磨キ（横）	BVI	
8	E−14・2層	深鉢	RL縄文	磨キ（横・斜）	BVI	
9	E−14・2層	深鉢	LR縄文	ナデ（横・斜）	BVI	
10	E−14・2層	深鉢	RL縄文	ナデ（横）	BVI	
11	E−14・2層	深鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横）	BVI	
12	E−14・2層	深鉢	LR縄文	磨キ（横）	BVI	
13	E−14・2層	深鉢	LR縄文	磨キ（横・斜）	BVI	
14	E−14・2層	深鉢	RLR縄文	磨キ（横）	BVI	
15	E−14・2層	深鉢	R撚糸文	磨キ（横）	BVI	
16	E−14・2層	深鉢	隆線文・RL縄文	ナデ・磨キ（横）	BVI	
17	E−14・2層	深鉢	RL縄文	磨キ（横）	BVI	
18	E−14・2層	深鉢	LR縄文	磨キ（横）	BVI	
19	E−14・2層	深鉢	LR縄文	磨キ（横）	BVI	
20	E−14・2層	深鉢	LR縄文	磨キ（横）	BVI	

第781図　E−14区　出土土器（27）



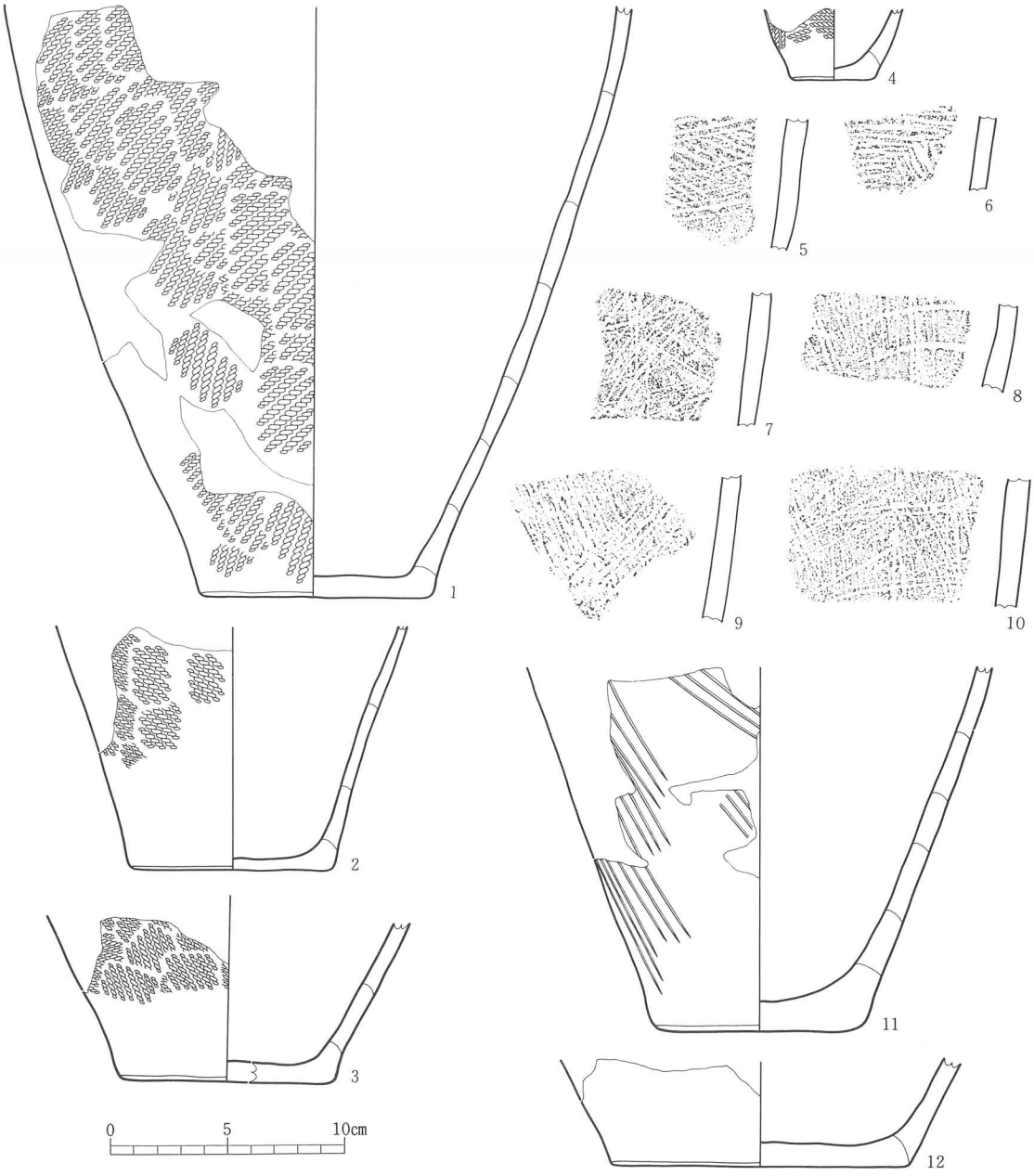
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	E－14・2層	深鉢	LR縄文・磨キ	磨キ（横）	BVI	
2	E－14・2層	鉢	LR縄文	ナデ（横）	BVI	
3	E－14・2層	深鉢	R撚糸文・L撚糸文（網目）	磨キ（横）	BVI	
4	E－14・2層	深鉢	R撚糸文・L撚糸文（網目）	磨キ（横）	BVI	
5	E－14・2層	深鉢	R撚糸文	磨キ（横）	BVI	
6	E－14・2層	深鉢	網目状R撚糸文	磨キ（横・縦）	BVI	
7	E－14・2層	深鉢	隆線文・刺突文・条線文	磨キ（横）	BVI	
8	E－14・2層	深鉢	隆線文・刺突文・条線文	磨キ（横）	BVI	
9	E－14・2層	深鉢	条線文	ナデ・磨キ（横）	BVI	

第782図　E－14区　出土土器（28）



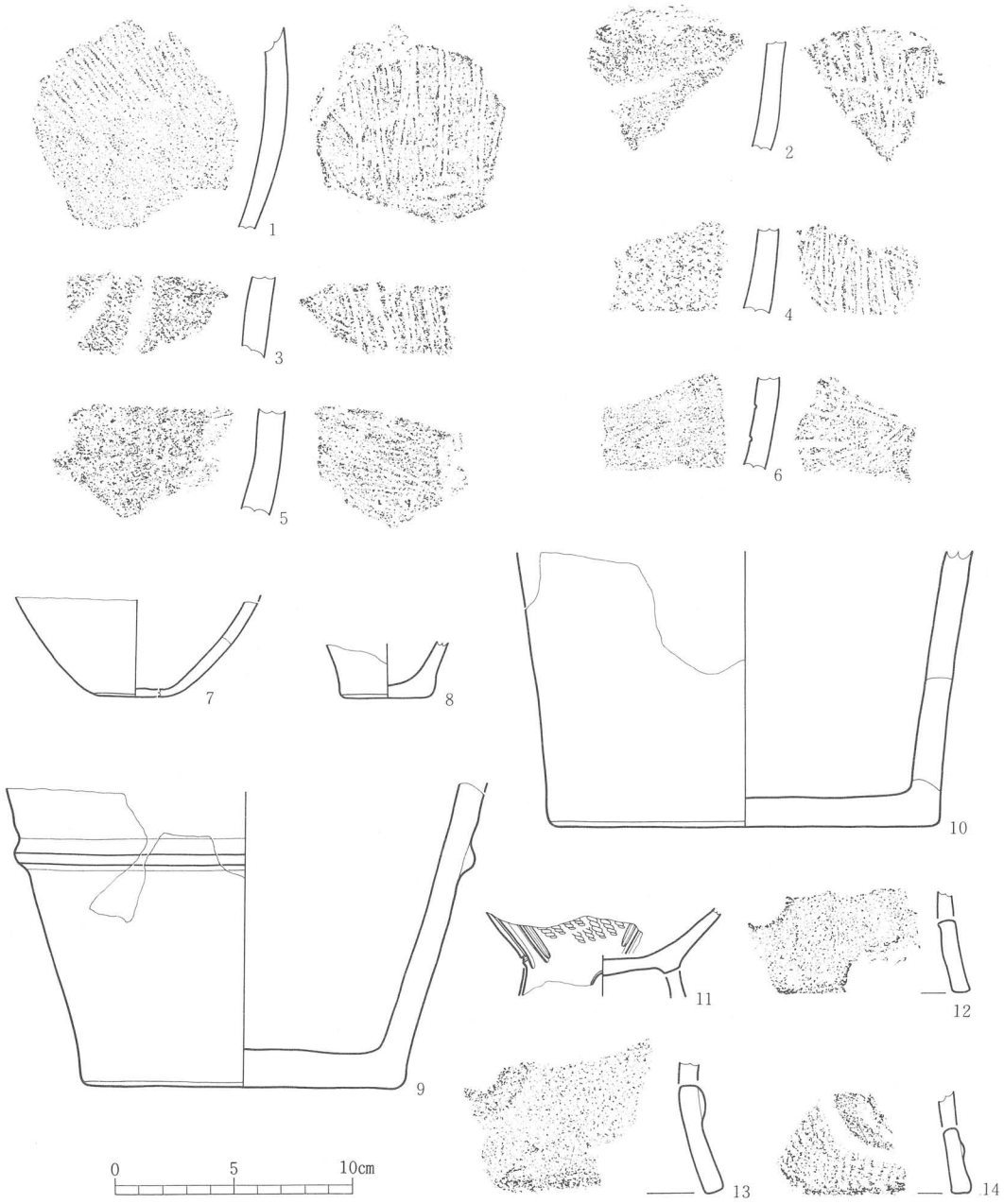
No.	地区・層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	E－14・2層	深鉢	条線文・磨キ	磨キ（横）	ケズリ	BVI	
2	E－14・2層	深鉢	磨キ	隆線文・磨キ（横）		BVII	
3	E－14・2層	深鉢	磨キ	隆線文・磨キ（横）		BVII	
4	E－14・2層	深鉢	磨キ	磨キ（横）		BVII	
5	E－14・2層	深鉢	磨キ	磨キ（横）		BVII	
6	E－14・2層	深鉢	不明縄文	磨キ（横）		BVI	
7	E－14・2層	深鉢	不明縄文	磨キ（横）		BVI	
8	E－14・2層	深鉢	沈線文・LR縄文・磨キ	磨キ（横）			
9	E－14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文・磨キ	磨キ（横）			
10	E－14・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横・斜）		B	
11	E－14・2層	深鉢	R撚糸文（網目）	ナデ（横・斜）		B	

第783図　E－14区　出土土器（29）



No.	地区・層位	器　形	外　面	内　面	底　部	分　類	備　考
1	E－14・2層	深　鉢	RL縄文・磨キ	磨キ（縦）	磨　キ		
2	E－14・2層	深　鉢	RL縄文・磨キ	磨キ（横）	磨　キ		
3	E－14・2層	深　鉢	RL縄文・磨キ	磨キ（横）	磨　キ		
4	E－14・2層	——	RL縄文・磨キ	磨キ（横）	磨　キ		
5	E－14・2層	深　鉢	櫛歯文	磨キ（縦）		B	
6	E－14・2層	深　鉢	条線文	磨キ（横）		B	
7	E－14・2層	深　鉢	条線文	磨キ（横）		B	
8	E－14・2層	深　鉢	条線文	ナデ（横）		B	
9	E－14・2層	深　鉢	条線文	ナデ（横・斜）		B	
10	E－14・2層	深　鉢	条線文	磨キ（斜）		B	
11	E－14・2層	深　鉢	条線文	ナデ（縦）	マメツ		
12	E－14・2層	深　鉢	磨　キ	ナデ（横）	ナ　デ		

第784図　E－14区　出土土器（30）

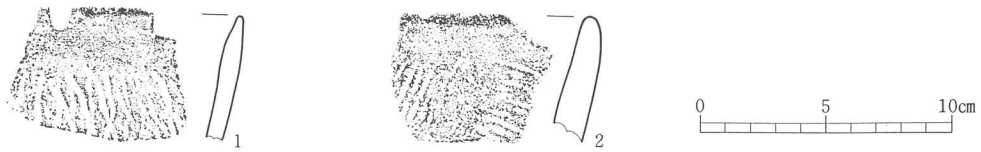


No.	地区・層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	E－14・2層	深鉢	R撚糸文	条線文		B	
2	E－14・2層	深鉢	不明縄文	条線文		B	
3	E－14・2層	深鉢	沈線文・不明縄文	条線文		B	
4	E－14・2層	深鉢	不明縄文	条線文		B	
5	E－14・2層	深鉢	不明縄文	条線文		B	
6	E－14・2層	深鉢	磨キ	沈線文・条線文		B	
7	E－14・2層	——	磨キ	ナデ（横）	ナデ		
8	E－14・2層	——	磨キ	マメツ	マメツ		
9	E－14・——	深鉢	隆線文・ナデ	ナデ	ナデ		
10	E－14・2層	深鉢	マメツ	ナデ（横）	網代痕		
11	E－14・2層	台付鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	ナデ			
12	E－14・2層	台or脚	磨キ	磨キ（横）			
13	E－14・2層	台or脚	隆線文	磨キ（横）			
14	E－14・2層	台or脚	隆線文・LR縄文	磨キ（横）			

第785図　E－14区　出土土器（31）

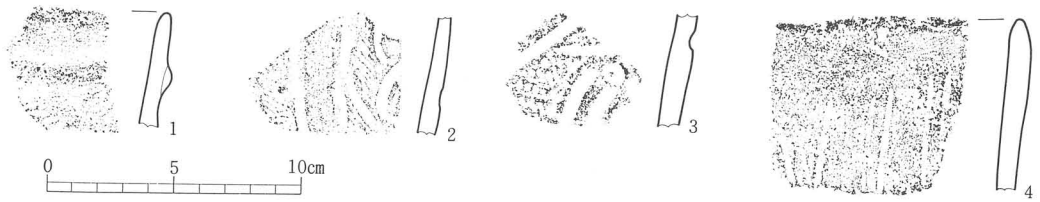
No.	地区・層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	Q－21・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）		BIV	
2	Q－21・2層	深鉢	刺突文	磨キ（横）			
3	Q－21・2層	深鉢	隆線文・沈線文・貼付文	磨キ（横・斜）		XI	
4	Q－21・2層	深鉢	沈線文・刺突文・LR縄文	磨キ（横）		XI	
5	Q－21・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横・縦）		XI	
6	Q－21・2層	深鉢	L撚糸文	磨キ（横）		BVI	
7	Q－21・2層	深鉢	R撚糸文	磨キ（横・斜）		BVI	
8	Q－21・2層	深鉢	LR縄文	磨キ（横）		BVI	
9	Q－21・2層	深鉢	隆線文・沈線文・貼付文	磨キ（横・斜）		X16	
10	Q－21・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）		X16	
11	Q－21・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文	磨キ（横）		XI	
12	Q－21・2層	深鉢	沈線文・貼付文・LR縄文	磨キ（横）		XI2	
13	Q－21・2層	深鉢	磨キ	磨キ（横）	ナデ		
14	Q－21・2層	深鉢	RL縄文・磨キ	磨キ（横・縦）	ナデ		

第786図　Q－21区　出土土器



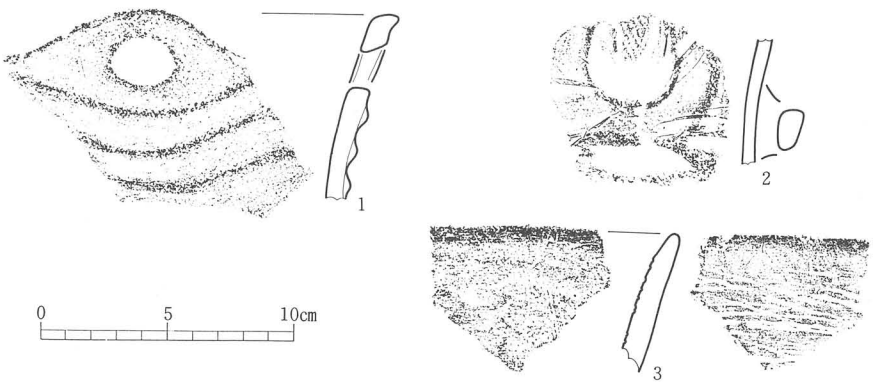
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	R－21・3層	深鉢	R撚糸文	磨キ（横）	BVI	
2	R－21・3層	深鉢	LR縄文	ナデ・磨キ（横）	BVI	

第787図　R－21区　出土土器



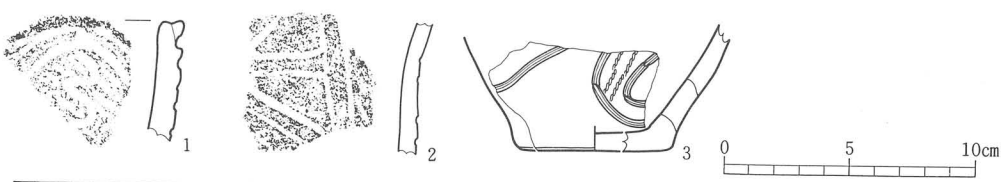
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	R－22・3層	深鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横）	BI	
2	R－22・3層	深鉢	沈線文・R撚糸文	磨キ（縦）	XI	
3	R－22・風倒木	深鉢	沈線文・刺突文・RL縄文	磨キ（横）	XI	
4	R－22・風倒木	深鉢	沈線文	磨キ（横・斜）	BVI	

第788図　R－22区　出土土器



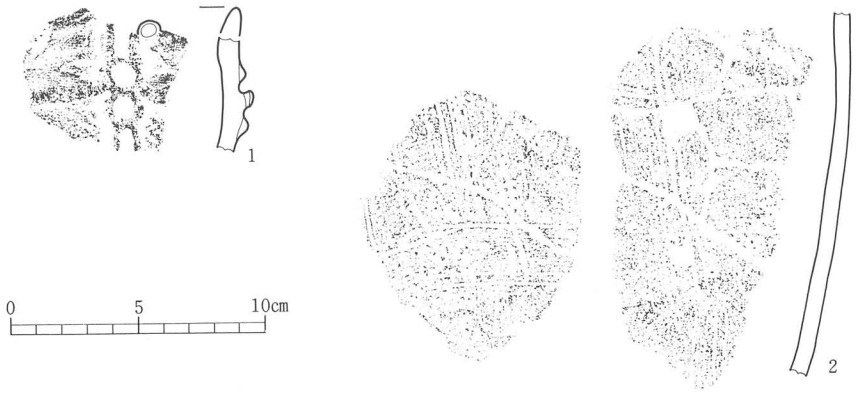
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	R－23・3層	深鉢	隆線文	磨キ（横・斜）	X	
2	R－23・3層	深鉢	沈線文	磨キ（横）		
3	R－23・2層	深鉢	LR縄文	条線文	BVI	

第789図　R－23区　出土土器



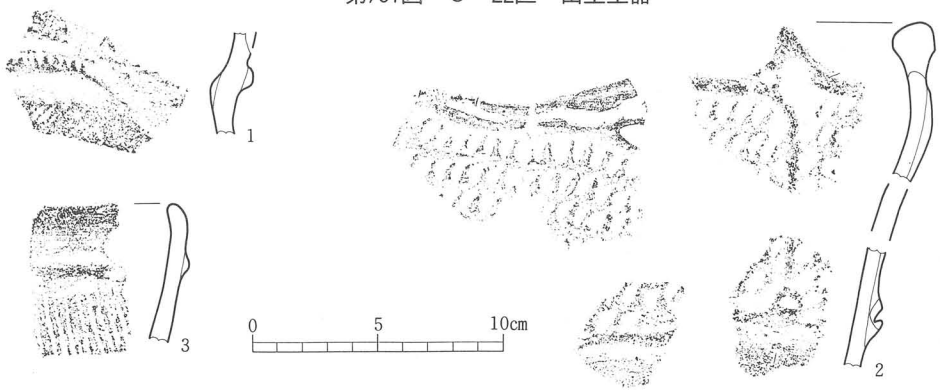
No.	地区・層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	S－21・2層	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	ナデ・磨キ（横）		X2	
2	S－21・2層	深鉢	沈線文	磨キ（横）		XI	
3	S－21・2層	鉢	沈線文・R撚糸文・磨キ	ナデ（縦）	磨キ	XI	

第790図　S－21区　出土土器



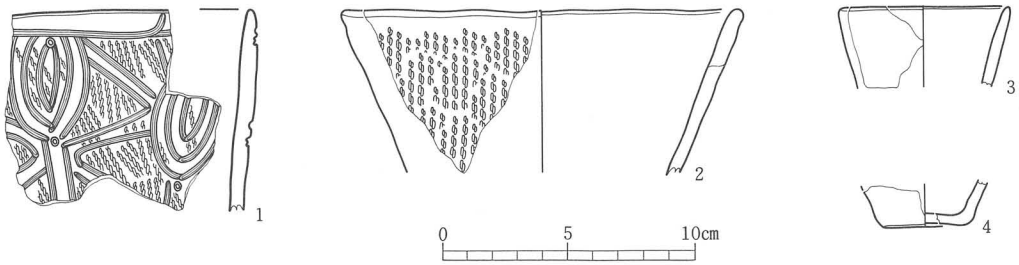
No.	地区・層位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	S－22・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・刺突文・LR縄文	ナデ・磨キ（横）	XI	
2	S－21・2層	深　鉢	条線文	ナデ（横）	B	

第791図　S－22区　出土土器



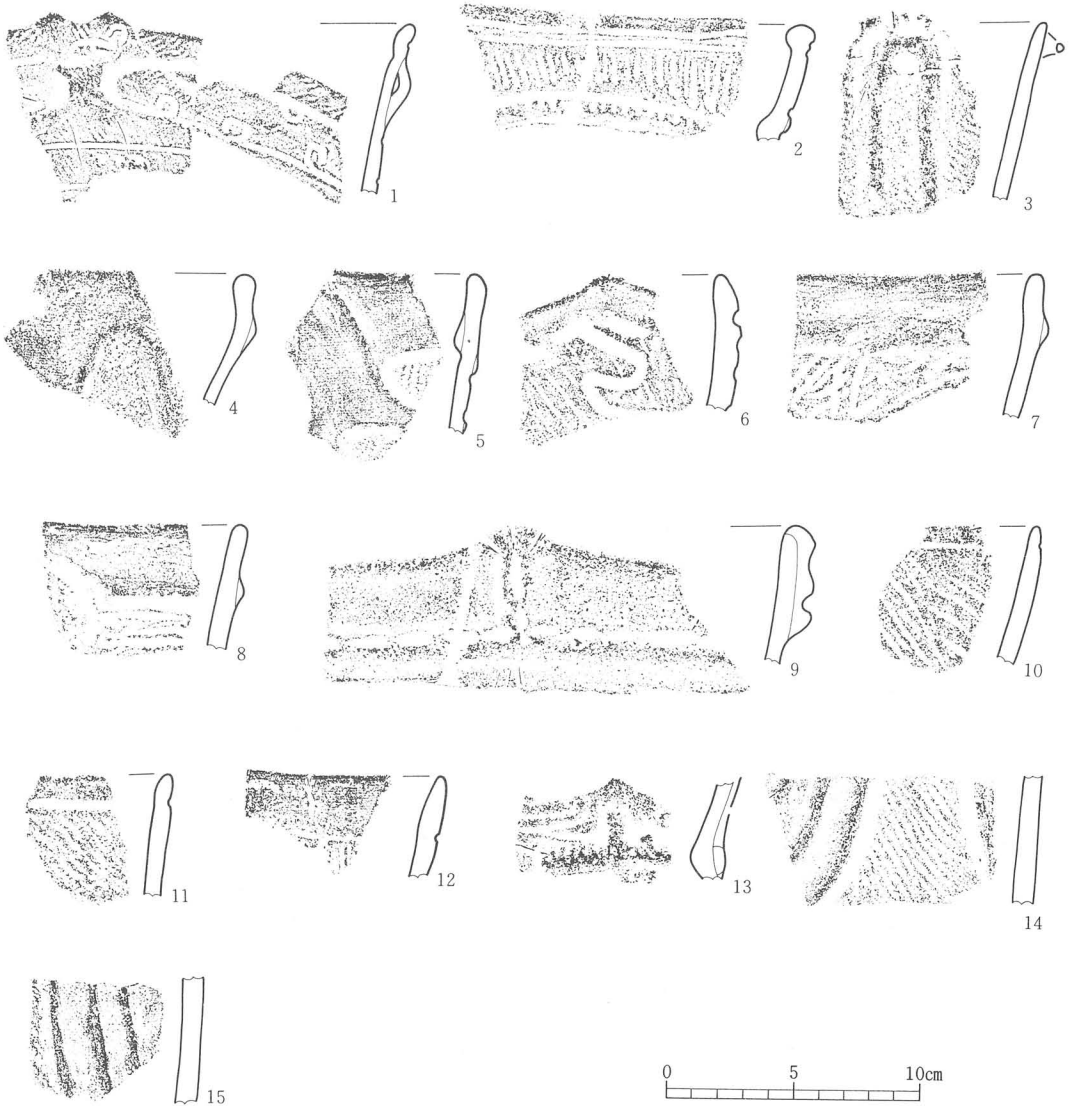
No.	地区・層位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	ST－21・3層	深　鉢	隆線文・沈線文・刻目文・不明縄文	磨キ（横）	VII	
2	ST－21・3層	深　鉢	隆線文・沈線文・貼付文・刺突文	ナデ・磨キ（横）	XI 7	
3	ST－21・3層	深　鉢	隆線文・R撚糸文	ナデ・磨キ（横）	B I	

第792図　S・T－21　出土土器



No.	地区・層位	器　形	外　面	内　面	底　部	分　類	備　考
1	E－15・東2層	深　鉢	沈線文・刺突文・L撚糸文	磨キ（横）		XI 6	
2	E－15・2層	鉢	LRL縄文・磨キ	磨キ（横）		BVI	
3	E－15・2層	ミニチュア	ケズリ	ナ　デ			
4	E－15・2層	ミニチュア	ナ　デ	ナ　デ	ナ　デ		

第793図　E－15区　出土土器（1）

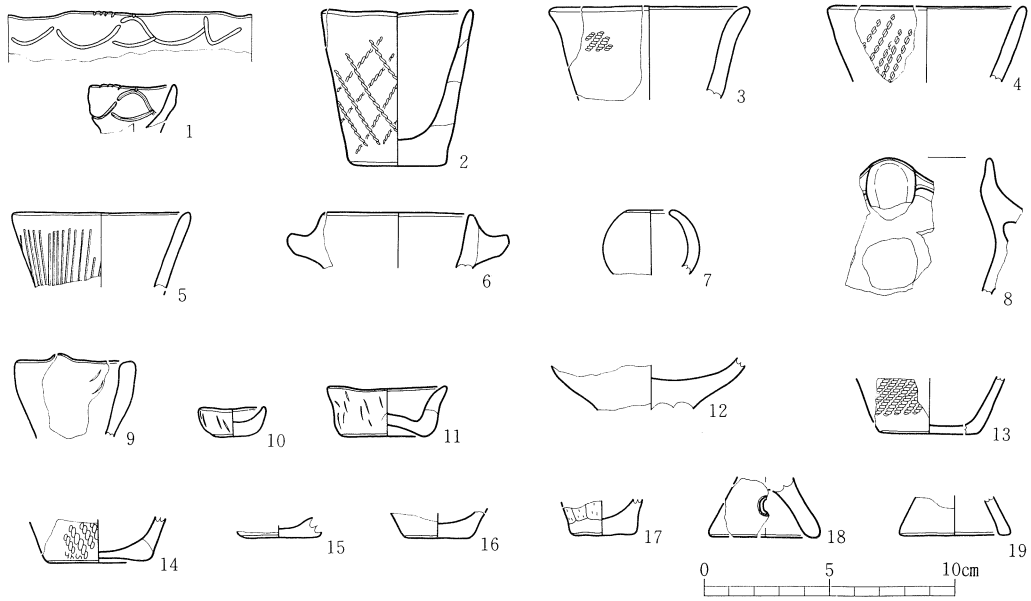


No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	E－15・2層	深鉢	沈線文・貼付文・刺突文・RL縄文	沈線文・磨キ（横）	VI	
2	E－15・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刻目文	磨キ（横）	VIorVII	
3	E－15・2層	深鉢	隆線文・貼付文・不明縄文	磨キ（横）	IX	
4	E－15・2層	深鉢	隆線文・不明縄文	磨キ（横）	IX	
5	E－15・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	隆線文・沈線文・磨キ（横）	X	
6	E－15・2層	深鉢	沈線文・刺突文・R撚糸文	ナデ・磨キ（斜）	XI3a	
7	E－15・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文	ナデ・磨キ（横）	XI	
8	E－15・2層	深鉢	隆線文・条線文	ナデ（横）	BII	
9	E－15・2層	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	BIII	
10	E－15・2層	深鉢	沈線文・R撚糸文	磨キ（横）	BIV	
11	E－15・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	BIV	
12	E－15・2層	深鉢	沈線文・条線文	磨キ（横）	BIV	
13	E－15・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刻目文	磨キ（横）	VII	
14	E－15・2層	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
15	E－15・2層	深鉢	隆線文	磨キ（横・斜）	X	

第794図　E－15区　出土土器（2）

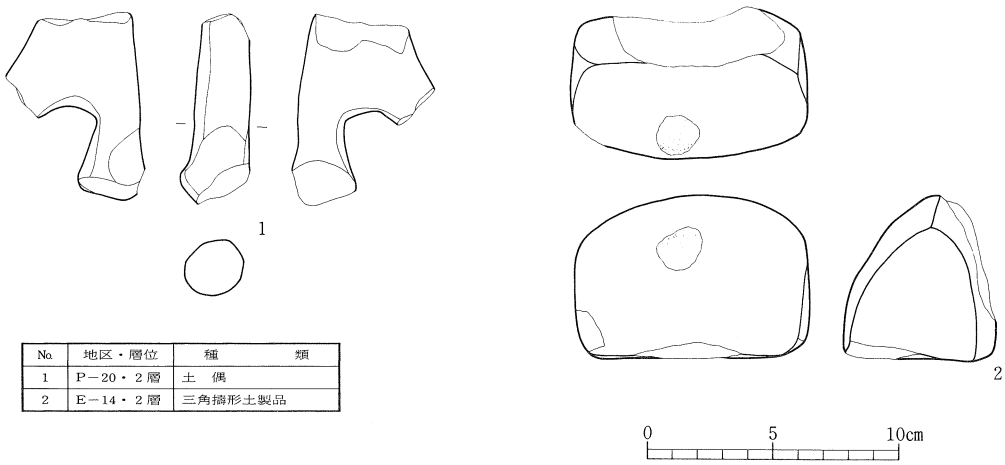
No.	地区・層位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	E－15・2層	深　鉢	沈線文	磨キ（横）	VII	
2	E－15・2層	深　鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	X9	
3	E－14･15･22	深　鉢	隆線文・沈線文・条線文	磨キ（横）	BI	
4	E－15・2層	深　鉢	RL縄文	磨キ（横）	BVI	
5	E－15・2層	深　鉢	条線文	磨キ（横）	BVI	
6	E－15・2層	深　鉢	LR縄文	ナデ（横）	BVI	
7	E－15・2層	深　鉢	磨　キ	磨キ（横）	BVII	
8	E－15・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・R縄文	磨キ（横・縦）	IX	
9	E－15・2層	深　鉢	沈線文	磨キ（横）	B	

第795図　E－15区　出土土器（3）



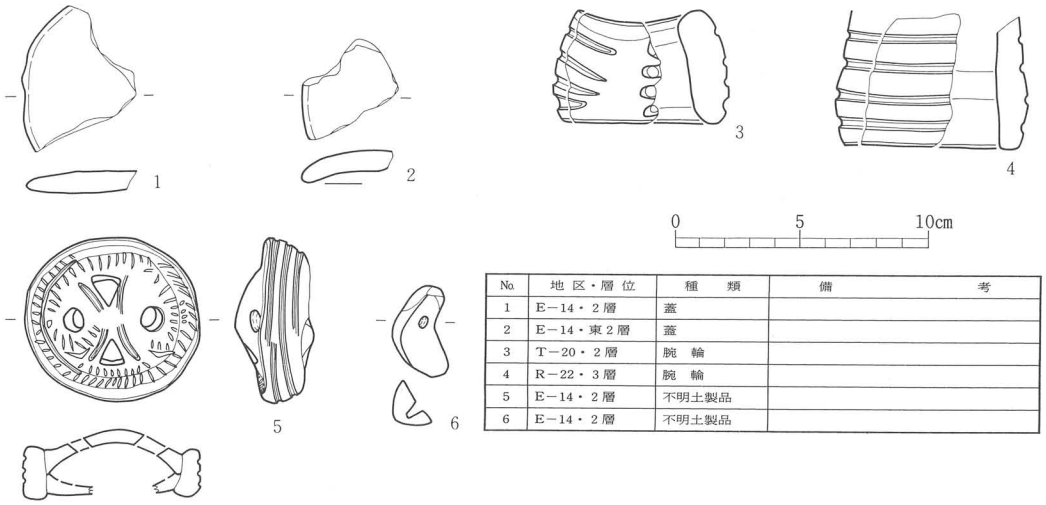
No.	地区・層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	P－20・2層	ミニチュア	沈線文・口唇部刻目文	ナデ（横）			
2	Q－20・2層	ミニチュア	網目状撚糸文	ナデ（縦）	ナデ		
3	E－14・2層	ミニチュア	RL縄文	ナデ			
4	E－14・2層	ミニチュア	LRL縄文	磨キ			
5	E－14・2層	ミニチュア	条線文・磨キ	ナデ			
6	E－14・2層	ミニチュア	ナデ	磨キ			
7	E－14・2層	ミニチュア	マメツ	ナデ			
8	P－21・2層	ミニチュア	ナデ	ナデ			
9	Q－19・2層	ミニチュア	ケズリ・ツメ形	ナデ			
10	Q－19・2層	ミニチュア	条痕文	ナデ			
11	T－19・2b層	ミニチュア	条痕文・磨キ	ナデ	磨キ		
12	E－14・2層	ミニチュア	ケズリ	ナデ			
13	E－14・2層	ミニチュア	RL縄文	ナデ	ナデ		
14	P－20・2層	ミニチュア	RL縄文	磨キ（横）	磨キ		
15	E－14・2層	ミニチュア	磨キ	磨キ	磨キ		
16	P－22・2層	ミニチュア	ナデ	ナデ	ナデ		
17	R－19・——	ミニチュア	ケズリ・ナデ	指ナデ	ナデ		
18	E－14・2層	ミニチュア	磨キ	マメツ			
19	S－18・2a層	ミニチュア	磨キ	磨キ			

第796図　東区西側遺物包含層出土ミニチュア土器

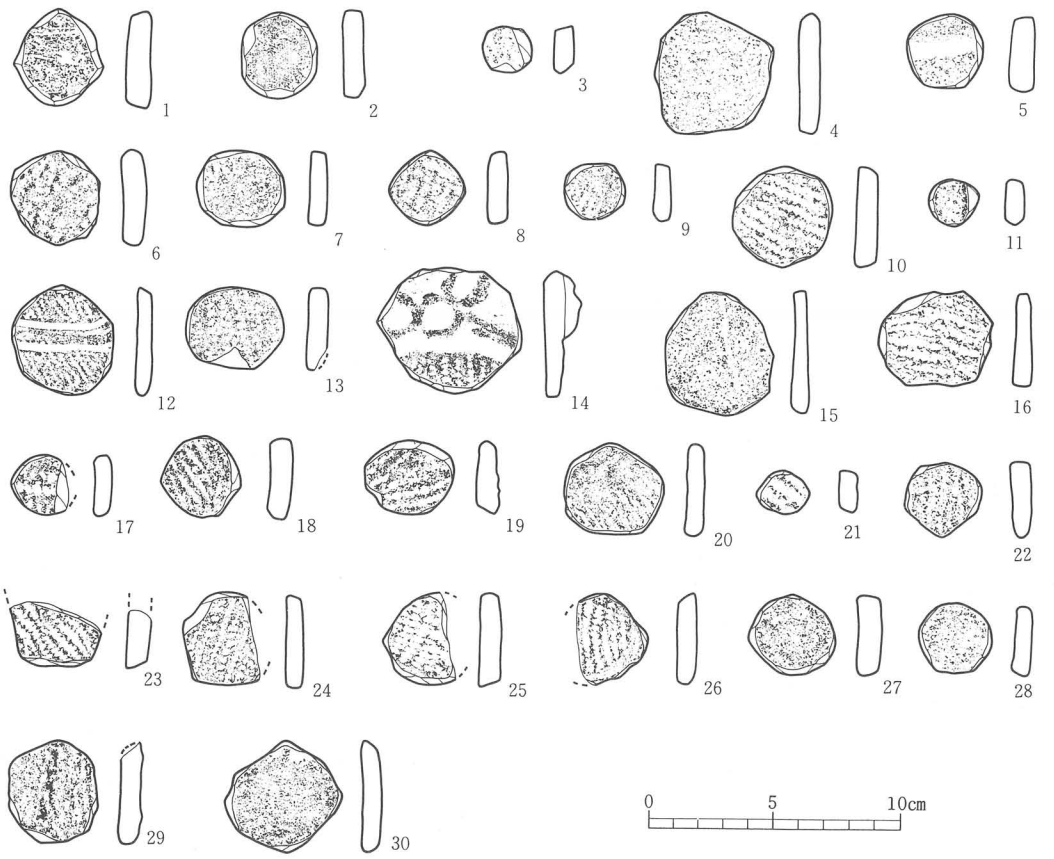


No.	地区・層位	種類
1	P－20・2層	土偶
2	E－14・2層	三角錐形土製品

第797図　東区西側遺物包含層出土土製品（1）

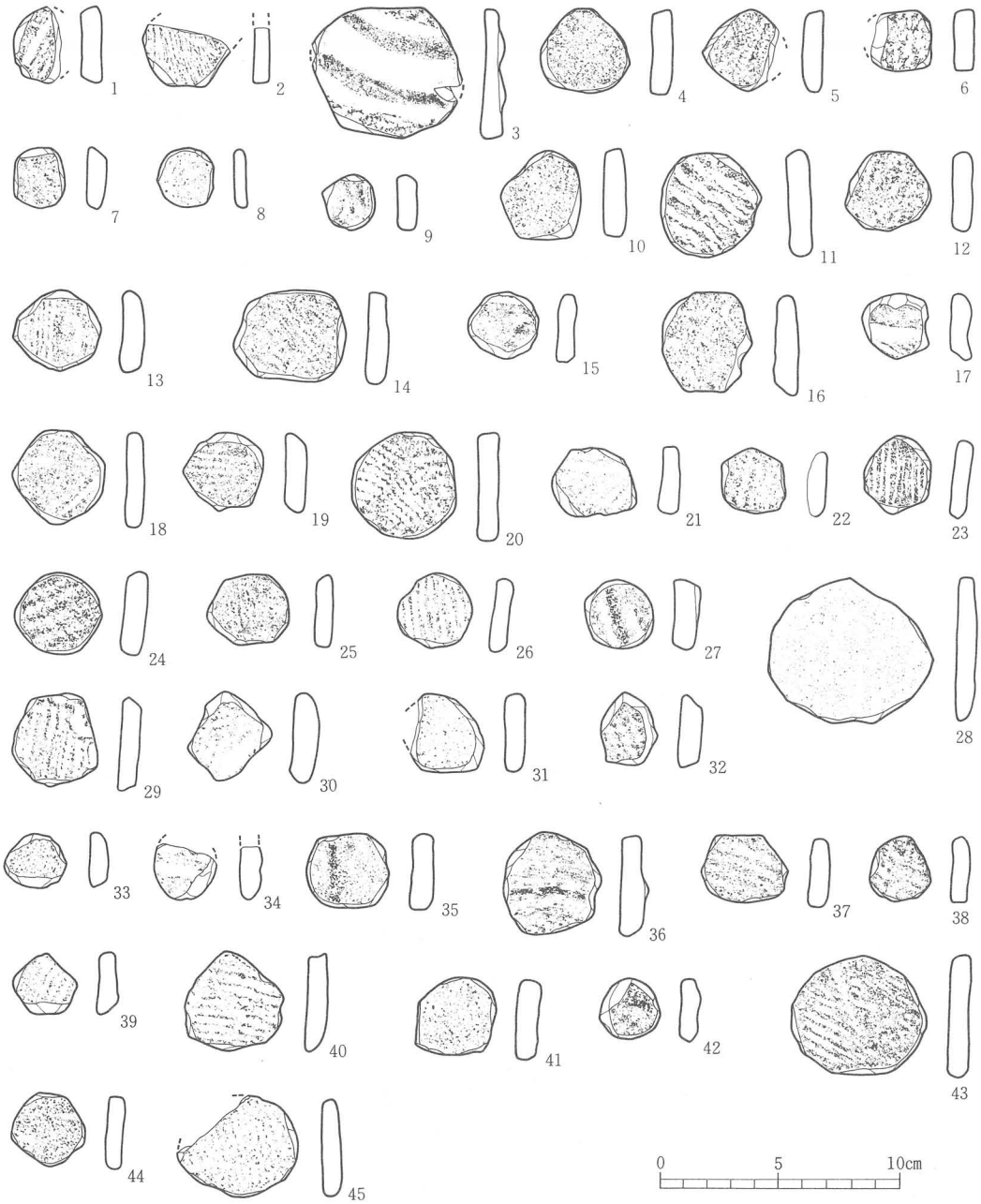


No.	地区・層位	種類	備考
1	E−14・2層	蓋	
2	E−14・東2層	蓋	
3	T−20・2層	腕輪	
4	R−22・3層	腕輪	
5	E−14・2層	不明土製品	
6	E−14・2層	不明土製品	



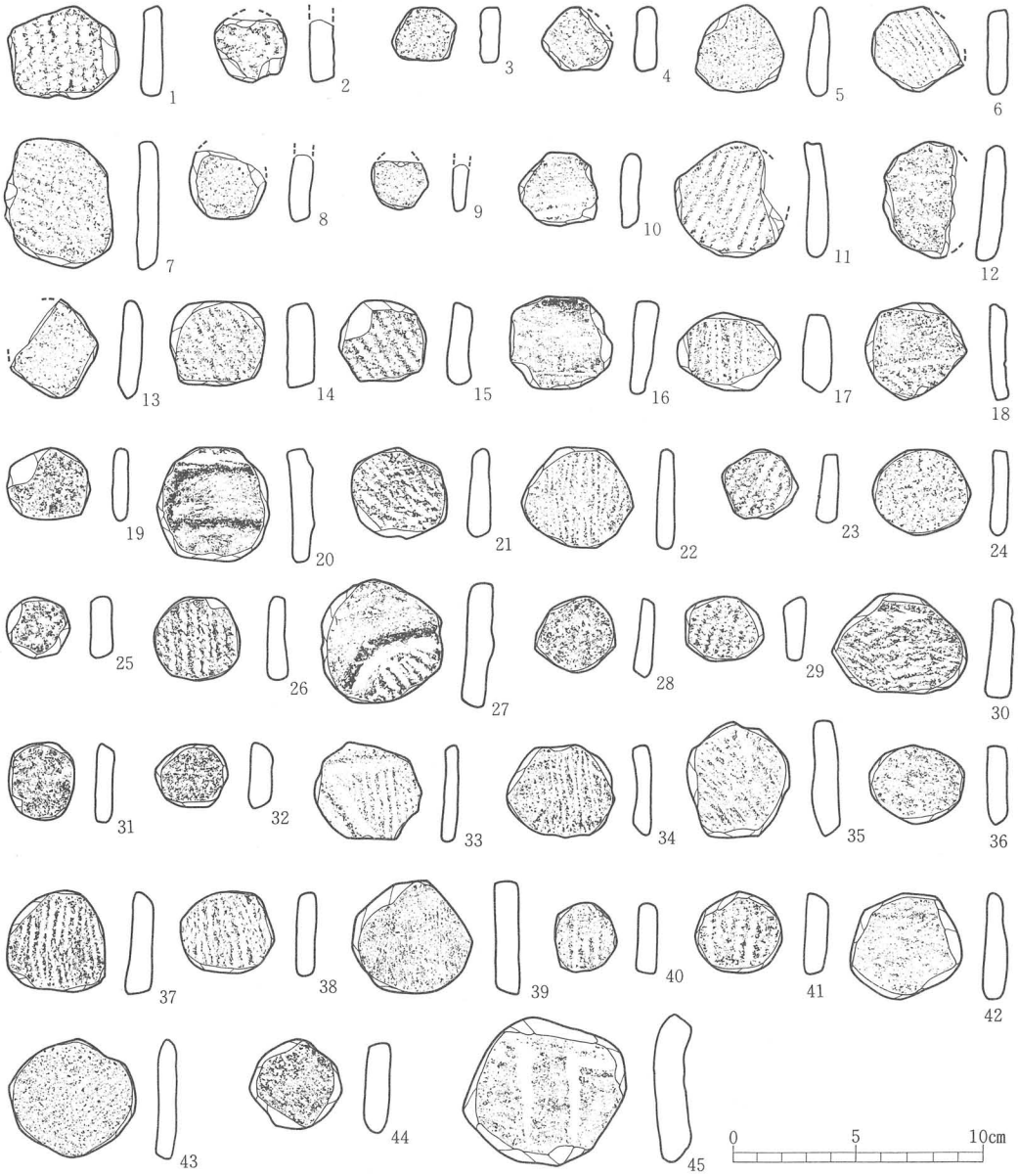
No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位
1	P−19・2層上面	6	P−20・2層	11	P−20・2層	16	P−20・2層	21	P−20・2層	26	P−20・2層
2	P−19・2層上面	7	P−20・2層	12	P−20・2層	17	P−20・2層	22	P−20・2層上面	27	P−21・2層
3	P−19・2層	8	P−20・2層	13	P−20・2層	18	P−20・2層	23	P−20・2層	28	P−21・2層
4	P−19・2層	9	P−20・2層	14	P−20・2層	19	P−20・2層	24	P−20・2層	29	P−21・2層
5	P−20・2層	10	P−20・2層	15	P−20・2層	20	P−20・2層	25	P−20・2層	30	P−21・2層

第798図　東区西側遺物包含層出土土製品（2）、土製円盤（1）



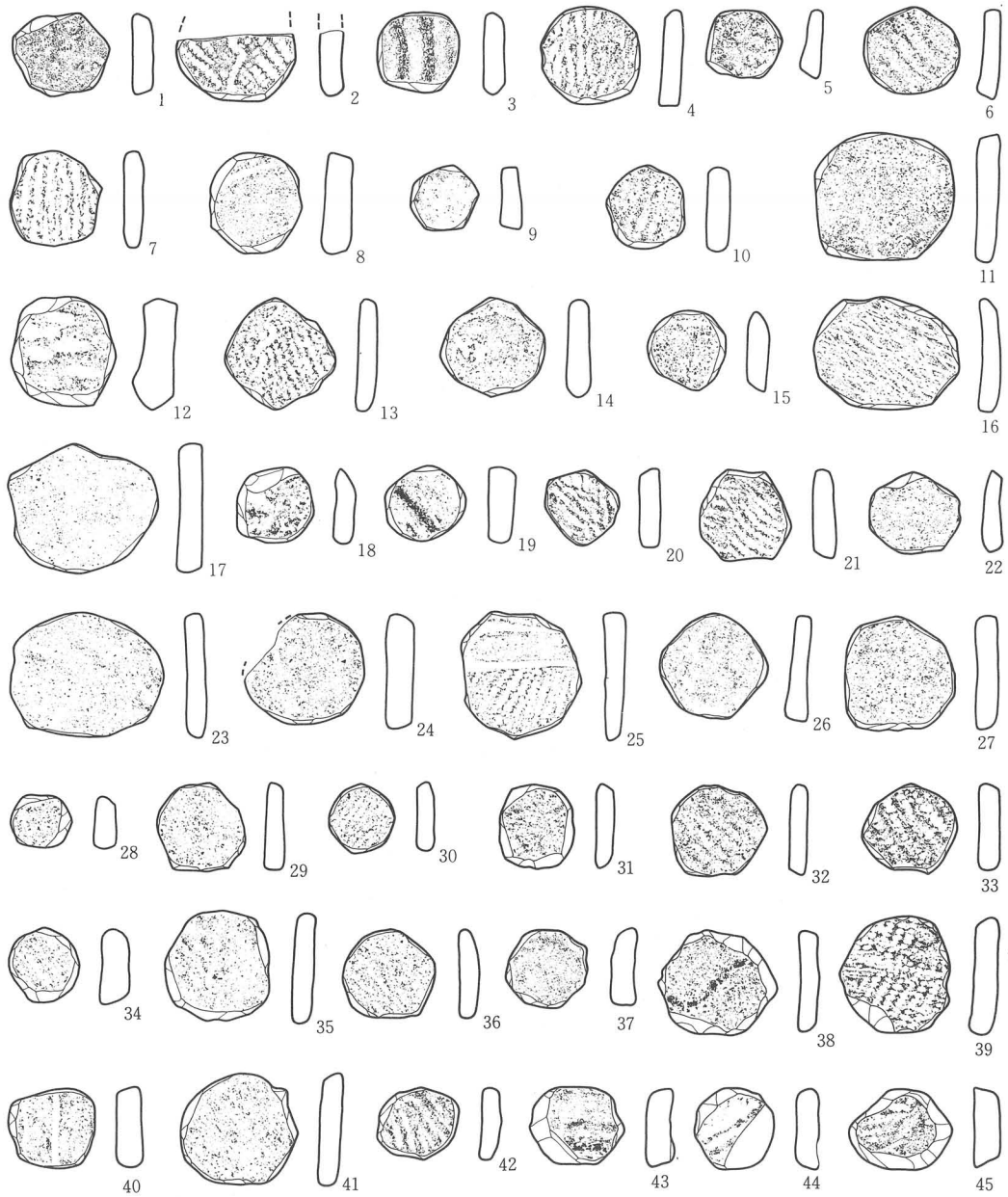
No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位
1	P−21・2層	9	Q−19・2b層	17	Q−19・2層	25	Q−20・2層	33	Q−20・2層	41	R−19・2層
2	P−21・2層	10	P−22・2層	18	Q−20・2層	26	Q−20・2層	34	Q−20・2層	42	R−20・2b層
3	P−21・2層	11	Q−19・2層	19	Q−20・2層	27	Q−20・2層	35	R−18・2層	43	R−20・2b層
4	P−21・2層	12	Q−19・2層	20	Q−20・2層	28	Q−20・2層	36	R−18・2b層	44	R−20・2b層
5	P−22・2層	13	Q−19・2層	21	Q−20・2層	29	Q−20・2層	37	R−18・2b層	45	R−20・2b層
6	P−22・2層	14	Q−19・——	22	Q−20・2層	30	Q−20・2層	38	R−19・2層		
7	P−22・2層	15	Q−19・——	23	Q−20・2層	31	Q−20・2層	39	R−19・2層		
8	Q−19・2a層	16	Q−19・2層	24	Q−20・2層	32	Q−20・2層	40	R−19・2層		

第799図　東区西側遺物包含層出土土製円盤（2）



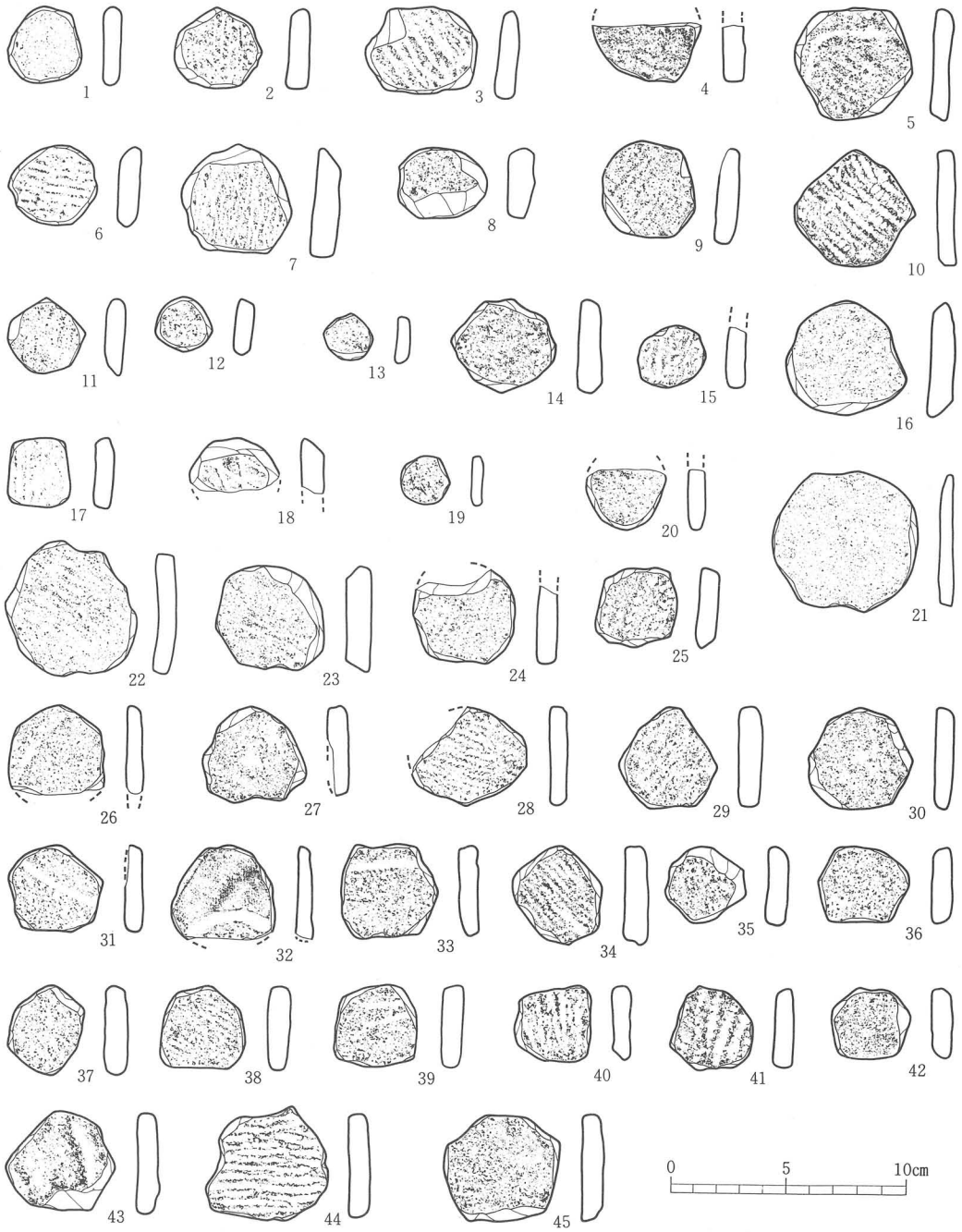
No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位
1	R−20・2b層	9	S−19・2層	17	E−14・2層	25	E−14・2層	33	E−14・2層	41	E−14・2層
2	R−20・2b層	10	S−19・2層	18	E−14・2層	26	E−14・2層	34	E−14・2層	42	E−14・2層
3	R−20・2b層	11	S−19・2層	19	E−14・2層	27	E−14・2層	35	E−14・2層	43	E−14・2層
4	R−20・2b層	12	S−20・2b層	20	E−14・2層	28	E−14・2層	36	E−14・2層	44	E−14・2層
5	S−18・2層	13	T−19・2b層	21	E−14・2層	29	E−14・2層	37	E−14・2層	45	E−14・2層
6	S−19・2層	14	T−20・2b層	22	E−14・2層	30	E−14・2層	38	E−14・2層		
7	S−19・2層	15	E−14・2層	23	E−14・2層	31	E−14・2層	39	E−14・2層		
8	S−19・2層	16	E−14・2層	24	E−14・2層	32	E−14・2層	40	E−14・2層		

第800図　東区西側遺物包含層出土土製円盤（3）



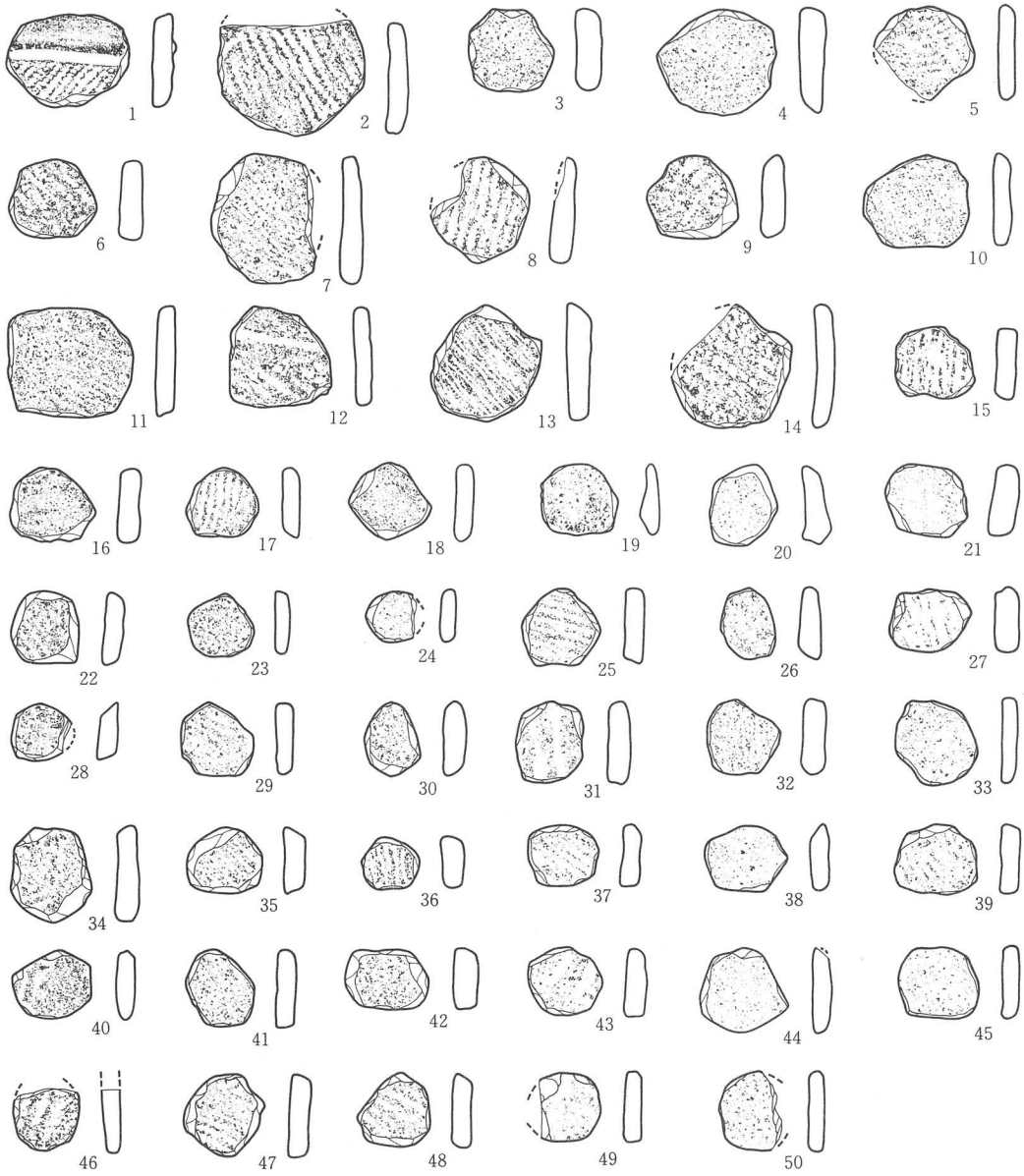
No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位
1	E−14・2層	9	E−14・2層	17	E−14・2層	25	E−14・2層	33	E−14東・2層	41	E−14東・2層
2	E−14・2層	10	E−14・2層	18	E−14・2層	26	E−14・2層	34	E−14東・2層	42	E−14東・2層
3	E−14・2層	11	E−14・2層	19	E−14・2層	27	E−14・2層	35	E−14東・2層	43	E−14東・2層
4	E−14・2層	12	E−14・2層	20	E−14・2層	28	E−14・2層	36	E−14東・2層	44	E−14東・2層
5	E−14・2層	13	E−14・2層	21	E−14・2層	29	E−14東・2層	37	E−14東・2層	45	E−14東・2層
6	E−14・2層	14	E−14・2層	22	E−14・2層	30	E−14東・2層	38	E−14東・2層		
7	E−14・2層	15	E−14・2層	23	E−14・2層	31	E−14東・2層	39	E−14東・2層		
8	E−14・2層	16	E−14・2層	24	E−14・2層	32	E−14東・2層	40	E−14東・2層		

第801図　東区西側遺物包含層出土土製円盤（4）



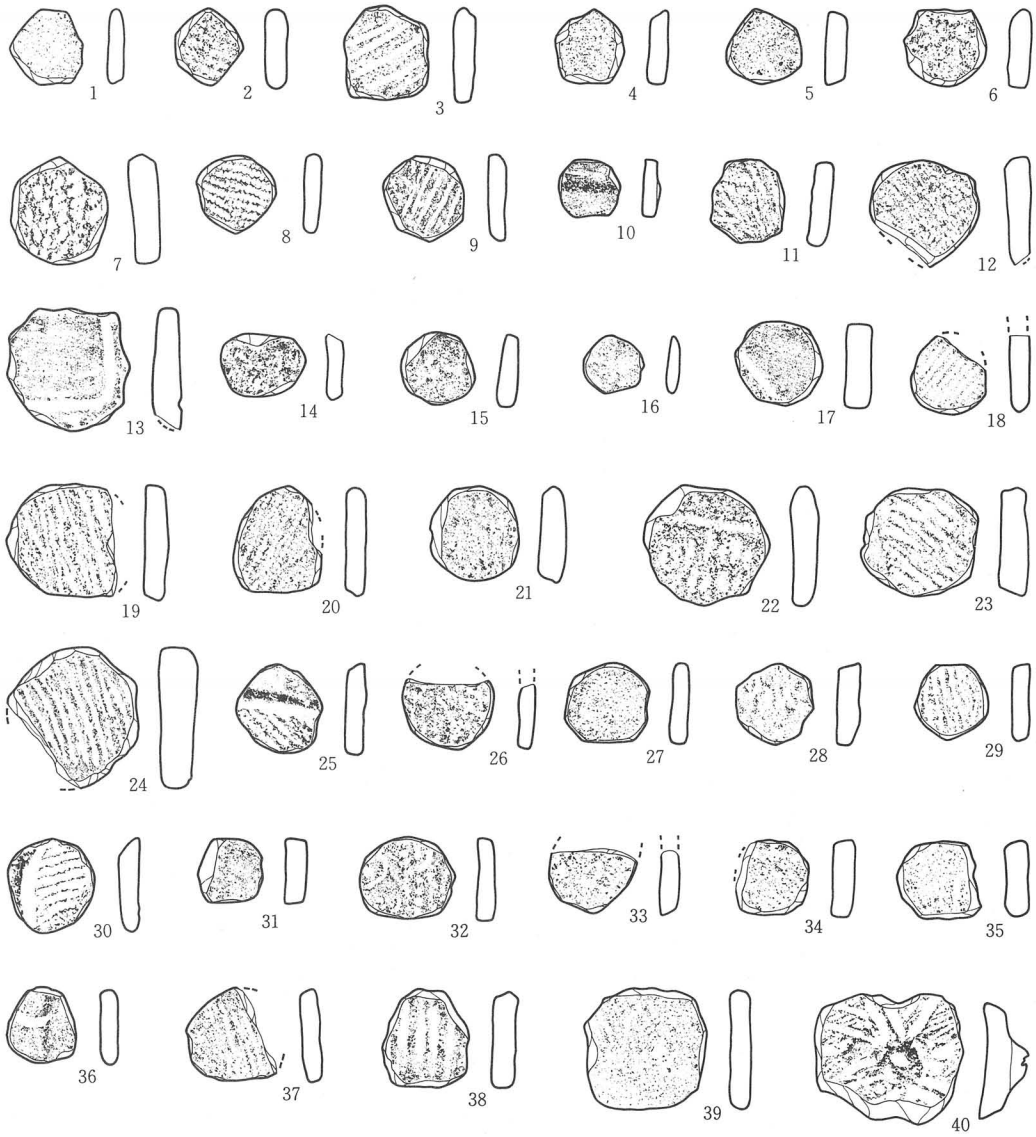
No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位
1	E−14東・2層	9	E−14・2層	17	E−14東・2層	25	E−14・2層	33	E−14・2層	41	E−14・2層
2	E−14東・2層	10	E−14・2層	18	E−14南・2層	26	E−14・2層	34	E−14・2層	42	E−14・2層
3	E−14東・2層	11	E−14・2層	19	E−14・2層	27	E−14・2層	35	E−14・2層	43	E−14・2層
4	E−14東・2層	12	E−14・2層	20	E−14・2層	28	E−14・2層	36	E−14・2層	44	E−14・2層
5	E−14南・2層	13	E−14・2層	21	E−14・2層	29	E−14・2層	37	E−14・2層	45	E−14・2層
6	E−14南・2層	14	E−14・2層	22	E−14南西・2層	30	E−14・2層	38	E−14・2層		
7	E−14南・2層	15	E−14・2層	23	E−14・2層	31	E−14・2層	39	E−14・2層		
8	E−14・2層	16	E−14・2層	24	E−14・2層	32	E−14・2層	40	E−14・2層		

第802図　東区西側遺物包含層出土土製円盤（5）



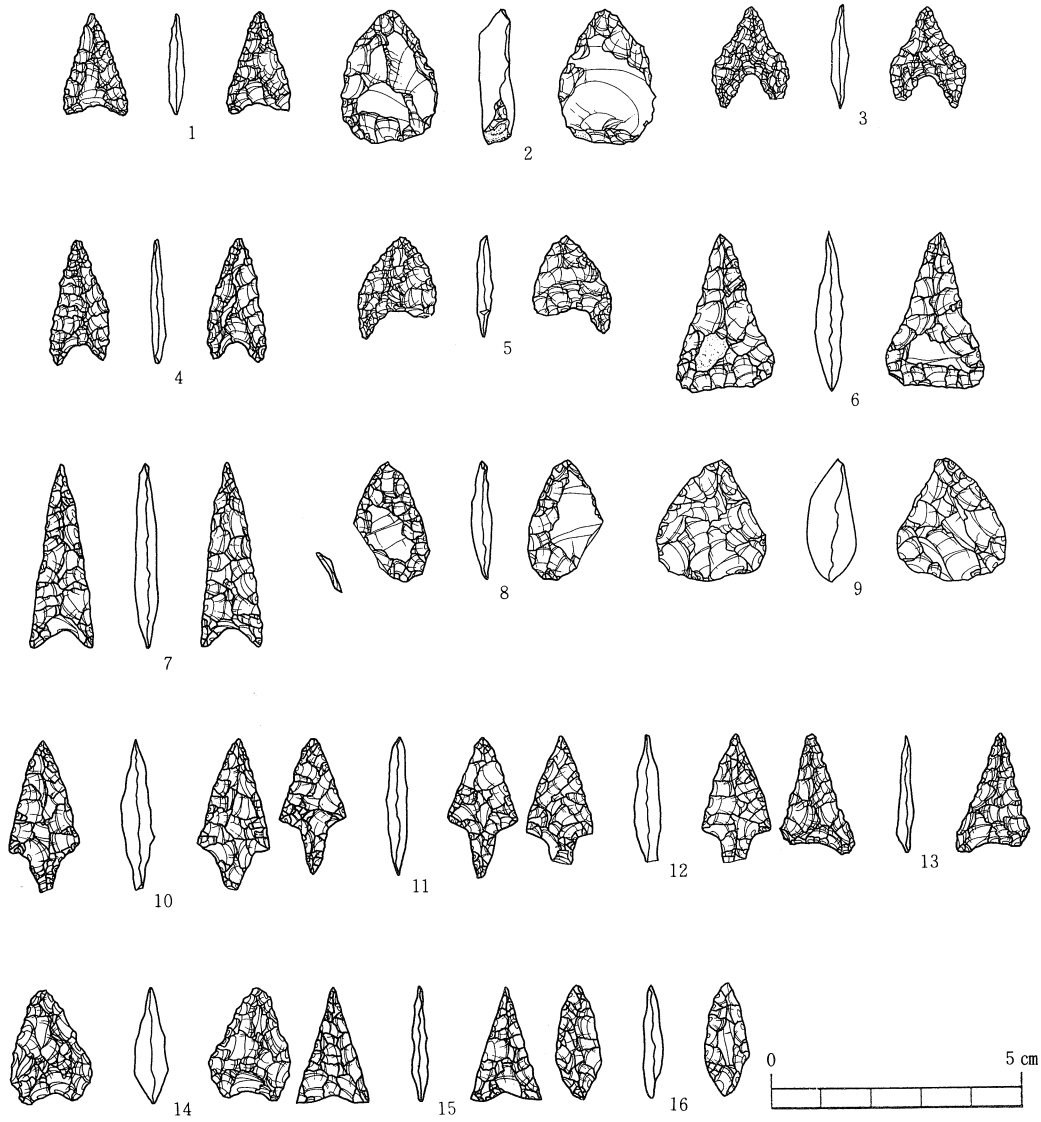
No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位
1	E−14・2層	10	E−14・2層	19	E−14・2層	28	E−14・2層	37	E−14・2層	46	E−14・2層
2	E−14・2層	11	E−14・2層	20	E−14・2層	29	E−14・2層	38	E−14・2層	47	E−14・2層
3	E−14・2層	12	E−14・2層	21	E−14・2層	30	E−14・2層	39	E−14・2層	48	E−14・2層
4	E−14・2層	13	E−14・2層	22	E−14・2層	31	E−14・2層	40	E−14・2層	49	E−14・2層
5	E−14・2層	14	E−14・2層	23	E−14・2層	32	E−14・2層	41	E−14・2層	50	E−14・2層
6	E−14・2層	15	E−14・2層	24	E−14・2層	33	E−14・2層	42	E−14・2層		
7	E−14・2層	16	E−14・2層	25	E−14・2層	34	E−14・2層	43	E−14・2層		
8	E−14・2層	17	E−14・2層	26	E−14・2層	35	E−14・2層	44	E−14・2層		
9	E−14・2層	18	E−14・2層	27	E−14・2層	36	E−14・2層	45	E−14・2層		

第803図　東区西側遺物包含層出土土製円盤（6）



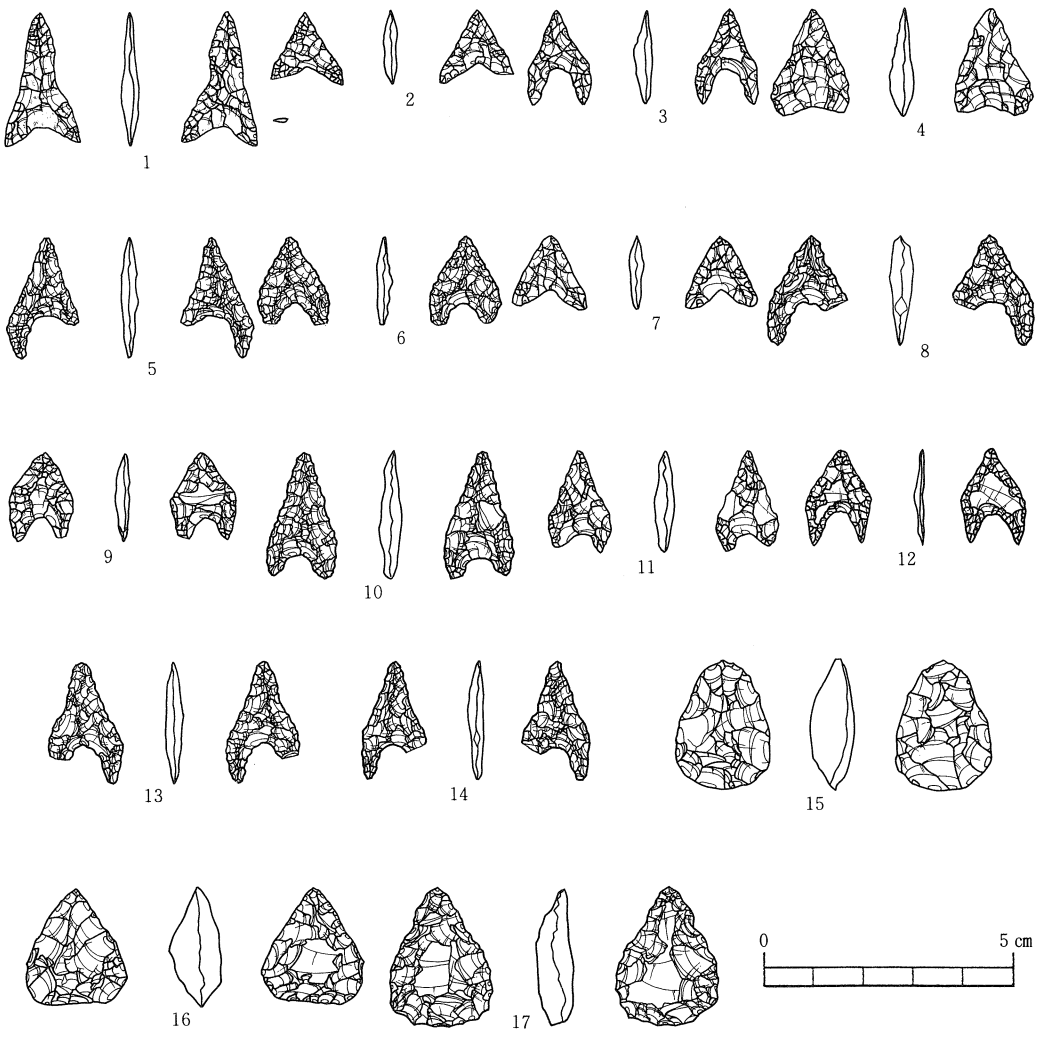
No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位
1	E−14・2層	8	Q−21・2層	15	S−21・2層	22	E−15・2層	29	E−15南・2層	36	E−14・2層
2	E−14・2層	9	Q−21・2層	16	S−21・2層	23	E−15・2層	30	E−15南・2層	37	E−14・2層
3	E−14・2層	10	Q−21・3層	17	S−21・2層	24	E−15・2層	31	E−15南・2層	38	E−14・2層
4	E−14・2層	11	Q−21・2層	18	S−21・2層	25	E−15・2層	32	E−15南・2層	39	E−14・2層
5	E−14・2層	12	R−21・3層	19	S−22・2層	26	E−15・2層	33	E−15南・2層	40	E−15・2層
6	Q−21・2層	13	R−21・3層	20	S−22・4層	27	E−15・2層	34	E−15南・2層		
7	Q−21・2層	14	S−21・2層	21	E−15・2層	28	E−15南・2層	35	E−14・2層		

第804図　東区西側遺物包含層出土土製円盤（7）



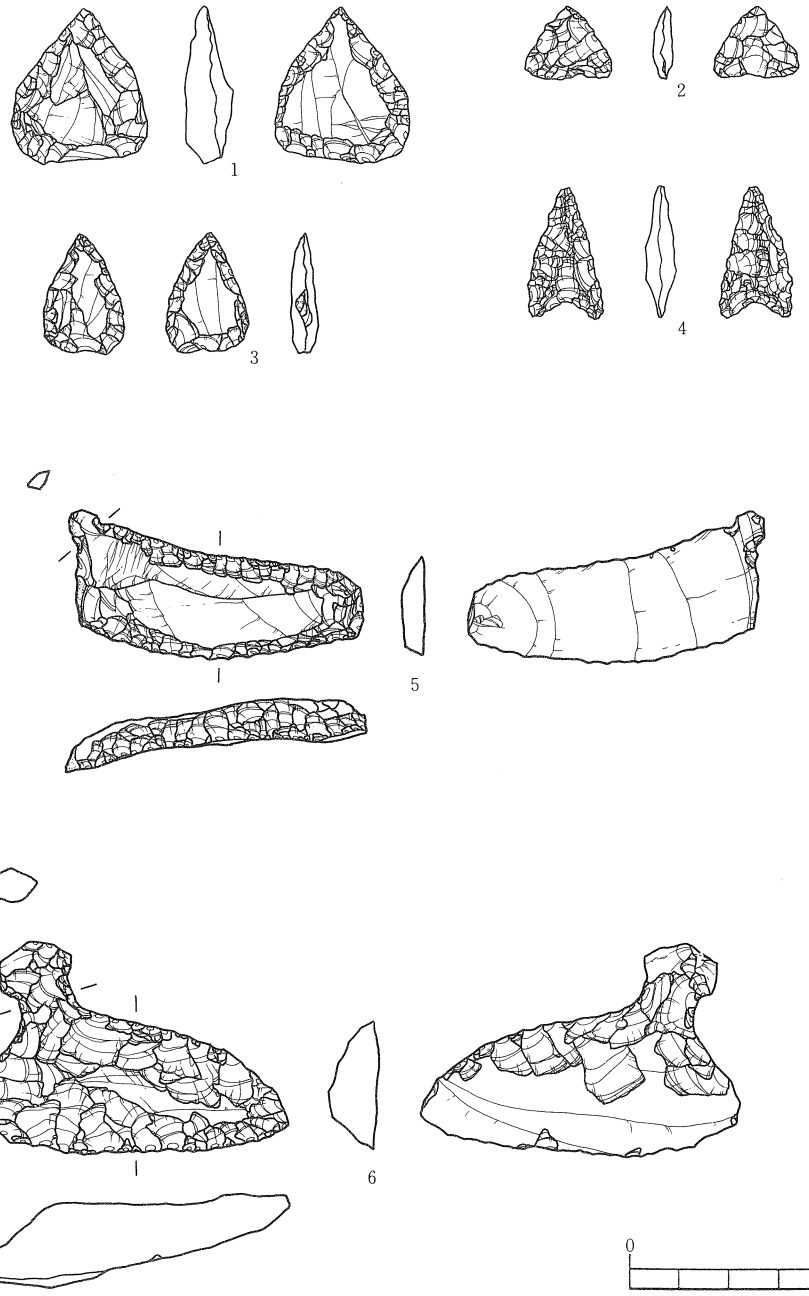
No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	石　鏃A	P－20・2層上面	20.00×12.35×3.05	0.45	黒曜石	―――	
2	石　鏃B	P－22・2層	26.50×19.30×6.40	3.30		―――	
3	石　鏃A	Q－20・2層	(20.35)×14.80×3.00	0.60	鉄石英	―――	
4	石　鏃A	Q－20・2層	24.50×11.70×2.75	0.60		―――	
5	石　鏃A	Q－20・2層	(20.30)×15.10×2.95	0.55	頁　岩	―――	
6	石　鏃A	Q－20・2層	31.90×19.50×6.65	2.20	メノウ	―――	
7	石　鏃A	S－17・2層	36.75×12.50×4.55	1.30	頁　岩	―――	
8	石　鏃A	S－18・2層	23.80×(14.35)×4.00	1.00	頁　岩	―――	
9	石　鏃B	T－19・2層	24.35×21.70×9.60	3.35		―――	
10	石　鏃A	E－14・2層	(30.40)×13.75×6.50	1.55	玉　髄	―――	
11	石　鏃A	E－14・2層	27.50×13.25×4.30	0.80	メノウ	―――	
12	石　鏃A	E－14・2層	(25.45)×13.20×5.50	1.10	頁　岩	―――	
13	石　鏃A	E－14・2層	(24.00)×(14.40)×3.15	0.65	頁　岩	―――	
14	石　鏃A	E－14・2層	22.85×16.00×6.55	0.35	鉄石英	―――	
15	石　鏃A	E－14・2層	23.20×14.40×3.35	0.55	頁　岩	―――	
16	石　鏃A	E－14・2層	22.95×9.05×3.55	0.60	頁　岩	―――	

第805図　東区西側遺物包含層出土石器（1）



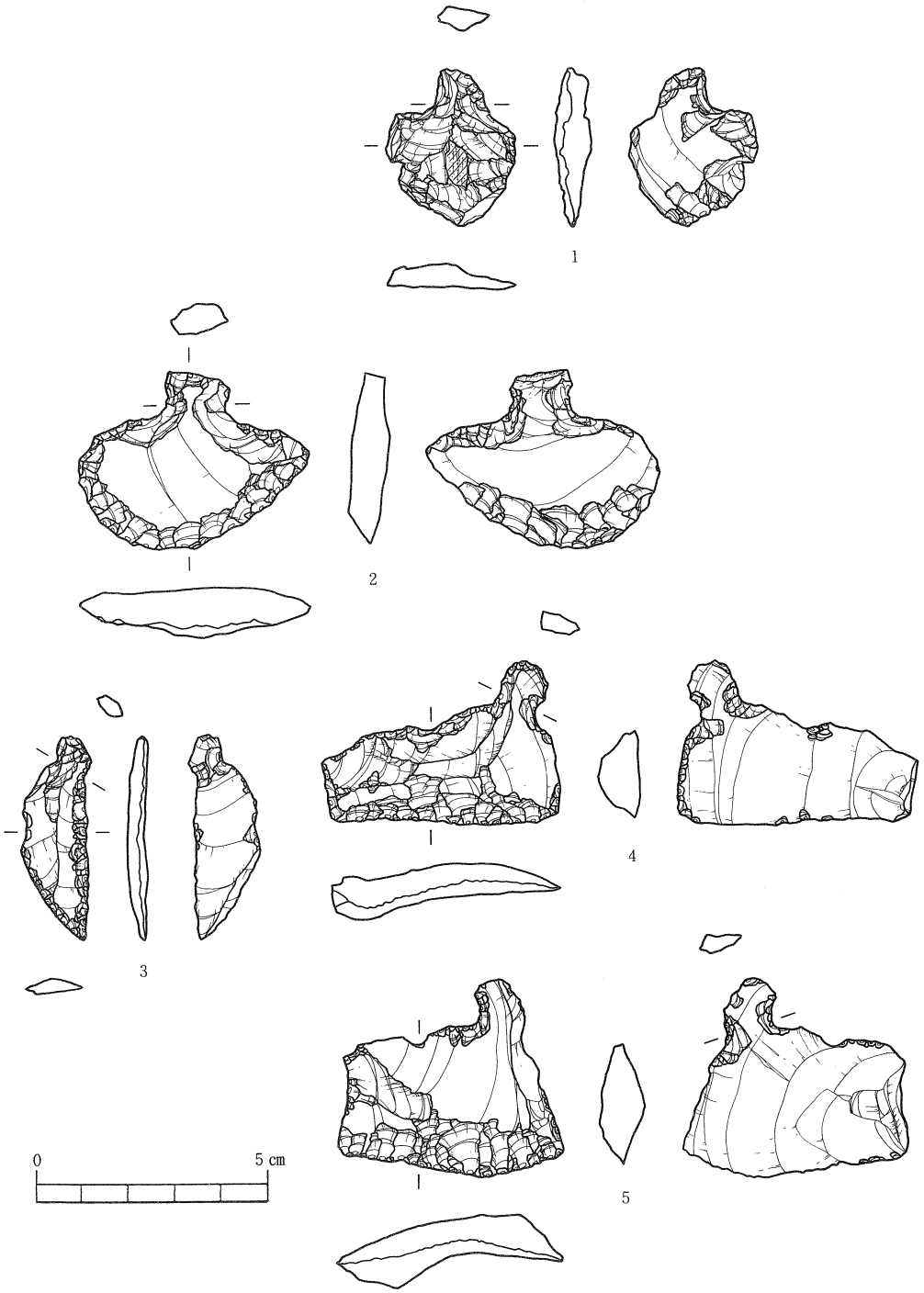
No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使　用　痕	備　考
1	石　鏃A	E－14・2層	26.85×15.15×3.50	0.60	頁　岩	―――	アスファルト付着。
2	石　鏃A	E－14・2層	(14.45)×(14.20)×2.75	0.30	頁　岩	―――	
3	石　鏃A	E－14・2層	19.05×12.35×3.75	0.35	チャート	―――	
4	石　鏃A	E－14・2層	21.40×15.50×4.80	1.10	鉄石英	―――	
5	石　鏃A	E－14・2層	24.50×14.00×3.50	0.40	頁　岩	―――	
6	石　鏃A	E－14・2層	(17.50)×13.90×3.10	0.50	メノウ	―――	
7	石　鏃A	E－14・2層	14.25×14.40×2.60	0.30	頁　岩	―――	
8	石　鏃A	E－14・2層	(22.90)×(14.50)×4.35	0.95	頁　岩	―――	
9	石　鏃A	E－14・2層	(18.20)×12.55×2.95	0.40	黒曜岩	―――	
10	石　鏃A	E－14・2層	23.90×13.40×4.25	1.00	頁　岩	―――	
11	石　鏃A	E－14・2層	19.90×12.20×4.10	0.60	メノウ	―――	
12	石　鏃A	E－14・2層	19.55×12.80×1.65	0.35	頁　岩	―――	
13	石　鏃A	E－14・2層	(23.55)×14.40×3.05	0.70	頁　岩	―――	
14	石　鏃A	E－14・2層	(23.30)×(12.35)×3.20	0.45	頁　岩	―――	
15	石　鏃B	E－14・2層	25.30×18.60×8.50	3.30		―――	
16	石　鏃B	E－14・2層	23.10×19.65×10.15	3.75		―――	
17	石　鏃B	E－14・2層	27.40×20.40×6.80	3.65		―――	

第806図　東区西側遺物包含層出土石器（2）



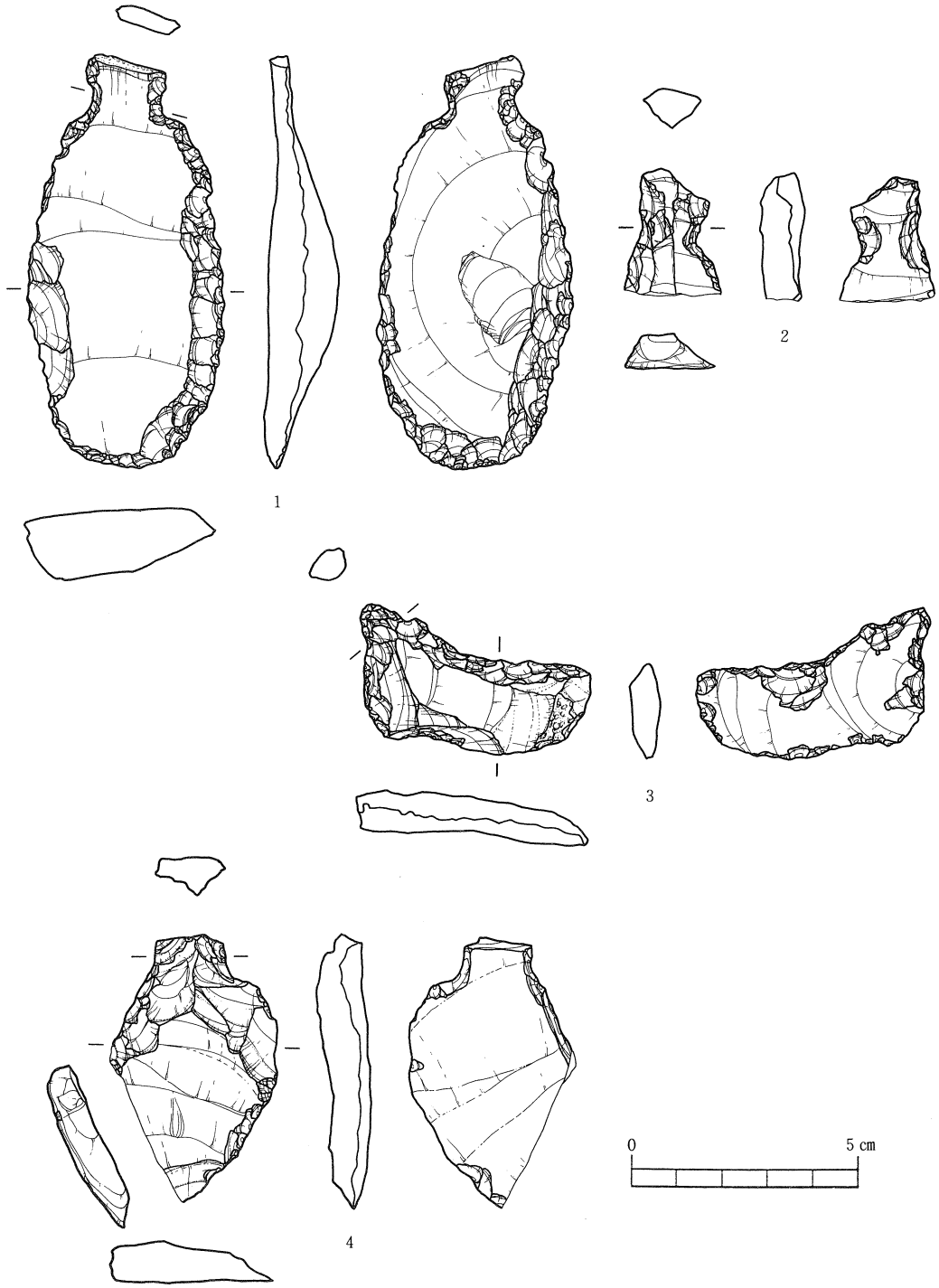
No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	石　鏃A	E－14・2層	31.30×26.75×9.40	6.50	頁　岩	―――	
2	石　鏃A	E－14・2層	14.30×16.80×3.85	0.75	メノウ	―――	
3	石　鏃A	E－14・2層	23.70×15.75×5.45	2.00	頁　岩	―――	
4	石　鏃A	Q－21・2層	26.10×14.35×5.85	1.60	頁　岩	―――	
5	石　匙	Q－20・2層	28.20×58.60×8.25	10.55	頁　岩	―――	
6	石　匙	R－20・2b層	42.50×62.70×16.25	24.15	メノウ	―――	

第807図　東区西側遺物包含層出土石器（3）



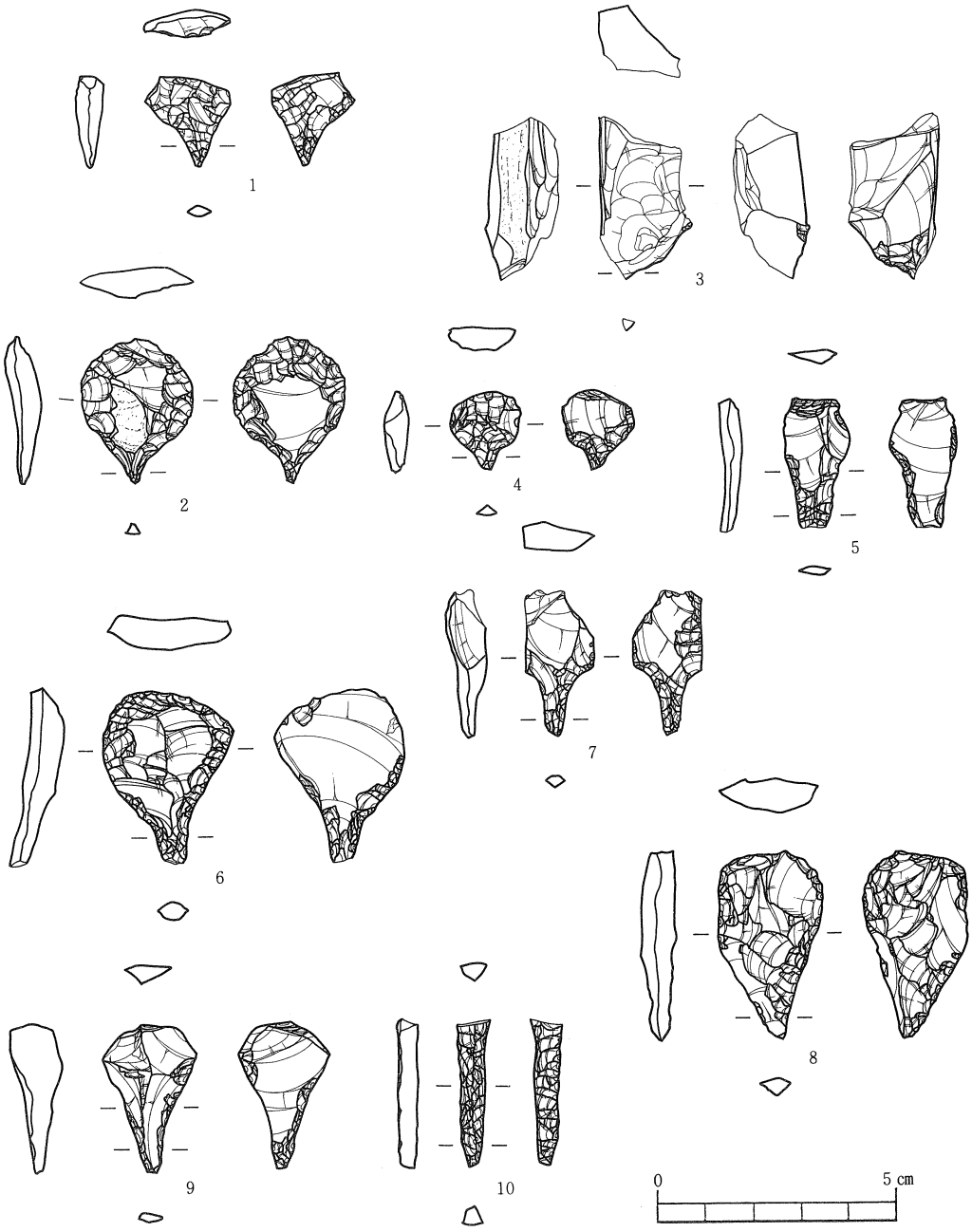
No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	石　匙	S－19・2層	34.20×27.30×7.70	4.95	鉄石英	―――	
2	石　匙	E－14・2層	38.55×49.35×10.50	15.85		―――	
3	石　匙	E－14・2層	44.40×14.55×4.10	2.35		―――	
4	石　匙	E－14・2層	36.05×51.30×9.25	13.45		―――	
5	石　匙	E－14・2層	42.65×48.35×12.15	16.65		―――	

第808図　東区西側遺物包含層出土石器（4）



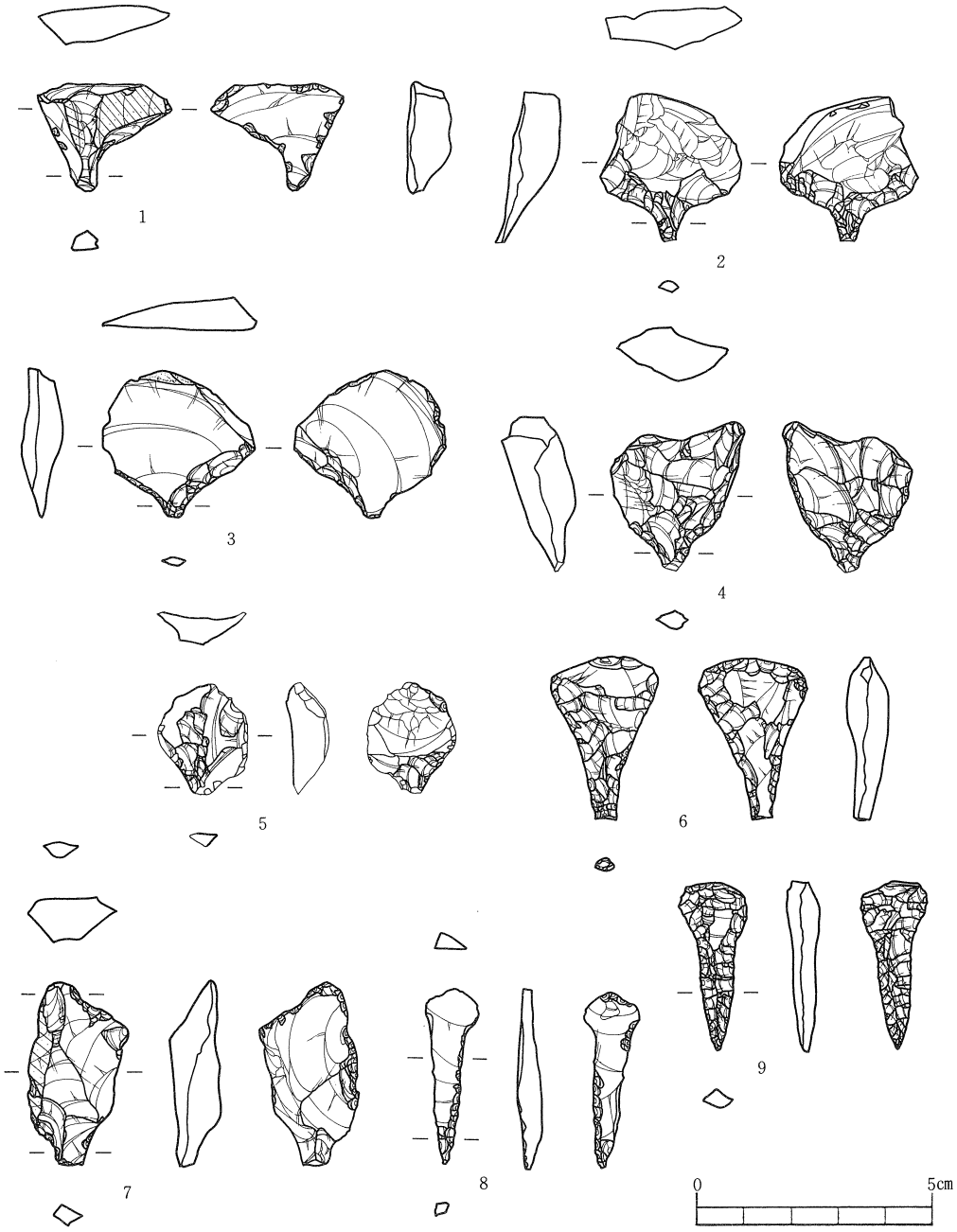
No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	石　匙	E－14・2層	91.20×42.80×15.60	50.00	頁　岩	―――	
2	石　匙	E－15・2層	(27.90)×(20.85)×9.25	5.10		―――	焼けている。
3	石　匙	E－15・2層	32.70×50.70×9.30	12.80	頁　岩	―――	
4	石　匙	E－15・2層	(59.80)×(36.35)×10.25	18.80		―――	

第809図　東区西側遺物包含層出土石器（5）



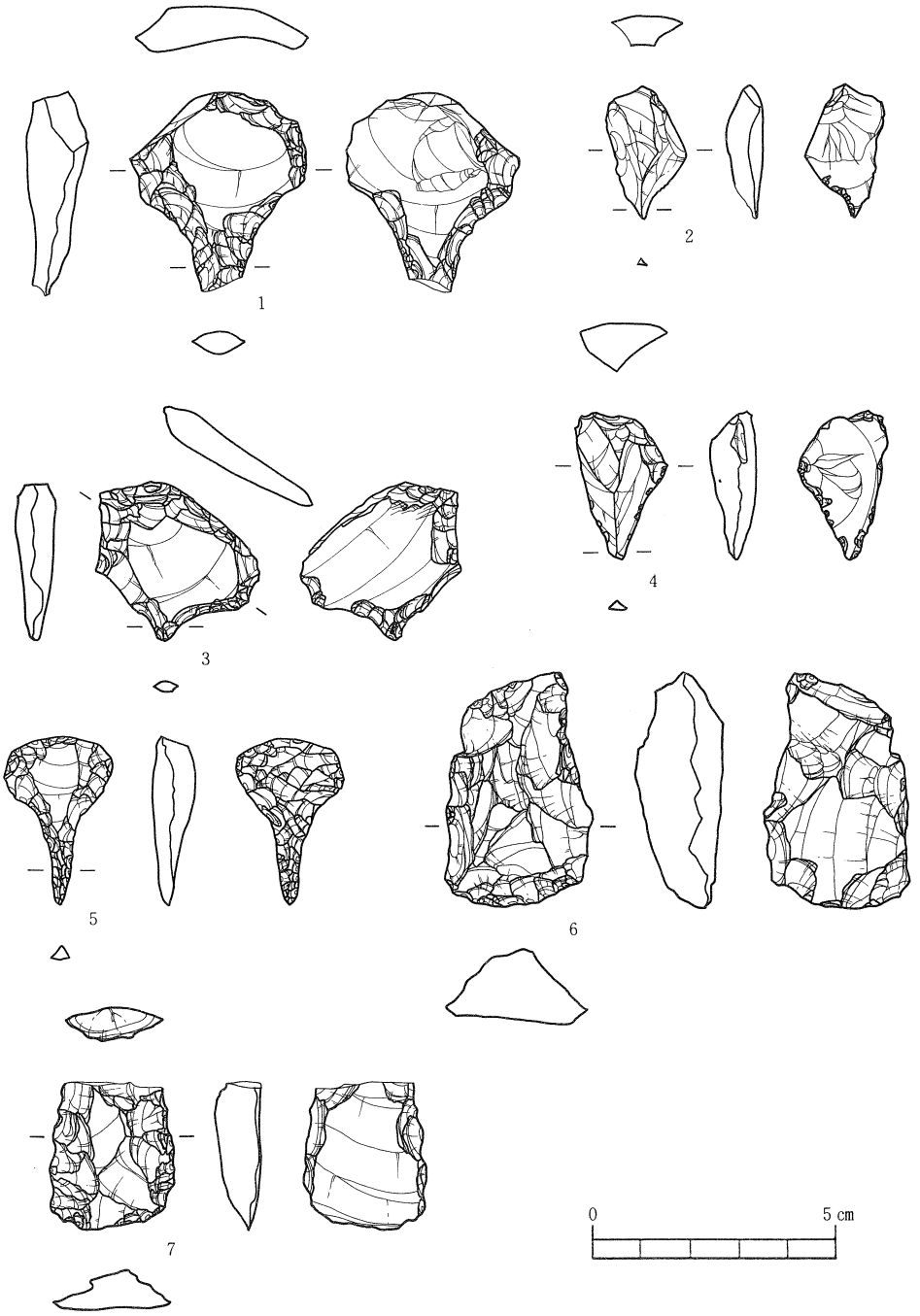
No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	石　錐	P－19・2層上面	19.25×17.25×5.75	1.35	頁　岩	———	
2	石　錐	P－21・2層	30.80×23.30×6.45	3.75	頁　岩	———	
3	石　錐	Q－20・2層	(34.35)×19.35×14.45	9.20		———	
4	石　錐	T－20・2層	16.35×15.20×5.20	1.15	頁　岩	———	
5	石　錐	E－14・2層	(27.35)×14.05×4.35	1.45	頁　岩	———	
6	石　錐	E－14・2層	(36.40)×26.80×7.10	6.25	チャート	———	
7	石　錐	E－14・2層	(30.45)×(14.35)×8.20	5.15	頁　岩	———	
8	石　錐	E－14・2層	39.45×21.85×7.20	5.15	頁　岩	———	
9	石　錐	E－14・2層	31.20×19.45×10.30	3.00		———	
10	石　錐	E－14・2層	(31.20)×(6.80)×(4.75)	1.05	珪化凝灰岩	———	

第810図　東区西側遺物包含層出土石器（6）



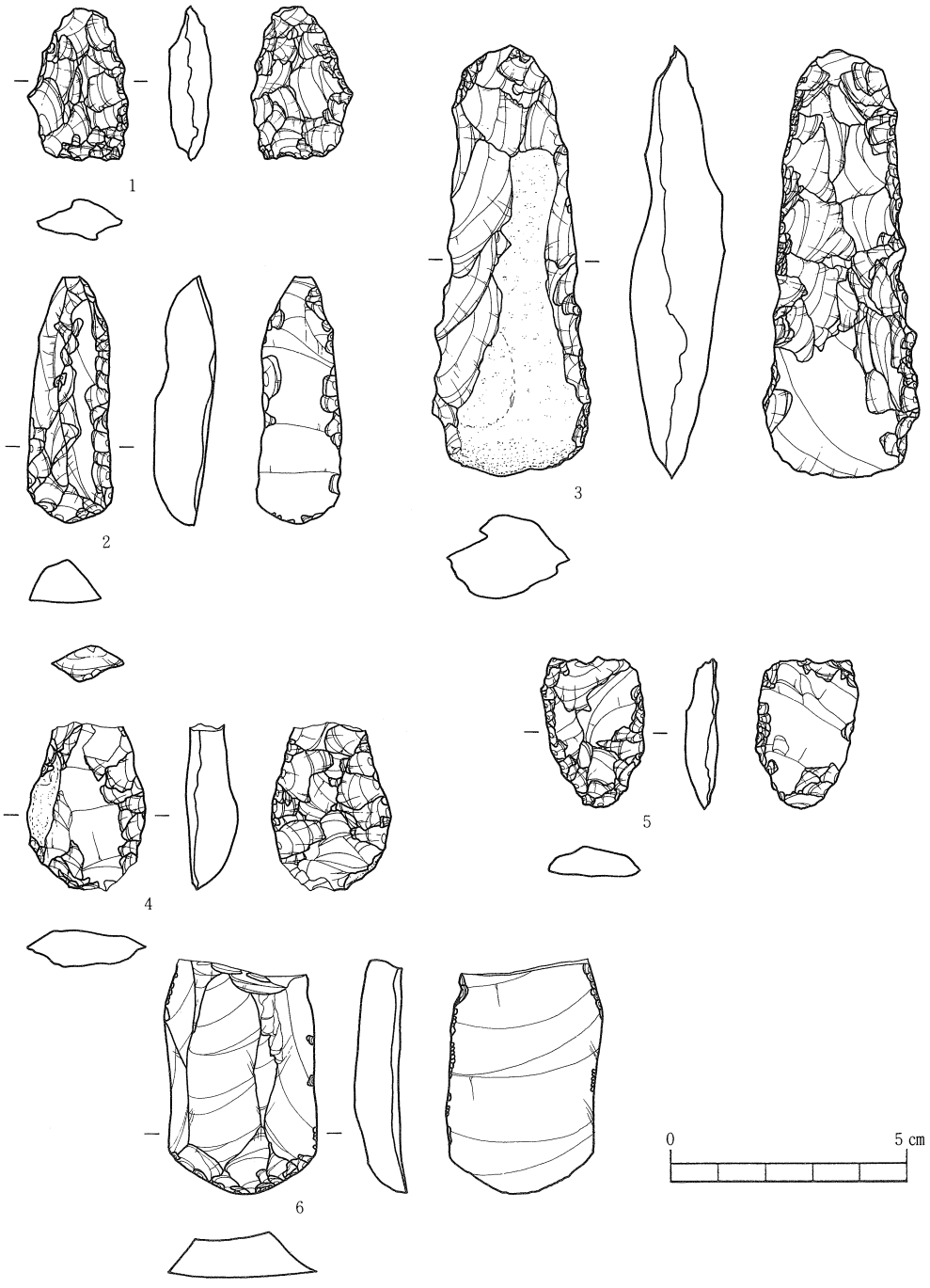
No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	石　錐	E－14・2層	22.00×28.10×9.05	3.75	頁　岩	―――	
2	石　錐	E－14・2層	(31.60)×29.35×9.80	6.90	頁　岩	―――	
3	石　錐	E－14・2層	30.80×31.50×8.70	6.05	頁　岩	―――	
4	石　錐	E－14・2層	(31.95)×28.70×12.00	8.20	頁　岩	―――	
5	石　錐	E－14・2層	(23.35)×(18.55)×8.50	3.00		―――	
6	石　錐	E－14・2層	34.45×22.35×9.55	4.45	頁　岩	―――	
7	石　錐	E－14・2層	39.05×21.00×9.85	6.10	頁　岩	―――	
8	石　錐	E－14・2層	37.25×11.50×5.10	1.15	頁　岩	―――	
9	石　錐	E－14・2層	35.60×14.40×7.15	1.95	頁　岩	―――	

第811図　東区西側遺物包含層出土石器（7）



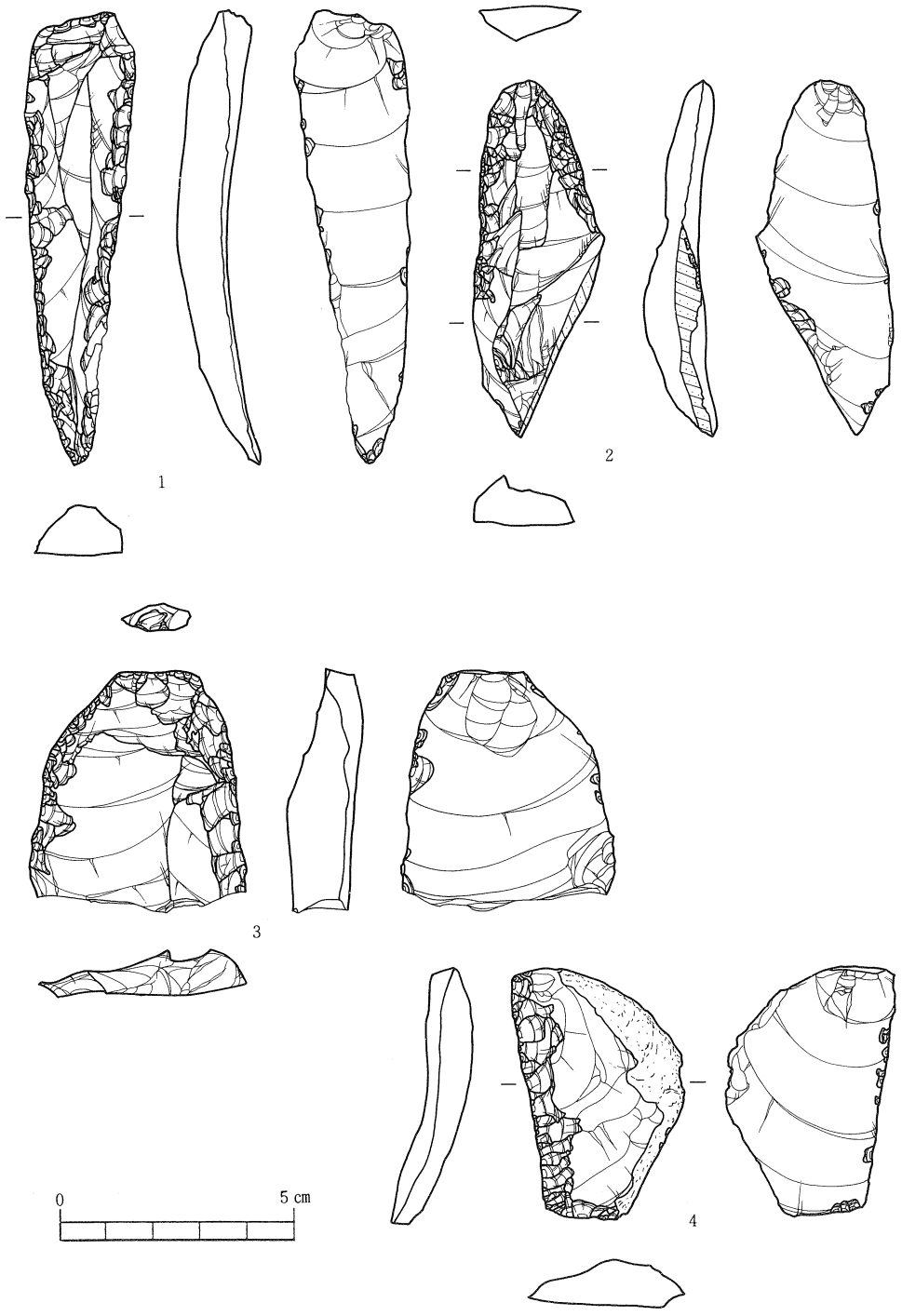
No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	石　錐	E－14・2層	(41.25)×35.60×12.95	11.65	頁　岩	———	
2	石　錐	E－14・2層	30.35×18.50×9.60	3.95		———	
3	石　錐	E－14・2層	27.55×16.60×7.80	2.60		———	
4	石　錐	R－21・3層	32.95×32.65×8.45	8.20	頁　岩	———	
5	石　錐	E－15・2層	34.25×22.15×8.55	3.95	頁　岩	———	
6	篦状石器	P－19・2層	48.40×30.40×17.70	22.65	頁　岩	———	
7	篦状石器	P－20・2層	(30.50)×25.55×9.40	6.65	頁　岩	———	

第812図　東区西側遺物包含層出土石器（8）



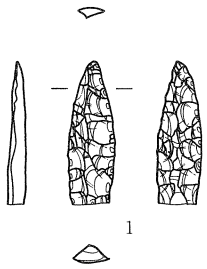
No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	篦状石器	P－21・2層	32.55×21.10×8.75	5.20		―――	
2	篦状石器	E－14・2層	52.05×18.15×11.40	11.10	メノウorチャート	―――	
3	篦状石器	E－14・2層	91.65×33.30×18.20	49.95	頁　岩	―――	
4	篦状石器	E－14・2層	(35.75)×25.10×10.55	9.55		―――	
5	篦状石器	E－14・2層	32.00×21.30×6.80	5.10		―――	
6	スクレイパー	E－14・2層	(50.05)×31.30×9.30	17.05		―――	

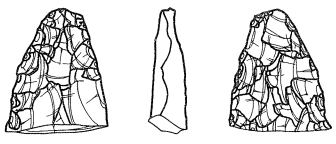
第813図　東区西側遺物包含層出土石器（9）

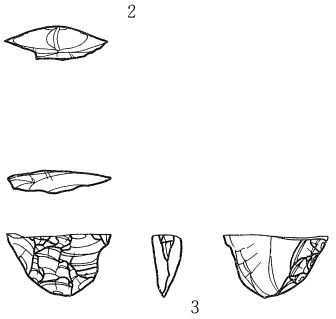


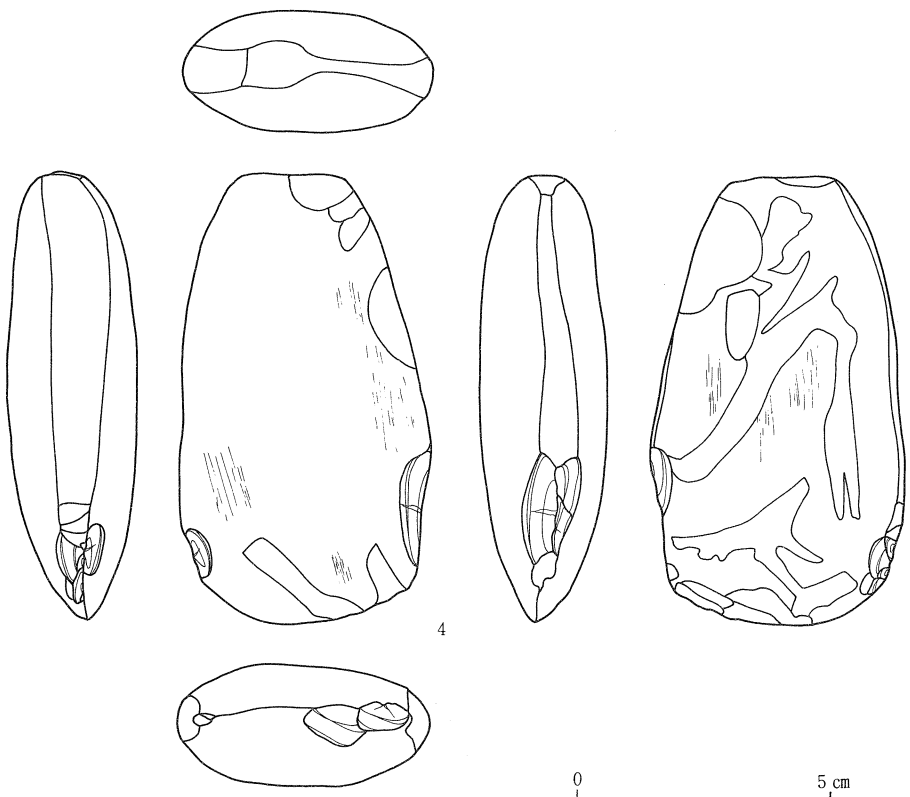
No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	スクレイパー	E－14・2層	97.35×24.55×11.25	23.05		———	
2	スクレイパー	E－14・2層	76.25×27.55×13.00	17.75		———	
3	スクレイパー	E－14・2層	(51.80)×(46.05)×14.30	32.25		———	
4	スクレイパー	E－14・2層	54.45×37.20×10.10	20.20		———	

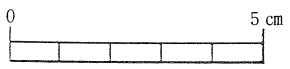
第814図　東区西側遺物包含層出土石器（10）





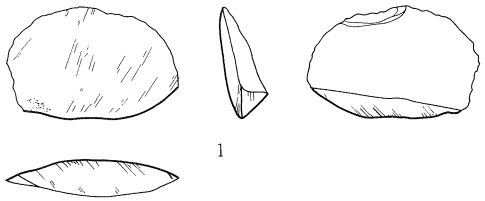


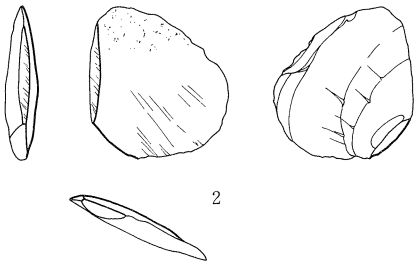


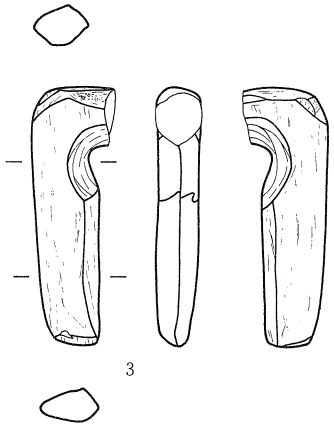


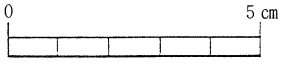
No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	ポイント	E－14・2層	(28.75)×9.15×3.65	0.90	頁　岩	―――	
2	ポイント	E－14・2層	(24.70)×(20.10)×(7.30)	2.85		―――	
3	ポイント	E－14・2層	(12.55)×(20.45)×(5.95)	0.70		―――	
4	磨製石斧	E－14・2層	90.45×49.60×25.55	164.5		―――	

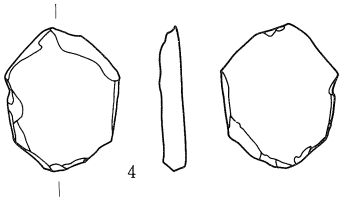
第815図　東区西側遺物包含層出土石器（11）

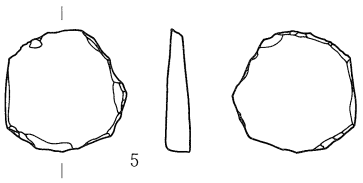


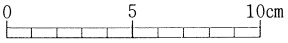






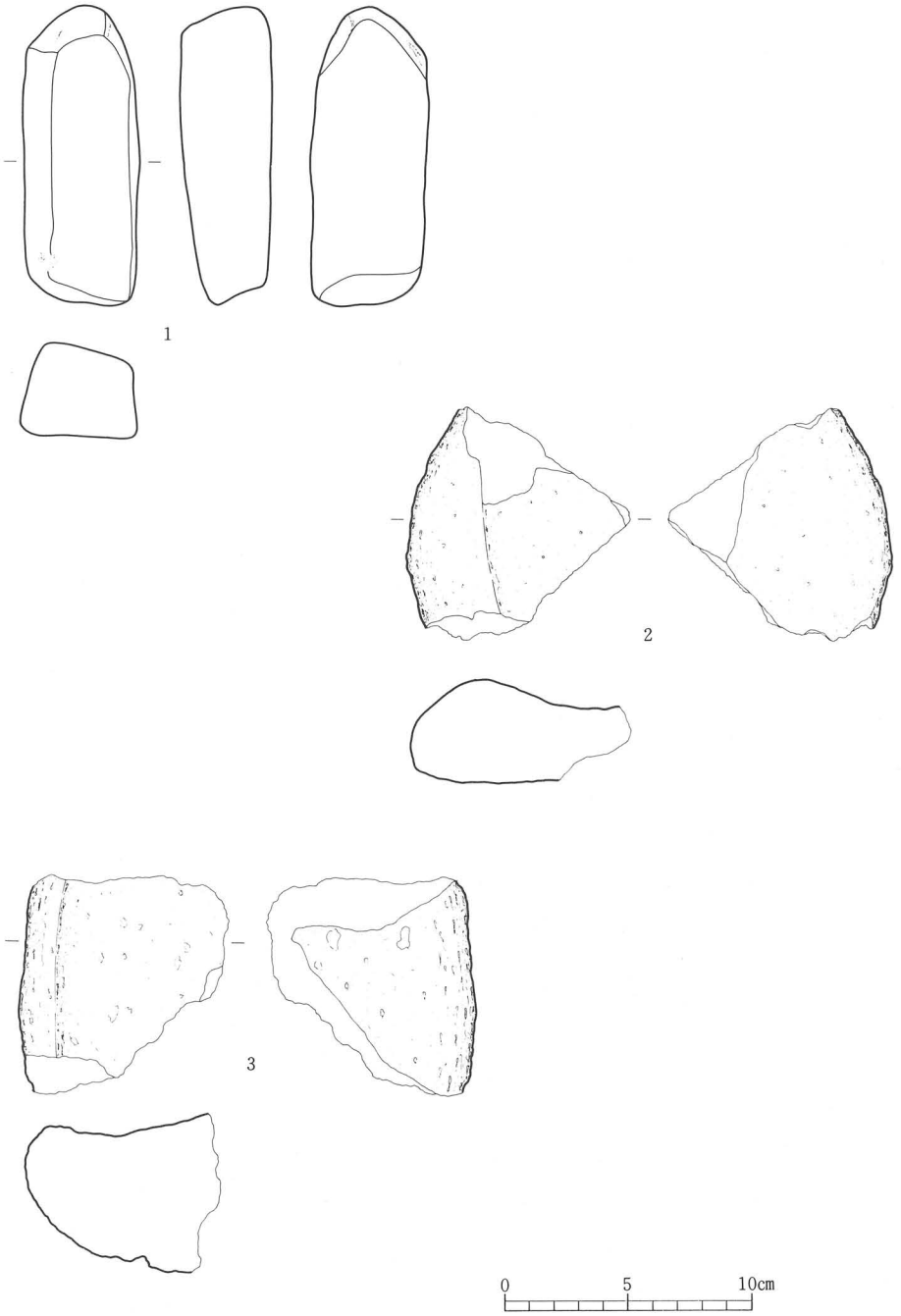






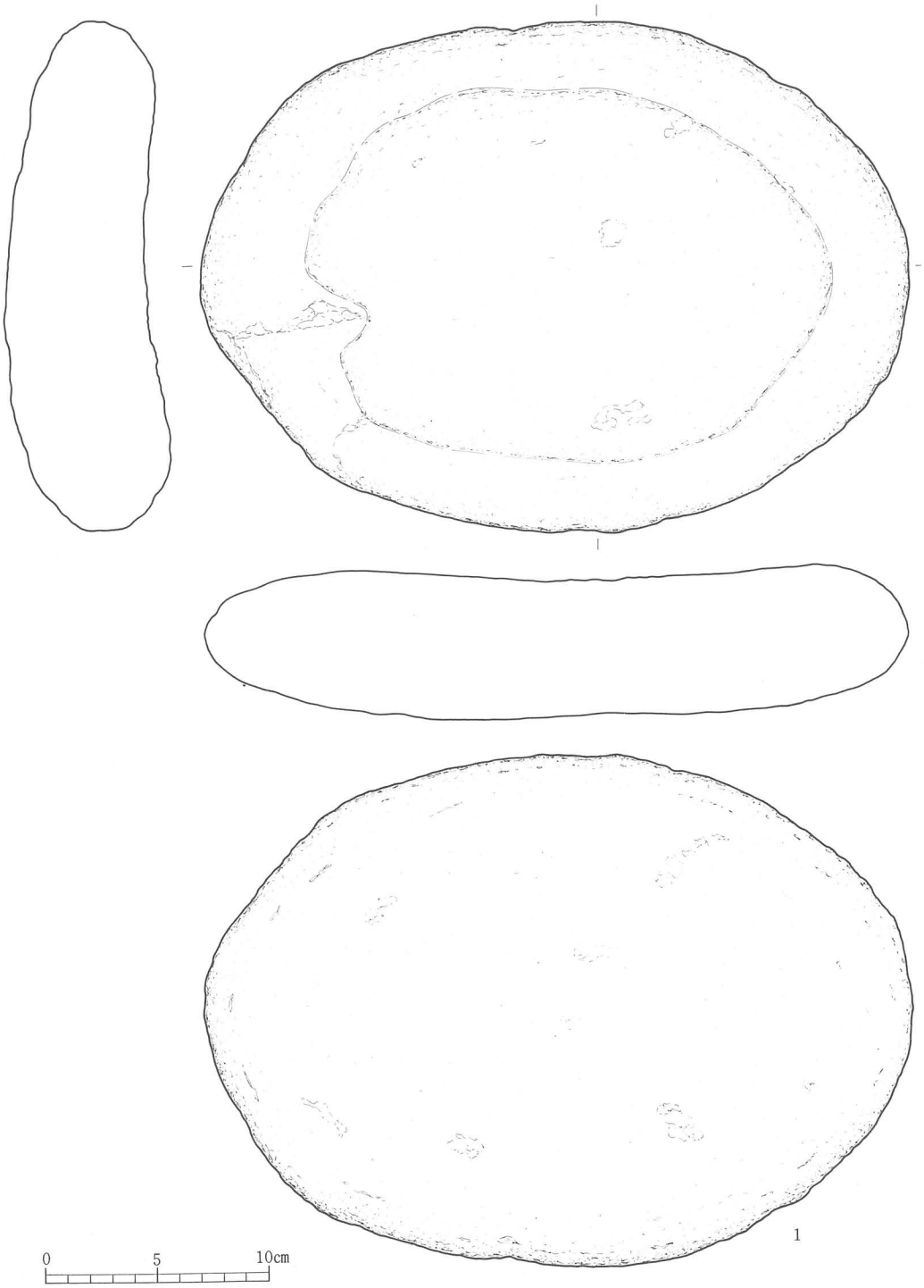
No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使　用　痕	備　考
1	磨製石斧	E－14・2層	(22.65)×(34.15)×(7.75)	6.5		———	
2	磨製石斧	E－15・2層	(30.20)×(27.75)×(6.55)	5.0		———	
3	玦状耳飾	P－20・2層				———	
4	石製円盤	E－14・2層		36.35		———	偏平礫使用
5	石製円盤	E－14・2層		33.70		———	

第816図　東区西側遺物包含層出土石器（12）、石製品（1）



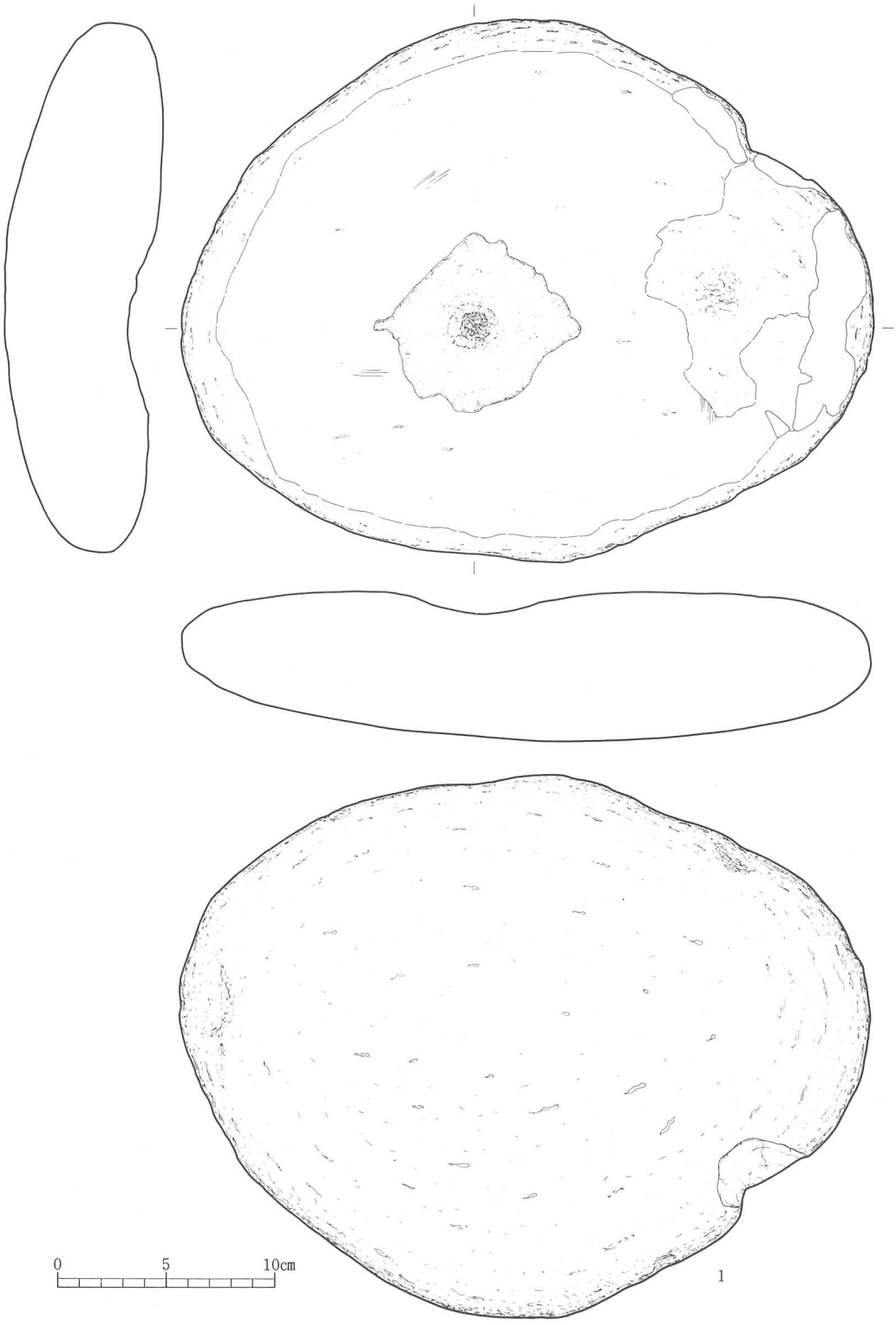
No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使　用　痕	備　考
1	砥　石	Q－20・2層					
2	石　皿	E－14・2層	(94)×(91)×(43)	325.0		磨－片面	
3	石　皿	E－14・2層	(89)×(85)×(65)	437.0		磨－片面	

第817図　東区西側遺物包含層出土石製製品（2）、石器（13）



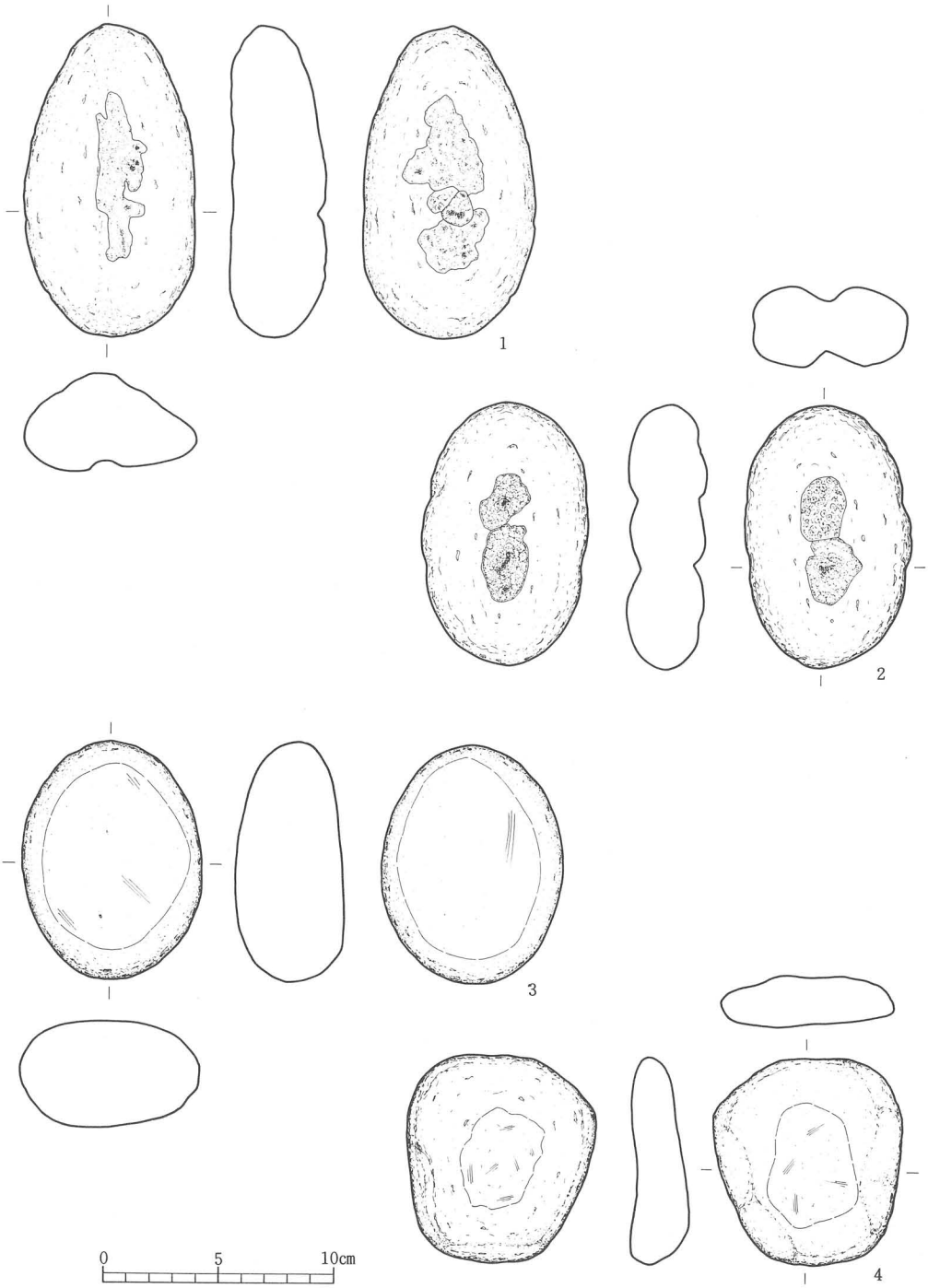
No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使　用　痕	備　考
1	石　皿	E－14・2層	330×290×72	6833.5		磨－片面	

第818図　東区西側遺物包含層出土石器（14）



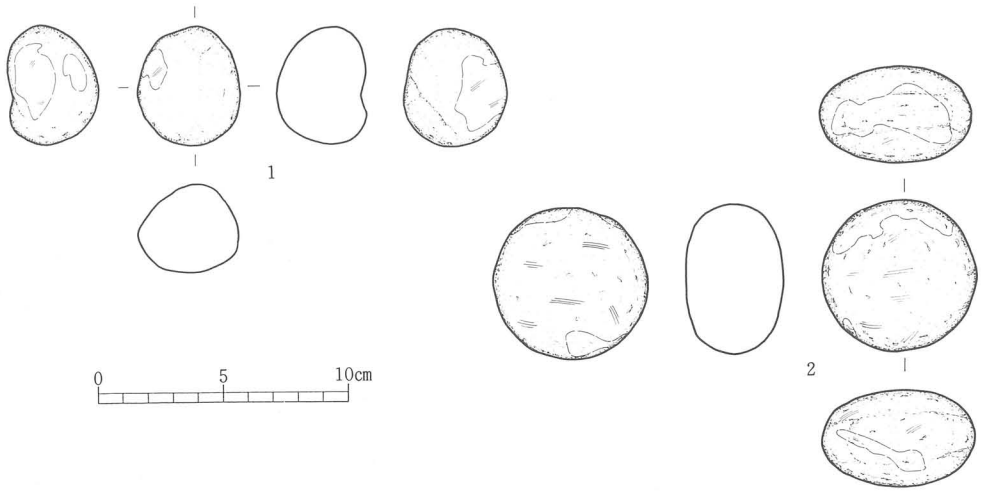
No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使　用　痕	備　考
1	礫石器	T－19・2層	316×249×71	6638.5		凹－両面・磨－両面	

第819図　東区西側遺物包含層出土石器（15）



No.	種別	地区・層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	礫石器	P－20・2層	134×76×43	442.0		凹－両面	焼けている
2	礫石器	E－14・2層	113×69×36	384.5		凹－片面・敲－両側面	
3	礫石器	P－20・2層	102×76×46	535.0		磨－両面	
4	礫石器	P－20・2層	88×80×28	235.5		磨－両面	

第820図　東区西側遺物包含層出土石器（16）



No	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使　用　痕	備　考
1	礫石器	P－20・2層	46×40×37	94.0		磨－片面・片側面	焼けている
2	礫石器	Q－20・2層	60×59×39	158.5		磨－両面・一端・両側面	

第821図　東区西側遺物包含層出土石器（17）

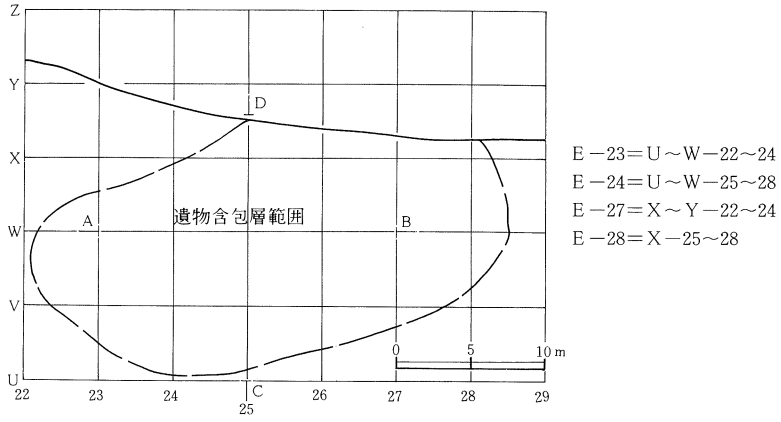
東区北側谷部遺物包含層

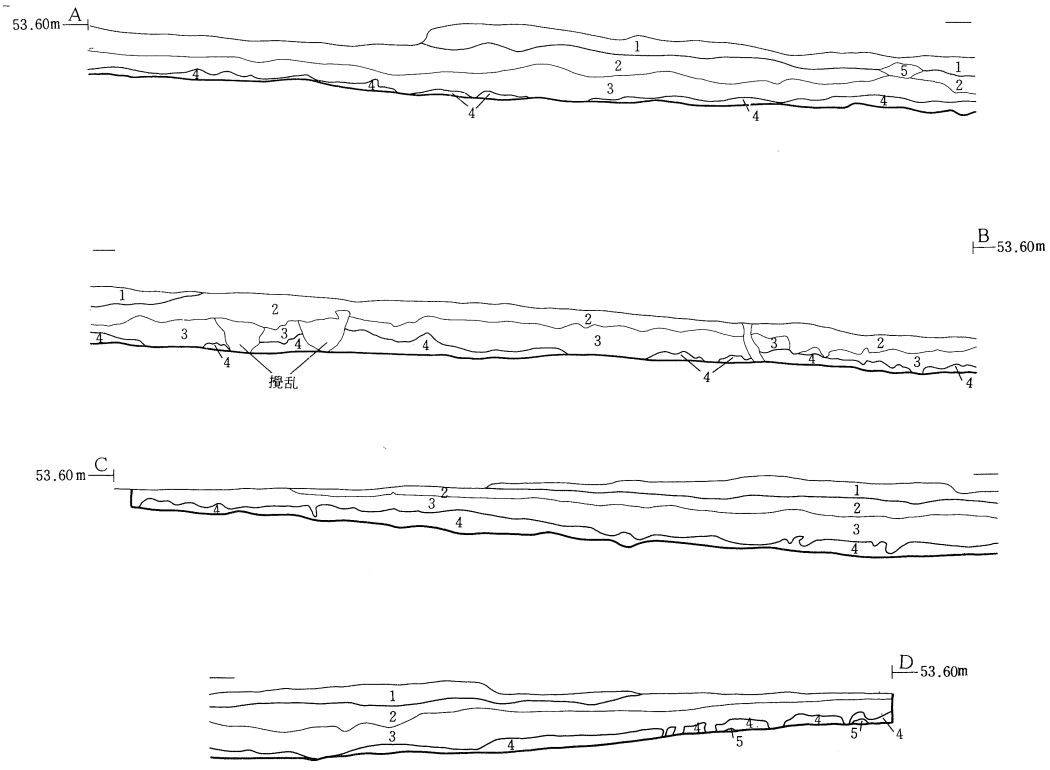
位置・範囲：谷部遺物包含層は、調査区の北側中央部Ｖ・Ｗ－22付近から北東方向へ傾斜する浅い谷状の微地形の斜面に形成されている。この谷は北側の調査区外へ延びているが、遺物包含層は、その範囲の大部分が調査区内のＵ－23～26、Ｖ－22～27、Ｗ－22～28、Ｘ－23～27の範囲内で把えられ、調査区外へ大きく広がるという可能性は少ないと思われる。

堆積状況：谷の堆積土は４層に分けられる。１層及び２層は遺物包含層である。３層及び４層は谷部堆積土である。１層及び２層の層厚は最も厚いＷ－24、25付近でそれぞれ約30cmであり、１層はＵ－24・25、Ｖ－23～27、Ｗ－24・25、Ｘ－24・25の範囲にのみ分布する。

遺物の出土状況：遺物の出土状況をみると、特に集中して出土する部分は、Ｕ～Ｗ－23～26にまたがる範囲である。この範囲から外れた部分では、遺物の出土量は少なくなっている。出土遺物は、１層から２層上面までは、縄文時代中期初頭、末葉から後期前葉の遺物に混じって土師器が出土している。２層中からは、中期初頭の遺物が集中して出土している。３層からは、わずかに中期初頭の遺物が出土するが、ほとんど無遺物層に近い状況である。

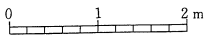
調査時遺物の取り上げの際に、層位を基本層に対応させ、谷部堆積土１層を基本層第２層上部、２層を基本層第２下部とした。しかし、実際には一括して２層、あるいは、谷部包含層としてまとめて取り上げられており、整理時に明確に包含層１層及び２層の遺物を分離することはできなかった。



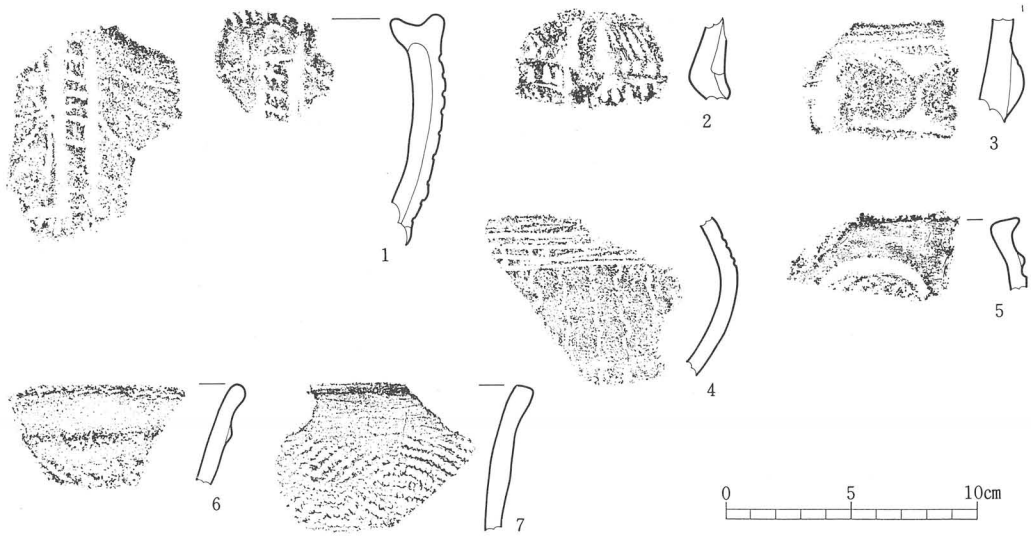


東区北側谷部遺物包含層土層註記表

層位	層No	土色	土性	備考
1	1	暗褐 7.5YR3/3	シルト	
2	2	極暗褐 7.5YR2/3	粘土質シルト	凝灰岩粒。拳大～手のひら大の礫を含む。
	3	極暗褐 7.5YR2/3	シルト	
3	4	褐 7.5YR4/4	粘土質シルト	
4	5	褐 7.5YR4/6	シルト	

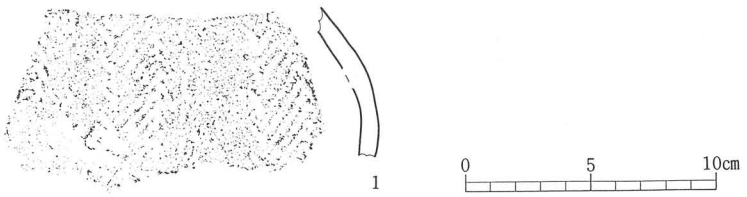


第822図　東区北側谷部遺物包含層



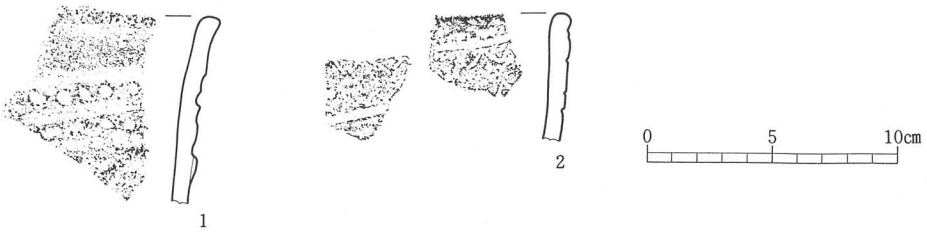
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	U－24・3層	深鉢	隆線文・沈線文・撚糸圧痕文	不明	VII	
2	U－24・2層	深鉢	隆線文・刺突文・櫛歯文・L縄文	磨キ（横）	VII	
3	U－24・3層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文	磨キ（横）	VII	
4	U－24・3層	深鉢	沈線文・綾絡文	磨キ（横）	VII	
5	U－24・3層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）	IX	
6	U－24・3層	深鉢	隆線文・L撚糸	磨キ（横）	BI	
7	U－24・3層	深鉢	LR縄文	ナデ（横・斜）	BVI	

第823図　U－24区　出土土器



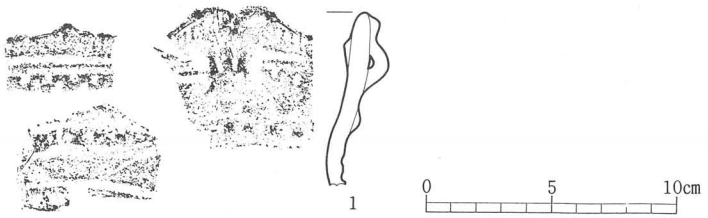
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	V－22・2層	深鉢	綾絡文・RL縄文	磨キ（横）	B	

第824図　V－22区　出土土器



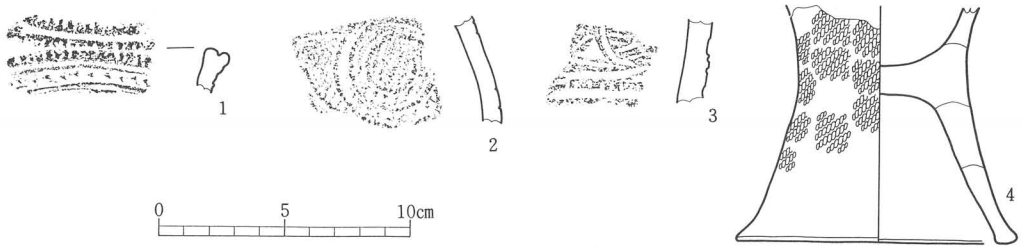
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	V－23・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文	磨キ（横）	VII	
2	V－23・2層	深鉢	沈線文・刺突文	磨キ（横）	VII	

第825図　V－23区　出土土器



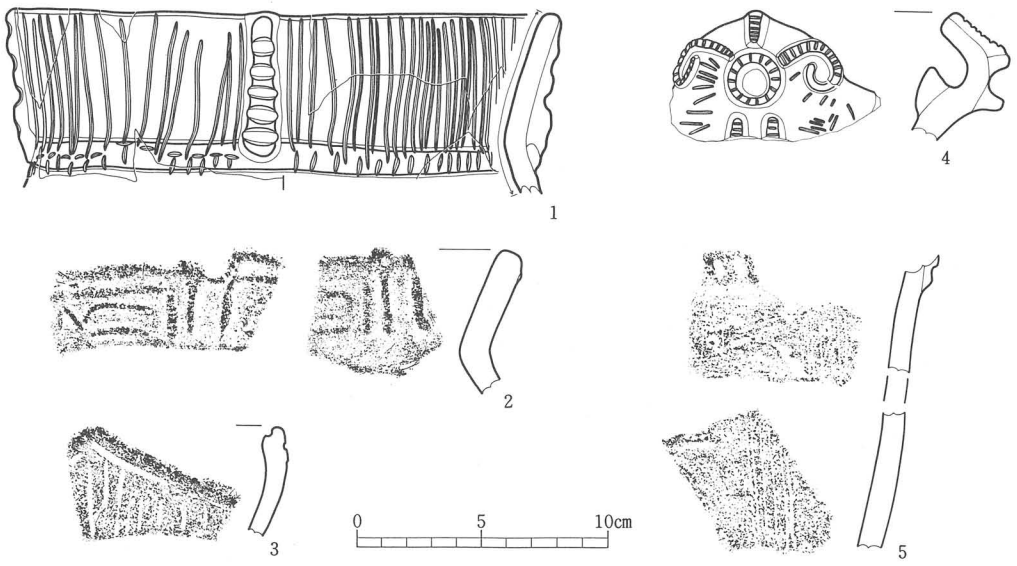
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	V－24・2層	深鉢	隆線文・沈線文・貼付文・刺突文	磨キ（横）	VI	

第826図　V－24区　出土土器



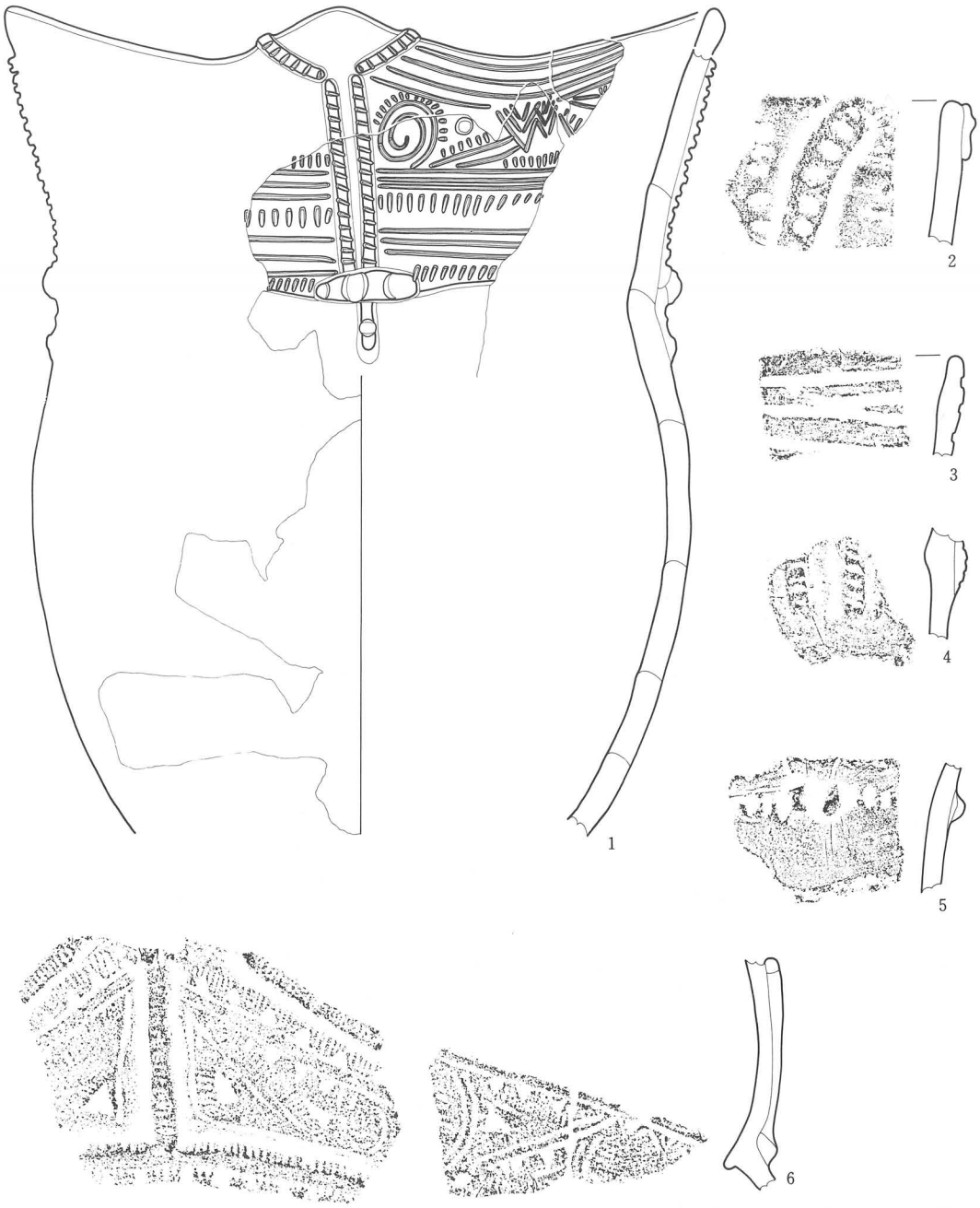
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	W－23・2層	——	隆線文・沈線文・刺突文・刻目文	磨キ（横）	XIV	
2	W－23・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文・刻目文・RL縄文	不明	VI	
3	W－23・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刻目文	磨キ（横）	VI	
4	W－23・2層	台付鉢	LR縄文	ナデ・磨キ（横）		

第827図　W－23区　出土土器



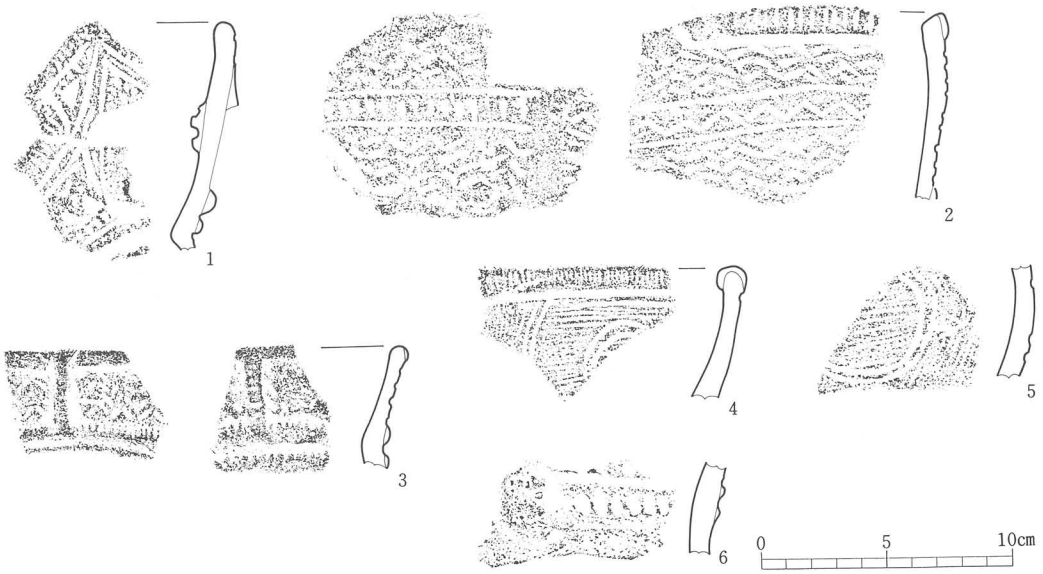
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	W－24・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刻目文	磨キ（横）	VIIA3	
2	W－24・2層	深鉢	隆線文・貼付文	不明	VI	
3	W－24・2層	深鉢	沈線文	磨キ（横）	VI	
4	W－24・2層	——	隆線文・沈線文・刻目文	磨キ（横）	VII	
5	W－24・2層	深鉢	隆線文・刺突文・条線文	磨キ（横）	VI	

第828図　W－24区　出土土器（1）



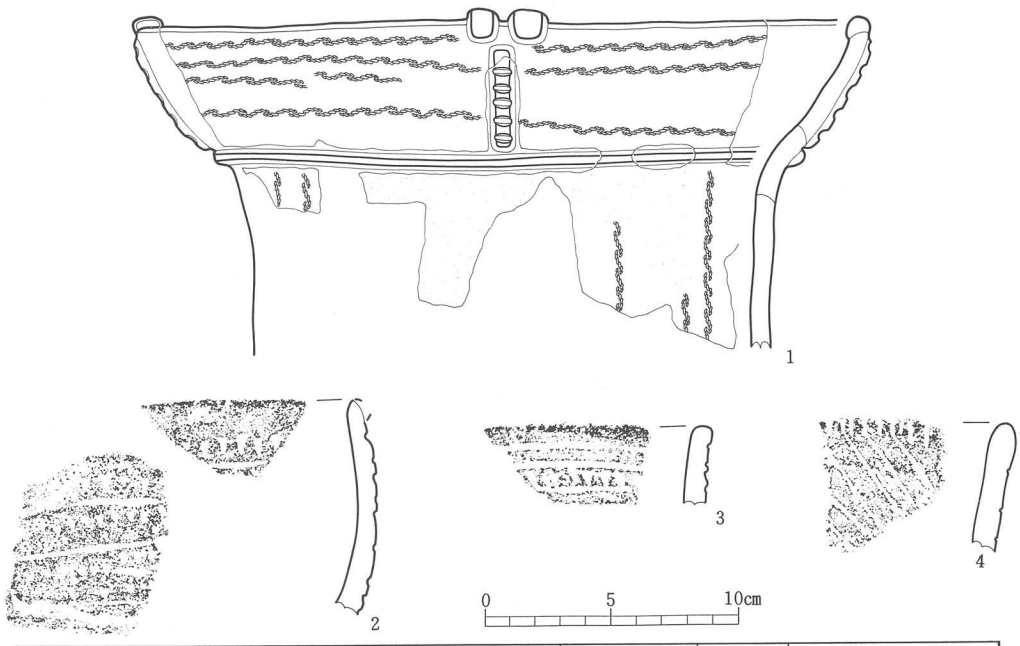
No.	地区・層位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	W－24・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・刺突文・ナデ・ケズリ	ナデ（横・縦）	VIIA1	
2	W－24・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・刺突文	磨キ（横）	VII	
3	W－24・2層	深　鉢	沈線文	磨キ（横）	VII	
4	W－24・——	深　鉢	隆線文・刻目文	磨キ（横）	VII	
5	W－24・——	深　鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	VII	
6	W－24・——	深　鉢	隆線文・沈線文・刺突文・刻目文	磨キ（横）	VII	

第829図　W－24区　出土土器（2）



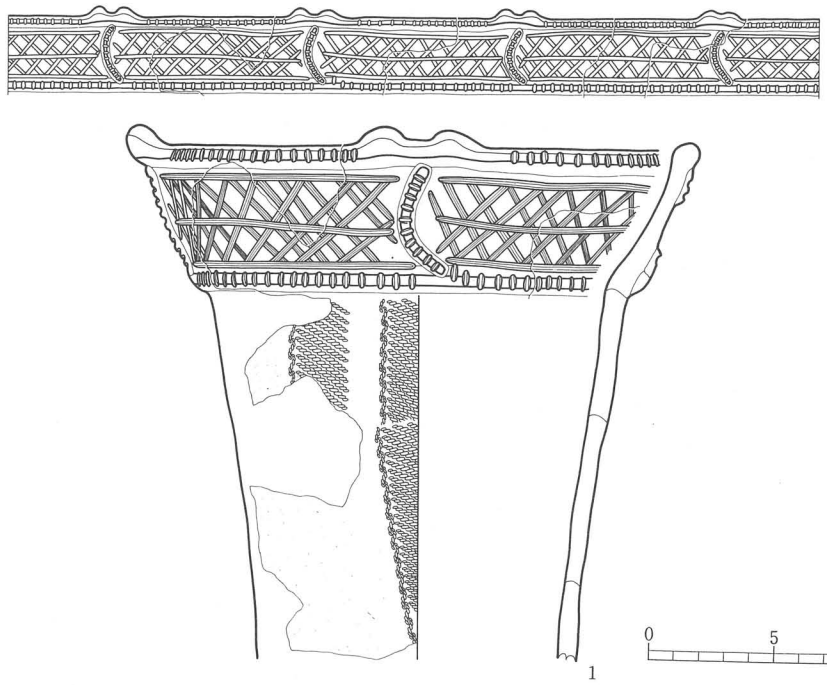
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	W－24・——	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文・刻目文	隆線文・沈線文・磨キ（横）	VII	
2	W－24・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刻目文	磨キ（横）	VII	
3	W－24・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刻目文	不明	VII	
4	W－24・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刻目文	隆線文・磨キ（横）	VII	
5	W－24・2層	深鉢	沈線文	磨キ（斜）	VII	
6	W－24・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文	磨キ（横）	VII	

第830図　W－24区　出土土器



No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	W－23～24・——	深鉢	隆線文・刻目文・綾絡文・RL縄文	ナデ（横）	VIIB1	結束第2種
2	W－23～24・——	深鉢	沈線文・刺突文	磨キ（横）	VII	
3	W－23～24・——	深鉢	沈線文・刺突文	磨キ（横）	VII	
4	W－23～24・——	深鉢	条線文・刻目文	磨キ（横）	VII	

第831図　W－23～24区　出土土器

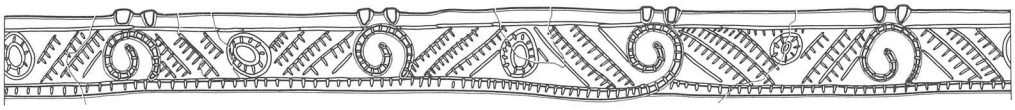


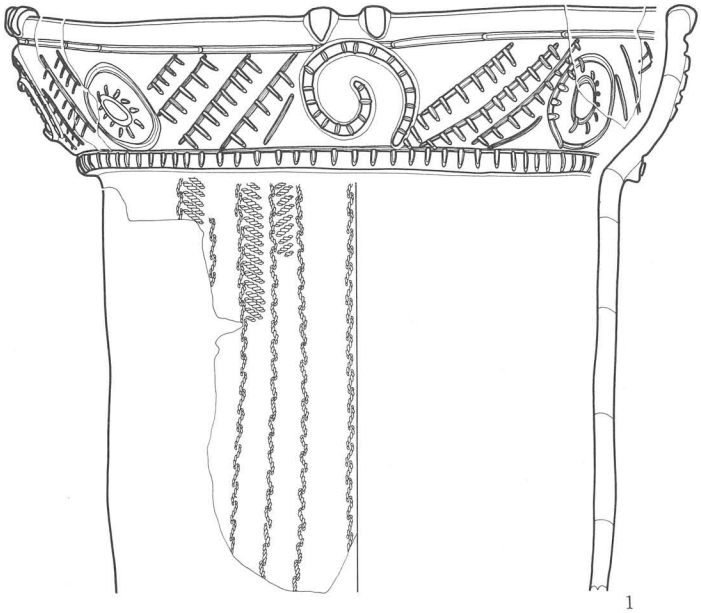
No.	地区・層位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	X－24・2層上面	深　鉢	隆線文・沈線文・刻目文・綾絡文・LR縄文	磨キ（横）	VIIB 2	結束第2層

第832図　X－24区　出土土器

No.	地区・層位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	E－23・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・刻目文	磨キ（横）	VII	
2	E－23・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・刻目文・綾絡文	磨キ（横）	VII	

第833図　E－23区　出土土器（1）





1

0 5 10cm

No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	E－23・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文・刻目文・綾絡文・$\frac{RL}{LR}$縄文	磨キ（横）	VIIB 1	結束第２種

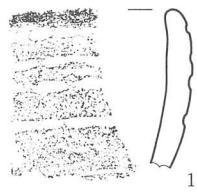
第834図　E－23区　出土土器（２）

1

0 5 10cm

No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	U－25・2層	深鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横）	VII	

第835図　U－25区　出土土器



1

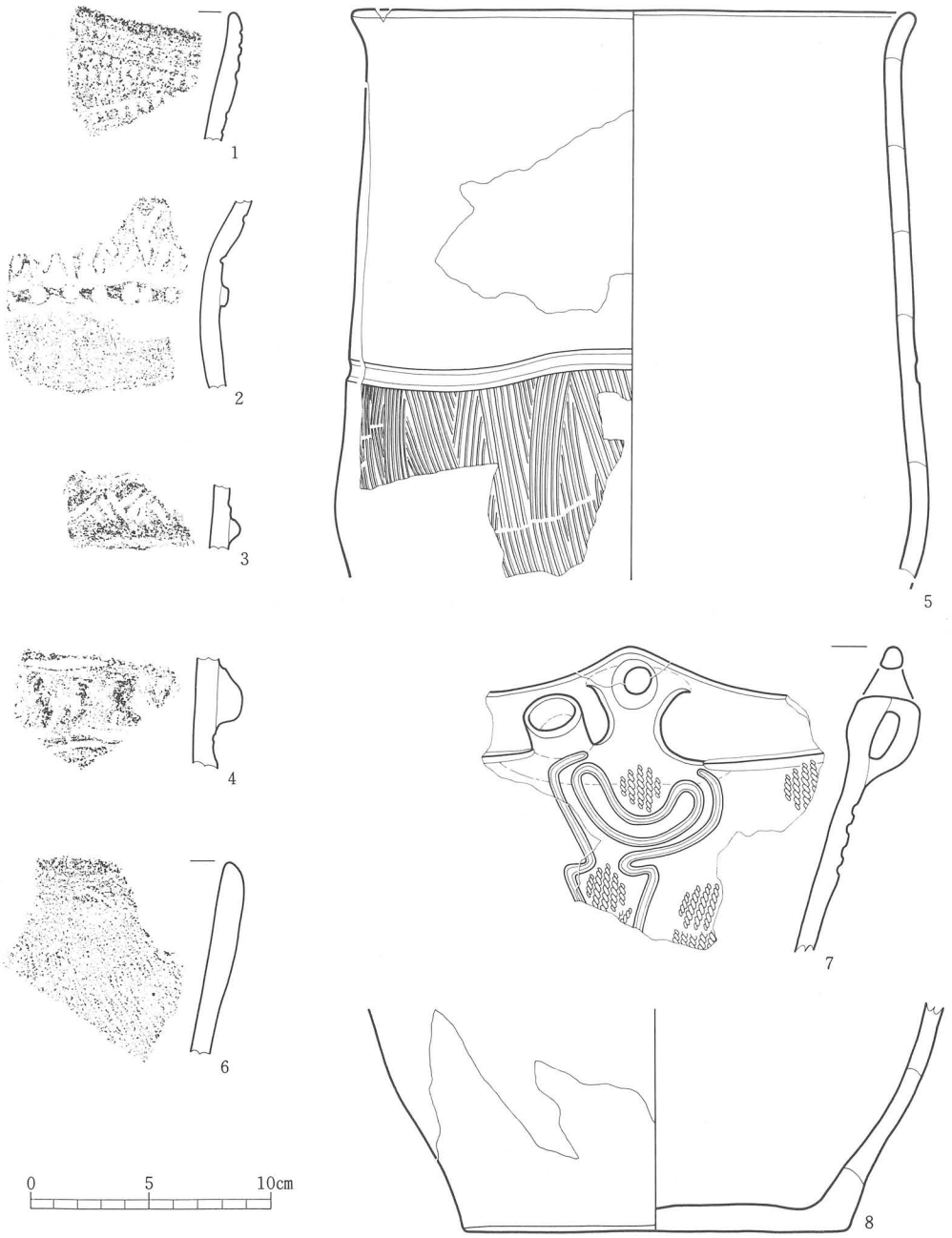
0 5 10cm

No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	U－26・2層	深鉢	沈線文・刺突文	磨キ（横）	VII	

第836図　U－26区　出土土器

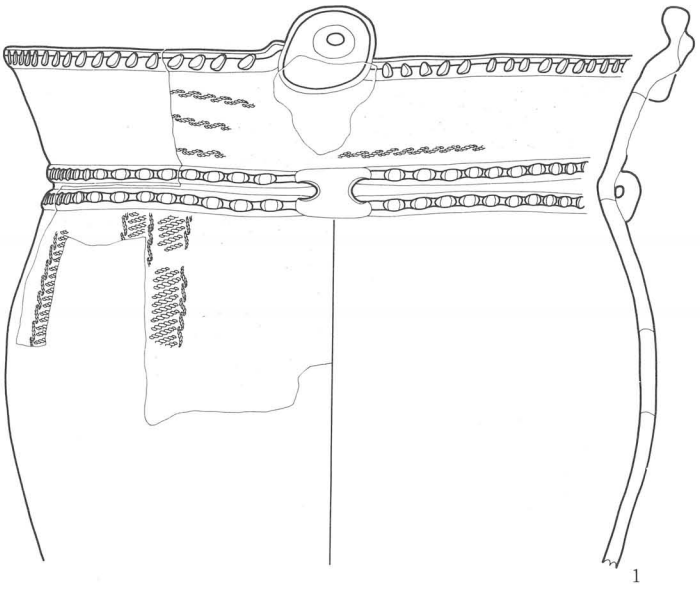
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	V－25・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刻目文・綾絡文	磨キ（横）	VII	
2	V－25・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刻目文・綾絡文	磨キ（横）	VII	
3	V－25・2層	深鉢	沈線文・刺突文	磨キ（横）	VII	
4	V－25・2層	深鉢	沈線文	磨キ（横・斜）	VII	
5	V－25・2層	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）	XIa	
6	V－25・2層	深鉢	沈線文	磨キ（横）	BIV	

第837図　V－25区　出土土器



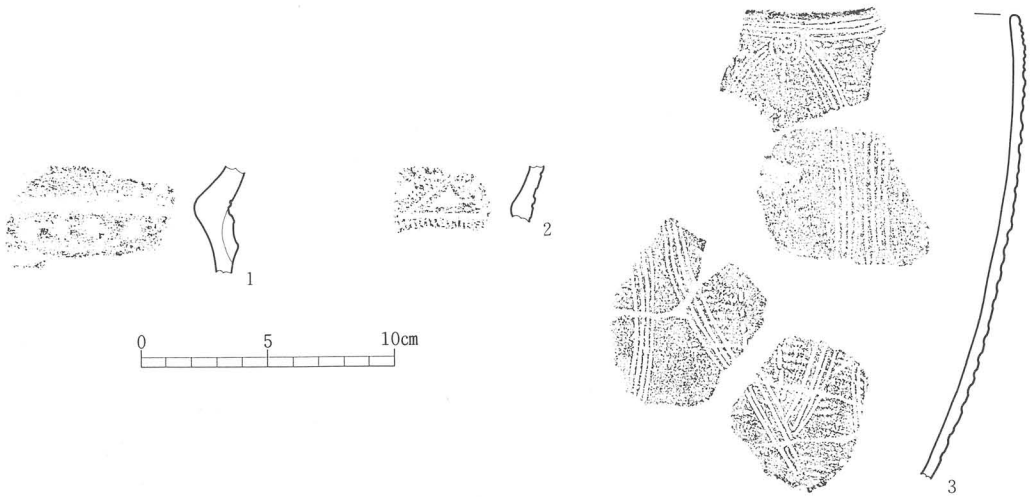
No.	層　位	器　形	外　面	内　面	底　部	分　類	備　考
1	V－25・3層	深　鉢	沈線文・刺突文	磨キ（横）		VII	
2	V－25・3層	深　鉢	隆線文・沈線文・刻目文	磨キ（横・斜）		VII	
3	V－25・3層	深　鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横）		VII	
4	V－25・——	深　鉢	沈線文・貼付文	磨キ（横）		VII	
5	V－25・——	深　鉢	櫛歯文	ナデ・磨キ（横・斜）		X？	
6	V－25・2層	深　鉢	R撚糸文	ナデ・磨キ（斜）		BVI	
7	V－25・——	深　鉢（注11）	隆線文・沈線文・LR縄文・磨キ	磨キ（横）		XI	
8	V－25・——	深　鉢	ナ　デ	ナデ（横）	網代痕		

第838図　V－25区　出土土器（2）



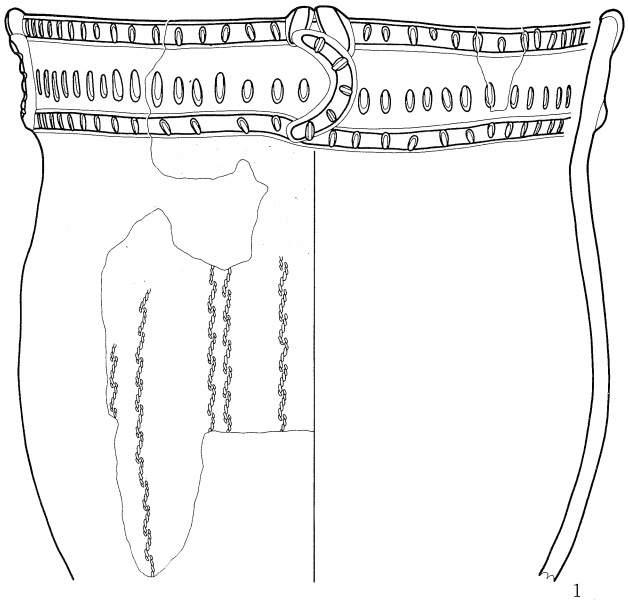
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	V－26・2層	深鉢	隆線文・刺突文・刻目文・綾絡文・RL縄文	磨キ（横）	VIIA12	結束第2種
2	V－26・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文	磨キ（横）	VII	
3	V－26・2層	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）	VIII	

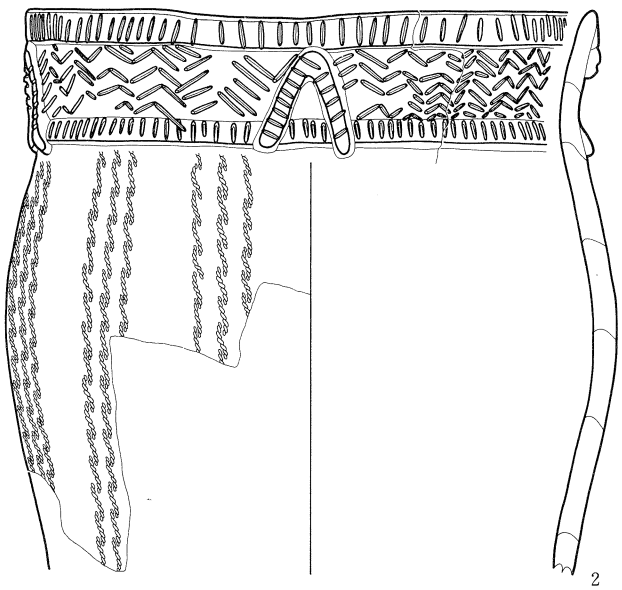
第839図　V－26区　出土土器

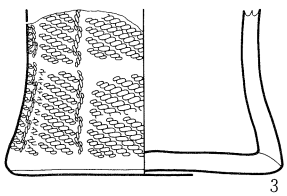


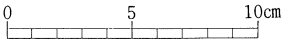
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	V－27・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文	磨キ（横）	VII	
2	V－27・2層	深鉢	沈線文・刺突文・刻目文	磨キ（横）	VII	
3	V－27・2層	深鉢	沈線文・刺突文・LR縄文	磨キ（横）	X16	

第840図　V－27区　出土土器



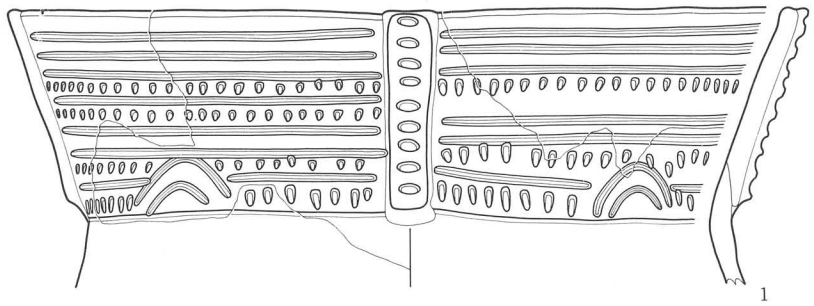


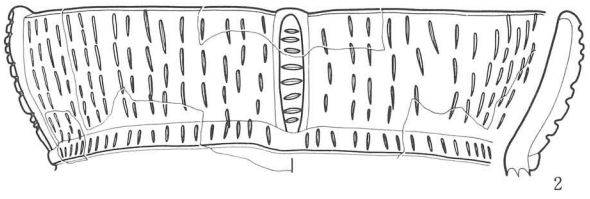


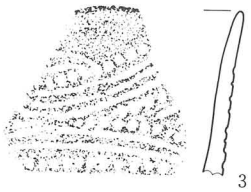


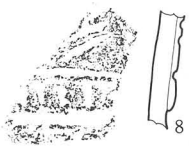
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	W－25・2層	深鉢	隆線文・刺突文・刻目文・綾絡文・LR縄文	磨キ（横）	ⅦA2	結束第2種
2	W－25・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刻目文・綾絡文・LR縄文・磨キ	磨キ（横）	ⅦA2	結束第2種
3	W－25・2層	深鉢	綾絡文・LR縄文	マメツ		結束第2種

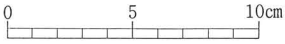
第841図　W－25区　出土土器（1）





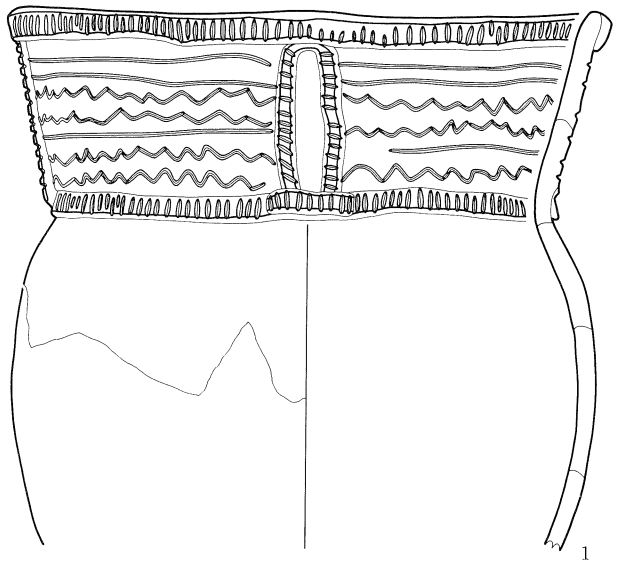


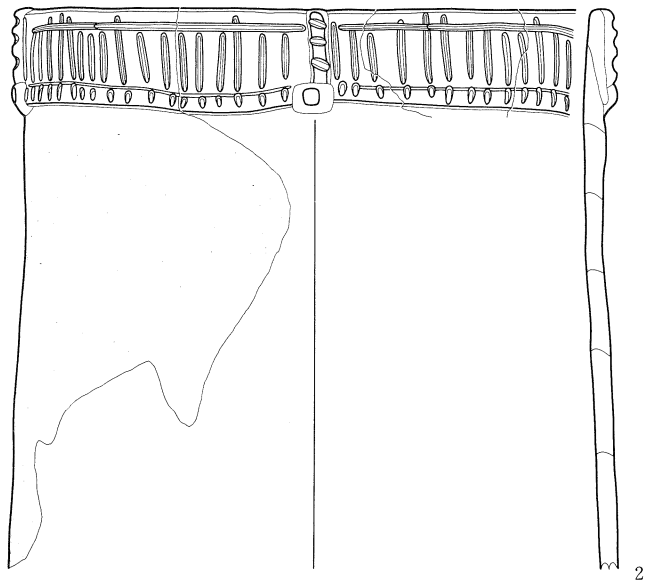


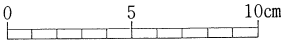


No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	W－25・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文・磨キ	磨キ（横）	VIIA 3	
2	W－25・2層	深鉢	隆線文・刺突文・刻目文	ナデ（横）	VIIA 3	
3	W－25・2層	深鉢	沈線文・刺突文	磨キ（横）	VII	
4	W－25・2層	深鉢	隆線文・沈線文	ナデ・磨キ（横）	VII	
5	W－25・2層	深鉢	隆線文・刻目文	磨キ（横）	VII	
6	W－25・2層	深鉢	隆線文・刺突文	隆線文・磨キ（横）	VII	
7	W－25・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文・刻目文	磨キ（横）	VII	
8	W－25・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刻目文	磨キ（斜）	VII	
9	W－25・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刻目文	磨キ（横）	VII	
10	W－25・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刻目文	磨キ（横）	VII	

第842図　W－25区　出土土器（2）

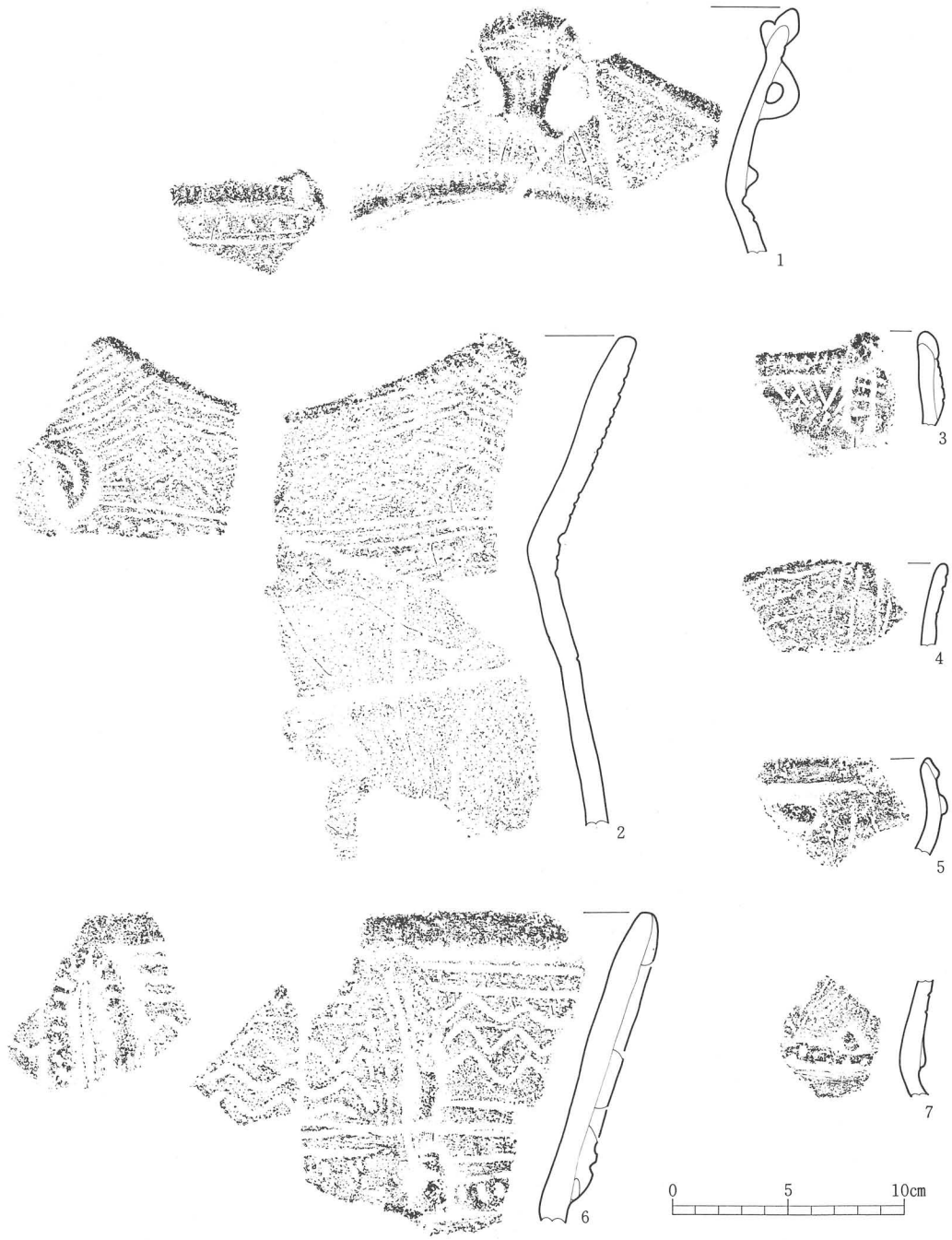






No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	W－25・3層	深鉢	隆線文・沈線文・刻目文・磨キ	磨キ（横）	VIIA 1	
2	W－25・3層	深鉢	隆線文・沈線文・刻目文	磨キ（横・縦）	VIIB 1	

第843図　W－25区　出土土器（3）



No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	W－25・2層	深鉢	隆線文・沈線文・貼付文・刻目文・刺突文	隆線文・マメツ	VI	
2	W－25・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文	磨キ（横）	VIorVII	
3	W－25・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刻目文	ナデ・磨キ（横）	VII	
4	W－25・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刻目文	磨キ（横）	VII	
5	W－25・——	深鉢	隆線文・貼付文・綾絡文	磨キ（横）	VIorVII	
6	W－25・——	深鉢	隆線文・沈線文・刻目文	磨キ（横）	VII	
7	W－25・——	深鉢	隆線文・沈線文・貼付文・刻目文	磨キ（横）	VII	

第844図　W－25区　出土土器（4）

No.	地区・層位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	W－25・——	深　鉢	隆線文・刺突文・刻目文	磨キ（横）	VII	
2	W－25・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・刺突文・刻目文	磨キ（横）	VII	
3	W－25・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・刺突文・刻目文	隆線文・磨キ（横）	VII	
4	W－25・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・刻目文	磨キ（横）	VIorVII	
5	W－25・2層	深　鉢	沈線文・貼付文・刺突文	マメツ	VIorVII	
6	W－25・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・刻目文	隆線文・ナデ・磨キ（横）	VII	
7	W－25・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・刻目文	磨キ（横）	VII	
8	W→25・2層	深　鉢	沈線文	磨キ（横）	VII	
9	W－25・2層	深　鉢	沈線文	磨キ（横）	VII	
10	W－25・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・刻目文・綾絡文	磨キ（横・斜）	VII	
11	W－25・2層	深　鉢	沈線文	磨キ（斜）	VII	
12	W－25・2層	深　鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横）	VII	
13	W－25・2層	深　鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横）	VII	
14	W－25・2層	深　鉢	隆線文・不明縄文	磨キ（横）	VII	
15	W－25・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・貼付文・刻目文	磨キ（横）	VII	

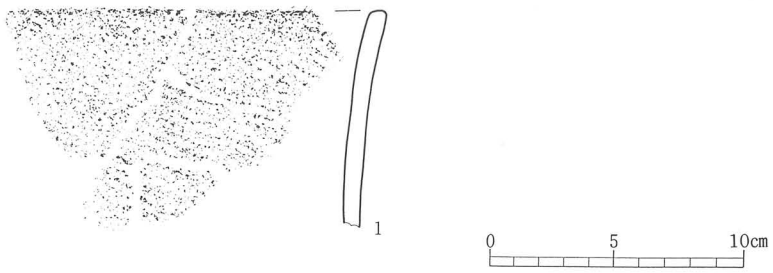
第845図　W－25区　出土土器（5）

No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	W－26・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文	マメツ	VII	
2	W－26	深鉢	沈線文・刺突文	磨キ（横）	VII	
3	W－26・2層	深鉢	沈線文・刺突文	磨キ（横）	VII	
4	W－26	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文・刻目文	マメツ	VII	

第846図　W－26区　出土土器

No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	W－27	深鉢	隆線文・沈線文・刻目文	磨キ（横）	VII	

第847図　W－27区　出土土器

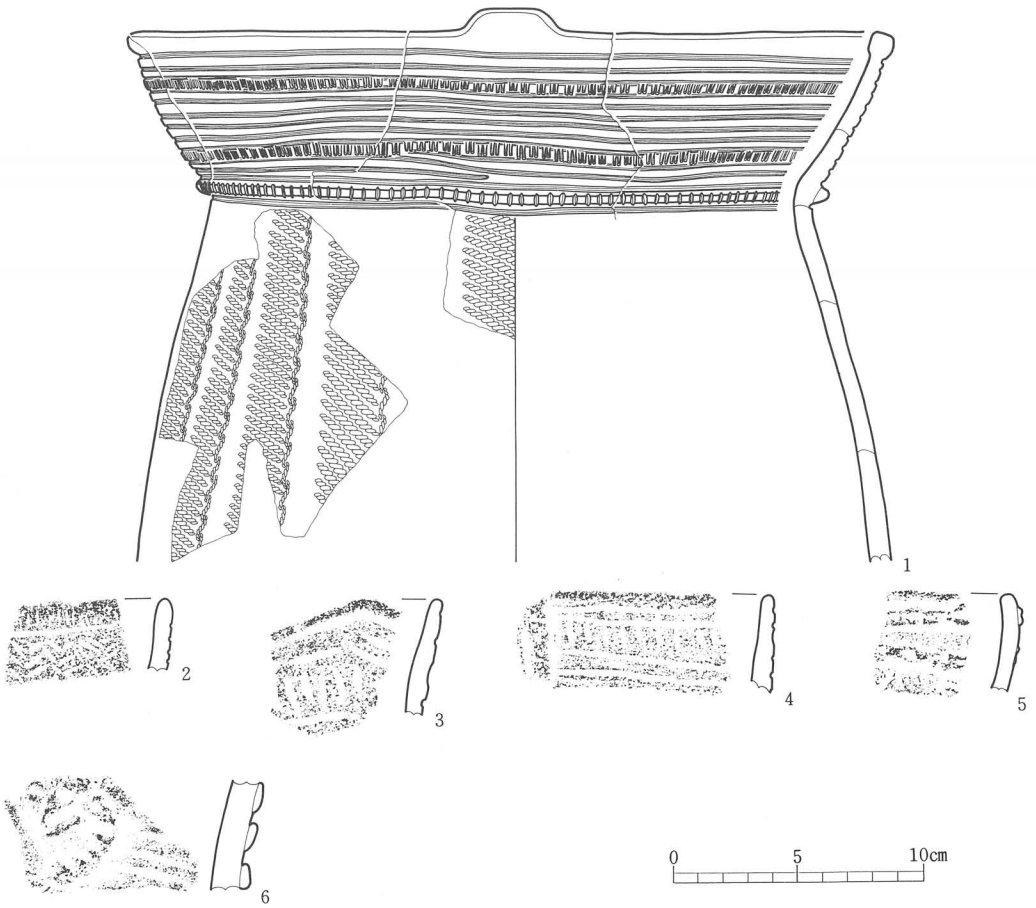


No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	W－28	深鉢	LR縄文	磨キ（横）	BVI	

第848図　W－28区　出土土器

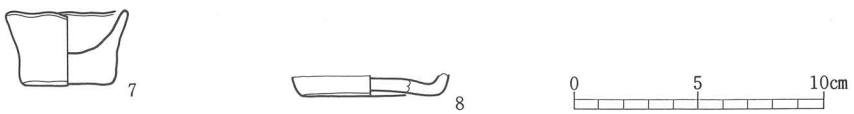
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	X－25・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文	マメツ	VII	

第849図　X－25区　出土土器



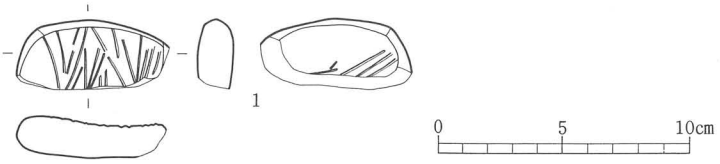
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	E－24・南２層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文・刻目文・綾絡文・LR縄文	磨キ（横）	ⅦA２	結束第２種
2	E－24・２層	深鉢	沈線文・刻目文	マメツ	Ⅶ	
3	E－24・２層	深鉢	沈線文・刺突文	磨キ（横）	ⅥorⅦ	
4	E－24・２層	深鉢	隆線文・沈線文・刻目文	磨キ（横）	Ⅶ	
5	E－24・２層	深鉢	隆線文・刻目文	磨キ（横）	Ⅶ	
6	E－24・２層	深鉢	隆線文・刻目文	磨キ（横）	Ⅶ	

第850図　E－24区　出土土器



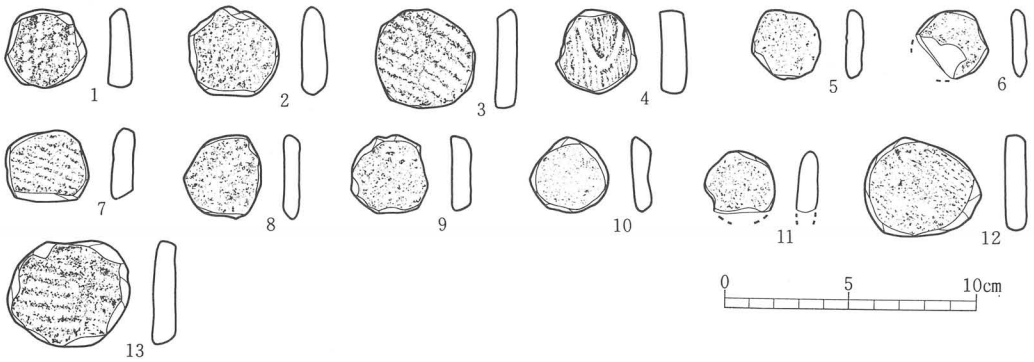
No.	層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	W－24・２層	ミニチュア	ナデ	ナデ	ナデ		
2	W－25・２層	ミニチュア	ナデ	ナデ	ナデ		

第851図　東区北側谷部遺物包含層出土土製品（１）



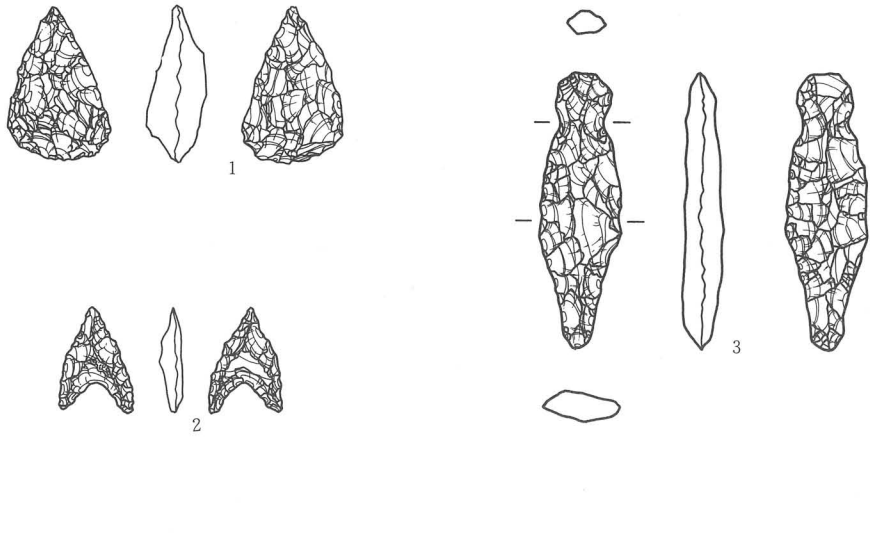
No.	層　位	種　類
1	V－25・2層	板状土製品

第852図　東区北側谷部遺物包含層出土土製品（2）



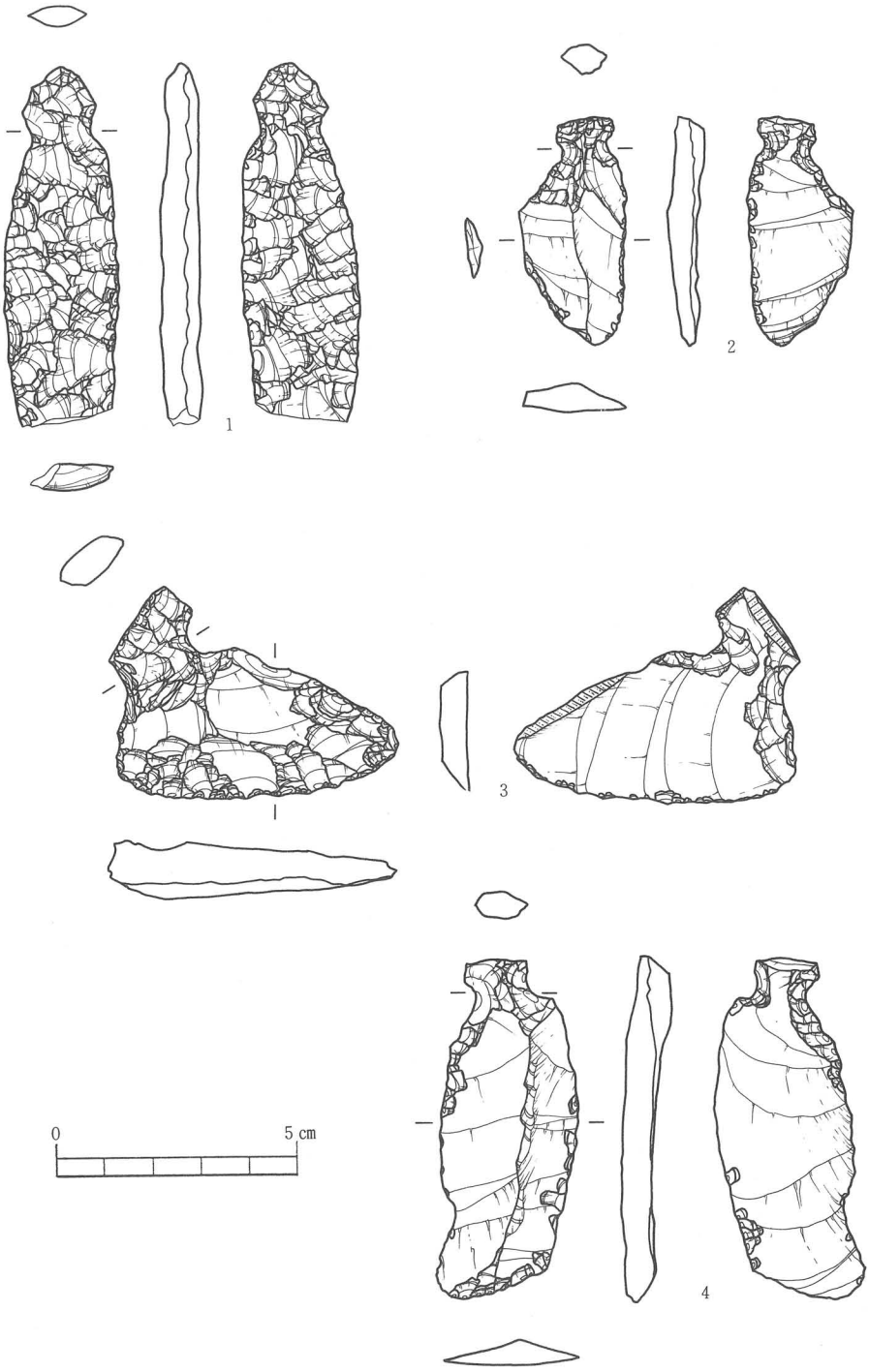
No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位
1	V－23・2層	4	V－27・2層	7	W－25・2層	10	W－26・2層	13	E－24東・2層
2	W－24・2層	5	W－25・2層	8	W－25・2層	11	W－26・2層		
3	E－23・2層	6	W－25・2層	9	W－25・2層	12	W－27・——		

第853図　東区北側谷部遺物包含層出土土製円盤



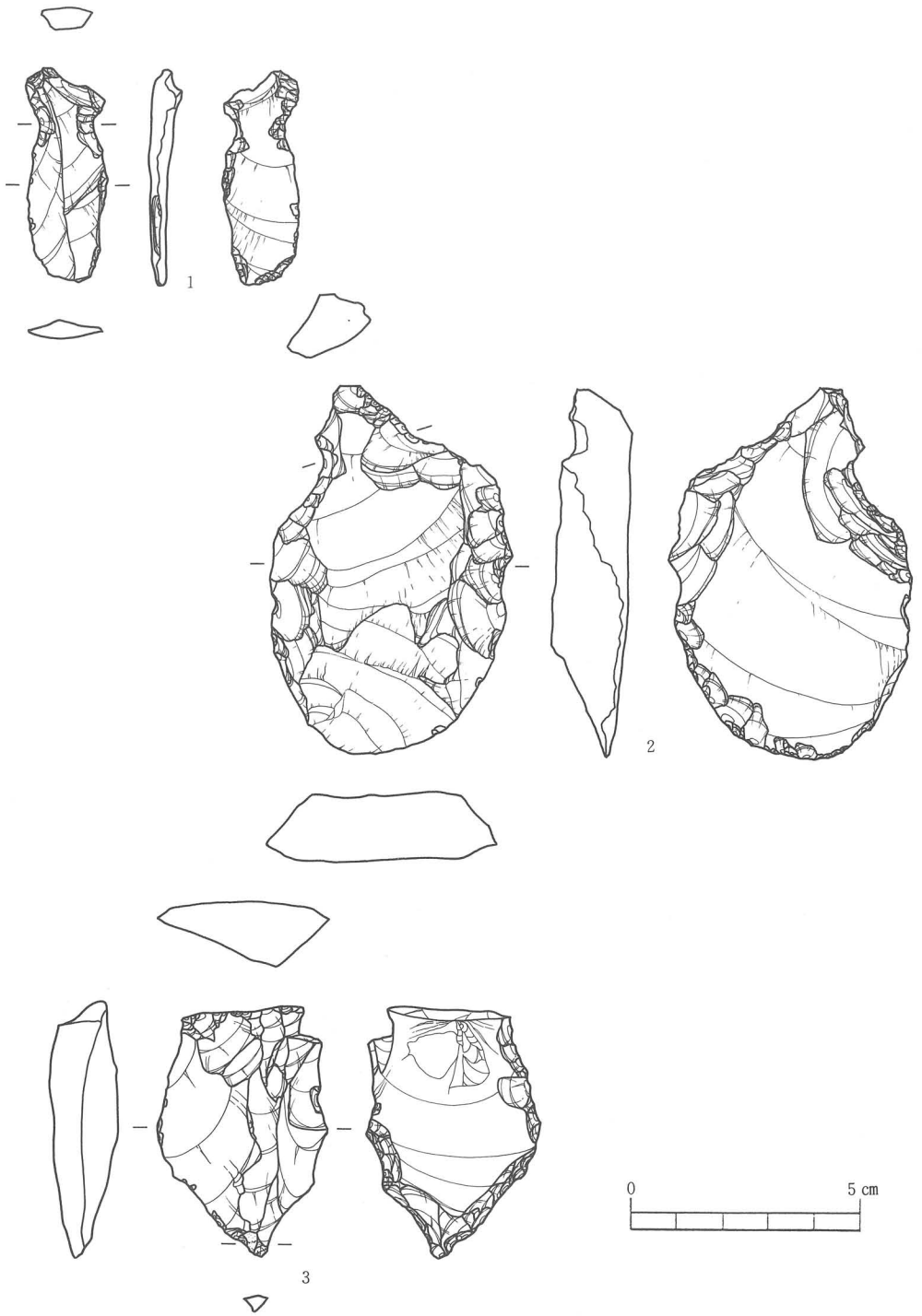
No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	石　鏃B	V－24・2層	30.70×20.05×10.75	5.55		——	
2	石　鏃A	E－23	20.50×14.35×4.55	0.75	頁　岩	——	
3	石　匙	U－24・2層	54.90×16.30×7.55	5.90	頁　岩	——	

第854図　東区北側谷部遺物包含層出土石器（1）



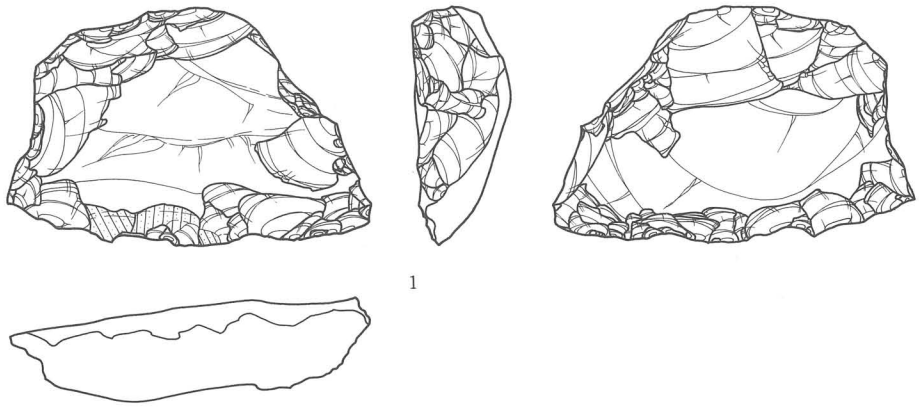
No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	石　匙	V－23・2層	(73.30)×23.30×8.35	13.35	頁　岩		
2	石　匙	W－24・2層	47.05×21.75×6.25	5.20	頁　岩		
3	石　匙	V－25	43.65×60.10×11.55	20.85	頁　岩		
4	石　匙	V－25・2層	70.40×27.90×7.80	12.50	メノウ		

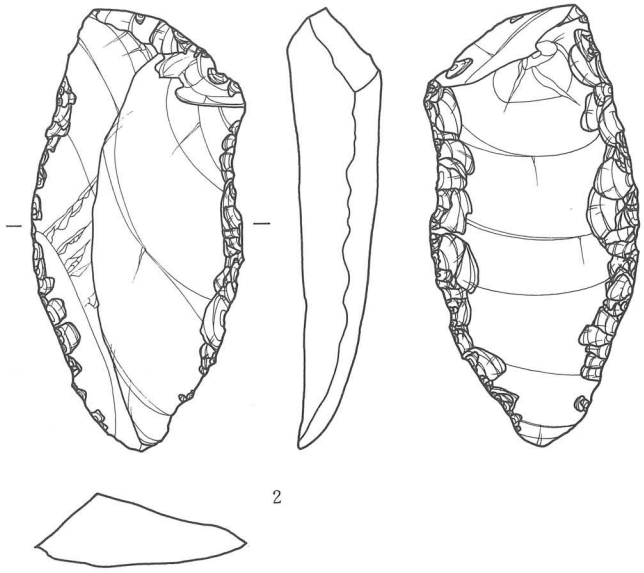
第855図　東区北側谷部遺物包含層出土石器（2）

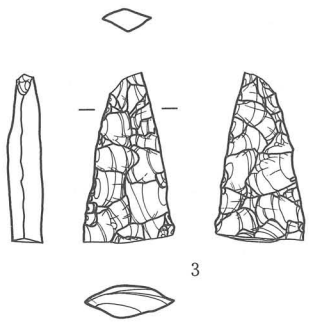


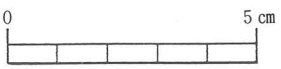
No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	石　匙	W－26・2層下部	46.45×17.85×6.10	3.65		――	
2	石　匙	X－25・2層	80.05×52.15×15.45	66.30		――	
3	石　錐	X－27・2層	54.65×36.95×14.35	25.25	頁　岩	――	

第856図　東区北側谷部遺物包含層出土石器（3）



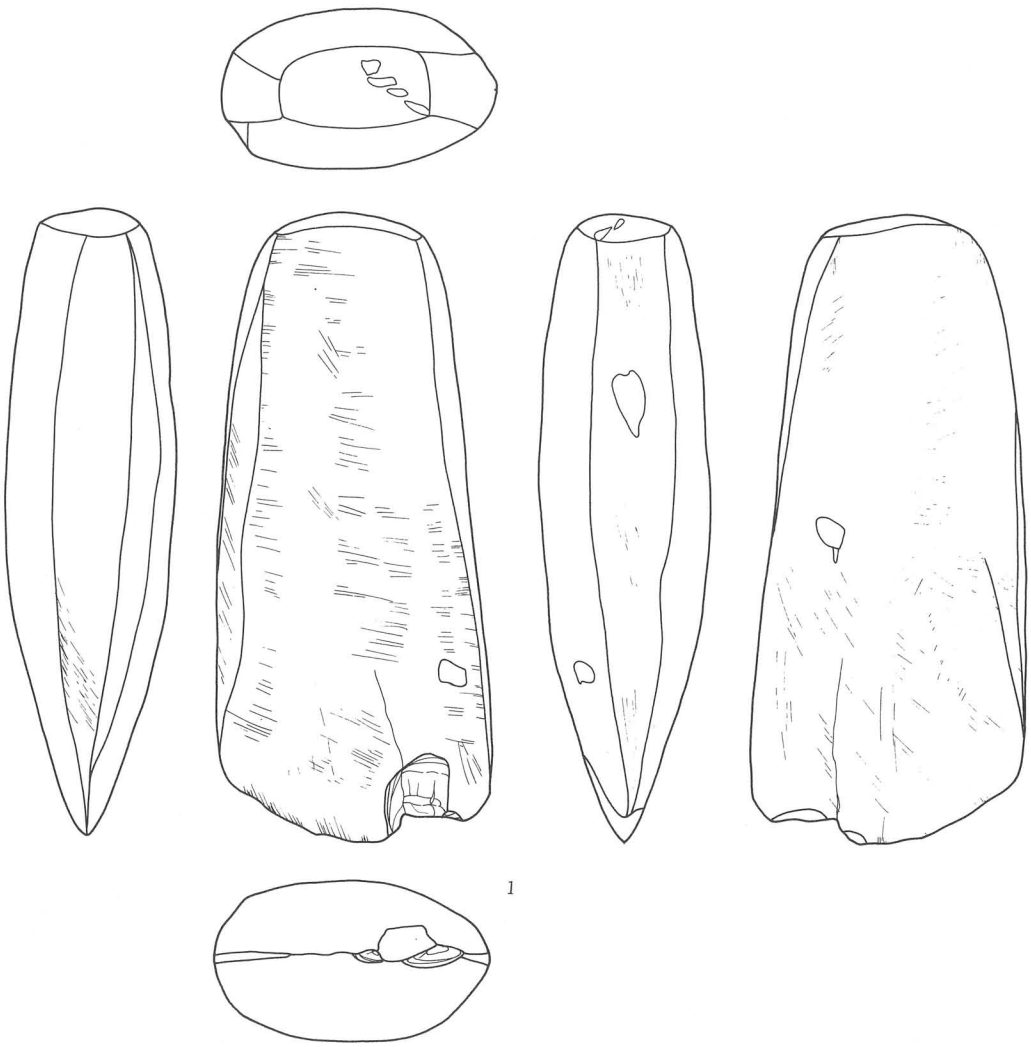






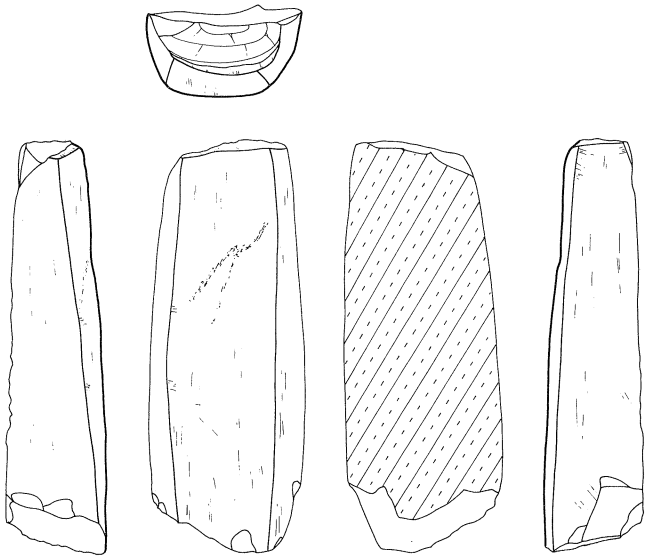
No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	スクレイパー	E－23・2層	47.55×72.00×19.05	67.35		――	
2	スクレイパー	V－27・2層	88.70×42.70×17.90	52.80	頁　岩	――	
3	ポイント	V－23・2層上面	(34.25)×(18.10)×6.50	3.75	頁　岩	――	

第857図　東区北側谷部遺物包含層出土石器（4）

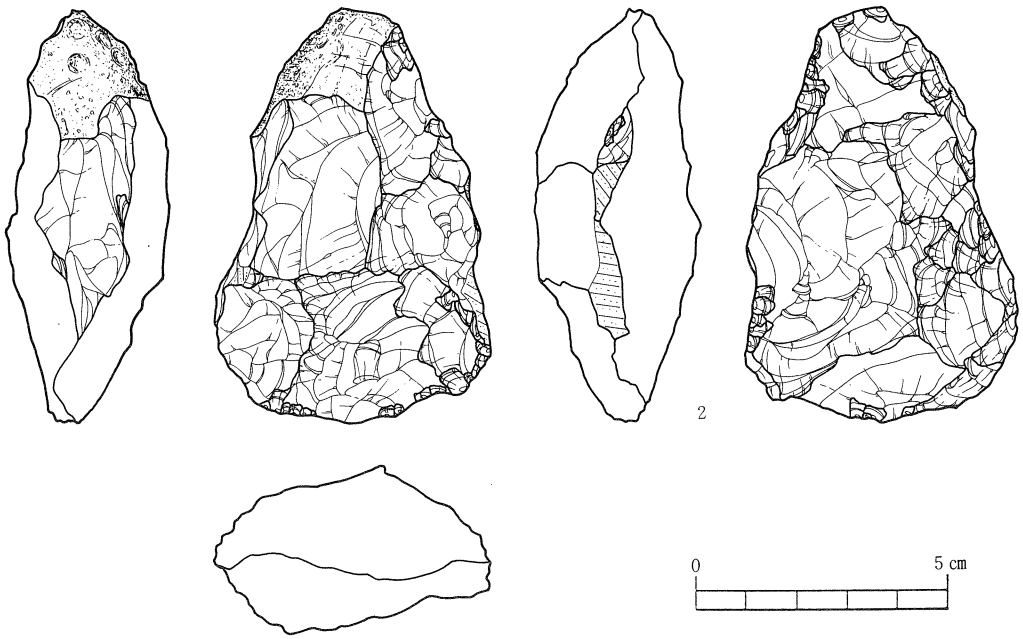


No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使　用　痕	備　考
1	磨製石斧	W－26・2層上面	125.70×55.35×34.05	358.0		――	

第858図　東区北側谷部遺物包含層出土石器（5）



1

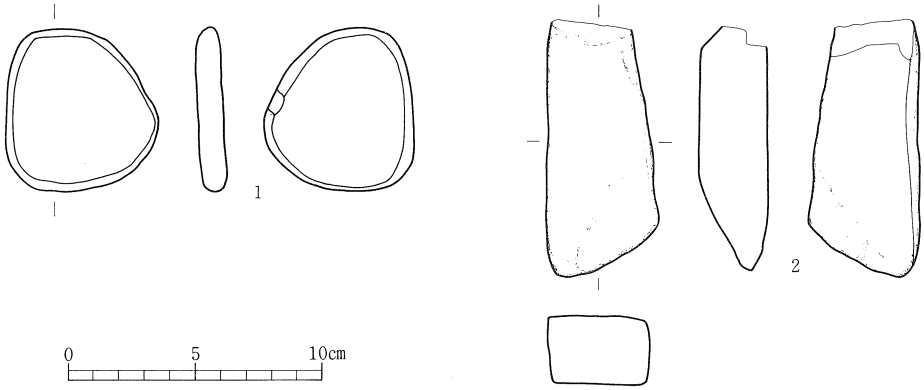


2

0　5 cm

No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	磨製石斧	E－24・2層上面	(82.25)×(31.20)×(19.50)	80.0		―――	
2	打製石斧	W－25・2層	82.40×54.35×32.40	131.0	メノウor碧玉	―――	

第859図　東区北側谷部遺物包含層出土石器（6）



No.	種　別	地区・層位	重 量(g)	備　考
1	石製円盤	W－25・2層	53.70	
2	砥　石	V－24・2層	——	

第860図　東区北側谷部遺物包含層出土石器（7）

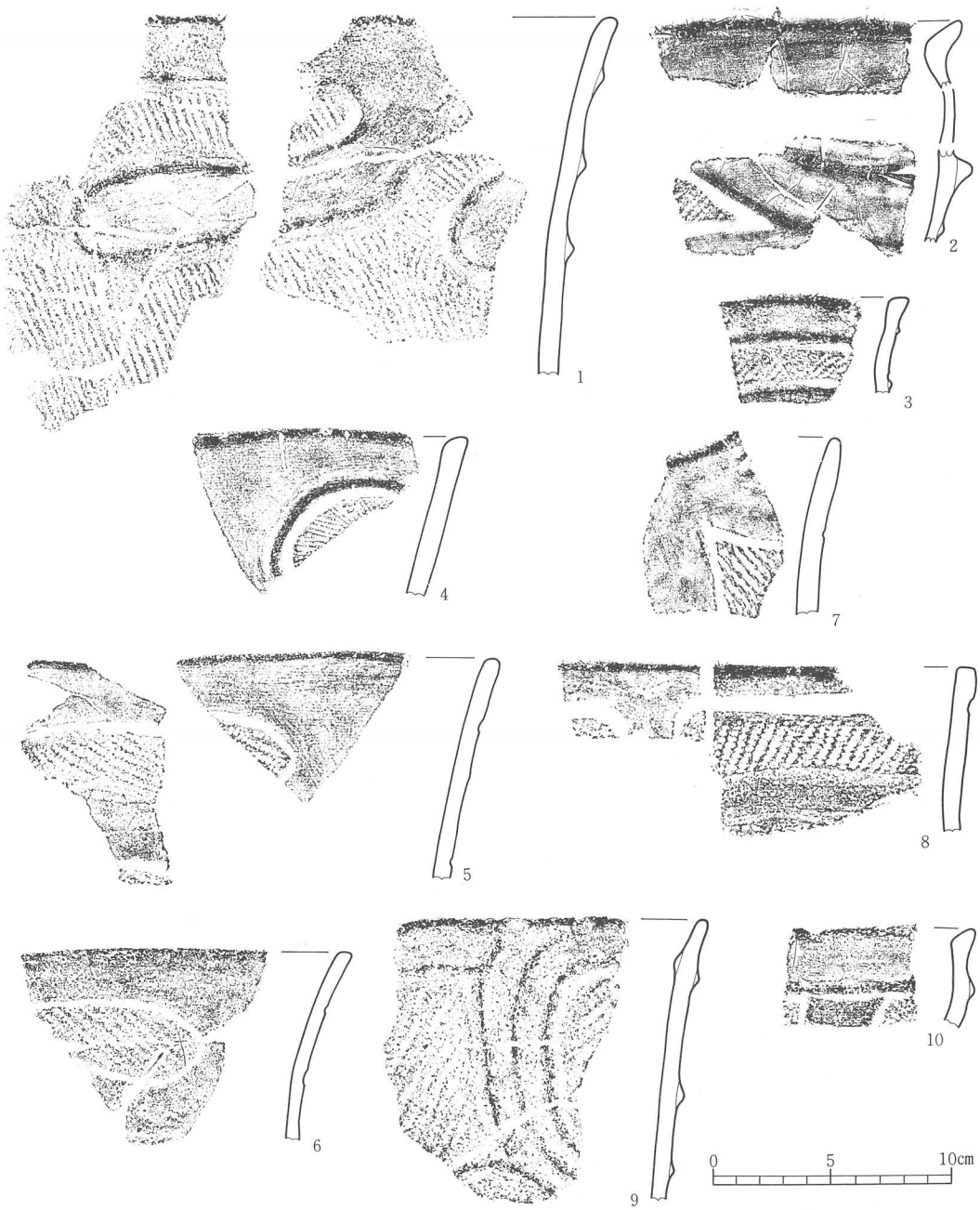
6．遺溝外出土遺物

今回の調査で検出された縄文時代の遺構（住居跡・土壙・竪穴遺構・埋設土器）及び古代以降の遺構（住居跡・土壙・溝跡・墓壙）以外の第1層から第5層上面（ローム上面）までの基本層より出土した縄文時代の遺物を取り上げる。第2層についてはE－14・15区を中心とした部分を「東区西側遺物包含層出土遺物」として前項で取り上げているため、ここではそれらを除いた地区の出土遺物を取り上げることにする。また、基本層については表土（第1層）直下に第4層、第5層が検出される地区も多く、第2層及び第2層上面として取り上げた遺物の中にも第4層・第4層上面、第5層・第5層上面の出土とするべきものが混じっている可能性もある。

その他に、攪乱として取り扱った風倒木痕の堆積土やピットなどから出土した遺物についても一括して取り上げた。

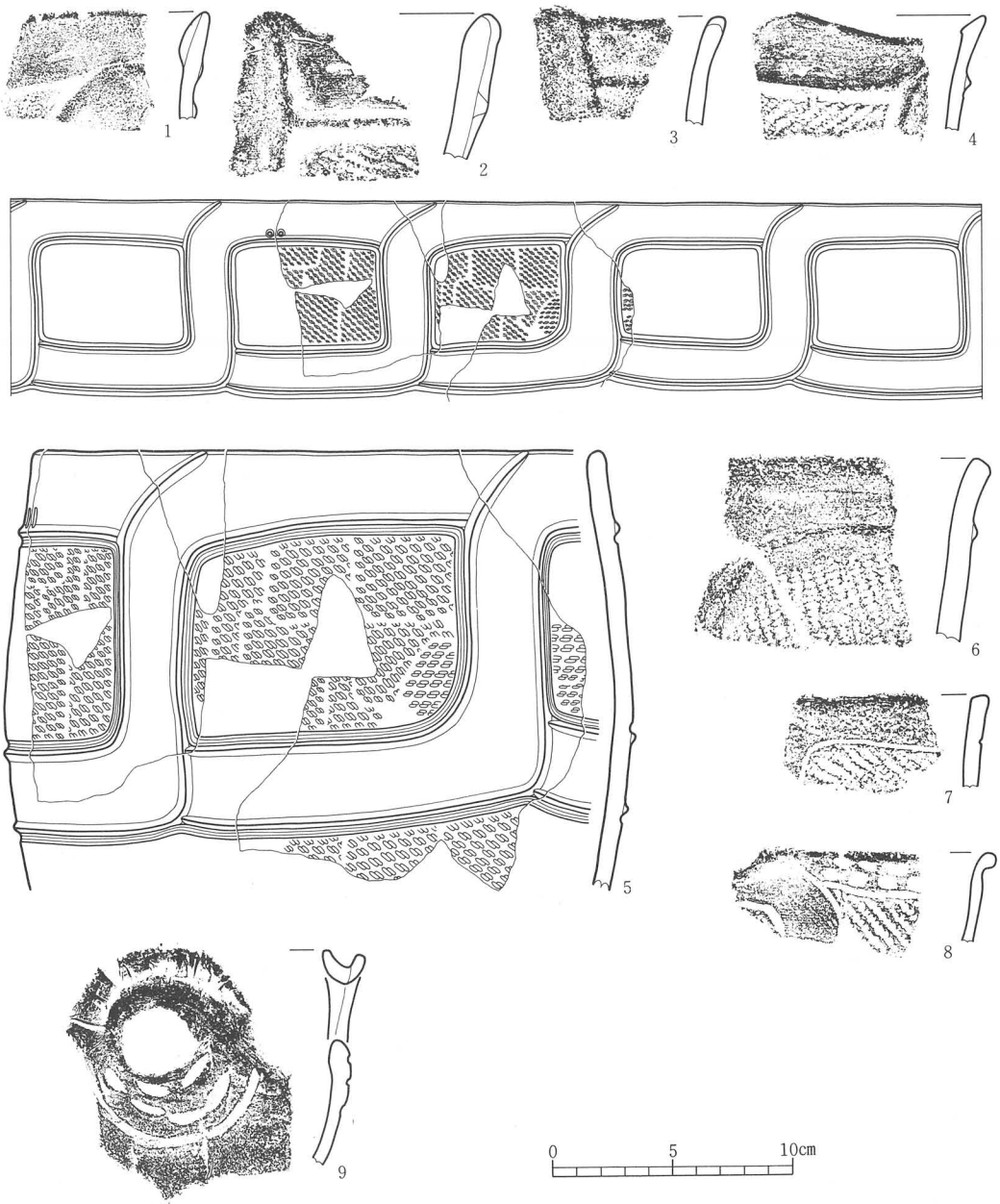
No.	地区・層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	E－27・ローム直上	深鉢	沈線文・刺突文	磨キ（横）		VIorVII	
2	E－22・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刻目文・刺突文	磨キ（横）		VII	
3	E－22・2層	深鉢	沈線文・条線文	磨キ（横）		VII	
4	E－22・2層	深鉢	隆線文・綾絡文	磨キ（横）		VII	
5	W－18・2層下部	深鉢	刻目文	磨キ（横）		VII	
6	M－20・2層	深鉢	隆線文・RL縄文	隆線文・ナデ（斜）		VII	
7	E－22・2層	深鉢	隆線文・沈線文	不明		VII	
8	E－22・2層	深鉢	沈線文	磨キ（横・斜）		VI	
9	N－20・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）		IX	
10	L－23・ローム上面	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）		IX	
11	O－20	深鉢	隆線文	磨キ（横）		IX	
12	M－23・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）		IX	
13	E－22・2層	深鉢	隆線文	磨キ（横）		X 2	
14	E－9	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）		X	
15	H－21・風倒木	深鉢	隆線文・L撚糸文	隆線文・磨キ（横）		X 1 a	
16	E－11・2層	深鉢	隆線文・RL縄文・刺突文	磨キ（横）		X 1 a	

第861図　遺構外出土土器（1）



No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	E－22	深鉢	隆線文・R撚糸文	磨キ（横）	X 1 a	
2	N－19・2層	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
3	N－19・2層	深鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
4	O－18・2層	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
5	E－7	深鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（横）	X 1	
6	N－24	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
7	K－21・1層	深鉢	沈線文・L撚糸文	磨キ（横）	X	
8	L－21・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
9	M－20・2層	深鉢	隆線文・RL縄文	隆線文・ナデ（斜）	X	
10	J－22	深鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横）	X	

第862図　遺構外出土土器（2）

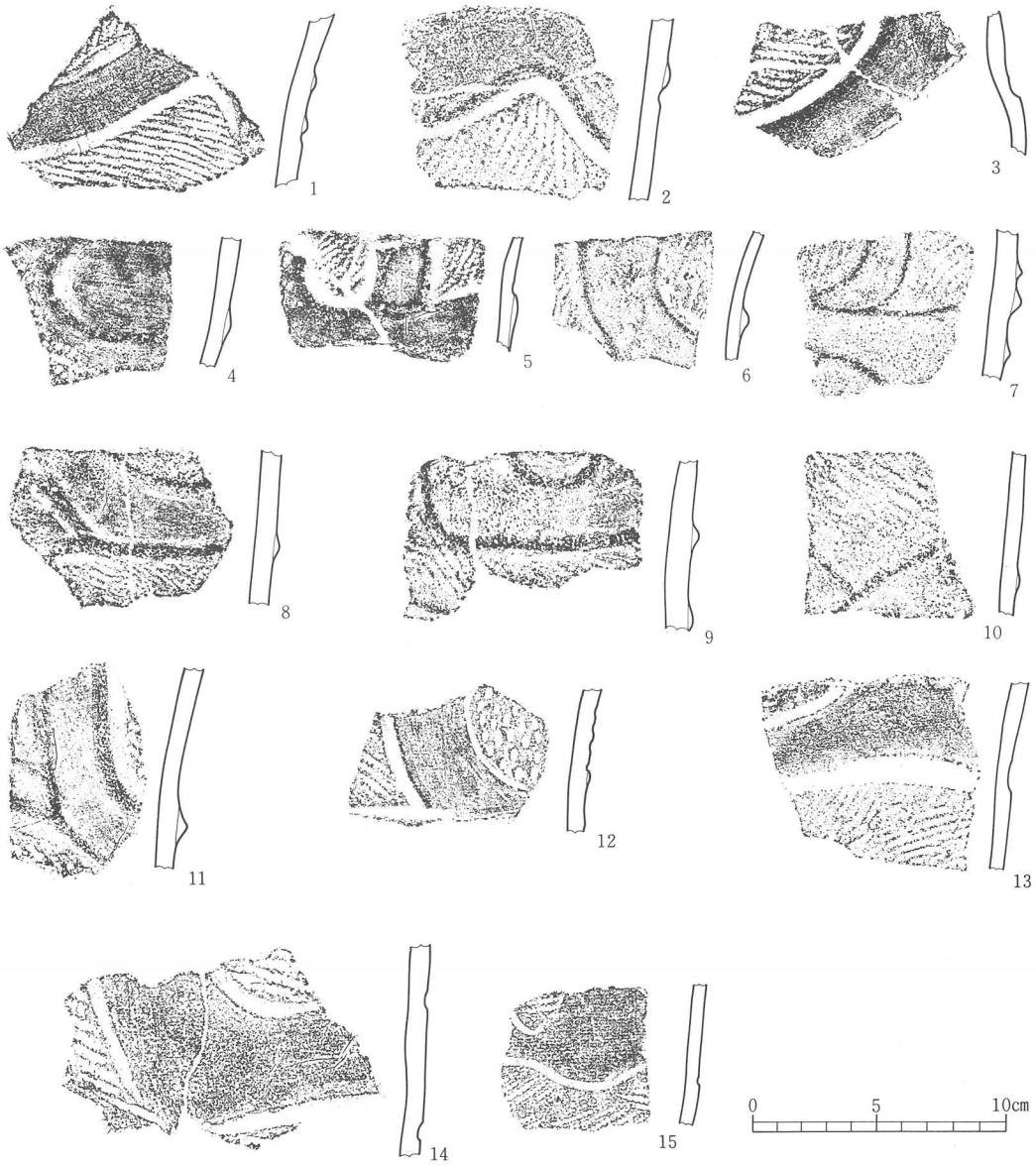


No.	地区・層位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	K－23・ローム上面	深　鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
2	L－20	深　鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（横）	X	丹塗り。
3	M－20・2層	深　鉢	隆線文	磨キ（横）	X	
4	K－22・ローム上面	深　鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
5	H－22	深　鉢	隆線文・沈線文・LRL縄文・磨キ	ナデ（横）	X 6	
6	H－21・風倒木	深　鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
7	M－20・2層	深　鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
8	K－23・ローム上面	深　鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
9	M－22・2層	深　鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	X	

第863図　遺構外出土土器（3）

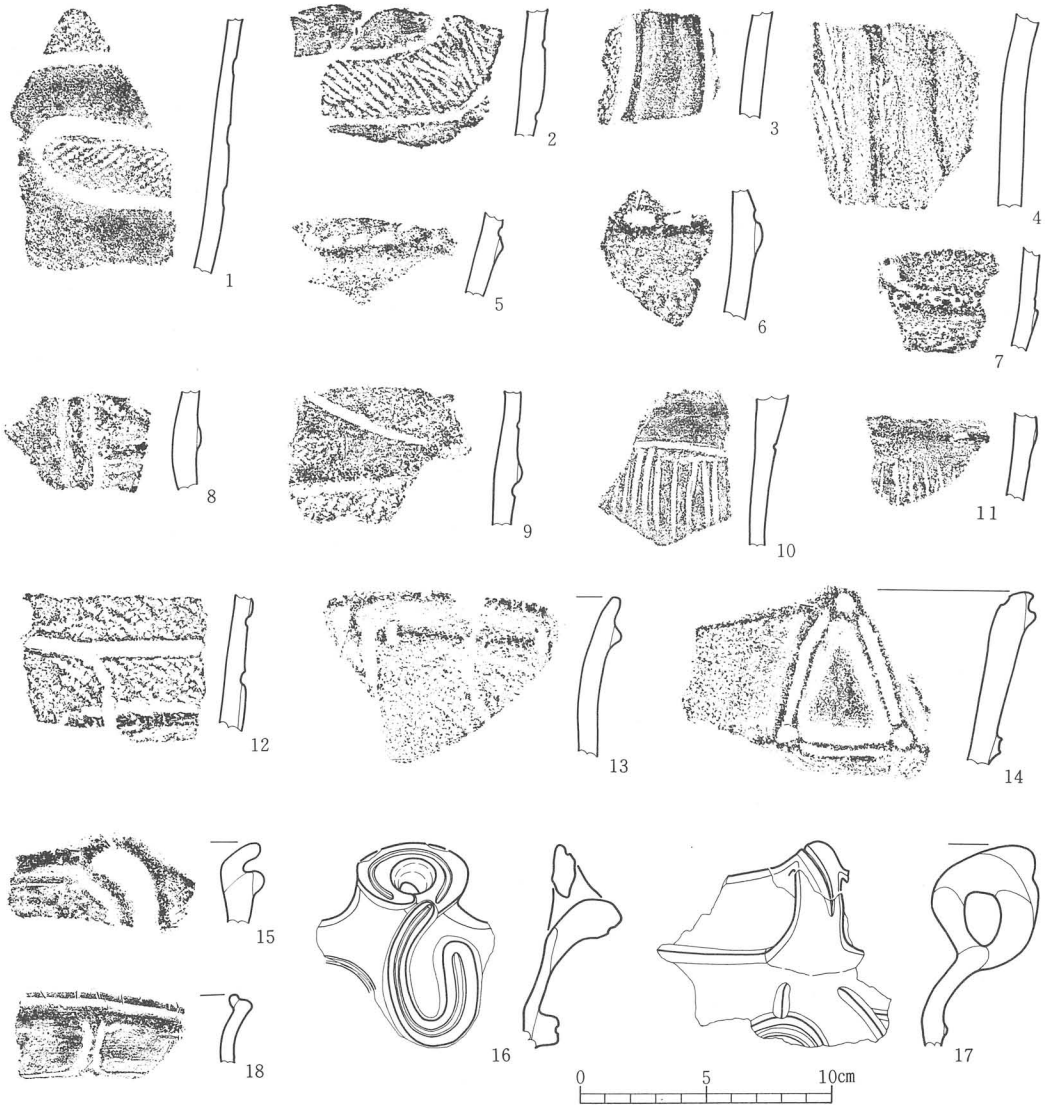
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	I−22・風倒木	深鉢	沈線文・L撚糸文・磨キ	磨キ（縦・横）	X	
2	M−20・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刻目文・R撚糸文	マメツ	X	
3	H−21・ローム上面	深鉢	隆線文・不明縄文	ナデ（横）	X	
4	O−21・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文・LR縄文	磨キ（横）	XorXI	
5	M−18・2層	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	XI	
6	N−24・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
7	N−19・2層	深鉢	隆線文・沈線文	ナデ・磨キ（横）	X	
8	N−19・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
9	M−22・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
10	E−7・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（縦）		丹塗り。

第864図　遺構外出土土器（4）



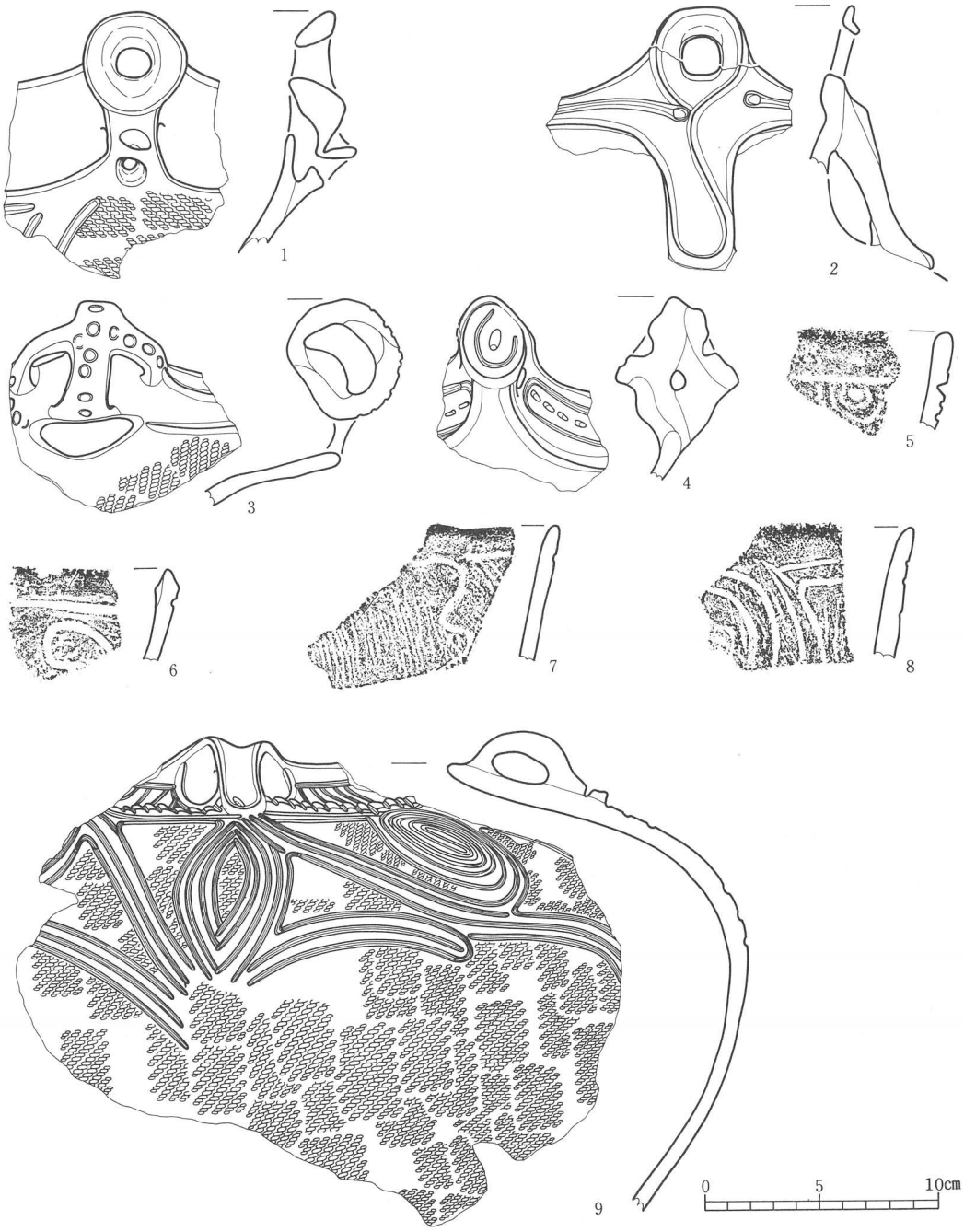
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	E－19・2層上面	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
2	O－19・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
3	E－7・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	ナデ・磨キ（横）	X	
4	E－11・2層	深鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
5	E－10	深鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
6	M－23・2層	深鉢	隆線文・不明縄文	マメツ	X	
7	K－22・ローム上面	深鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
8	E－19・2層上面	深鉢	隆線文・L縄文	マメツ	X	
9	O－21・2層	深鉢	隆線文・不明縄文	マメツ	X	
10	J－22・風倒木	深鉢	隆線文・LR縄文	マメツ	X	
11	J－20・ローム上面	深鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
12	M－20・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文・LR縄文	磨キ（横）	X	
13	N－22・2層	深鉢	隆線文・沈線文・R縄文	磨キ（横）	X	
14	K－22・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	マメツ	X	
15	O－20・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	X	

第865図　遺構外出土土器（5）



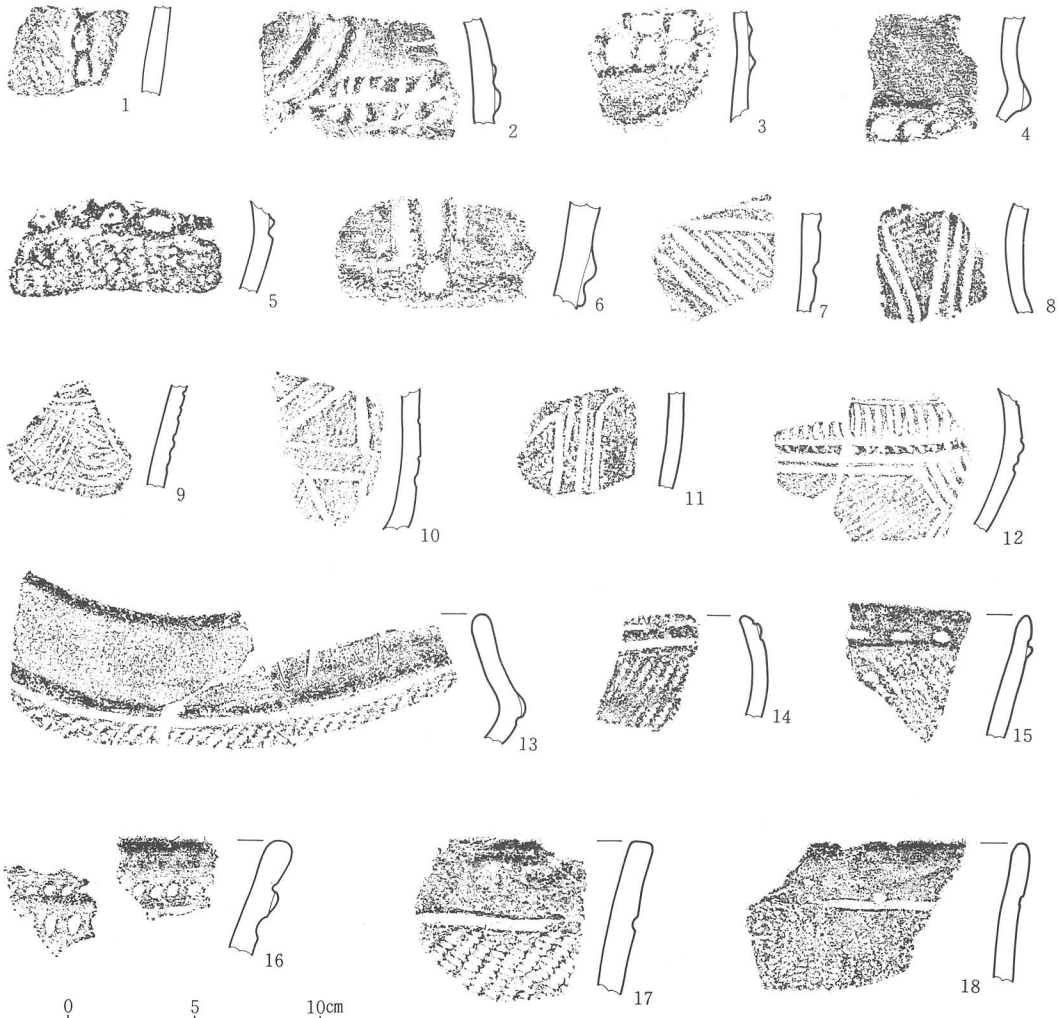
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	O－23・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
2	L－25	深鉢	沈線文・LR縄文	ナデ（横）	X	
3	K－25	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
4	J－22・風倒木	深鉢	隆線文・L撚糸文	ナデ（斜）	X	
5	K－17	深鉢	隆線文・刺突文	マメツ	X	
6	E－19・2層上面	深鉢	隆線文・刺突文・RL縄文	磨キ（横）	X	
7	J－22・風倒木	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）		
8	J－22・風倒木	深鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（横）		
9	M－19・ローム上面	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）		
10	O－22・2層	深鉢	沈線文	磨キ（横）		
11	K－25	深鉢	隆線文・条線文	磨キ（斜）		
12	L－19・ローム上面	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）	XI	
13	I－20・2層	深鉢	隆線文・刻目文・不明縄文	磨キ（横）	X or XI	
14	E－16・2層	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	XI5	
15	O－21・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文	磨キ（横）	XI5	
16	L－20	——	隆線文・沈線文	磨キ（横）	XI	
17	J－19	——	隆線文・沈線文	磨キ（横）	XI	
18	J－22・風倒木	深鉢	沈線文	隆線文・磨キ（横）	XI4	

第866図　遺構外出土土器（6）



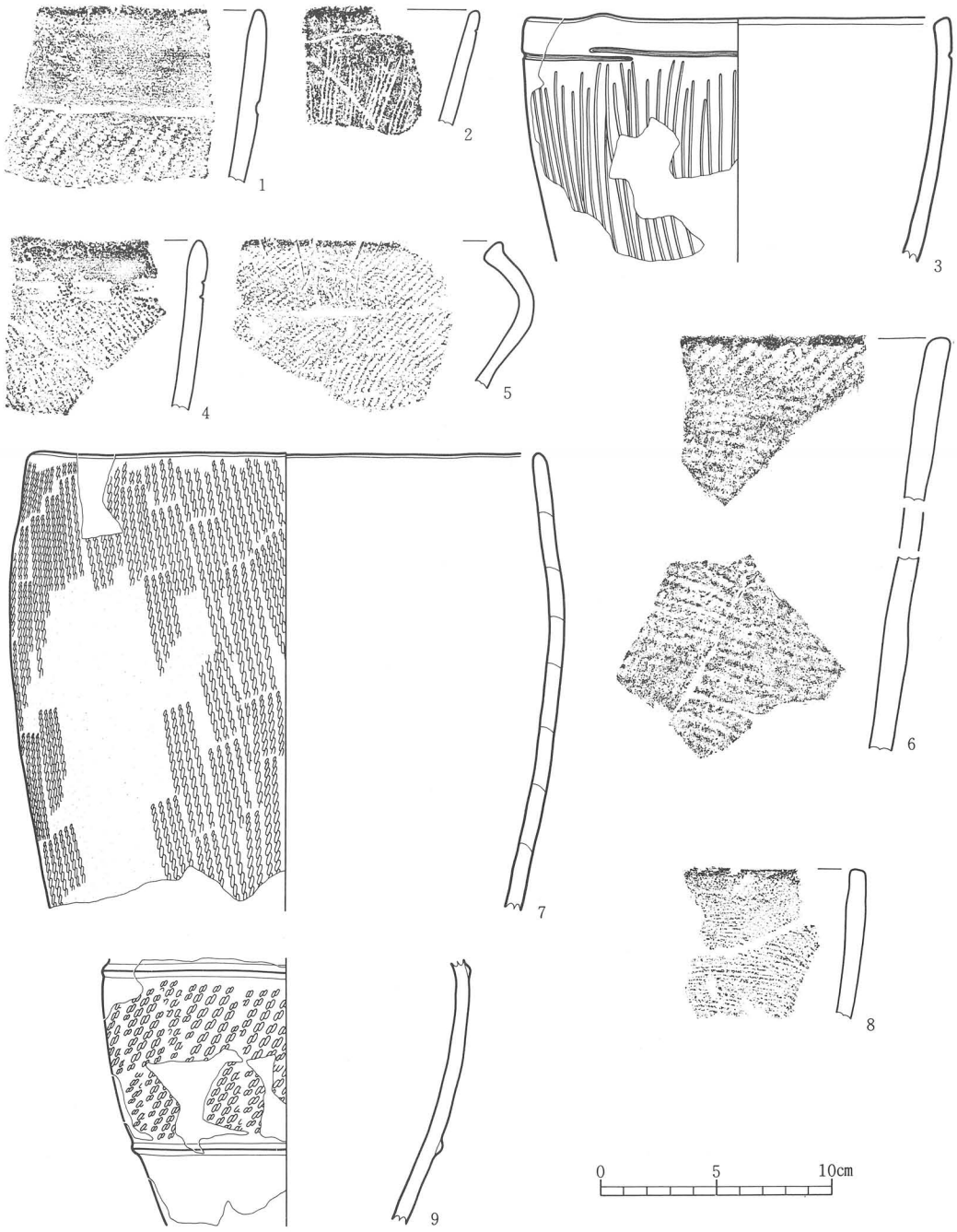
No.	地区・層位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	Q－18・2a層	——	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	XI	
2	S－9・2層上面	——	隆線文・沈線文・刺突文・磨キ	磨キ（横）	XI4	
3	M－19・ローム上面	——	隆線文・刺突文・RL縄文	マメツ	XI4	
4	L－20	——	隆線文・沈線文・刺突文・磨キ	磨キ（横）	XI	
5	L－20・ローム上面	深　鉢	沈線文・刺突文	マメツ	XI2	
6	M－18・2層	深　鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	XI2	
7	N－20・2層	深　鉢	綾絡文・R撚糸文	マメツ	XI3a	
8	E－10	深　鉢	沈線文	磨キ（横）	XI	
9	M－18	壷	隆線文・沈線文・刻目文・刺突文・RL縄文	磨キ（横）	XI	

第867図　遺構外出土土器（7）



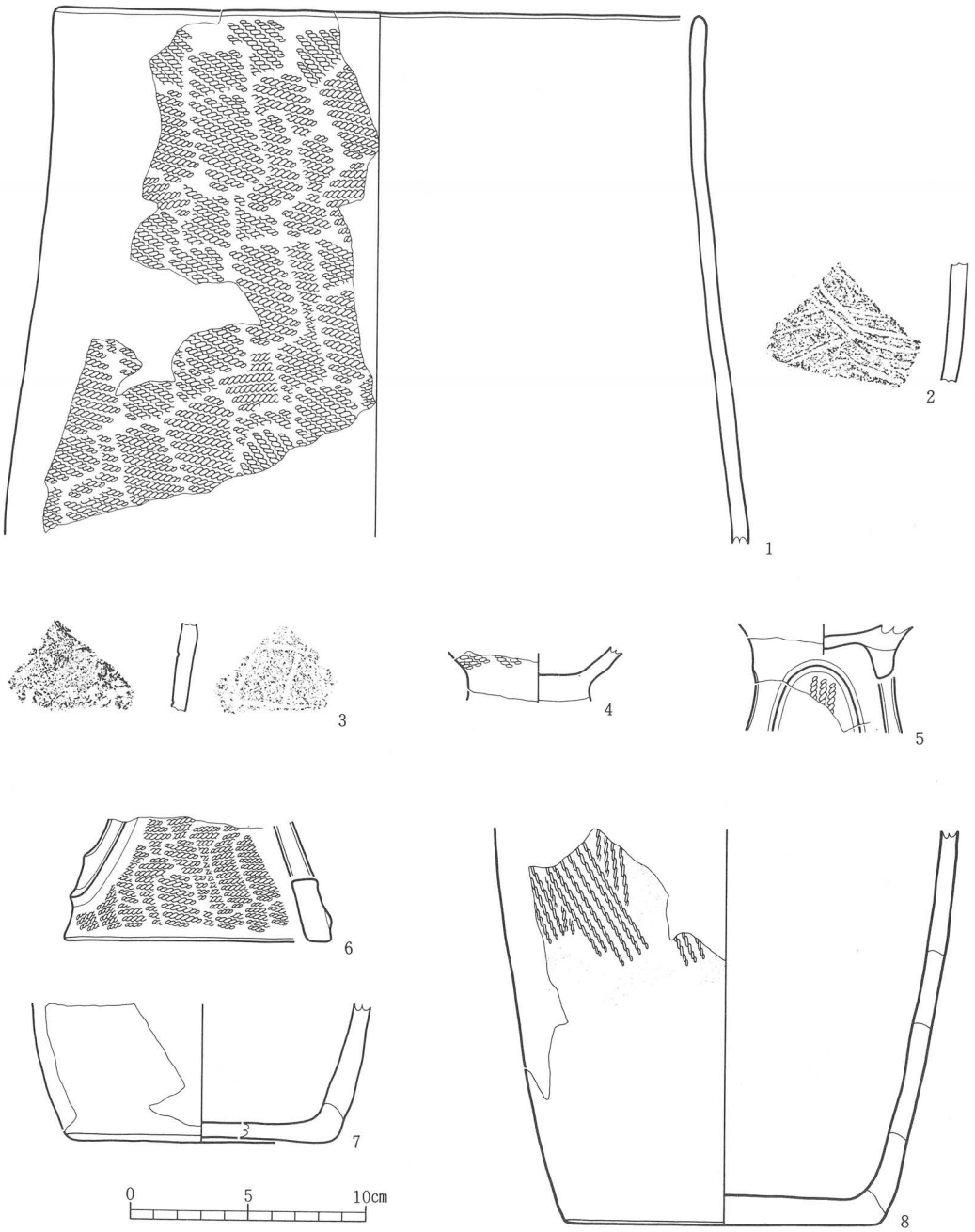
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	O－21・2層	深鉢	隆線文・刺突文・LR縄文	磨キ（横）	XI	
2	H－21・風倒木	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	XI	
3	K－20	深鉢	隆線文・刺突文	ナデ（横）	XI	
4	K－22・ローム上面	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	XI	
5	E－19・2層上面	深鉢	隆線文・刺突文・LR縄文	磨キ（横）	XI	
6	E－25・2層	深鉢	隆線文・貼付文	磨キ（横）	XI	
7	J－22・風倒木	深鉢	沈線文・L撚糸文	磨キ（横・斜）	XI	
8	L－21・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	XI	
9	L－21・2層	深鉢	条線文	磨キ（横）	XI	
10	N－24	深鉢	沈線文・L縄文	マメツ	XI	
11	M－18	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	XI	
12	E－25・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文・LR縄文	磨キ（横）	XI	
13	M－20・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	ナデ（横）	BII	
14	E－12・2層	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）	BII	
15	J－22・風倒木	深鉢	隆線文・刺突文・LR縄文	マメツ	BIII	
16	O－21・2層	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	BIII	
17	K－19	深鉢	沈線文・RL縄文	ナデ・磨キ（横）	BIV	
18	J－22・風倒木	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）	BIV	

第868図　遺構外出土土器（8）



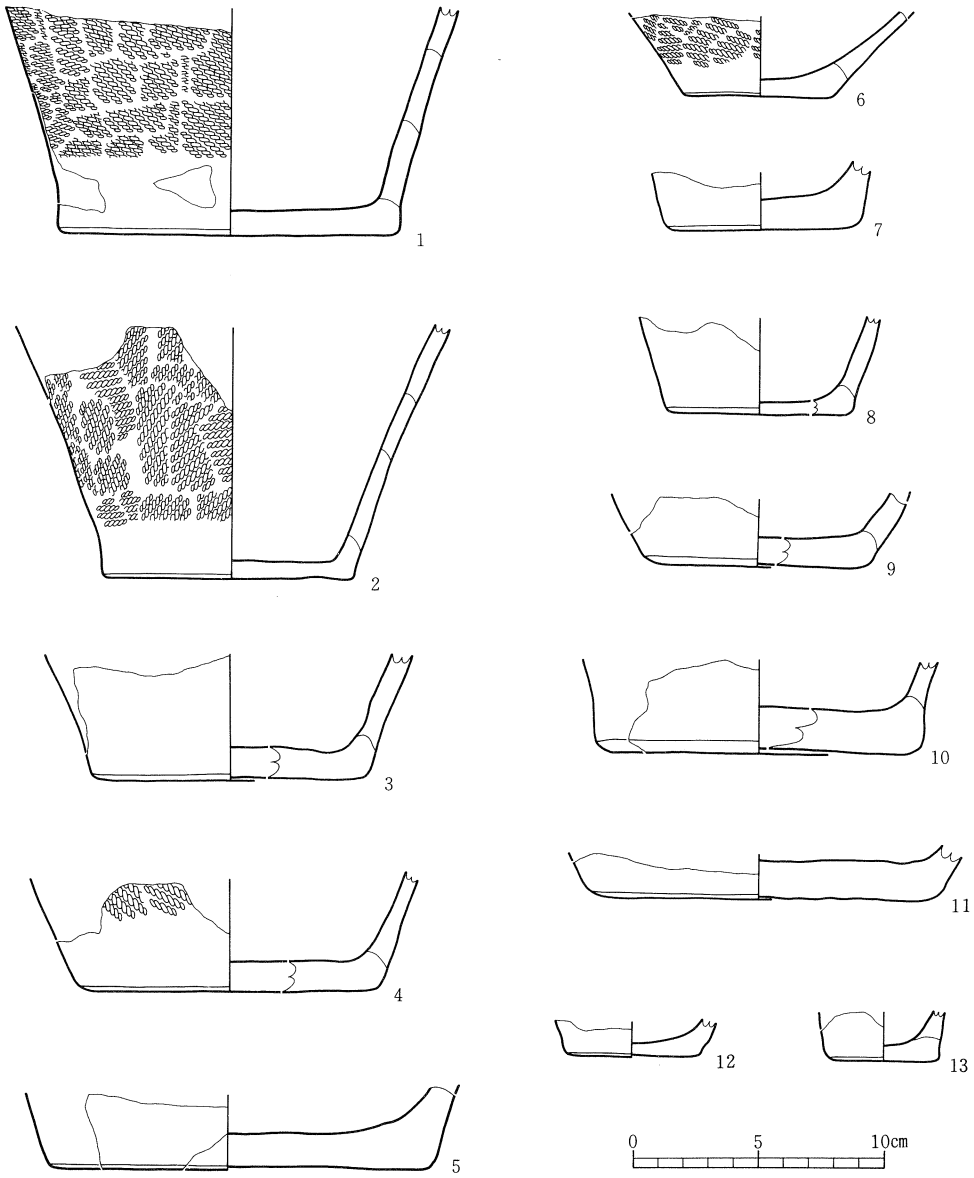
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	L－21・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横・斜）	BIV	
2	E－10	深鉢	沈線文・条線文	磨キ（横）	BIV	
3	N－19・2層	深鉢	沈線文・条線文・磨キ	磨キ	BIV	
4	E－7	深鉢	刺突文・R撚糸文	磨キ（横）	BV	
5	K－22・1層	深鉢	RL縄文	磨キ（横）	BIV	
6	O－20・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）	BIV	
7	K－18	深鉢	L撚糸文	磨キ（横）	BIV	
8	H－21・風倒木	深鉢	櫛歯文	磨キ（横）	BIV	
9	J－18	深鉢	隆線文・RLR縄文	磨キ（横）		

第869図　遺構外出土土器（9）



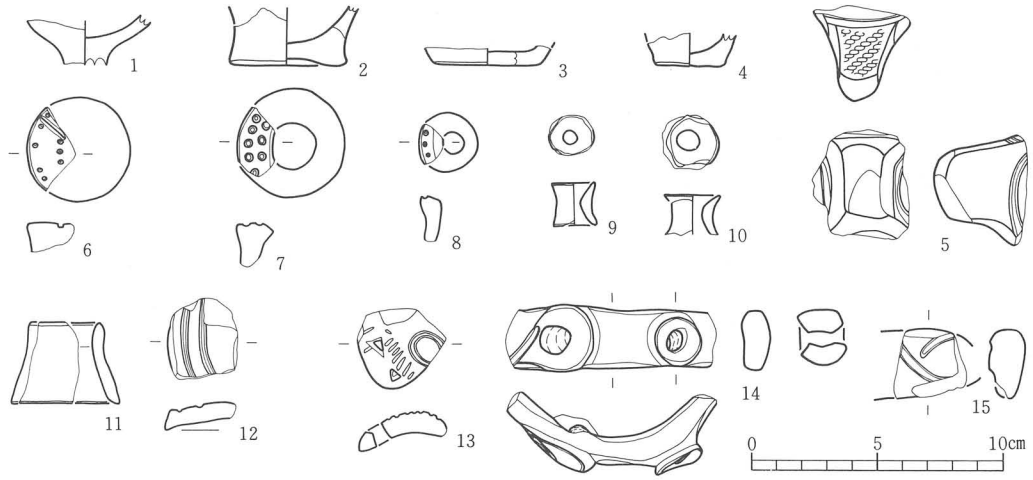
No.	地区・層位	器　形	外　面	内　面	底　部	分類	備　考
1	J－22・風倒木	深　鉢	LR縄文	磨キ（横）		BVI	
2	L－23・ローム上面	深　鉢	条線文	ナデ（斜）		B	
3	K－25	深　鉢	磨　キ	沈線文・磨キ（横）		B	
4	E－9・3層上面	——	LR縄文・磨キ	磨キ（横）			
5	R－19	深　鉢	隆線文・RL縄文・磨キ	磨キ（横）			
6	E－10	台	隆線文・LR縄文	磨キ（縦）			
7	J－20・ローム上面	台	磨　キ	ナデ（横）	網代痕		底部中央部に穴あり。破損穴か（？）
8	R－22	深　鉢	L撚糸文・磨キ・マメツ	マメツ	網代痕		

第870図　遺構外出土土器（10）



No.	地区・層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	R－20・風倒木	深鉢	LR縄文・磨キ	磨キ（横）	ナデ		
2	M－23・2層	深鉢	LR縄文・磨キ	磨キ（縦）	ナデ		
3	L－24	深鉢	ナデ	ナデ（横）	ナデ		
4	K－20・2層	深鉢	RL縄文・磨キ	マメツ	磨キ		
5	O－25	深鉢	マメツ	ナデ	マメツ		
6	T－19	深鉢	LR縄文・磨キ	磨キ（横）	磨キ		
7	H－22・風倒木	深鉢	磨キ	磨キ（横）	マメツ		
8	I－21・2層	深鉢	マメツ	マメツ	ナデ		
9	K－23	深鉢	磨キ	磨キ（横）	網代痕・磨キ		
10	O－25	深鉢	ナデ	ナデ（横）	ナデ		
11	E－16・2層	深鉢	ナデ	磨キ（横）	網代痕		
12	K－19	深鉢	ナデ	ナデ	ナデ		
13	J－22	深鉢	不明	磨キ（横）	磨キ		

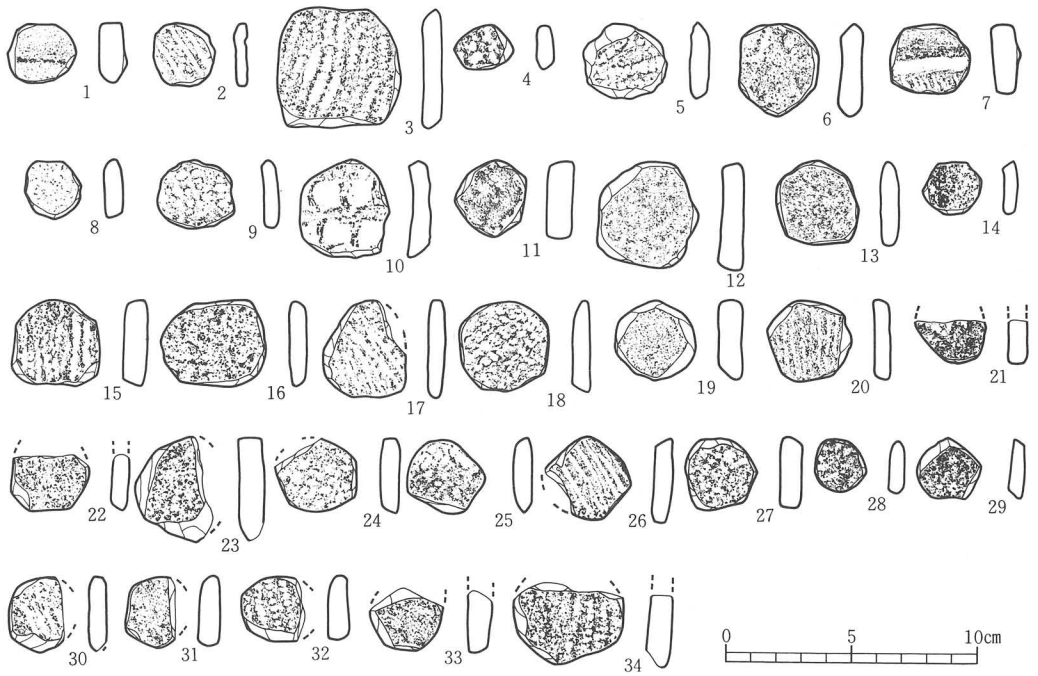
第871図　遺構外出土土器（11）



No.	地区・層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	R－22・風倒木	ミニチュア	マメツ	ナデ			
2	I－21・2層	ミニチュア	マメツ	マメツ	マメツ		
3	E－10・2a層	ミニチュア	磨キ	ナデ	磨キ		
4	L－17	ミニチュア	不明	ナデ	ナデ		

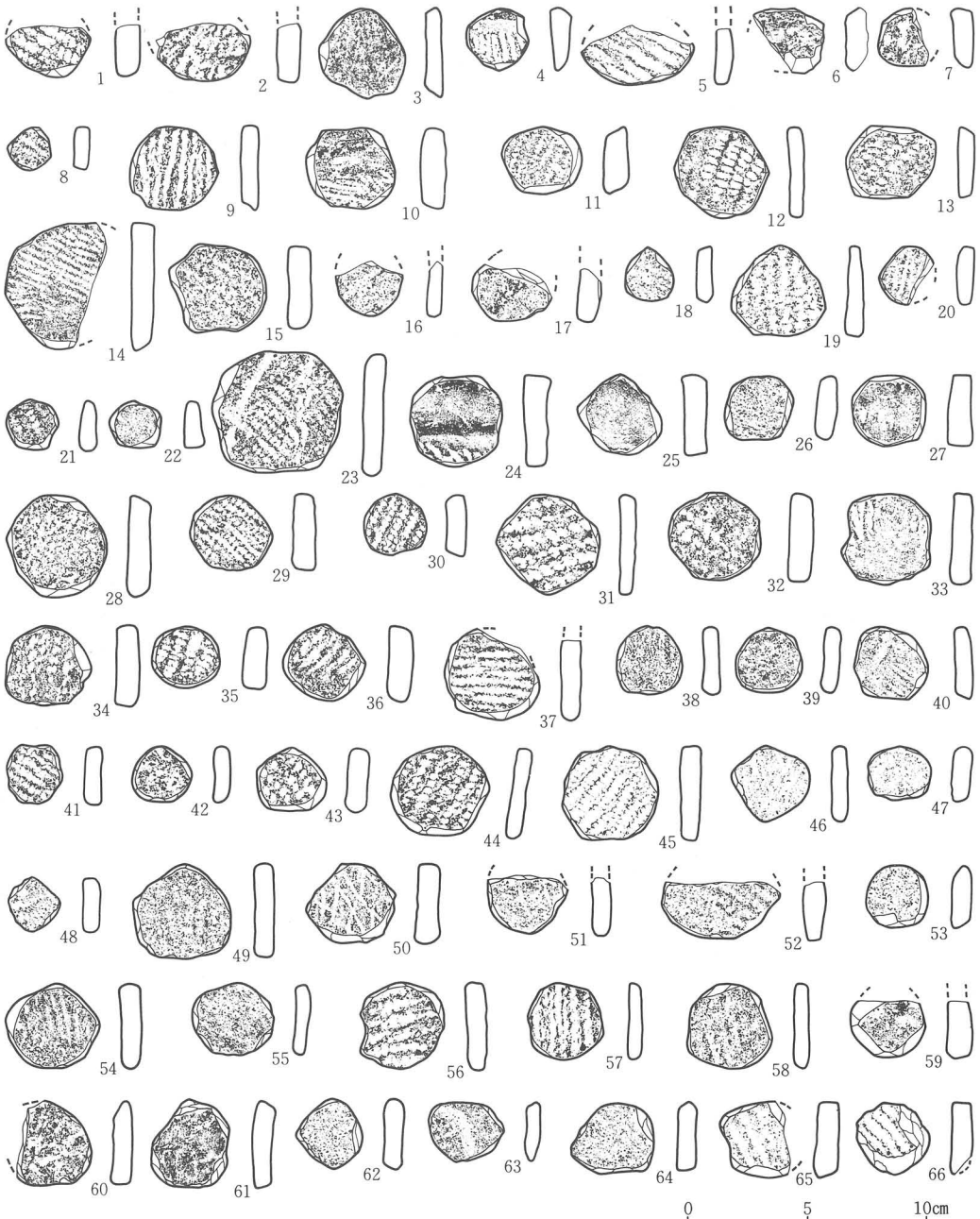
No.	地区・層位	種類	No.	地区・層位	種類	No.	地区・層位	種類	No.	地区・層位	種類
5	J－20	不明土製品	6	K－21	耳飾	7	E－9	不明土製品	8	M－20・2層	不明土製品
9	E－14	耳飾	10	N－21・2層	耳飾	11	H－23・ローム上面	不明土製品	12	O－23・2層	磁
13	V－19	不明土製品	14	M－20・確認面	不明土製品	15	K－19・1層	不明土製品			

第872図　遺構外出土土器製品



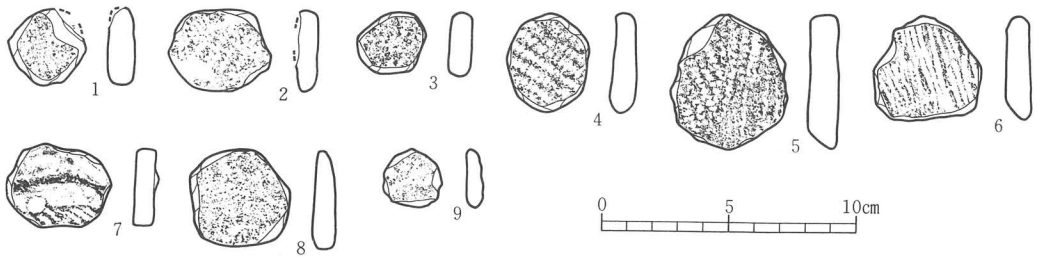
No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位
1	H－20・2層	2	H－21	3	H－21・風倒木	4	I－19	5	J－18	6	K－18
7	K－18・ローム上面	8	K－19	9	K－19	10	K－19	11	K－20・2層	12	L－20
13	L－20	14	L－20	15	L－20・ローム上面	16	L－20・ローム上面	17	L－20	18	J－21・5層
19	J－21・5層	20	J－21	21	J－22・風倒木	22	J－22・風倒木	23	J－22・風倒木	24	J－22・風倒木
25	K－22	26	K－23・ローム上面	27	K－23・ローム上面	28	L－23・ローム上面	29	L－23・ローム上面	30	E－7
31	M－17	32	M－18・ローム上面	33	M－18・ローム上面	34	M－18・2層				

第873図　遺構外出土土製円盤（1）



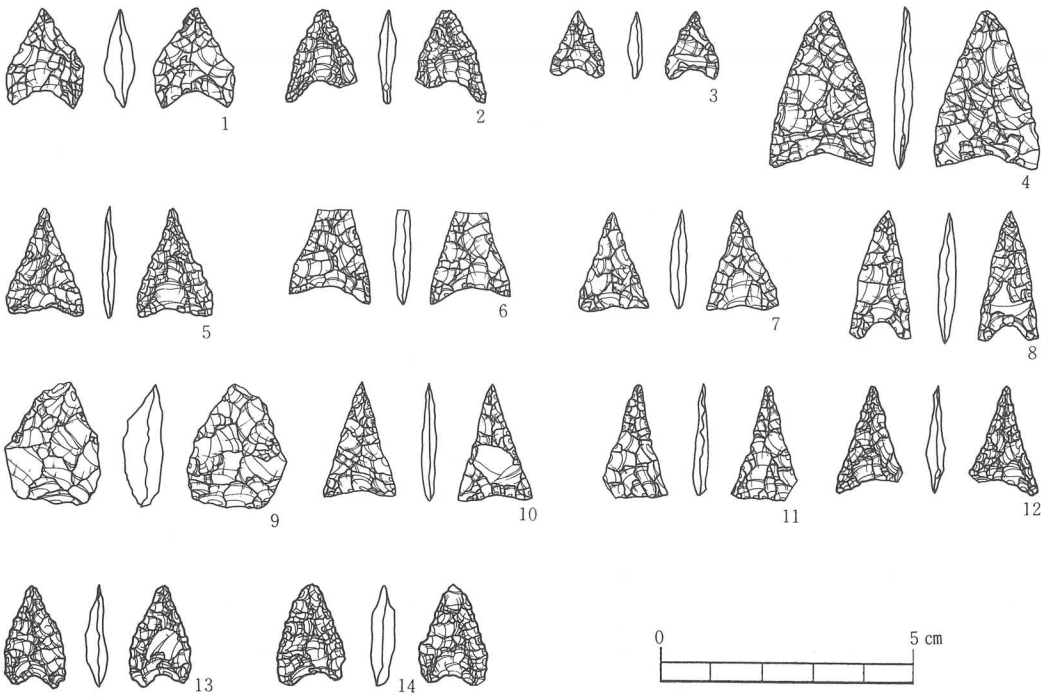
No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位
1	M−19・2層	2	M−19・2層	3	M−20・2層	4	N−19・1層	5	N−20・2層	6	N−20
7	O−20・1層	8	O−20・3層	9	O−20・2層	10	P−19	11	E−9・2層	12	E−9
13	E−9・2層	14	E−9・2層	15	M−21	16	M−22・2層	17	M−22	18	M−22・2層
19	M−22・2層	20	M−23・2層	21	N−24	22	O−21・2層	23	O−22	24	O−23・1層
25	O−23・1層	26	O−23・2層	27	P−23・3層	28	O−25	29	P−25	30	P−27・2層
31	Q−18	32	Q−18	33	Q−18・2a層	34	R−23・2層	35	Q−19	36	Q−19
37	R−19	38	R−19	39	R−19	40	R−19	41	R−20・風倒木	42	R−20・風倒木
43	R−20・風倒木	44	R−20・風倒木	45	R−20・風倒木	46	R−20・風倒木	47	R−20・風倒木	48	R−20・風倒木
49	S−20・風倒木	50	S−20	51	S−20・風倒木	52	S−20・風倒木	53	S−20・風倒木	54	E−14
55	E−14	56	E−14	57	E−14	58	E−14	59	E−14	60	E−14
61	E−14	62	E−14	63	E−14	64	E−14	65	R−22・風倒木	66	R−22・風倒木

第874図　遺構外出土土製円盤（2）



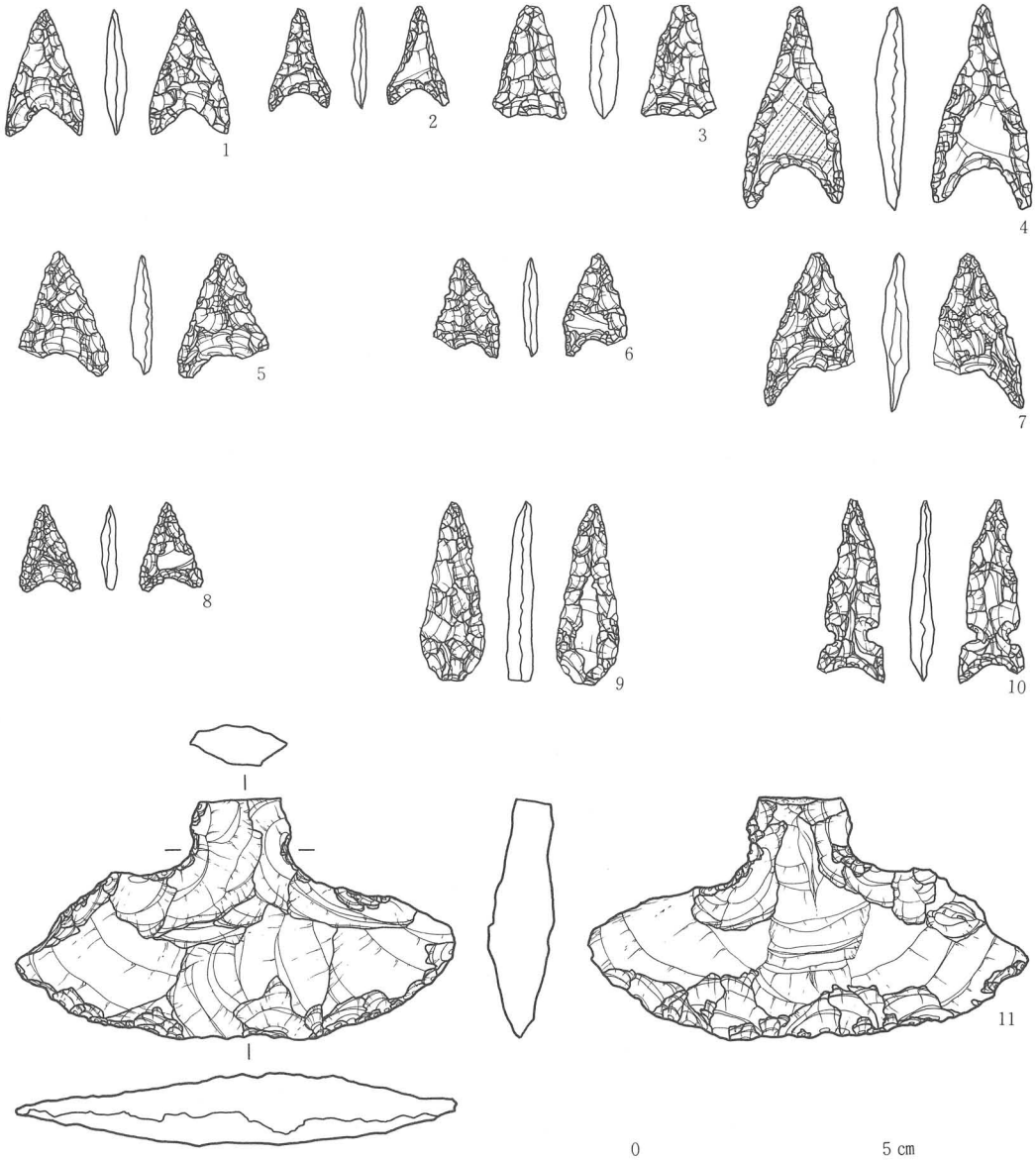
No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位
1	S－22・4層	2	S－21・2層	3	E－15	4	E－15	5	E－15・1層	6	E－16・2層
7	X－21・2層	8	E－25・2層	9	E－22・2層						

第875図　遺構外出土土製円盤（3）



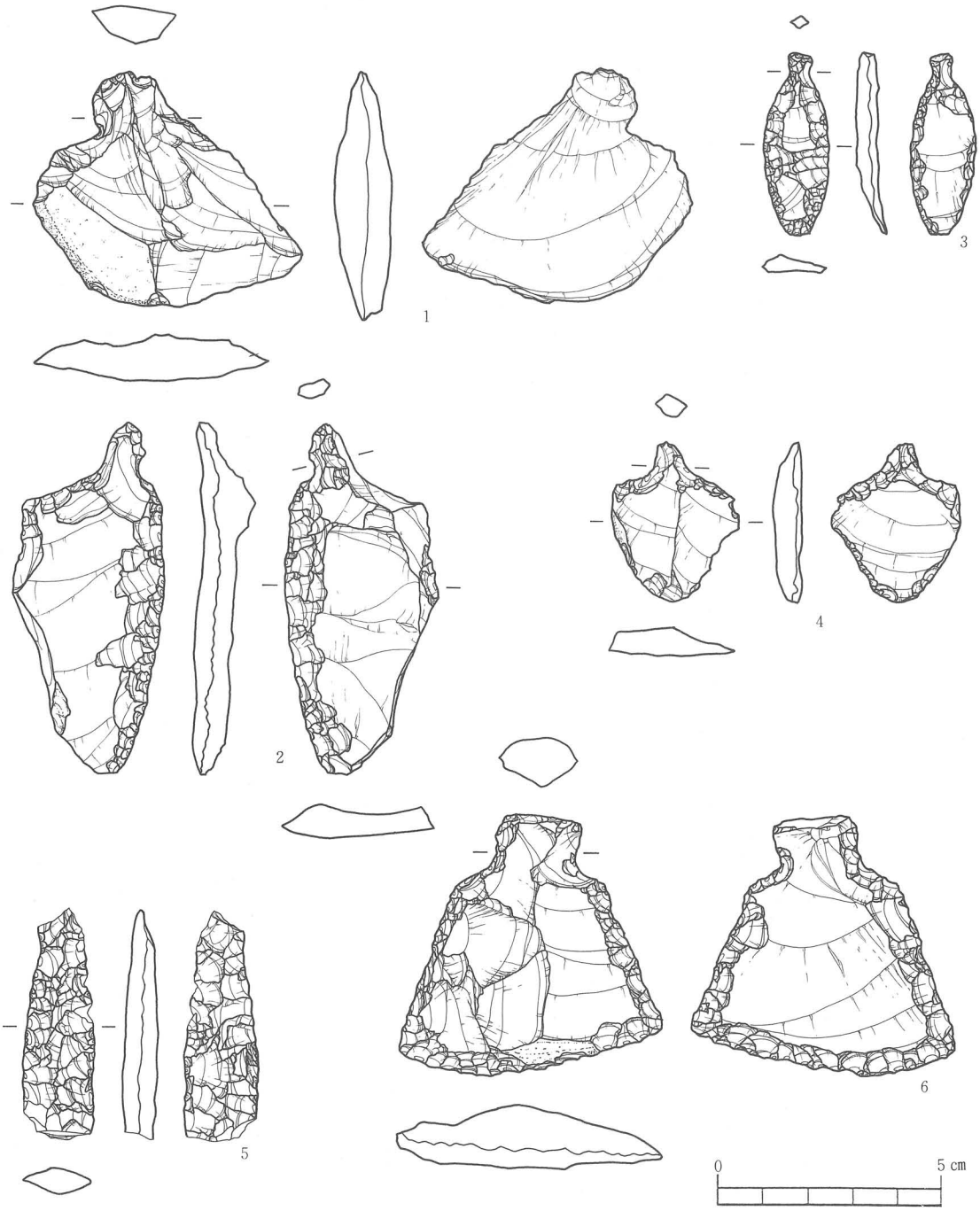
No.	種別	地区・層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	石鏃A	G－22	19.50×15.40×5.75	1.20	玉髄	———	
2	石鏃A	E－14	(18.50)×(13.30)×3.00	0.45	頁岩	———	
3	石鏃A	E－14	13.20×10.50×2.80	0.25	黒曜石	———	
4	石鏃A	E－14	31.85×20.65×3.35	1.90	珪質頁岩	———	
5	石鏃A	E－14	21.50×15.25×2.90	0.55	頁岩	———	
6	石鏃A	E－14	(18.60)×16.00×3.60	0.65	玉髄	———	
7	石鏃A	E－14	19.50×13.60×3.20	0.60	チャート	———	
8	石鏃A	E－14	26.25×12.10×3.55	0.70	頁岩	———	
9	石鏃A	E－14	24.55×19.40×7.85	3.25	メノウ	———	焼けている。
10	石鏃A	E－14	23.25×14.15×2.70	0.55	鉄石英	———	
11	石鏃A	E－14	(22.40)×(12.70)×3.00	0.50	メノウ	———	
12	石鏃A	E－14	(21.35)×(12.85)×3.55	0.55	頁岩	———	
13	石鏃A	E－14	19.70×11.95×4.50	0.70		———	
14	石鏃A	E－14	(19.90)×13.30×4.80	1.00	頁岩	———	

第876図　遺構外出土石器（1）



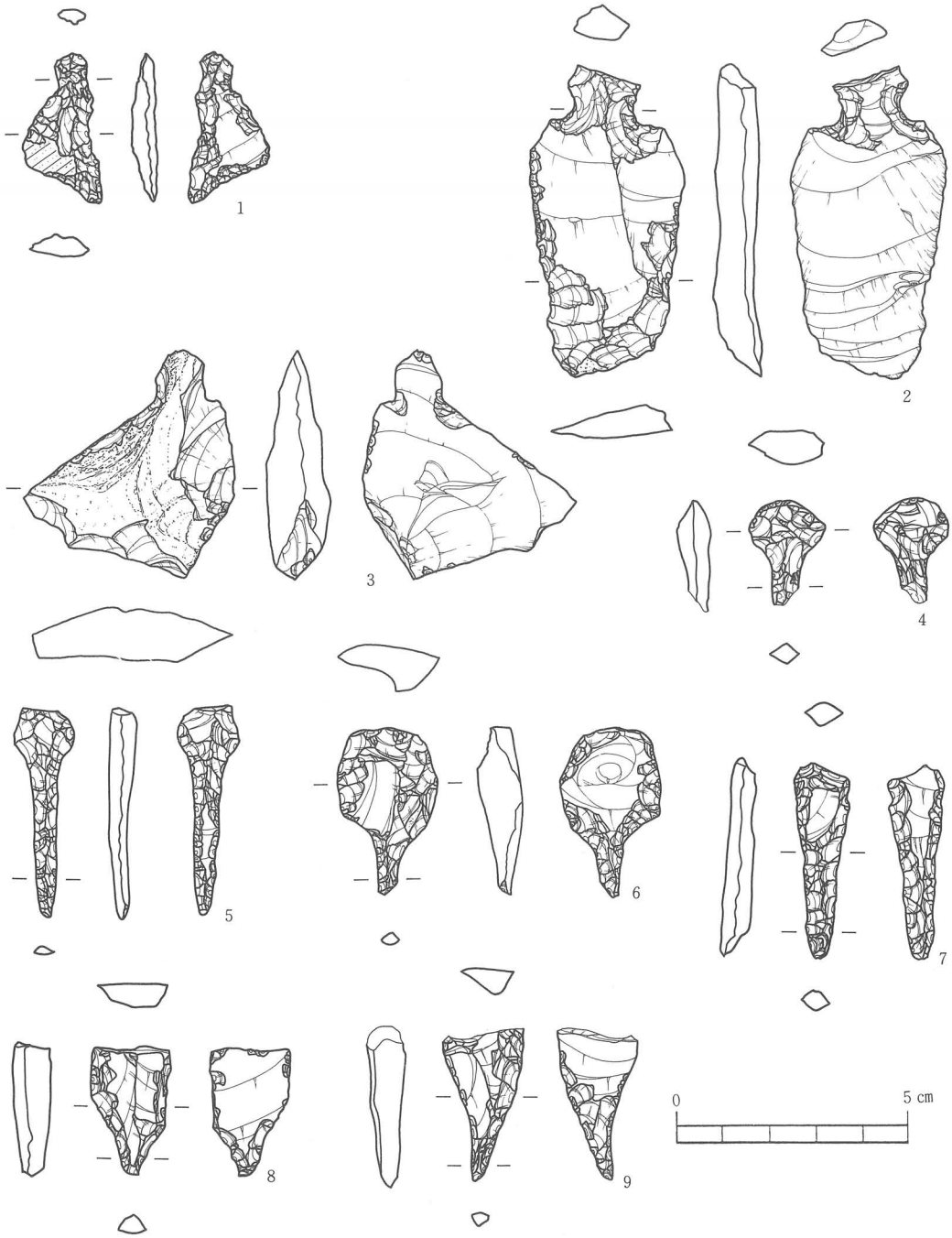
No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	石　鏃A	E－14	25.95×15.50×4.55	1.20	頁　岩	———	
2	石　鏃A	E－14	20.70×12.25×2.75	0.40	頁　岩	———	
3	石　鏃A	E－14	(22.65)×14.80×6.45	1.20	流紋岩	———	
4	石　鏃A	E－14	41.00×19.90×6.20	3.10	頁　岩	———	
5	石　鏃A	S－19	(24.70)×(18.05)×4.30	1.10	頁　岩	———	
6	石　鏃A	E－22・2層	(19.45)×12.75×2.80	0.50	頁　岩	———	
7	石　鏃A	X－20・ローム上面	(31.10)×(17.30)×5.45	2.00		———	
8	石　鏃A	W－29・3層下部	17.35×11.90×3.05	0.35	頁　岩	———	
9	石　鏃A	E－7・2層	(35.65)×12.80×5.35	2.15	頁　岩	———	
10	石　鏃A	E－14・表土	(36.20)×(13.25)×4.95	1.50	頁　岩	———	
11	石　匙	E－22・2層	48.50×87.20×14.45	42.00		———	

第877図　遺構外出土石器（2）



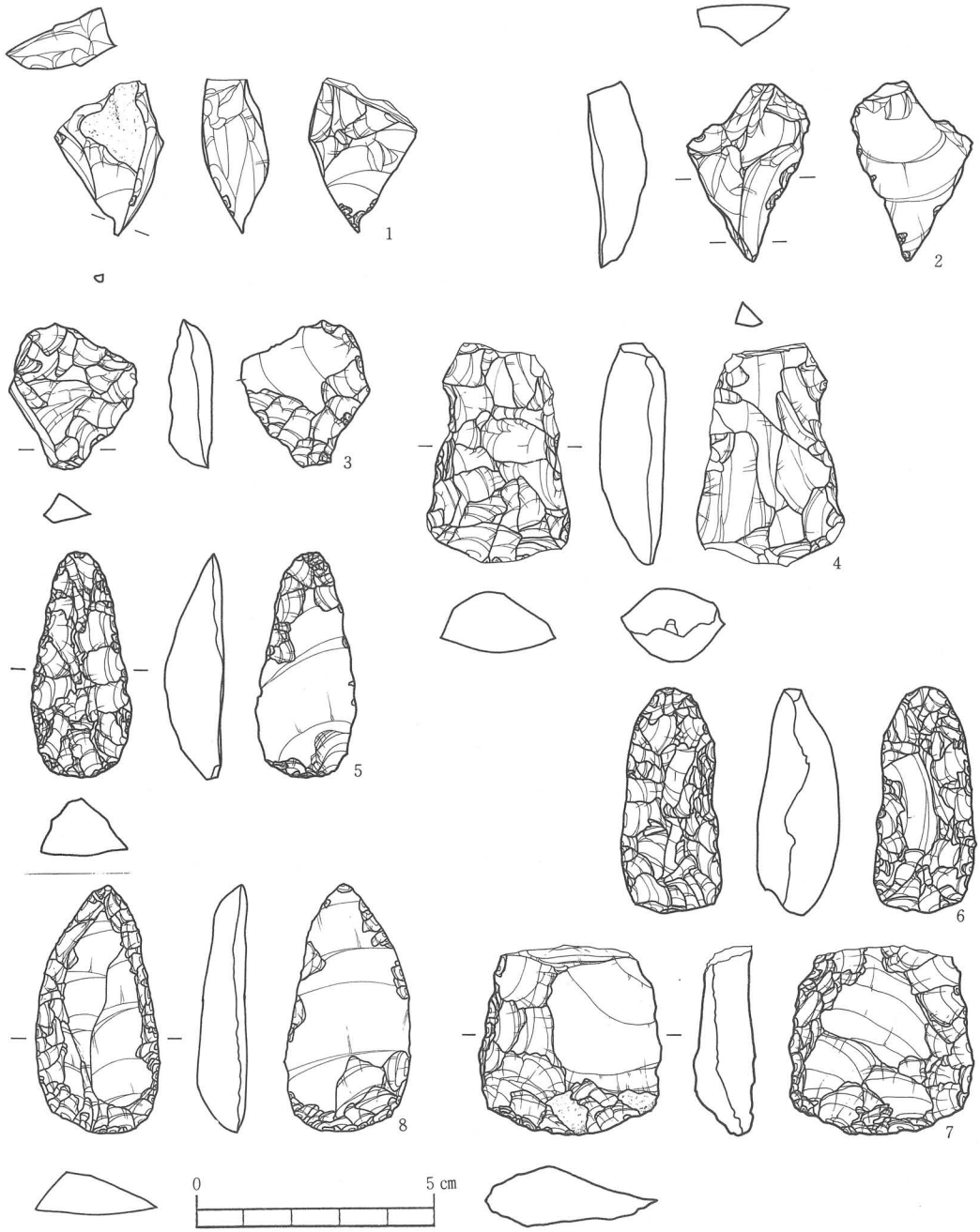
No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	石　匙	L－19・2層	79.15×34.00×11.90	18.50	流紋岩	―――	
2	石　匙	L－21・2層	41.25×14.65×5.10	2.55	頁　岩	―――	
3	石　匙	E－9	35.90×28.30×6.15	6.25		―――	
4	石　匙	E－10・表土	(51.80)×16.80×7.40	5.70	頁　岩	―――	
5	石　匙	E－14・表土	58.95×58.70×14.75	40.35	頁　岩	―――	
6	石　匙	E－22・2層	52.90×59.80×12.60	28.80	頁　岩	―――	

第878図　遺構外出土石器（3）



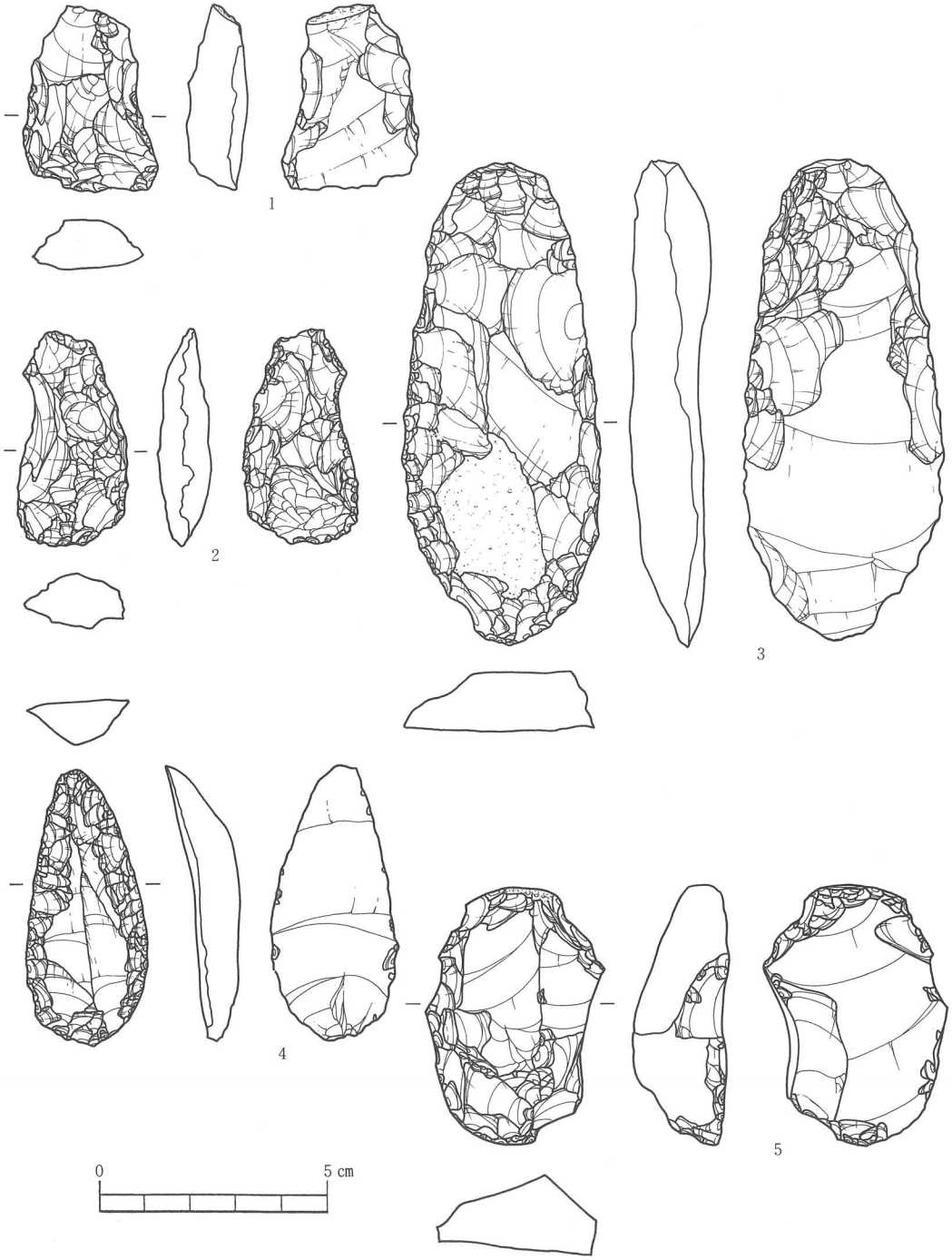
No.	種別	地区・層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	石匙	S−23・風倒木	32.60×17.40×5.40	1.90	鉄石英	———	
2	石匙	X−22	68.25×33.40×9.45	16.65	頁岩	———	
3	石匙	Iトレンチ・2層	49.45×46.25×13.45	19.10	頁岩	———	
4	石錐	K−19・2層	(23.40)×16.25×7.55	1.85	頁岩	———	
5	石錐	N−20・1層	45.50×12.95×5.85	1.70	頁岩	———	
6	石錐	E−14	36.55×21.80×9.40	4.95		———	
7	石錐	H−18・2層	42.40×12.15×6.40	2.45	頁岩	———	
8	石錐	H−18・2層	28.30×17.55×8.30	3.75	頁岩	———	
9	石錐	H−21・風倒木	(33.50)×(17.70)×(8.40)	3.05	頁岩	———	

第879図　遺構外出土石器（4）



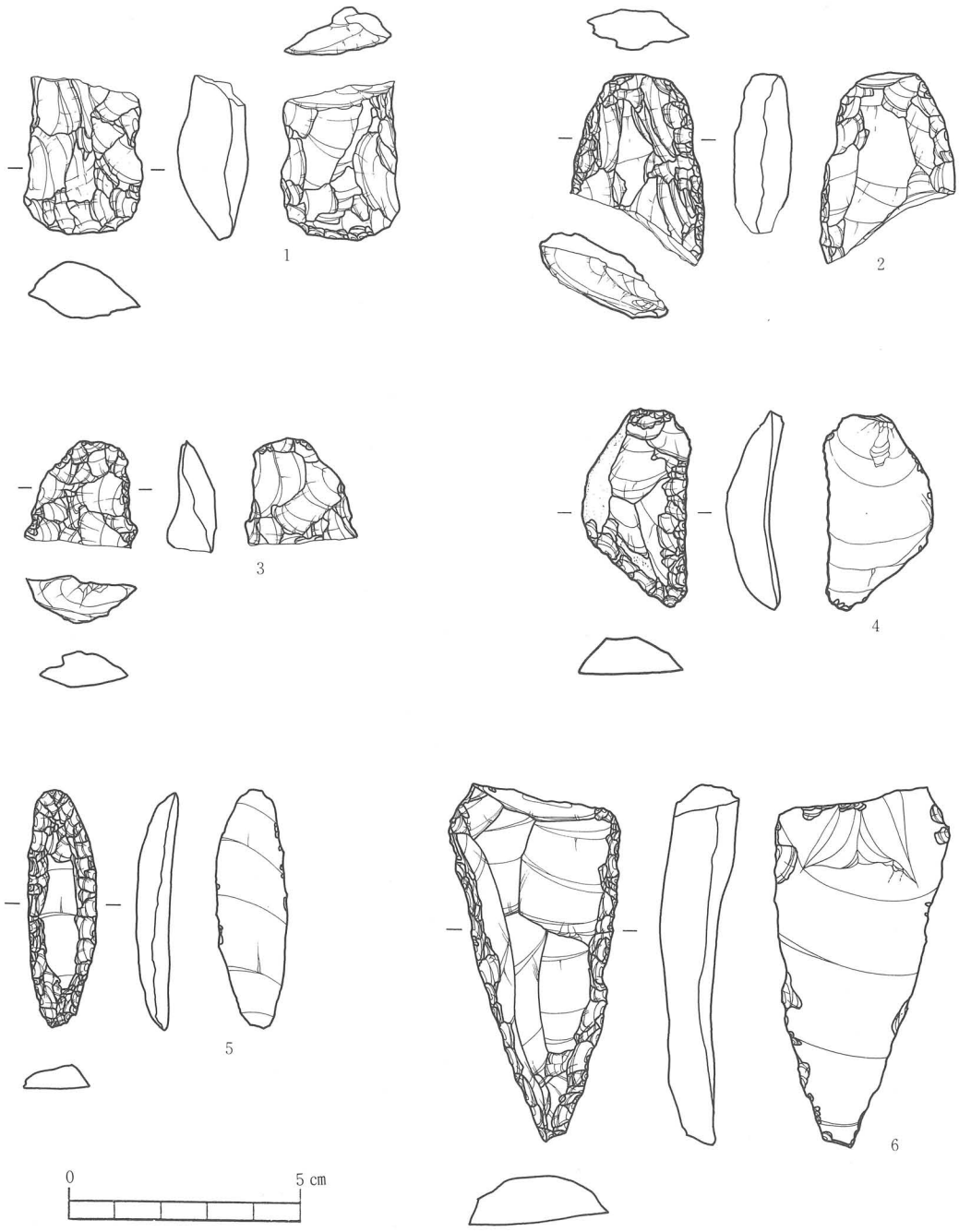
No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	石　錐	P－22・Pit a	(33.10)×(23.00)×13.35	8.50		―――	
2	石　錐	E－14・表土	38.20×25.80×11.50	6.90	鉄石英	―――	
3	石　錐	L－19・ローム上面	30.85×26.85×9.00	6.50	珪化木	―――	
4	篦状石器	E－10・2層上面	46.80×30.05×13.85	19.30	頁　岩	―――	
5	篦状石器	M－19・プラン確認	47.75×21.10×12.55	10.55		―――	
6	篦状石器	M－22・2層	48.20×21.40×16.65	17.40		―――	
7	篦状石器	N－20・2層	(40.25)×39.00×13.30	20.50		―――	
8	篦状石器	M－18・2層	53.00×27.00×9.00	14.65		―――	

第880図　遺構外出土石器（5）



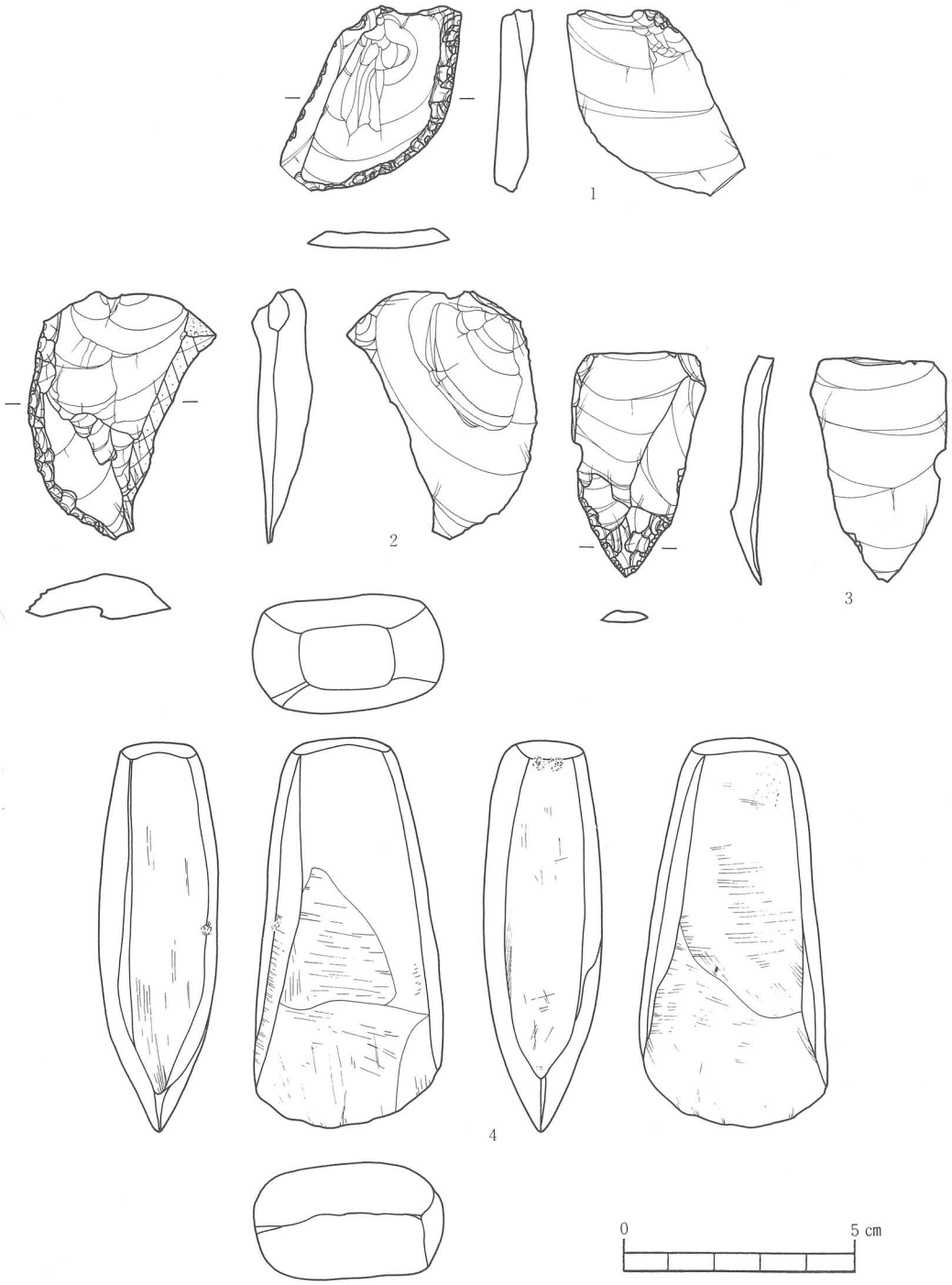
No.	種別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	篦状石器	Q－18・2層	40.75×30.25×13.20	15.00		———	
2	篦状石器	E－10・表土	47.40×24.80×11.45	12.90		———	
3	篦状石器	E－14	106.15×43.35×17.05	80.65	頁岩	———	
4	篦状石器	P－22・4層	60.90×27.05×10.40	15.40	頁岩	———	
5	篦状石器	O－23・2層	57.05×38.85×20.30	39.35		———	

第881図　遺構外出土石器（6）



No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	篦状石器	O－22	(34.05)×25.55×15.10	10.85	流紋岩	———	焼けている。
2	篦状石器	L－25	(41.60)×(28.85)×12.15	12.10		———	
3	篦状石器	E－9	(23.15)×(23.80)×(10.80)	5.00		———	
4	スクレイパー	H－23・2層	42.60×23.25×9.45	8.70	頁　岩	———	
5	スクレイパー	I－20・2層	51.45×14.80×7.35	5.35		———	
6	スクレイパー	E－5・2層上面	77.30×36.95×14.55	36.30	頁　岩	———	

第882図　遺構外出土石器（7）

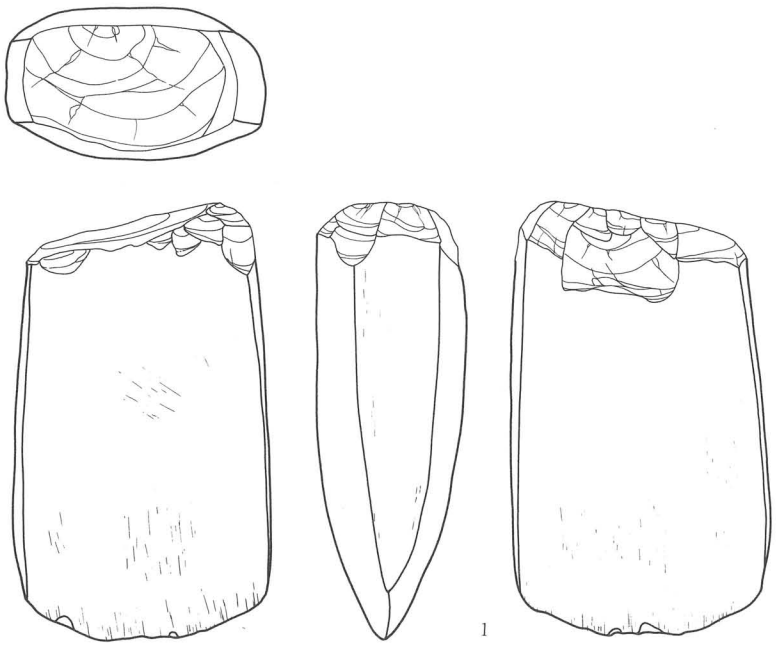


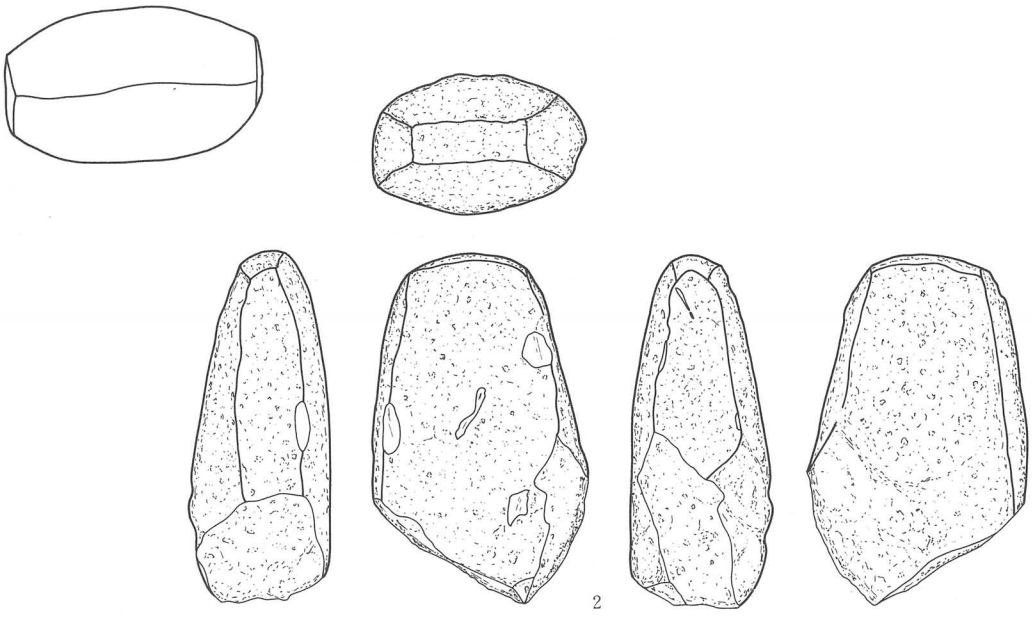
No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石 材	使 用 痕	備　考
1	スクレイパー	L－17・ローム上層	(40.55)×(48.10)×7.15	7.20	頁 岩	―――	
2	スクレイパー	L－17	54.00×41.10×11.60	17.75		―――	
3	スクレイパー	N－19・2層	49.05×29.20×6.25	6.80	頁 岩	―――	
4	磨製石斧	E－22・2層	84.75×40.30×25.90	146.0		―――	

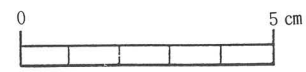
第883図　遺構外出土石器（8）

No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石 材	使 用 痕	備　考
1	磨製石斧	E－14	(57.70)×(39.40)×(19.10)	58.0		———	
2	磨製石斧	E－9・2層上面	(56.15)×48.15×(25.30)	115.5		———	
3	磨製石斧	E－14	(30.25)×(28.80)×(11.30)	16.0		———	
4	磨製石斧	R－26・風倒木	(39.40)×(39.90)×(21.70)	44.0		———	

第884図　遺構外出土石器（9）





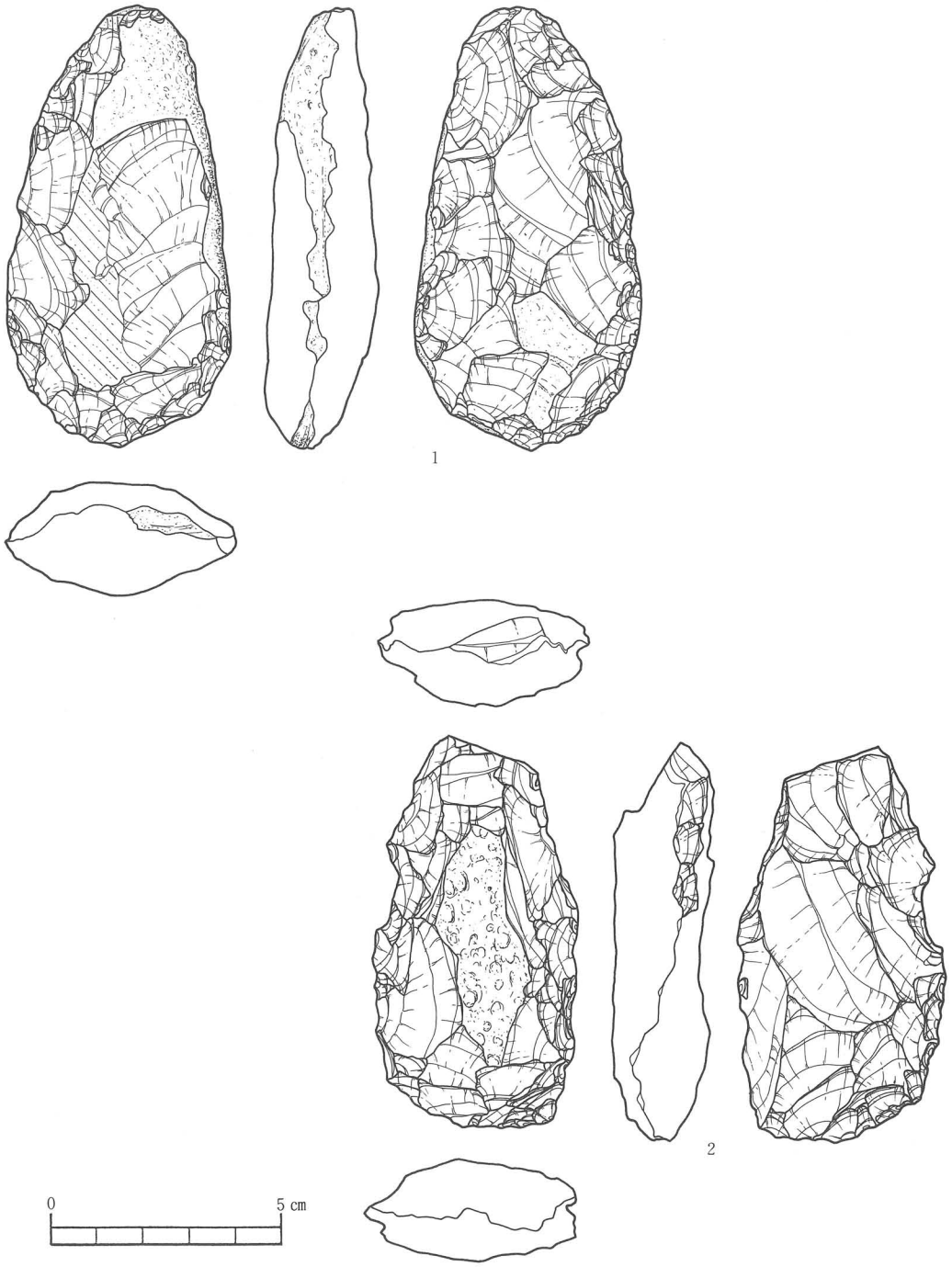


No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石 材	使 用 痕	備　考
1	磨製石斧	J－22・風倒木	(88.45)×(51.30)×30.00	231.5		———	
2	磨製石斧	T－30・風倒木	(69.90)×(42.45)×(27.90)	123.0		———	

第885図　遺構外出土石器（10）

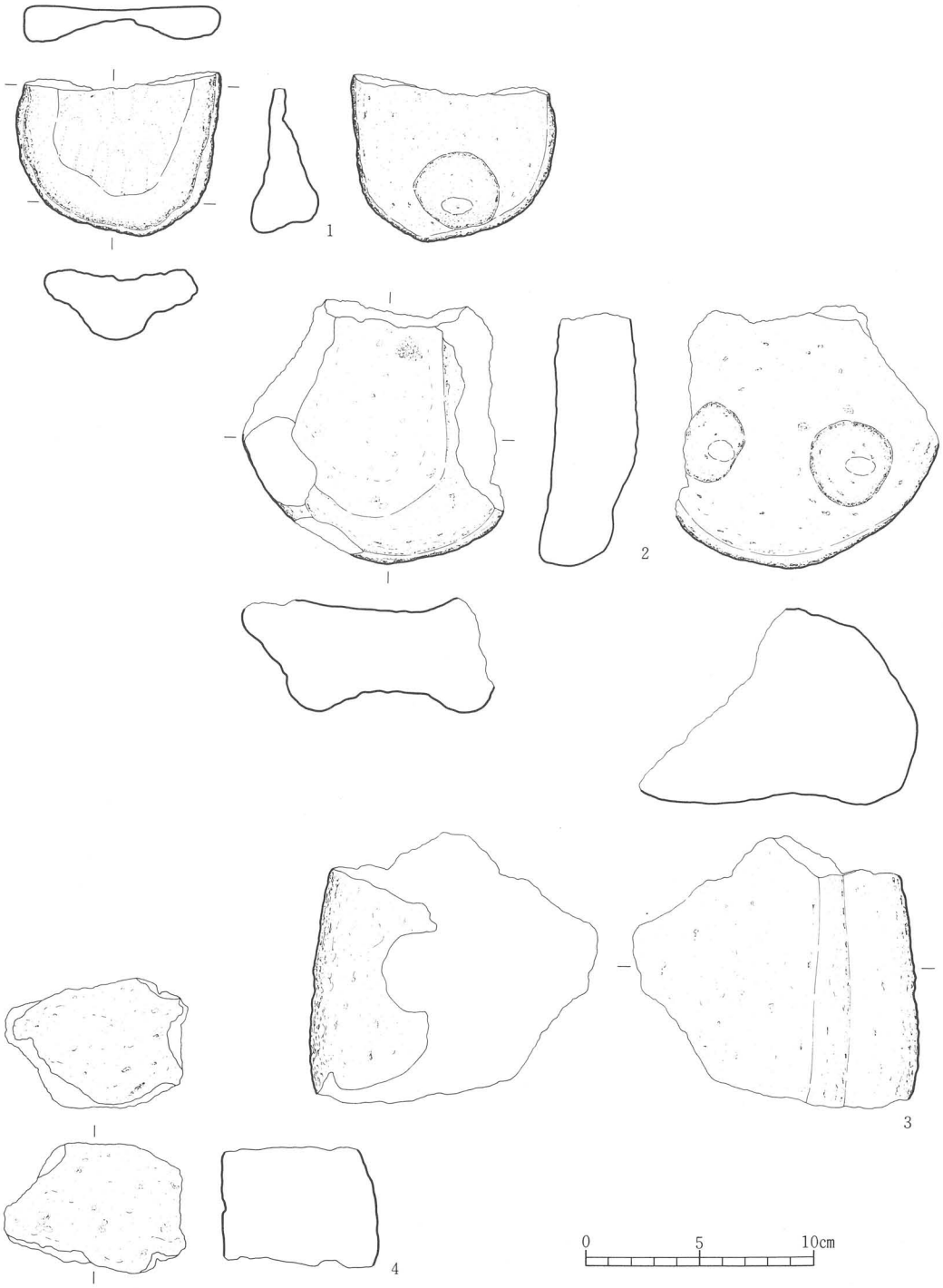
No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	磨製石斧	E－14	(53.85)×(32.50)×(13.30)	37.5		――	
2	磨製石斧	E－22・2層	(27.35)×(27.35)×(24.90)	22.0		――	
3	磨製石斧	E－22・2層	(54.80)×(22.60)×(7.95)	13.0		――	
4	磨製石斧	M－18・Pit14	(73.00)×(41.60)×26.30	90.5		――	
5	磨製石斧	Cトレンチ・拡張部	(70.10)×(54.55)×13.90	87.5		――	

第886図　遺構外出土石器（11）



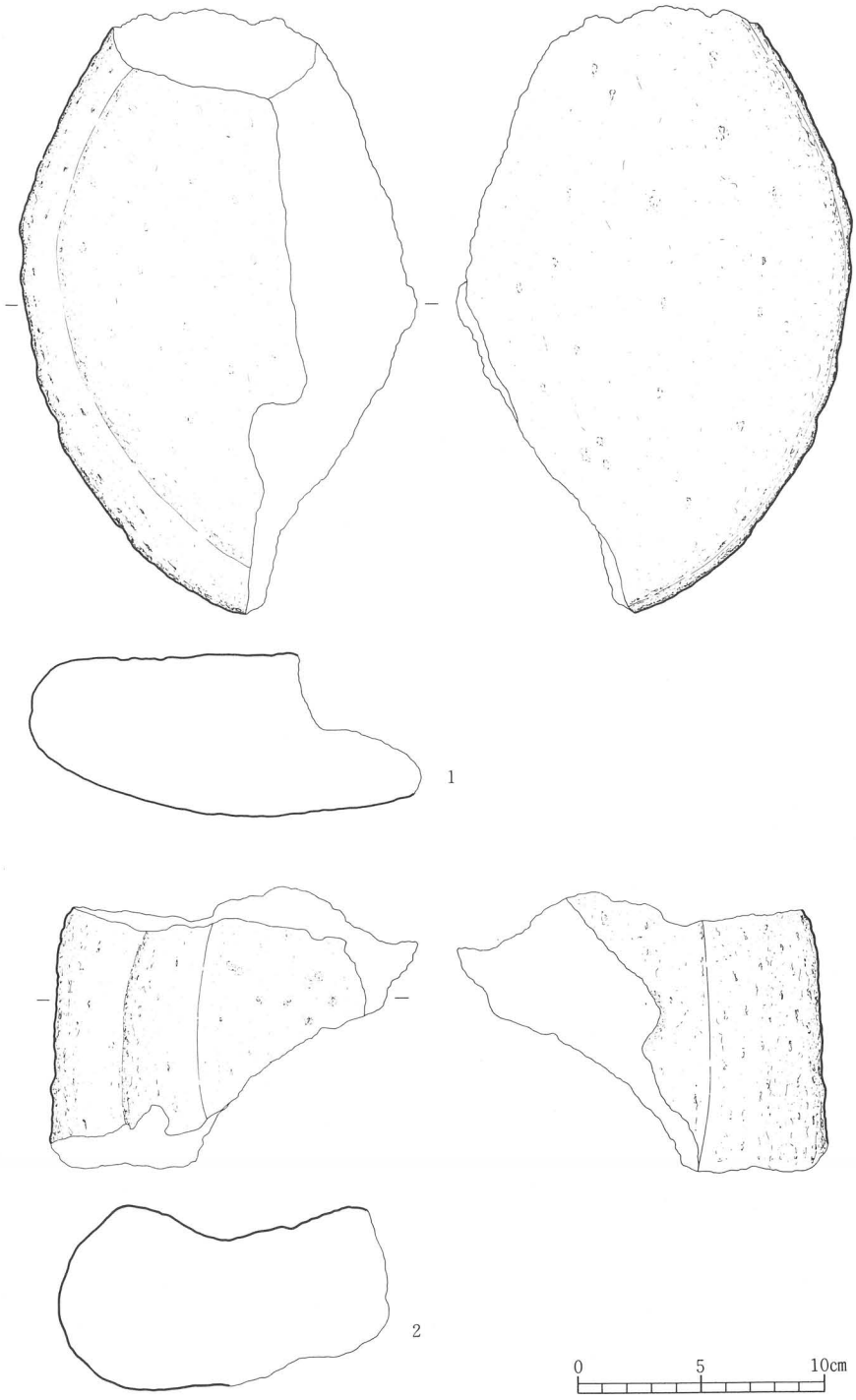
No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	打製石斧	E－22	95.55×48.00×24.55	114.0	安山岩？	――	
2	打製石斧	E－14・表土	85.45×44.25×23.23	81.0		――	

第887図　遺構外出土石器（12）



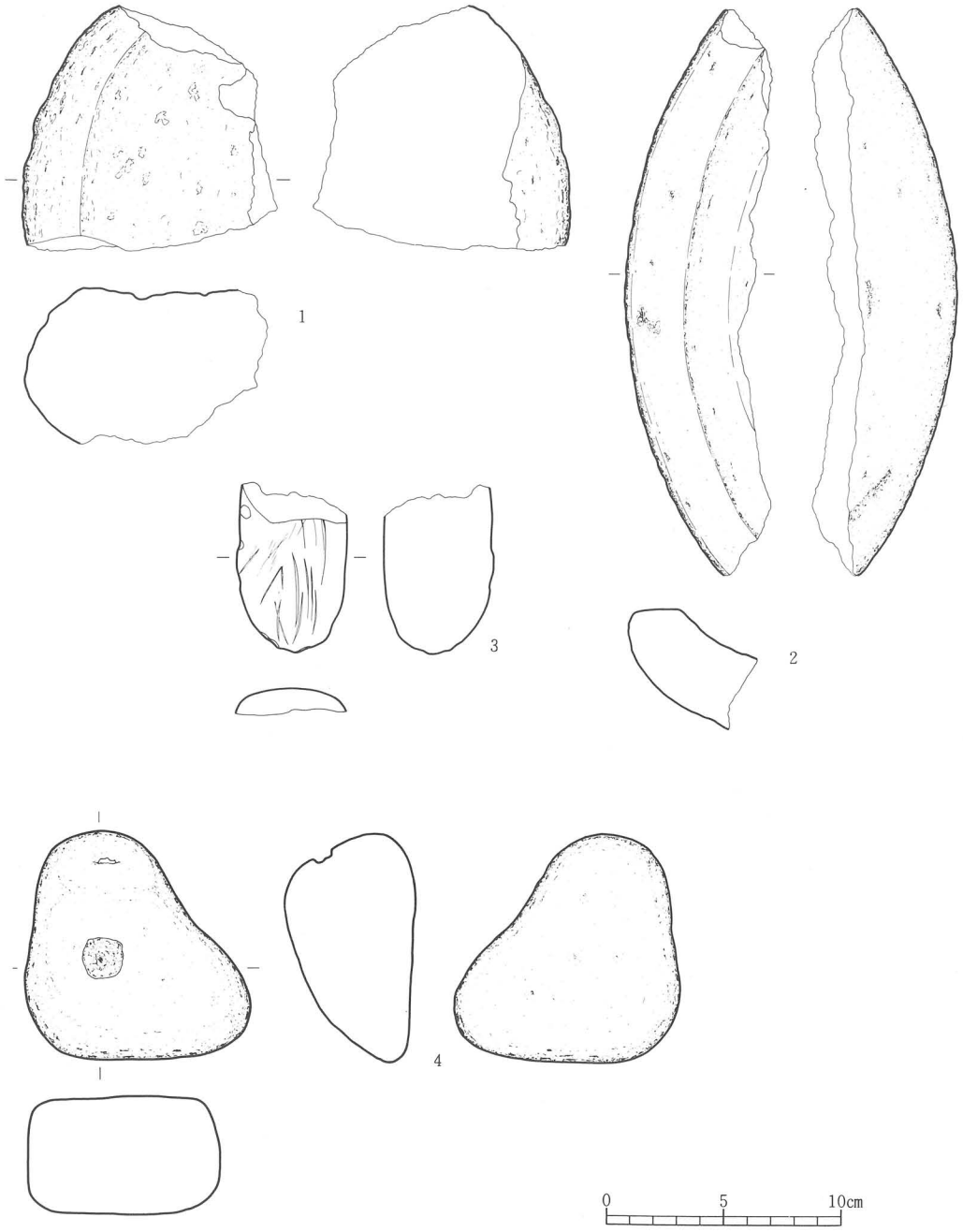
No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	石　皿	E－7・2層	(73)×(89)×(31)	94.0		磨－片面	脚1個現存
2	石　皿	E－11・2層	(116)×(115)×(51)	539.0		磨－片面	脚2個現存
3	石　皿	O－25	(119)×(125)×(87)	1232.0		磨－片面	
4	石　皿	O－25	(80)×(58)×(70)	385.0		磨－片面	

第888図　遺構外出土石器（13）



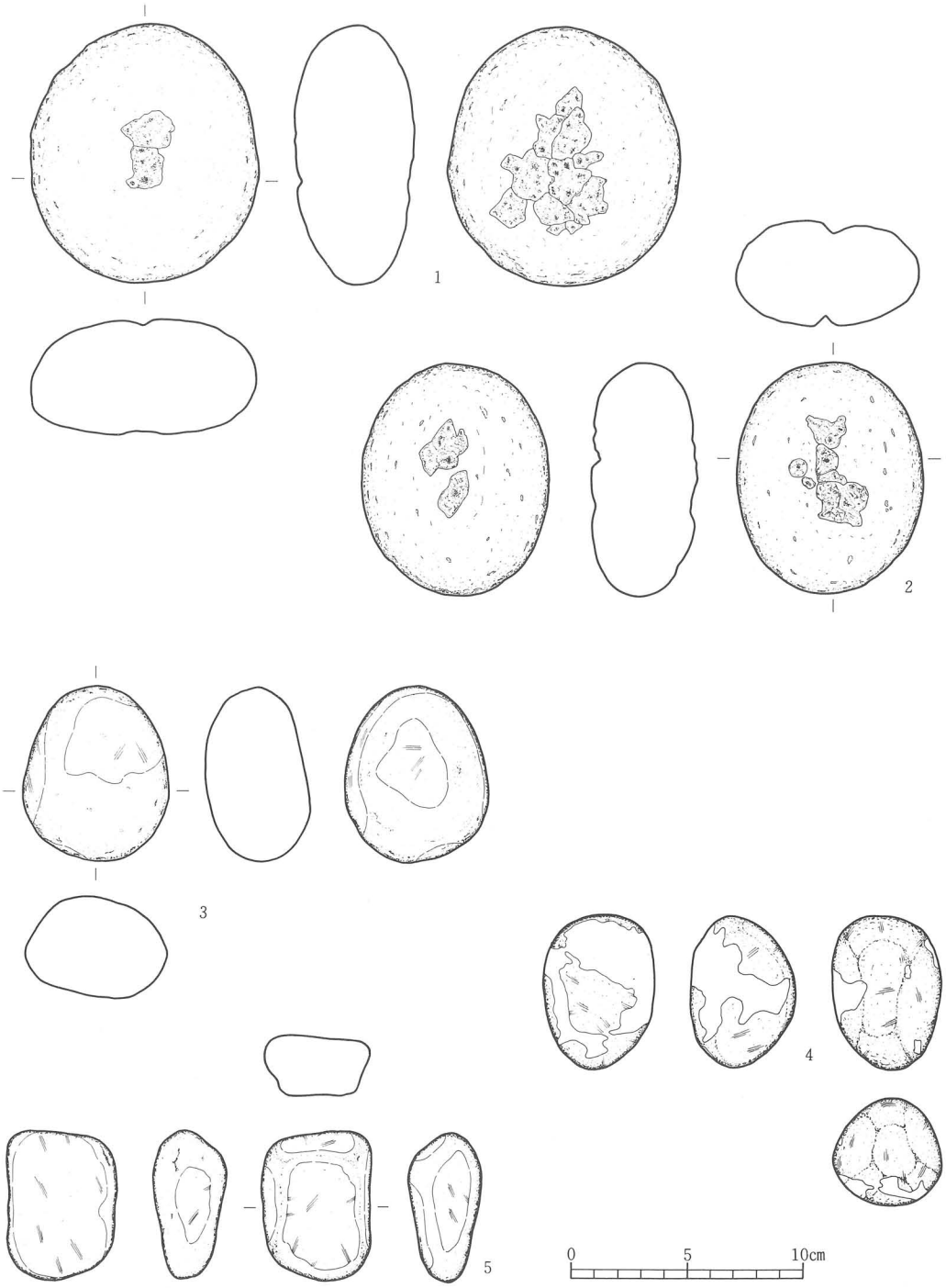
No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使　用　痕	備　考
1	石　皿	M－21	(245)×(160)×(66)	2564.0		磨－片面	
2	石　皿	J－17	(114)×(146)×(75)	1201.5		磨－両面	

第889図　遺構外出土石器（14）



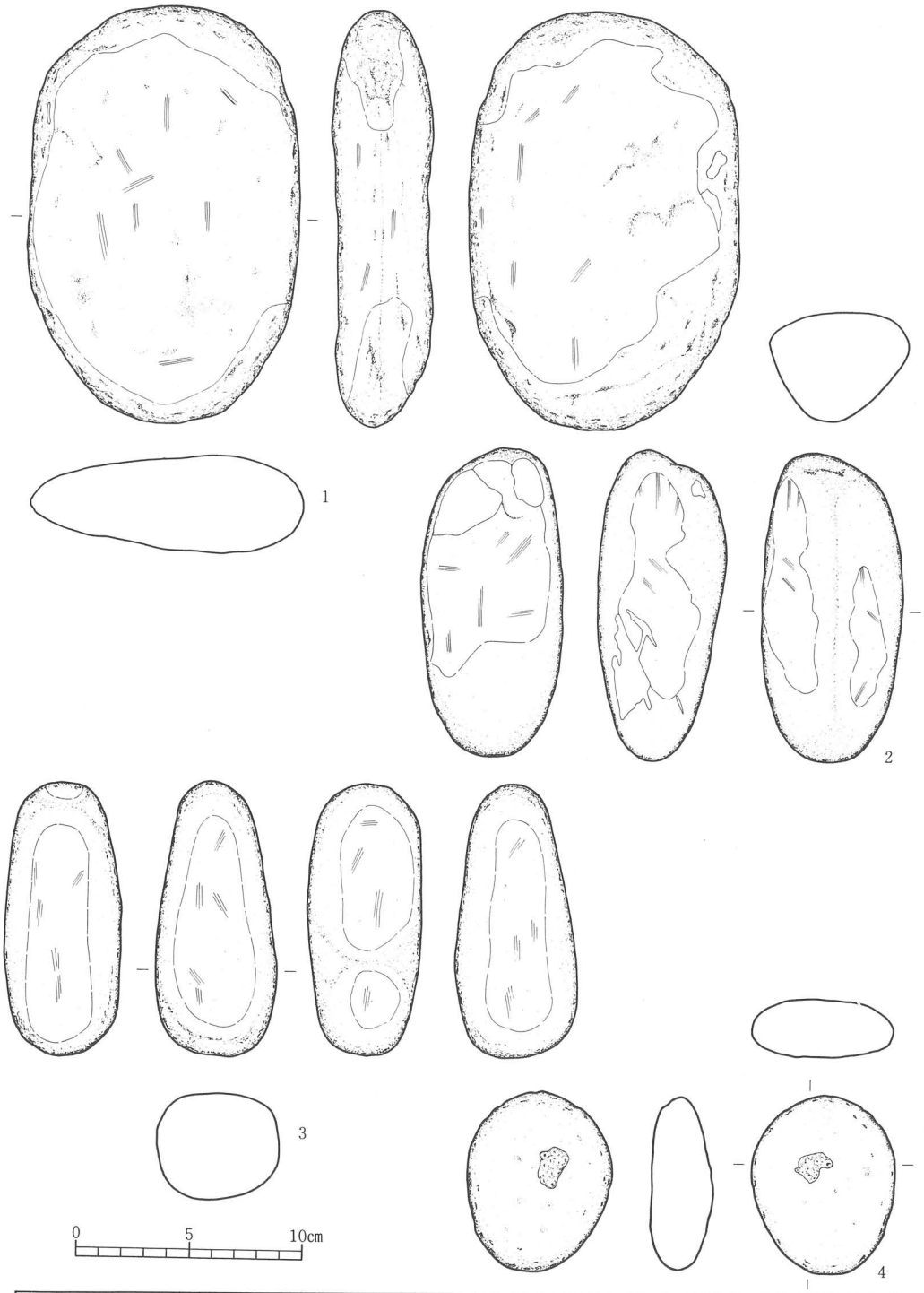
No.	種別	地区・層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	石皿	O−25	(105)×(108)×(67)	817.5		磨一片面	
2	石皿	Fトレンチ・1層	(241)×(61)×(51)	609.0		磨一片面	
3	砥石	O−25	(72.15)×47.20×(12.00)	47.25			
4	礫石器	L−21・Pit	97×94×55	631.0		凹一両面	

第890図　遺構外出土石器（15）



No.	種別	地区・層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	礫石器	M－21・2層	112×98×52	752.5		凹－両面	
2	礫石器	O－20・1層	101×81×48	441.0		凹－両面	
3	礫石器	E－14・2層	74×60×45	291.5		磨－全面	
4	礫石器	O－25	67×47×46	196.5		磨－全面	
5	礫石器	R－26・風倒木	65×47×30	136.5		磨－全面	

第891図　遺構外出土石器（16）

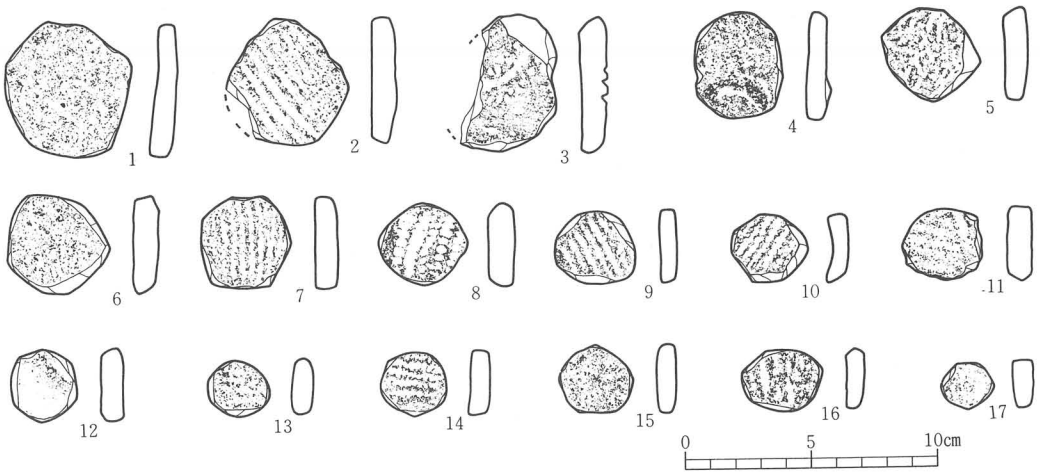


No.	種別	地区・層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	礫石器	J－20	186×119×49	1324.0		磨－両面、片側面	
2	礫石器	O－25	137×56×58	608.5		磨－片面、両側面	
3	礫石器	K－22	120×50×56	501.5		磨－両面、一端、両側面	
4	礫石器	J－22・風倒木	79×63×28	184.0		敲－両面	

第892図　遺構外出土石器（17）

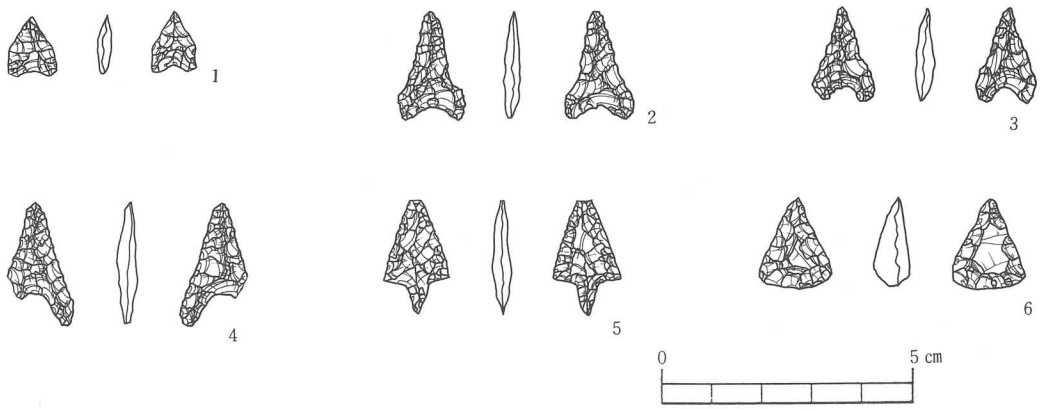
7．表採遺物

調査中に出土した遺物のうち記録の不備等で出土位置が明らかでなかったもの、その他表面採集及び排土中より採取された縄文時代の遺物を表採遺物として取り扱う。またこの中に昭和59年度の調査に際し、昭和55年度の埋め戻し土中より出土した遺物についても同様に表採遺物として取り扱った。



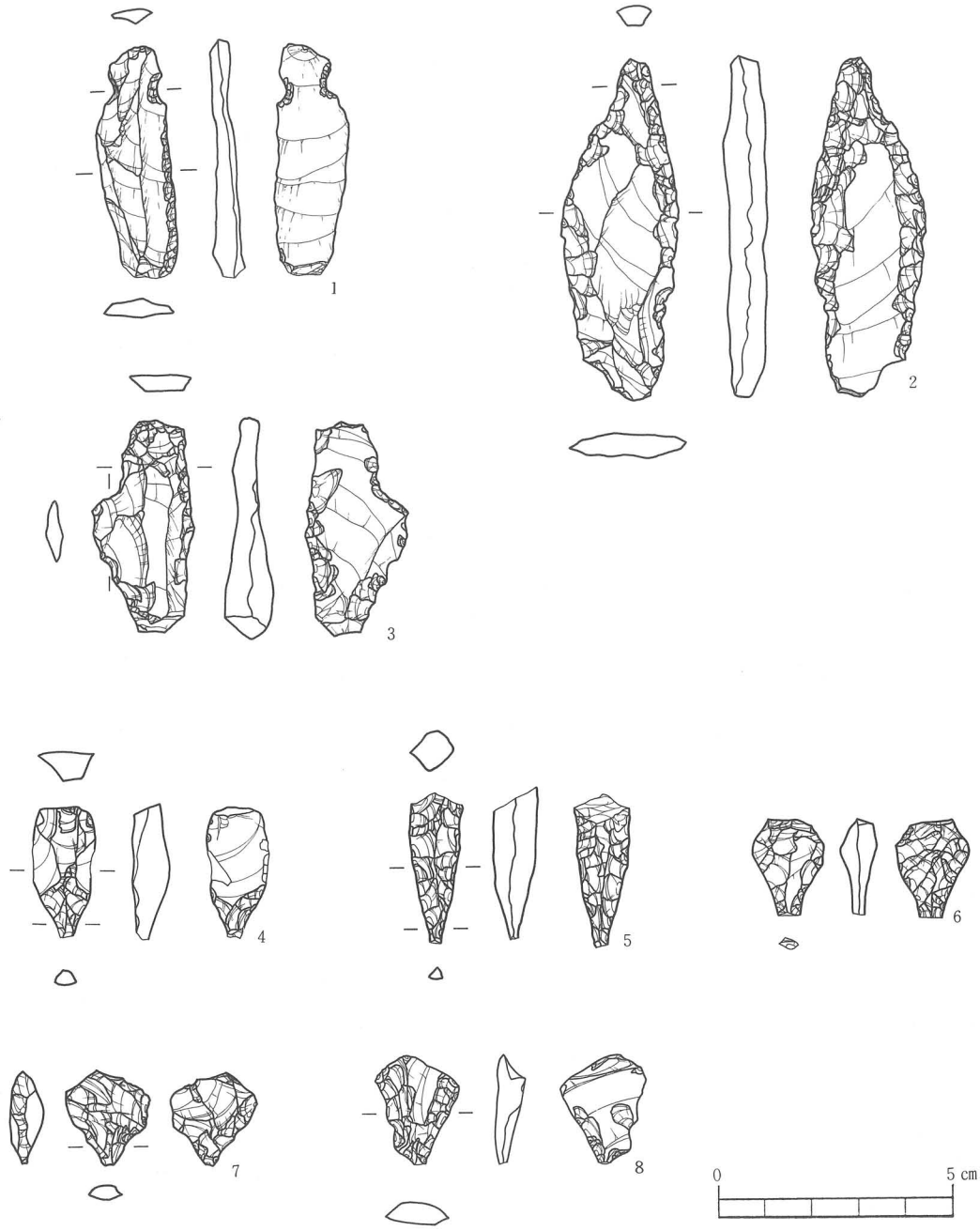
No.	層位	No.	層位	No.	層位	No.	層位	No.	層位	No.	層位
1	——	2	——	3	——	4	——	5	——	6	——
7	——	8	——	9	——	10	——	11	——	12	——
13	——	14	——	15	——	16	——	17	——		

第893図　表採土製円盤



No.	種別	層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	石鏃A	——	(11.75)×9.55×2.60	0.25	頁岩		
2	石鏃A	——	21.40×12.85×3.30	0.50	頁岩		
3	石鏃A	——	18.50×12.10×3.60	0.55	頁岩		
4	石鏃A	——	(23.90)×(12.85)×4.50	0.65			
5	石鏃A	——	(22.85)×13.00×4.05	0.70	頁岩		
6	石鏃A	——	18.10×14.20×7.30	1.15			

第894図　表採石器（1）

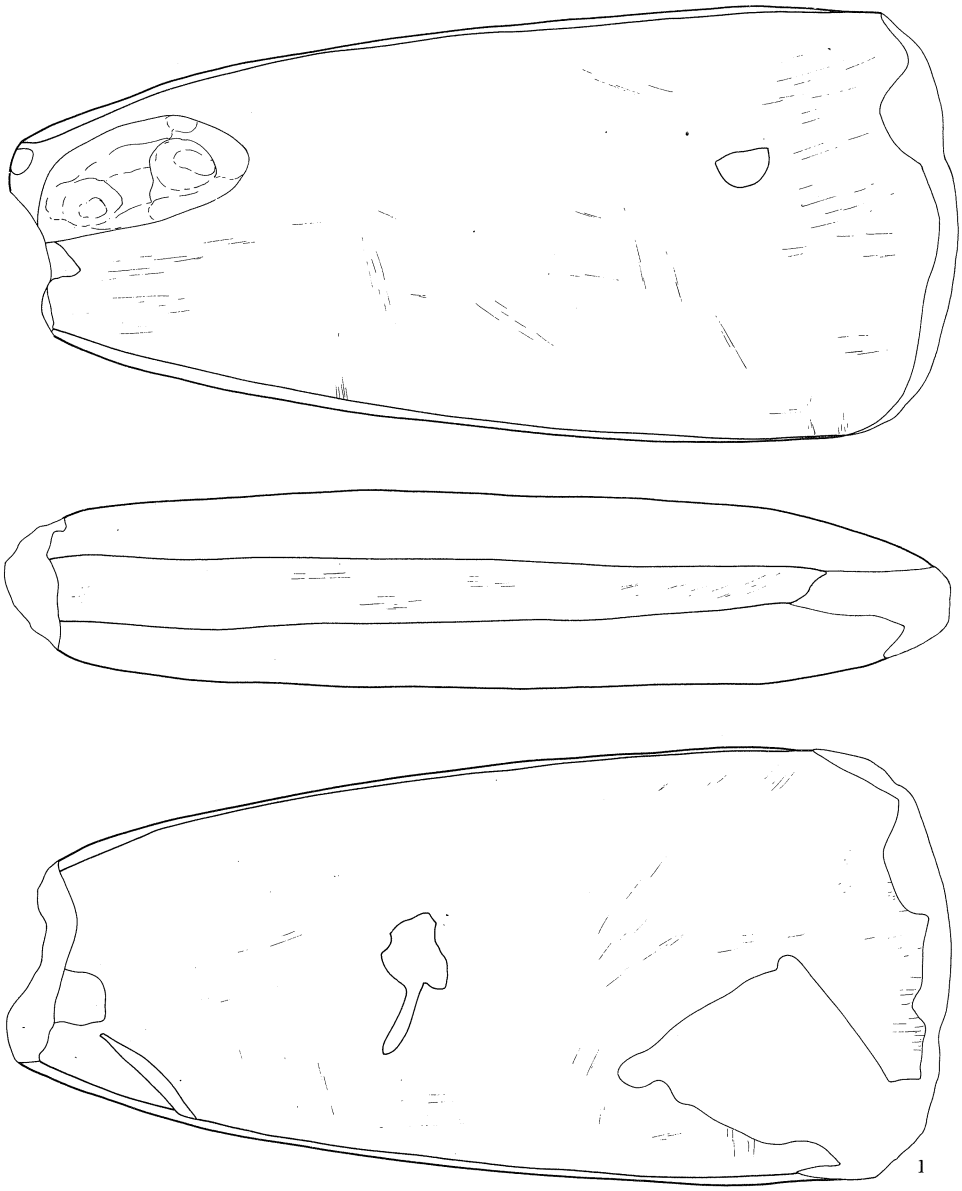


No.	種別	層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	石匙	——	(49.05)×16.50×5.25	3.60	頁岩		
2	石匙	——	72.60×24.60×8.90	12.00	頁岩		
3	石匙	——	21.30×45.20×10.20	5.95	頁岩		
4	石錐	——	(28.25)×13.35×12.70	2.85			
5	石錐	——	(32.30)×(11.40)×(9.05)	2.80			
6	石錐	——	(20.50)×15.25×7.55	1.70	頁岩		
7	石錐	——	20.10×17.75×6.90	1.80	メノウ		
8	石錐	——	(23.25)×17.80×5.95	1.75			

第895図　表採石器（2）

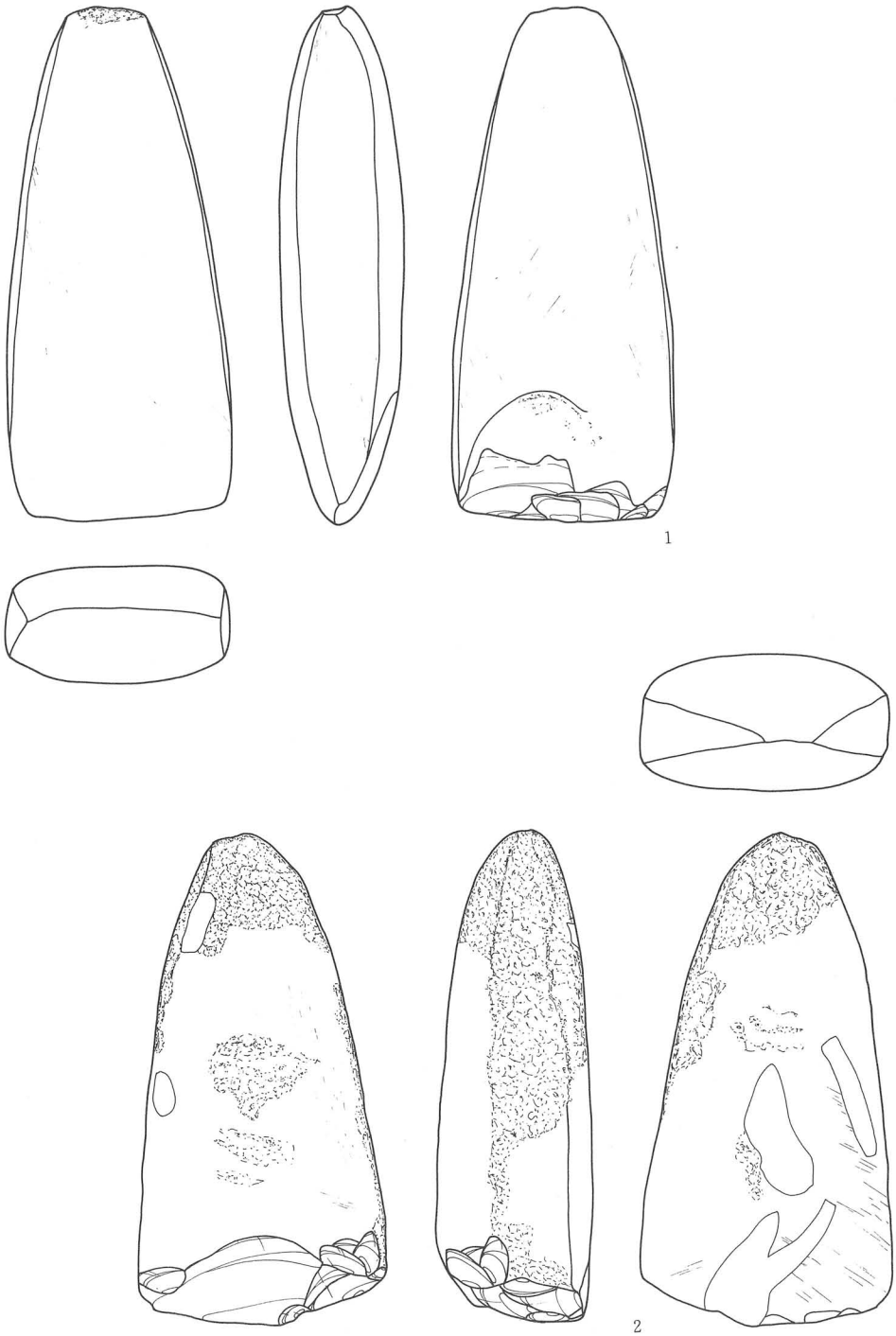
No.	種別	層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	篦状石器	——	16.70×26.70×6.35	2.95			
2	篦状石器	——	(33.95)×(24.40)×11.60	9.55	頁岩		
3	スクレイパー	——	55.55×49.70×13.45	37.70			
4	スクレイパー	——	41.95×33.60×9.55	12.30	鉄石英		
5	磨製石斧	——	(57.05)×(35.20)×17.20	60.5			
6	磨製石斧	——	(34.45)×(32.10)×(20.55)	32.5			

第896図　表採石器（3）



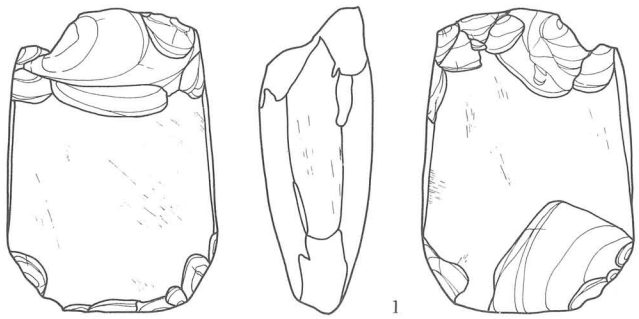
No.	種別	層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	磨製石斧	――	(186.40)×88.05×39.85	1001.5			

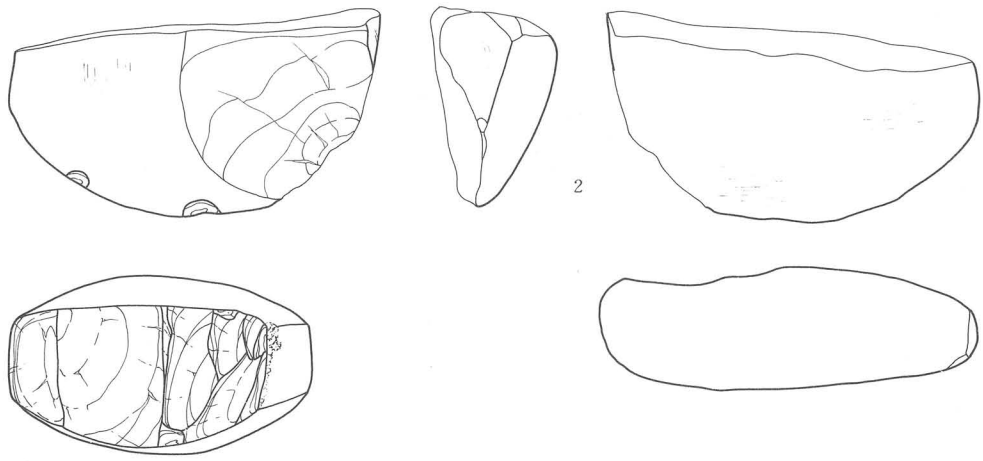
第897図　表採石器（4）

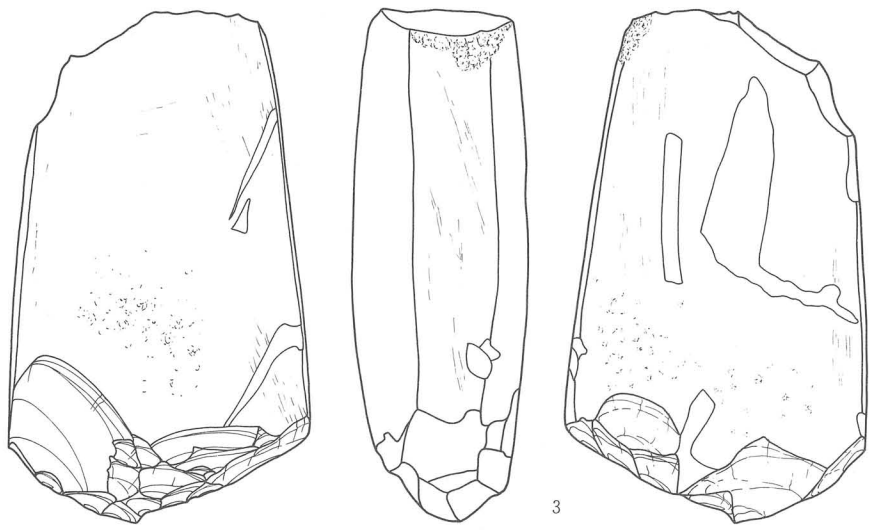


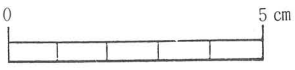
No.	種別	層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	磨製石斧	——	108.80×47.00×25.75	202.0			
2	磨製石斧	——	103.55×52.15×32.60	220.5			

第898図　表採石器（5）



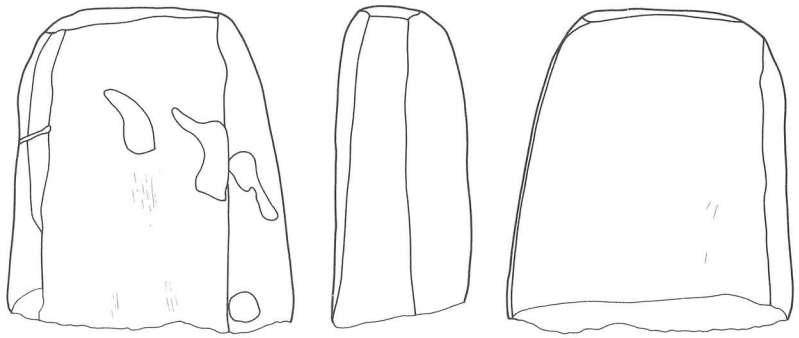




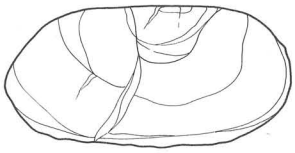


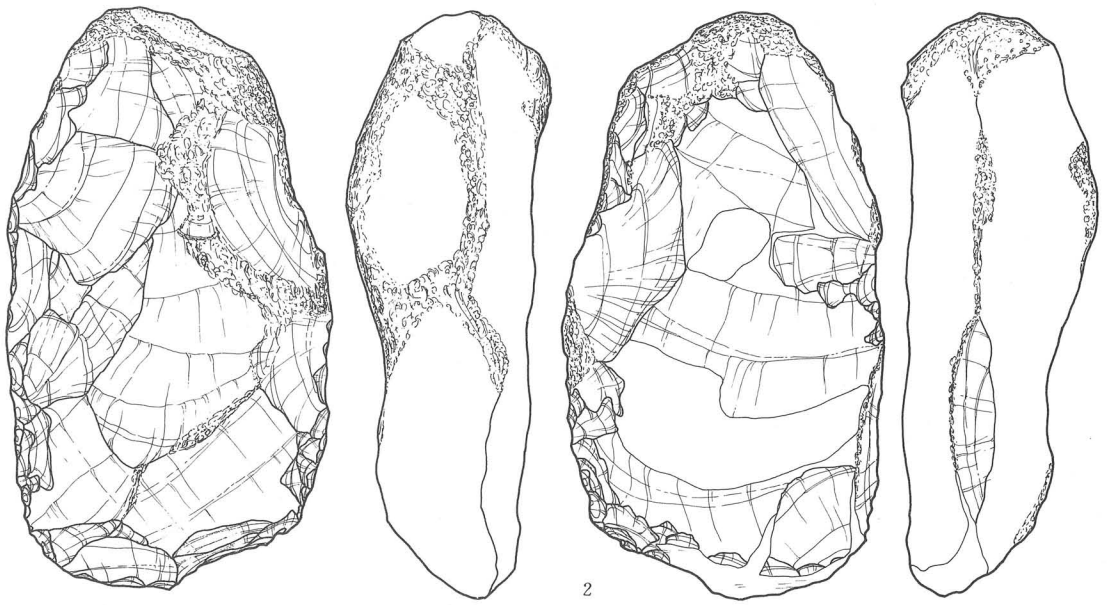
No.	種別	層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	磨製石斧	——	(60.80)×(41.60)×(22.55)	85.5			
2	磨製石斧	——	(41.10)×(74.65)×(24.50)	80.5			
3	磨製石斧	——	102.25×60.10×34.55	340.5			

第899図　表採石器（6）

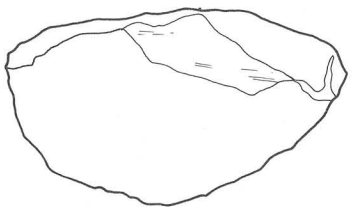


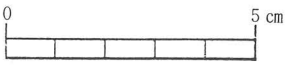
1





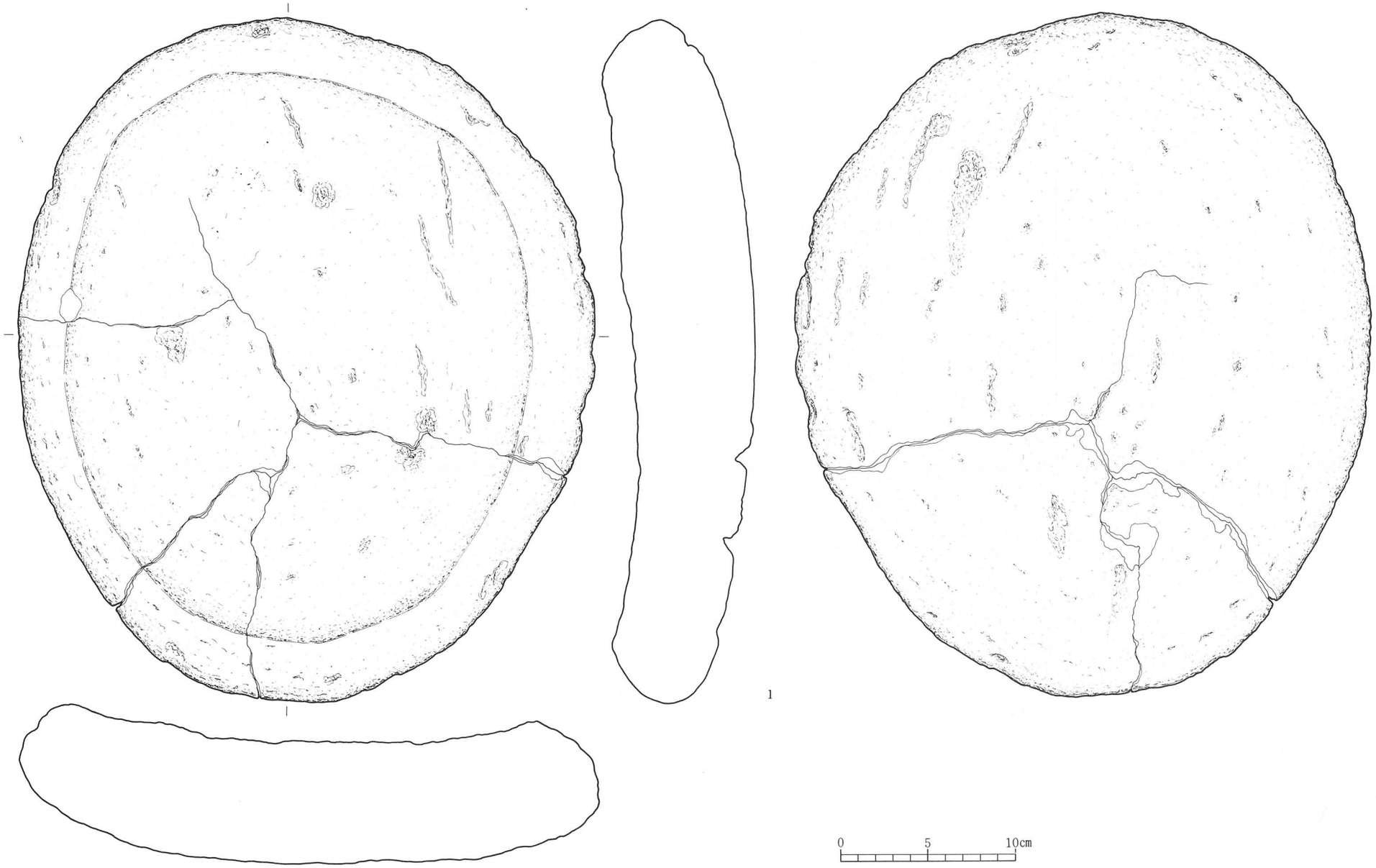
2





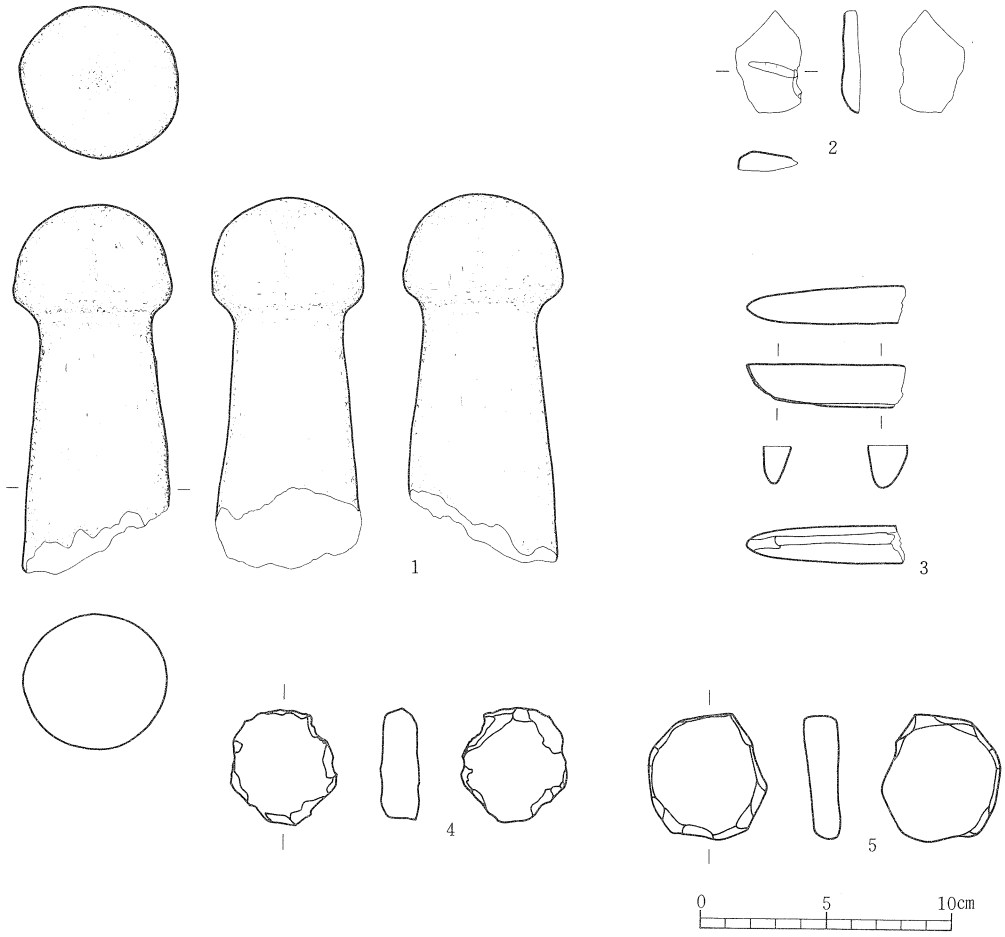
No.	種別	層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	磨製石斧	——	(66.65)×(57.10)×(27.90)	176.5			
2	打製石斧	——	116.30×64.60×39.15	315.0	流紋岩？		

第900図　表採石器（7）



No.	種　別	層　位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使　用　痕	備　考
1	石　皿	——	392×329×90			磨一片面	

第901図　表採石器（8）



No.	種　別	層　位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使 用 痕	備　考
1	石　棒	——	147.25×63.25×60.35	800.55			
2	砥　石	——	40.85×26.15×7.70	6.90			
3	石　刀	——	(63.20)×(17.65)×(16.20)	19.55			
4	石製円盤	——	45.85×42.05×16.15	32.65			
5	石製円盤		50.30×47.25×14.10	34.20			

第902図　表採石製品

8．西区確認遺構と出土遺物

西区については、東区の調査終了後に遺構精査を行なうという調査の工程上、東区の調査の進捗状況を見ながら表土排除作業を行なった。その後、西区の遺構精査開始以前に遺跡保存に向けての動きが出たため、表土排除作業は南半部のみを行ない、北半部については調査の手を入れずに現状での保存を図ることとした。そのため表土を排除した部分は、遺構確認作業及びその時点での遺物採取作業を行ない、確認面での遺構平面図を作成して遺構の分布状況、位置関係を記録し、作業を終了した。また、遺構番号は東区から通し番号とした。

ここでは、確認遺構の上面観察状況及び上面出土の縄文時代の遺物について、遺構の種類毎に取り扱うことにする。

住居跡

住居跡は16軒確認されている。

27号住居跡（K－14住居跡）

J・K－13・14グリッドに位置している。3.8m×4.0mの円形を呈する。

28号住居跡（Q－12住居跡）

Q－11・12グリッドに位置している。炉のみが検出されており、住居跡の平面形・規模は不明である。炉は最大長200cm、最大幅90cmである。炉長軸方向はN－2°－Wである。石組が3つに区切られており、土器が埋設されている可能性がある。

29号住居跡（F－11住居跡）

E・F－11グリッドに位置している。7 m×7.5mのほぼ円形を呈する。調査・確認した住居跡では最大のものであると思われる。

30号住居跡（K－10住居跡）

J・K－10グリッドに位置している。炉のみが検出されており、住居跡の平面形・規模は不明である。炉は最大長160cm、最大幅110cmである。炉長軸方向はN－60°－Wである。石組のみが確認されている。

31号住居跡（I－10住居跡）

H・I－9・10グリッドに位置している。23号溝と重複関係にあり、溝に切られている。5.8m×およそ6.5mの円形を基調とした平面形を呈する。

32号住居跡（E－10炉跡）

E－10グリッドに位置している。炉のみが検出されており、住居跡の平面形・規模は不明である。炉は最大長110cm、最大幅45cmである。埋設土器及び石組部からなる複式炉である。炉長軸方向はS－40°－Wである。

33号住居跡（E－10住居後）

E－10グリッドに位置している。南側の調査区外へ広がっており、平面形・規模は不明である。

34号住居跡（F－9住居跡）

E・F－8・9グリッドに位置している。35号住居跡と重複関係にあり、35号住居跡に切られている。径5.3m程のほぼ円形である。

35号住居跡（G－8住居跡）

F・G－8グリッドに位置している。24号溝・34号住居跡と重複関係にあり、24号溝に切られ、34号住居跡を切っている。3.5m×4mの楕円形を呈する。

36号住居跡（H－9住居跡）

G・H－8・9グリッドに位置している。土壙2基（361土壙、364土壙）と重複関係にあり、土壙2基を切っている。5.2m×5.4mのほぼ円形を呈する。検出面において住居跡南西部に炉と思われる石組が確認されている。105cm×100cmの隅丸の方形を呈している。

37号住居跡（I－8住居跡）

H・I－7・8グリッドに位置している。径約4mの円形を呈する。東側に脹らみがみられる。

38号住居跡（H－7住居跡）

H－7グリッドに位置している。40号住居跡と重複関係にあり、40号住居跡に切られている。4.5m×5.3mの楕円形を呈している。

39号住居跡（I－6住居跡）

H・I－6グリッドに位置している。40号住居跡と重複関係にあり、40号住居跡を切っている。3.2m×3.3mのほぼ円形を呈する。

40号住居跡（H－6住居跡）

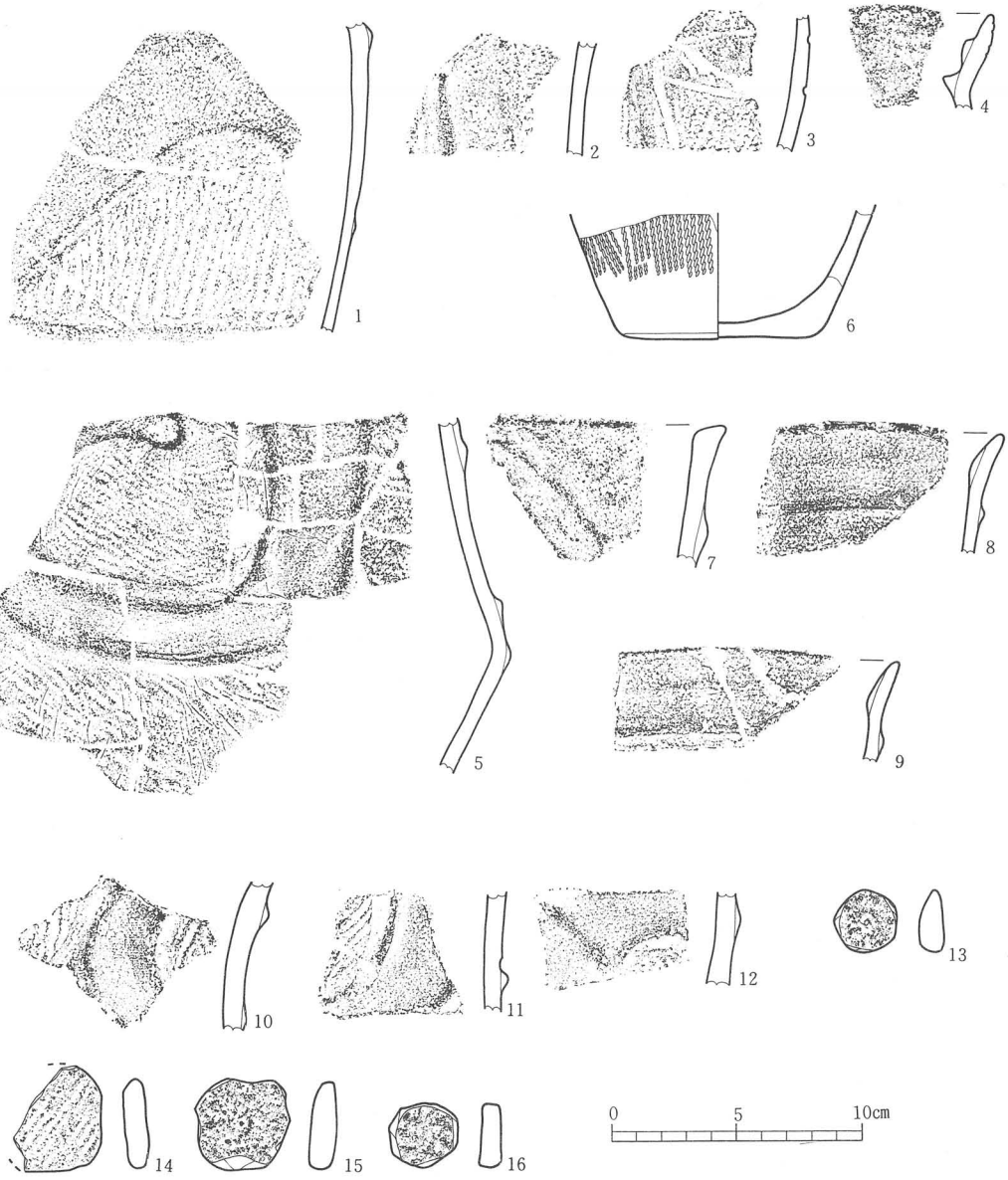
H－6グリッドに位置している。38号、39号住居跡と重複関係にあり、39号住居跡に切られ、38号住居跡を切っている。径約4mの円形を呈する。

41号住居跡（F－7住居跡）

F－6・7グリッドに位置している。南側の調査区外に広がっており、住居跡の平面形・規模は不明であるが、およそ4.5m×5.5m程の楕円形を呈すると推定される。

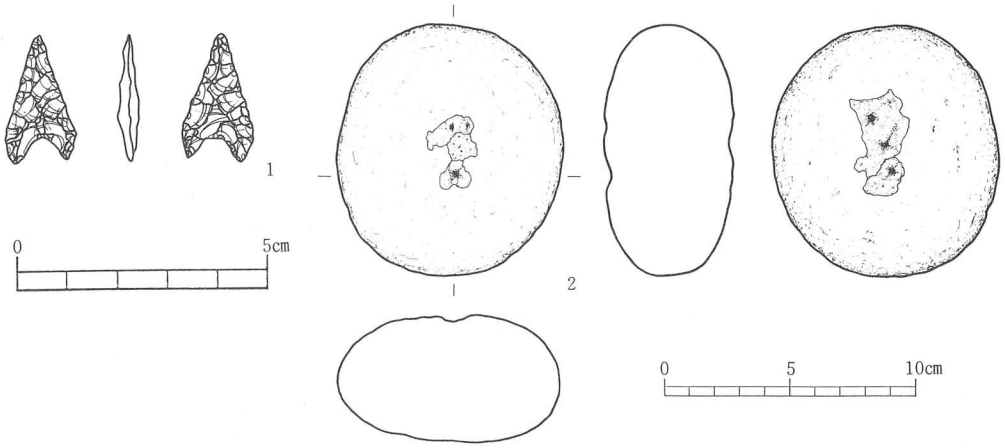
42号住居跡（H－5住居跡）

H－5グリッドに位置している。炉のみが検出されており、住居跡の平面形・規模は不明である。位置的に372号土壙との重複関係も考えられる。炉は最大長105cm、最大幅65cmである。炉長軸方向はN－0°－Wである。石組は2つの部分に分かれており、焼けた石もみられる。



No.	地区・層位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	29号住・確認面	深　鉢	隆線文・R撚糸文・磨キ	磨キ（横）	X	
2	29号住・確認面	深　鉢	隆線文・磨キ	磨キ（横）		
3	29号住・確認面	深　鉢	沈線文・RL縄文・磨キ	磨キ（横）・ナデ（縦）		
4	31号住・確認面	深　鉢	刺突文・磨キ	磨キ（横）		
5	34号住・確認面	深　鉢	隆線文・LR縄文・磨キ	磨キ（横・縦）	X6or7	
6	36号住・確認面	深　鉢	L撚糸文	磨キ（横）		底部マメツ
7	37号住・確認面	深　鉢	隆線文・磨キ	磨キ（横）	X	
8	37号住・確認面	深　鉢	隆線文・磨キ	磨キ（横）	B I	
9	37号住・確認面	深　鉢	隆線文・磨キ	磨キ（横）	B I	
10	37号住・確認面	深　鉢	隆線文・RL縄文・磨キ	磨キ（横）	X	
11	37号住・確認面	深　鉢	隆線文・沈線文・RL縄文・磨キ	磨キ（横・縦） ナデ（横）	X	
12	37号住・確認面	深　鉢	隆線文・沈線文・磨キ	磨キ（横）・ナデ（斜）	X	
13	29号住・確認面	土製円盤				
14	37号住・確認面	土製円盤				
15	37号住・——	土製円盤				
16	37号住・——	土製円盤				

第903図　西区住居跡出土土器・土製円盤



No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石 材	使 用 痕	備　考
1	石　鏃A	29号住・確認面	25.65×13.90×4.25	0.85	頁 岩		
2	礫石器	34号住・確認面	100×90×50	512.0		凹－両面	

第904図　西区住居跡出土石器

土壙・埋設土器

土壙は22基、埋設土器は３基確認されている。それぞれを一覧表で示す。埋設土器については、位置のみが明らかであるがその他、規模・掘り方等の詳細は不明である。

第46表　西　区　確　認　土　壙　一　覧　表

No	グリッド	平面形	規　模(m)	備　考
351	L－12	楕円形	2.15×2.75	
352	I－12	円形	0.85×0.85	
353	F－12	不正円形	1.15×1.25	
354	F・G－11・12	不正円形	1.8×1.8	
355	G－10・11	楕円形	1.15×1.45	
356	G－10・11	楕円形	1.5×1.95	確認面で土師器、須恵器がみられる。
357	G・H－10	円形	1.0×0.9	南・北両側に石がみられる。
358	K・L－10	楕円形	1.55×2.0	
359	P・Q－12	円形	1.1×1.1	
360	J－8	楕円形？	1.1×(1.0)	23号溝に切られる。
361	J－8	楕円形？	(0.85)×1.15	23号溝に切られる。
362	H－9	円形？	(0.9)×1.2	36号住居跡に切られる。
363	E－9	円形	0.9×0.9	
364	G・H－8	方形？	(0.6)×1.5	36号住居跡に切られる。
365	G・H－7・8	楕円形	1.9×2.2	
366	G－6	長方形	0.8×1.5	
367	G・H－5	楕円形	1.4×2.4	
368	I－6・6	円形	0.65×0.7	
369	J－5	楕円形	0.7×0.95	
370	H・I－4・5	楕円形	1.45×1.8	
371	G－4・5	不正円形	2.15×2.2	
372	H・I－3	楕円形	0.8×1.3	42号住居跡と重複関係があると思われる。

第47表　埋　設　土　器　一　覧　表

No	グリッド	規模	掘り方	備　考
6	G－8	不明	不明	
7	G－7	不明	不明	
8	G－9	不明	不明	３号遺物含層上面で検出

西区西側遺物包含層

西区の中央部から西側にかけての部分、K～T－3～11グリッドに位置する。西区北半部及び西側の調査区へ延びているため、正確な範囲・規模は不明である。試掘調査の際にも確認されているが、ローム面までの深さは不明である。

確認面での状況は、M～R－4～10グリッドにかけての部分で特に遺物が集中してみられる。

位置的には、28号住居炉跡と近接しており、重複関係も考えられるが、住居跡、遺物包含層ともに掘り込み精査を行っておらず、詳細は不明である。

溝跡

溝跡は3条確認されている。

23号溝跡

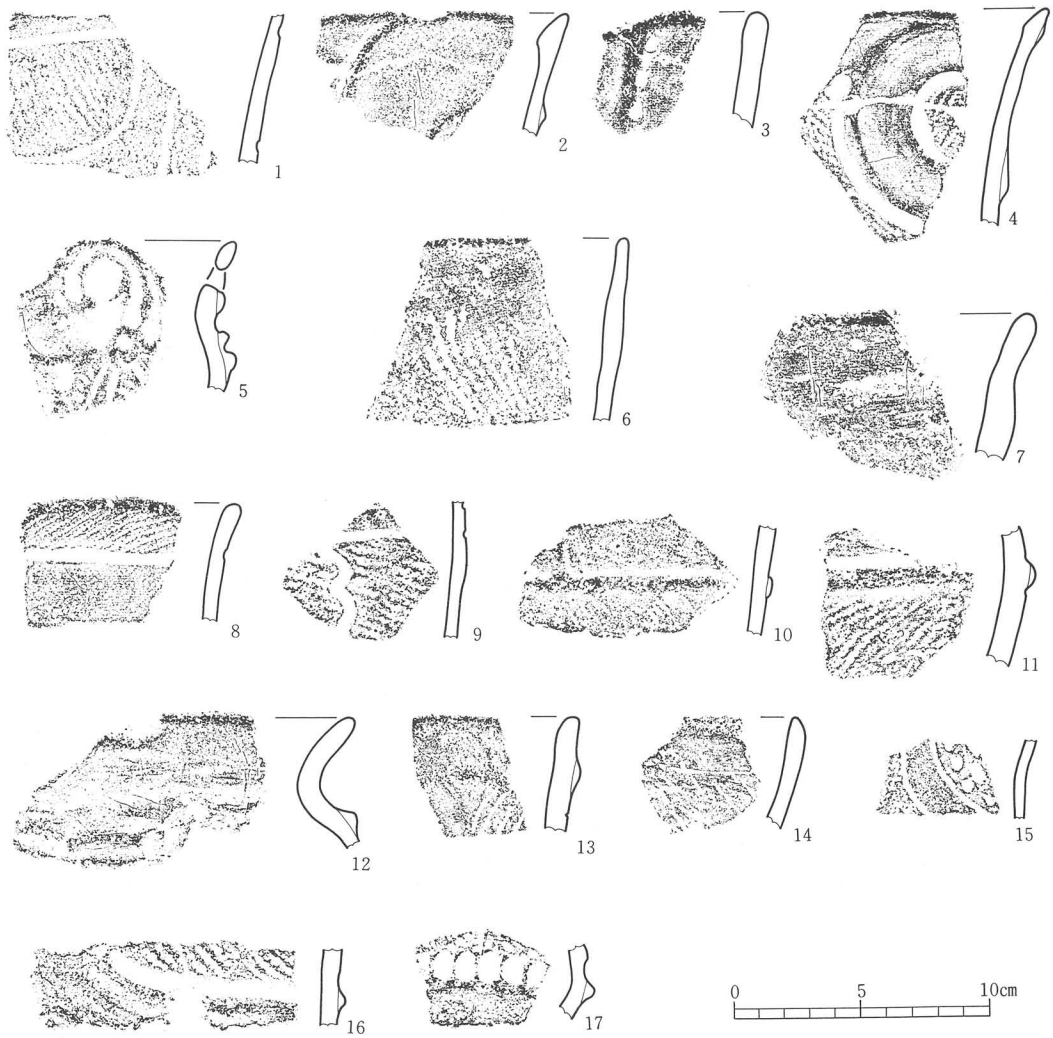
K－3グリッド～J－11グリッドにかけてはほぼ一直線に延びている。西側の調査区外へ延びているため、全容は不明である。31号住居跡、360号、361号土壙と重複関係にあり、全ての遺構を切っている。上端幅は、30cm～80cmである。方向は、ほぼW－10°－Nである。その他の詳細は不明である。

24号溝跡

G－8グリッド～F－10グリッドにかけてほぼ一直線に延びている。35号住居跡と重複関係にあり、35号住居跡を切っている。確認されている全長は、13.3mであり、上端幅は、30cm～90cmである。方向は、ほぼW－12°－Nである。その他の詳細は不明である。

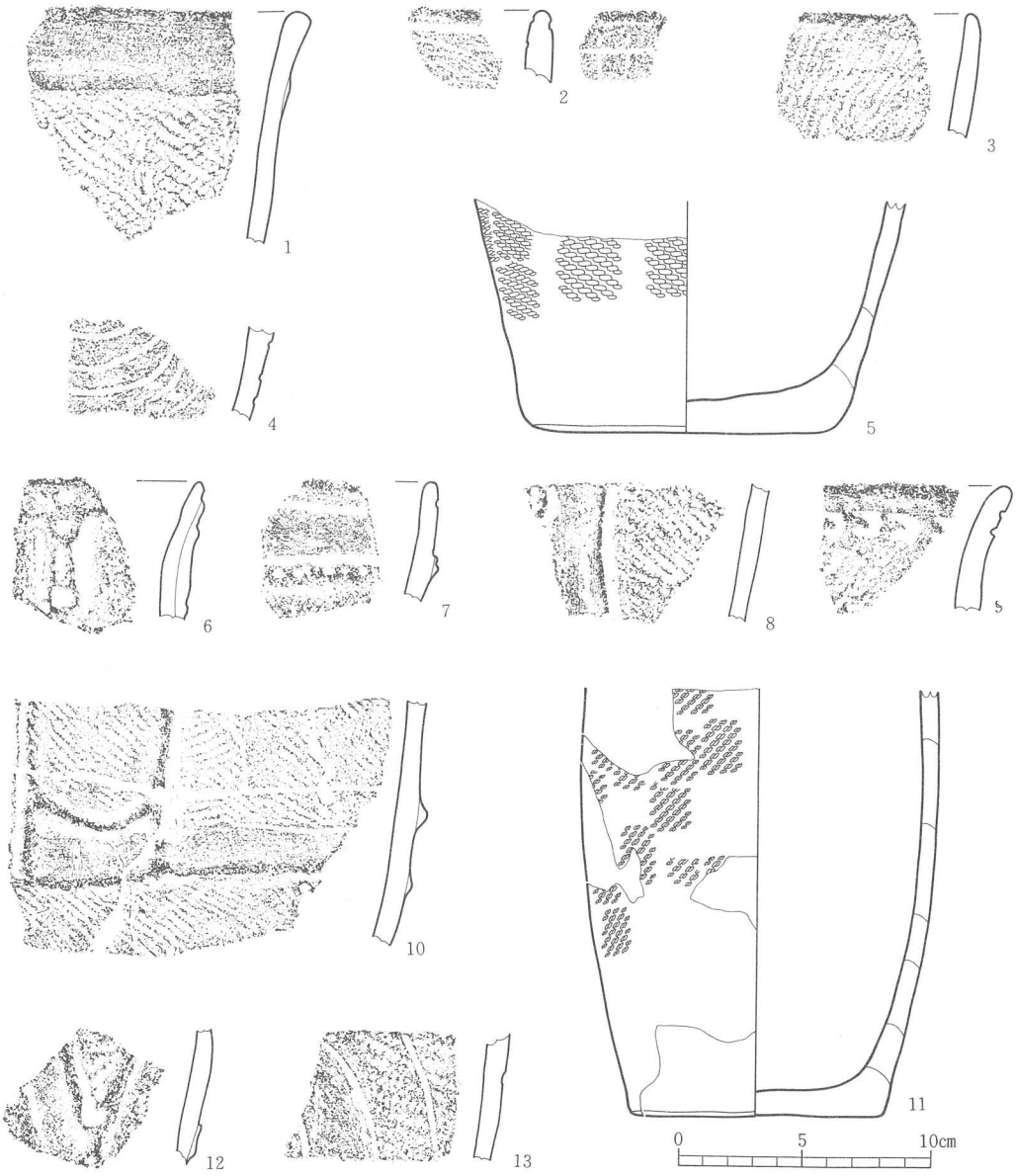
25号溝跡

G－11グリッド～H－11グリッドにかけてほぼ一直線に延びている。確認されている全長は8.9mあり、上端幅派、25cm～60cmである。方向は、ほぼN－5°－Eであるが、北側では西方向へゆるやかに弯曲している。その他の詳細は不明である。



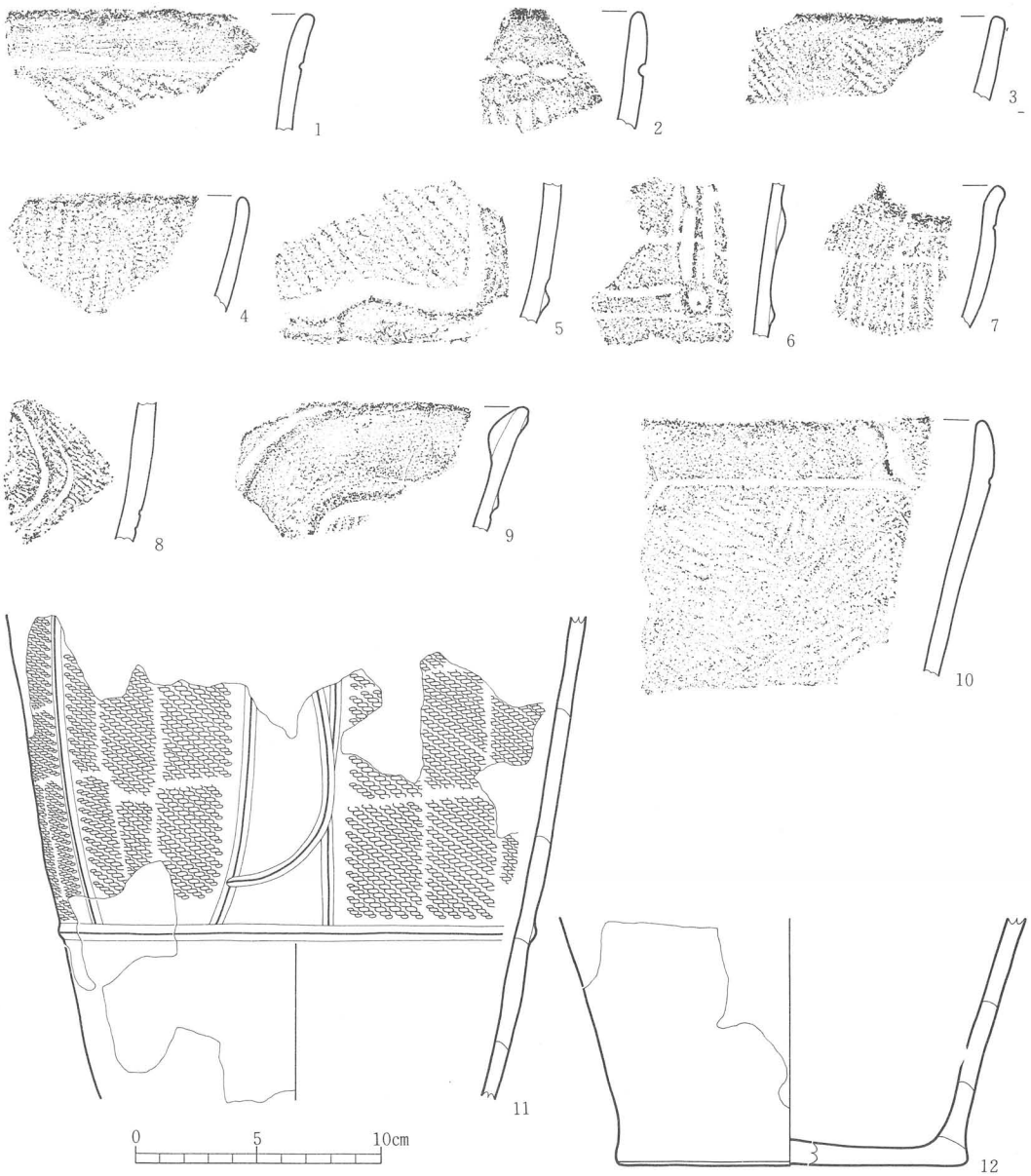
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	K－7・2層	深鉢	沈線文・L撚糸文	磨キ（横）	X	
2	K－8・——	深鉢	隆線文	マメツ	X	
3	K－8・——	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	X	
4	L－5・2層	深鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横）	X8	
5	L－5・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文	磨キ（横）	XI	
6	L－5・2層	深鉢	RL縄文	磨キ（横）	B VI	
7	L－5・2層	深鉢	磨キ	ナデ（横）	B VII	
8	L－5・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	XI	
9	L－5・2層	深鉢	沈線文・綾絡文・不明縄文	磨キ（横）	XI	
10	L－5・撹乱面	深鉢	隆線文・L撚糸文	磨キ（横）		
11	L－5・撹乱面	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	ナデ（横）		
12	L－7・2層	深鉢	隆線文	ナデ（横）	B I	
13	L－7・2層	深鉢	隆線文・沈線文	マメツ	B I	
14	L－7・2層	深鉢	沈線文・R撚糸文	磨キ（横）	B IV	
15	L－7・2層	深鉢	沈線文・刺突文	磨キ（横・斜）	X	
16	L－7・2層	深鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
17	L－7・2層	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	XI	

第905図　西区遺物包含層出土土器（1）



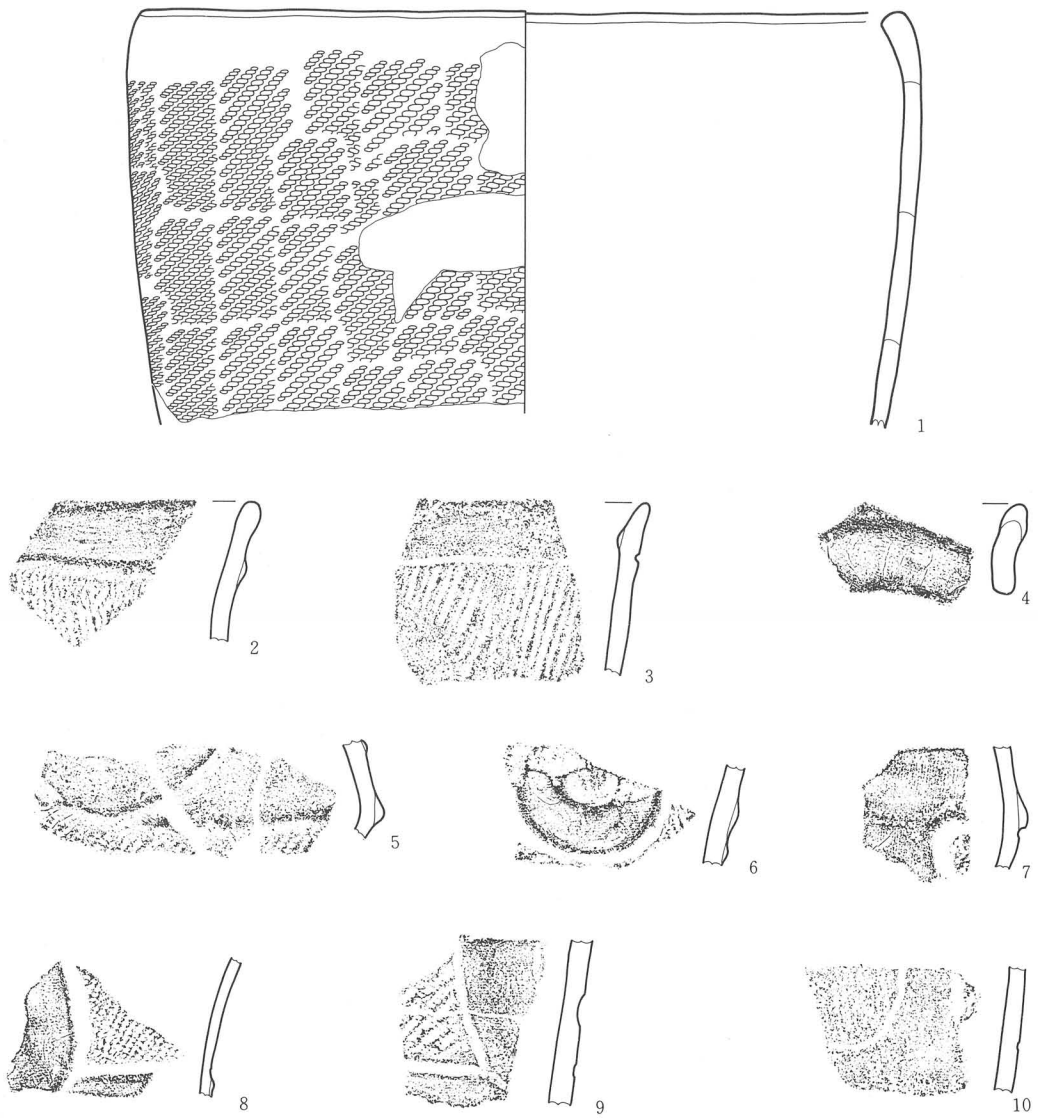
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	L－8	深鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（横・縦）	B I	
2	L－8	深鉢	沈線文	沈線文	B IV	
3	L－9・2層	深鉢	RL縄文	磨キ（横）	B VII	
4	L－9・2層	深鉢	沈線文	磨キ（縦）		
5	L－10・——	深鉢	LR縄文・磨キ	ナデ（横）		底面磨キ
6	M－4・2層	深鉢	隆線文・刺突文	磨キ（横）	XI	
7	M－5・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文	磨キ（横）	XI	
8	M－5・2層	深鉢	隆線文・LR縄文	ナデ・磨キ（縦）		
9	M－5・2層	深鉢	刺突文・LR縄文	磨キ（横）	B V	
10	M－6・2層	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）	XI	
11	M－6・2層	深鉢	RLR縄文・磨キ	磨キ（横）		底面磨キ
12	M－6・2層	深鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横）	XI	
13	M－6・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	ナデ（斜）	XI	

第906図　西区遺物包含層出土土器（2）



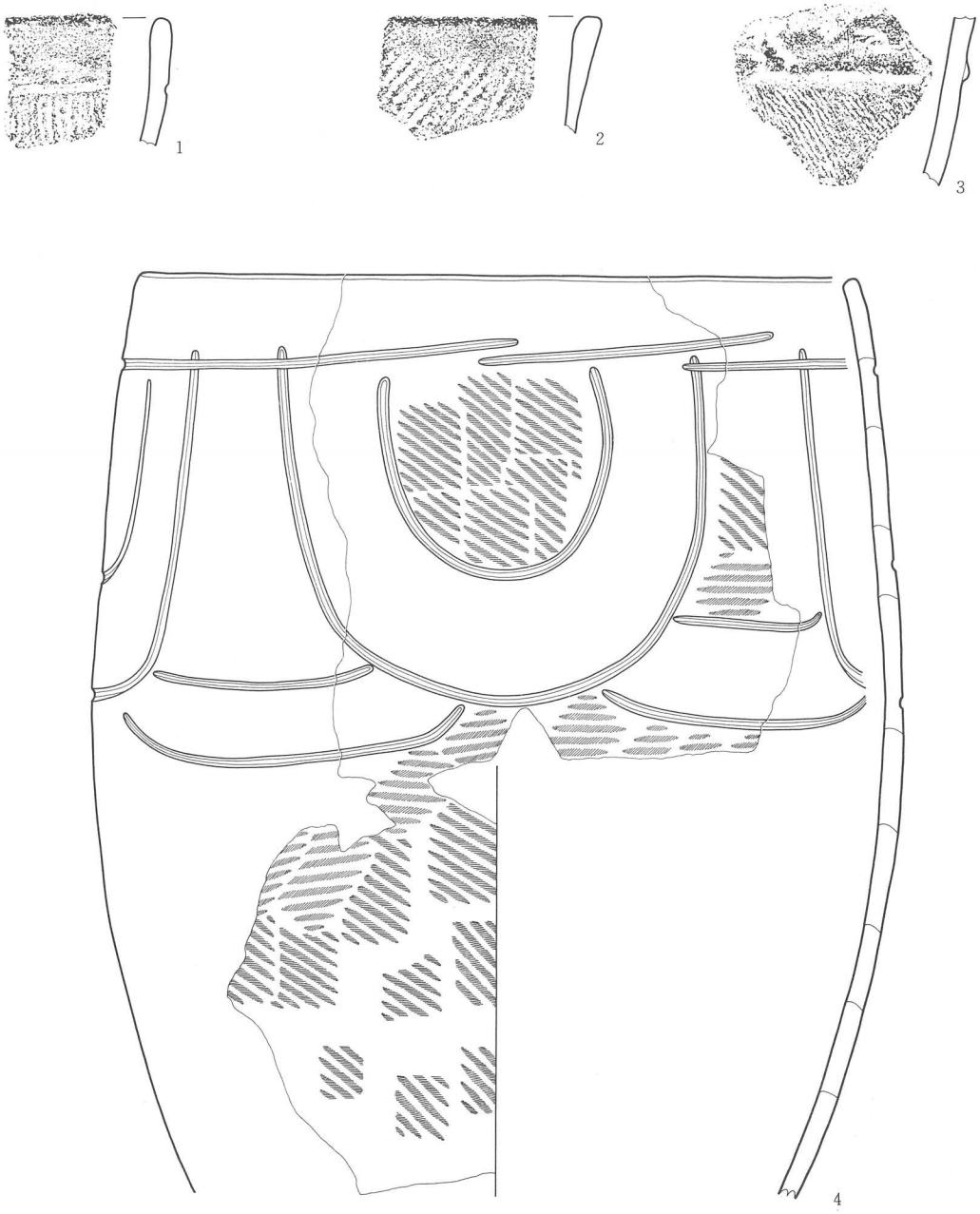
No.	地区・層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	M－7・2層	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）		B IV	
2	M－7・2層	深鉢	刺突文・R撚糸文	ナデ・磨キ（横）		B V	
3	M－7・2層	深鉢	LR縄文	磨キ（横）		B VI	
4	M－7・2層	深鉢	LR縄文	磨キ（横）		B VI	
5	M－7・2層	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（斜）		X 7	
6	M－7・2層	深鉢	隆線文・沈線文・貼付文・刺突文	磨キ（横）		XI 1	
7	M－7・包含層上面	深鉢	沈線文・R撚糸文	磨キ（横）		B IV	
8	M－7・包含層上面	深鉢	沈線文・R撚糸文	磨キ（横）		X1	
9	M－8・包含層上面	深鉢	隆線文・沈線文・R撚糸文	隆線文・磨キ（横）		X	
10	M－8・包含層上面	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	ナデ（横・斜）		X	
11	M－7・2層	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（縦）		XI1b	
12	M－7・2層	深鉢	ナデ	ナデ（横）	網代痕		

第907図　西区遺物包含層出土土器（3）



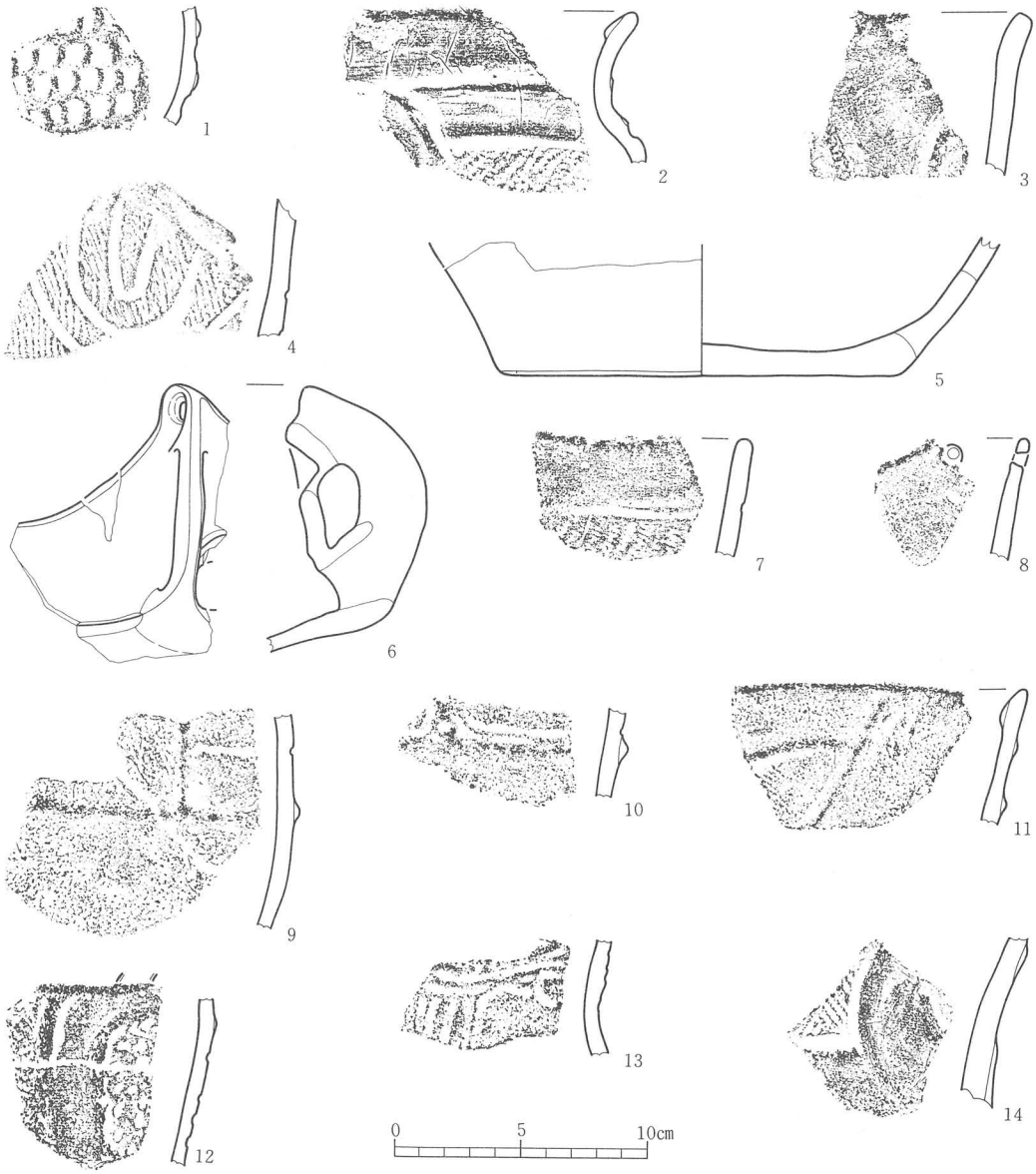
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	M－8・包含層	深鉢	RL縄文	磨キ（横）	B VI	
2	M－8・包含層上面	深鉢	隆線文・L撚糸文	磨キ（横）	B I	
3	M－8・包含層上面	深鉢	沈線文・L撚糸文	隆線文・磨キ（横）	B IV	
4	M－8・包含層上面	深鉢	隆線文	磨キ（横）		
5	M－8・包含層上面	深鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
6	M－8・包含層上面	深鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
7	M－8・包含層上面	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
8	M－8・包含層上層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
9	M－8・包含層上面	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）		
10	M－8・包含層上面	深鉢	沈線文・R撚糸文	磨キ（縦）		

第908図　西区遺物包含層出土土器（4）



No.	地区・層位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	M－9・2層	深　鉢	沈線文・R撚糸文	磨キ（横）	B IV	
2	M－9・2層	深　鉢	RL縄文	磨キ（横）	B VI	
3	M－9・2層	深　鉢	隆線文・R撚糸文	磨キ（横）		
4	M－9・包含層	深　鉢	沈線文・L縄文・磨キ	ナデ（横）	X8b	

第909図　西区遺物包含層出土土器（5）

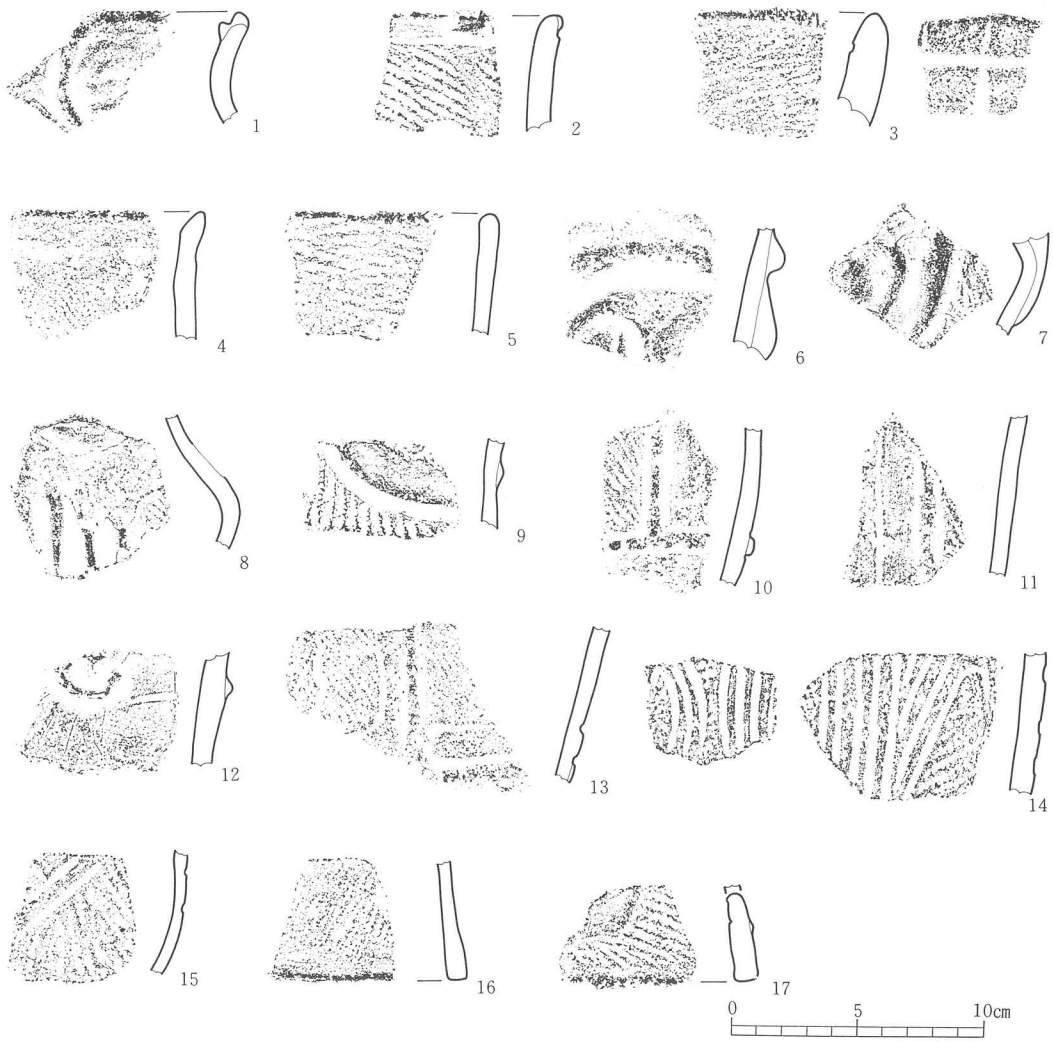


No.	地区・層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	M－9・2層	深鉢	刺突文	磨キ（横）		XI 7	
2	M－9・包含層上面	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	隆線文・磨キ（横）		X	
3	N－5・2層	深鉢	隆線文	ナデ・磨キ（横・斜）		X	
4	N－5・2層	深鉢	沈線文・R撚糸	磨キ（横）		XI	
5	N－5・2層	深鉢	磨キ	ナデ（横）	網代痕		
6	N－7・2層	——	隆線文・磨キ	磨キ（横）		XI	
7	N－7・2層	深鉢	沈線文・RL縄文	磨キ（横）		B IV	
8	N－7・2層	深鉢	沈線文	磨キ（横）		B VII	
9	N－7・2層	深鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横）		XI	
10	N－7・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文	磨キ（横）		XI	
11	N－8・2層	深鉢	隆線文・R撚糸文	隆線文・磨キ（横）		X 6or7	
12	N－8・2層	深鉢	隆線文・刺突文・LR縄文	磨キ（横）		X	
13	N－8・2層	深鉢	沈線文・L撚糸文	ナデ・磨キ（横）		XI	
14	N－9・包含層上面	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横・縦）		X	

第910図　西区遺物包含層出土土器（6）

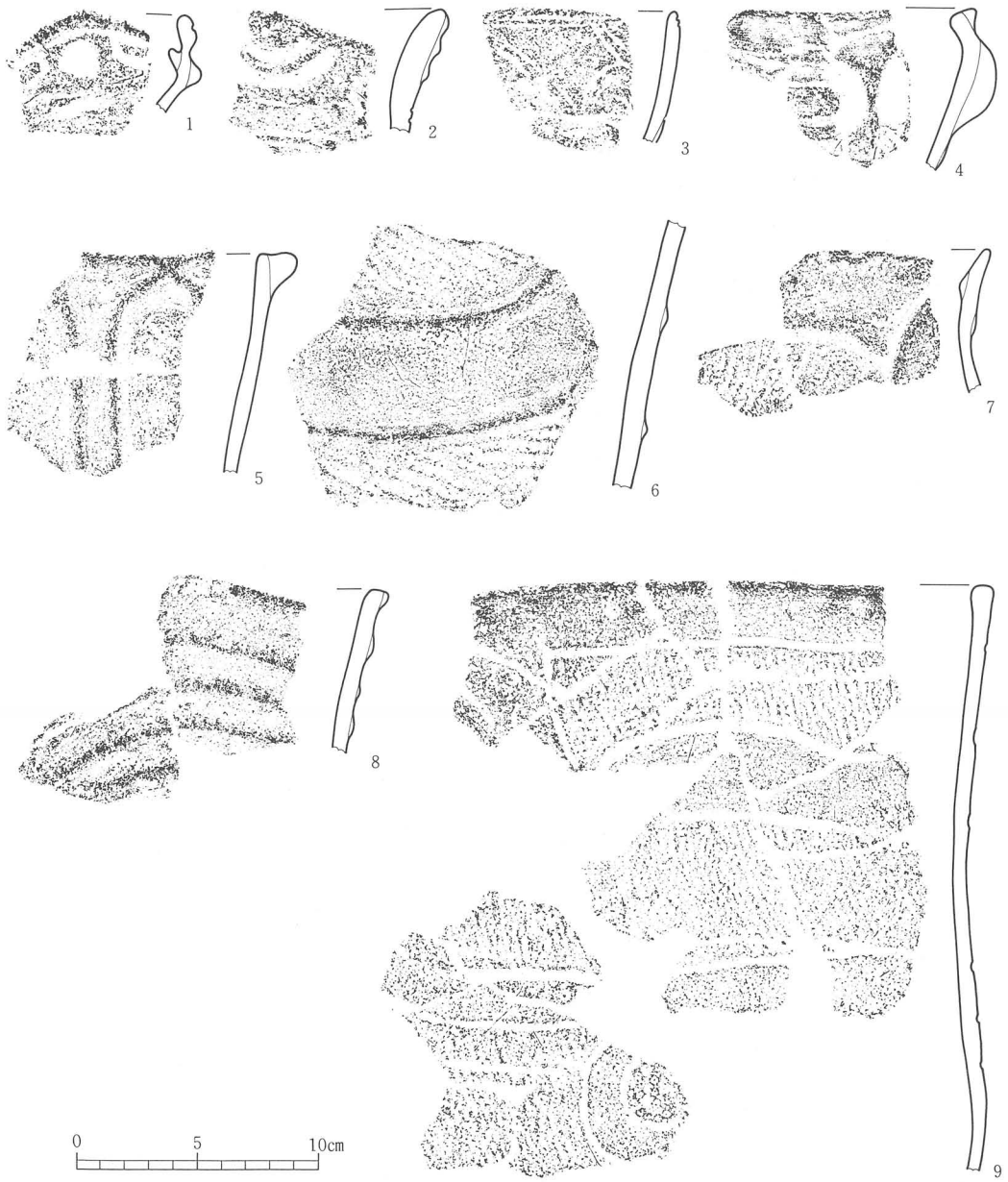
No.	地区・層位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	P－6・2層	深　鉢	隆線文・刺突文	隆線文・刺突文・磨キ（横）	XI	
2	P－7・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）		
3	P－7・2層	深　鉢	隆線文・刺突文	マメツ	XI	
4	P－8・2層	深　鉢	隆線文・刺突文・刻目文	磨キ（横）	VII	
5	P－8・2層	深　鉢	隆線文	磨キ（横）	X	
6	P－9・2層	深　鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
7	P－9・2層	深　鉢	隆線文・LR縄文	ナデ・磨キ（横）	X	
8	P－9・2層	深　鉢	隆線文・R撚糸文	磨キ（横）	XI	
9	P－9・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・刺突文	ナデ・磨キ（横）	XI	
10	P－9・2層	深　鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
11	Q－5・2層	深　鉢	沈線文・R撚糸文	磨キ（横）	XI	
12	Q－9・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・L縄文	磨キ（横）	B I	
13	Q－9・2層	深　鉢	隆線文・刺突文・刻目文	ナデ（横・斜）	XI	
14	Q－9・2層	深　鉢	削り・磨キ	磨キ（横）	B VII	
15	Q－9・2層	深　鉢	沈線文	磨キ（横）	XI	

第911図　西区遺物包含層出土土器（7）



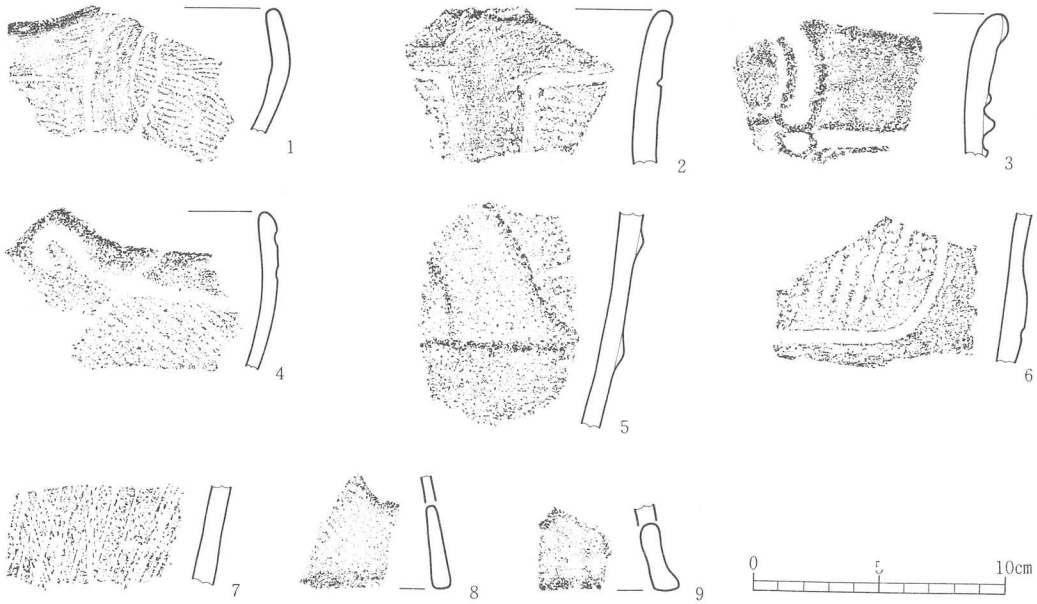
No.	地区・層位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	Q－5・2層	深　鉢	隆線文・沈線文	隆線文・磨キ（横）	XI	
2	Q－9・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・L縄文	磨キ（横）	B IV	
3	Q－9・2層	深　鉢	L縄文	沈線文	B VI	
4	Q－9・2層	深　鉢	L撚糸文	ナデ（横）	B VI	
5	Q－9・2層	深　鉢	L縄文	磨キ（横）	B VI	
6	Q－9・2層	深　鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横）	IXorX	
7	Q－9・2層	深　鉢	隆線文・RL縄文	磨キ（横）	X	
8	Q－9・2層	深　鉢	隆線文・RL縄文	ナデ・磨キ（横）	IX	
9	Q－9・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）		
10	Q－9・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）	XI	
11	Q－9・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）	XI	
12	Q－9・2層	深　鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横）	XI	
13	Q－9・2層	深　鉢	隆線文・沈線文・綾絡文・LR縄文	磨キ（横）	XI	
14	Q－9・2層	深　鉢	沈線文・RL縄文	ナデ（斜）・磨キ（横）	XI 6	
15	Q－9・2層	深　鉢	沈線文・R撚糸文	磨キ（横）	XI	
16	Q－9・2層	台 or 脚	RLR縄文	磨キ（横）		
17	Q－9・2層	台 or 脚	隆線文・LR縄文	磨キ（横）		

第912図　西区遺物包含層出土土器（8）



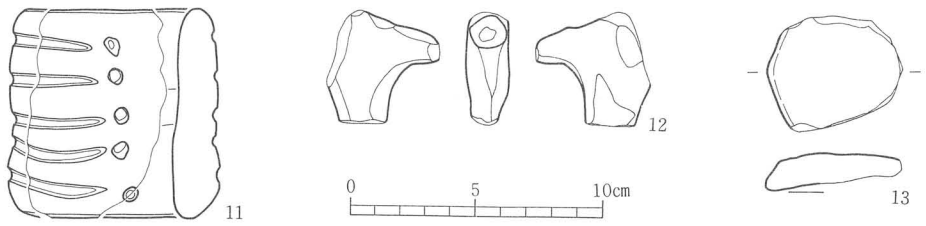
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	R－5・2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文	隆線文・刺突文・磨キ（横）		
2	R－6・2層	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）	VI	
3	R－6・2層	深鉢	沈線紋・RL縄文	磨キ（横）	VII	
4	R－9・2層	深鉢	隆線文・沈線文・RL縄文	磨キ（横）	X2	
5	R－10・2層	深鉢	隆線文・LR縄文	不明	X	
6	R－10・2層	深鉢	隆線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
7	西区・包含層上面	深鉢	隆線文・LR縄文	隆線文・磨キ（横）	X	
8	西区・包含層上面	深鉢	隆線文	不明	X	
9	西区・包含層上面	深鉢	沈線文・L撚糸文	磨キ（横）	X	

第913図　西区遺物包含層出土土器（9）



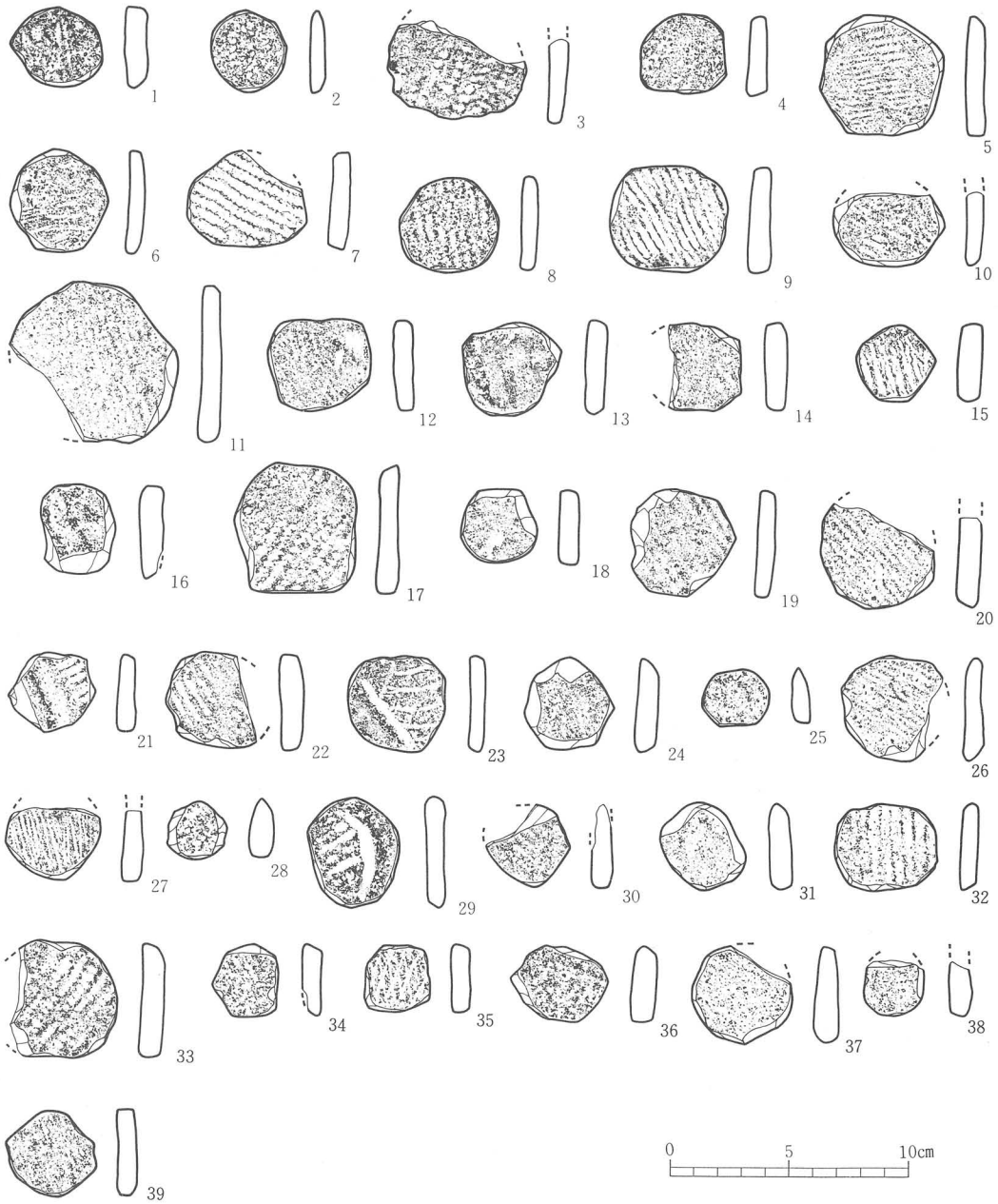
No.	地区・層位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	西区・包含層上面	深　鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
2	西区・包含層上面	深　鉢	沈線文・RL縄文	ナデ（横）	X	
3	西区・包含層	深　鉢	隆線文・沈線文・刺突文	磨キ（横）	XI 5	
4	西区・包含層上面	深　鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	XI	
5	西区・包含層上面	深　鉢	隆線文・沈線文	磨キ（横）	X	
6	西区・包含層上面	深　鉢	沈線文・RL縄文	ナデ・磨キ（横）	X	
7	西区・包含層上面	深　鉢	沈線文・条線文	磨キ（斜）		
8	西区・包含層上面	台 or 脚	LR縄文	磨キ（横）		
9	西区・包含層上面	台 or 脚	磨　キ	磨キ（横）		

No.	地区・層位	器　形	外　面	内　面	底　部	分類	備　考
10	Q－9・2層	ミニチュア	条線文・ナデ	ナ　デ	ナ　デ		



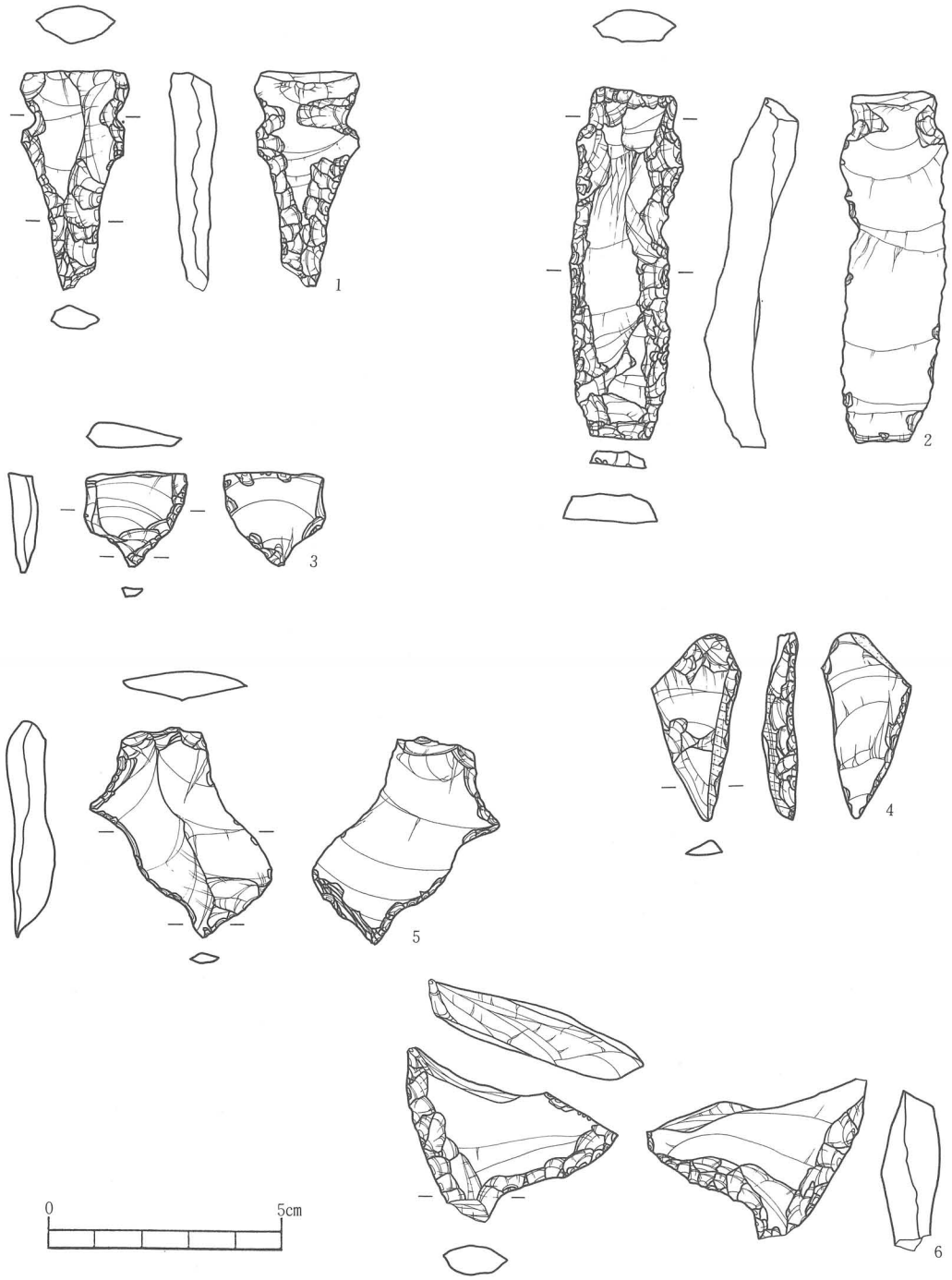
No.	地区・層位	種　類	No.	地区・層位	種　類	No.	地区・層位	種　類
11	M－5・包含層	腕　輪	12	P－9・2層	土　偶	13	Q－9・2層	蓋

第914図　西区遺物包含層出土土器（9）・土製品



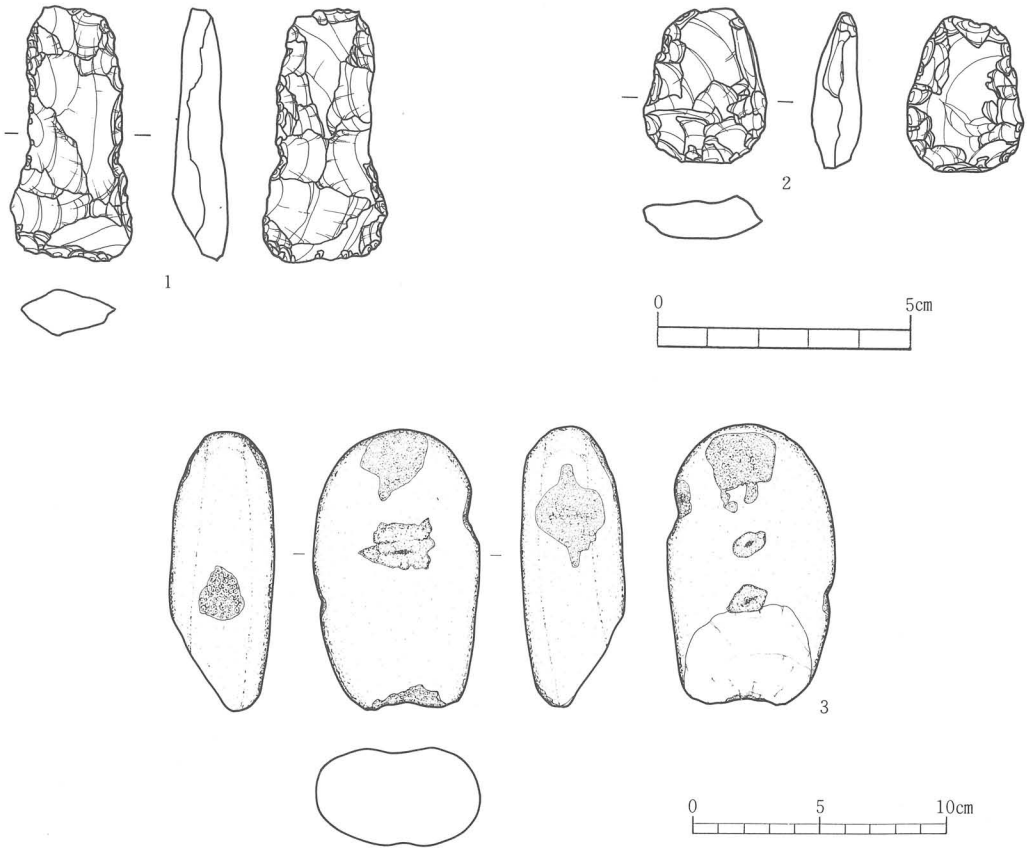
No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位
1	F－8・——	8	L－8・包含層	15	M－6・2層	22	M－9・2層	29	P－7・——	36	Q－9・2層
2	F－8東・——	9	L－10・包含層	16	M－6・2層	23	M－9・2層	30	P－7・2層	37	R－10・2層
3	J－8・1層	10	M－4・2層	17	M－7・2層	24	M－9・2層	31	P－7・2層	38	Q・R－3・2層
4	K－5・2層	11	M－4・2層	18	M－7・2層	25	P－6・——	32	P－8・——	39	西区・1～2層
5	L－5・2層	12	M－5・2層	19	M－7・2層	26	P－6・2層	33	Q－6・——		
6	L－7・2層	13	M－5・2層	20	M－7・包含層上面	27	P－6・2層	34	Q－9・2層		
7	L－8・包含層上面	14	M－6・2層	21	M－9・2層	28	P－7・——	35	Q－9・2層		

第915図　西区遺物包含層出土土製円盤



No.	種別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	石匙	L－10・包含層	47.25×23.10×8.60	6.75	頁岩		
2	石匙	西区・包含層	76.05×23.25×12.65	20.75	頁岩		
3	石錐	M－5・2層	20.85×21.50×5.60	2.60	頁岩		
4	石錐	P－8	40.30×18.65×7.35	4.30	頁岩		
5	石錐	R－10	45.75×38.50×9.40	9.50	頁岩		
6	石錐	西区・包含層	(36.90)×(45.40)×(12.70)	12.45	頁岩		

第916図　西区遺物包含層出土石器（1）

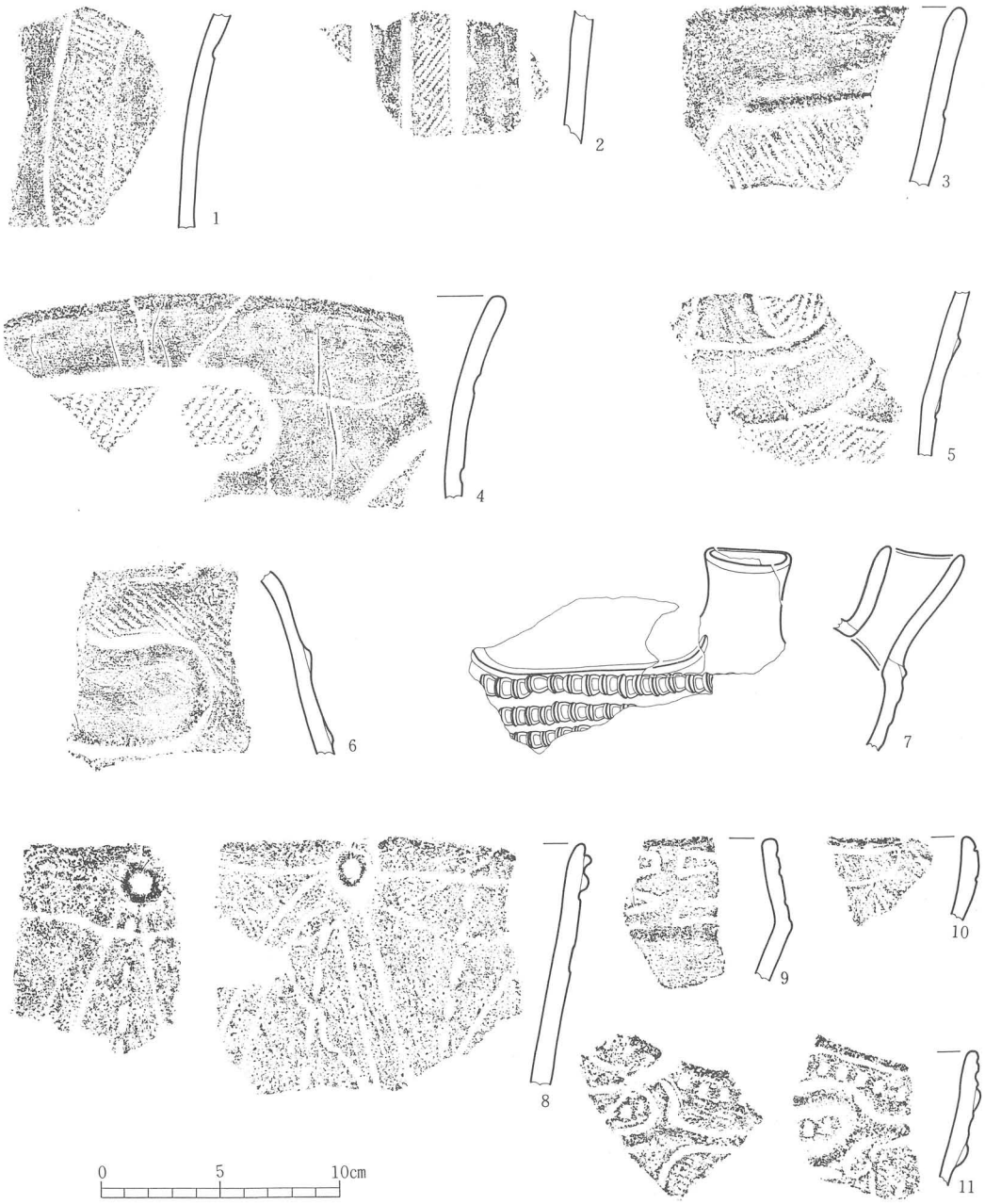


No	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使　用　痕	備　考
1	篦状石器	N－8・2層	50.80×24.60×10.40	12.45			
2	篦状石器	O－7・包含層	31.20×23.85×9.95	7.35			
3	礫石器	西区・包含層	(111)×65×41	437.5		凹－両面、敲－両面、一端、両側面	

第917図　西区遺物包含層出土石器（2）

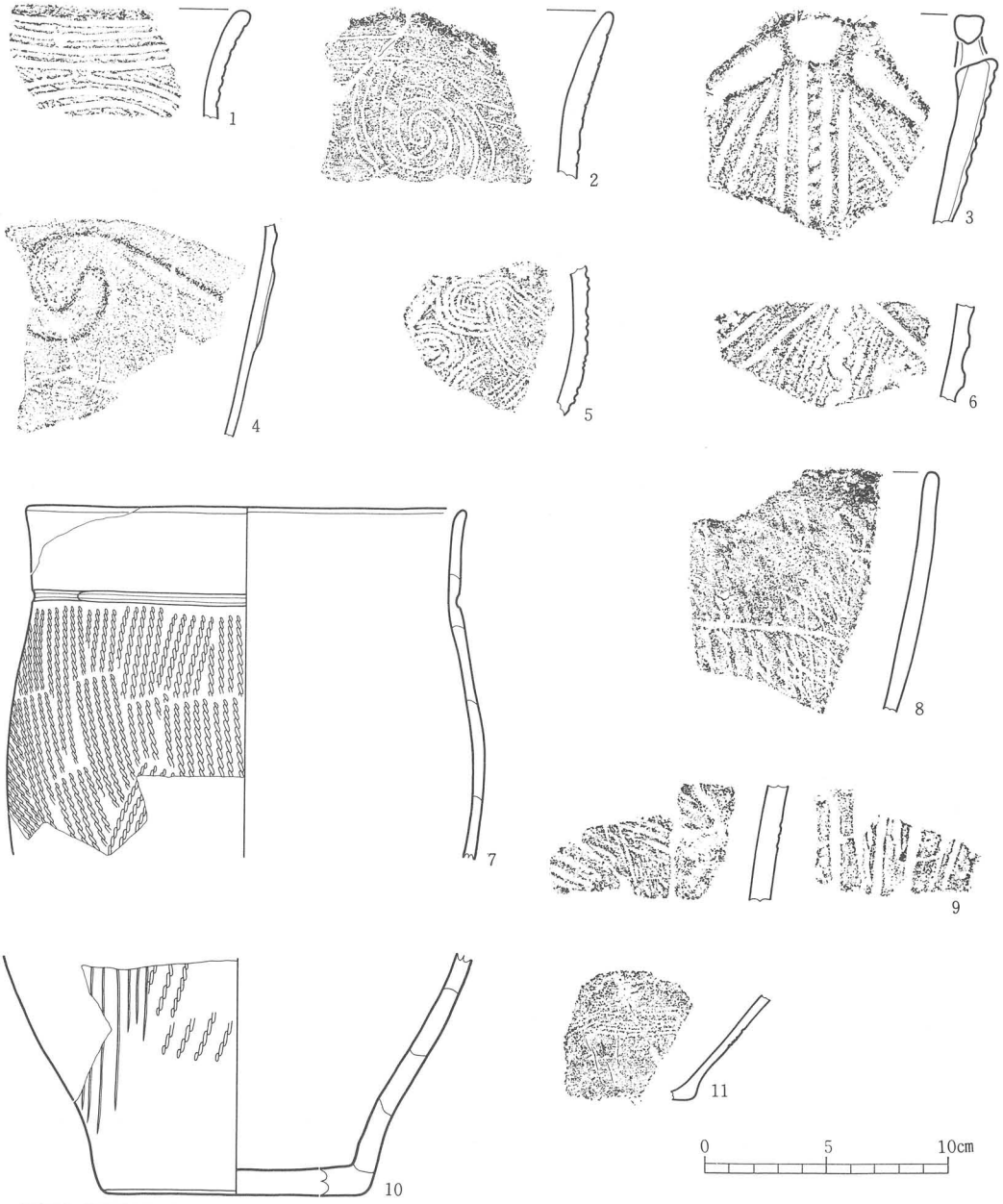
西区遺構外出土遺物

西区出土遺物のうち、住居跡及び遺物包含層の確認面出土の遺物以外の、表土層及び遺構確認作業中に遺構範囲外から出土した遺物を取り扱う。また、記録の不備により出土位置が明らかでなかったもの、西区内での表面採集及び排土中より採取された縄文時代の遺物を表採遺物として取り扱った。



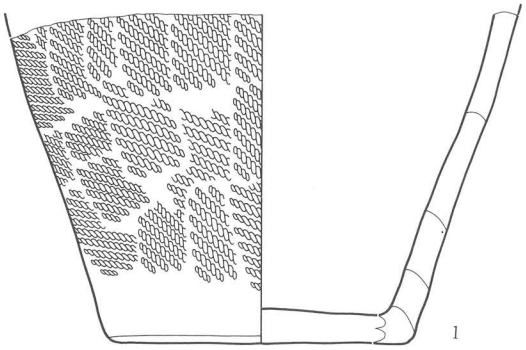
No.	地区・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	GH－3～5・表土	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	IXorX	
2	V・W－11	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	IX	
3	H－10・ローム上面	深鉢	隆線文・沈線文・L撚糸文	磨キ（横）	X	
4	J－5・表土	深鉢	沈線文・RL縄文	ナデ（横）	X	
5	西区表土	深鉢	隆線文・沈線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
6	GH－3～5・表土	深鉢	沈線文・LR縄文	磨キ（横）	X	
7	M－40・1層	深鉢(注口)	隆線文・連続刺突文・ナデ	ナデ（横）	XI	
8	西区表土	深鉢	沈線文・刺突文・貼付文	磨キ（横）	XI	
9	J－8・1層	深鉢	沈線文	磨キ（横）	XI	
10	J－8・1層	深鉢	沈線文・L撚糸文	磨キ（横）	XI	
11	西区1～2層	深鉢	隆線文・沈線文・刺突文・LR縄文	磨キ（横）	XI	

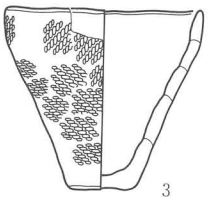
第918図　西区遺構外出土土器（1）

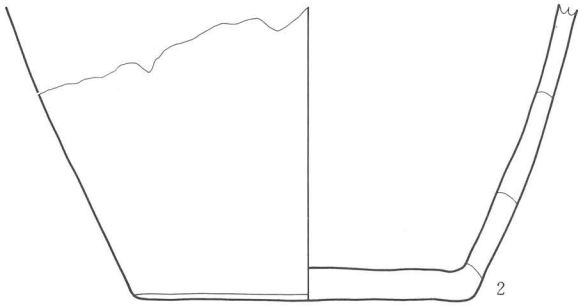


No.	地区・層位	器　形	外　面	内　面	底　部	分類	備　考
1	J－8・1層	深　鉢	沈線文	磨キ（横）		XI	
2	J－8・1層	深　鉢	沈線文	磨キ（横）		XI	
3	H－10・ローム上面	深　鉢	隆線文・沈線文・刺突文・刻目文・RL縄文	磨キ（横）		XI	
4	西区表土	深　鉢	沈線文・不明縄文	マメツ		X	
5	西区表土	深　鉢	条線文	磨キ（横）			
6	西区・1～2層	深　鉢	沈線文・綾絡文・LR縄文	ナデ（横）		XI1a	
7	西区表土	深　鉢	隆線文・R撚糸文	マメツ		B IV	
8	西区表土	深　鉢	R撚糸文	磨キ（横・縦）			
9	J－8・1層	深　鉢	条線文・LR縄文	沈線文・磨キ（縦）			
10	M－40・1層	深　鉢	条線文・R撚糸文・磨キ・削り	ケズリ（縦）	ケズリ		
11	J－8・1層	深　鉢	沈線文	磨キ（横）			

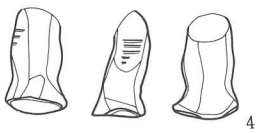
第919図　西区遺構外出土土器（2）

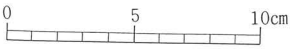




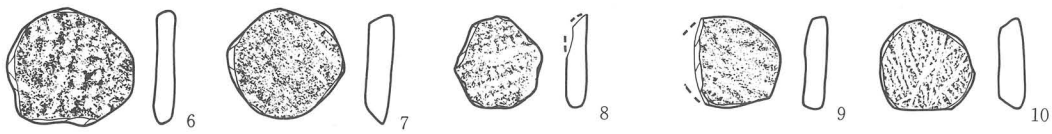


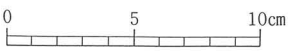
No.	地区・層位	器　形	外　面	内　面	底　部	分類	備　考
1	J－9・——	深　鉢	RL縄文・磨キ	削り（縦）	網代痕		
2	J－8・——	ミニチュア	LR縄文・磨キ	ナデ（横）	磨　キ		
3	K－16・埋設	深　鉢	磨　キ	磨キ（縦）	不　明		





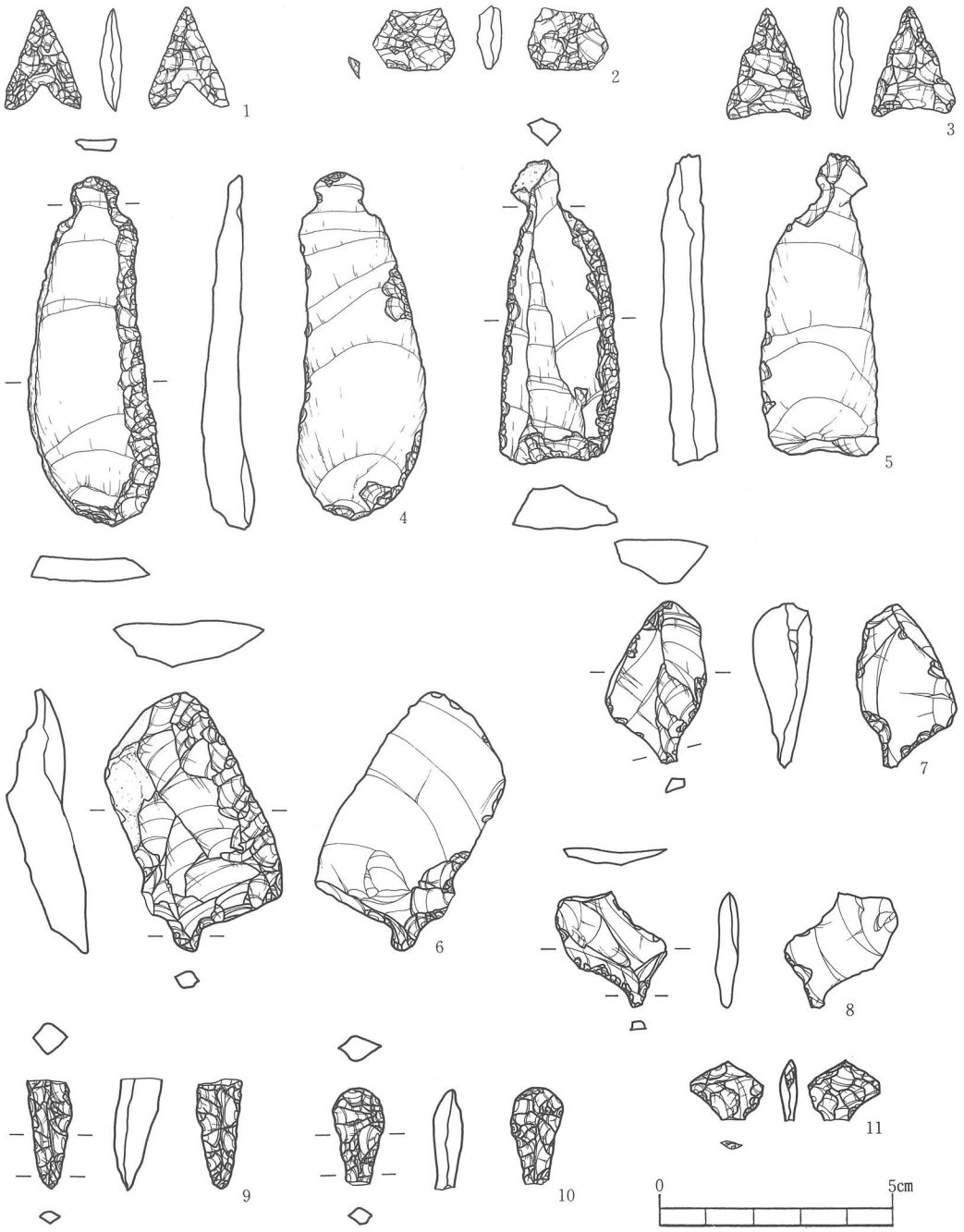
No.	地区・層位	種　類	No.	地区・層位	種　類
4	I－7・表土	土　偶	5	L－5・土壙	蓋





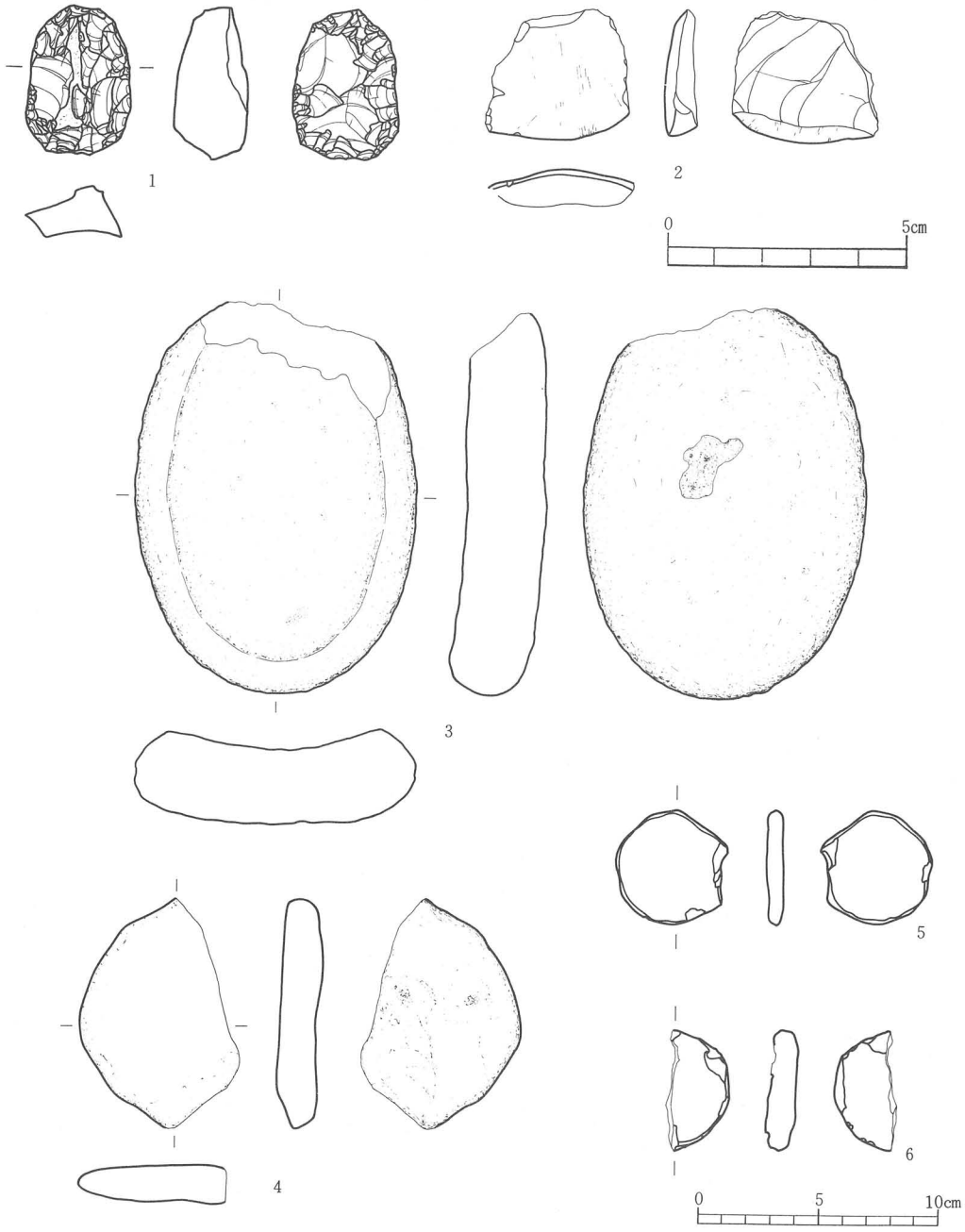
No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位	No.	地区・層位
6	J－8・1層	7	J－8・1層	8	J－8・1層	9	I－9・表土	10	J－8・1層	11	J－8・1層	12	H－8・2層

第920図　西区遺構外出土土器（3）・土製品



No.	種別	地区・層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	石鏃A	K－12	21.60×16.30×4.50	0.95	頁岩		
2	石鏃A	J－8・1層	(13.50)×(17.40)×5.20	0.95	黒曜石		
3	石鏃A	西区・表土	23.70×17.50×3.70	1.20	黒曜石		
4	石匙	L－12・表土	75.25×28.65×9.35	15.65	頁岩		
5	石匙	P－6	65.45×25.30×9.70	17.85	頁岩		
6	石錐	G－14・表土	56.60×37.60×12.50	20.50	頁岩		
7	石錐	西区・表採	35.10×21.35×12.05	6.30			
8	石錐	西区・表採	25.25×24.30×4.35	1.65			
9	石錐	西区・表土	(23.55)×(9.85)×(8.70)	2.00	頁岩		
10	石錐	西区・表採	(21.25)×10.95×6.45	1.40	頁岩		
11	石錐	西区・表採	(12.80)×15.25×3.65	0.60	黒曜石		

第921図　西区遺構外出土石器（1）



No.	種　別	地区・層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	使　用　痕	備　考
1	篦状石器	西区・表採	31.85×22.35×15.20	8.60			
2	磨製石斧	Q－6	(27.75)×(30.25)×(6.85)	7.5			
3	石　皿	Q－6	(166)×118×42	989.5		凹－片面、磨－片面	
4	砥　石	M－5・2層					
5	石製円盤	J－8・1層		11.55			
6	石製円盤	Q－5		19.30			焼けている。

第922図　西区遺構外出土石器（2）

9．縄文時代の遺構と遺物について

今回の調査で検出された遺構と遺物についてまとめる。なお、早期の土器群については、本項で一括して記載する。

土器の分類基準

今回の山田上ノ台遺跡の調査で出土した縄文土器の分類に際しては、文様や胎土の特徴から時期区分の判別が可能なものをA群とし、地文のみが施文されているものをB群、摩滅等により詳細の不明なものをC群として取り扱った。A群土器に関しては、さらに時期区分としての「群」を第Ⅰ～第XIV群まで設定した。これらの各群は、器形、文様等から細分した。また、B群土器は、口縁部資料について、口縁部の区画線の有無及びその種類によって分類した。

第Ⅰ群土器

早期前葉に位置付けられる押型文土器である。

第II群土器

早期中葉に位置付けられる貝殻・沈線文系土器群である。さらに文様の種類により次のように細分化される。

第1類：貝殻刺突文、沈線文、「く」字状連続刺突文のもの。

第2類：沈線文、「く」字状連続刺突文のもの。

第3類：貝殻刺突文、沈線文のもの。

第III群土器

早期後葉に位置付けられる条痕文系土器群である。胎土に少量の植物繊維が含まれている。外面の文様の種類により次のように細分される。

第1類：刺突文をもつもの。　**第2類**：隆線文をもつもの。

第3類：沈線文をもつもの。　**第4類**：条痕文のみのもの。

第IV群土器

早期末葉に位置付けられる縄文・条痕文系土器群である。胎土に多量の植物繊維が含まれている。内外面の文様から次のように細分される。

第1類：外面縄文、内面条文のもの。　**第2類**：外面縄文、内面無文のもの。

第Ⅴ群土器

前期中葉から末葉に位置付けられる土器群である。半截竹管状の施文具による平行沈線文と鋸歯文を特徴とする。

第VI群土器

前葉末葉に位置付けられる土器群である。細い隆線文が施文され、その上に半截竹管による細かな刻目文が施されているものもみられる。

第Ⅶ群土器

中期前葉に位置付けられる土器群である。器形より次のように細分される。

A類：体部に膨らみがみられるもの。

B類：体部に直線的で膨らみがみられないもの。

A－1類：体部が球形に膨らみ、頸部で「く」字状に屈曲し、口縁部が外傾するもの。

A－2類：体部に緩やかな膨らみがみられるもの。頸部が「く」字状に屈曲し、口縁部が外傾するものと、頸部の屈曲が緩やかで、口縁部が直立気味のものがある。

A－3類：口縁部のみが残存し、頸部の屈曲から体部が膨らむ器形になると考えられるもの。

B－1類：体部に膨らみがなく、直立の円筒形を呈している。頸部で「く」字状に屈曲し、口縁部が内弯気味に外傾するもの、頸部で屈曲せず、口縁部が直立するものがある。

B－2類：体部が直線的に外傾し、頸部でゆるく「く」字状に屈曲し、口縁部が内弯気味に外傾するもの。

これらはさらに口縁部の文様によって細分される。

（省略）

第Ⅷ群土器

中期中葉に位置付けられる土器群である。キャリパー形の器形を呈し、隆沈文による渦巻文を特徴とする。

第Ⅸ群土器

中期後葉に位置付けられる土器群である。隆線文あるいは沈線文による「∩」文あるいは楕円文を特徴とする。

第Ⅹ群土器

中期末葉に位置付けられる土器群である。深鉢、浅鉢及び壺形土器がある。文様の種類によって細分される。

深鉢

第1類：「J」字状文のもの。さらに体部中央部の文様の有無、種類によって細分される。

1a類　「J」字状文のみのもの。

1b類　「J」字状文及び体部中央部に横位の区画線をもつもの。

1c類　「J」字状文及び体部中央部の曲線文をものもの。

第2類：横位楕円文のもの。

第3類：「C」字状文のもの。

第4類：「∞」字状文（横位「S」字状文）

第5類：「S」字状文のもの。「S」字状文の連結の種類によって細分される。

5 a類　横流れの「S」字状文の先端、末端の連結したもの。

5 b類　連結「S」字状文のもの。

5 c類　変形「S」字状文のもの。

第6類：「ʃ」状文のもの。

第7類：「コ」字状文のもの。

第8類：縦位楕円文のもの。さらに文様の形態によって細分される。

8 a類　縦位楕円文が沈線文による区画内部に施文されるもの。

8 b類　縦位楕円文が「U」字状文に変化したもの。

第9類：「○」字状文のもの。口縁部から頸部の隆線文に沿って連続刺突文が施されている。

第10類：方形区画文のもの。

浅鉢

体部中央部に横位の隆線文が施文され、上位に楕円文が施文されている。

壺形土器

「J」字状文のもの、楕円文のもの、「U」字状文のものがある。

第XI群土器

後期初頭から前葉に位置付けられる土器群である。深鉢、浅鉢及び注口土器、壺形土器がある。文様の種類によって細分される。

第1類：方形区画文のもの。さらに方形区画内部の文様の種類によって細分される。

1 a類　平行沈線文による文様が施文されるもの。

1 b類　隆線文による縦位の連続「S」字状文とそれを挟む縦位の平行隆線文によるもの。

第2類：頸部の横位沈線文と刺突文（盲孔）、円形貼付文部分から弧状文、蕨手文が下垂するもの。

第3類：縦位の連続「S」字状文のもの。さらに連続「S」字状文以外の文様によって細分される。

3 a類　縦位の連続「S」字状（ジグザグ）文のみのもの。

3 b類　縦位の連続「S」字状文を挟む形で弧状沈線文が下垂するもの。

第4類：口縁部の隆線文による下垂文が施文されるもの。

第5類：口縁部から頸部に縦位の橋状把手がつくもの。

第6類：多条化した沈線文が下垂するもの。

第7類：粘土を一方に盛り上げる刺突文による連続刺突文のもの。

浅鉢

1点のみが確認されている。縦位の隆線文による区画内に沈線文による文様が施文される。

注口土器

深鉢形のものと壺形のものがある。深鉢形のものは頸部より上位に無文帯となっている。壺形のものは沈線文によって横位に続連した渦巻文が施文されている。

壺形土器

頸部に橋状把手が付されているものである。体部文様は多条沈線文による渦巻文とそれらを連結する文様のものである。

第XII群土器

後期中葉に位置付けられる土器群である。細かい刻目文が施された隆線文を特徴とする。

第XIII群土器

後期後葉に位置付けられる土器群である。平行沈線文とその間に貼り瘤が付けられている。

第XIV群土器

所属時期が明確にできなかった土器群である。

B群土器

地文のみが施文されている土器群である。破片資料中にはA群土器の一部である破片が含まれている可能性もあるが、明確でないものは全てこの中に含めた。頸部の区画線文の有無と種類によって細分される。頸部の区画線の上位は無文帯、下位は地文のみが施文されている。

第I類：頸部に隆線文がめぐるもの。中には口縁部から下垂する隆線文が付くもの、口縁部から下垂した隆線文が頸部をめぐるものもみられる。

第II類：頸部に隆線文とそれに沿った沈線文がめぐるもの。

第III類：頸部に隆線文とそれに沿って連続刺突文がめぐるもの。第1類と同様に口縁部から隆線文が下垂するもの、口縁部から下垂する隆線文が頸部をめぐるものとみられ、いずれも連続刺突文が伴っている。

第IV類：頸部に隆線文がめぐるもの。口縁部から「ノ」字状の沈線文が下垂するものもある。

第V類：頸部に連続刺突文がめぐるもの。

第VI類：頸部に区画線文がめぐらず、地文のみが施文されるもの。

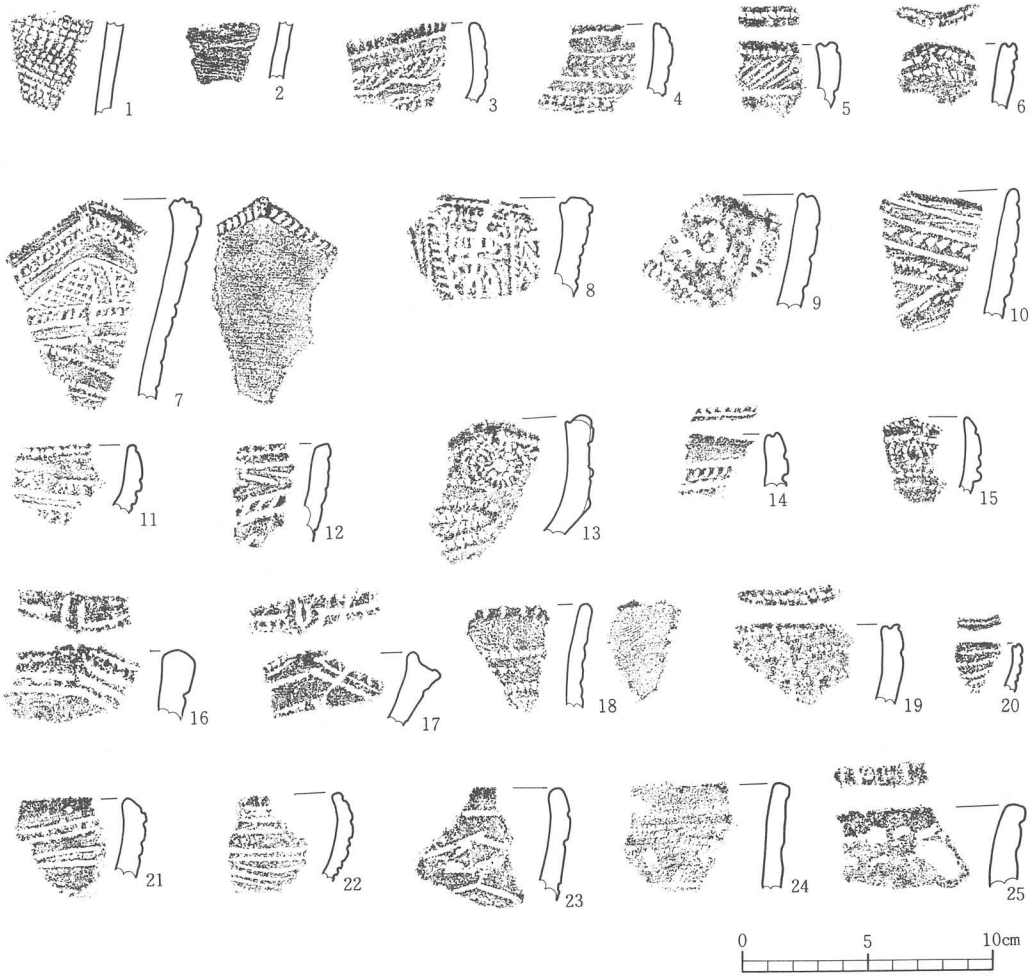
第VII類：頸部に区画線文がめぐらず、無文のもの。

底部資料：底面の調整により細分される。

第I類：底面にミガキが施されるもの。　**第II類**：底面にナデが施されるもの。

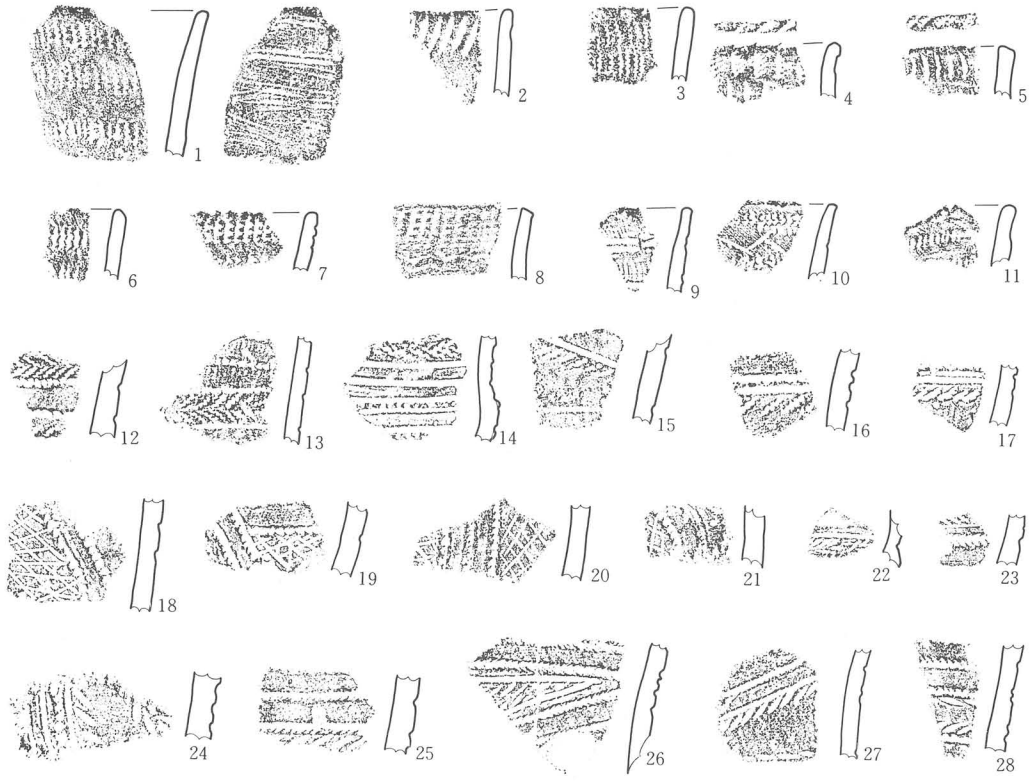
第III類：底面に木葉痕が認められるもの。　**第IV類**：底面に網代痕が認められるもの。

第V類：摩滅等により底面の状況の不明なもの。



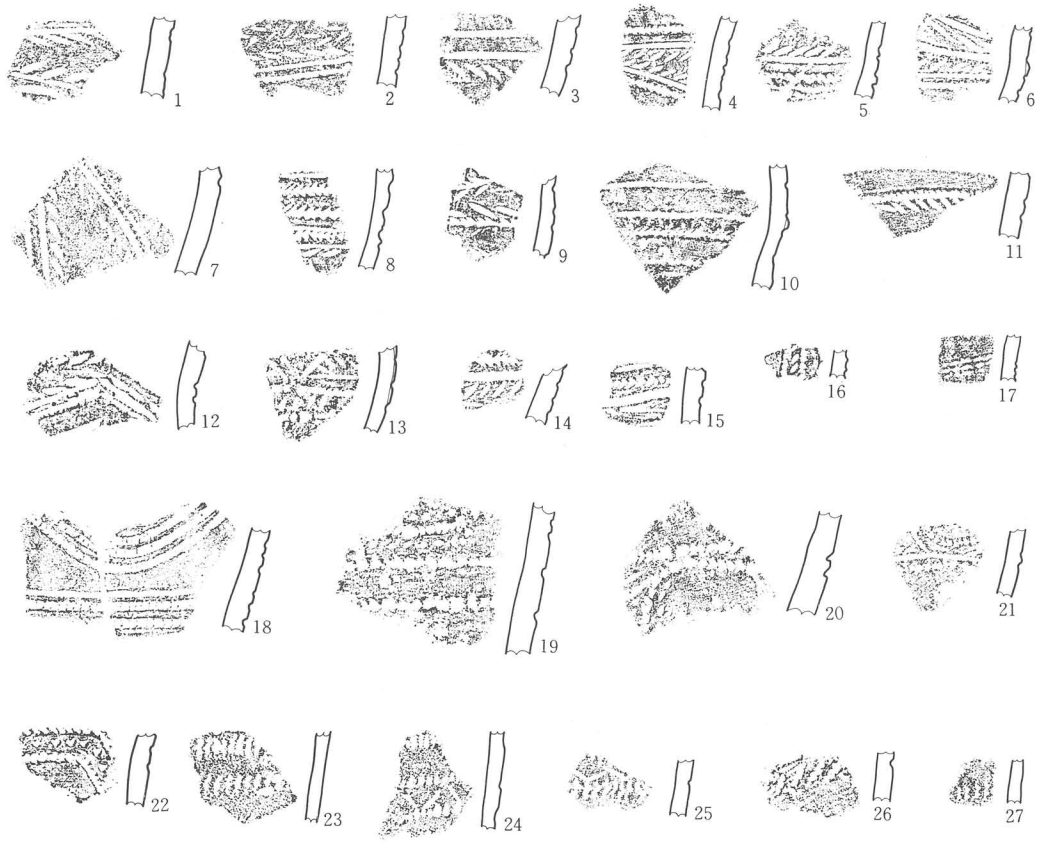
No.	地区・層位	外面	内面	分類	備考
1	E－15・2層	押型文	ナデ	I	
2	E－15・2層	隆線文・条痕文	条痕文	II	
3	14住居・2層	連続刺突文・貝殻圧痕文・刻目文	ミガキ	II 1	
4	16住居・1層	沈線文・連続刺突文・刺突文	ミガキ	II 1	
5	19住居・1号炉掘り方	沈線文・連続刺突文	ミガキ	II 1	
6	E－14・2層	連続刺突文　口唇部：連続刺突文	ミガキ	II 1	
7	111土壙・堆積土	沈線文・連続刺突文　口唇部：連続刺突文	刺突文・ミガキ	II 1	
8	W－25・3層	隆線文・刺突文・連続刺突文	ミガキ	II 1	
9	10住居・1層	隆線文・連続刺突文・刻目文	沈線文・ミガキ	II 1	
10	K－22・ローム上面	沈線文・連続刺突文	ミガキ	II 1	
11	Q－19・2層	沈線文・貝殻刺突文・連続刺突文	ミガキ	II 1	
12	E－14・2層	刺突文・連続刺突文	ミガキ	II 2	
13	L－21・2層	隆線文・連続刺突文	ミガキ	II 2	
14	269土壙・堆積上	隆線文・刺突文・連続刺突文	ミガキ	II 2	
15	198土壙・堆積上	隆線文・連続刺突文	不明	II 2	
16	E－14・2層	沈線文	マメツ	II 2	
17	111土壙・堆積上	沈線文・連続刺突文　口唇部：連続刺突文	刺突文・ミガキ	II 2	
18	西区・包含層	刺突文・連続刺突文　口唇部：刻目文	条痕文	II 2	
19	T－20・2b層	連続刺突文	ミガキ	II 2	
20	189、190土壙・堆積土	連続刺突文	ミガキ	II 2	
21	15住居・層No.8	沈線文・刺突文	ミガキ	II 2	
22	R－20・2b層	沈線文・連続刺突文		II 2	
23	E－15・2層	沈線文・貝殻刺突文	ミガキ	II 2	
24	J－7・1、2層	刺突文	ミガキ	II 2	
25	J－8	刺突文・口唇部刻目文	ナデ	II 2	繊維混入（多）

第923図　第Ⅰ群土器・第Ⅱ群土器



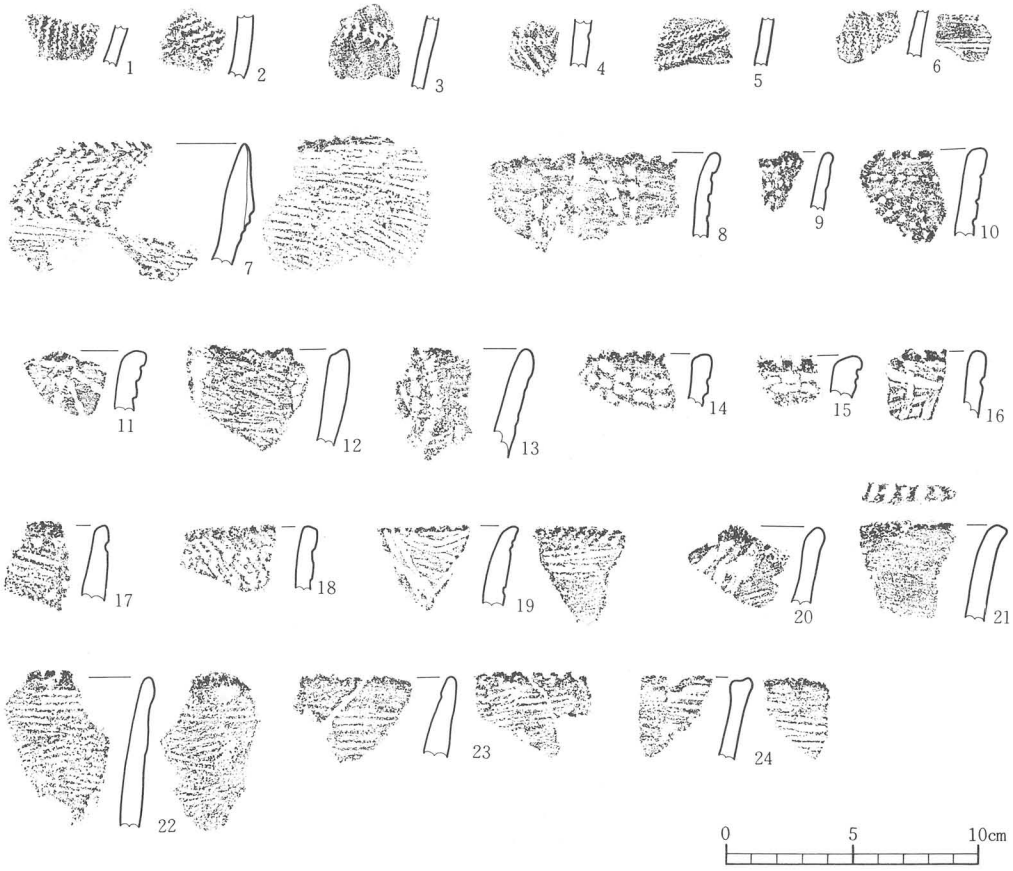
No.	地区・層位	外面	内面	分類	備考
1	K－8・包含層上面	貝殻刺突文	条痕文	II 3	
2	25住居・1層	沈線文	条痕文	II 3	
3	O－19・3層	貝殻刺突文　口唇部：貝殻刺突文	ナデ	II 3	
4	埋戻土	貝殻刺突文　口唇部：貝殻による刻目文	ミガキ	II 3	
5	L－21・2層	貝殻刺突文　口唇部：貝殻刺突文	ミガキ	II 3	
6	198土壙・堆積土	貝殻刺突文・条痕文	条痕文	II 3	
7	E－15・2層	貝殻刺突文	条痕文	II 3	
8	120、121土壙・堆積土	貝殻刺突文・条痕文	条痕文・ミガキ	II 3	
9	西区・地点不明	沈線文・貝殻刺突文・条痕文	条痕文	II 3	
10	14住居・堆積土	連続刺突文・貝殻圧痕文	条痕文	II 3	
11	西区・包含層	貝殻刺突文	条痕文	II 3	
12	N－19・2層	貝殻刺突文・連続刺突文	ミガキ	II 1	
13	232土壙・1、2層	貝殻刺突文・連続刺突文	ミガキ	II 1	
14	244土壙・堆積土	隆線文・沈線文・貝殻刺突文・刺突文	ミガキ	II 1	
15	西区・包含層	沈線文・貝殻刺突文	ミガキ	II 1	
16	111土壙・堆積土	沈線文・連続刺突文	ミガキ	II 1	
17	198土壙・堆積土	沈線文・刺突文・連続刺突文	ミガキ	II 1	
18	300土壙・堆積土	沈線文・連続刺突文	ミガキ	II 2	
19	T－22・風倒木	沈線文・連続刺突文	ミガキ	II 2	
20	174土壙・堆積土	沈線文・連続刺突文	ミガキ	II 2	
21	15住居・層No 8	沈線文・連続刺突文	ミガキ	II 2	
22	186土壙・堆積土	沈線文・刺突文	ナデ	II 2	
23	16住居・床面	沈線文・連続刺突文・刺突文	ミガキ	II 2	
24	T－23	沈線文・刺突文	ミガキ	II 2	
25	L－5	刺突文・連続刺突文	ミガキ	II 2	
26	76土壙・堆積土	沈線文・連続刺突文・刺突文	条痕文	II 2	繊維混入
27	R－23・3層	沈線文・刺突文	ミガキ	II 2	
28	194土壙・堆積土	刺突文・連続刺突文	ミガキ	II 2	

第924図　第II群土器



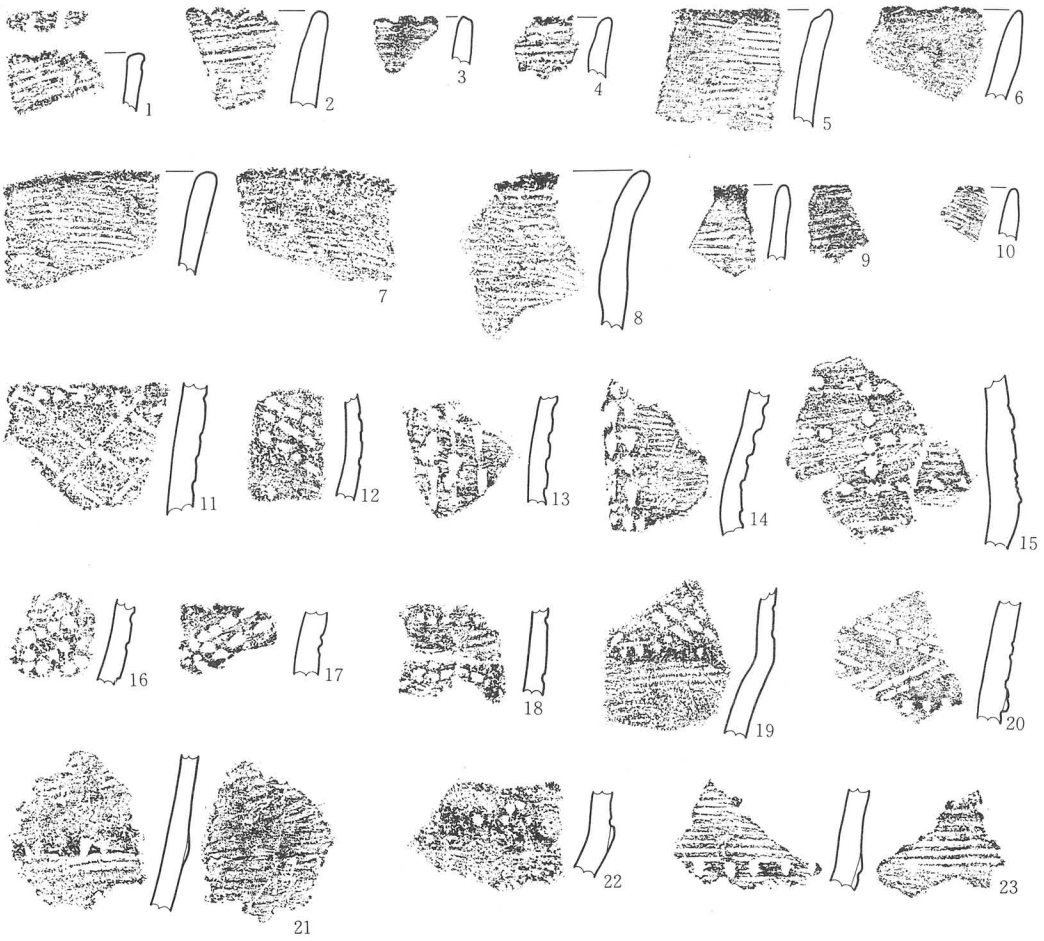
No.	地区・層位	外面	内面	分類	備考
1	M－7・包含層	刺突文・沈線文	ミガキ	II 2	
2	L－8・包含層	沈線文・刺突文・連続刺突文	ミガキ	II 2	
3	111土壙・堆積土	沈線文・連続刺突文	ミガキ	II 2	
4	14住居・2層	沈線文・刺突文・連続刺突文	ミガキ	II 2	
5	11溝	沈線文・刺突文・連続刺突文	ミガキ	II 2	
6	111土壙・堆積土	隆線文・沈線文・貝殻刺突文・連続刺突文	ミガキ	II 2	
7	M－20・2層	沈線文・刺突文・連続刺突文	ミガキ	II 2	
8	14住居・2層	沈線文・刺突文・連続刺突文	ミガキ	II 2	
9	E－15・2層	刺突文・連続刺突文	マメツ	II 2	
10	O－18・3層	隆線文・沈線文・連続刺突文	ミガキ	II 2	
11	E－15・2層	刺突文・連続刺突文	ミガキ	II 2	
12	2　溝	沈線文・刺突文・連続刺突文	ミガキ	II 2	
13	O－20・2層	沈線文・刺突文・連続刺突文	ミガキ	II 2	
14	194土壙・堆積土	沈線文・刺突文・連続刺突文	ミガキ	II 2	
15	179土壙・堆積土	沈線文・連続刺突文・条痕文	剝落	II 2	
16	15住居・層No.8	隆線文・連続刺突文・刻目文	ミガキ	II 2	
17	111土壙・堆積土	連続刺突文	ナデ	II 2	
18	111土壙・堆積土	沈線文・連続刺突文	ミガキ	II 2	
19	101土壙・堆積土	刺突文・連続刺突文	ミガキ	II 2	
20	25住居・1層	刺突文・連続刺突文	ミガキ	II 2	
21	K－5	刺突文・連続刺突文	ミガキ	II 2	
22	189、190土壙	刺突文・連続刺突文	ミガキ	II 2	
23	15住居・層No.6	貝殻圧痕文・条痕文	ミガキ	II 3	
24	239土壙・堆積土	沈線文・刺突文	ナデ・ミガキ	II 3	繊維混入
25	J－8	沈線文・貝殻刺突文	ミガキ	II 3	
26	Q－18・2層	貝殻刺突文	ミガキ	II 3	
27	174土壙・堆積土	貝殻刺突文	ナデ	II 3	

第925図　第II群土器



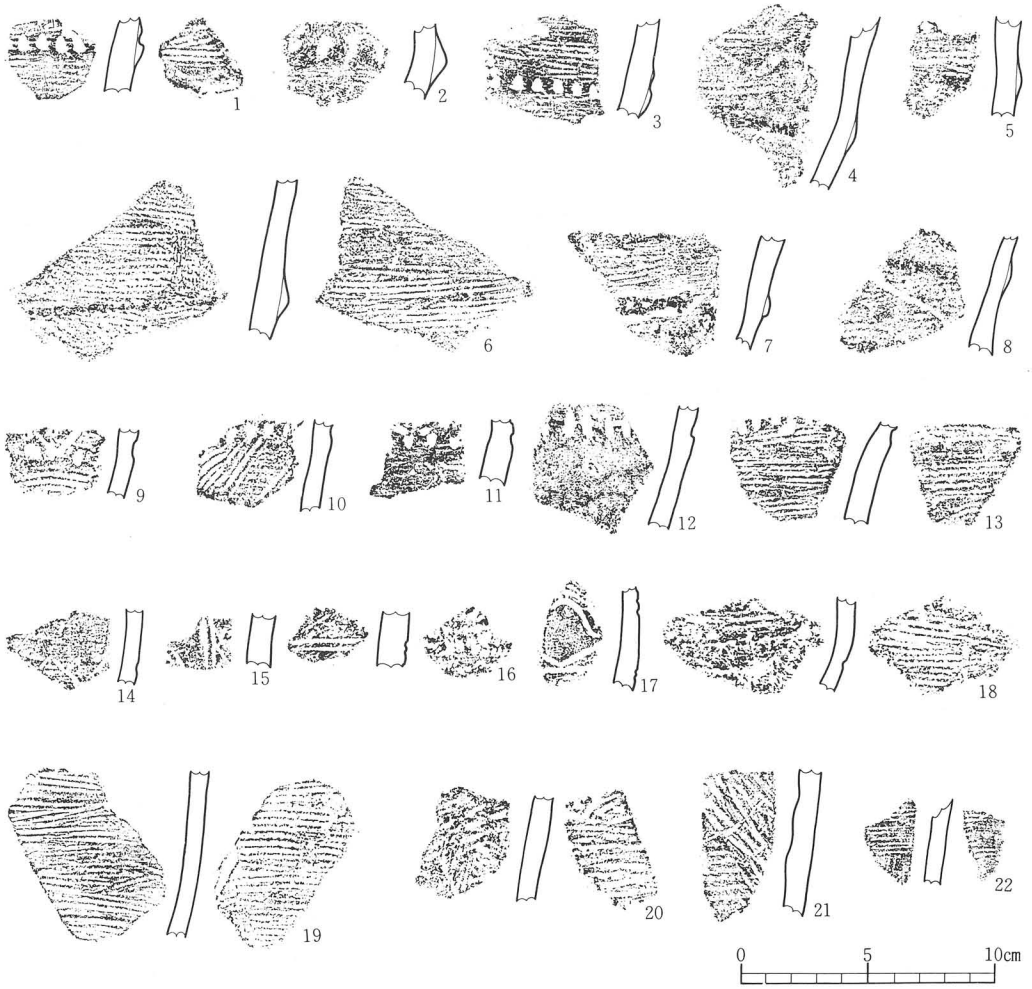
No.	地区・層位	外面	内面	分類	備考
1	N－22	貝殻刺突文	ナデ	II 3	
2	186土壙・堆積土	貝殻刺突文	ナデ	II 3	
3	2 溝	貝殻刺突文	ミガキ	II 3	
4	16住居・炉	刺突文・条痕文	条痕文	II 3	
5	K－7	貝殻刺突文・連続刺突文	ミガキ	II 3	
6	198土壙・堆積土	貝殻刺突文	条痕文	II 3	
7	西区・表土	貝殻刺突文・刺突文・条痕文　口唇部：刻目文	条痕文	III 1	繊維混入
8	272土壙・堆積土	刺突文	ナデ	III 1	繊維混入
9	198土壙・堆積土	刺突文	条痕文	III 1	繊維混入
10	K－19	刺突文・条痕文	ナデ	III 1	繊維混入
11	268土壙・堆積土	刺突文	条痕文	III 1	繊維混入
12	N－24・2層	連続刺突文・条痕文　口唇部：刻目文	条痕文	III 1	繊維混入（少）
13	L－8・包含層	刺突文・条痕文	ナデ	III 1	繊維混入
14	W－23・3層	刺突文　口唇部：刻目文	ナデ	III 1	繊維混入
15	244土壙・堆積土	連続刺突文　口唇部：刻目文	条痕文	III 1	
16	244土壙・堆積土	刺突文・条痕文	条痕文	III 2	繊維混入（少）
17	189、190土壙・堆積土	刺突文・条痕文	条痕文	III 1	繊維混入
18	Q－19・2a層	刺突文・条痕文	条痕文・ナデ	III 1	繊維混入
19	S.T－21・3層	沈線文・条痕文　口唇部：刻目文	条痕文	III 2	繊維混入
20	198土壙・堆積土	沈線文・条痕文	ナデ	III 2	繊維混入
21	西区・包含層	条痕文　口唇部：刻目文	条痕文・ナデ	III 4	繊維混入（少）
22	189、190土壙・堆積土	条痕文　口唇部：刻目文	条痕文	III 4	繊維混入
23	E－14・2層	条痕文　口唇部：刻目文	条痕文	III 4	繊維混入
24	244土壙・堆積土	条痕文　口唇部：刻目文	条痕文	III 4	繊維混入（少）

第926図　第II群土器・第III群土器



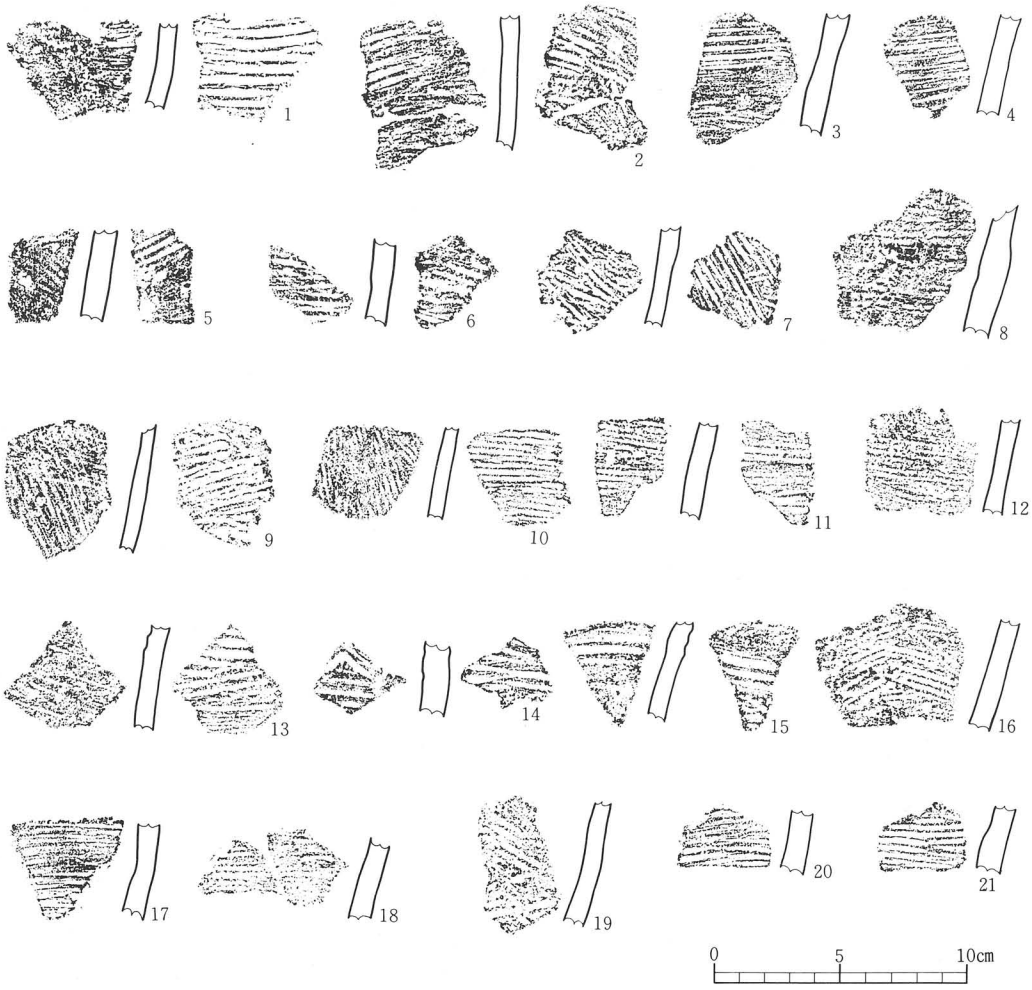
No.	地区・層位	外面	内面	分類	備考
1	西区・包含層	条痕文　口唇部：刻目文	ナデ	III4	繊維混入（少）
2	Q－19・2層	条痕文　口唇部：刻目文	条痕文	III4	繊維混入
3	N－17・1、2層	条痕文　口唇部：刻目文	条痕文	III4	繊維混入
4	25住居・堆積土	条痕文　口唇部：刻目文	条痕文	III4	繊維混入
5	243土壙・堆積土	条痕文	条痕文	III4	繊維混入（少）
6	10住居・1層	条痕文	条痕文	III4	
7	K－8・包含層上面	条痕文	条痕文	III4	繊維混入
8	K－5	条痕文	条痕文	III4	繊維混入
9	300土壙・堆積土	条痕文	条痕文	III4	繊維混入
10	198土壙・堆積土	条痕文	条痕文	III4	繊維混入
11	186土壙・堆積土	沈線文・刺突文	ナデ	III2	繊維混入
12	120、121土壙・堆積土	連続刺突文	条痕文	III1	繊維混入
13	L－21・2層	条痕文・刺突文	ナデ	III1	繊維混入
14	Q－18・2層	刺突文・条痕文	条痕文	III1	繊維混入
15	174土壙・堆積土	刺突文・条痕文	条痕文	III1	繊維混入
16	15住居・堆積土	刺突文	条痕文	III1	繊維混入
17	E－14・2層	刺突文・条痕文	条痕文・ナデ	III1	繊維混入
18	189、190土壙・堆積土	刺突文・条痕文	条痕文	III1	繊維混入
19	272土壙・堆積土	刺突文・条痕文	条痕文	III1	繊維混入
20	O－19・2溝	隆線文・連続刺突文	条痕文	III3	
21	190土壙・堆積土	隆線文・刻目文・条痕文	条痕文	III3	繊維混入
22	N－17・2層	隆線文・刺突文・条痕文	条痕文・ナデ	III3	繊維混入（少）
23	N－17・1、2層	隆線文・刺突文・条痕文	条痕文	III3	繊維混入

第927図　第III群土器



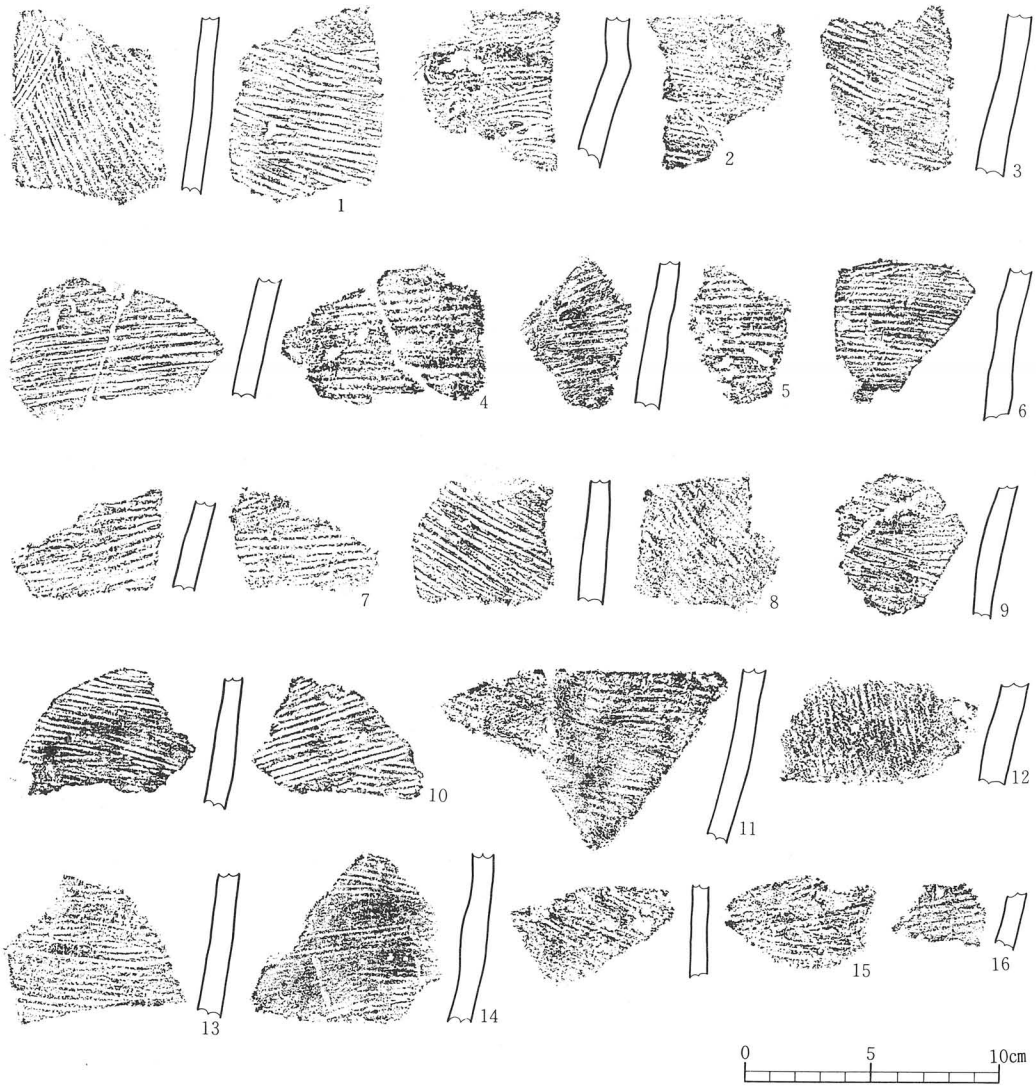
No.	地区・層位	外面	内面	分類	備考
1	14住居・層No.7	隆線文・刺突文・条痕文	条痕文	III3	
2	西区・包含層	隆線文・刺突文・条痕文	ナデ	III3	繊維混入
3	O－19	隆線文・刺突文・条痕文	条痕文	III3	繊維混入
4	13住居・堆積土	隆線文・不明圧痕・条痕文	条痕文	III3	繊維混入
5	16住居・炉	隆線文・条痕文	条痕文	III3	繊維混入
6	J－7	隆線文・条痕文	条痕文	III3	繊維混入（多）
7	L－7・2層	隆線文・刺突文・条痕文	条痕文	III3	繊維混入
8	8住居・炉	隆線文・条痕文	ナデ	III3	繊維混入
9	242土壙・堆積土	沈線文・刺突文・条痕文	条痕文	III3	繊維混入
10	15住居・2層	刺突文・条痕文	ナデ	III3	繊維混入
11	2溝・2層	刺突文・条痕文	条痕文	III3	繊維混入
12	211土壙・堆積土	刺突文・条痕文	ナデ	III3	
13	Q－19・2a層	刺突文・条痕文	条痕文	III3	繊維混入
14	198土壙・堆積土	沈線文・条痕文	ナデ	III2	繊維混入
15	14住居・層No.4	沈線文	条痕文	III2	繊維混入
16	E－14・2層	沈線文・条痕文	不明縄文	III2	繊維混入
17	N－22・3層	沈線文	条痕文	III2	繊維混入
18	14住居・層No.2	条痕文	条痕文	III4	繊維混入（少）
19	Q－19・2層	条痕文	条痕文	III4	繊維混入
20	23住居・堆積土	条痕文	条痕文	III4	
21	Q－19・2a層	条痕文	条痕文	III4	繊維混入
22	239土壙・堆積土	条痕文	条痕文	III4	繊維混入

第928図　第III群土器



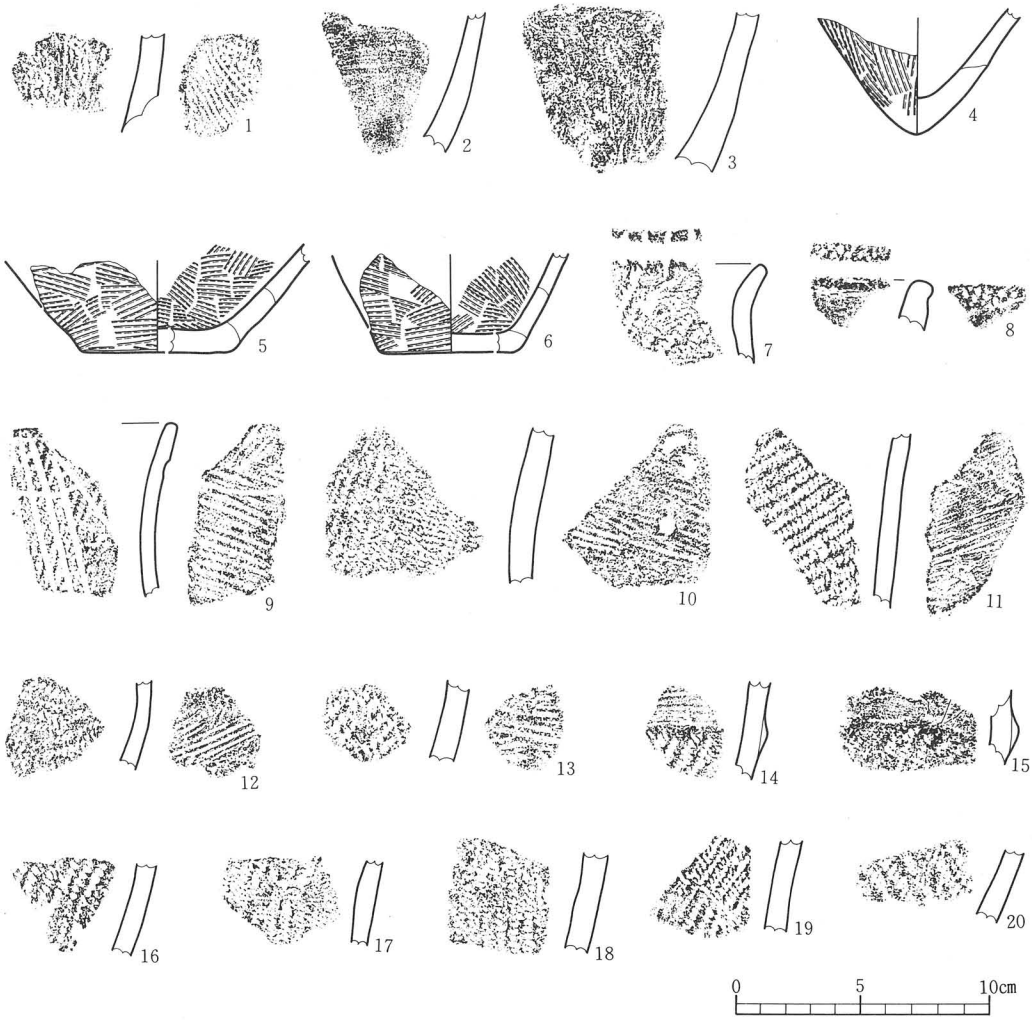
No.	地区・層位	外面	内面	分類	備考
1	14住居・層No.7	条痕文	条痕文	III4	
2	270土壙・堆積土	条痕文	条痕文	III4	繊維混入
3	14住居・層No.4	条痕文	条痕文・ナデ	III4	
4	2　溝	条痕文	条痕文	III4	
5	J－22・風倒木	条痕文	条痕文	III4	
6	N－20・2層	条痕文	条痕文	III4	繊維混入（少）
7	272土壙・堆積土	条痕文	条痕文	III4	繊維混入
8	15住居・2層	条痕文	条痕文	III4	繊維混入
9	P－20・2層	条痕文	条痕文	III4	繊維混入
10	L－21・2層	条痕文	条痕文	III4	
11	J－8	条痕文	条痕文	III4	
12	177土壙・堆積土	条痕文	条痕文	III4	繊維混入
13	243土壙・堆積土	条痕文	条痕文	III4	繊維混入（少）
14	E－14・2層	条痕文	条痕文	III4	繊維混入
15	L－20	条痕文	条痕文	III4	繊維混入
16	Q－18・2層	条痕文	条痕文	III4	繊維混入
17	K－21	条痕文	条痕文	III4	繊維混入（少）
18	242土壙・堆積土	条痕文	条痕文	III4	繊維混入
19	13住居・堆積土	条痕文	条痕文	III4	繊維混入（少）
20	325土壙・堆積土	条痕文	条痕文	III4	
21	242土壙・堆積土	条痕文	条痕文	III4	繊維混入

第929図　第III群土器



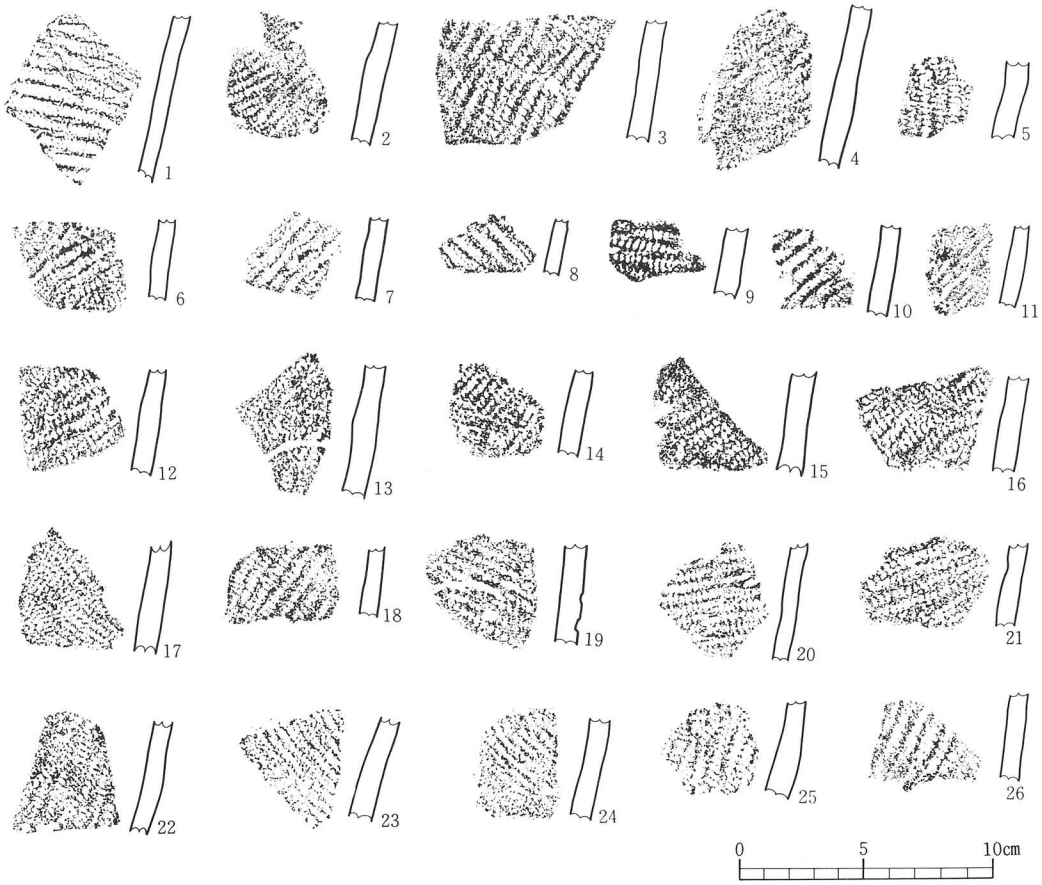
No.	地区・層位	外面	内面	分類	備考
1	244土壙・堆積土	条痕文	条痕文	III4	繊維混入（少）
2	L－7・2層	条痕文	条痕文	III4	繊維混入
3	K－8・包含層上面	条痕文	条痕文	III4	繊維混入
4	N－17・1、2層	条痕文	条痕文	III4	繊維混入
5	P－21・2層	条痕文	条痕文	III4	繊維混入
6	E－14・2層	条痕文	条痕文	III4	繊維混入
7	O－21・2層	条痕文	条痕文	III4	繊維混入
8	西区・包含層	条痕文	条痕文	III4	繊維混入
9	T－19・2層	条痕文	条痕文	III4	繊維混入
10	E－14・2層	条痕文	条痕文	III4	繊維混入（少）
11	198土壙・堆積土	条痕文	条痕文	III4	繊維混入
12	F－11	条痕文	ナデ	III4	繊維混入
13	166土壙・堆積土	条痕文	条痕文	III4	繊維混入
14	10住居・1層	条痕文	条痕文	III4	繊維混入
15	E－14・2層	条痕文	条痕文	III4	繊維混入（少）
16	166土壙・堆積土	条痕文	条痕文	III4	繊維混入

第930図　第Ⅲ群土器



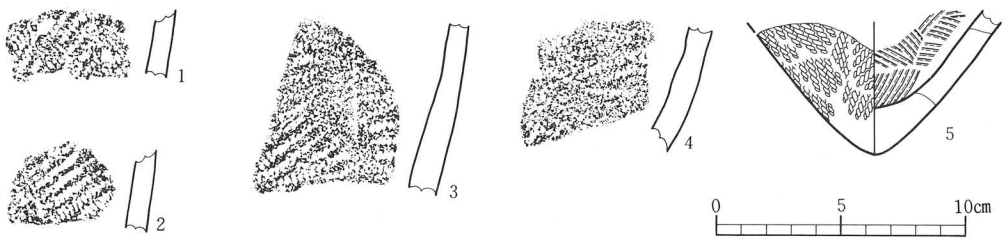
No.	地区・層位	外面	内面	分類	備考
1	西区・表土	条痕文	条痕文	III4	繊維混入
2	111土壙・堆積土	条痕文	ナデ	III4	尖底部
3	K－8・包含層上面	条痕文	条痕文	III4	繊維混入
4	111土壙・堆積土	条痕文	ナデ	III4	
5	218土壙・堆積土	条痕文	条痕文	III4	底面条痕文
6	西区・表土	条痕文	条痕文	III4	底面条痕文
7	西区・包含層	LR縄文　口唇部：刻目文	ナデ	IV	繊維混入
8	L－5	ナデ　口唇部：LR縄文	LR縄文	IV	繊維混入（多）
9	L－10・包含層	沈線文・LR縄文	条痕文	IV	繊維混入
10	L－8・包含層	LR縄文	条痕文	IV	繊維混入
11	Q－20・3層	LR縄文	条痕文	IV	繊維混入
12	L－8・包含層	LR縄文	条痕文	IV	繊維混入
13	L－8・包含層	隆線文・条痕文・LR縄文	条痕文	IV	繊維混入
14	14住居・層No.2	隆線文・条痕文・LR縄文	ナデ	IV	繊維混入
15	E－14・2層	LR縄文	マメツ	IV	繊維混入
16	E－25・2層	LR縄文	ナデ	IV	繊維混入
17	14住居・層No.3	単節多条文	ナデ	IV	繊維混入
18	E－15・2層	LR縄文	ナデ	IV	繊維混入
19	11住居・堆積土	RL縄文	条痕文	IV	繊維混入
20	O－18・3層	RL縄文	ナデ	IV	繊維混入（多）

第931図　第III群土器・第IV群土器



No.	地区・層位	外面	内面	分類	備考
1	N－20・2層	単節多条文	ナデ	Ⅳ	繊維混入（多）
2	T－20・2b層	LR縄文	ナデ	Ⅳ	繊維混入
3	E－14・2層	LR縄文	条痕文・ナデ	Ⅳ	繊維混入（多）
4	P－22・2層	LR縄文	条痕文	Ⅳ	繊維混入
5	R－20・風倒木	LR縄文	ナデ	Ⅳ	繊維混入
6	R－20・2b層	LR縄文	条痕文	Ⅳ	繊維混入
7	西区・包含層	LR縄文	ナデ	Ⅳ	繊維混入
8	242土壙・堆積土	RL縄文	ナデ	Ⅳ	繊維混入
9	E－14・2層	RL縄文	条痕文・ナデ	Ⅳ	繊維混入
10	155土壙・堆積土	単節多条文	ナデ	Ⅳ	繊維混入（多）
11	79土壙・堆積土	LR縄文	ナデ	Ⅳ	繊維混入（多）
12	N－21・2層	単節多条文	ナデ	Ⅳ	繊維混入（多）
13	V－25・2層	LR縄文	ナデ	Ⅳ	繊維混入
14	E－15・2層	LR縄文	ナデ	Ⅳ	繊維混入
15	E－14・2層	LR縄文	ナデ	Ⅳ	繊維混入
16	15住居・7層	LR縄文	条痕文	Ⅳ	繊維混入
17	9住居・堆積土	RL縄文	ナデ	Ⅳ	繊維混入
18	K－8・包含層上面	条痕文	条痕文	Ⅳ	繊維混入
19	西区・包含層	RL縄文	ナデ	Ⅳ	繊維混入
20	14住居・3層	LR縄文	ナデ	Ⅳ	繊維混入
21	O－21・2層	LR縄文	条痕文	Ⅳ	繊維混入（多）
22	E－14・2層	LR縄文	ナデ	Ⅳ	繊維混入
23	15住居・6層	単節多条文	条痕文	Ⅳ	繊維混入
24	239土壙・堆積土	単節多条文	条痕文・ナデ	Ⅳ	繊維混入
25	S－25	LR縄文	ナデ	Ⅳ	繊維混入（多）
26	T－19・2層	LR縄文	条痕文	Ⅳ	繊維混入

第932図　第Ⅳ群土器



No.	地区・層位	外面	内面	分類	備考
1	O−20・2層	LR縄文	ナデ	Ⅳ	繊維混入
2	E−14・2層	LR縄文	ナデ	Ⅳ	繊維混入
3	O−22・2層	LR縄文	ナデ	Ⅳ	繊維混入
4	O−20・2層	LR縄文	ナデ	Ⅳ	繊維混入
5	232土壙・2層	LR縄文	条痕文	Ⅳ	繊維混入

第933図　第Ⅳ群土器

第Ⅰ群土器（第923図１）

早期前葉に位置付けられる土器群である。格子状の押型文が施文されている土器の体部片である。１点のみの出土であり、その他の詳細は不明である。

第Ⅱ群土器（第923図２～926図６）

早期中葉に位置付けられる土器群である。貝殻刺突文が沈線文及び「く」字状連続刺突文に沿って展開するもの（第１類）、沈線文及び「く」字状連続刺突文によって文様が展開するもの（第２類）、貝殻刺突文及び沈線文のもの（第３類）がある。それぞれ小破片のみであり、底部破片もみられず、全体の器形を推定できるような大破片もなく、器形は不明である。

第１類

貝殻刺突文が沈線文及び「く」字状連続刺突文に沿って展開するもので、口縁部及び体部の破片が認められている。口縁部は波状口縁のものが多いが、中には平縁のものもみられる。口縁部上端に連続刺突文が施されるものもある。文様の構成は、二条あるいは、三条の沈線文によって文様を区画し、その中に貝殻刺突文を斜位あるいは縦位に充填している。

第２類

沈線文及び「く」字状連続刺突文によって文様が展開するもので、口縁部及び体部の破片が認められる。口縁部は波状口縁及び平縁のものがある。また、口縁部上端に連続刺突文が施されているものもみられる。文様の構成は、二条あるいは、三条の沈線文、あるいは隆線文、「く」字状連続刺突文によって文様を区画し、内部に細い沈線文による斜格子状の文様が施文されている。その他に波状口縁の波頂部に対応する位置に、円形の隆線文に連続刺突文が施されているもの、沈線文に沿って刻目文に近い短沈線文が施文されているもの、押し引き連続刺突文による文様が施文されているものなどがある。

以上の第１群第１類、第２類土器については、宮城県蔵王町明神裏遺跡出土土器に類似しており、明神裏III式に比定されている。

第３類

口縁部及び体部の破片が認められる。口縁部は平縁のものが多いが、波状口縁のものもみられる。波状口縁のものは、波頂部が２つに割れている。口縁部直下から体部にかけて、貝殻による縦位の刺突文が、１段から数段重なって横方向に帯状に施文されている。口唇部に同様の貝殻刺突文が施文されているものもみられる。また、貝殻刺突文の各段の間に、細い沈線文による山形文がみられるものがある。これらの土器群は宮城県高清水町大寺遺跡、白石市保原平遺跡等に類例がみられ、大寺２式に比定されている。

第III群土器（第926図７～931図６）

早期後半に位置付けられる。いわゆる条痕文系土器である。胎土中に植物繊維を含んでおり、土器の外面及び内面に、貝殻条痕文が施文されている。この中には、後述する第IV群土器に属する土器の一部の破片が含まれていることも考えられるが、早期後葉～末葉の土器の中では、図示資料が最も多くなっている。口縁部、体部破片及び底部破片が認められる。器形が推定できるような大破片はみられず、全体の器形については不明である。外面の文様の種類には、貝殻及び半截竹管状の工具による連続刺突文の施されたもの（第１類）、体部の屈曲部に太い隆線文が施されるもの（第２類）、半截竹管状の工具による沈線文が施されるもの（第３類）、貝殻条痕文のみのもの（第４類）があるが、それぞれが組み合って施文されているものもみられる。

第１類

口縁部及び体部の破片が認められる。口縁部資料は、平縁のものが多いが、突起が付されるものもみられる。平縁のものには、口唇部に刻目文が施されるものがあり、刻目が大きくなり、小波状を呈するものもみられる。また、口縁部に粘土を貼り付け、二重口縁状を呈しているものが１点みられ、二重口縁の部分に縦位の貝殻刺突文が施文されている。その他のものは、口縁部から体部にかけて、半截竹管状の工具による連続刺突文が施文されている。これらの刺突文は、二列から三列の列状をなしているものが多く、横位、斜位、縦位及び曲線状態に施文されている。中には「Ｔ」状や横位の「Ｖ」状になっているものもみられる。

第２類

口縁部及び体部の破片が認められる。口縁部は平縁のものと波状口縁のものがある。口唇部に刻目文が施されるものもある。沈線文は、半截竹管状の工具によって、口縁部直下から斜位に２条施文されたもの、半截竹管状の工具による横位の刺突文の下に細い竹管状の工具によって斜格子状に施文されたものがある。その他に横位、縦位、曲線状に施文されているものがあ

る。また、内面に縄文が施文されたものが認められる。

第3類

体部の破片のみが認められる。体部に屈曲する部分が認められ、その部分に幅の広い、下端幅に比べて高さの低い、隆線文が施文されているものである。隆線文上、あるいは隆盛文の下端部分に刻目状、あるいは指頭状圧痕様の刺突文が施文されているものがある。刻目様の刺突文はみられるが、隆線のみられないものについてもこの類に含めた。

第4類

口縁部、体部及び底部の破片が認められる。口縁部は平縁のもののみであり、波状口縁はみられない。口唇部に刻目文が施文されたものもある。口縁部直下から底部まで、内、外面ともに貝殻条痕文のみが施文されている。本類の口縁部には前述の第3類の口縁部が混在している可能性がある。底部資料については、体下部の破片を含めて6点が認められている。底部形態は、尖底のもの1点、平底のもの2点、尖底あるいは丸底になると考えられる体下部3点である。尖底のものは、外面貝殻条痕文、内面ナデ調整であり、平底のものは底面内、外面ともに貝殻条痕文である。

また、前述の第1類から第4類までの口縁部及び体部破片の内面の文様、調整については、貝殻条痕文のみが施文されているもの、縄文が施文されているものがあり、貝殻条痕文をナデ消しているものもみられる。

これらの土器群は、宮城県柴田町槻木貝塚、小牛田町素山貝塚等に類例が見られ、槻木II式あるいは素山IIa式とされている。しかし、これらの土器群は、内外面共に貝塚条痕文が施文されているもののみではなく、外面に縄文が施文される、次項の第IV群土器と層位的に分離されなかった。

第IV群土器（第931図7～933図5）

早期末葉に位置付けられる、いわゆる縄文条痕文系土器である。胎土中に多量の植物性繊維を含んでおり、外面に縄文及び貝殻条痕文、内面に貝殻条痕文が施文されたものと、ナデ調整が施されて、貝殻条痕文がみられないものがある。口縁部、体部及び底部の破片が認められる。器形が推定できるような大破片はみられず、器形については不明であるが、各部位の破片を総合すると、概ね口縁部は外反し、体部の屈曲は小さく、底部は尖底あるいは丸底風になるものと思われる。口縁部は平縁のもののみで、波状口縁あるいは突起が付くものはみられない。口唇部に、刻目文を施すもの、口唇部から口縁部の内面上端にかけて縄文が施文されるものもみられる。また、口縁部直下から斜方向に撚糸圧痕文がみられるもの、数条の沈線紋が施文されるものがある。体部には、やや幅の広い隆線文が施されるものがあり、その隆線文を境に、上

位に貝殻条痕文、下位に縄文が施文されている。この隆線文については、口縁部文様帯を区画するもので、上部の貝殻条痕文の部分は、地文以外の文様帯となっている可能性もある。底部資料は、体下部の破片を含めて3点認められている。形態は、尖底のもの1点、尖底あるいは丸底風のもの2点である。外面は縄文が施文されているが、内面には、尖底のものは貝殻条痕文、他のものは条痕文はみられず、ナデ調整が施されている。

外面の縄文の原体については、単節ＬＲ及びＲＬ、ＬＲ及びＲＬの単節多条文があるが、その中でもＬＲの原体が最も多く用いられている。その施文方向は、横位方向のものが最も多いが、斜位方向のものもみられる。また、羽状縄文については、図示資料中には認められず、図示資料以外の資料中にもほとんど認めることができなかった。

これらの土器は、外面縄文、内面条痕文のいわゆる縄文条痕文系土器で、出土状況から層位的関係は不明であるが、型式の上からは、素山II b式、上川名II式、梨木畑式、船入島下層式が存在している。今回出土した資料は、口縁部の文様帯が明確ではないため、対比することは難しいが、羽状縄文がほとんど伴っていない点から考えると、素山II b式が最も近いものと考えられる。また、内面に貝殻条痕文がみられないものについては、明らかに条痕文が施文されなかったものであるか、施文後にナデ消されているものであるか、施文後摩滅等によって残存しなかったものかは明らかではないが、条痕文が施文されていなかったものと考えると、船入島下層式よりも後出のものである可能性があると考えられる。

第Ⅴ群土器（第934図1）

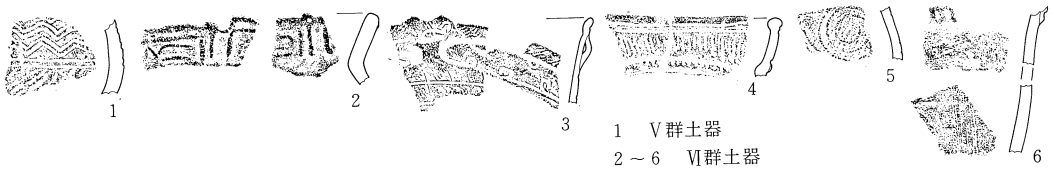
東区西側遺物包含層より1点出土しているのみである。体部破片であるが、大きく内弯し、球形に膨らむような器形が考えられる。外面には、半截竹管状の施文具による平行沈線によって山形文が横位に2段、その下位に、同じ施文具による横位の平行沈線文が施文されている。横位の平行沈線の下位には縄文が施文されている。内面には、横位のミガキ調整が施されている。以上のような特徴を有する土器は、宮城県七ヶ浜町大木囲貝塚、涌谷町長根貝塚などの出土土器中に認められ大木3～6式に比定されている。本資料は1点のみであり、その他の詳細は不明であるため、前期中葉から末葉の範囲内の時期のものであると考えておきたい。

第Ⅵ群土器（第934図2～6）

東区北側谷部遺物包含層及びその周辺を中心に出土している。口縁部及び体部の破片が認められる。小破片のみで、全体の器形を推定できるような大破片はみられない。口縁部は、平縁のものと波状口縁部のものがあり、平縁のものには、小突起が付くものもみられる。また、口唇部が肥厚しているものが多くみられる。形態として、頸部で「く」状に屈曲して直線的に外

傾するもの、やや丸味をもって外傾するものがある。前者には、細い隆線文によって直線文等の幾何学文様が施文されており、後者では口縁部直下に口縁部と平行の沈線文を1条から数条、頸部に横位の隆線文や沈線文を施文し、両者の間を縦位の沈線文によってうめているものが多い。また、波状口縁の波頂部の下部に橋状の把手が付され、横位の沈線文に渦巻文が付されているもの、口縁部の文様帯内部に細い沈線文や、三角形の刺突文が施文されているものもみられる。体部には細い隆線文による渦巻文が施文されており、隆線文上には、半截竹管の施文具による細かな刻目文が施されているもの、縦位に数条の平行沈線文のみが施文されているものなどがみられる。

これらの特徴を有する土器は、宮城県涌谷町長根貝塚、仙台市北前遺跡、山形県遊佐町吹浦遺跡等から出土しており、大木6式に比定されている。



1　Ⅴ群土器
2～6　Ⅵ群土器

第934図　第Ⅴ・Ⅵ群土器

第Ⅶ群土器

中期初頭に位置付けられる土器群である。破片資料が多く、全体の器形が判明する資料はないが、体部上半以上の大破片が多く、復元によって、器形の概略を把えることができる。器形が把えられたものは、全て深鉢形土器であり、鉢形土器あるいは浅鉢土器は認められなかった。

器形及び文様の施文部位、文様の種類等によって分類される。

深鉢

体部の膨らみがみられるもの（A）と、体部が直線的で膨らみがみられないもの（B）に分けられる。

（A類）（第935図1～9）

A1類：体部が球形に膨らみ、頸部で「く」字状に屈曲し、口縁部が外傾するもの、平縁と波状口縁のものがあり、平縁のものには突起がつくものがある。

口縁部の文様の種類から下記に分けられる。

a．1は肥厚した口縁部及び頸部に刻目文が巡り、その間を4箇所の縦位の刻目文を施された隆帯が区画し、横位の平行沈線文及び波状沈線文が施文される。体部は無文である。

b．2は口縁部に突起を持ち、口縁部に1条及び頸部に2条の刻目文が巡っている。頸部の突

起に対応する部分に橋状の貼り付けがみられ、その間に綾絡文が施される。体部は結束縄文が施される。

c．3は突起部から縦位に2条、刻目文が施された隆線が垂下して口縁部を区画し、頸部に貼付文がみられる。その間に平行沈線文、渦巻き文、山形文、刻目文が施文されている。体部は無文である。

A2類：体部に緩やかな膨らみをもち、頸部で「く」字状に屈曲し、口縁部が外傾するものと、頸部の屈曲が緩やかで口縁部が直立気味のものがある。前者には口縁部が内弯気味に外傾し、突起のつくものもある。

口縁部の文様の種類により下記に分けられる。

a．4は口縁部に突起をもち、肥厚した口縁部及び頸部の隆線文、それらの中間に横位に刺突文が巡っている。突起部分には2個の短い隆帯と「C」字状の隆線文がつけられ、刺突文が施文されている。

b．5は肥厚した口縁部及び頸部の隆線文上に刻目文が巡っている。その間を4箇所の刻目文を施された「へ」字状の隆帯が区画し、その区画内に短い沈線による波状文が施文される。

c．6は口縁部に2個の突起をもち、肥厚した口縁部は無文になり、頸部の隆帯まで、横位の沈線文と細かい2個1対の刺突文が施される。

a～cのいずれも体部の文様は結束縄文である。

A3類：7～9は口縁部のみが残存するものであるが、頸部の屈曲から体部が膨らむ器形になると考えられるものである。口縁部が直線的に外傾するものと、内弯気味に外傾するものがある。

口縁部に方形区画の隆線文が施されるもので、隆盛上には刻目文が施されている。区画内に縦位の条線文、縦位の連続刺突文、横位の平行沈線文とそれに伴う刺突文が施文されるものがある。

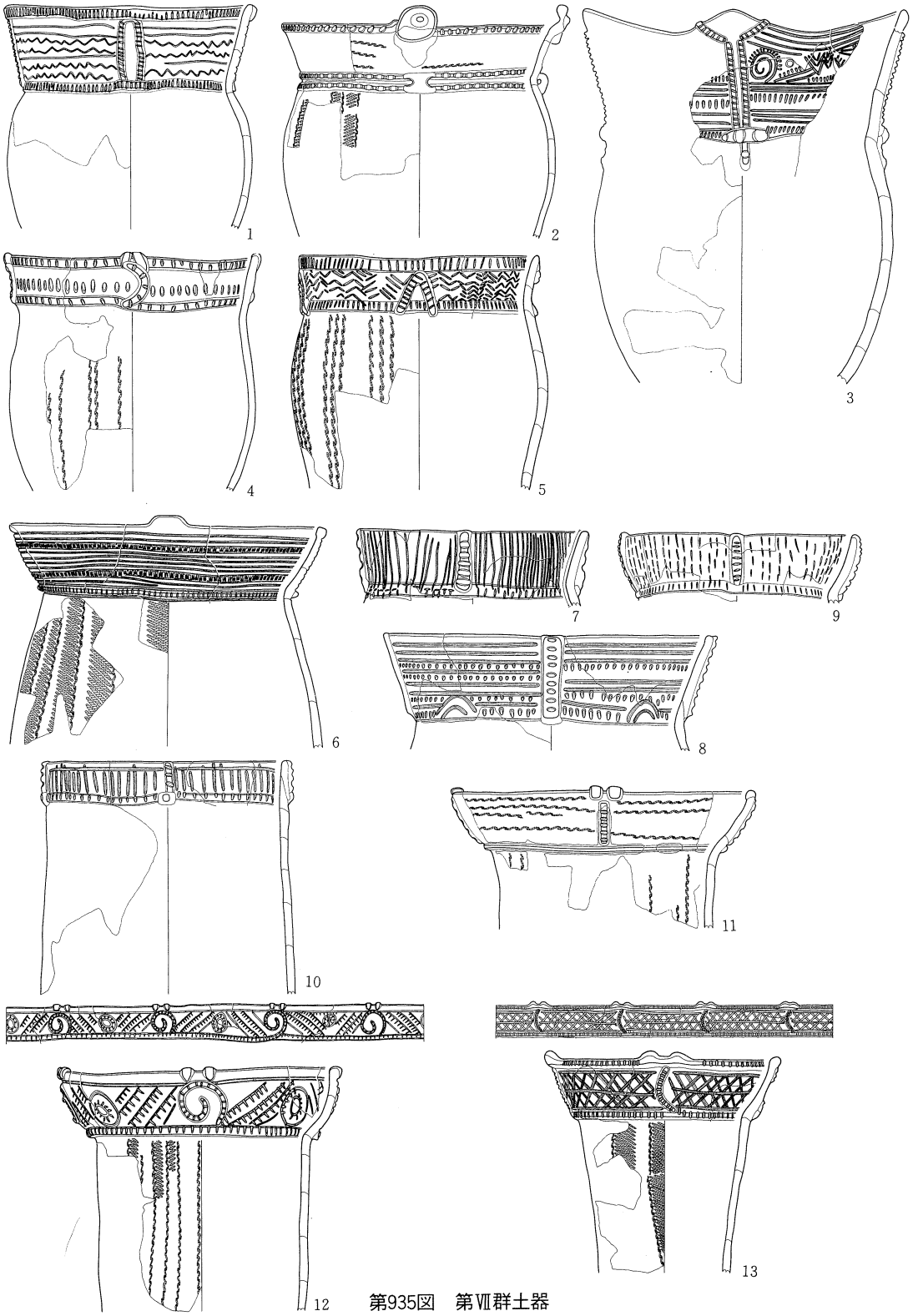
（B類）（第935図10～13）

B1類：体部に膨らみがなく、直立の円筒形を呈している。頸部で「く」字状に屈曲し、口縁部が内弯気味に外傾するものと、頸部で屈曲せず口縁部が直立するものがある。

口縁部の文様の種類により下記に分けられる。

a．10は口縁部に方形区画の隆線文が施されるもので、縦位及び横位の隆線文に刻目文が施されている。口唇部直下に横位沈線文が施され、その内部に縦位の沈線文が施される。体部の文様は磨滅のため不明である。

b．11はaと同様、方形区画の隆線文が施されるが刻目文は縦位の隆線文にのみ施される。また、縦位の結束縄文である。



第935図　第Ⅶ群土器

c．12は口唇部直下の横位の沈線文と頸部の刻目文の施文された隆線文によって区画されたもので、口唇部には2個1対の小突起が4箇所につけられ、突起に対応する部分の「の」字状の刻目が施された隆線文と、その間に円形及び斜位の沈線文、刺突文が施されている。体部の文様は、結束のあるＲＬ・ＬＲ縄文である。

Ｂ２類：13は体部が直線的に外傾し、頸部でゆるく「く」字状に屈曲し、口縁部が内弯気味に外傾するものである。

肥厚した口唇部と頸部に隆線文が施され、口唇部の2個1対の突起を除いた部分と頸部の隆線文に刻目文が施され、口縁部を区画している。突起部分から頸部の隆線文まで「し」状の刻目文を施した隆線文がつけられ、それらの間に格子状の沈線文と横位の沈線文が施文される。体部の文様は結束のあるＬＲ縄文である。

以上より第Ⅶ土器群はＡ１・ａ～ｃ、Ａ２・ａ～ｃ、Ａ３、Ｂ１・ａ～ｃ、Ｂ２に分類された。破片資料も同様の特徴を有するものである。

これらの土器の出土状況は、北側谷部遺物包含層2層から・数量的には比較的まとまって出土している。しかし、層中での遺物の出土状況には規則性は認められなかった。

第Ⅶ群土器に類似する資料は、宮城県七ヶ宿町小梁川遺跡、涌谷町長根貝塚、迫町糖塚貝塚等で出土しており、糖塚式あるいは、大木７ａ式とされている。しかし、糖塚式については、大木７ａ式とは分離して一型式として考えることについて、否定的な見解が多く、大木７ａ式の中に含めて考えられることが多いようである。また、大木７ａ式土器について、長根貝塚出土土器の検討から2段階に細分され、さらに3段階に細分する可能性についても指摘されている。

第Ⅶ群土器については、第1段階、第2段階に該当する土器が認められる。しかし、それらの土器は、東区北側谷部遺物包含2層から混在した状態で出土しており、層位的に変遷を裏付けられる資料は得られていない。これらについては、今後の課題とされている部分であるが良好な出土状況から、型式内での細部の変遷が裏付けられる資料を積み重ねることによって、結論が導き出されるものと思われる。

第Ⅷ土器（第936図１～３）

１号竪穴遺構、東区西側遺物包含層などから出土している。口縁部及び体部の破片が認められる。全体の器形を推定できるような大破片はないが、体部上半部以上の破片を総合すると、キャリパー形を呈する器形であると考えられる。口縁部は、平縁のものと、ゆるやかな波状口縁ものがある。口縁部の文様は、隆線文とそれに沿って施された沈線文（＝隆沈文）があり、頸部には、横位の平行沈線文が施文されたものと、隆沈文が施文されたものがあり、その間に

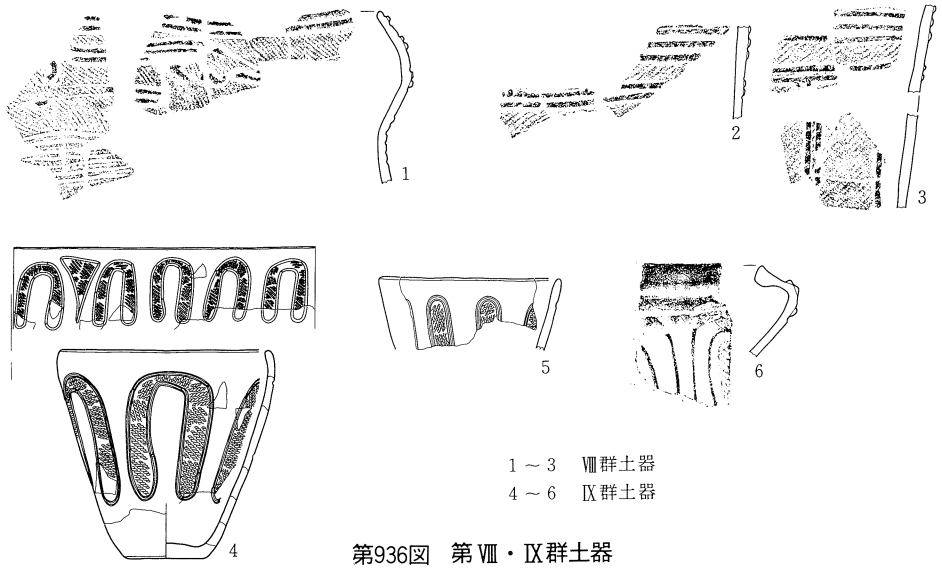
隆沈文による渦巻文が施されている。体部には、頸部の横位の平行沈線文、隆沈文から、隆線文、隆沈文が下垂するものや、渦巻文が施されているものがあり、棘が付されているものもみられる。

これらの土器群に類似する資料は、宮城県大郷町大松沢貝殻塚貝塚・南方町青島貝塚、大和町勝負沢遺跡等から出土しており、大木８ａ式あるいは大木８ｂ式に比定されている。第Ⅷ群土器についても、大木８ａあるいは大木８ｂ式に比定されるものであると考えられる。

第Ⅸ群土器（第936図４～６）

土壙堆積土、東区西側遺物包含層、基本層などから出土しているが出土状態に規則性はみられない。器形が判明するものは47、48号土壙から出土した１点のみであり、体部が底部から直線的に外傾し、口縁部がやや内弯する深鉢である。その他のものには、全体の器形が推定できるような大破片はみられないが、体部から口縁部にかけて直線的に外傾するもの、口縁部が内弯するもの、体上部で「く」字状に屈曲して、口縁部が内傾するもの、などの深鉢あるいは鉢形土器がある。文様は、沈線文による４単位の「⋂」文と三角文があり、内部に縄文が充塡されている。他の口縁部では、前述のものと同様、内部に縄文が充塡されている、沈線文による「⋂」文があり、隆線文による同様の「⋂」文のもの、楕円文のものがある。また、体部には、隆線文による「⋂」文があるいは、楕円文、文様の端部に橋状把手がつくものもみられる。

これらの土器群に類似する資料は、宮城県大衡村上深沢遺跡、南方町青島貝塚等から出土しており、大木９式に比定されている。第Ⅸ群土器についても大木９式に比定されるものであると考えられる。



1～3　Ⅷ群土器
4～6　Ⅸ群土器

第936図　第Ⅷ・Ⅸ群土器

第Ｘ群土器

今回の調査で最も多く出土している土器群であり、竪穴住居跡、土壙、遺物包含層などから出土している。特に竪穴住居跡、東区西側遺物包含層から出土しているものが多い。それらのうち復元資料を中心に分類し、検討する。器形は深鉢、浅鉢、壷形土器がある。

深鉢

第１類「Ｊ」字状文のもの

「Ｊ」字状文のものは、竪穴住居跡及び東区西側遺物包含層から主体的に出土している。これらのものは、文様構成の点から、「Ｊ」字状文のみのもの（１ａ類)、体部中央部に横位の区画線があり、区画線より上位に「Ｊ」字状文がつけられ、下位は地文のみのもの（１ｂ類)、体部中央部に曲線文がつけせれ、上位に「Ｊ」字状文がつけられるもの（１ｃ類）がある。

１ａ類（第937図１～８）

器形には、平縁のもの（１～５）と波状口縁のもの（６～８）がある。平縁のものは、全て底部を欠いており、体下部以下については不明である。１～３は、口縁部が緩やかに外傾し、体部中央部がやや膨らむものである。文様は沈線文によって「Ｊ」字状文が施されている。１、２は比較的幅広で浅い沈線によって「Ｊ」字状の無文帯を区画している。５は、文様の下半部を欠いているが同様の文様であると思われ、３、４の文様は比較的細い沈線によって施文されている。５は、頸部で「く」字状に屈曲して口縁部が内傾し、体部が直線的に外傾しているものである。文様は沈線文が伴った隆線文（隆沈文）による「Ｊ」字状文が施文されている。６は、底部を欠いており、体下部以下については不明であるが、口縁部は外反し、体部中央部が膨らむもので、隆線文による「Ｊ」字状文が、波状口縁の波頂部に対応する位置に施文されている。７、８は、底部から体部にかけて直線的に外傾し、体上半部から口縁部にかけて大きく内弯しており、隆線文による渦巻状の「Ｊ」字状文が、波状口縁の波頂部に対応する位置に施文されている。７については、渦巻状の「Ｊ」字状文の一部が左右に延びており、渦を巻かない「Ｊ」字状文がそれらの間に施文されている。文様単位は、１が６単位、２～５、８が４単位、６、７が３単位であり、いずれも地文は充填縄文である。

１ｂ類（第938図９～10）

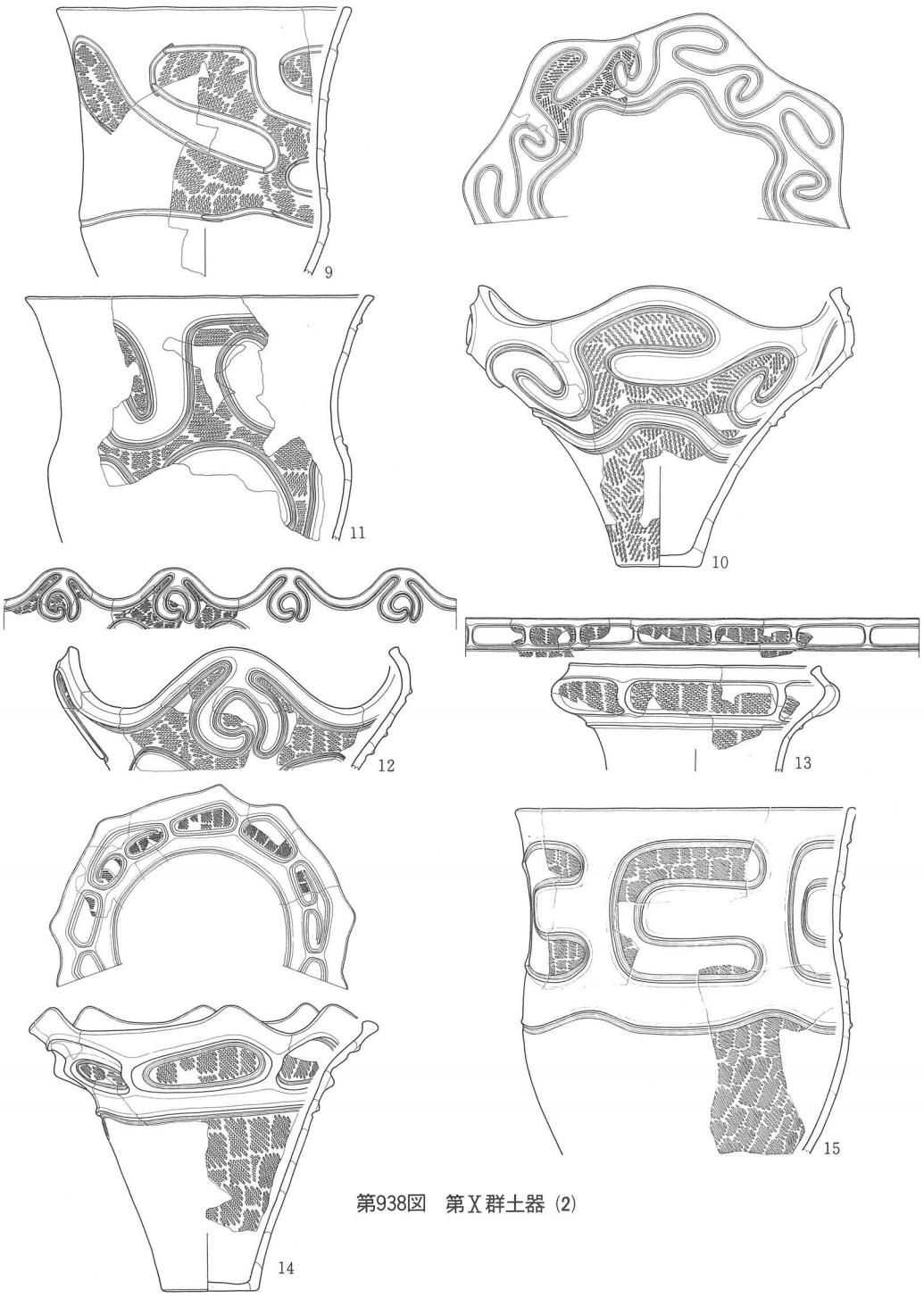
器形には、平縁のもの（９)、波状口縁のもの（10）がある。９は、口縁部が外傾し、体部中央部がやや膨らむもので、幅広の沈線文によって体部の最も膨らむ部分に横位の区画線が施文され、下位は無文帯で、上位に同様の沈線文による「Ｊ」字状文が施文され、「Ｊ」字状の一部が横位に延びている。10は、底部から体部にかけて、緩やかに外反しながら立ち上がり、体上部から口縁部にかけて大きく内弯している。体部中央部に波状隆沈文が二条平行して施文され

第937図　第Ⅹ群土器（1）

て区画線となっている。下位は地文のみで上位は波状口縁の波頂部に対応する位置に「J」字状文、その間に渦巻状の「J」字状文が施文されている。9は単位数は不明であるが、10は4単位である。地文は充填縄文である。

1C類（第938図11～12）

器形には、平縁のもの（11）、波状口縁のもの（12）がある。11は口縁部が外傾し、体部中央

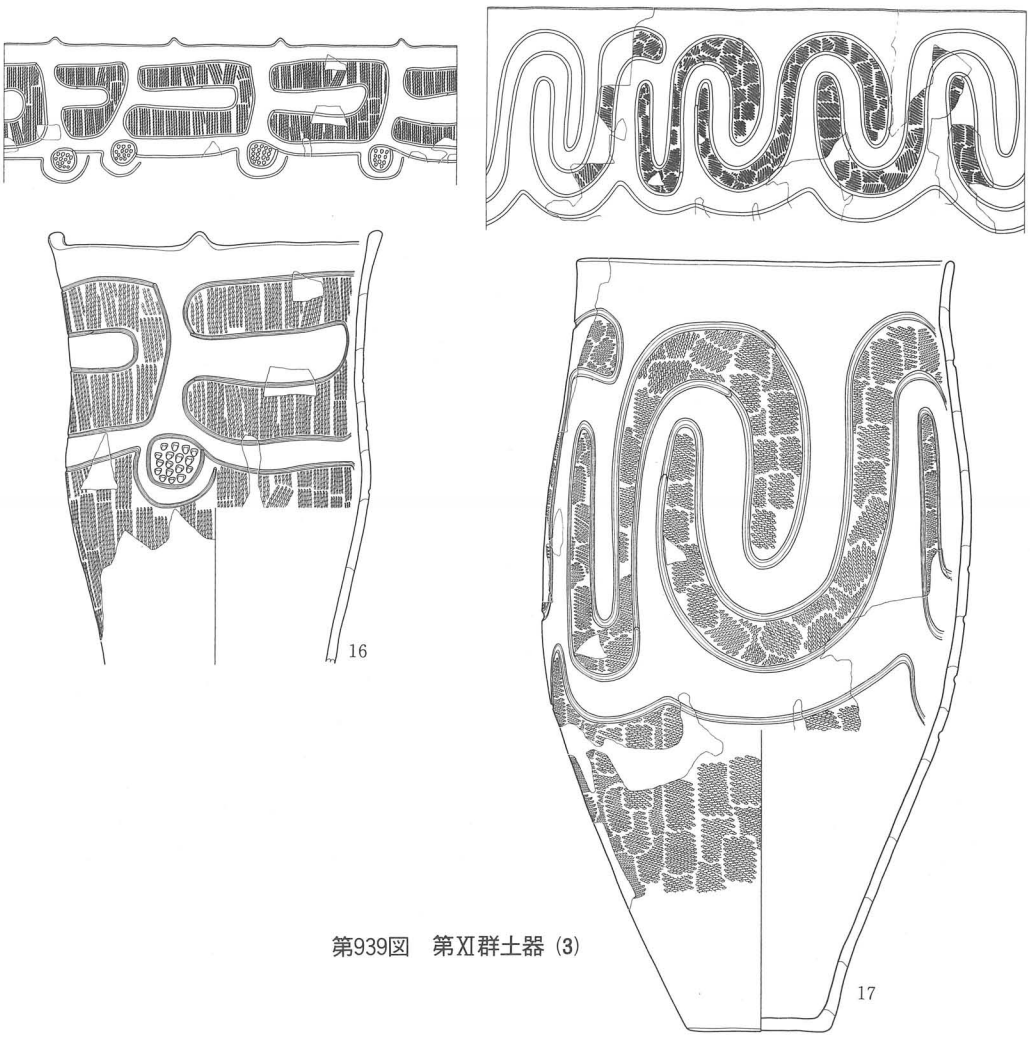


第938図　第Ⅹ群土器（2）

部が膨らむもので、口縁部から体上部にかけて、隆沈文による「J」字状文、体部中央部の膨らんでいる部分に波形あるいは「∩」状の文様が隆沈文によって施文されている。12は体部は外傾し、波状口縁の波頂部が内弯している、隆沈文によって波状口縁の波頂部から変形の「J」字状文が施され、体部に12と同様の文様が施文されているものと考えられる。文様単位は、11は8単位と考えられ、12は4単位であり、地文は充填縄文である。

第2類　楕円文のもの（第938図13～14）

器形には、平縁のもの（13）、波状口縁のもの（14）がある。13は、体部上部で「く」字状に屈曲し、口縁部は内傾する。隆線文によって楕円文が施され、楕円文の間の隆線文はカマボコ形に盛り上がっている。14は、底部から直線的に外傾し、体上部で屈曲して口縁部にかけてさらに開く、体部に横位の隆線文による区画線があり、上位に文様が施され、下位は地文のみである。隆沈文による楕円文と偏平な渦巻文が2個連結した文様がある。13と同様に楕円文の間は盛り上がっている。文様単位は、13が7単位、14が6単位である。地文は充填縄文である。



第939図　第Ⅺ群土器（3）

第3類「C」字状文（第938図15～939図16）

器形は、口縁は平縁であり、小突起が付くものもみられる。口縁部は緩やかに外傾し、体部はやや膨らんでいる。15は、体部中央部に隆沈文による横位の区画線を施し、上位に隆沈文による「C」字状文を施文している。16は沈線文によって文様が区画されており、「く」字状文の間の部分の、体部の横位区画線文による玉抱文が付けられ、内部に刺突文が施文されている。「C」字状文と口縁部の突起の位置は対応しない。磨消縄文である。

第4類「∽」字状文のもの（第939図17）

17は、口縁は平縁で、ほぼ直立しており、体部はやや膨らみ底部から直線的に外傾している。体部中央よりやや下位に、波状に幅広の沈線文が横位にめぐり、以下は地文のみで、上位に同様の沈線文による「∽」字状文が施文されている。「∽」字状文の区画内部に縄文内部に縄文が充塡されている。文様単位は4単位である。

第5類「S」字状文のもの

「S」字状文のものには、横に流れた「S」字状文の先端と末端が連結したもの（5a類）、連結「S」字状のもの（5b類）、変形「S」字状文のもの（5c類）がある。

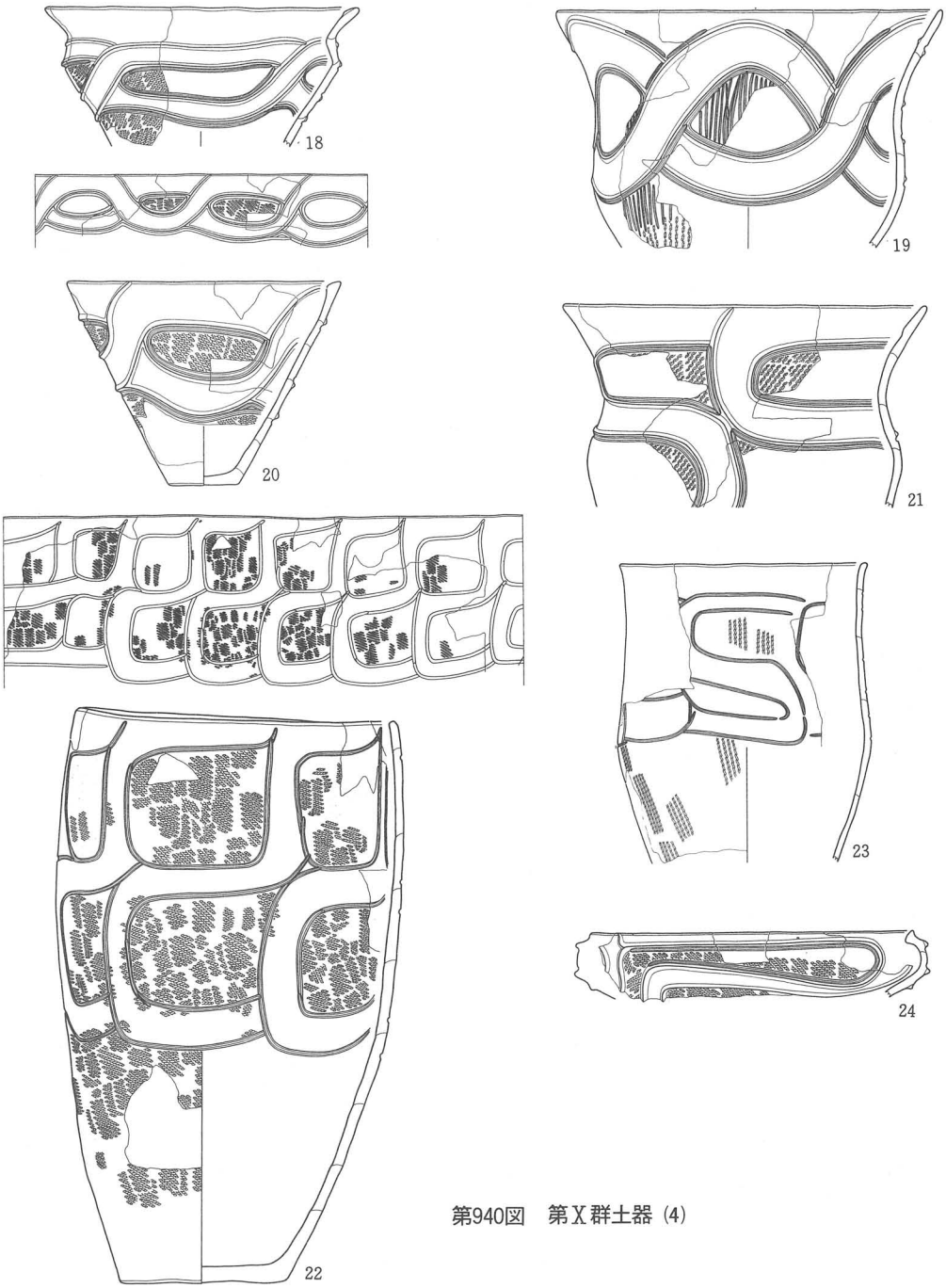
5a類（第940図18～20）

器形は、口縁部は全て平縁である。18は、体部は直線的に外傾し、頸部で屈曲し、口縁部は直線的に外傾するものである。体部から屈曲する頸部にかけて、隆沈文と隆線文による横長の「S」字状文が施文されている。屈曲した頸部より上位は無文帯になっている。体部の傾き具合から、鉢あるいは浅鉢形のものである可能性もあるものである。19は、口縁部が外傾し、体部中央部はやや丸味を持ち下部はすぼまっている。隆線文と沈線文による横に流れる「S」字状文が施されている。特に「S」字状文の頂部付近では沈線文が途切れている。また、普通地文が施される「S」字状文に挟まれた部分には、縦位のやや細目の沈線文が施文されている。20は、底部から口縁部にかけて直線的に外傾しており、口唇部内側が肥厚している。隆線文と隆沈文によって「S」状文に近い「S」字状文が施文されている。文様が「S」字状にならず波状を呈し、「S」字状文が重複しているように見える部分もある。これらの文様単位は、18及び20が4単位、19は6単位である。

5b類（第940図21～24）

器形は、口縁部は、全て平縁である。21は、口縁部が外傾し、体部が膨らむものである。隆沈文による「S」字状文が施文され、各部分で連結しているものである。22は、底部から口縁部にかけて、緩やかに内弯しながら外傾する。沈線文による「S」字状文が施文され、21と同様各部で連結している。地文は磨消縄文である。23は体部中央部がやや膨らみをもち、口縁部はほぼ直立している。細い沈線文による「S」字状文が施文され、先端部を末端部で連結して

いる。文様の施文部位は、口縁部より若干下がった部分であり、口縁部は無文帯になっている。24は、頸部で大きく弯曲し、口縁部は内傾している。隆沈文による「S」字状文が施文されており、先端部は連結している。口縁部の形状から注口が付いていたものであることも考えられる。文様帯位は21のみが明らかであり、7単位であるが、「S」字状文になっていない単位もみられる。



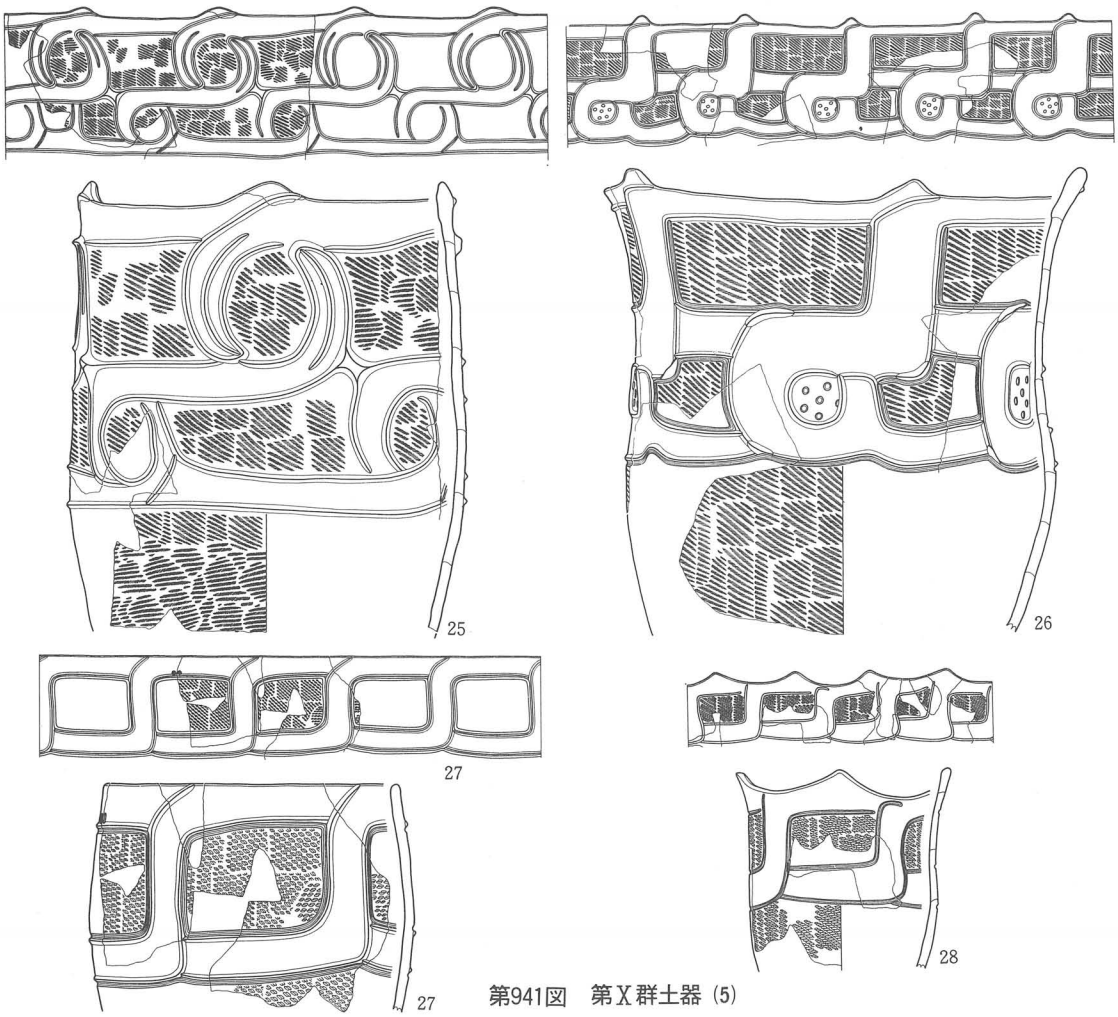
第940図　第Ⅹ群土器 (4)

5C類（第941図25～26）

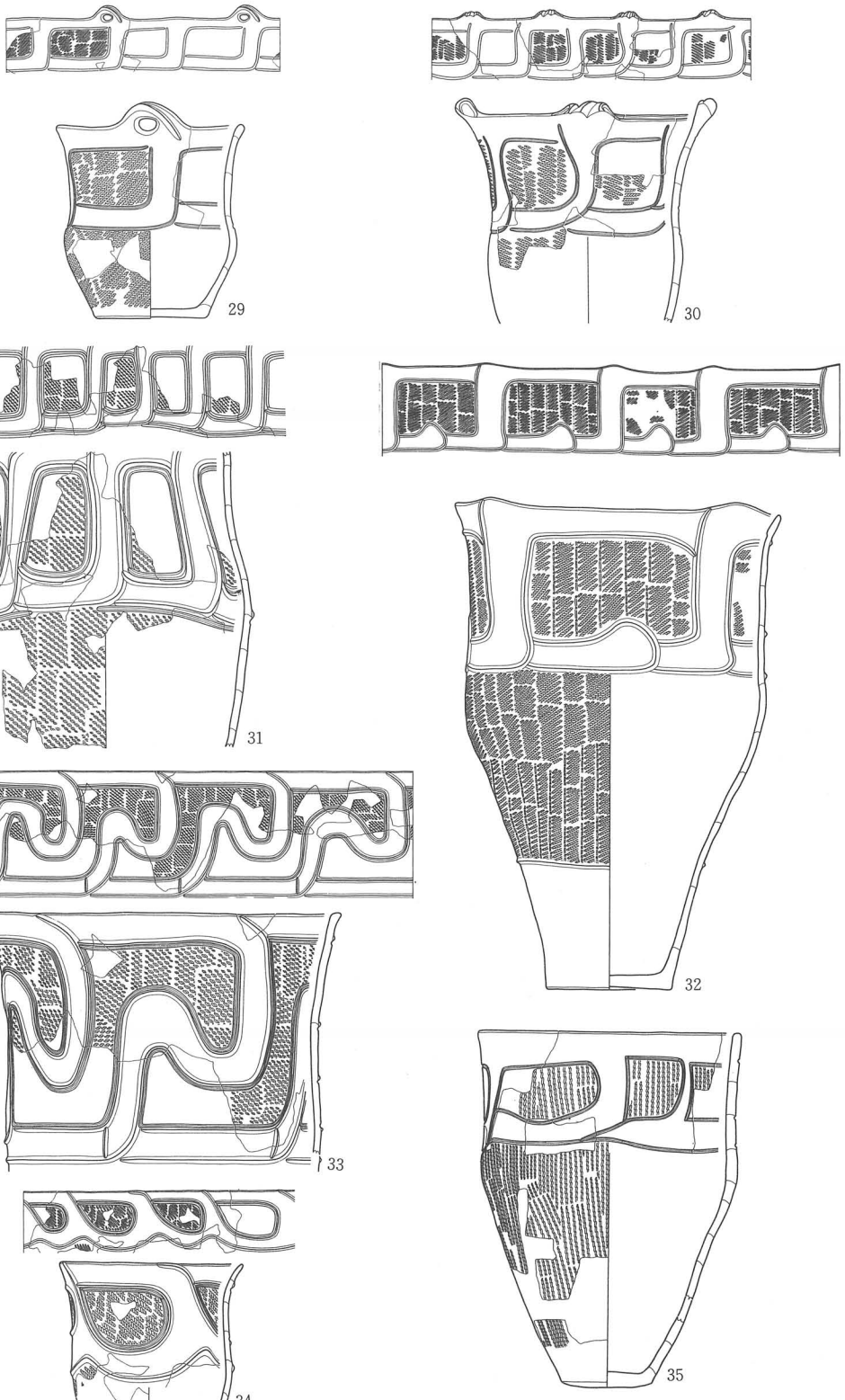
器形は、平縁で小突起が付く。25は体部から口縁部にかけてやや内弯気味になっている。隆線文によって玉抱き状の変形「S」字状文が施されており、「S」字状文の上半部には、内部に弧状の隆線文が施文されている。26は隆線文と隆沈文によって24と同様玉抱きの変形「S」字状文が施文され、隆沈文の一部が盛り上がって鰭状になっている。玉抱き部には円形の刺突文が施文されている。文様単位は、25、26ともに4単位である。

第6類「丿」状文のもの（第941図27～942図32）

器形には、平縁のものと波状口縁のものがある。27は体部から口縁部にかけて緩やかに内弯している。隆線文及び隆沈文によって「丿」状文が施文されている。文様単位は5単位であり、口縁部に補修孔がみられる。28～30は、波状口縁のもので、口縁部は外傾し、体部下半部が若干膨らみを持つ。沈線文によって文様が施文されている。29のみが6単位の文様で4単位の波状口縁と文様の位置が対応しない。31は口縁部を欠くが体部が膨らみをもっている。隆線文及



第941図　第Ⅹ群土器（5）

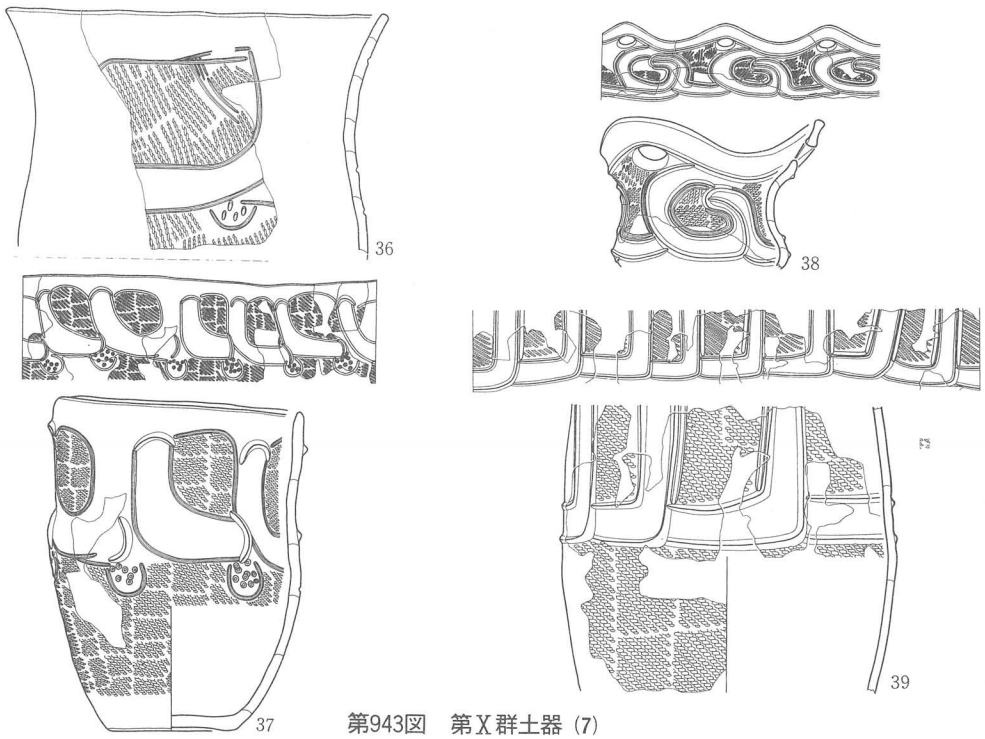


第942図　第Ⅹ群土器（6）

び隆沈文で文様が施文されており、文様単位は8単位である。32は底部から体部にかけて緩やかに外反しながら立ち上がり、体部がやや膨らみ口縁部は短く外傾している。口縁部の内側はやや肥厚している。隆線文によって「∫」状文が施文されているが、体部中央部の無文帯部分は半分に区切られている。また、体下部に横位の隆線文がめぐり、体部の地文部分と底部の無文部分を区画している。これらの土器の地文は、充填縄文のもの、磨消縄文のものの両者がみられる。

第7類「コ」字状文のもの（第942図33～943図39）

器形には、平縁のものと波状口縁のものがある。33～36は、平縁もので、口縁部が外傾し体部中央部にやや膨らみをもつものである。33、34は、隆沈文によって「コ」字状文が施文されている。33は「コ」字状文の一部が波状になっており、34は「コ」字状文が連結し、体部中央部の連結部に区画線がなく、体部中央部に波形の無文帯が形成されている。また、35・36は沈線文によって文様が施文され、36では、「コ」字状文の連結部で玉抱文が付き、内部に刺突文が充填されている。35については、口縁部の連結部に区画線がなく、口縁部は無文になっている。37は沈線文による逆「コ」字状文が施文されている。口縁部の連結部には区画線がなく、無文帯になっている。体部中央部の連結部では鰭状の隆線文によって区画され、下部に刺突文が充填されている玉抱文が付いている。また、口縁部の下部にも鰭状の隆線文が施文され、「コ」字よりも「ノ」字状文とも考えられる。6単位の文様であるが、楕円形を呈する単位もある。38



第943図　第Ⅹ群土器（7）

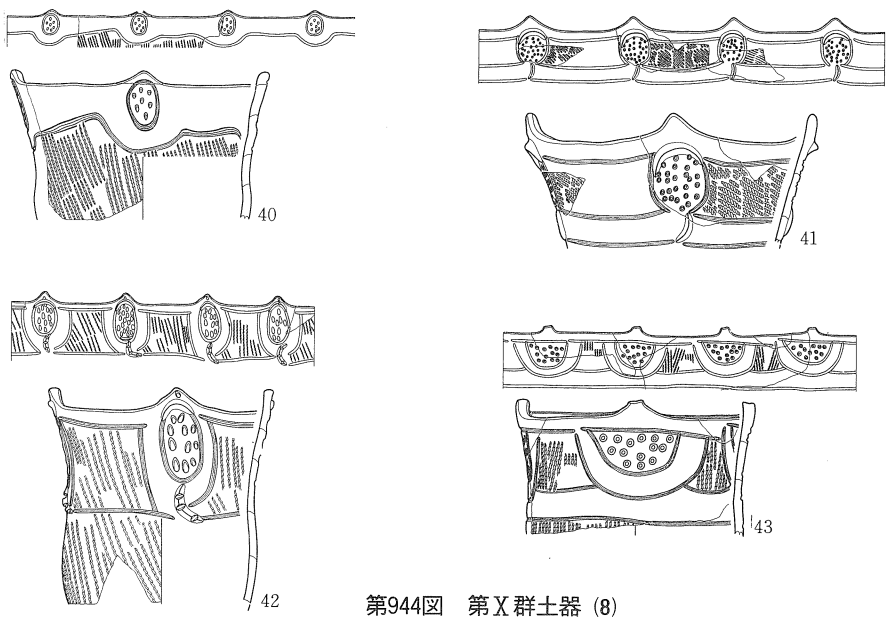
は波状口縁のもので、体部中央部が膨らみ、体部上部で大きく屈曲し、口縁部はやや内弯しながら外傾する。口縁部下部に隆線文がめぐり、口縁部は無文帯となっている。波状口縁に対応する位置に隆沈文による逆「コ」字状文が施文されているが、各部の角がなく、楕円形を呈しており、それぞれが連結している。文様の流れからこの類に含めた。文様の先端の無文部の中に、隆線文が施文されている。39は、隆線文と隆沈文によって施文されているが、口縁部がかけており、「亅」状文あるいは「コ」字状文のいずれかのものであると思われる。

第８類：縦位楕円文のもの

縦位楕円文のものは、玉抱文として「Ｓ」字状文や「Ｓ」状文、「コ」字状文に付随する形のものが多いが、文様の主体となっているものをこの類とした。縦位楕円文内部に刺突文が充塡されているもの（８ａ類）と、楕円文が「Ｕ」字状に表わされたもの（８ｂ類）がある。

８ａ類（第944図40～42）

器形は、口縁は平縁で小突起が付くものと波状口縁のものがあり、口縁部は外傾し、体部が膨らむもの（40､41）もある。40は突起部の下位に刺突文の充塡された縦位楕円文が施文され、さらに下位に、横位に沈線文による区画線文がめぐっており、上位は無文帯になっている。下位は地文のみである。41、42は鰭状の隆線文と沈線文によって縦位楕円文が施文されており、下位には鰭状隆線文が下垂している。42のものには刻目状の刺突文がみられる。41は、口縁部及び体部に横位に沈線文がめぐって無文帯を形成して楕円文を連結している。42は、沈線文によって口縁部と楕円文の外傾に無文帯を形成し、さらに体部に沈線文をめぐらせて楕円文を連結している。楕円文の外側の無文帯は、「Ｕ」字状になっている。



第944図　第Ⅹ群土器（8）

8 b類（第944図43～945図45）

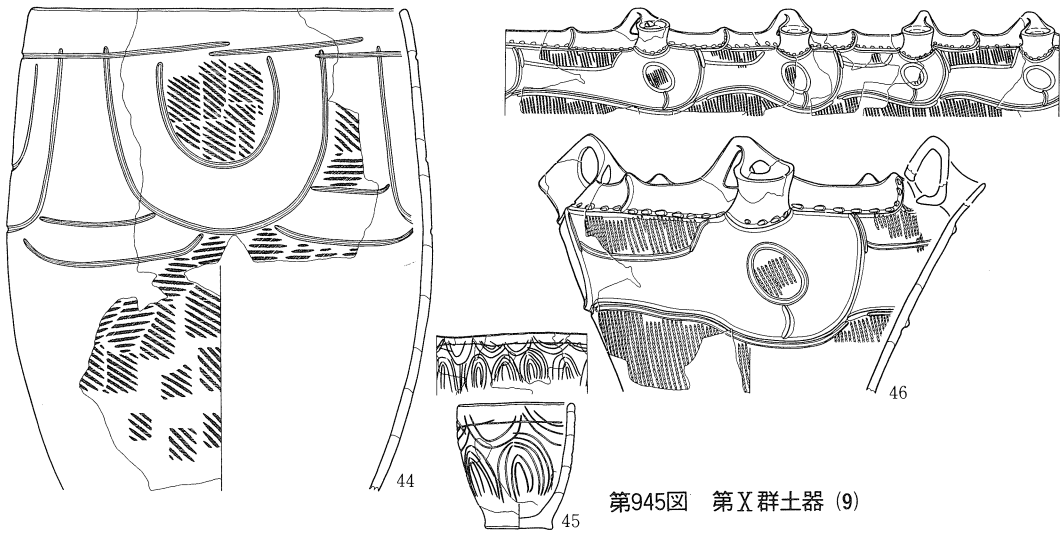
器形は平縁のもので、小突起が付くものがある。43は、口縁部はほぼ直立し、体部上部が若干くびれている。口縁部及び体部に横位の沈線文がめぐり、その間の口縁部の突起の下部に沈線文によって「U」字状の文様が施文される。「U」字状の区画の内側には刺突文が充填されている。44は、体中央部がやや膨らみ、口縁部にかけて内弯気味になるもので、口縁部に沈線文による横位の区画線をめぐらし、その下位に「U」字文を施文し、その間をまた沈線文による無文帯で連結している。45は、小形のもので、底部から体部にかけてやや丸味をもって立ち上がり、口縁部は直立するもので、口縁部は平縁である。ひっかき傷のような細い沈線によって文様が施文されている。口縁部の下部に横位の区画線をめぐらし、その下位に「U」字状文とその間に「∩」文が施文されている。地文は施文されていない。

第9類（第945図46）

45は、4単位の大波状とその間の小波状の突起をもつ口縁部で、大波状部に注口が付いているもので、体部は直線的に外傾し、頸部で「く」字状に屈曲し、口縁部は内傾している。小波状部の波頂部から下垂した隆線文が、屈曲した頸部をめぐっており、それに沿って連続刺突文が施文されている。体部には隆沈文によって「ↀ」状文が施文され、注口に対応する部分に鰭状の隆線文が施されている。

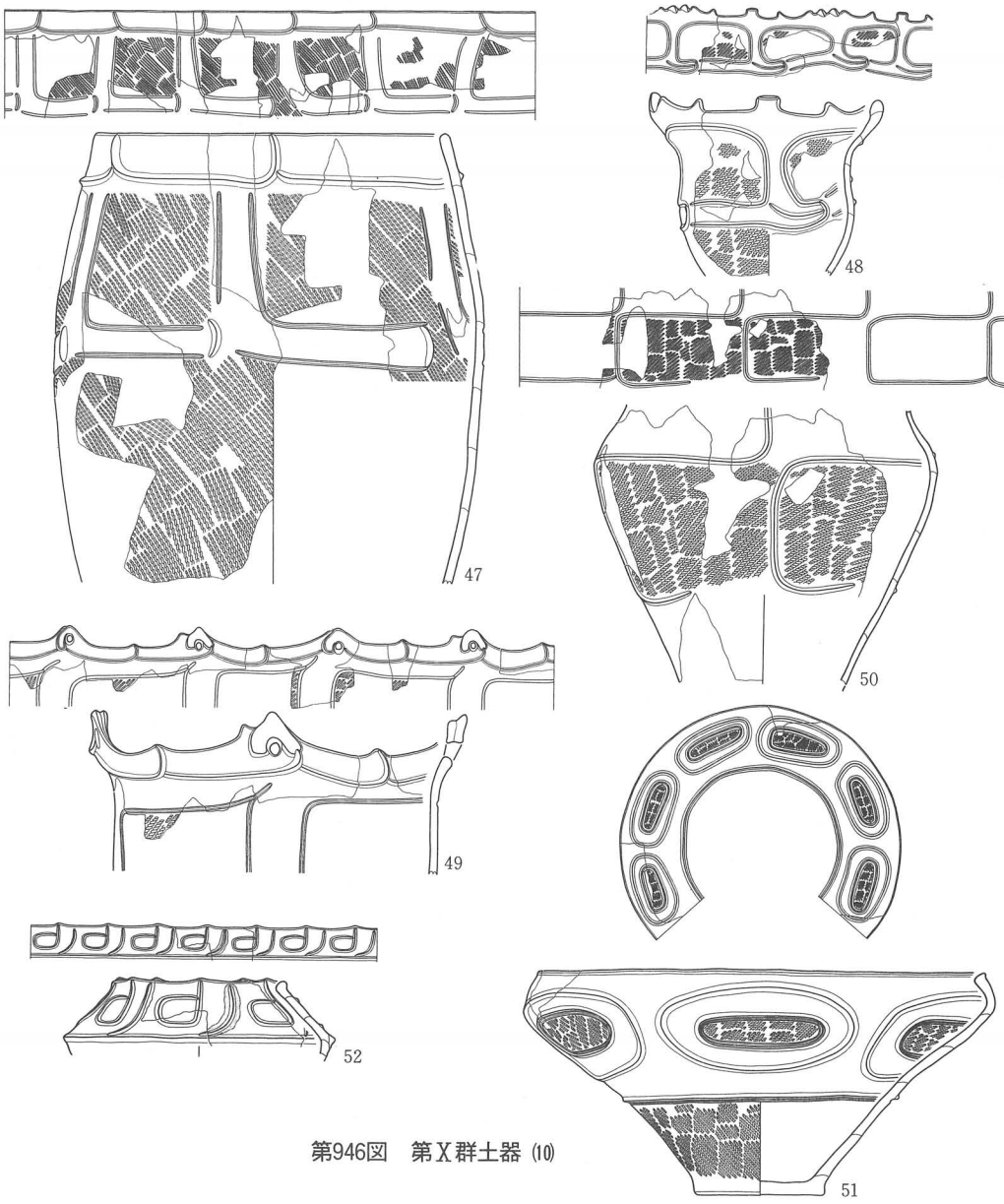
第10類：方形区画文のもの（第946図47～50）

器形には、平縁のものと波状口縁のものがあり、平縁のものは体部中央部が膨らみ、口縁部にかけて内傾するもの（47）と、体部上部で「く」字状に屈曲し、口縁部は直立気味で体部中央部が膨らむもの（48・49）、体上部が膨らみ、底部にかけてすぼまり、口縁部を欠いているが、上部にかけて内傾しているもの（50）がある。47は、口縁部から下垂した隆線文が頸部をめぐ



第945図　第Ⅹ群土器（9）

り、口縁部の無文帯を形成している。体部には、沈線文による方形区画文が施文され、連結部分に鰭状の隆線文が施文されており、方形の区画が途切れる部分もある。文様単位は6単位である。48の口縁部は、小波状の突起が連なる形の部分と、円筒形の小突起の部分がある。体部には、隆線文による方形区画文が施文されている。方形区画文の一部が隆線文によって区画され、区画された部分では、中央に隆線文が施文されている。49は、4個の大波状部とその間の小波状部による波状口縁で、大波状部には山形の貼付文を施し、穿孔している。大・小の波状部から下垂する隆線文が頸部をめぐり、口縁部の無文帯を区画している。体部には沈線文による方形区画文が施されている。50は、隆線文による方形区画文が施文されている。



第946図　第Ⅹ群土器 (10)

浅鉢（第946図51～52）

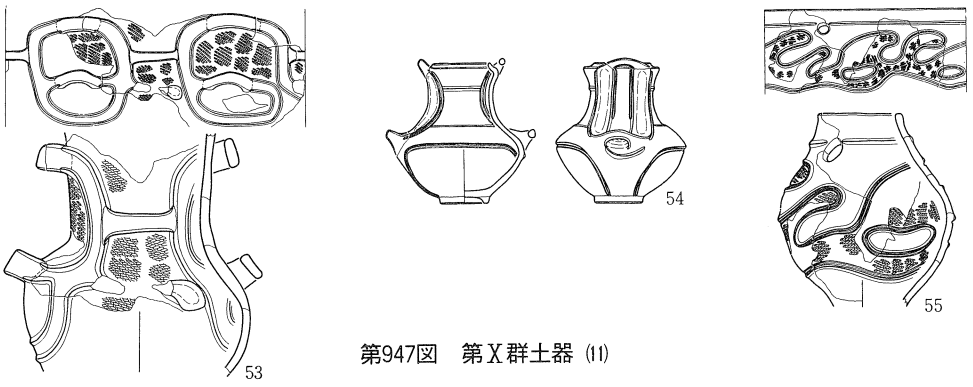
浅鉢は出土点数が少なく分類は行なわない。51は頸部で「く」字状に屈曲し、口縁部は内傾している。体部中央部に横位の隆沈文がめぐり、上位の文様帯を区画し、隆線文と隆沈文で二重に区画した横位の楕円文が施文されている。52は体部中央部で「く」字状に屈曲し、口縁部にかけて内傾する「そろばん玉」状の器形になると思われる。体部の屈曲部分に隆線文をめぐらし、口縁部から「ノ」字状に下垂する隆線文と曲線状の隆線文による文様が施文されている。

壺形土器（第947図53～55）

壷形土器についても浅鉢同様分類は行なわない。53は体部下半が球形に膨らみ、上部は円筒状を呈する。隆線文及びそれに連続する橋状把手による楕円文が施文され、体下部と上部で橋状把手によって連結している。54は小形のもので、口縁部は小さく内傾している。口縁部と体部に2対の橋状把手が付き、上下の把手の間に縦位の楕円形の文様が施文され、隆沈文によって連結されている。器面に丹塗りの痕跡がみられる。55は、口縁部の下部に隆線文がめぐり、穿孔されている。体部には、隆沈文によって「J」字状の文様と、楕円文、体下部に波形の隆沈文が施文されている。

以上のように第X群土器については、深鉢が10類に分類され、浅鉢、壷形土器も出土している。しかし、土器の出土状況をみると、竪穴住居跡出土のものについては、床面あるいは床面下の住居内施設から出土しているものは少なく、堆積土から不規則な状況で出土しているものが大部分であり、一定のまとまりをもった出土状況を示すものは少ない。東区西側遺物包含層から出土しているものと、15号住居跡から出土しているものが比較的まとまりをもって出土しているものである。それらについても以下の状況であり、共伴関係として把えることは難しい。

東区西側遺物包含層では、第1a類、第1b類、第2類、第4類、第5a類、第5b類、第9類が出土している。この遺物包含層はa・bの2層に分離できた部分があり、a層が上層、b層が下層である。そのデータから、確実に下層から出土しているのは第1a類であり、上層



第947図　第X群土器 (11)

から出土しているのは第9類である。もの他のものは出土状況から層位的に分離することはできず、混在した状況である。このことから、第9類と第1a類の前後関係が判明するのみであるが、その他の各類については、遺物包含層中に混在するという状況しか把えられず、またこの遺物包含層には後期の土器も混在しており。a・b各層に分離できなかったものについては、共伴関係を把えるのは困難である。

15号住居跡では、第5b類、第5c類、第6類、第7類、第8a類、第8b類、第10類が出土している。しかし、出土状況をみると、復元された土器については、堆積土各層から破片が出土しており、床面から出土しているものはほとんどないという状況であり、完形品に近いものは、堆積土上層段階で検出されて、堆積土各層を掘り下げても、層No.7あるいは9まで残っているというものもあり、住居跡が埋まり始めた段階で入り込んだ土器が、堆積土各層が堆積する中で、それぞれの層に破片を供給していったものと考えられ、概ね層No.7あるいは9出土のものとして把えられるものと思われる。

以上のことから、編年的な位置付けを考えると、第X群土器については大木10式に属するものであるが、現在、各地の資料の比較、分析から第I段階から第IV段階までの変遷が考えられている。10類に分類された深鉢については、第1類から第3類のものは、「J」字状文、楕円文、「C」字状文などの特徴から、福島県二本松市塩沢上原遺跡、宮城県七ヶ宿町小梁東遺跡等の出土土器に類似しており、第I段階に位置付けられる。

第4類のものは、「∽」状文を特徴としており、塩沢上原遺跡等から出土しており、第II段階に位置付けられると思われる。

第5類から第8類のものは、「S」字状文、「∫」状文、「コ」字状文、縦位楕円文を特徴としており、宮城県白石市菅生田遺跡、鳴瀬町梨木囲貝塚等の出土土器に類似しており、第II段階に位置付けられる。この第II段階の土器は菅生田遺跡出土土器の分析からA・Bグループに2分され、A→Bという変遷が考えられている。今回出土した第4類土器については、その特徴から第II段階でも菅生田遺跡Aグループ土器群よりさらに古い、第I段階に近い様相を示すものと思われる。また、第5類については菅生田遺跡Aグループ段階のものと考えられ、第7類、第8類については、菅生田遺跡Bグループ段階のものと把えられるが、これらについては、体下部をめぐる隆線文の存在など、第III段階に近い、あるいは平行するという可能性についても今後検討していかなくてはならない問題であると思われる。

第9類については、頸部の連続刺突文を伴なう隆線文及び、体部文様の特徴から、宮城県松島町西ノ浜貝塚出土土器に類似しており、第III段階に位置付けられる。

第10類については、方形区画文という特徴から、宮城県仙台市六反田遺跡、蔵王町二屋敷遺跡等出土土器に類似しており、最終段階である第IV段階に位置付けられるが、第IV段階につい

ては、その存在は指摘されているが、層位的に良好な出土状況を示す資料が不足しているのが現状であり、第10類土器についても、出土状況からは、第Ⅰ段階、第Ⅱ段階の土器と混在しており、土器群の存在を示すという資料にとどまっている。

浅鉢については、横位楕円文のものについては、第Ⅰ段階に位置付けられ、そろばん玉状の器形のものは、第Ⅱ段階に位置付けられるものと思われる。

壷形土器については、「Ｊ」字状文、楕円文のものは第Ⅰ段階に、「Ｕ」字状文のものは第Ⅱ段階のものと考えられる。

第Ⅺ群土器

東区西側遺物包含層及び土壙等から出土している。器形には深鉢、浅鉢。注口土器、壷形土器がある。

深鉢

第１類

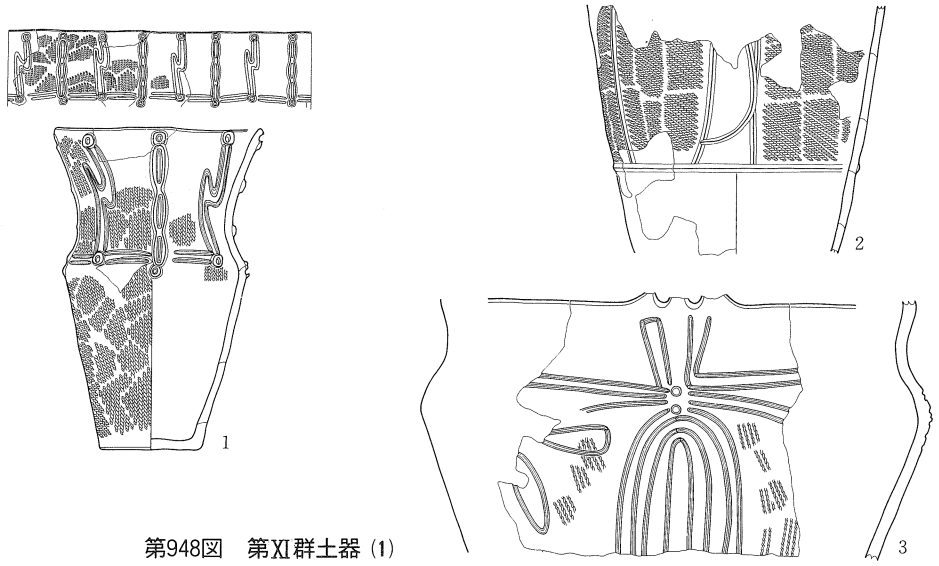
方形区画文のもので、方形区画内部の文様によって細分される。

１ａ類（第948図１）

１は、体部上半部に文様が施文され、縦位の鎖状隆線文と沈線文によって区画された方形区画内に平行沈線文による磨消文が施文される。鎖状隆線文、磨消文の端部には円形貼文が施文されている。

１ｂ類（第948図２）

２は、体下部の横位隆線文と縦位隆線文による方形区画内に、縦位の連続「Ｓ」字状文と



第948図　第Ⅺ群土器（1）

それを挟む縦位の隆線文によって文様が施文される。

第２類：頸部の横位沈線文から弧状文、蕨手文が下垂するもの（第948図３）

３は、波状口縁の波頂部に対応する部分で頸部をめぐる沈線文が途切れ、刺突文が施文され、弧状沈線文が下垂する。蕨手文、弧状文に挟まれた蕨手文が下垂するものもある。

第３類

連続「Ｓ」字状文（ジグザグ文）のもので、文様の種類によって細分される。

３ａ類（第949図４）

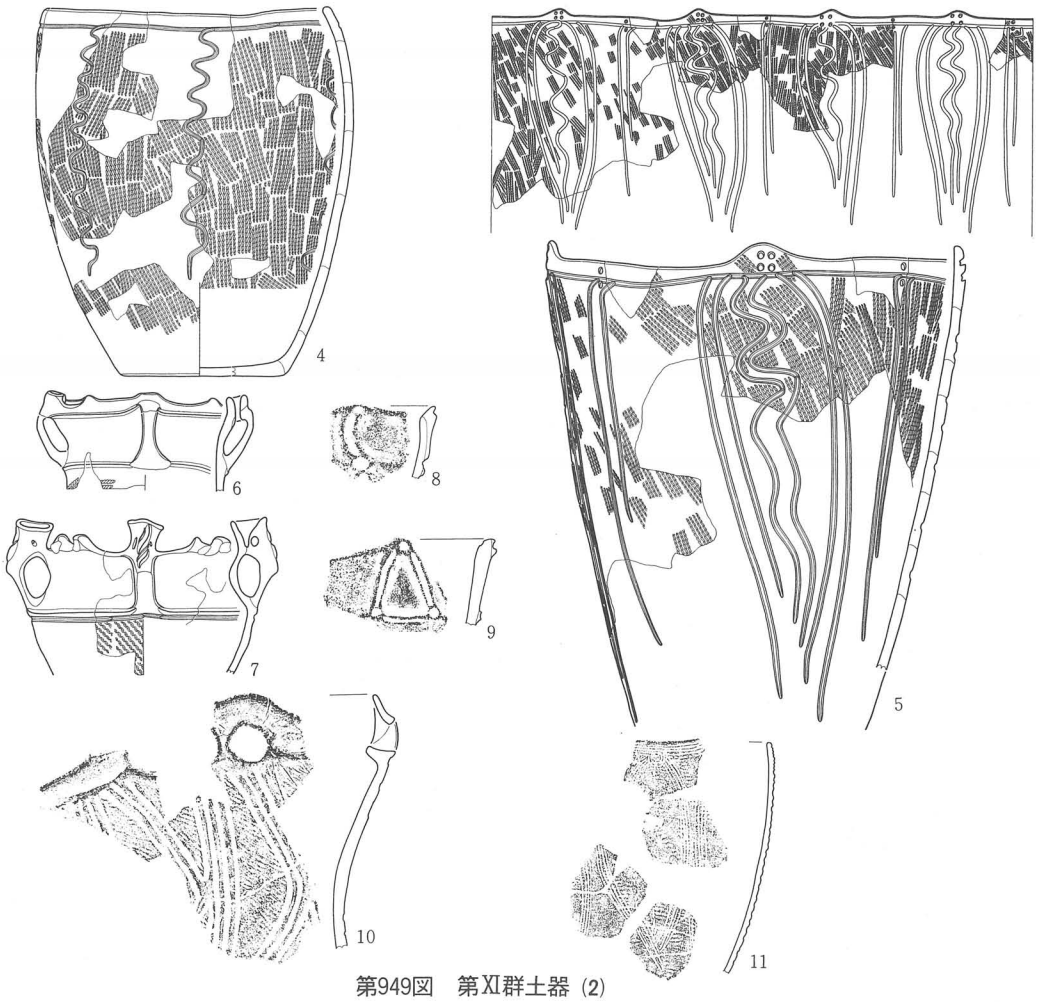
４は、頸部に横位にめぐる沈線文から、連続「Ｓ」字状文（ジグザグ文）が下垂している。

３ｂ類（第949図５）

５は、頸部を横位にめぐる沈線文から連続「Ｓ」字状文が下垂し、それを挟む弧状沈線文が下垂している。連続「Ｓ」字状文は単線のものと複数のものがある。

第４類：口縁部から頸部に縦位の橋状把手が付くもの（第949図６～７）

６、７は、波状口縁の筒形突起部分に橋状把手が付けられ、６は、把手の間に隆線文が施文



第949図　第Ⅺ群土器（2）

され、7は隆沈文が施文されている。また6は把手に斜の刻目文が施された隆線文が貼付けられている。6・7ともに頸部以下は地文のみである。

第5類：口縁部に隆沈線文による下垂文が施文されるもの（第949図8・9）

8、9は口縁部の小波状部から隆沈文が頸部の隆線に下垂している。それぞれ逆「ノ」字状三角形を呈し、端部に円形の小孔（盲孔）が付けられている。

第6類：多条化した沈線文が下垂するもの（第949図10～11）

10は頸部をめぐる隆線文から多条化した沈線文が下垂するもので、11は口縁部に横位の多条沈線文がめぐり、孤状の多条の沈線文とその間の連続刺突文が下垂している。

第7類：粘土を一方に盛り上げる連続刺突文のもの（第950図12～13）

粘土を一方に盛り上げる刺突文を12は隆線文の間に、13はほぼ器面の全面に施文している。

浅鉢（第950図14）

14は小形のもので、縦位の隆線文による区画内部に、多条沈線文によって文様を施文している。

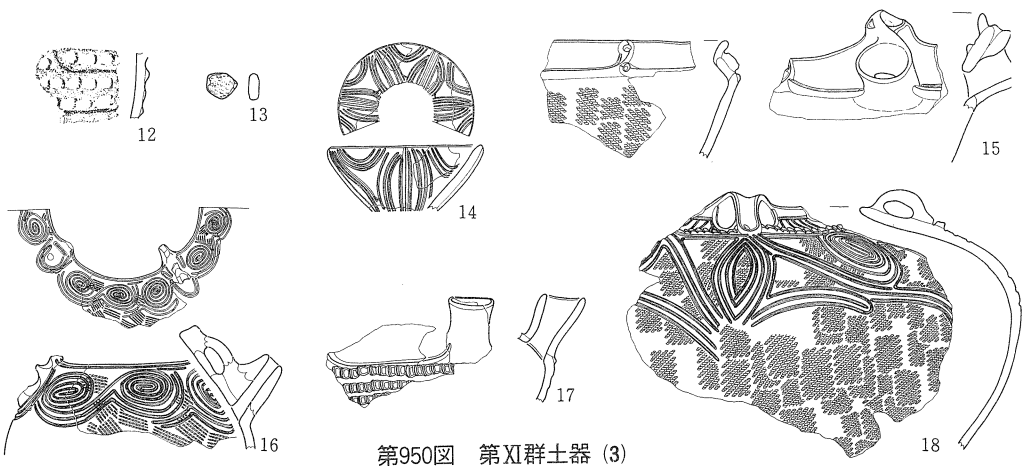
注口土器（第950図15～17）

深鉢あるいは浅鉢形のもの（15、16）と、壷形のもの（16）がある。15は、頸部に隆線文がめぐり、口縁部は無文帯になっている。口縁部から隆線文が下垂しており、両端部に刺突文が施文される。16は、頸部で「く」字状に屈曲し、15と同様に頸部に隆線文がめぐり、口縁部は無文帯になっている。体部に粘土を一方に盛り上げる刺突文による、連続刺突文が横位に数段めぐっている。17は、多条沈線文によって横位に連続した渦巻文が施されている。

壷形土器（第950図18）

頸部に橋状の把手が付き、把手下部に刻目文をもつ隆線文がめぐる。体部には多条沈線文による渦巻文とそれらを連結する文様のものである。

以上の第XI群土器は、土壙及び遺物包含層等から出土しているが、一定のまとまりをもった



第950図　第XI群土器（3）

出土状況を示す資料は、13号及び141号土壙出土土器であるが、それぞれ第２類及び第３ｂ類の単独出土に近い状況であり、その他のものは他の土器群と混在する状況であり、共伴関係が把えられる状況のものはみられない。

以上のような土器群に類似した資料は、これまで南境式として一括されてきた後期前葉の土器群の中に全て包括されてしまう。南境式については、地域性や層位的出土状況の検討から、細分、編年が試みられている。第XI群については、第１類の方形区画文をもつ土器群については、二屋敷遺跡、鳴瀬町袖窪貝塚等の出土土器に類似しており、南境式の中でも古い様相を示す土器群とされている。第３類及び第５類については、第１類土器より後出のものであり、壷形土器、及び壷形の注口土器についてもこれらと同時期と考えられる。しかし、今回の調査における第XI群土器については資料的なまとまりに欠くものであり土器群の中での変遷を十分に追うことはできなかった。

第XII群土器（第951図１～２）

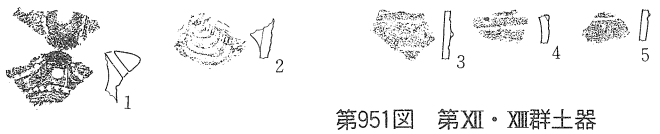
図示したものは、15号住居跡堆積土、東区西側遺物包含層から出土している。体部の小破片であり、全体の器形は不明である。突起部分に穿孔が施され、突起下部に連続刺突文が施文されるものと、細かい刺突文が施された、曲線状の隆線文が施文されているものである。

これらの特徴を有する土器は、宮城県気仙沼市田柄貝塚等から出土しており、宝ケ峰式に比定されている。

第XIII群土器（第951図３～５）

図示したものは、１号竪穴遺構から出土した３点のみである。体部の小破片のみであり、全体の器形は不明である。横位の平行沈線文を施文し、その内部に貼り瘤が付けられているものである。

これらの特徴を有する土器は、宮城県名取市金剛寺貝塚、田柄貝塚等から出土しており、金剛寺式に比定されている。



1、2　XII群土器
3～5　XIII群土器

第951図　第XII・XIII群土器

B群土器

B群土器は口縁部の区画線文の有無と種類によって第Ⅰ類～第Ⅶ類まで分類した。これらについては、その出土状況とA群土器との関係から、概ね第X群土器～第XI群土器に伴うものであると考えられる。その他の体部資料については、特徴的な地文、胎土等から第Ⅶ群土器に伴

うものであると考えられる資料を除いては、口縁部同様のことが考えられる。

土製品

土製品には蓋、土偶、耳飾、腕輪形土製品、三角壕形土製品、土製円盤、その他の土製品がある。

第48表　土製品出土数量

種別＼出土地	住居跡	土壙	遺物包含層	その他の遺構	その他の地区	計
蓋	0	2	2	1	3	8
土偶	2	2	1	1	2	8
耳飾	0	2	1	0	4	7
その他	1	7	6	3	13	30
土製円盤	172	163	427	66	228	1.056

土偶

土偶は8点出土している。図示したものは頭部1点、(980図1)、胴部2点、(187図6、914図12)、脚部3点（797図1、920図4、572図7）である。頭部は、2号溝層No.1から出土したものである。顔がやや上向きになっている。また頸部は平板状になっており、平板状の胴部に接合するものであると思われる。所謂ハート形土偶であり、顔面はやや凹んでいる。目および口は円形の刺突文で表され、鼻が高く眉につながっている。口からあごにかけては欠けている。頭部は把手状になっており、頂部に円形の刺突がみられる。顔と頸部の境に把手状の耳がつく。頸部の前面には沈線による文様が描かれ背面にも細描きの沈線による具象的な文様が描かれている。187図6は、19号住居跡から出土したものである。頭部、両腕、胴下部を欠いている。胴部が偏平であり、前面には乳房が表現されているが、他に文様は認められない。914図12は西区出土のもので頭部、片腕、胴下部を欠いている。無文である。797図1は東区西側遺物包含層出土のものである。胴上部及び片足を欠いている。胴下部は平板状になっている。無文である。

920図4は西区出土のものである。片脚のみであるが、前面に櫛目文状の文様がみられる。

572図7は242号土壙出土のもので足先の部分である。その他に図示してはないが、胴下部の破片があり、竹管状の刺突がつけられている。

耳飾

耳飾は、滑車状耳飾4点（500図10、782図6～8）、臼状耳飾3点（416図13、872図9、10）の7点出土している。782図6は、貫通孔がなく、上面に円形の刺突と隆線がみられる。500図10は199号土壙から出土しており、長円形の刺突がみられる。他の2点には上面に円形の刺突がみられる。臼状のものは、断面が「く」の字状であり、141号土壙出土の416図13に丹塗りが認められる。

腕輪形土製品

腕輪形土製品は３点(798図３、４、914図11)出土している。798図３、４の２点は東区西側包包含層から出土しており、３は厚く、器高が低くなっている。４条の平行沈線及び刺突が施されている。４は、やや薄く残存部分では４条の平行沈線文が施文されている。914図11は、西区出土のもので、最も大型のものと考えられる。５条の平行沈線及び刺突が施されている。

蓋

蓋は８点出土している。585図１と446図11はそれぞれ246号及び177号土壙から出土しており、246号土壙出土のものは、円盤形で橋状の把手がつくものと思われる。177号土壙のものは天井部が皿状である。798図１、２は東区西側遺物包含層から出土しており、２は天井部が皿状になっており、１は円盤形である。718図12は１号竪穴遺構出土のもので、中央部に円形のつまみがつく。914図13は西区出土のもので、天井部が皿状になっており、872 図12は沈線による文様が施されている。

三角壕形土製品

東区西側遺物包含層によ１点出土している。(797図２)。正面、側面、底面ともに無文であるが正面中央付近に円形の剝落部分があり、文様がつけられた箇所である可能性もある。

その他の土製品

その他の土製品は26点出土しているが、環状のもの２点、板状のもの３点、棒状のもの６点、把手状のもの１点、円盤状のもの１点、その他のもの２点を図示した。

243図３は、18号土壙出土のもので５条の平行沈線が施され、872図11は無文であるが裾部が広がっている腕輪形土製品と類似するが全体に小型であるので腕輪形土製品と区別し、環状の土製品としておく。852図１は、東区北側谷部遺物包含層出土のもので、条線文が施されている。

872図13は、Ｖ－19区出土のものでやや反っている。三角形の穿孔及び沈線文、刺突文が施されている。999図６は１号溝出土のもので沈線文及び刺突文が施されている。以上３点は板状のものである。872図14はＭ－20区出土のもので弧状を呈し、２個所の円形の貼付け部分に穿孔を施し、沈線文を施文している。634図２及び872図15は、275号土壙及びＫ－19区より出土しており、それぞれ「Ｘ」字状、「Ｙ」状の沈線文が施されている。427図１及び980図２は、148号土壙、２号溝層№１より出土しており、数条ないし１条の沈線文が施文されている。 989図５は16号溝より出土しており、一部幅が変わり、円形の隆線文が施文されている。

872図５は、Ｊ－20区出土のもので、断面長方形の四角柱状を呈し、先端部は丸味をおびてい

る。上面にはLR縄文が施文され、裾部には沈線文が施文されている。土器の把手と考えられる。

798図5は、東区西側遺物包含層出土のもので中空の円盤形を呈している。上面には円形及び三角形に1対づつ穿孔され、弧状の沈線文及び細かな刻目文が施され、側面には3条の平行沈線が施されている。裏面は半分が塞がっているが、半分が剝落しており、単独の土製品であるか。土器あるいは他の土製品の一部であるかは不明である。

215図2は、6号土壙出土のもので三角形の突起が三方に突き出ている様な形であり、その一つに穿孔がみられる。798図6は、東区西側遺物包含層出土のもので「く」の字状に曲がっており、円形の刺突がみられる。

土製円盤

土製円盤は、1057点出土している。その内訳は、住居跡出土のもの172点、土壙出土ものも163点、東区北側及び西側包含層出土のもの427点、その他の遺構出土のもの66点、各グリット、西区、表土及び不明のもの229点である。このうち住居跡出土のもの全点と、その他の出土のものの中から完形品を中心に889点掲載した。

土製円盤は、土器破片を再利用し、周縁を打ち欠いて、円形、楕円形、不整円形に成形したものと、粘土を円盤状に成形して焼いたものがある。このうち後者は、15号住居跡1層出土のもの1点が確認されている。その他は全て前者である。

大きさは直径18mm～68mm幅の中に分布し、30～39mmに集中している。重量は、2.0～62.5g幅の中に分布し、5～14.5gに集中している。

素材となっている土器片は、大部分は体部破片であり、その他は、口縁部破片2点、底部破片16点のみである。これらの土器片は、周縁部に敲打調整して、円形あるいは楕円形なに成形されている。また周縁部に敲打調整の後に研磨調整を加工しているものもみられる。

しかし遺物の保存状況が悪く周縁部の敲打調整が磨滅してしまっている資料もみられ研磨されているか不明のものも多い。

土製円盤として利用している土器片には、文様をもつもの、地文のみのもの、無文のものがあるが地文のみの土器片が多くなっている。また、胎土中に繊維を含んだ土器片利用の土製円盤も7点確認されている。

第49表　土製円盤完形品重量分布（631点）

重量	0～4.5	5～9.5	10～14.5	15～19.5	20～24.5	25～29.5	30～34.5	35～39.5	40～44.5	45～49.5	50～54.5	55～59.5	60～	g
数量	62	207	181	87	43	27	11	7	3		1	1	1	

第50表　土製円盤直（長）径分布　mm

径	～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～
数量	4	47	93	155	128	109	47	24	16	5	3

出土状況をみてみると、各遺構内及び遺物包含層中から他の土器や石器とともに出土しており、規則的に一定のまとまりをもって出土するという状況はみられない。他の遺物とともに廃棄されたものであると考えられる。

これらの土製円盤は、共伴して出土している土器の年代より、住居跡出土のものは中期末葉、土壙および遺物包含層出土のものは中期後葉から後期前葉と考えられる。また、その他の出土状況を示すものにも相違は認められなかった。

また、時期的な製作量については、菅生田遺跡の報文における指摘があり、本遺跡においても同様のことが考えられる。

土製円盤の用途については、不明な点が多いが、今回の調査の資料中に、周縁部に1対の抉りが観察されるものが8点含まれている。これらはひもかけ用の痕跡である可能性があり、土錘として用いられたものであると思われる。その他に穿孔されているもの、周縁部にアスファルト付着の痕跡がみられるもの、等の資料はみられなかった。

石器、石製品

今回の調査で出土した石器、石製品には、石鏃、石匙、石錐、篦状石器、スクレイパー、二次加工のある剝片、微細剝離痕ある剝片、ピエス・エスキーユ、ポイント、石核、磨製石斧、打製石斧、石製円盤、線刻礫、砥石、石皿、礫石器などである。

石器の分類と特徴

石鏃

石鏃は、250点出土している。そのうち、先端角及び石器の厚みについて他のものより大きく、全体的に大きめのものをB類として分離した。その他のものはA類とした。A類は225点出土している。無茎鏃が圧倒的に多く、有茎鏃は所謂アメリカ式石鏃（1点）を含めて6点しかみられず、その他に尖基鏃、円基鏃が若干みられる。B類は25点出土している。新器種の可能性が指摘されている石器に対応するものと考えられる。一部にアスファルトが付着しているものがある。

石匙

つまみ部と広い刃部からなる石器である。62点出土している。形態的に縦長の剝片を素材としているもの、横長の剝片を素材としているもの、円形の剝片を素材としているものがある。つまみ部をつくり出している抉り部分にアスファルトが付着しているものがある。

石錐

基部と錐状の先端部をもつ石器である。79点出土している。基部と先端部の区別が明確に判別できるものと、先端部にのみ加工を加えているもの、先端部が1箇所のみではなく、複数箇

所にみられるものなどがある。先端部が折れているもの、先端部が磨耗しているものなどの痕跡がみられるものがあり、中には先端部のみが残存しているものがある。また、石鏃の中には先端部分のみが磨耗しているもの、先端部がくびれて細く加工されているものがみられ、石鏃の中にも錐として機能していたものが含まれていることも考えられる。

箆状石器

箆状石器は、36点出土している。基部から刃部にかけて開き、バチ形に近い形態を示すもの、隅丸長方形のもの、基部が丸いもの、尖ったもので刃部が平坦で砲弾形に近いもの、楕円形のものなどがある。スクレイパーと区別することが困難なものもある。

スクレイパー

連続した二次加工が施された刃部をもつ石器である。337点出土している。形態的に、縦長の剝片を素材とした、長方形のもの、長楕円形あるいは楕円形のものがあり、他に円形に近いもの、砲弾形に近いもの、方形のもの、不整形なものがある。連続した二次加工が施されている部分は、片側面、両側面、端部あるいは、周縁の大部分のものもみられ、2側辺が収束した尖頭状の端部に「V」字状に、円形の端部に「U」字状に刃部をもつものもある。また、片面のみに二次加工が施されるものと、両面に施されるものがある。

二次加工のある剝片・微細剝離痕ある剝片

二次加工のある剝片は、不規則な二次加工が部分的に施された刃部をもつ石器である。1,003点出土している。微細剝離痕ある剝片は、1 mm弱の微細な剝離痕が連続、あるいは非連続に認められる石器である。1,243点出土している。いずれも、遺構内から出土しているものよりも遺構外から出土しているものが数量的に圧倒的に多くなっている。また、これらの石器には、形態的な規則性はみとめられない。

ピエス・エスキーユ

両極剝離痕と、2ケ1対の潰れ状の刃部をもつ石器である。104点出土している。形態的に方形のものが多い。

ポイント

鋭角な刃部（尖頭部）をもつ石器である。8点出土している。形態的に石鏃と区別することが困難なものがある。石鏃と同様に基部には抉りが入っているものと、円形のものがある。

石核

石核は305点出土している。これらには、母岩のものと剝片素材のものがある。中には、径1～2 cmの黒曜石の小型のものがみられる。両極加撃によって分割されたものが多く、自然面を多く残したまま二次加工を施しているものとみられるが、分割したので二次加工を施していないものも多い。また、これらの石核と同じ石を母材としたと考えられる石器は、今回の調査で

出土した剝片石器の中にはほとんどみられなかった。

磨製石斧

磨製石斧は40点出土している。法量によって大形のもの、中形のもの、小形のものに分けられる。大形のものは長さが15cm を超すもので 2 点あり、蛇紋岩製のものと安山岩製のものであり、蛇紋岩製のものは、13号土壙から出土しており、後期前葉のものと考えられる。中形のものは一般的なものであり、撥形のもの、短冊形のものなどがある。横断面は楕円形に近いものや隅丸長方形に近いもの、長方形に近い扁平なものもある。刃部は両刃のものが多いが、片刃と思われるものもみられる。また、刃部の片側面側のみが磨り減っているものもみられる。基部付近が剝落しているもの、基部の端部に敲打痕がみられるものがある。また、火熱を受けているもの、擦痕が一部あるいは、ほぼ全面にみられるもの、極一部にのみ磨面が残存し、ほぼ全面に敲打痕がみられるものもある。小形のものは 3 点出土している。撥形のもので断面形は楕円形に近い。擦痕がみられる。

打製石斧

打製石斧は 5 点出土している。形態的には、撥形に近いもの、楕円形に近いものなどがあるが、側面に抉りをもつ分銅形のものなどはみとめられない。基部に擦痕のあるものや刃部が丸くなっているもの、擦れているものなどがある。側縁部や剝離面の稜線に敲打痕がみられるものがあり、打製石斧の未成品である可能性もある。

石製円盤

石製円盤は11点出土している。扁平礫の周囲を打ち欠いたもの、磨石を転用したものなどがある。直径 5 cm 前後、重量35g 前後のものが多くなっている。中央部に穿孔されたものや、側縁に対をなす抉りをもつものなどはみられない。

石皿

石皿は50点出土している。定形的なもので上面が受皿状のものと、扁平礫を用いて、上部の平坦面が受皿状になるものがある。前者のものは、16点出土している。平面形は楕円形、あるいは円形のものがある。中央の皿状の部分をとり囲むように周縁部が高くなっている。また、大形のものと小形のものがあり、小形のものの中には、下面に脚が付けられているものがある。後者のものについては、平扁な礫の上面を用いており、広範囲の磨面がみられるものである。中には両面に磨面のみがみられるものがあり、いずれも周縁部が高くなっているものはなく、平坦部のみである。火熱を受けた痕跡のみられるものが多い。

礫石器

礫石器は、礫の表面に凹痕、敲打痕、磨痕が観察されるものである。それぞれの痕跡が単独で観察されるものもあるが、1個の石器で複数の痕跡が観察されるものが多い。凹痕のみが観

察されるものは210点出土しており、凹みの他に敲打痕がみられるものは42点、磨痕がみられるものは74点、敲打痕と磨痕がみられるものは23点である。形態的には、円形と楕円形のものが多いが、棒状のものもみられる。断面形は、楕円形のものが多いが、円形のものや扁平のものもみられる。凹痕の位置は、片面にみられるもの、両面にみられるものがあり、後者の方が多くなっている。凹痕については、平面形が円形あるいは楕円形のもの、不整形のものがあり、断面形は「U」字状あるいは「V」字状の深い凹みとなっているものもあるが、浅い皿状の凹みのものが最も多い。また、これらの凹みは、石器に一個だけではなく、複数個みられるものが多い。敲打痕がみられるものは、片端部及び両端部、片側面及び両側面にみられ、磨痕は片面あるいは両面にみられ、それぞれ組み合っている。磨痕のみが観察されるものは、161点出土している。磨痕の他に敲打痕がみられるものは17点である。磨痕は、石器面の全面にみられるもの、片面あるいは両面、端部、側面にみられるものがある。形態的には球形に近いものもみられる。敲打痕のみが観察されるものは38点出土している。ほぼ全面に敲打痕がみられるもの、片面あるいは両面、端面、側面にみられるものがある。敲打痕についても一様ではなく浅いものや深いものなどがある。礫石器については、形態的には共通するものが多いが、敲打痕のあるものについては棒状あるいは長楕円形のものが多く、磨痕のあるものは球形に近い形態のものがやや多くなっている他、2000g を超すものがあり、石皿様の機能を持ったものがあることも考えられる。

その他の石器・石製品

その他の石器として、剝片石器では、15号住居跡の堆積土中より所謂トランシェ様石器に類似したもの（第147図１）が出土している。

石製品としては、有溝砥石と考えられるものが出土している。その他に、祭祀的なものと考えられる石棒、石剣、珪化木製の石刀が出土している。石剣、石刀については、中期末葉に位置付けられる遺構から出土している。また、玦状耳飾り、線刻礫が出土している。

（２）縄文時代の遺構

縄文時代の遺構は、竪穴住宅、土壙、竪穴遺構、埋設土器がある。ここでは東区の遺構についてまとめる。

竪穴住居跡

今回の調査で検出された縄文時代の住居跡は30軒である。このうち掘り込み精査を行ったのは22軒である。ここではその22軒について取り上げ、住居跡の規模・平面形・周溝・柱穴・炉・埋設土器についてまとめてみたい。しかしながら、遺構の現状保存のため、住居跡の床面下の

第51表　東区検出竪穴住居跡一覧表

（単位m）

No	平面形	規模	用溝	柱穴	炉		備考
1	円形基調	(径4.2)	1条	不明	不明		
2	円形	5.95×5.82	2条	4個及び6個	1号	複式炉(土器埋設石囲部、敷石石組部、掘り込み部)2.65×1.6	
					2号	上面確認のみで未精査(3.15？×1.25)	
3	不明	不明	不明	不明	複式炉(土器埋設石囲部、敷石石組部、掘り込み部)2.12×？		
4	円形基調	3.85×3.6	1条	4個	複式炉(土器埋設石囲部、敷石石組部？掘り込み部？)1.97×0.94		
5	円形基調	4.75×4.42	2条	3個及び4個	複式炉(土器埋設石囲部、敷石石組部？掘り込み部？)2.28×1.15		
6	隅丸方形基調	4.1 ×3.95	2条	4個及び5個	複式炉(土器埋設石囲部、敷石石組部？石組部？)1.8×0.95		
7	隅丸方形基調	5.2 ×4.9	2条	5個2組	複式炉(土器埋設石囲部、敷石石組部、掘り込み部)2.28×1.18		
8	円形基調	(径4～4.4)	2条	不明	複式炉(土器埋設部、敷石石組部、掘り込み部)1.83×1.3		
9	円形	3.45×3.35	1条	3個	複式炉(土器埋設石囲部、敷石石組部、石組部)1.45×0.85		
10	円形	4.75×4.7	1条	4個	複式炉(土器埋設石囲部？敷石石組部、掘り込み部)2.2×1.7		
11	円形基調	(径5.2～5.5)	1条	不明	複式炉(土器埋設石囲部、敷石石組部、掘り込み部)2.2×1.2		
12	不明	不明	不明	不明	複式炉(土器埋設石囲部、敷石石組部、掘り込み部)1.55×1.25		
13	円形基調	(径4.8～5.5)	1条	5個	複式炉(土器埋設石囲部、敷石石組部、掘り込み部)2.1×1.0		
14	円形	4.2 ×3.8	1条	4個or5個	複式炉(土器埋設石囲部、敷石石組部、掘り込み部)1.75×1.0		
15	円形	5.7 ×5.25	不明	不明	上面確認のみで未精査(1.25×0.7)		床面敷石
16	円形基調	(径4)	1条	3個？	複式炉(土器埋設石囲部、敷石石組部、掘り込み部)1.85×0.8		
17	不明	不明	不明	不明	複式炉(土器埋設部？敷石石組部？)1.08×0.83		
18	隅丸方形基調	(径3.5～3.8)	1条	不明	複式炉(土器埋設部？石組部)0.75×0.58		
19	楕円形	5.5 ×5.0	1条	3個？	1号	複式炉(敷石石組部、掘り込み部)1.5×1.0	床面敷石
					2号	複式炉？(土器埋設石囲部)1.2×？	
					3号	上面確認のみで未精査(1.1×0.85)	
					4号	上面確認のみで未精査(1.55×1.0)	
					5号	上面確認のみで未精査(1.2×0.8)	
20	円形基調	(径3.8)	1条	不明	複式炉(土器埋設部、敷石石組部、掘り込み部)1.8×0.95		
21	円形基調	(径4.5)	2条	不明	複式炉(土器埋設石囲部、敷石石組部、掘り込み部)2.8×0.7		
26	円形基調	(径5.0)	1条	不明	不明		

掘り込み精査を極力行なわずに埋め戻すという処置をとったため、掘り方や貼床の有無、柱穴の掘り方の検出、炉の構築方法等明らかにし得なかった点もあり、そのために、集落内において同時期に存在する単位数を把握するまでには至らなかった。

〔平面形〕

ここで円形・楕円形としているものは、便宜的に長軸と短軸の差が1割未満のものを円形、1割以上のものを楕円形とした。

平面形が判別できる住居跡は、周溝の残存部から推定できるまでを含めて19軒である。そのうちの16軒は、円形を基調としたものであると考えられる。円形を基調としたものには、円形のもの5軒、楕円形のもの1軒、周溝の残存部から円形基調と推定されたもの10軒がある。また、平面形の一部が直線的に見え、円形基調のものか、隅丸の方形を基調としたものか判別しかねるものが3軒認められる。

〔規模〕

住居跡の一部が削平や攪乱等で残存しないものでも、直交する2本の軸が判明するものは取り上げる対象とした。面積によって大型・中型・小型に分けられる。

大型のもの（面積が20m² を超えるもの）……2号、7号、15号、19号住居跡

中型のもの（面積が15m² を超えるもの）……5号、10号住居跡

小型のもの（面積が15m² 以下のもの）……4号、6号、9号、14号住居跡

〔周溝〕

炉のみしか検出されない3号、12号、17号住居跡と床面精査を行なっていない15号住居跡を除いて、他の18軒の住居跡では、全て周溝が検出されている。このうち拡張された住居跡が4軒あり、それらを加えると22軒となる。周溝には、住居跡を全周するものと炉の部分で途切れるもの、全周するか途切れるか不明なものがある。

全周するもの……9号、18号住居跡

炉の部分で途切れるもの……2号（拡張前、後）、4号、10号、14号、16号、19号、20号、21号住居跡

その他の住居跡は削平等により、周溝が全周するか途切れるか不明のものである。

また、周溝の機能を明確に示していると思われる痕跡はほとんど認められなかったが、堆積土最下層に砂粒が含まれたりすることから、水がはいっていたり、水が流れたりした痕跡である可能性があり、床面の冠水を防ぐ排水のための施設であったことが考えられる。

〔柱穴〕

柱穴と考えられるピットが検出された住居跡は11軒である。このうち拡張された痕跡が認められた住居跡が4軒あり、それらを加えると15軒となる。柱穴の組み合わせから、3本柱、4本柱、5本柱、6本柱の4種類の住居跡が考えられる。

3本柱と考えられる住居跡……5号拡張以前・9号・16号・19号の各住居跡。

4本柱と考えられる住居跡……2号拡張以前・4号・5号拡張以後・6号拡張以前・7号拡張以前・10号の各住居跡。

5本柱と考えられる住居跡……6号拡張以後・7号拡張以後・13号の各住居跡。

6本柱と考えられる住居跡……2号拡張以後の住居跡。

また、4本柱あるいは5本柱の可能性のある住居跡（14号住居跡）もある。全て炉を基準とした配置が考えられるものである。

前述しているように、床面下の精査を行なっていないため、柱穴が検出されていない住居跡あるいは、柱穴の数・配置・組み合わせが明らかでない住居跡が存在する可能性もあり、上記4種類の住居跡についても、必ずしも明確なものではない可能性がある。

〔炉〕

20軒の住居跡で炉が検出されており、炉が検出されていない住居跡は、1号、26号住居跡の2軒のみである。炉の総数は25基あり、住居跡内で重複関係が認められるものは、2号住居跡（2基）と19号住居跡（5基）である。

方向

炉の方向は、N－16°－E（9号住居跡炉）からN－60°－W（10号住居跡炉）の範囲内におさ

まるものが多く、この範囲から外れるものは、13号住居跡炉、19号住居跡２号・４号・５号炉及び21号住居跡炉の５基のみである。また、N－30°－W から N－60°－W の範囲内には13基と特に集中している。また、N－16°－E から N－22°－W の範囲内には７基集中している。このことから、炉の方向は北西方向を指すものが最も多く、北方を指すものが次に多いということになる。これは、炉の付設される位置が住居跡内部の南東部及び南部に偏していることに強い対応関係があるものと思われる。

構造

今回の調査で検出された炉、25基のうち掘り込み精査を行なったものは20基であり、全て複式炉である。それぞれの炉を構造的に分類すると次の４タイプに分けられる。

第１類：土器埋設石囲部・敷石石組部・掘り込み部からなるもの（２号・３号・７号・８号・10号・11号・12号・13号・14号・16号・21号住居跡）

第２類：土器埋設石囲部・敷石石組部・石組部からなるもの（９号住居跡）

第３類：土器埋設部・敷石石組部・掘り込み部からなるもの（20号住居跡）

第４類：敷石石組部・掘り込み部からなるもの（19号住居跡１号炉）

なお、４号・５号・６号住居跡の炉は、土器埋設石組部のみが残存しており、敷石石組部と掘り込み部あるいは石組部から構成されていると考えられ、第１類あるいは第２類に属するものであると思われる。17号住居跡炉は土器埋設部、掘り込み部が残存しているが、掘り込み部の底面に礫が散在するという状況であり、埋設土器の周りの石組部と敷石石組部が削平を受けたものであるとも考えられ、また、18号住居跡炉も土器埋設部、石組部が残存するが、埋設土器の周りの石囲部と石組部内の敷石が存在した可能性もあり、17号住居跡炉、18号住居跡炉とも掘り込み部が削平されていることも考えられ、どのタイプに属するか不明である。19号住居跡２号炉については、土器埋設石囲部は残存するが他の部分は同住居跡１号炉に削平され、不明であるため、どのタイプに属するかは不明である。

〔床面敷石〕

床面に扁平な石が敷かれていた住居跡は、15号住居跡と19号住居跡の２軒検出されている。２軒の住居跡の敷石にはそのあり方において違いが認められる。15号住居跡においては、炉の周囲についてのみ敷石がみられ、19号住居跡では床面の周辺部分にのみ敷石がみられる。19号住居跡では、本来は床面の中央部分に円形ないしは方形に扁平な石が敷かれていたが、中央部分の敷石が残存せず、周辺部分の敷石のみが残存していたという可能性もある。

〔住居跡の分布と変遷について〕

今回の調査で検出された竪穴住居跡は東区及び西区で合計38軒である。これらの分布状況をみると、舌状に張り出した段丘上の東端部から南辺部分に集中して分布している状況は前述の

とおりであるが、調査区の、東区と西区の中間部分付近には竪穴住居跡の分布がみられず、東寄りと西寄りの二箇所に分かれて分布している状況が看取できる。これは東区の南西部分に竪穴住居跡以外の遺構が非常に数多く分布しており、竪穴住居跡が建てられる場所と、機能的に分かれており、調査区中央付近南寄りに竪穴住居跡の構築を規制するものがあったとも考えられるが、一方で同時期の存在ではなく、時期的な相異によることも考えられる。特に1時期の竪穴住居跡の単位数について、今回の調査では、竪穴住居跡の構築時期について各々明らかにすることができなかった。1型式内の時期の集落についても、数軒単位の住居跡が何度か建て替えをくり返しながら集落内を移動することも明らかにされつつある。このことについて、今回の調査においては、集落内での遺構―特に竪穴住居跡についての時期的な小単位のグルーピングや変遷について明らかにすることができなかった。今後の調査によって、以上の不明な事項や詳細について解明されることを期待したい。

土壙

今回の調査で検出された、縄文時代以外であることが明らかな土壙を除いた328基の土壙は、第1～第4類に分類された。ここでは分類された各類について、形態、分布状況、考えられる機能等についてまとめたい。

第1類

第1類の土壙は、いわゆる「フラスコ状」土壙である。底面のピットの有無によってa、bの2類に分けられる。それぞれ41基、19基である。分布状況をみると、調査区北東部に1a類が7基分布している他は、調査区中央部から南半部に多く分布している。竪穴住居跡の分布域との関係が強く、竪穴住居跡の付近に多く分布するという傾向が認められている。特に調査区南東部の南側に緩やかに傾斜している部分に集中しているが、同類の土壙同士が重複関係にあるものは少ない。

形態については、上端の平面形及び下端の平面形は、円形、楕円形あるいは、それらを基調としたものであり、中には極端な楕円形のものもみられる。ほとんどが、上端の平面形と下端の平面形が相似形をなしている。断面形は、底面から上端部に向かって狭くなるフラスコ状を呈している。壁がオーバーハングしているものと、オーバーハングが認められず円筒状を呈するものがあり、壁の崩落等により、上端部が崩れ、フラスコ状のものが円筒状になってしまい遺構の原形を留どめているものは少ないと思われる。また、土壙底面にピットをもつもの（1b類）が19基認められ、2個のピットを有する土壙は1基のみ（291号土壙）である。他には底面に溝状の凹みをもつものが若干みられるのみであり、その他に付属の施設をもつものはみられない。

規模については、底面径で65～237cmの範囲内に入り、130～180cmの範囲の入るものが多く

なっている。また、平面形が楕円形のものは、長径が120～330cm、短径が75～192cmである。深さは、15～108cmの範囲内に入り、40～70cmの範囲に入るものが多くなっている。また、b類における底面のピットの規模については、径10～80cm、深さ8～55cmとまちまちであり、土壙の規模との相関関係はみられない。

堆積土については、自然堆積のものが一般的であり、人為的に埋め戻されたような状況を呈するものはごく少数である。また、堆積土中に焼土や炭化物が混入しているものは多くみられるが、底面に土器が置かれた状態で出土したものや、植物の種子等がまとまって出土したものはみられなかった。

全体的に出土遺物は多くないが、出土遺物、他の縄文時代の遺構との切り合い関係、位置関係等から所属時期を推定できるものがある。

中期初頭に位置付けられるものとして、1号、3号、4号土壙の3基がある。

中期末葉に位置付けられるものとして、16号、49号、56号、61号、72号、80号、100号、101号、105号、110号、111号、114号、140号、154号、186号、189号、190号、231号、241号、244号、258号、261号、281号、300号、315号、319号の28基の土壙がある。

後期初頭に位置付けられるものとして、166号、170号、282号、305号の4基の土壙がある。

その他のものは、出土遺物から所属時期を特定できないものである。それらについては、形態について、大きな差異は認められず、また、分布域については、中期初頭のものは、調査区の北西隅に認められるのみであり、中期末葉から後期初頭にかけてのものは、調査区の北東部分を除くほぼ全域に分布しているということから、中期末葉から後期初頭に位置付けられるものが多いと思われる。

土壙第1類の機能については、今回の調査では、それを十分に裏付けられるだけり資料はみられず、明らかではない。しかし、これまでの研究成果により、植物性食料の貯蔵施設、埋葬施設等の見解が出されている。今回検出されたものには、底面あるいは堆積上下部から種子等の自然遺物は検出されていないが、炭化物が検出されているものがある。また、底面にピットが付設されているものについては、柱穴と考えられ、上屋構造をもつと考えられているものがある。これらの土壙の分布域には、竪穴住居跡の分布域と密接な係わりがみられ、特に調査区南東部では、竪穴住居跡にとり囲まれるように分布している。これらのことから、植物性食物の貯蔵施設である可能性は高いものと考えられる。その他に、墓壙と考えられる土壙は、堆積土の状況、遺物の出土状況、珪化木製の石刀が出土している点、他の土壙の分布域からはずれたところに位置している点などから、調査区中央部やや北寄りに位置する23号土壙が取り上げられる程度であるが、それについても確証はない。また、調査区中央部の北東寄りに位置する27号土壙では、堆積土中に粘土が詰め込まれたような状況が観察された。これについては、土

器製作等に用いるための粘土の貯蔵施設である可能性が指摘されている。(註)

註：佐藤　洋氏の御指摘であり、同氏の御教示によると、千葉県内に粘土貯蔵施設である土壙の検出例がある、とのことである。

第2類：第3類

第2類、3類の土壙は、いわゆる「Tピット」「落と穴」「溝状土壙」等と呼称されるものである。第2類の土壙は2基のみの検出であるが、第3類とした土壙と、規模、形態において、深さ以外に差異はみられず、第3類土壙については、本来第2類に含まれるべきものが、後世の削平により、深さが浅くなってしまったものが多く含まれているものと考えられる。そこで、ここでは第2類、3類土壙と併せて考えたい。第3類の土壙については、底面のピットの有無によってａ、ｂの2類に分けられる。3a類は3基、3b類は14基検出されている。

調査区内での分布状況は、第2類は2基だけであり、散在の状況を呈しているが、第3類については、調査区中央部の東西方向に延びる、標高が最も高くなっている、緩やかな尾根状を呈する部分の南辺側に多く分布しており、南側、北側の斜面、あるいは尾根状の部分をはずれた部分の分布は少ない。

形態については、平面形は、長方形、長楕円形あるいはそれらを基調としたものである。断面形は、壁が底面から垂直に近い急角度で立ち上がり、壁面の中位から上端にかけて広くなるという形態を示している。また、底面にピットをもつ3b類については、ピットの数は全て1個であり、複数個のものはみられない。このピットは土壙底面に立てた杭の痕跡と思われる。

規模については、長辺あるいは長径が69～164cmの範囲内に入り、110～130cm前後ものもが多くなっている。短辺あるいは短径では43～93cmの範囲内に入り、60～80cm前後のものが多くなっている。また、深さについては第2種の2基がともに166cmと第3種の21～88cmの約2倍以上の深さを有している。また、底面のピットについては径11～32cm、深さは11～59cmとまちまちである。底面からほぼ垂直の角度で穿たれているものと、斜方向に穿たれているものがある。ピットの先端部が細くなっているもの、円筒形のもの、丸くなっているものがある。これについては、土壙底面の杭を立てる際に、杭を打ち込んだものと、掘り方を掘った後に杭を据えたものの痕跡である可能性がある。

これらの土壙は、第2類の2基と3a類の14号、37号土壙を除いた16基についての配列の状況をみると、全て東西方向に延びる尾根線上部から南側に分布しており、特に尾根線先端部の調査区東端付近から、調査区中央部へ向かって南北あるいは、東西方向に2基が1セットとなって3ｍ程度離れて並び、それらが10～12mの間隔で、6セットまでの配置が観察される。これ

らの土壙の方向については、長軸方向が南―北方向のものが多く、したがって、調査区東端近くの尾根線先端部では、土壙長軸方向が等高線に沿ったような配置になっているが、調査区中央部付近では、等高線に直交するような配置になっている。

この形態の土壙の機能については、これまで、墓壙、貯蔵穴、狩猟における「落し穴」などの説が出されているが、現在のところ、堆積土中から獣骨が検出された例、底面に付されたピットから杭の基底部が検出された例などが報告されており、狩猟における「落し穴」と考えることが妥当であると考えられる。

所属年代については、遺構の性格上、遺物の出土が少ないため明確にならないものが多いようであるが、今回の調査で検出されたものについては、2類の13号土壙で、底面に近い堆積土下部から上部にかけて、中期末葉から後期初頭にかけての遺物が多数出土している。構築された位置が、東区遺物包含層の西側にあり、遺物包含層の土器が流れ込んだような状況を呈しており、遺物包含層が形成された時期に極めて近い時期に構築したものと考えられる。また、他のものについても、特に配列をなして検出されたものは、集落の東端部近くから中央部にかけて検出されており、他の縄文時代の遺構と重複関係にあるものも多い。これらの多くは、他の遺構より新しいものが多く、集落の時期（中期末葉から後期初頭）より、やや新しく、集落が廃棄された後に構築されたものが多い、と考えることができる。このことから、調査区中央部東西方向に延びる尾根線上が、けもの道となっていたことが想定され、けもの道を横切る方向に長軸を設定した土壙の配置が考えられる。しかし、中には、重複関係にある縄文時代の遺構よりも古いもの、他の遺構と重複関係にないものなどもあり、全てが集落より新しい時期のものとは考えられず、単なる狩猟のための「落し穴」であるという点には、検討する余地があるように思われる。集落あるいは竪穴住居跡と同時期のものがあると考えた場合、竪穴住居跡に近接して構築されており、狩猟以外の目的―獣等から集落あるいは、竪穴住居跡を防御する目的で構築された施設である可能性も考えられる。

第4類

第4類とした土壙については、最も数が多く、形態的にも多様である。しかし、形態的には前述の第1類から第3類と異なってはいるものの、機能的には、第1類の「貯蔵穴」や狩猟のための「落し穴」が含まれていることは十分に考えられる。また、土壙の堆積土の状況や、埋葬時に副葬されたものと考えられる遺物の出土状況がみられるものは、前述の23号土壙にその可能性がある他には、明確な根拠がなく、確認することができなかった墓壙についても、第4類とした土壙の中に含まれていることも考えられる。

その他に調査区北端部に位置する11号土壙は、土壙中に粘土塊が詰め込まれたような状態で検出されており、第1a類の27号土壙で指摘されたと同様に、粘土の貯蔵施設であると考えられ

る。また、調査区中央部の南西部寄りに位置する276号土壙については、掘り方底面に粘を貼り付けて、床面を形成している。これを2枚に亘って構築しており、それぞれが壁面とともに、かなりの火熱を受けた痕跡がみられ、非常に堅く焼け締っている。また、2次床を構築している粘土中には、深鉢形の縄文土器が底部を欠いた状態ではあるが、一個体分つぶれた状態で出土している。これらのことから、276号土壙については、土器焼成遺構である可能性がある。

竪穴遺構

調査区北東部に1基のみ検出されている。詳細は前述のとおりであるが、一般の土壙としては、規模が大きすぎ、また竪穴住居跡と考えるには、付属する施設—炉・柱穴・周溝等が検出されず、遺構そのものについても壁や底面が一定せず、形態的にも整ったものとは言い難い状態であり、遺構の性格を把えられるような資料はみられない。しかし、遺構の北部、あるいは南半部に見られる比較的大規模に凹みがあること、底面や堆積土中に粘土がまとまって検出される部分がみられる。などの特徴も観察される。これらより、土器製作あるいは、遺構構築の際に用いられる粘土の採取や貯蔵、ねかせておくための施設であった可能性もある。

時期的には、出土遺物、集落跡との関係から、中期から後期のものであると考えられる。

埋設土器

埋設土器は5基検出されている。調査区の南半部に散在しており、分布状況に規則性や、大きな特徴はみられない。埋設されている土器は全て深鉢形土器である。埋設状況は、正立位のものが2基、倒立位のものが1基、不明のものが2基である。正立位のものは、底部から体部にかけてのもので、体上半部を欠いている。倒立位のものは、口縁部から体上半部のもので、体下半部から底部を欠いている。不明のものは、掘り方上部に体部片が設置されているのみである。正立位及び倒立位のものが、土器上半部及び下半部を失っているのは、後世の削平のためであり、本来は一個体あるいはそれに近い大きさの土器が埋設されたものと思われる。

埋設土器及びその周辺部に火熱を受けた痕跡や焼け面は観察されなかった。また、埋設土器の内部からすは、骨片等は検出されなかったが、この種の遺構については、内部から胎児骨や、幼児骨などが検出される例が多く、埋葬施設の一種であると考えられている。

本遺跡の場合については、1、2号埋設土器については埋設の状況が異なるため判断できないが、その他の3号から5号埋設土器については、埋葬施設である可能性は高いものと考えられる。時期的には、土器に施文される文様が、2号埋設土器を除いて地文のみしか施文されておらず、明確には判断できないが、2号埋設土器は、中期末葉のものであり、同時に機能したと考えられる1号埋設土器についても同時期のものであると考えられる。その他のものについても、他の遺構と同様に中期末葉から後期初頭頃に位置付けられると思われる。

Ⅷ．古代の遺構と出土遺物

古代の遺構は、東区及び東側道路部から検出されている。検出された遺構は、竪穴住居跡4軒、土壙4基、溝跡5条、掘立柱建物跡1棟がある。遺構の分布状況は、住居跡は3軒が調査区東側に位置し、調査区中央の南寄りに1軒離れているという状況を示す。土壙は、2基が調査区東側に位置し、他の2基は調査区の北及び南と散在している。溝跡は、調査区の西側に1条、南西部に1条、東側に3条であり、そのうち2条は並列して方形に巡っている。出土遺物は、土師器、須恵器が出土しているが、縄文時代の遺構と重複関係にあるものが多く堆積土中から縄文時代の遺物を多量に出土する遺構もみられる。

1．古代の住居跡

22号住居跡（C－1住居跡）

遺構の確認：東側道路部の傾斜上端部付近近くのCトレンチに位置し、第5層上面で確認された。トレンチ西側の調査区外に広がっており、東側は傾斜により削平を受けている。調査区内で、カマドは検出されず不明である。

重複・改築：南壁を本住居跡より新しいピットに切られている。増改築は確認されなかった。

規模・平面形：遺構の北側は調査区外へ延びており、また東側は削平され、全体の規模・平面形は不明であるが、残存部は、東西3.15m、南北4.00m以上、隅丸方形を基調とした平面形であると推定される。

竪穴層位：3層に大別される。竪穴1層は灰白色火山灰層である。

壁：第5層を壁としている。西壁と南壁の一部のみ、20～35cm残存している。床面から急な角度で立ち上がっている。

床面：ほぼ平坦で堅い。全体に東側に傾斜している。第5層を直接床面としており、貼り床はないようである。一部礫層が露出している部分もみられる。

周溝：検出されなかった。

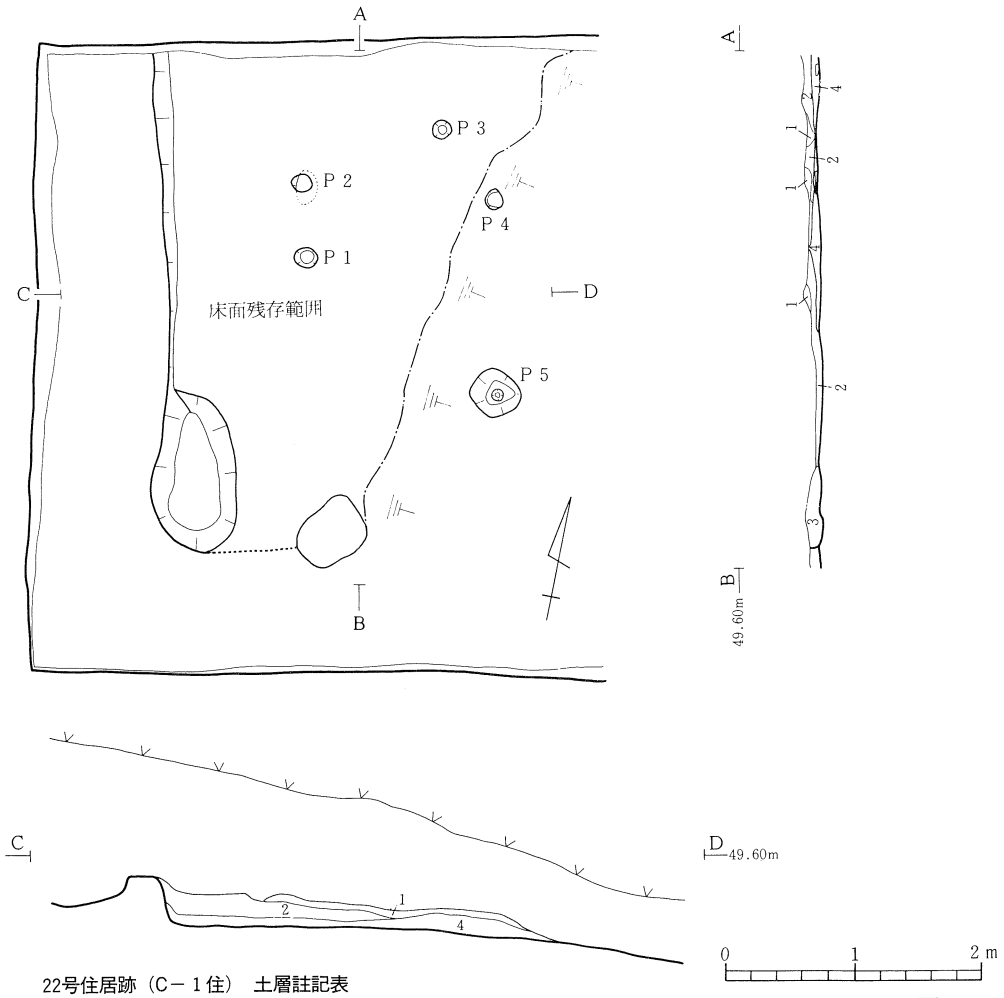
柱穴：住居跡と考えられる範囲内から5個のピットが検出された。いずれも掘り方のみで柱痕跡は認められなかった。本住居跡に伴う柱穴は不明である。

22号住居跡ピット

No	1	2	4	4	5
形　状	円	円	円	円	円
深　さ	8	39	12	16	30

その他の施設：住居跡南西コーナー部分に、長さ130cm、幅65cm床面からの深さ10cmのピットが検出されている。

遺物の出土状況：住居跡堆積土及び床面から土師器・須恵器が出土している。



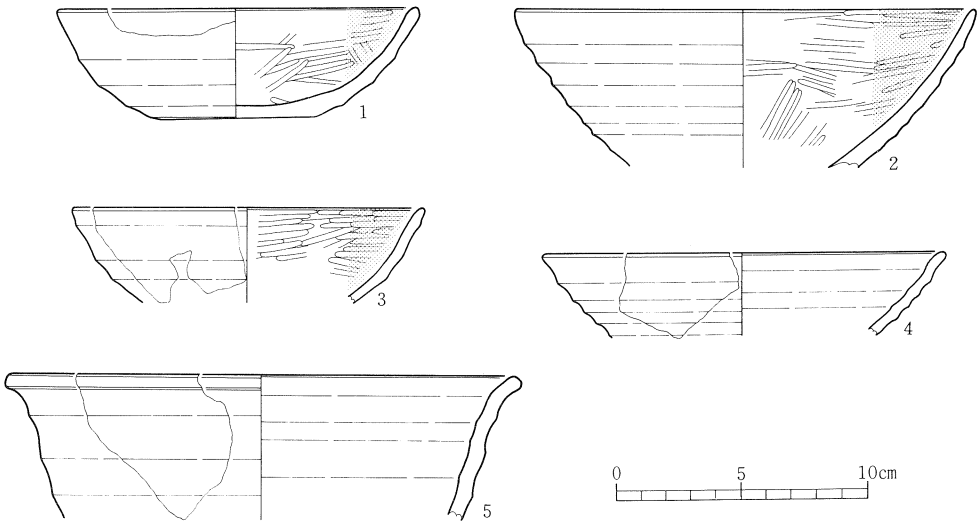
22号住居跡（C－1住） 土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	浅黄 2.5Y7/3	シルト	灰白火山灰層
2	2	暗褐 7.5YR3/3	シルト	炭化物少々含む
	3	褐 7.5YR3/4	シルト	風化礫少量、ロームブロック少々含む
3	4	黒褐 7.5YR3/2	シルト	炭化物、焼土多量に含む

第952図 22号住居跡

第52表 22号住居跡出土土器破片集計表

種別	土師器																						須恵器			合計
器種	坏															甕							坏	甕	鉢	
部位	口				体						底					口	体						口	体	体~底	
内面	ロクロナデ	ロクロナデ	マメツ	マメツ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	マメツ	マメツ	マメツ	回転糸切り	回転糸切り	マメツ	マメツ	マメツ	ロクロナデヘラケズリ	ロクロナデ	ナデ	ナデ	ケズリ	ヘラケズリ	マメツ	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切りロクロ	
外面	ロクロナデ	ミガキ(黒)	ミガキ(黒)	マメツ	ロクロナデ	ミガキ(黒)	ロクロナデ	ロクロナデ	ミガキ(黒)	マメツ	ミガキ	ミガキ(黒)	ロクロナデ	ミガキ	ミガキ(黒)	ミガキ	ロクロナデ	ナデ	ヘラナデ	ナデ	ロクロナデ	マメツ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロ	
堆積土	12	13	3	1	14	13	2	6	13	8	3	4	3	1	3	1	5	5	1	3	1	3	1	1	1	121
合計	12	13	3	1	14	13	2	6	13	8	3	4	3	1	3	1	5	5	1	3	1	3	1	1	1	121



No.	層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	堆積土	土師器・坏	ロクロ調整	磨キ、黒色処理	回転糸切り	Ba2	
2	堆積土	土師器・坏	ロクロ調整	磨キ、黒色処理		B	
3	堆積土	土師器・坏	ロクロ調整	磨キ、黒色処理		B	
4	堆積土	土師器・坏	ロクロ調整	ロクロ調整		B	
5	堆積土	土師器・甕or鉢	ロクロ調整	ロクロ調整		B	

第953図　22号住居跡出土土器

23号住居跡（T－32住居跡）

遺構の確認：T－32に位置し、第4層上面で確認された。

重複・改築：他の遺構との重複は認められない。住居跡北側にピット及び溝状に張り出した部分が認められ、カマドを作り替えている可能性がある。

規模・平面形：長軸3.50m、短軸3.27m、不整な隅丸方形である。

竪穴層位：2層に大別される。竪穴1層には、灰白色火山灰が含まれている。

壁：第4層、第5層を壁としている。10～30cm残存している。床面から緩やかな角度で立ち上がる。

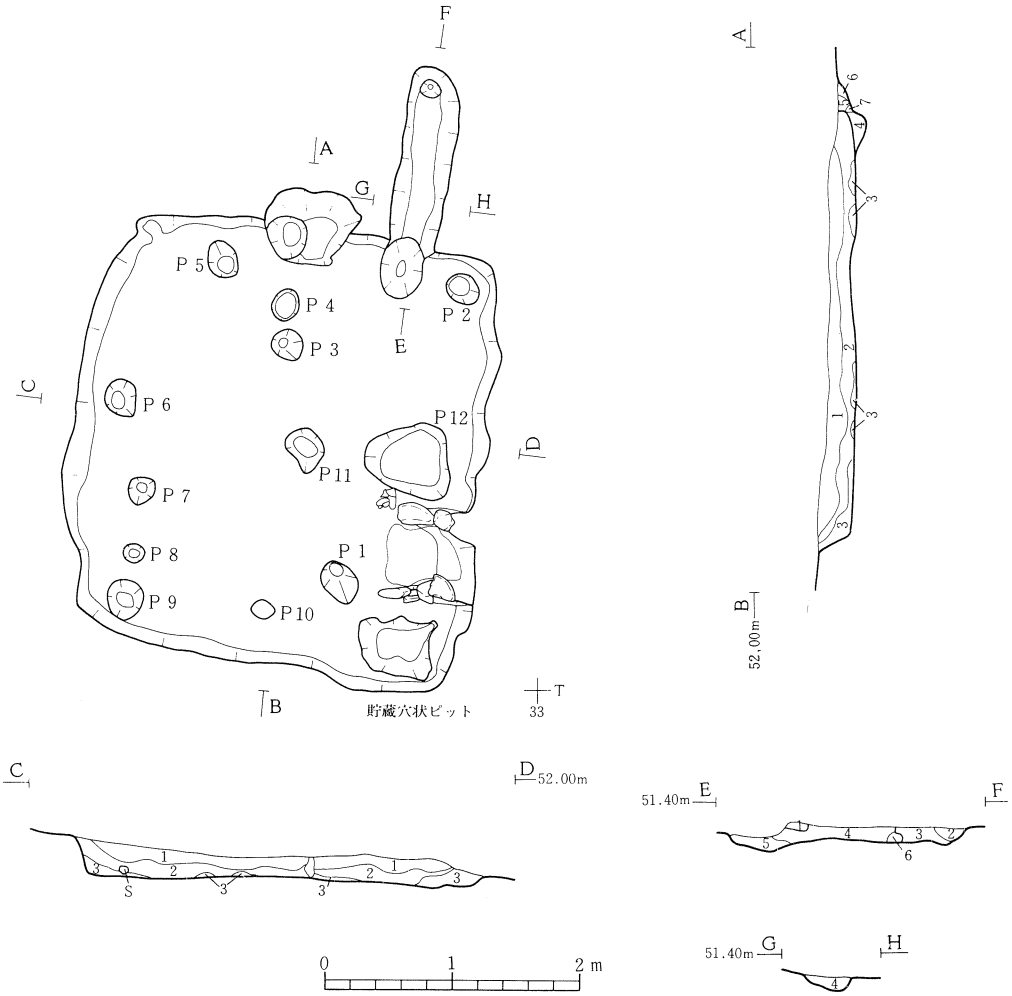
床面：ほぼ平坦で堅い。第5層を直接床面としているか、掘り方埋土上面を床面としているかは断ち割り等の精査をしていないため不明である。

周溝：住居跡内より11個のピットが検出されている。深さ等から柱穴と考えられるものはなかった。

23号住居跡ピット

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
形状	楕円	楕円	円	円	楕円	円	円	円	円	円	楕円
深さ	7	8	22	10	14	7	9	4	5	—	16

No	12
形状	楕円
深さ	10



23号住居跡（T－32住）土層註記表

層位	層No	土色	土性	備考
住居跡堆積土	1	褐 10YR4/6	シルト	10YR8/3 浅黄橙シルト（火山灰？）を粒状に含む
	2	暗褐 10YR3/4	シルト	
	3	褐 10YR4/4	粘土質シルト	住居跡東壁際で多量の焼土、炭化物含む
北側ピット	4	黒褐 10YR3/2	シルト	炭を多く含む
	5	暗褐 10YR3/4	シルト	
	6	褐 10YR4/6	粘土質シルト	
	7	明黄褐 10YR6/6	粘土質シルト	

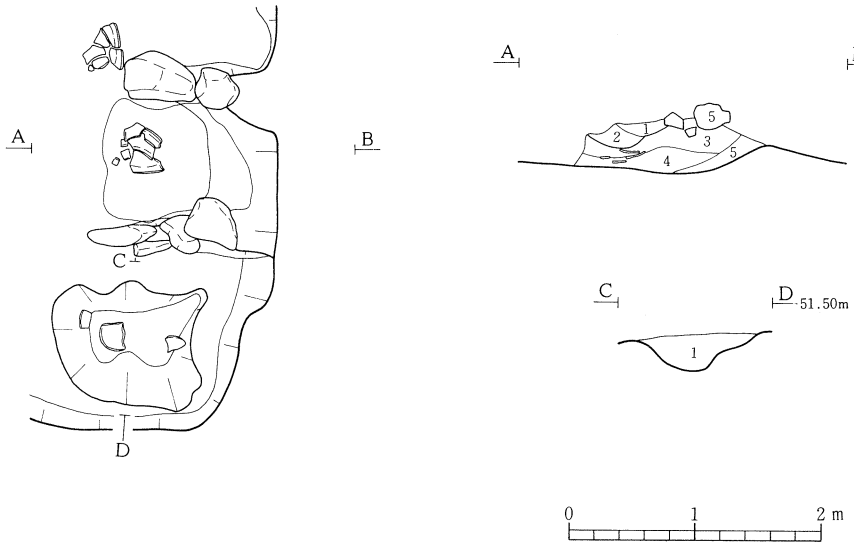
23号住居　旧煙道土層註記表

層位	層No	土色	土性	備考
1	1	暗褐 10YR3/4	シルト	炭化物、黄色小粒子を含む（ブロック状）
2	2	暗褐 10YR3/4	シルト	石英質粒子含む
	3	褐 10YR4/4	粘土質シルト	黄色ローム粒を若干含む
3	4	暗褐 10YR3/3	シルト	炭化物、黄色ローム小粒を多く含む
	5	暗褐 10YR3/4	シルト	ローム粒を多く含む（まじり合っている）
	6	褐 10YR4/6	粘土（ローム）	ローム粒、炭化物を多く含む

第954図　23号住居跡

カマド：住居跡東壁の南側に付設されている。燃焼部のみ確認され、煙道部、煙出し部は削平されており、確認されなかった。燃焼部は奥行70cm、最大幅80cm、残存高20cmである。袖部は20～30cmの礫を「ハ」の字状に配した石組で構築されている。石組下面には黒色土がみられ、石組のおさえと考えられる。石組内には、天井部が崩落したと思われる焼けた粘土がみられる。燃焼部底面は、全体的に赤褐色を呈しており、火熱を受けた痕跡であると考えられる。

また、北壁東側に、より古いと考えられるカマドの燃焼部の一部と煙道が検出されている。燃焼部は、奥行50cm、幅32cm、深さ16cmの掘り方のみが検出された。煙道部は長さ146cm、幅42cm、深さ12cmである。底面はほぼ平坦であるが、先端部に煙出しピットが検出された。



23号住居　カマド　土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	暗　褐　10YR3/3	シルト	天井の崩落したものを含む、焼土を若干含む
	2	暗　褐　7.5YR3/4	シルト	Fine Sand、焼土、炭化物含む
2	3	暗赤褐　5YR3/3	シルト	焼土、炭化物を含む
	4	暗赤褐　5YR3/6	シルト	焼土、炭化物を多量に含む
	5	極暗赤褐　5YR2/3	シルト	少量の焼土、炭化物を含む

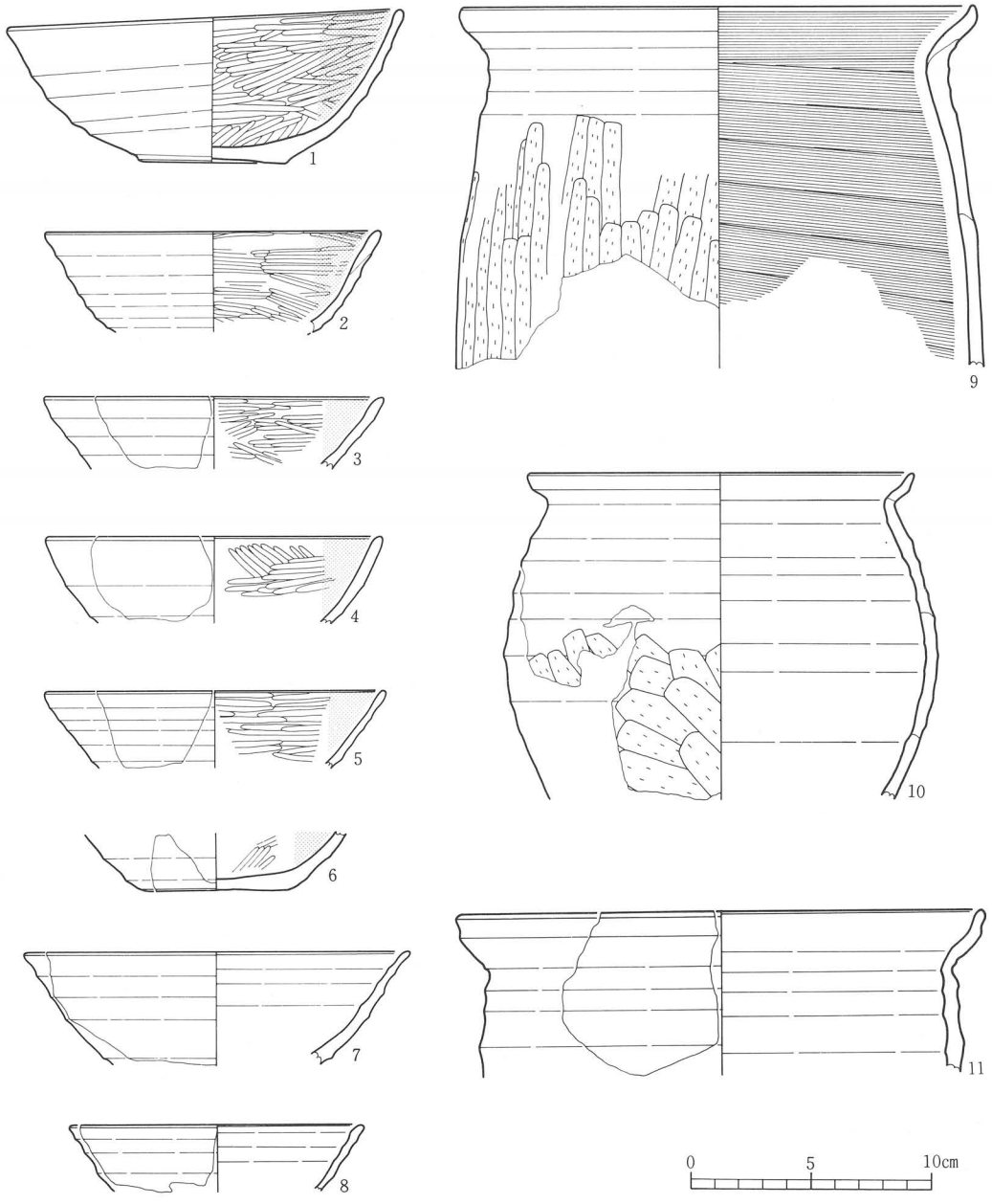
23号住居貯蔵穴状ピット　土層註記表

層No.	土色	土性	備考
1	暗　褐　10YR3/4	シルト	炭化物若干含む

第955図　23号住居跡カマド

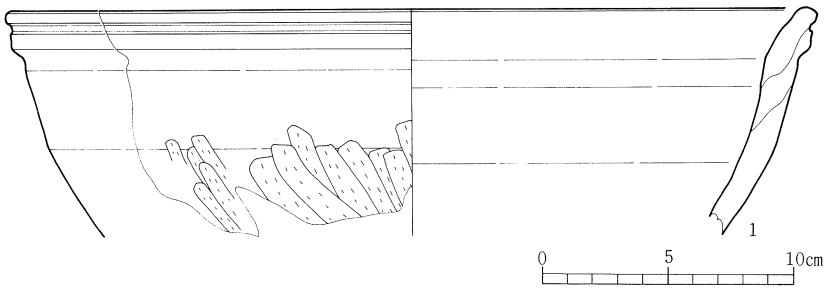
第53表　23号住居跡出土土器破片集計表

種別	土師器													合計
器種	坏							甕						
部位	口			体		底		口	口～体	体				
内面	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	同心円状切り	マメツ	ロクロナデ	ケズリ ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	ナデ	マメツ	
外面	ロクロナデ	ミガキ	ミガキ（黒）	ロクロナデ	ミガキ（黒）	ミガキ（黒）	ミガキ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	ミガキ	マメツ	
2層												1		1
堆積土	10	2	6	5	8	1	1	6	1	5	4		1	50
合計	10	2	6	5	8	1	1	6	1	5	4	1	1	51



No.	層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	貯蔵穴状ピット	土師器・坏	ロクロ調整	磨キ、黒色処理	回転糸切り	Ba2	
2	1層	土師器・坏	ロクロ調整	磨キ、黒色処理		B	
3	確認面	土師器・坏	ロクロ調整	磨キ、黒色処理		B	
4	1層	土師器・坏	ロクロ調整	磨キ、黒色処理		B	
5	堆積土	土師器・坏	ロクロ調整	磨キ、黒色処理		B	
6	1層	土師器・坏	ロクロ調整	磨キ、黒色処理	回転糸切り	Ba2	
7	1層	土師器・坏	ロクロ調整	ロクロ調整		B	
8	1層	土師器・坏	ロクロ調整	ロクロ調整		B	
9	床面	土師器・甕	ロクロ調整、ヘラケズリ	回転ヘラナデ		Bb	
10	2層	土師器・甕	ロクロ調整、ヘラケズリ	ロクロ調整		Bc	
11	1層	土師器・甕	ロクロ調整	ロクロ調整		Bc	

第956図　23号住居跡出土土器（1）



No.	層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	確認面	土師器・鉢	ロクロ調整、ヘラケズリ	ロクロ調整	B	

第957図　23号住居跡出土土器（2）

貯蔵穴：1個検出された。カマドの南側に位置している。長軸62cm、短軸50cm、床面からの深さ15cmである。平面形は不整形である。

その他の施設：北壁中央部に奥行60cm、幅75cm、深さ20cmのピットが検出されている。

遺物の出土状況：住居跡堆積土、床面、カマド、貯蔵穴より土師器が出土している。

整理の際に貯蔵穴より出土した土師器坏を全て確認することはできなかった。

24号住居跡（N－31a住居跡）

遺構の確認：調査区東側のM・N・O－30・31に位置し、第4層上面で確認された。遺構が東側の調査区外へ延びており、正確な規模、平面形は不明である。

重複・改築：324号土壙、4号溝、22号溝に切られており、本住居跡の方が古い。また、1号住居跡を切っており、本住居跡の方が新しい。増改築は確認されなかった。

規模・平面形：遺構の東側は調査区外へ延びており、全体の規模・平面形は不明であるが、調査区内で検出された部分では、東西4.50m以上、南北7.40mの隅丸方形を基調とした平面形である。

竪穴層位：2層に大別される。

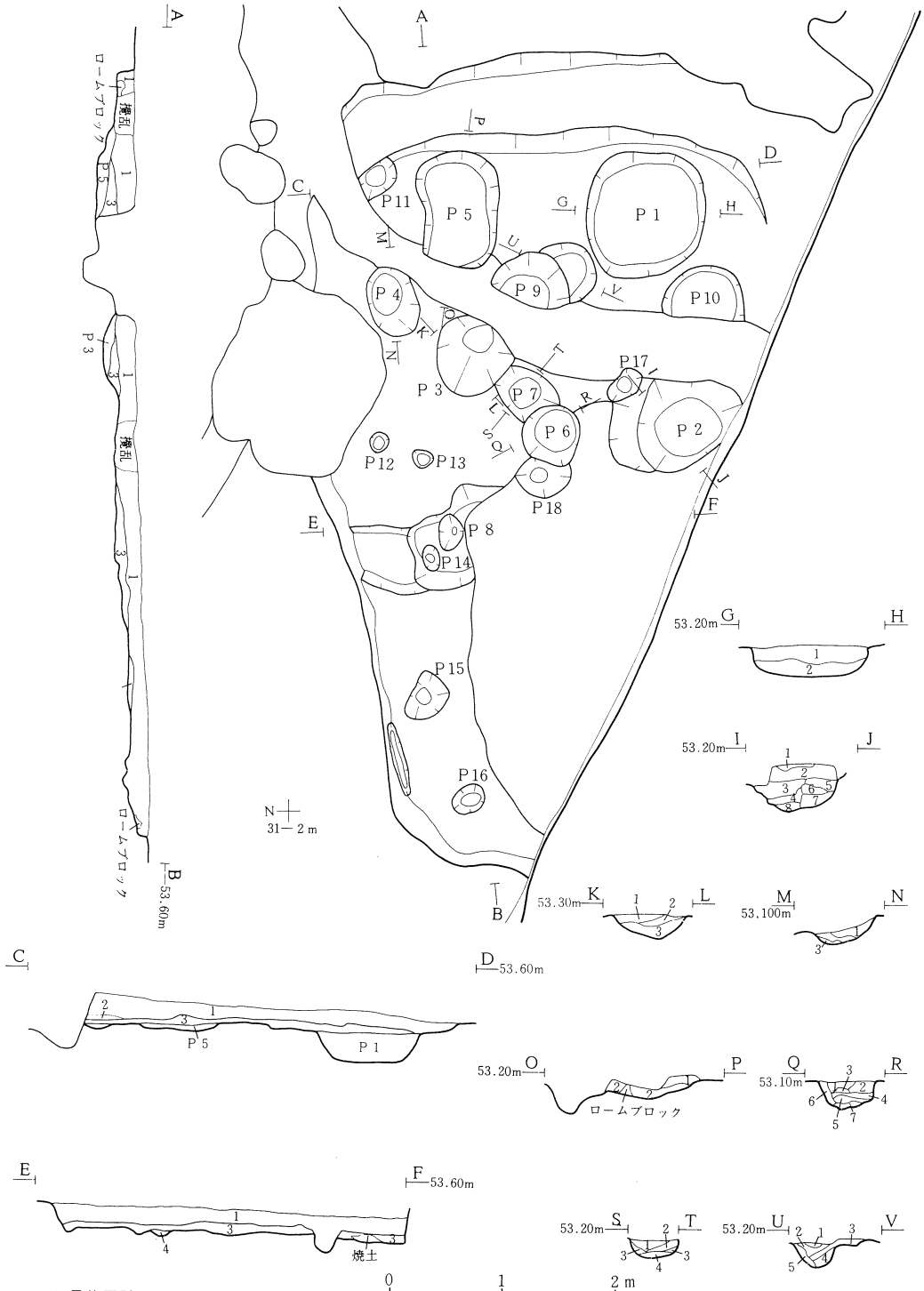
壁：第4層、第5層を壁としている。10～23cm残存している。床面から急な角度で立ち上がる。

床面：やや凸凹がみられるが堅い。1号住居跡と重複する部分は、直接1号住居跡堆積土を床面とし、貼り床はみられないことから、他の部分は直接第5層を床面としていると考えられる。また、住居跡北側で床面が一段高くなっている。その比高差は2～11cmである。

24号住居跡ピット

No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
形状	隅丸方	不整	円	楕円	楕円	円	楕円	楕円	不整	—	楕円
深さ	30	33	25	23	17	27	21	17	30	7	16

No	12	13	14	15	16	17	18
形状	円	楕円	楕円	楕円	楕円	楕円	円
深さ	16	17	12	26	12	30	14



24号住居跡（N-31 a 住居）土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	暗　褐　7.5YR3/4	シルト	炭化物を含む
	2	極暗褐　7.5YR2/3	シルト	炭化物を多く含む
2	3	褐　7.5YR4/4	シルト	炭化物ギョウカイ岩粒をまだらに含む
	4	暗　褐　7.5YR3/3	シルト	火山灰（バンバン）を含む

第958図　24号住居跡

Pit 1　土層註記表

層No.	土色	土性	備考
1	褐　10YR4/6	シルト	焼土粒、ローム粒、炭化物含む
2	暗褐　10YR3/4	シルト	凝灰岩粒、焼土粒含む

Pit 2　土層註記表

層No.	土色	土性	備考
1	褐　7.5YR4/3	粘土	ローム、焼土の混合層
2	黒　7.5YR3/2	シルト	焼土、炭化物を多量に含む
3	暗褐　7.5YR3/4	シルト	焼土、炭化物含む
4	褐　7.5YR4/6	シルト	焼けた粘土粒含む
5	褐　7.5YR3/3	シルト	
6	褐　7.5YR4/3	シルト	炭化物粒含む
7	褐　7.5YR4/6	粘土質シルト	焼土、ローム粒含む
8	褐　7.5YR4/4	粘土質シルト	

Pit 3　土層註記表

層No.	土色	土性	備考
1	暗褐　10YR3/4	粘土質シルト	ローム粒含む
2	褐　10YR4/4	シルト	ローム粒、若干の炭化物含む
3	黄褐　10YR5/6	粘土質シルト	多量のローム粒、焼土粒含む

Pit 4　土層註記表

層No.	土色	土性	備考
1	褐　10YR4/4	シルト	砂粒少量含む
2	赤褐　5YR4/6	シルト	焼土粒多量に含む
3	黄褐　10YR5/6	シルト	焼土粒、砂粒、炭化物粒含む

Pit 5　土層註記表

層No.	土色	土性	備考
1	暗褐　7.5YR3/3	シルト	焼土、炭化物を多量に含む
2	褐　7.5YR4/3	シルト	焼土、炭化物を若干含む

Pit 6　土層註記表

層No.	土色	土性	備考
1	暗赤褐　5YR3/4	シルト	砂粒、多量の焼土粒含む
2	赤褐　5YR4/6	シルト	砂粒、多量の焼土粒含む
3	褐　10YR4/6	シルト	
4	暗赤褐　5YR3/6	シルト	多量の焼土粒、炭化物含む
5	黄褐　10YR5/6	シルト	ローム粒少量含む
6	黄褐　10YR5/8	シルト	炭化物少量含む
7	褐　10YR4/6	粘土質シルト	ロームブロック含む

Pit 7　土層註記表

層No.	土色	土性	備考
1	褐　10YR4/4	シルト	焼土粒、炭化物含む
2	にぶい赤褐　5YR4/4	シルト	ローム粒、焼土粒、炭化物含む
3	褐　10YR4/6	シルト	ローム粒、焼土粒、炭化物含む
4	暗赤褐　5YR3/6	砂質シルト	ローム粒、炭化物、多量の焼土含む

Pit 9　土層註記表

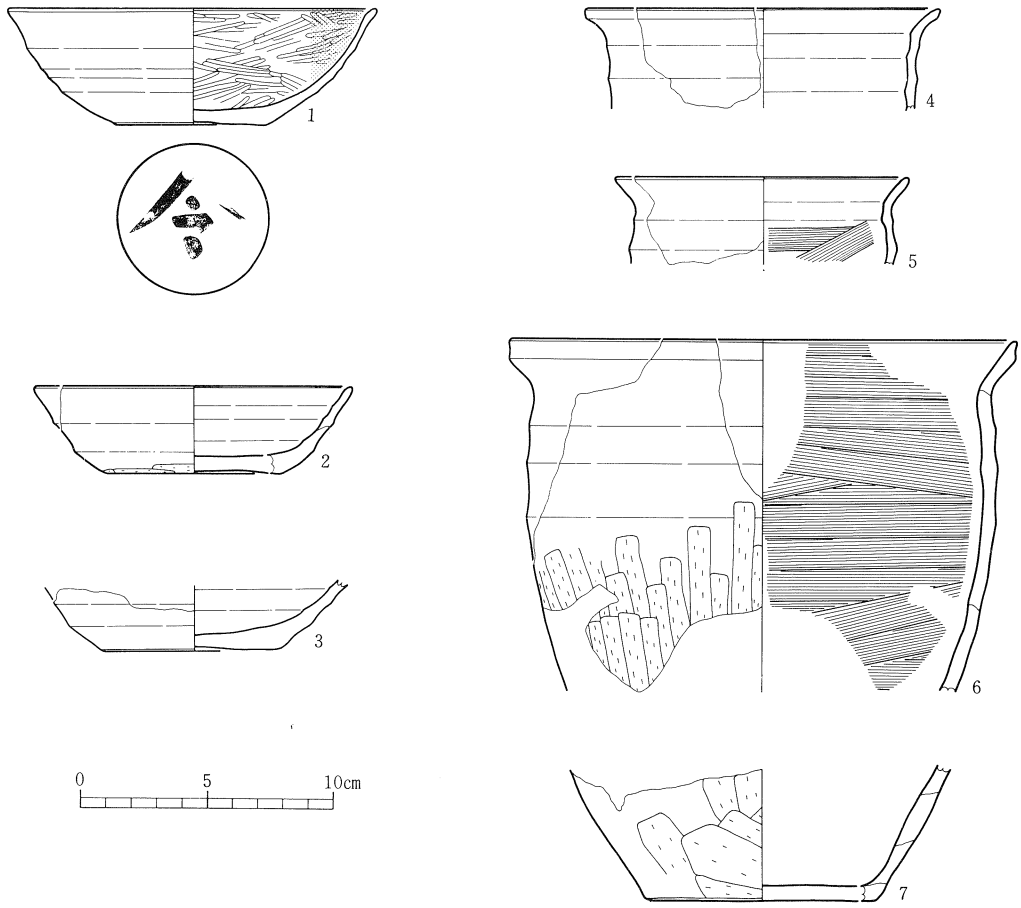
層No.	土色	土性	備考
1	暗褐　10YR3/4	粘土質シルト	焼土、炭化物含む
2	褐　10YR4/4	シルト	炭化物少量
3	褐　10YR4/6	シルト	炭化物、砂粒含む
4	黄褐　10YR5/6	粘土質シルト	炭化物含む
5	黄褐　10YR5/8	粘土質シルト	

周溝：検出されなかった。床面の南西コーナー付近に長さ68cm、幅11cm、深さ８ cm の溝状の落ち込みがみられる。

柱穴：住居跡内より17個のピットが検出されている。ピット１、２は貯蔵穴であると考えられる。いずれも掘り方のみで柱痕跡は認められない。本住居跡に伴う柱穴は不明である。

カマド：調査区内では検出されなかった。

貯蔵穴：規模等から貯蔵穴と考えられるピットは２個検出されている。貯蔵穴状ピット１は長軸115cm、短軸110cm のほぼ円形である。床面からの深さは90cm である。貯蔵穴ピット２は、４号溝に切られており、正確な規模は不明であるが、長軸120cm、短軸90cm 以上の円形を基調とした平面形であると推定される。床面からの深さは33cm である。



No.	層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	堆積土	土師器・坏	ロクロ調整	磨キ、黒色処理	回転糸切り 回転ヘラケズリ	Ba1	破損部の一部に、内・外面共漆痕有。墨書有り
2	堆積土	須恵器・坏	ロクロ調整	ロクロ調整	手持ヘラケズリ	Bb2	
3	堆積土	須恵器・坏	ロクロ調整	ロクロ調整	回転糸切り	B	
4	堆積土	土師器・甕	ロクロ調整	ロクロ調整		Ba	
5	堆積土	土師器・甕	ロクロ調整	ロクロ調整、ヘラナデ		Ba	
6	堆積土	土師器・甕	ロクロ調整、ヘラケズリ	回転ヘラナデ		Bb	
7	堆積土	土師器・甕	削り	マメツ	マメツ	B	

第959図　24号住居跡出土土器

その他の施設：ピット３、４、５、６、７、９の６個のピットは、内部に焼土、炭化物が多量に含まれており、底面や壁面が焼けているものもあり、特殊な施設である可能性がある。

遺物の出土状況：確認面、堆積土、ピットから土師器、須恵器の他に、縄文土器、石器が出土している。

第54表　24号住居跡出土土器破片集計表

種別	土師器													須恵器			合計
器種	坏				甕									坏	甕		
部位	体		底		口	体							体～底	底	体～広		
内面	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラケズリ(回転糸切り)	マメツ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	マメツ	マメツ	ナデ ケズリ	ケズリ 手持ヘラ	平行叩き目	ロクロ台付	
外面	ミガキ(黒)	ミガキ(黒)	ミガキ	ミガキ(黒)	横ナデ	ロクロナデ	横ナデ	ロクロナデ	ナデ	ヘラナデ	ロクロナデ	マメツ	ナデ	ロクロナデ	ナデ	ロクロナデ	
堆積土	3	2	1	1	5	2	1	1	1	2	2	5	1	1			28
1層															1		1
pit-1																1	1
合計	3	2	1	1	5	2	1	1	1	2	2	5	1	1	1	1	30

25号住居跡（K－22住居跡）

遺構の確認：K－22、23に位置し、第４層上面で確認された。

重複・改築：土壙と切り合っているが、全ての土壙を切っており、本遺構が最も新しい。

規模・平面形：長軸4.35m、短軸3.53m、隅丸方形である。

竪穴層位：１層に大別される。

壁：第４層を壁としている。５～15cm残存している。床面から緩やかな角度で立ち上がっているが、急角度の部分もみられる。

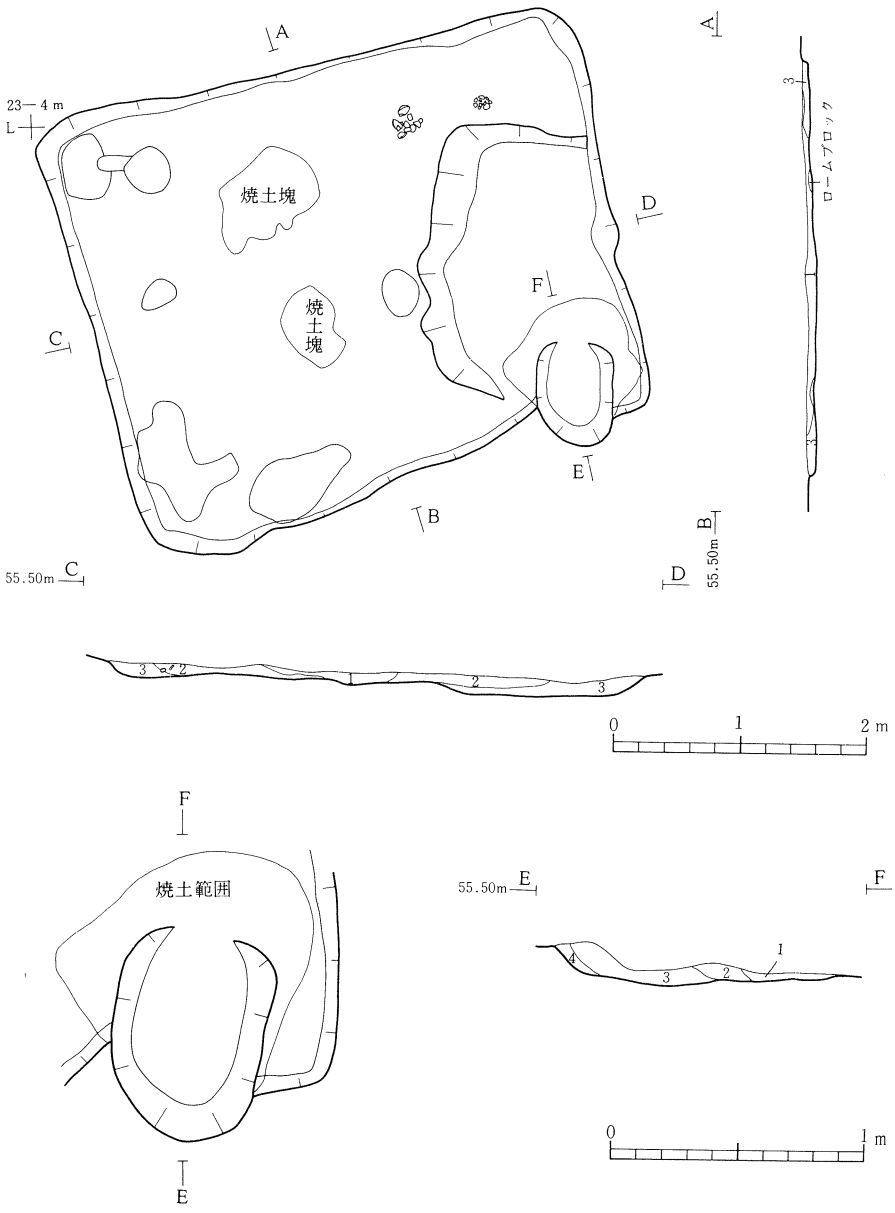
床面：やや凸凹があり堅い。第５層を直接床面としているか貼床かは不明である。カマドの北側の部分の床面が一段低くなっている。比高差は５～10cmである。床面の中央より西側、北西側に、それぞれ、長さ60cm、幅45cm、長さ90cm、幅60cmの不整形な範囲に厚さ３～６cmの焼土塊が認められる。

周溝：検出されなかった。

柱穴：床面の精査をしておらず不明である。

カマド：住居跡南東コーナー付近の南壁に付設されている。削平を受けており、燃焼部のみしか残存しない。袖部はわずかに痕跡を残すのみである。残存部の規模は奥行85cm、最大幅60cmである。床面はほぼ平坦である。このカマド残存部に重なって奥行120cm、最大幅100cmの範囲に焼土の詰まっている落ち込みがみられる。カマドの掘り方部分であると考えられる。

遺物の出土状況：確認面、堆積土、床面から土師器、須恵器、縄文土器、石器が出土している。



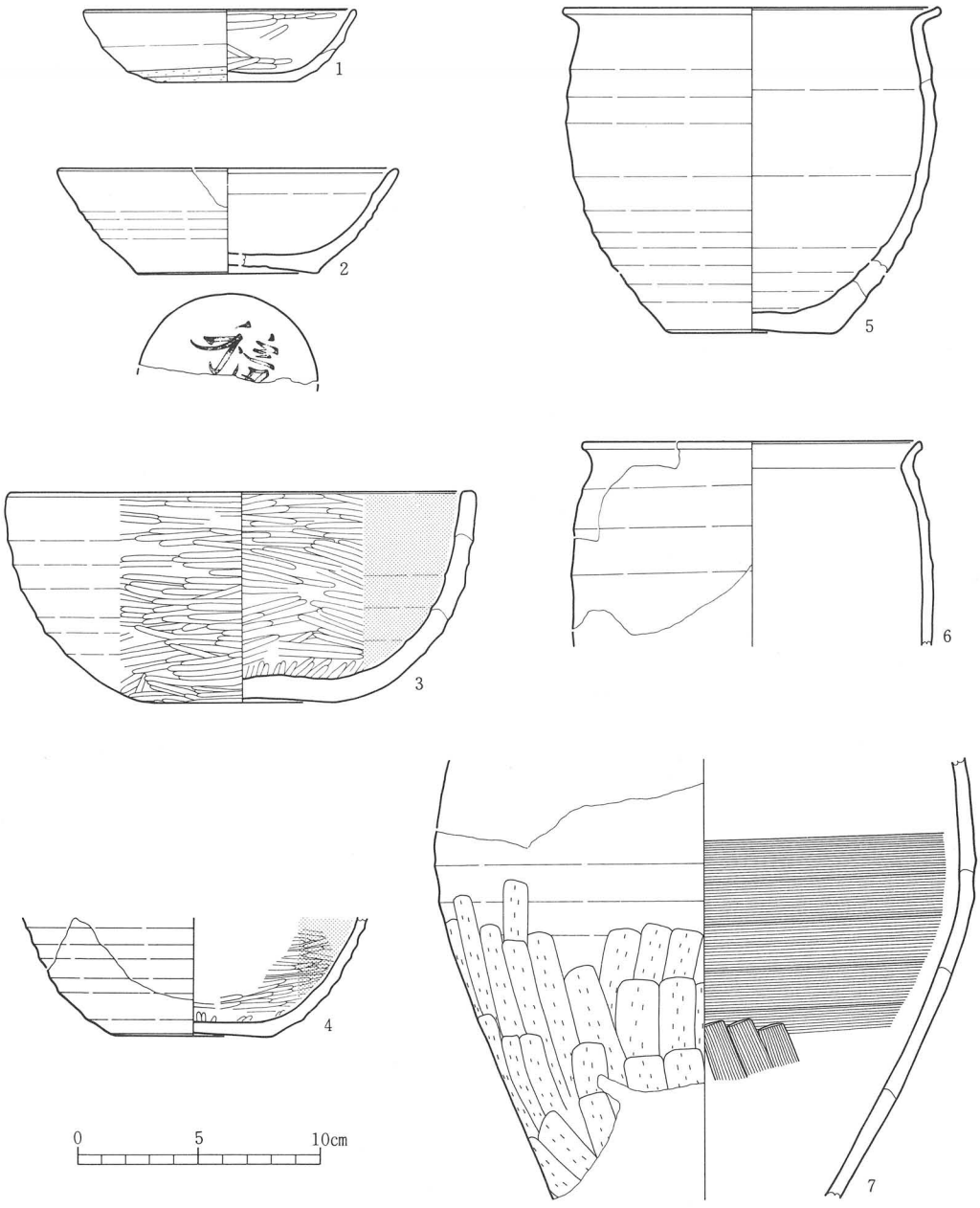
25号住居（K－22）土層註記表

層No.	土色	土性	備考
1	暗褐 7.5YR3/3	シルト	
2	暗褐 10YR3/3	シルト	炭化物、スコリアを少量含む
3	黒褐 7.5YR3/2	シルト	スコリアを少量含む

25号住居　カマド　土層註記表

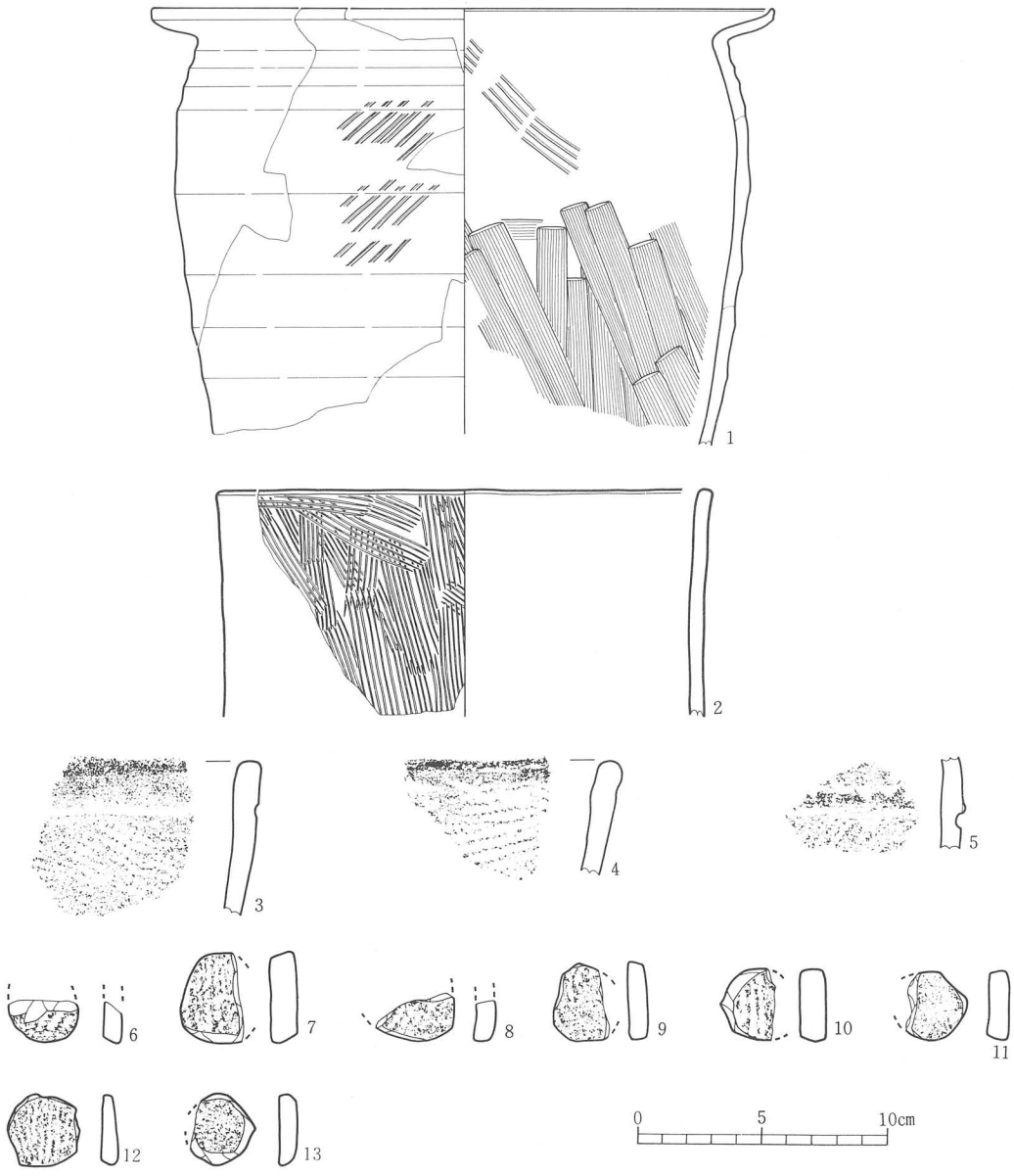
層No.	土色	土性	備考
1	暗褐 10YR3/3	粘土質シルト	焼土粒、炭化物含む
2	暗褐 10YR3/4	シルト	焼土粒、炭化物、粘土粒
3	褐 7.5YR4/4	シルト	焼土粒、粘土粒含む
4	褐 7.5YR4/6	シルト	Fire Sand含む

第960図　25号住居跡・カマド



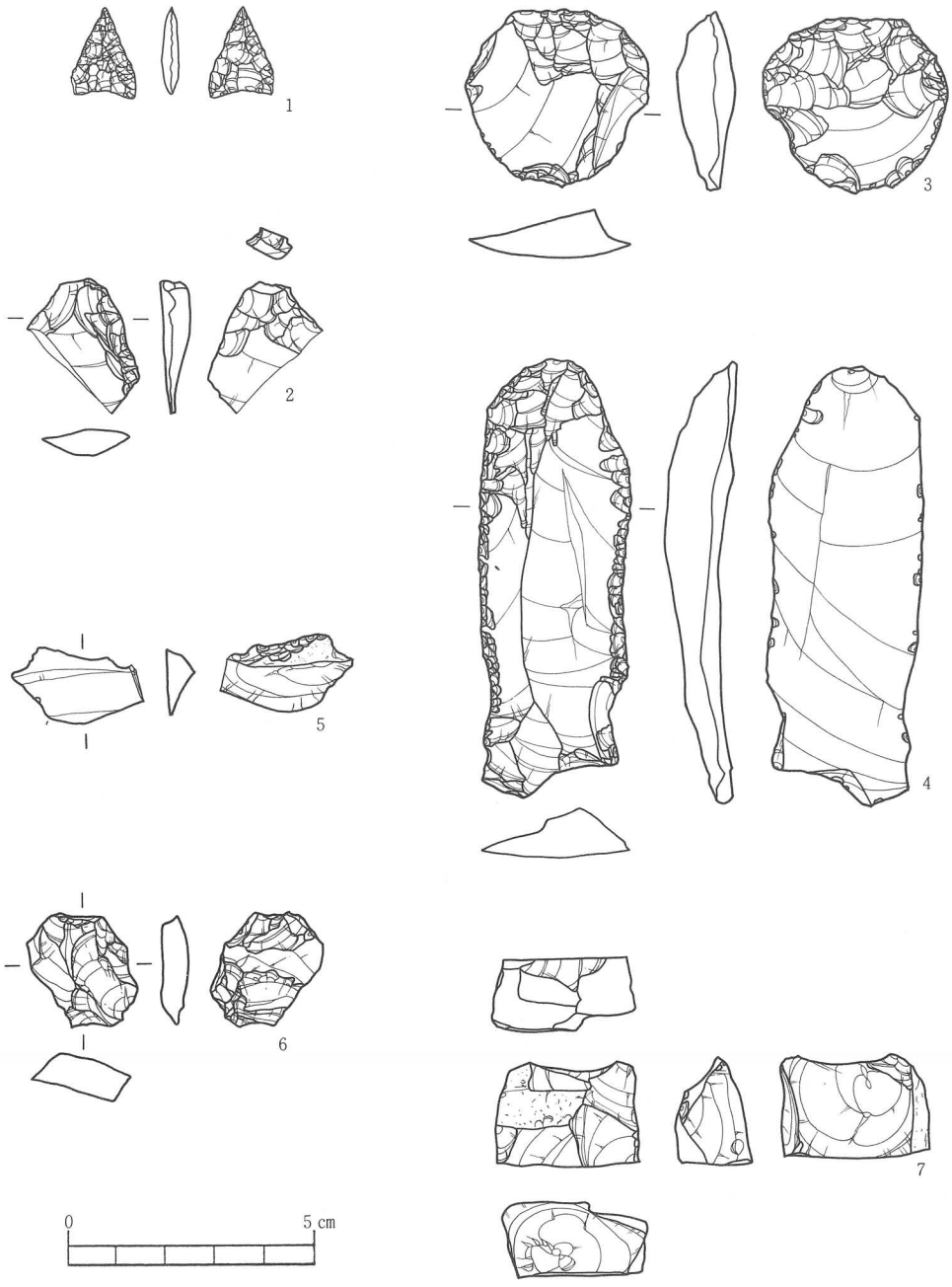
No.	層　位	器　形	外　　面	内　　面	底　　部	分　類	備　　考
1	堆積土	土師器・坏	ロクロ調整、回転ヘラ削り	磨　キ	回転ヘラケズリ	Bb	内面黒色処理の有無不明
2	床　面	須恵器・坏	ロクロ調整	ロクロ調整	回転糸切り	Ba	底部に墨書有り
3	確認面	土師器・鉢	ロクロ調整、磨キ	ロクロ調整・磨キ・黒色処理	静止糸切り・磨キ	B	
4	確認面	土師器・鉢	ロクロ調整	磨キ・黒色処理	回転糸切り	B	
5	1　層	土師器・甕	ロクロ調整	ロクロ調整	マメツ	Ba	
6	1　層	土師器・甕	ロクロ調整	マメツ		Ba	
7	床　面	須恵器・甕	ロクロ調整、ヘラケズリ	回転ヘラナデ、ヘラナデ		B	

第961図　25号住居跡出土土器（1）



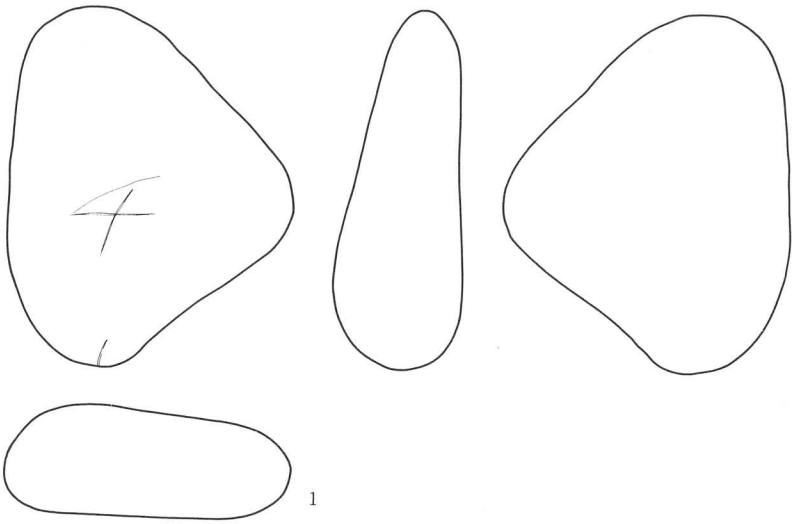
No.	層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	確認面	土師器・甕	ロクロ調整、タタキ目	刷目、ヘラナデ	Bb	
2	堆積土	深鉢	条線文	磨キ（横）	B VI	
3	堆積土	深鉢	沈線文、LR縄文	磨キ（横）	B IV	
4	1層	深鉢	RL縄文	磨キ（横）	B VI	
5	堆積土	深鉢	隆線文、刺突文、LR縄文	磨キ（横）	X	
6	堆積土	土製円盤				
7	堆積土	土製円盤				
8	堆積土	土製円盤				
9	堆積土	土製円盤				
10	堆積土	土製円盤				
11	堆積土	土製円盤				
12	堆積土	土製円盤				
13	堆積土	土製円盤				

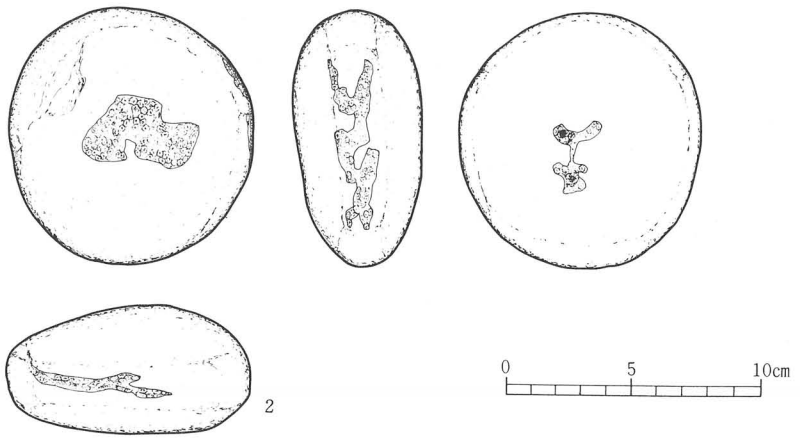
第962図　25号住居跡出土土器（2）



No.	種　別	層　位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	備　考
1	石　鏃A	堆積土	(18.05)×(13.00)×3.35	0.45		
2	スクレイパー	1　層	(27.20)×(22.40)×5.60	2.10		
3	スクレイパー	堆積土	35.70×36.70×11.60	11.70	頁　岩	
4	スクレイパー	堆積土	89.25×30.40×12.80	25.25	頁　岩	
5	二次加工のある剝片	堆積土	15.50×(26.25)×5.45	1.70	頁　岩	
6	ピエス・エスキーユ	1　層	22.80×22.35×10.25	3.45	頁　岩	
7	石　核	1　層	21.35×29.10×14.45	11.70	黒曜石	

第963図　25号住居跡出土石器（1）





No.	種別	層位	備考				
1	線刻礫	堆積土					
No.	種別	層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
2	礫石器	堆積土	101×95×53	676.5		凹一片面、敲一両端両側面	

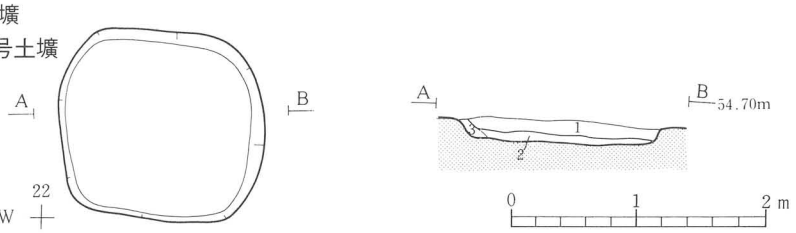
第964図　25号住居跡出土石器（2）

第55表　25号住居跡出土土器破片集計表

種別	土師器										合計
器種	坏						甕				
部位	口			体			口	体			
内面	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	マメツ	マメツ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	マメツ	
外面	ミガキ	ミガキ(黒)	マメツ	ミガキ(黒)	マメツ	ミガキ(黒)	マメツ	マメツ	ナデ	マメツ	
堆積土				1	2	1		1	4	1	10
確認面	1	2	1								4
1層							1				1
合計	1	2	1	1	2	1	1	1	4	1	15

土壙

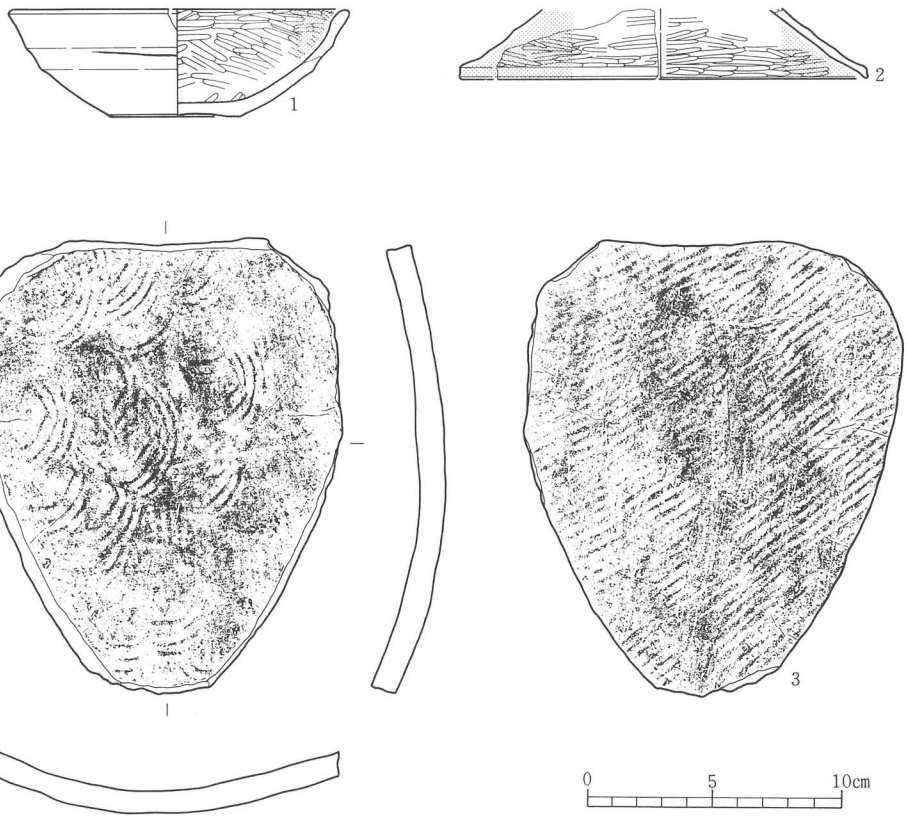
第965図　323号土壙



323号土壙（W－22a）土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	暗褐 7.5YR3/3	シルト	炭化物を含む
2	2	暗褐 7.5YR3/4	粘土質シルト	炭化物及びロームをつぶ状に含む
	3	暗褐 7.5YR3/4	粘土質シルト	ロームをブロック状に含む

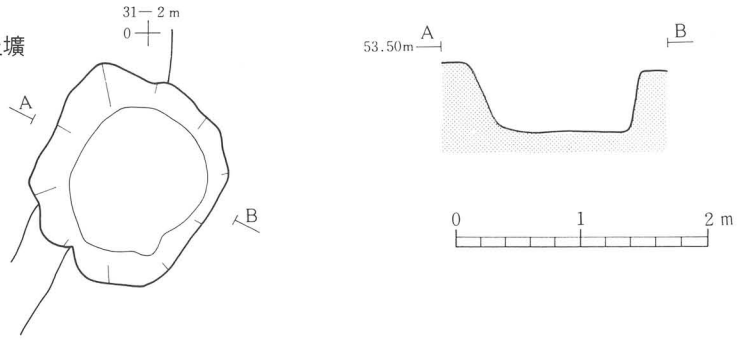
No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
323	W－22	第4層上面	隅丸方形	160×150	20	



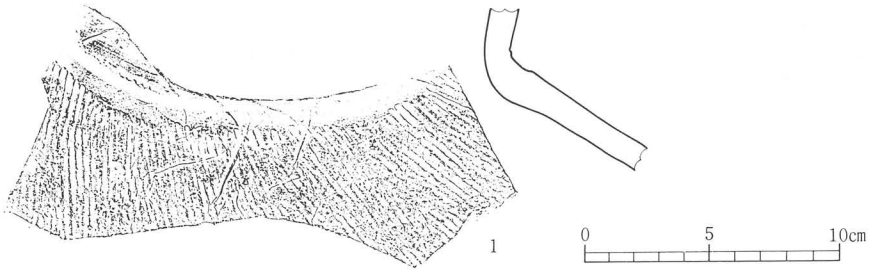
No.	層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	1層	土師器・坏	ロクロ調整	磨キ、黒色処理	回転糸切り	Ba2	
2	堆積土	土師器・蓋	磨キ、黒色処理	磨キ、黒色処理		B	
3	1層	須恵器転用硯	タタキ目、ヘラナデ	青海波文、ヘラナデ			

第966図　323号土壙出土土器

第967図　324号土壙



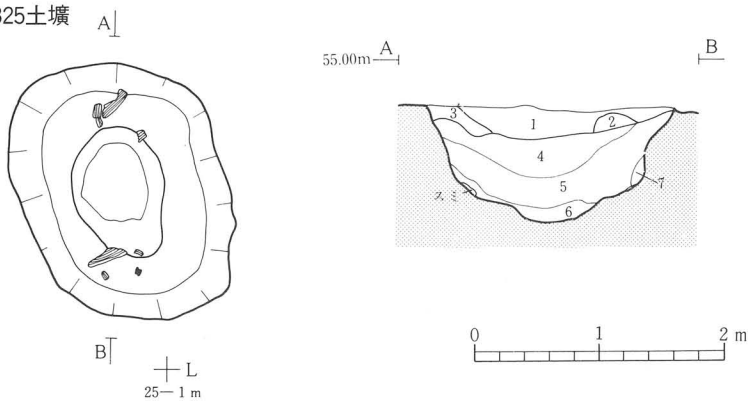
No.	地　区	確　認　面	平　面　形	規　模	壁　高	備　考
324	N－30	第4層上面	楕円形基調	183×165	52	4溝に切られ、1住居跡を切る。



No.	層　位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	堆積土	須恵器・甕	タタキ目、ロクロ調整	磨　消		

第968図　324号土壙出土土器

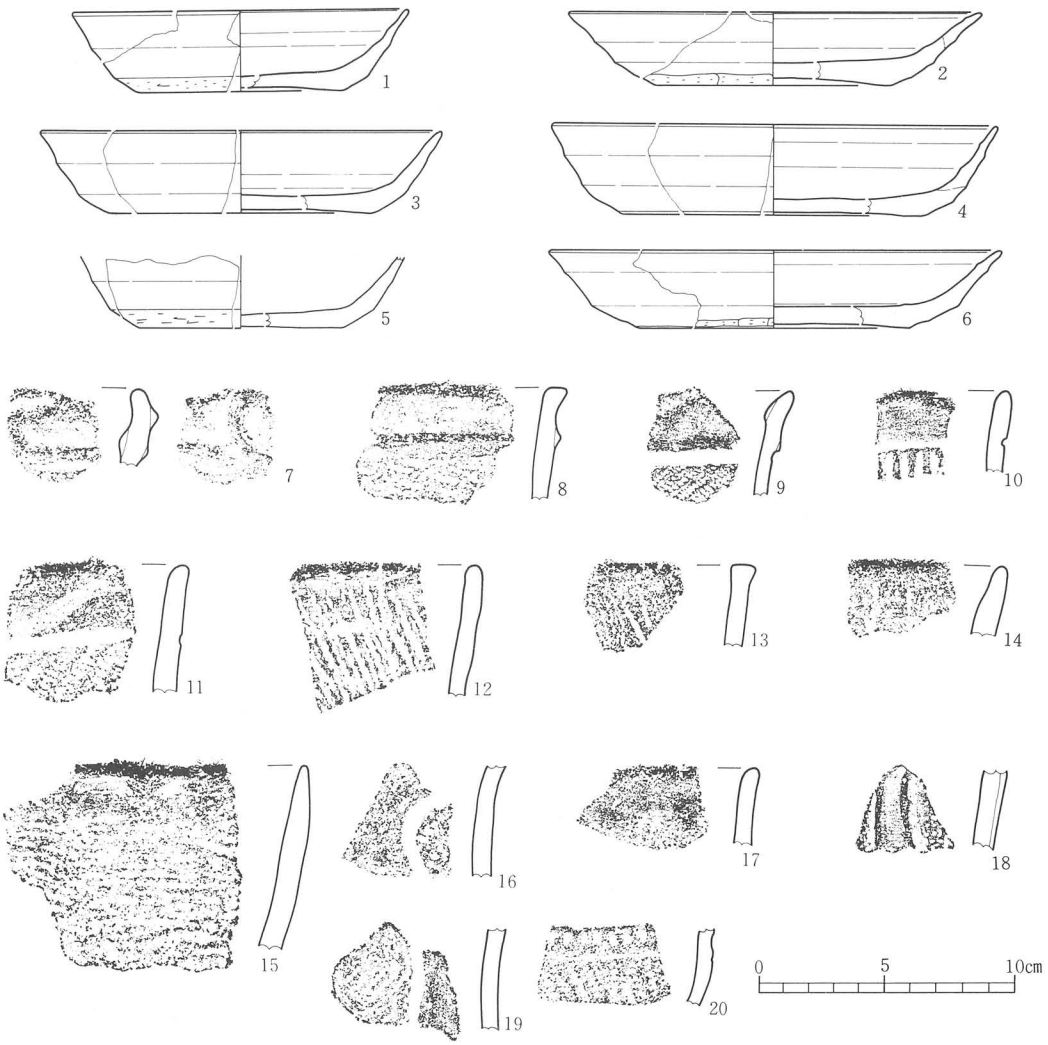
第969図　325土壙



325号土壙（L－25a）土層註記表

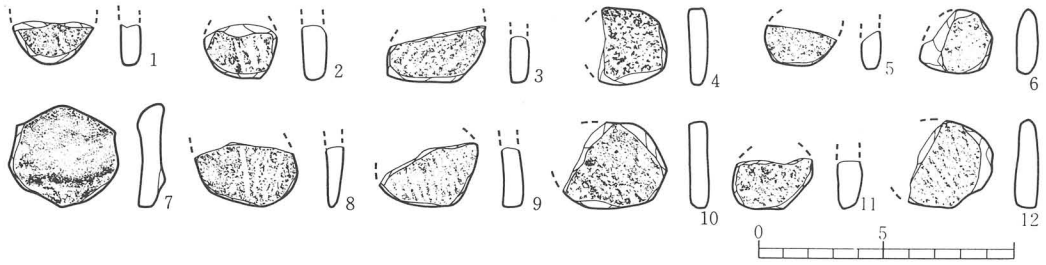
層位	層No.	土　色	土　性	備　考
1	1	暗　褐　7.5YR3/3	シルト	焼土、炭化物を多量に含む、拳大の軽石を含む
	2	褐　7.5YR4/4	砂質シルト	スコリアを極めて多量に含む、焼土、炭化物含む
2	3	極暗褐　7.5YR2/3	シルト	少量の焼土含む
	4	極暗褐　7.5YR2/3	シルト	極めて多量の焼土を含む、少量の炭化物を含む
3	5	黒　褐　10YR3/2	粘土質シルト	若干の焼土、炭化物、スコリア含む
	6	暗　褐　10YR3/3	シルト	
	7	黄　褐　10YR5/6	粘土質シルト	

No.	地　区	確　認　面	平　面　形	規　模	壁　高	備　考
325	K・L－24・25	第4層上面	楕円形	213×163	64	10、11住居跡、85土壙を切る。中央部に105×75×20の凹み有。中段に木炭が検出されている。



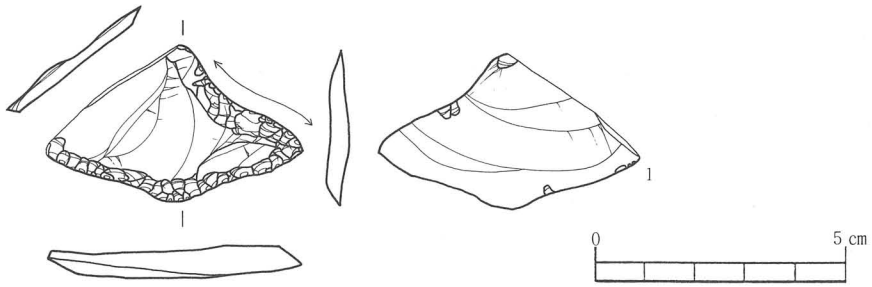
No.	層　位	器　形	外　　面	内　　面	底　　部	分類	備　　考
1	堆積土	須恵器・坏	ロクロ調整、回転ヘラケズリ	ロクロ調整	回転ヘラケズリ	b1	
2	堆積土	須恵器・坏	ロクロ調整、ヘラケズリ	ロクロ調整	回転ヘラケズリ	b1	
3	堆積土	須恵器・坏	ロクロ調整	ロクロ調整	回転ヘラケズリ	b1	
4	堆積土	須恵器・坏	ロクロ調整	ロクロ調整	回転ヘラケズリ	b1	外面に自然釉がかかり剝落している
5	堆積土	須恵器・坏	ロクロ調整、回転ヘラケズリ	ロクロ調整	回転ヘラケズリ		
6	堆積土	須恵器・坏	ロクロ調整、ヘラケズリ	ロクロ調整	回転ヘラケズリ	b1	
7	堆積土	深　鉢	隆線文	隆線文、磨キ（横）		XorXI	
8	堆積土	深　鉢	隆線文	ナデ（横・斜）、磨キ（横）		B II	
9	堆積土	深　鉢	隆線文、沈線文、RL縄文	磨キ（横）		B IV	
10	堆積土	深　鉢	沈線文、櫛歯文	ナデ（斜）、磨キ（横）		B IV	
11	堆積土	深　鉢	沈線文、RL縄文	磨キ（横・斜）		B VI	
12	堆積土	深　鉢	L撚糸文	ナデ（横）		B VI	
13	堆積土	深　鉢	L撚糸文	磨キ（横）		B VI	
14	堆積土	深　鉢	RL縄文	磨キ（横）		B VI	
15	堆積土	深　鉢	L縄文	ナデ（横・斜）、磨キ（横・縦）		B VI	
16	堆積土	深　鉢	沈線文、LR縄文	磨キ（縦）		X	
17	堆積土	深　鉢	LR縄文	磨キ（横・縦）		B VII	
18	堆積土	深　鉢	隆線文、刺突文	磨キ（横）			
19	堆積土	深　鉢	沈線文、LR縄文	磨キ（横）			
20	堆積土	深　鉢	沈線文、刺突文、RL縄文	磨キ（横）			

第970図　325号土壙出土土器



No.	層位	No.	層位	No.	層位	No.	層位	No.	層位	No.	層位
1	堆積土	2	堆積土	3	堆積土	4	堆積土	5	堆積土	6	堆積土
7	堆積土	8	堆積土	9	堆積土	10	堆積土	11	堆積土	12	堆積土

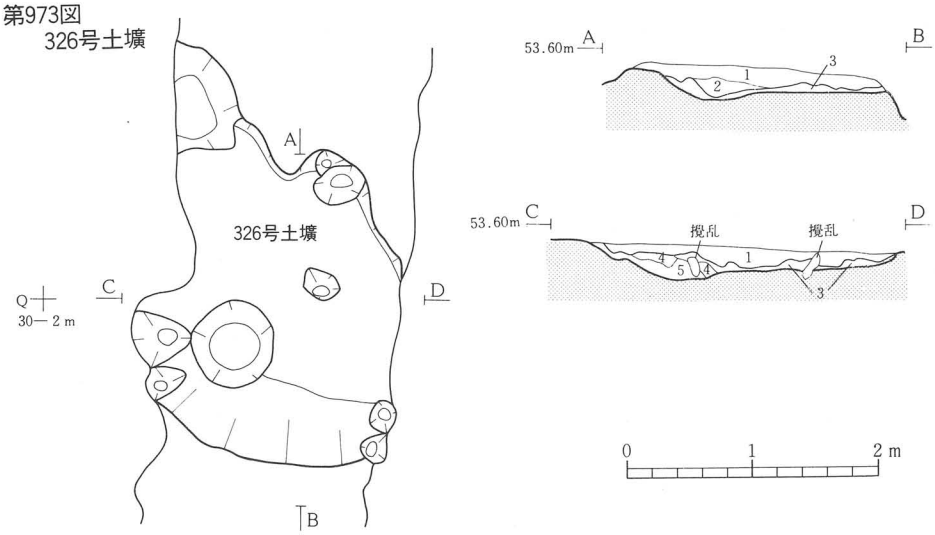
第971図　325号土壙出土円盤



No.	種別	層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	備考
1	スクレイパー	堆積土	(30.85)×(51.50)×5.75	6.20	頁岩	

第972図　325号土壙出土石器

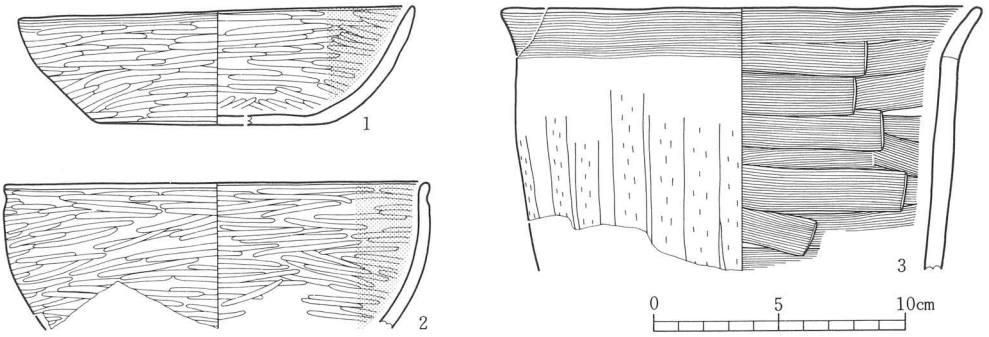
第973図
326号土壙



326号土壙（O−30a）土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	褐　10YR4/4	シルト	炭化物を若干含む
	2	褐　10YR4/6	シルト	
2	3	黄褐　10YR5/6	シルト	
	4	にぶい黄褐　10YR4/3	シルト	焼土粒を含む
	5	明黄褐　10YR6/8	粘度質シルト	

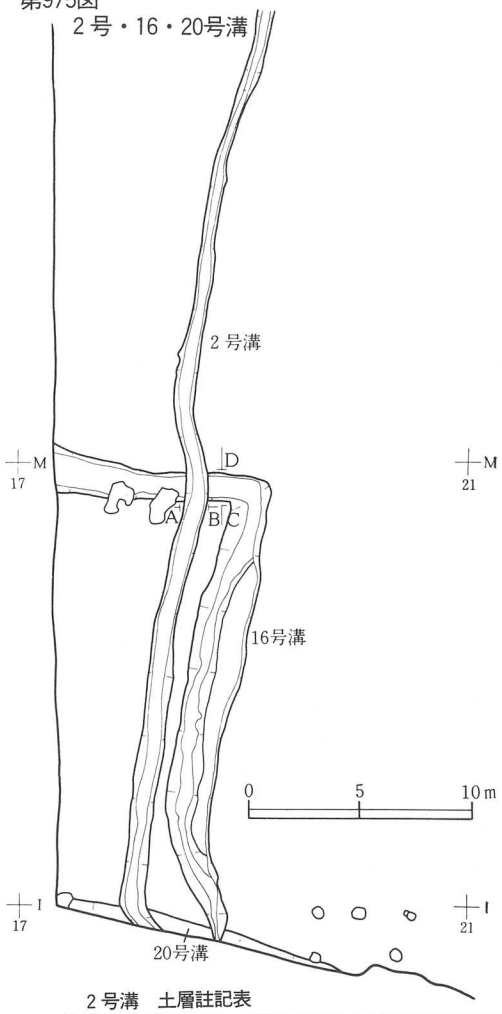
No.	地区	確認面	平面形	規模	壁高	備考
326	O・P−30	第4層上面	不整円形基調	250×(210)	12	4・5溝、ピットに切られ、42土壙を切る。底面南寄りに70×65×16の凹み有。



No.	層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	堆積土	土師器・坏	横ナデ、磨キ	磨キ、黒色処理	磨キ	Ab	
2	堆積土	土師器・坏	横ナデ、磨キ	磨キ、黒色処理		Aa	
3	堆積土	土師器・甕	横ナデ、ヘラケズリ	横ナデ、ヘラナデ		Ab	内面に種子圧痕らしきものあり

第974図　326号土壙出土土器

第975図



3．溝跡

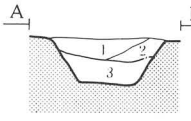
2号溝

本遺構は、調査区の西寄りH－18からY－21まで、直線距離にして約85mの長さで検出された。幅は約0.5～1.0mである。

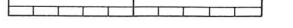
確認面は地区により異なり第2層～第4層上面である。1号、17号溝に切られており、本遺構の方が古い。251号、252号土壙、16号、20号溝、4号掘立柱建物跡を切っており、本遺構の方が新しい。また、H－18からM－18にかけて、多数のピット、柱穴と重複関係にあるが、ほとんどは本遺構より新しい。南側の調査区外へ延びており、今回検出されたのはその一部であると考えられる。

堆積土は2層に大別されるが自然堆積である。S・T－20付近に堆積土上部に拳大から人頭大の河原石が多量に混入していた。

壁は5～40cm程残存しており、底面から急角



第976図　2号溝上層断面図



2号溝　土層註記表

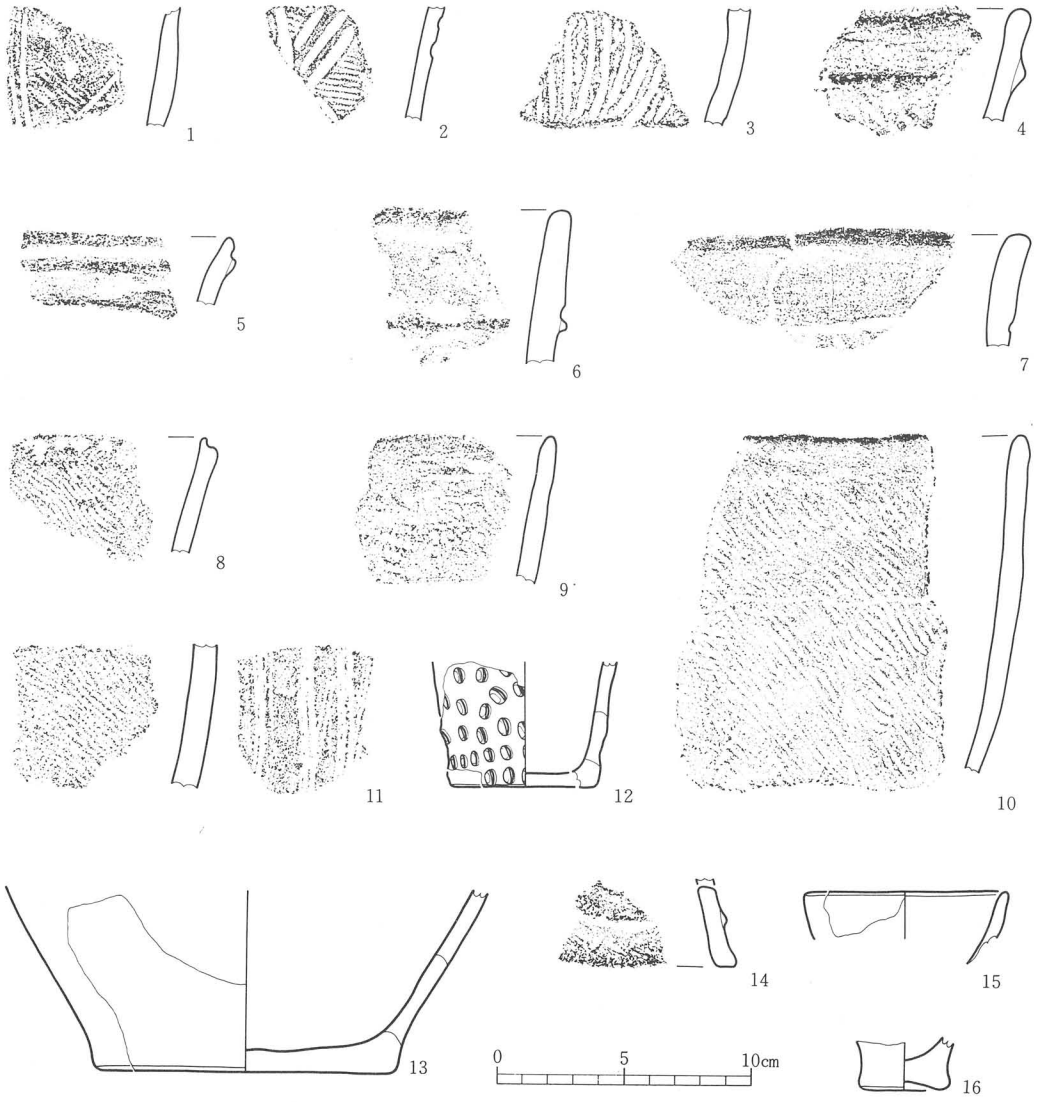
層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	暗褐　7.5YR3/3	シルト	炭化粒微量、スコリア微量に含む
	2	暗褐　10YR3/3	シルト	礫微量、スコリア少量含む
2	3	褐　10YR4/4	シルト	炭化粒少量、スコリア微量、ローム粒多量、風化礫微量に含む

No.	層　位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	・堆積土	土師器・坏	ロクロ調整	磨キ、黒色処理	B	
2	・堆積土	深　鉢	沈線文、LR縄文	磨キ（横・斜）	IXorX	
3	・堆積土	深　鉢	沈線文、RL縄文	磨キ（横）	IXorX	
4	・堆積土	深　鉢	隆線文、沈線文、LR縄文	磨キ（横）	X	
5	・堆積土	深　鉢	沈線文、刺突文、L縄文	磨キ（横）	X	
6	・堆積土	深　鉢	隆線文、LR縄文	磨キ（横）	X	
7	・堆積土	深　鉢	隆線文、RL縄文	磨キ（横・縦）	X	
8	・堆積土	深　鉢	隆線文、沈線文、刺突文、LR縄文	磨キ（横）	XorXI	
9	・堆積土	浅　鉢	隆線文、沈線文、RL縄文	磨キ（横）	X	

第977図　2号溝出土土器（1）

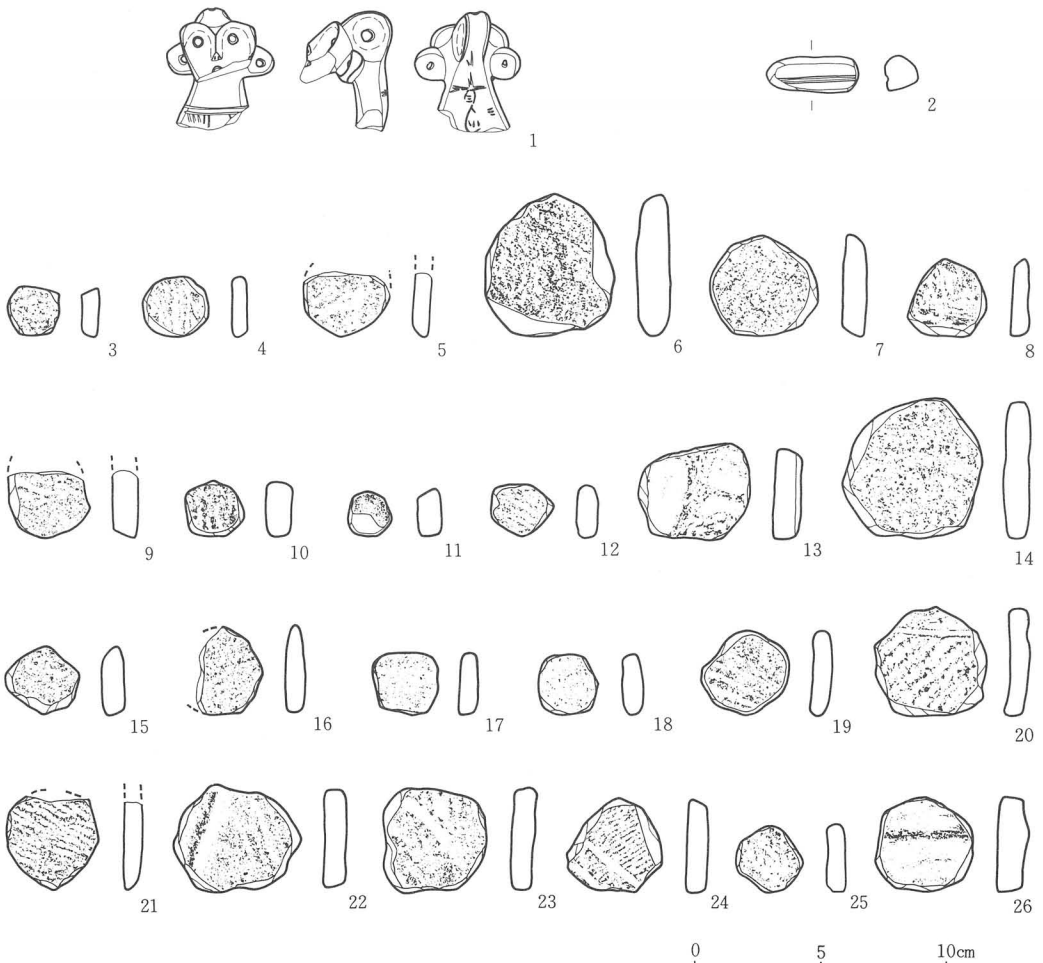
No.	層　位	器　形	外　面	内　面	分　類	備　考
1	・堆積土	深　鉢	沈線文、L撚糸文	磨キ（横）	X	
2	・堆積土	深　鉢	隆線文、刺突文、LR縄文	磨キ（横）	X or XI	
3	・堆積土	深　鉢	刺突文	磨キ（横）	X or XI	
4	・堆積土	深　鉢	隆線文、沈線文	磨キ（横）	XI	
5	・堆積土	深　鉢	隆線文、沈線文、刺突文、不明縄文	磨キ（横）	X or XI	
6	・堆積土	深　鉢	隆線文、沈線文、刺突文	ナデ、磨キ（斜）	XI	
7	・堆積土	深　鉢	隆線文、貼付文、LR縄文	磨キ（横）	XI	
8	・堆積土	——	隆線文、刺突文	ナデ、磨キ（横）	XI	
9	・堆積土	深　鉢	沈線文、貼付文	不　明	XI	
10	・1層	深　鉢	隆線文、刺突文、RL縄文	磨キ（横）	XI	
11	・1層	深　鉢	沈線文、LR縄文	マメツ	XI	
12	・堆積土	深　鉢	隆線文、RL縄文	磨キ（横）	XI	
13	・1層	深　鉢	沈線文、貼付文、刺突文、LR縄文	磨キ（横）	XI	
14	・1層	深　鉢	沈線文、RL縄文	磨キ（横）	XI	
15	・堆積土	深　鉢	沈線文、RL縄文	ナデ(斜)、磨キ(横)	XI	

第978図　2号溝出土土器（2）



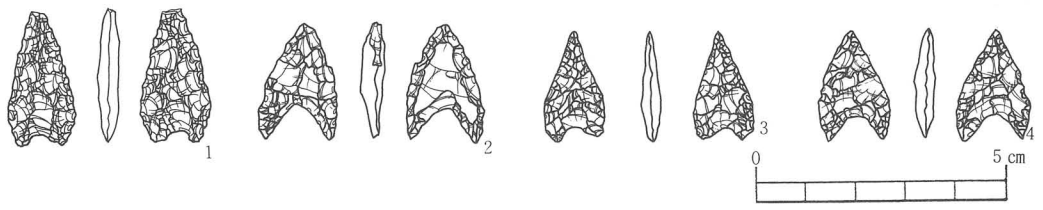
No.	層　位	器　形	外　面	内　面	底　部	分　類	備　考
1	・堆積土	深　鉢	沈線文、R撚糸文	磨キ（横）		XI	
2	・堆積土	深　鉢	沈線文、LR縄文	磨キ（横）		XI	
3	・堆積土	深　鉢	沈線文、R撚糸文	ナデ（縦）		XI	
4	・堆積土	深　鉢	隆線文、L縄文	ナデ（横）		B I	
5	・1　層	深　鉢	隆線文、沈線文	磨キ（横）		B II	
6	・堆積土	深　鉢	隆線文、刺突文	磨キ（横）		B III	
7	・堆積土	深　鉢	沈線文	磨キ（横）		B IV	
8	・1　層	深　鉢	刺突文、L撚糸文	ナデ（横）		B V	
9	・堆積土	深　鉢	LR縄文	磨キ（縦・斜）		B VI	
10	・堆積土	深　鉢	綾絡文、RL縄文	ナ　デ（横）		B VI	
11	・堆積土	深　鉢	R撚糸文	沈線、磨キ（横）			
12	・1　層	深　鉢	連続刺突文	磨キ（横）	不　明	XI 7	
13	・堆積土	深　鉢	マメツ	不　明	網代痕		
14	・堆積土	——	隆線文	ナデ（横）			
15	・堆積土	ミニチュア	不　明	不　明			
16	・堆積土	ミニチュア	不　明	不　明			

第979図　2号溝出土土器（3）



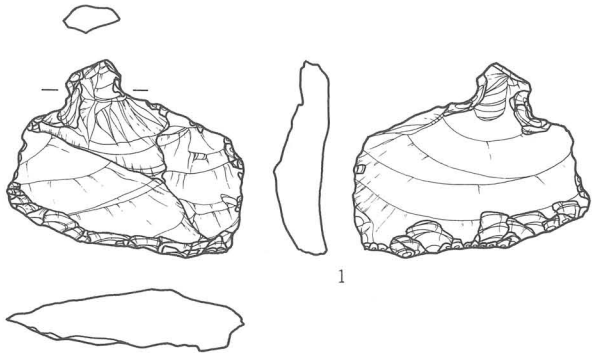
No.	層位	種類	No.	層位	種類	No.	層位	種類	No.	層位	種類
1	1 層	土偶	2	1 層	不明土製品	3	堆積土	土製円盤	4	堆積土	土製円盤
5	堆積土	土製円盤	6	堆積土	土製円盤	7	堆積土	土製円盤	8	堆積土	土製円盤
9	堆積土	土製円盤	10	堆積土	土製円盤	11	堆積土	土製円盤	12	2 層	土製円盤
13	堆積土	土製円盤	14	堆積土	土製円盤	15	堆積土	土製円盤	16	堆積土	土製円盤
17	堆積土	土製円盤	18	堆積土	土製円盤	19	堆積土	土製円盤	20	堆積土	土製円盤
21	堆積土	土製円盤	22	堆積土	土製円盤	23	堆積土	土製円盤	24	堆積土	土製円盤
25	堆積土	土製円盤	26	堆積土	土製円盤						

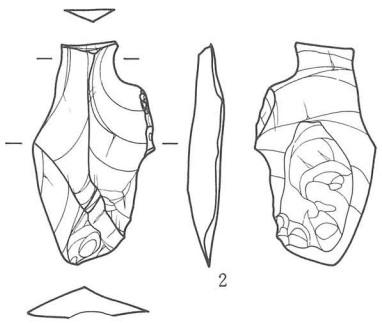
第980図　2号溝出土土製品

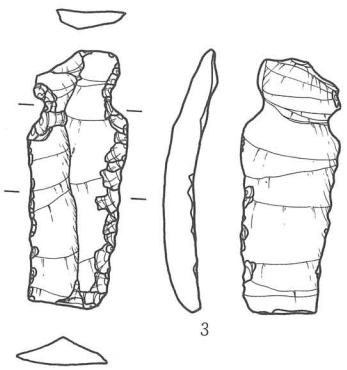


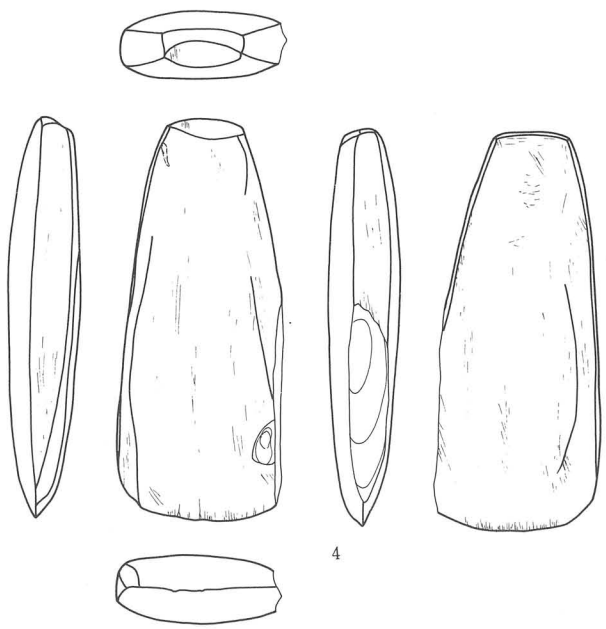
No.	種別	層位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石材	備考
1	石鏃A	堆積土	(26.90)×(13.20)×4.45	1.25		
2	石鏃A	堆積土	22.75×15.50×4.45	1.10	玉髄	
3	石鏃A	堆積土	22.05×11.45×4.00	0.60	鉄石英	
4	石鏃A	堆積土	21.45×14.20×4.10	0.80	頁岩	

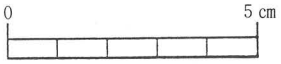
第981図　2号溝出土石器（1）











No.	種　別	層　位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	備　考
1	石　匙	堆積土	39.20×46.25×11.45	15.25	頁　岩	
2	石　匙	堆積土	45.00×24.30×6.50	4.45		
3	石　匙	堆積土	51.45×19.65×6.25	5.90	頁　岩	
4	磨製石斧	堆積土	80.75×(32.55)×14.50	62.5		

第982図　2号溝出土石器（2）

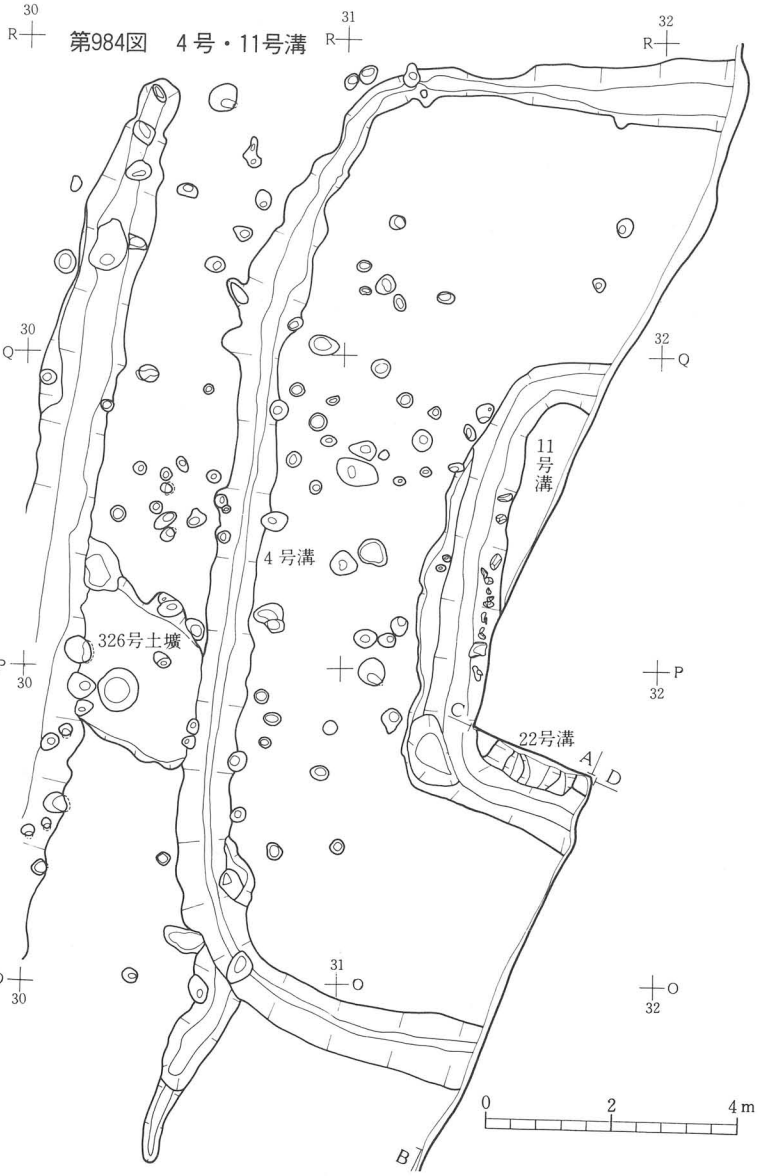
No.	種別	層位	備考	No.	種別	層位	備考
1	有溝砥石	堆積土		3	砥石	堆積土	
2	砥石	堆積土					

No.	種別	層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
4	礫石器	堆積土	188×155×94	2865.0		凹－両面	
5	石皿	堆積土	(271)×(98)×(91)	2078.0		磨－片面	

第983図　2号溝出土石器（3）

度で立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。底面レベルは地形に対応して緩やかに変化している。

遺物は土器、石器、土製品が出土している。



第984図　4号・11号溝

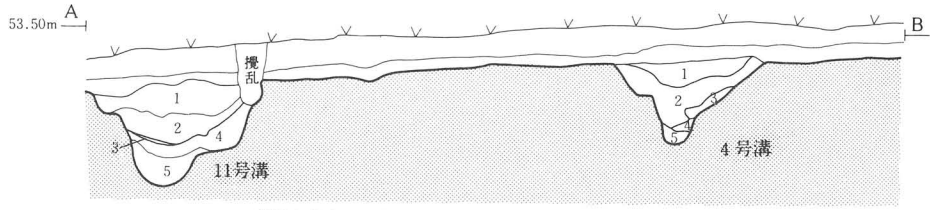
第54表　2号溝出土土器破片集計表

種別	土師器											須恵器	
器種	坏							甕					
部位	口	体			底			体		底		口	合計
内面	ロクロナデ	ロクロナデ	ミガキ	マメツ	マメツ	マメツ	マメツ	ロクロナデ	ケズリ	マメツ	ミガキ(黒)	ロクロナデ	
外面	ミガキ(黒)	ミガキ(黒)	ミガキ(黒)	マメツ	ミガキ(黒)	マメツ	マメツ	ロクロナデ	マメツ	ミガキ(黒)	ロクロナデ		
堆積土	1	5	1	2	4	2	2	3	1	1	1	23	
合計	1	5	1	2	4	2	2	3	1	1	1	23	

4号溝

本遺構は、調査区の東側に位置し、N－31からQ－32まで約25mの長さで検出された。幅は約0.5～1.1mである。

確認面は第4層上面である。方形を呈しており西辺



第985図　4号・11号溝土層断面図

4号溝　土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	暗褐　7.5YR3/4	シルト	スコリア含有
2	2	暗褐　7.5YR3/3	粘度質シルト	スコリア、炭化物、焼土粒を多量に含有
3	3	褐　7.5YR4/6	粘度質シルト	ロームブロック含有
	4	明褐　7.5YR5/8	粘度質シルト	スコリア多量に含有
4	5	暗褐　10YR3/4	シルト質粘土	Fine Sand含有

11号溝　土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	暗褐 10YR3/4	シルトﾚ	スコリア、焼土粒含有
	2	褐 10YR4/4	シルト	スコリア多量に含有
2	3	明褐 7.5YR5/6	シルト	
3	4	褐 7.5YR4/6	砂質シルト	スコリア多量に含有
	5	黄褐 10YR5/6	粘土質シルト	砂粒多量に含有

が全長約14mである。南西コーナー付近から南へ約3.2mの長さで溝が検出されている。切合い関係は認められず、4号溝に付属したものである可能性がある。南辺、北辺は東側の調査区外へ延びており、今回検出されたのはその一部であると考えられる。41号、42号、324号、326号土壙、1号、24号住居跡を切っており、本遺構が最も新しい。西辺では上端部分にピットがみられるが、堆積土の区別がつかず切合い関係は不明である。

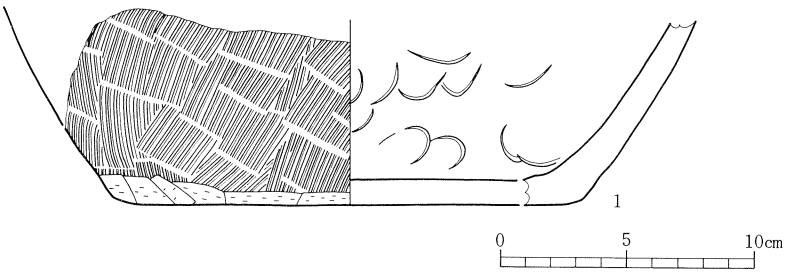
堆積土は6層に大別されるが自然堆積である。

壁は15～50cm程残存している。底面から急角度で立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。底面レベルは地形に対応して緩やかに変化している。

遺物は土器、石器が出土している。

第55表 4号溝出土土器破片集計表

種別	土師器				須恵器	合計
器種	坏			甕	甕	
部位	口	体	底部	体	体	
内面	ロクロナデ	マメツ	回転糸切り後ロクロ	ロクロナデ	平行叩き目	
外面	ロクロナデ	マメツ	ミガキ	ロクロナデ	ロクロナデ	
堆積土	1	1	1	1	1	5
合計	1	1	1	1	1	5



No.	層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	堆積土	須恵器・甕	タタキ目、ヘラケズリ	アテ目	ヘラケズリ		

第986図　4号溝出土土器

11号溝

本遺構は、調査区東側に位置し、O－30からP－31まで約10mの長さで4号溝の内側に検出された。幅は約0.6～1.0mである。

確認面は第4層上面である。1号住居跡、22号溝を切っており本遺構の方が新しい。方形を呈しており西辺が全長約6.8mである。南辺、北辺は東側の調査区外へ延びており、今回検出されたのはその一部であると思われる。

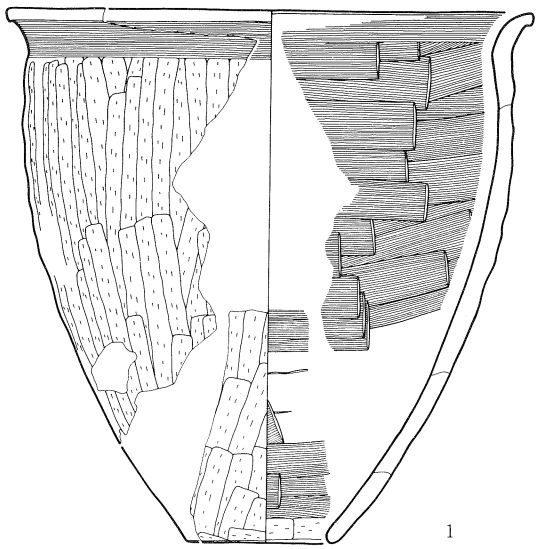
堆積土は3層に大別される。壁は底面から急角度で立ち上がる。底面レベルはほぼ一定である。西辺南半部の東側上端付近に手の平大から人頭の河原石が並べられた状態で検出された。

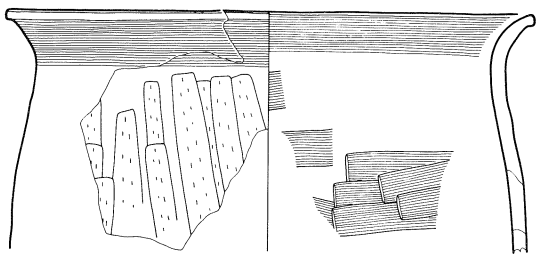
溝に伴う施設の一部である可能性がある。また、南西コーナー部分に土壙状の凹みがみられる。

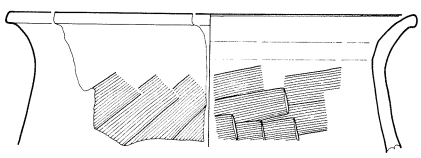
遺物は土器、石器が出土している。

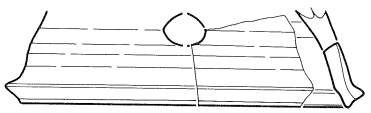
第56表
11号溝出土土器破片集計表

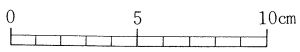
種別	土師器							
器種	甕							
部位	口	体					底	合計
内面	刷毛目	ケズリ	ナデ	ヘラナデ	マメツ	ケズリ		
外面	マメツ	ロクロナデ	ナデ	ナデ	刷毛目	ミガキ		
2層	1		7	1	1	1		11
堆積土	1	1						2
合計	2	1	7	1	1	1		13











No.	層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	堆積土	土師器・甕	横ナデ、ヘラケズリ	ヘラナデ	A	
2	堆積土	土師器・甕	横ナデ、ヘラケズリ	横ナデ、ヘラナデ	Aa	
3	堆積土	土師器・甕	ロクロ調整、ヘラナデ	ロクロ調整、ヘラナデ	Aa	
4	確認面	円面硯	ロクロ調整	ロクロ調整		
5	堆積土		沈線文	磨キ（横）		

第987図　11号溝出土土器

16号溝

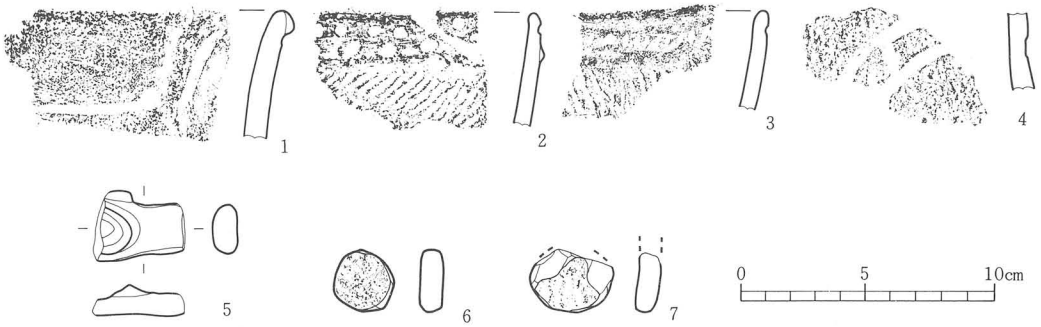
本遺構は、調査区南西部に位置し、H－18からL－17までL字形に約30m検出されている。幅は0.9～2.35mである。

確認面は第4層上面である。251号、252号、289号、290号、291号、294号土壙、20号溝、4号掘立柱建物跡を切っており本遺構の方が新しい。2号溝に切られており本遺構の方が古い。また、南側及び西側の調査区外へ延びており、今回検出されたのはその一部であると考えられる。

第988図　16号溝土層断面図

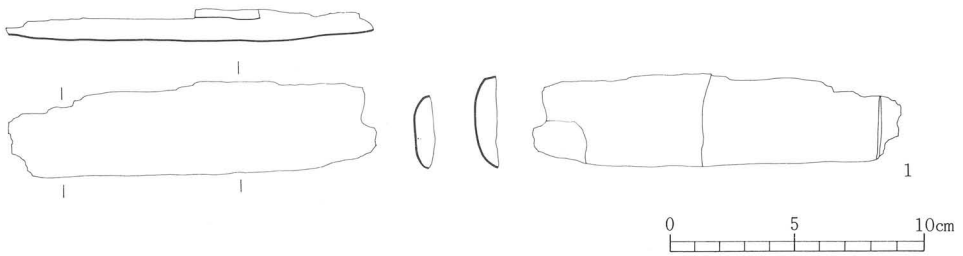
16号溝　土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	暗褐 10YR3/3	シルト	炭化粒少量、礫微量、スコリア少量含有
	2	暗褐 10YR2/3	シルト	炭化粒少量、スコリア少量含有
2	3	暗褐 10YR3/4	シルト	ローム粒少量含有
	4	褐 7.5YR4/4	シルト	ローム粒多量、礫微量含有



No.	層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	堆積土	―――	隆線文、沈線文	磨キ（斜）	X or XI	
2	堆積土	―――	隆線文、刺突文、L縄文	磨キ（横）	XI	
3	堆積土	―――	刺突文、R撚糸文	磨キ（横）	XI	
4	堆積土	―――	沈線文、R撚糸文	不明	XI	
5	堆積土	不明土製品				
6	堆積土	土製円盤				
7	堆積土	土製円盤				

第989図　16号溝出土土器・土製品



No.	種別	層位	備考
1	石刀	堆積土	

第990図　16号溝出土石製品

堆積土は3層に大別される。いずれも自然堆積である。

壁は8～38cmである。底面から急角度で立ち上がる部分と、緩やかに立ち上がる部分がある。底面はほぼ平坦であるが、底面レベルは本遺構の折曲部分で浅くなっている。南及び西側へ向かって地形に対応して緩やかに変化している。また、Ⅰ～K－17ラインでは東側に段が形成され、一段高くなっている部分がある。

遺物は土器、石器が出土している。

第57表
16号溝出土土器破片集計表

種別	土師器	須恵器		合計
器種	甕	甕		
部位	体	体		
内面	ケズリ ミガキ	平行叩き目	平行叩き目	
外面	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	
堆積土	1	2	1	4
合計	1	2	1	4

22号溝

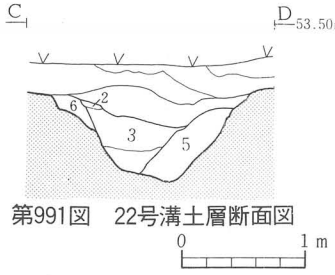
本遺構は、調査区東側のO－31に位置し、0.5mの長さで検出された。幅は約1.4mである。

確認面は第4層上面である。11号溝に切られており、本遺構の方が古い。北側の調査区外へ延びており、今回検出されたのはその一部であると考えられるが、検出された部分が短いため、溝以外の遺構の一部であることも考えられる。

堆積土は4層に大別される。自然堆積である。

壁は約60cm残存している。底面からやや急角度で立ち上がっており、段階状になっている。底面は概ね平坦であり、北側の調査区壁際では、11号溝に切られている部分より広くなっている。

遺物は出土しなかった。



第991図　22号溝土層断面図

22号溝土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	黒褐 10YR 3/2	シルト	若干の炭化物含む
2	2	褐 10YR 4/4	粘土質シルト	スコリア多量に含む
	3	暗褐 7.5YR 3/3	シルト	
	4	暗褐 7.5YR 3/4	粘土質シルト	
3	5	褐 10YR 4/6	シルト	
4	6	黄褐 10YR 5/6	粘土質シルト	スコリア多量に含む

4．掘立柱建物跡

4号掘立柱建物跡

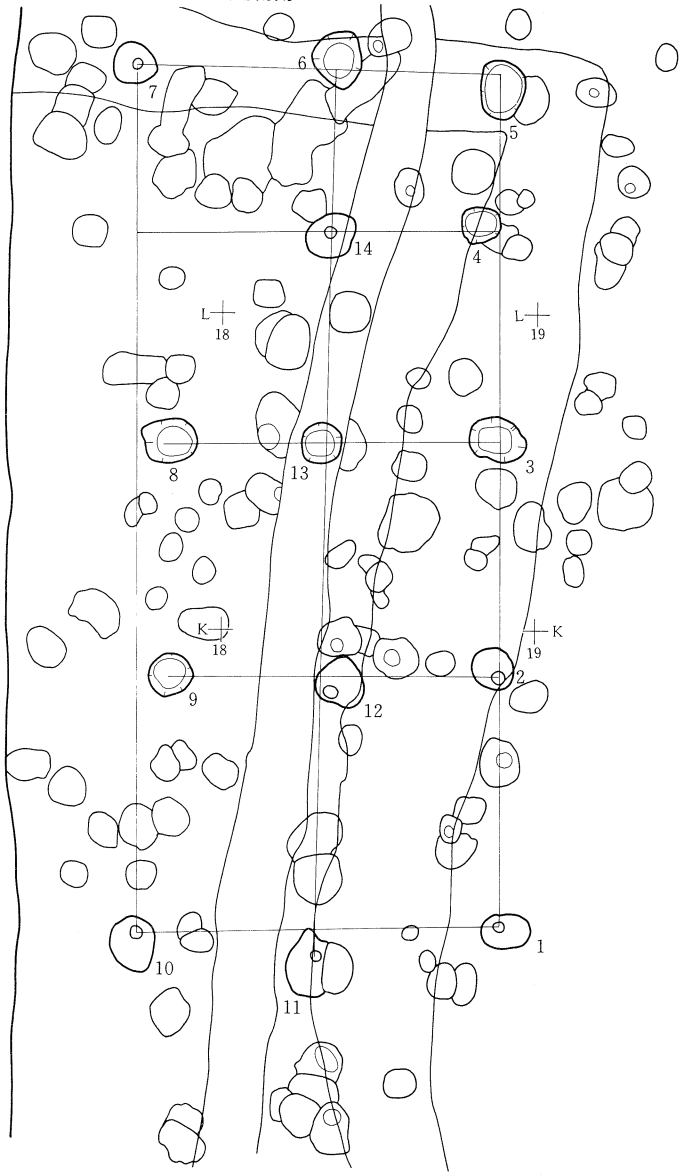
本遺構は調査区の南西部、Ⅰ～L－17、18に位置し、第4層上面で確認された。桁行4間、梁行2間の南北棟の総柱建物跡である。東側柱列では13.45m（柱間寸法は北より2.5m＋3.3m＋3.7m＋3.95m）、中央柱列では14.0m（柱間寸法は北より2.55m＋3.35m＋3.9m＋4.2m）、西側柱列では13.7m（柱間寸法は北より2.6m＋3.3m＋3.7m＋4.1m）、北側柱列では5.8m（柱間寸法は東より2.65m＋3.15m）、北側より2列目では1間分しか柱穴は検出されていないが、5.5m

（柱間寸法は東より2.45m＋3.05m）と考えられ、3列目では5.2m（柱間寸法は東より2.75m＋2.45m）、4列目では5.2m（柱間寸法は東より2.5m＋2.7m）、5列目では5.75m（柱間寸法は東より2.9m＋2.85m）である。建物方向は桁東側でN－0°－Eである。2号16号溝に切られており本遺構の方が古い。252号、253号土壙を切っており本遺構の方が新しい。また、西側柱列の状況から249号土壙の切り合いも考えられるが、柱穴が検出されず不明である。

柱穴掘り方は円形のものと楕円形を基調としたものがある。規模は最大のもので100cm×70cm、最小のもので68cm×63cmである。柱痕跡は7個確認され、径18～22cmの円形である。深さは遺存状態の良好なもので57cmである。

明確に本遺構に伴う遺物は出土しなかった。

第992図　4号掘立柱建物跡



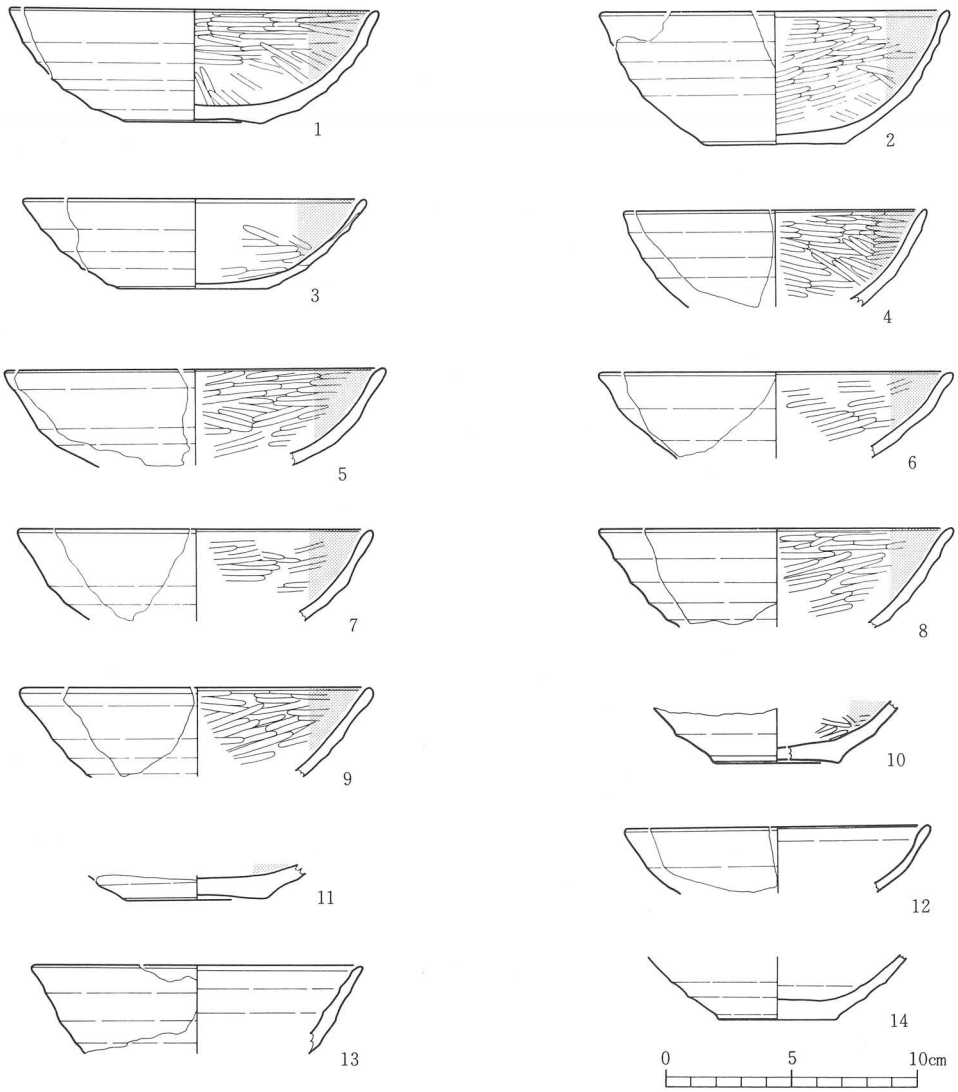
4号掘立柱建物跡柱穴

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
形　状	楕　円	楕　円	楕　円	楕　円	楕　円	不整円	不整円	楕　円	円	楕　円	楕　円
深　さ	——	——	30	26	(20)	27	——	56	42	——	——
備　考	柱痕有	柱痕有					柱痕有			柱痕有	柱痕有
	深　56						深　40			深　39	深　49

No.	12	13	14
形　状	不整円	円	不整円
深　さ	——	(26)	——
備　考	柱痕有		柱痕有
	深　36		深　51

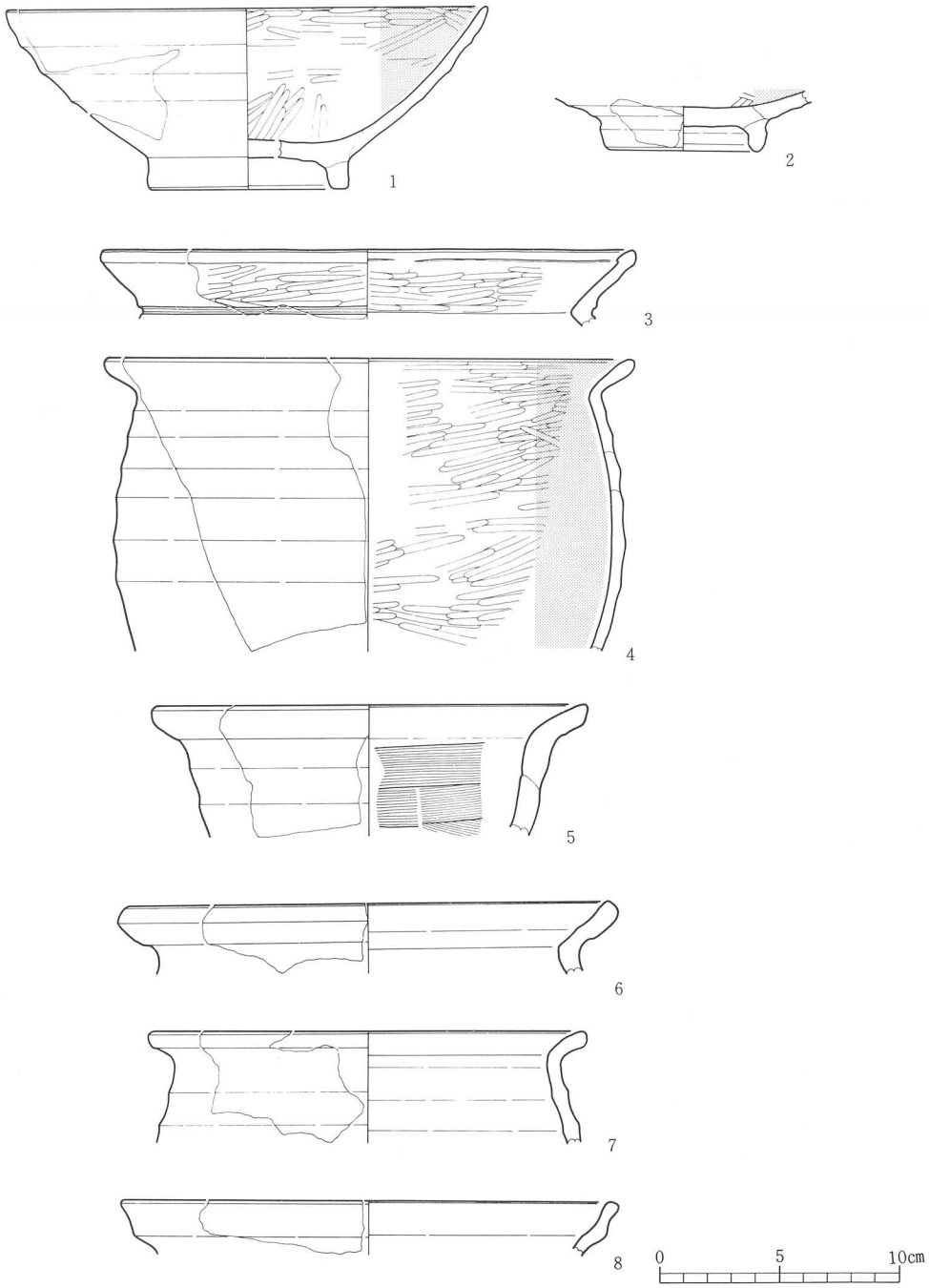
5．遺構外の出土遺物

古代の遺物は、東区、東側道路部、西区の表土及び堆積土から出土している。遺物には土師器、須恵器、須恵器の甕の体部破片を利用した転用硯と円盤がある。



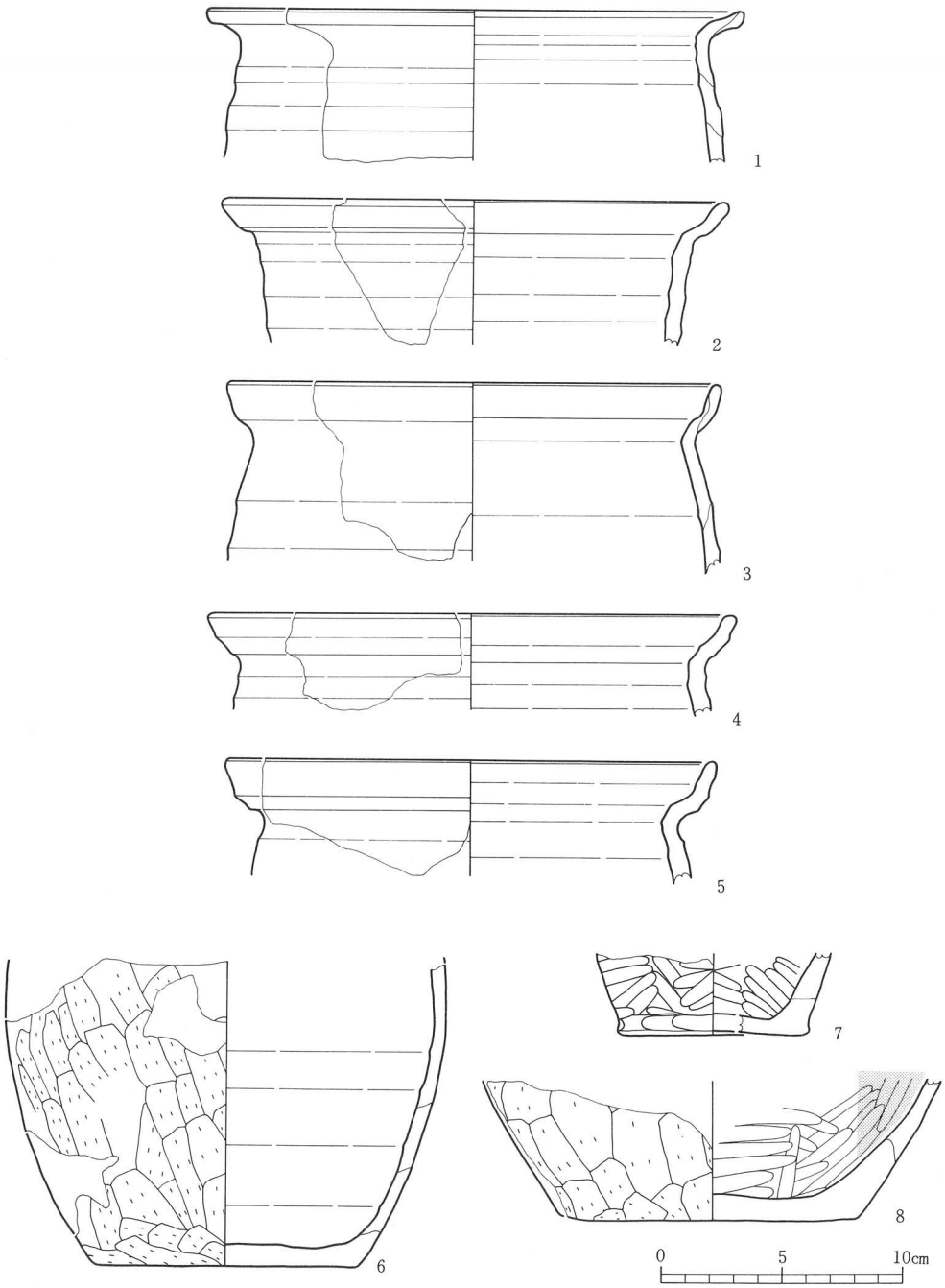
No.	地区・層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	Cトレ・1層	土師器・坏	ロクロ調整	磨キ、黒色処理	回転糸切り	Ba2	
2	R－6・1層	土師器・坏	ロクロ調整	磨キ、黒色処理	手持ちヘラケズリ	Ba1	回転糸切り後手持ちヘラケズリ
3	Gトレ・2層	土師器・坏	ロクロ調整	磨キ、黒色処理	回転削り	Bb	
4	E－11・2層	土師器・坏	ロクロ調整	磨キ、黒色処理		B	
5	Cトレ・2層	土師器・坏	ロクロ調整	磨キ、黒色処理		B	
6	Cトレ・2層	土師器・坏	ロクロ調整	磨キ、黒色処理		B	
7	道路部・1層	土師器・坏	ロクロ調整	磨キ、黒色処理		B	
8	Dトレ・2層	土師器・坏	ロクロ調整	磨キ、黒色処理		B	
9	Dトレ・2層	土師器・坏	ロクロ調整	磨キ、黒色処理		B	
10	T－32・2層	土師器・坏	ロクロ調整	磨キ、黒色処理	回転糸切り	Ba2	
11	Cトレ・2層	土師器・坏	ロクロ調整	磨キ、黒色処理	回転糸切り	Ba2	
12	W－23・24・1層	土師器・坏	ロクロ調整	ロクロ調整		B	
13	V・W－25・26・1層	土師器・坏	ロクロ調整	ロクロ調整		B	
14	T－32・2層	土師器・坏	ロクロ調整	ロクロ調整	回転糸切り	Ba2	

第993図　遺構外出土土器（1）



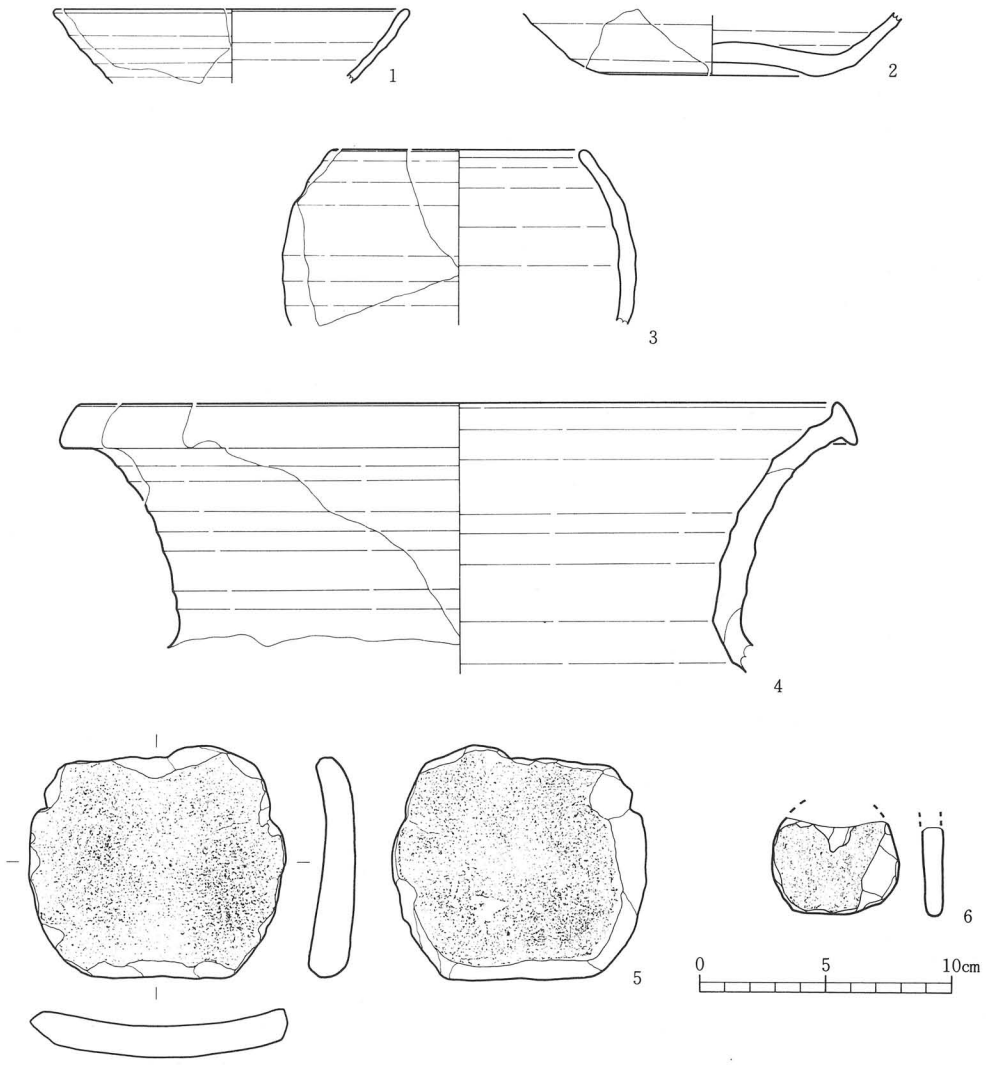
No.	地区・層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	Dトレ・2層	土師器・高台付坏	ロクロ調整	磨キ、黒色処理	回転糸切り	B	
2	Cトレ・1層	土師器・高台付坏	ロクロ調整	磨キ、黒色処理	回転ヘラ削り	B	
3	W−25・2層	土師器・甕	磨キ、沈線	磨キ		AC	
4	R−6・1層	土師器・甕	ロクロ調整	磨キ、黒色処理		Ba	
5	Cトレ・表土	土師器・甕or鉢	ロクロ調整	ロクロ調整、篦ナデ		Ba	
6	Gトレ・2層	土師器・甕	ロクロ調整	ロクロ調整		Ba	
7	Gトレ・2層	土師器・甕	ロクロ調整	ロクロ調整		Ba	
8	Cトレ・2層	土師器・甕	ロクロ調整	ロクロ調整		Bc	

第994図　遺構外出土土器（2）



No.	地区・層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	Gトレ・2層	土師器・甕	ロクロ調整	ロクロ調整		Bb	
2	Gトレ・2層	土師器・甕	ロクロ調整	ロクロ調整		Bc	
3	Dトレ・2層	土師器・甕	ロクロ調整	ロクロ調整		Bc	
4	Cトレ・1層	土師器・甕	ロクロ調整	ロクロ調整		Bc	
5	Cトレ・2層	土師器・甕	ロクロ調整	ロクロ調整		Bc	
6	Cトレ・1層	土師器・甕	ヘラケズリ	ロクロ調整	手持ちヘラケズリ	B	
7	E−12・1層	土師器・甕	ナデ	ナデ	木葉痕	A	
8	Cトレ・2層	土師器・甕	ヘラケズリ	磨キ、黒色処理	手持ちヘラケズリ	A	

第995図　遺構外出土土器（3）



No.	地区・層位	器　形	外　面	内　面	底　部	分　類	備　考
1	Jトレ・2層	須恵器・坏	ロクロ調整	ロクロ調整			
2	G－11・1層	須恵器・坏	ロクロ調整	ロクロ調整	回転糸切り		
3	G－11・1層	須恵器・碗	ロクロ調整	ロクロ調整			
4	V・W－11・1層	須恵器・甕	ロクロ調整	ロクロ調整			
5	道路部・1層	須恵器・転用硯	タタキ目、ナデ	マメツ			
6	表　採	土製円盤					

第996図　遺構外出土土器（4）・土製品

6．古代の遺構と遺物について

古代の遺構とその出土遺物については概要は前述のとおりである。ここでは、それらについての若干の検討を行ないたい。

(1) 古代の遺物

古代の遺物には土師器、須恵器がある。

土師器

土師器には器種として、坏、甕、甑、鉢、高台付坏、蓋がある。製作に関してロクロを使用していないもの（A類）とロクロを使用しているもの（B類）がある。以下に取り上げるものは比較的遺存状況の良好な図示遺物を対象とする。

〔A類〕

出土量が少なく大部分が破片資料であり、図示遺物は8点のみである。器種には坏、甕、甑がある。以下器種ごとに特徴を述べる。

坏

器形の特徴により下記に分けられる。

a　底部は欠けている。体下部から口縁部にかけて丸味をもって立ちあがり、口縁端部が外反する。器面調整は内外面共にヘラミガキが施され、内面は黒色処理されている。ヘラミガキの方向は横位方向である。

b　底部は平底を呈し、口縁部はやや内弯気味に外傾し立ち上がる。器面調整は外面口縁部にヨコナデが、体部から底部にかけてはヘラミガキが施される。内面はヘラミガキ、黒色処理されている。ヘラミガキの方向は、体部は横位方向、底部は一定方向である。

甕

口縁部の形態により下記に分けられる。

a　体部下半が欠損している。体部は内弯気味に立ち上がり、口縁部は強く外弯しながら立ち上がる。体部と口縁部の境には段や稜はみられない。器面調整は外面は口縁部にヨコナデ、体部にケズリが施され、内面は口縁部にヨコナデ、体部にヘラナデが施されている。

b　体部下半が欠損している。体部は膨らみが弱くほぼ直線的に外傾しながら立ち上がり、短い口縁部がほぼ直線的に外傾する。体部と口縁部の境は明瞭ではない。器面調整は外面、内面ともにaと同様のものである。

c　口縁部のみが残存する。口縁部が直線的に外傾し、口唇部が若干肥厚し内面が軽く立ち上がる。体部と口縁部との境に沈線がめぐっている。器面調整は内外面ともにミガキが施されている。

甑

1点のみの出土である。無底の甑である。体部は底部から頸部にかけて緩やかな丸味をもって外傾し、口縁部は強く外弯しながら立ち上がる。器面調整は内外面ともにヨコナデ、体部外面はケズリ、内面はヘラナデが施されている。

以上が土師器A類の各器種ごとの特徴である。これらの多くは土壙、溝跡から出土のものであり、一つのまとまりとして把えられるものである。これらの土師器の年代について検討してみる。

坏a、b、甕bは326号土壙より出土している。全て堆積土中出土のものであるが、一括資料でもあり、共伴関係にあるものとして把えられるものと考えられる。坏bや甕bは糖塚、大境山、清水遺跡に類例がみられ「国分寺下層式」の範疇に属するものと把えられており、特に坏bに関しては、国分寺下層式の終末期とされている。その他の土器は、11号溝堆積土出土のものの他に単体で出土しており共伴関係はみられないが、甕については上述の遺跡や山口遺跡等に類例がみられ国分寺下層式のものと考えられる。また甑についてもA類が国分寺下層式に属するものであり、他の型式に類例がみられないことなどから同様の時期であると考えられる。

〔B類〕

古代の遺物の中で最も出土量が多い。器種には坏、高台付坏、甕、鉢、蓋がある。以下器種ごとに特徴を述べる。

坏

底部の切離しの違いによって下記に分けられる。

a1　底部の切離しが回転糸切りによるもので再調整の加えられているものである。再調整は手持ちヘラケズリである。底部から口縁部に向かって丸味をもって外傾する器形である。器面調整は外面がロクロ調整、内面はヘラミガキ、黒色処理が施されている。しかし、中にはヘラミガキ、黒色処理が確認されず、ロクロ調整のみしか確認されないものがある。ヘラミガキの方向は体部下端から底部では放射状であり、体上部では横方向である。

a2　底部の切離しが回転糸切りによるもので再調整の加えられていないものである。底部から口縁部に向かって丸味をもって外傾する器形で、口縁端部がかるく外反するものもある。器面調整は外面はロクロ調整、内面はヘラミガキ、黒色処理が施されている。ヘラミガキの方向は

体部下端から底部では放射状であり、体上部では横方向ものもが多い。

b　底部の切離し技法が再調整のために不明のものである。再調整は全て回転ヘラケズリで底面から体部下端にまで施されるものと底面にのみ施されるものの二種がある。底部からほぼ直線的に外傾して立ち上がる器形のものと、底部から口縁部に向かって丸味をもって外傾する器形のものがある。器面調整は外面がロクロ調整、内面はヘラミガキ、黒色処理が施される。再酸化のためか内面の黒色処理の確認されないものもある。内面のヘラミガキの方向は体部下部から底部では放射状、体上部で横方向あるいは放射状のものがある。

高台付坏

2例のみの出土である。外面にはロクロ痕が観察され、内面にヘラミガキ、黒色処理が施されている。坏部の判明するものは高台部から口縁部にかけてやや内弯気味に外傾し立ち上がる。高台はほとんど直立している。いずれも高台部は付高台である。坏底部の切離しが判明するものは回転糸切りであり、他は高台接合の際のロクロ調整のため不明である。

甕

口縁部の形態から下記に分けられる。

a　口縁部が体部から「く」字状に外傾または外反するものである。数量的には最も多いものである。大形のものと小形のものがあり、長胴形を呈するものは少ないようである。

器面調整は外面にヘラナデ、ケズリが施されるものもあるがロクロ調整のみのものが多い。内面はロクロ調整のみのものが多いがヘラナデ、ヘラミガキの施されるものもある。

ヘラミガキの施されたものは黒色処理が施されている。底部の確認できるものは平底で、切離しは磨滅のため不明である。また、体部と口縁部の境が明瞭でないものがみられ、それらは鉢に分類されるものである可能性もあるが、体部下半以下が欠損のため不明である。

b　口縁部が体部から「く」字状に外傾し口唇部が直立気味に立つものである。

体部上半しか残存しないが長胴形を呈するものと思われる。

器面調整は外面の体部下半には縦位方向のケズリがみられ、体部外面に叩き圧痕が観察されるものがある。内面はロクロを用いた回転ヘラナデ調整のものとヘラナデが施されたものが見られる。

c　口縁部の下半部が体部から「く」字状に強く外傾し口縁部の上半部が直立気味またはゆるやかに外傾して立ち上がるものである。器面調整は内外面ともにロクロ調整のみである。

鉢

口縁部径から大形と小形に分けられる。小形のものは底部から体部上半にかけて丸味をもって外傾しながら立ち上がり、口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。器面調整は外面はヘラミガキされているものとロクロ調整のみのものがあり、内面はヘラミガキ、黒色処理が施される。底部の切り離しは静止糸切りのものと回転糸切りのものとがあり、静止糸切りのものはヘラミガキによる再調整が施されている。大形のものは底部が欠損している。体部はやや内弯気味に外傾して立ち上がり、口縁部はゆるい「C」字状に外傾する。外面の口縁部直下に隆帯を貼り付けロクロを用いて沈線が施されている。器面調整は外面の体部下半に縦位方向のズリがみられ、内面はロクロ調整のみである。他の器種に比べてやや器厚が厚い。

蓋

1点のみの出土である。つまみ部は欠損している。器面調整は内外面共にヘラミガキ、黒色処理が施されている。

以上が土師器B類の各器種ごとの特徴である。製作に際してロクロを使用しているものであり、東北地方南部の土師器編年において「表杉ノ入式」に相当するものであり、平安時代に位置付けられるものである。

近年、表杉ノ入式の土師器は坏類を中心に、製作技法、形態から細分しようとする試みがなされている。製作技法からは、再調整が施されるものから無調整の、回転糸切り痕を残すものへと変化して行くものと把えられている。また、形態的な面からは、口径に対する底径の占める割合が大きなものから、口径に対する底径の占める割合が小さく、口縁部が大きく開き気味のものへと変化するとされているものである。

以上のことから、今回の調査で出土した土師器B類の坏について考えてみると、再調整の施されるa1、b類は口径に対する底部の比が1：0.40～1：0.50におさまり、再調整の加えられないa2類は口径に対する底部の比が1点を除き1：0.38～1：0.39となっている。これらから、土師器坏B類はa1、b類からa2類へ変化したものと考えることができ、これらから、表杉ノ入式内での新段階、古段階の資料の存在が明らかになった。しかし、これらは坏類としては遺構内での単独出土であり、数量的な裏付けが乏しいものであり、詳細な検討には至っていない。したがって実年代については、より後出と考えられるa2類が出土する22号、23号住居跡堆積土の最上層に宮城県内でよくみられる灰白火山灰が含まれている。この灰白色火山灰は、各論考によって10世紀前半以前の年代が求められており、22号、23号住居跡の年代は10世紀前半以前のものと考えられる。

これらから、土師器B類の年代は、10世紀前半以前を下らないものと考えられる。

須恵器

器種には、坏、甕、埦、円面硯、甕体部を利用した硯と円盤がある。

坏

底部の切り離し、再調整の種類によって下記に分けられる。

a－底部の切り離しが回転糸切りによる再調整の加えられていないものである。器形は底部から口縁部にかけてやや丸味をもって外傾するものである。

b1－再調整のため切り離しが不明であり、再調整が回転ヘラケズリによるものである。再調整が底面から体部下端にまで施されるものと、底面にのみ施されるものとの二種がある。器形は底部から口縁部に向かって緩やかな丸味をもって外傾するもので、口縁部が緩やかに外反するものもみられる。全体形に対して底径が比較的大きく、低平である。

b2－再調整のため切り離しが不明であり、再調整が手持ちヘラケズリによるものである。再調整は底面から体部下端にまで施されている。器形は底部から口縁部に向かって緩やかに丸味をもって外傾するものである。

甕

図示遺物は3点のみである。

口縁部資料は頸部が「く」字形に屈曲し、口縁部が外反気味に外傾して口縁端部に至っている。端部は上下に延びて幅広くやや丸味をおびた縁帯状をなしている。内外面ともにロクロ調整のみが観察される。

体部資料は、体部中央から上半部に張りを持つ胴張り形の器形のものであると思われる。器面調整は、外面は体部上半にロクロ調整で下部下半にはヘラケズリが施される。内面は体部中央部に回転ヘラナデ、体部下半にヘラナデが施される。口縁部・底部とも欠損しており、甕の中に含めたが、この資料については、器形の特徴から甑の可能性も考えられる。

底部から体部下部にかけての資料は、器形を推定することはできないものであるが、器面調整は、外面の体部に平行タタキ目、底部から体部下端にかけてヘラケズリが施されている。内面にはアテ目の痕跡がみられる。

埦

1点のみの出土である。体部上半部のみが残存する。内弯する器形である。器面調整は内外

面ともにロクロ調整のみが観察される。

硯

円面硯及び須恵器甕体部破片を利用した転用硯がある。

円面硯

脚部下半の破片である。内弯しながら立ち上がる器形と思われる。下端部に隆帯が付けられ、円形の透し孔が穿たれている。内外面ともロクロ調整のみが観察される。

須恵器甕体部破片利用の硯

2点出土している。外面にはいずれも平行タタキ目が観察され、内面には青海波文がみられるものと磨滅のために不明のものがある。内面に研磨痕が認められることから硯として転用したものであると判断された。また、323号土壙出土のものはその形態より猿面硯と呼称される硯に類似している。しかし、本資料の場合は周縁部の研磨痕がほとんど認められず、単に周縁部を打ち欠いているのみの部分が多いことから猿面硯に含まれるかどうかは不明である。

土製円盤

須恵器甕の体部破片を利用し、周縁部を打ち欠いて整形している。

以上の須恵器は、資料の個体数が少なく、詳細は検討はできなかったが、325号土壙出土の坏類を除いて共伴する土師器の年代より平安時代に位置付けられると考えられる。特に325号土壙出土の坏類については、全てb1類であり、共伴する土師器がないため詳細は不明であるが、形態的な特徴から平安時代以前のものであると考えられる。その他遺構外出土のものについては詳細は不明である。

(2) 古代の遺構

古代の遺構は、竪穴住居跡、土壙、溝跡、掘立柱建物跡がある。

住居跡

今回の調査で4軒の住居跡が検出された。それらは調査区東寄りに散在しているが特に台地東側の縁辺部では3軒検出されている。調査中、遺構保存を計るため、遺構の断ち割り精査等床面下の精査は行なっていない。このため不明な点を明らかに出来なかった部分もあるがここでは主に住居跡の形態的特徴についてまとめてみたい。

形態・規模

住居跡の平面形が明らかなものは23号、25号住居跡でいずれも隅丸の長方形であり、他の2軒も方形を基調としたものである。規模は長軸が3.5～4.2mと比較的まとまっているが、7mを超える大形のものもみられる。方向は長短いずれかの軸が北より10°東～15°西に偏れている。

柱穴

柱穴が検出されている住居跡は22号住居跡のみであり、他の住居跡では柱穴と考えられるピットは確認されなかった。しかし、22号住居跡の場合遺構の全体が不明であり、柱穴の数、配置関係についても明らかではない。また遺構保存のために床面下の断ち割り精査を行なっていないため、確認された以外のピットの存在も考えられ、柱穴については不明な点が多い。

周溝

周溝は全ての住居跡で確認されていない。

カマド

23号、25号住居跡で検出されている。他の住居跡では削平や調査区外へ延びているため検出されなかった。カマドの付設場所は23号住居跡では東壁南寄り、25号住居跡では南壁の東端部に寄っている。23号住居のカマドの構造は袖部に河原石を芯として粘土を貼り付けたものである。煙道及び煙出しについては削平のため検出されていない。

25号住居のカマドは削平のため上部は残存せず、焼け面と粘土を貼り付けた袖部の痕跡が検出されたのみである。いずれも掘り方は断ち割り調査をしていないため不明である。

また、23号住居跡では、北壁東寄りに煙道及び燃焼部の掘り方の残存部が検出されている。

貯蔵穴状ピット

23号、24号住居跡で検出されている。23号住居跡ではカマドの右脇に付設されており、24号住居跡では住居跡の北東部に付設されている。ピット内の堆積土からは土師器坏等の土器が出土している。

以上のことから今回の調査で検出された住居跡に関しては、1軒の住居跡を除いて台地上の平坦面を避けて縁辺部に立地する傾向が認められ、また、方向についても共通性がみられる。2軒の住居跡が削平及び調査区外に延びることから全体が不明なため同等の比較はできないが、平面形の隅丸の方形を基調としている点、全ての住居跡が周溝が検出されていない点のみに共通点が認められる他には共通する特徴は認められず、他の要素についてはそれぞれの住居

跡で相違しており、規則性はみられない。

土壙

土壙は平面形が隅丸方形や円形、楕円形を基調としたもので、浅い皿状のものと断面が舟底状の比較的深いものがある。年代は土壙内から出土した遺物から古代に属するものであると考えられ、出土した須恵器、土師器の年代から、235号、236号土壙は奈良時代に、233号土壙については平安時代と考えられ、234号土壙は出土した須恵器及び1号住居跡、4号溝との切り合い関係から平安時代と考えられる。

溝跡

古代に属すると考えられる溝跡は5条検出された。2号溝は東区西側遺物包含層を切っており縄文時代の遺物が多量に出土しているが、出土している土師器より表杉ノ入式期のものと考えられ、2号溝に切られている16号溝についても図示資料はないかずロクロ使用の土師器が出土しており、表杉ノ入式期のものと考えられる。また、11号溝は国分寺下層式および表杉ノ入式の土師器が出土しているが、堆積土中よりの出土であり、それ以降の新しい遺物は出土していないことから、表杉ノ入式期のものであると考えられる。4号溝は須恵器の甕の底部のみが出土しており、ほぼ同時代のものと考えてもよいものと思われる。

2号溝は調査区内を南北方向にほぼ一直線に延び、他の溝は全て調査区内でほぼ直角に近い角度で屈曲している。屈曲しているものは各辺がほぼ東西方向、南北方向をさしており、何らかの区画施設ではないかと思われる。また、4号、11号溝は調査区東辺に位置しており全体は明らかではないが二重に巡っており、11号溝の内側の上端には人頭大～拳大の河原石が並べられている。溝に囲まれた内部の状況は不明であるが何らかの区画施設の一部であると考えられる。

Ⅸ. その他の遺構と出土遺物

中世～近世以降の遺構は、溝跡17条、墓壙３基、掘立柱建物跡４棟、小溝状遺構群が検出されている。出土遺物は土器、石器、陶磁器、人骨、寛永通宝、鏡、笄、煙管等が出土している。

１号溝

本遺構は、調査区の北寄り、Ｖ－17からＱ・Ｒ－32まで直線距離にして約75m の長さで検出された。幅は約1.7～3.8m である。

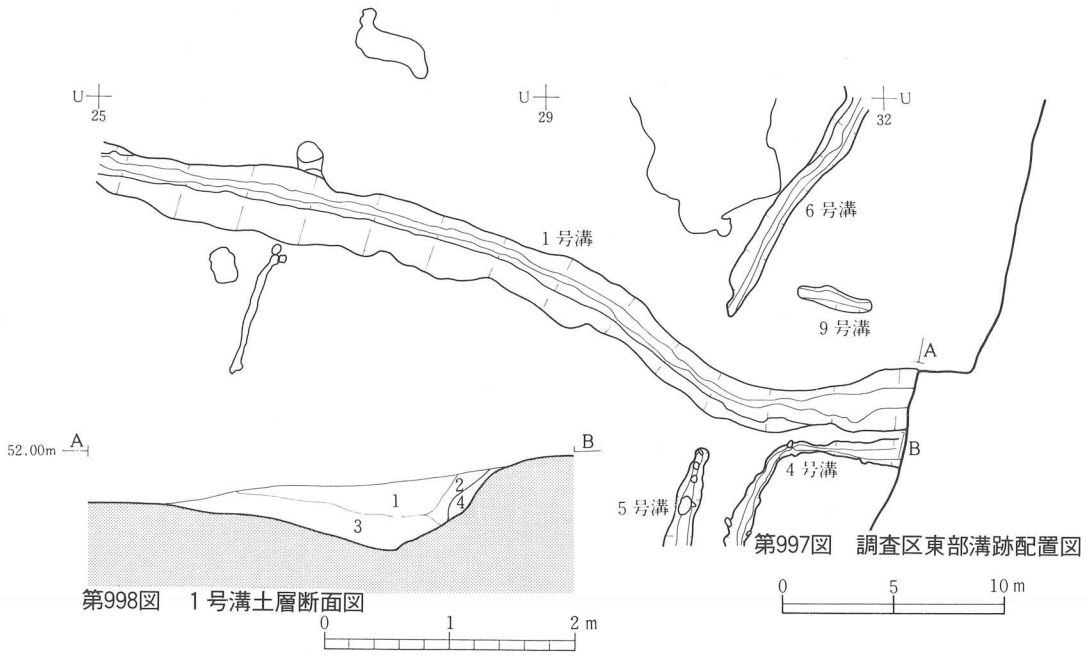
確認面は地区によって異なり第２層～第４層上面である。２号溝、８号、９号、26号土壙と切合い関係にある。全ての遺構を切っており本遺構が最も新しい。Ｔ－22から東側では北側が一段下がっており、その段に沿って延びている。東側及び西側では調査区外に延びており、今回検出されたのは、その一部であると考えられる。

堆積土は２層に大別されるが自然堆積である。Ｕ－19～Ｔ－22にかけて拳大から人頭大の河原石が多量に混入していた。

壁は20～50 cm程度存している。底面から緩やかな角度で立ち上

第58表
１号溝出土土器破片集計表

種別	土師器				須恵器				合計
器種	坏		甕		甕				
部位	口		体	体	体			底	
外面	ロクロナデ	ロクロナデ	マメツ	マメツ	ロクロナデ	平行叩き目	平行叩き目	回転糸切り	
内面	ロクロナデ	ミガキ（黒）	マメツ	マメツ	ロクロナデ	ロクロナデ	同心円文	ロクロナデ	
堆積土	1	1	1	1	2	2	1	1	10
合計	1	1	1	1	2	2	1	1	10

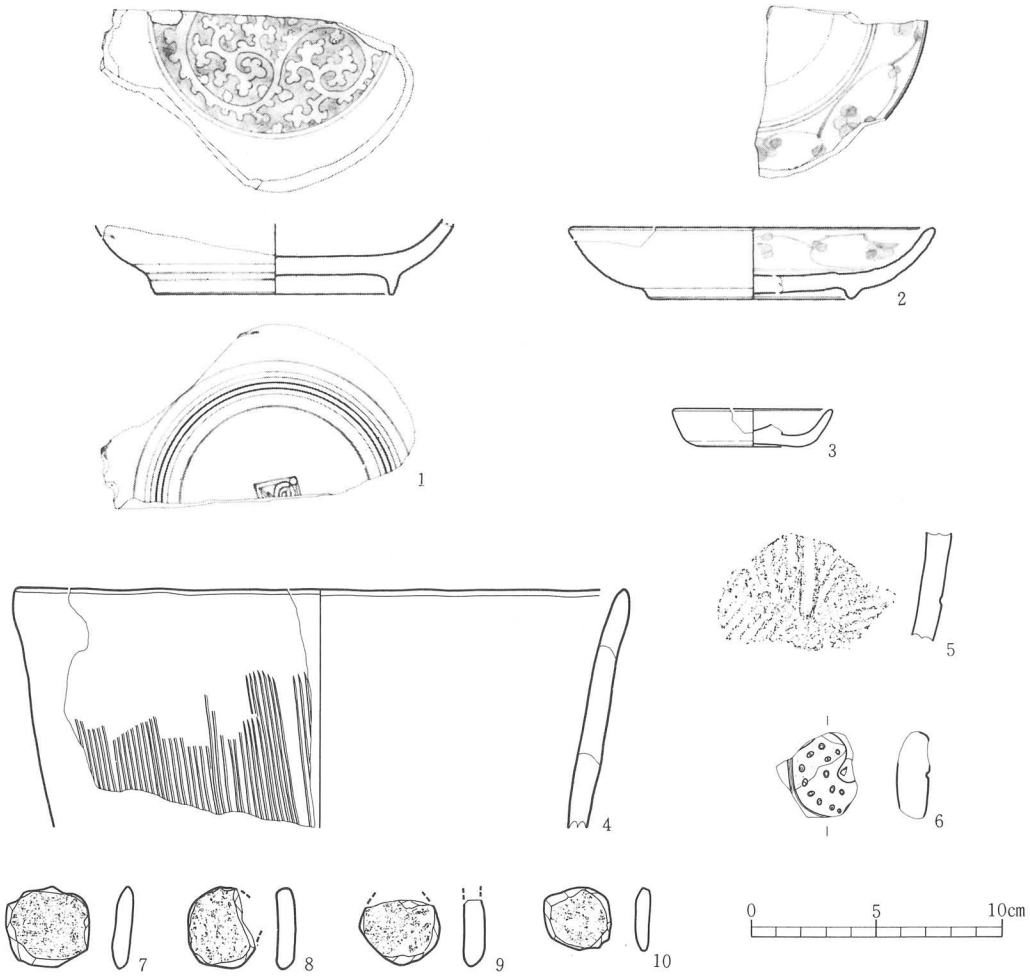


第997図　調査区東部溝跡配置図

第998図　１号溝土層断面図

１号溝　土層註記表

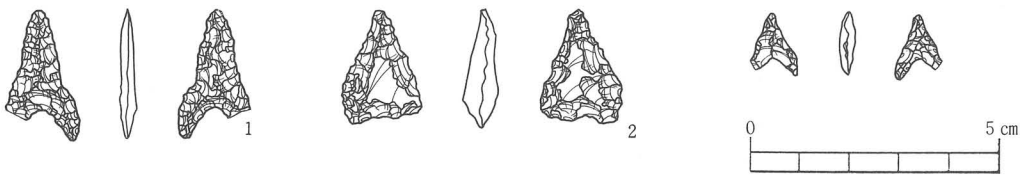
層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	黒　褐　7.5YR3/2	シルト	風化礫少量、ローム粒少量、炭化物少量含む
	2	暗　褐　7.5YR3/3	シルト	ローム粒多量に含む
	3	黒　褐　7.5YR2/2	シルト	ローム粒多量、炭化物微量に含む
2	4	明　褐　7.5YR5/6	ローム	暗褐7.5YR3/3シルトをブロック状に含む



No.	層　位	器　形	外　面	内　面	底　部	分　類	備　考
1	3　層	染付、皿		唐草文			肥前、高台裏渦福字銘、「ハリ」有18C前半？
2	堆積土	染付、皿	蛇ノ目釉ハギ	唐草文			肥　前18C
3	堆積土	燈明皿、皿	鉄　釉				芯受け有18C初
4	堆積土	深　鉢	条線文	ナデ（横）			
5	堆積土	深　鉢	沈線文、L縄文	磨キ（横）			
6	堆積土	不明土製品					

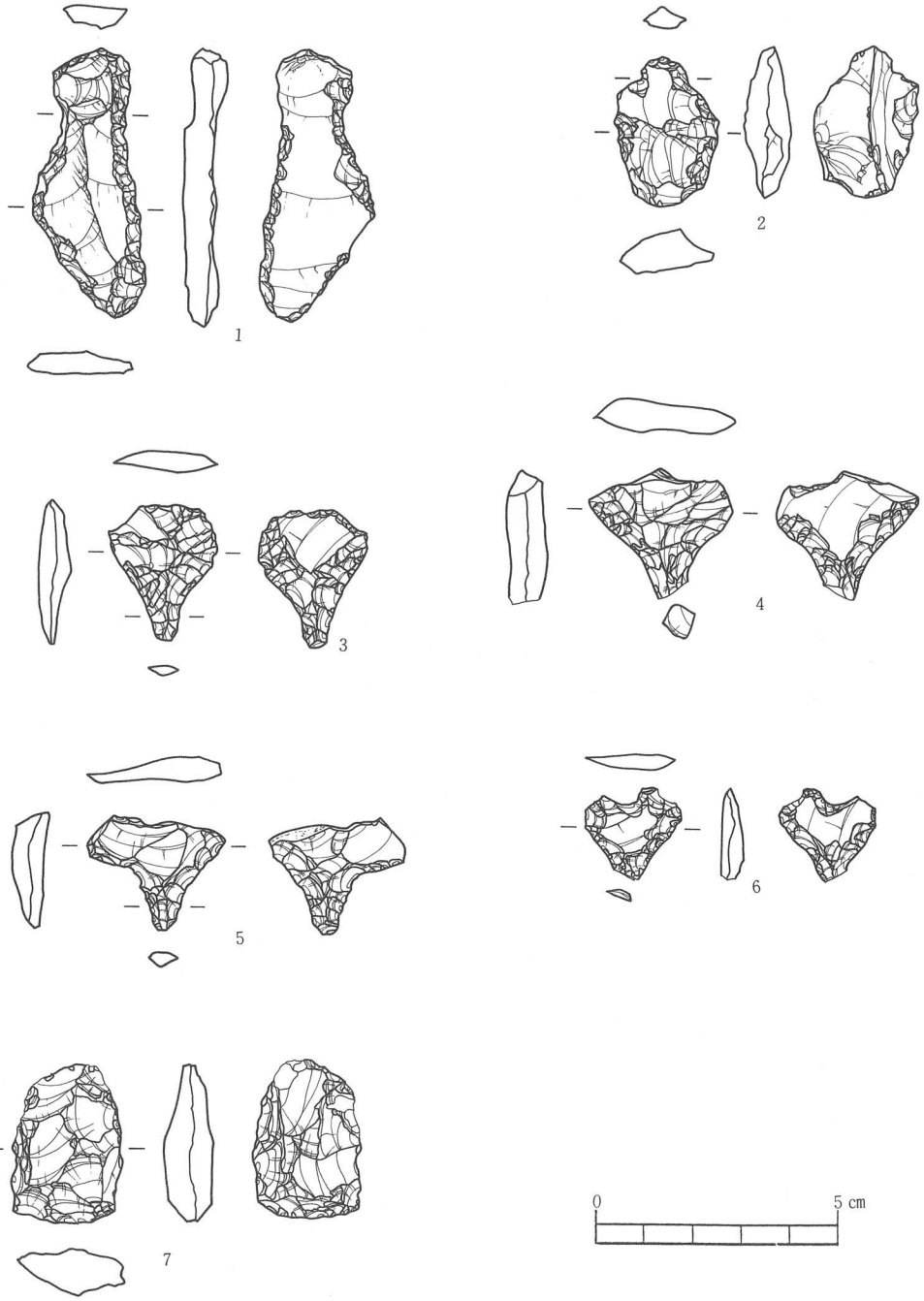
No.	層　位	No.	層　位	No.	層　位	No.	層　位
7	堆積土	8	堆積土	9	堆積土	10	堆積土

第999図　１号溝出土土器・土製品



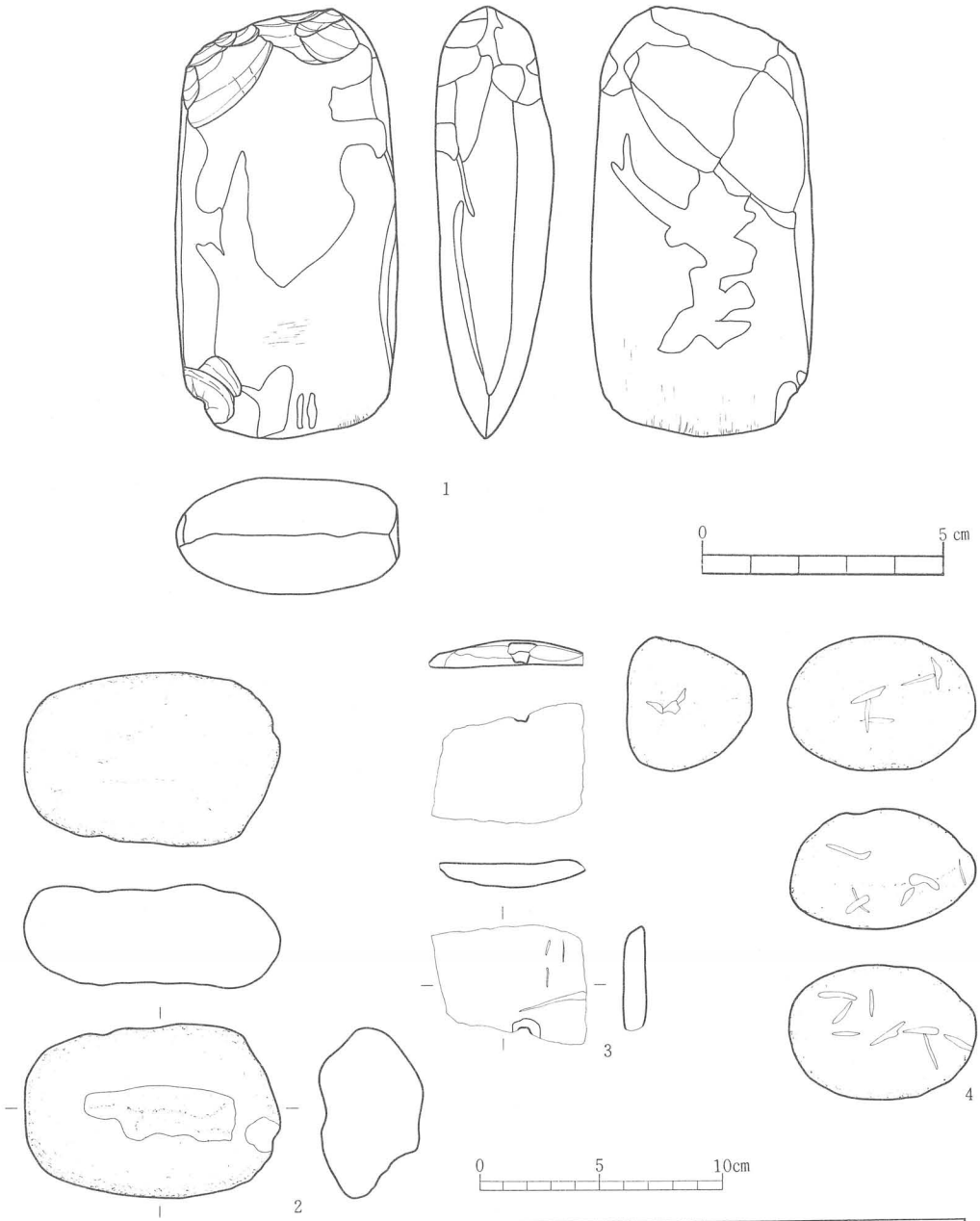
No.	種　別	層　位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	備　考
1	石　鏃A	堆積土	(25.20)×(14.25)×3.00	0.50	頁　岩	
2	石　鏃A	堆積土	22.70×15.60×6.60	1.75	頁　岩	
3	石　鏃A	堆積土	12.50×9.30×3.10	0.20	黒曜岩	

第1000図　１号溝出土石器（１）



No.	種　別	層　位	長 × 幅 × 厚(mm)	重量(g)	石　材	備　考
1	石　匙	堆積土	55.65×23.25×7.10	8.25	頁　岩	
2	石　匙	堆積土	30.75×19.90×9.55	4.55	頁　岩	
3	石　錐	堆積土	28.55×22.45×6.40	2.75	頁　岩	
4	石　錐	堆積土	(26.85)×29.60×7.85	4.60	頁　岩	
5	石　錐	堆積土	23.40×28.35×6.40	2.85	頁　岩	
6	石　錐	堆積土	(19.30)×19.55×5.05	1.35		
7	篦状石器	堆積土	32.45×22.55×10.35	6.95		

第1001図　1号溝出土石器（2）



No.	種別	層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	備考
1	磨製石斧	堆積土	(89.60)×45.90×24.65	154.0		

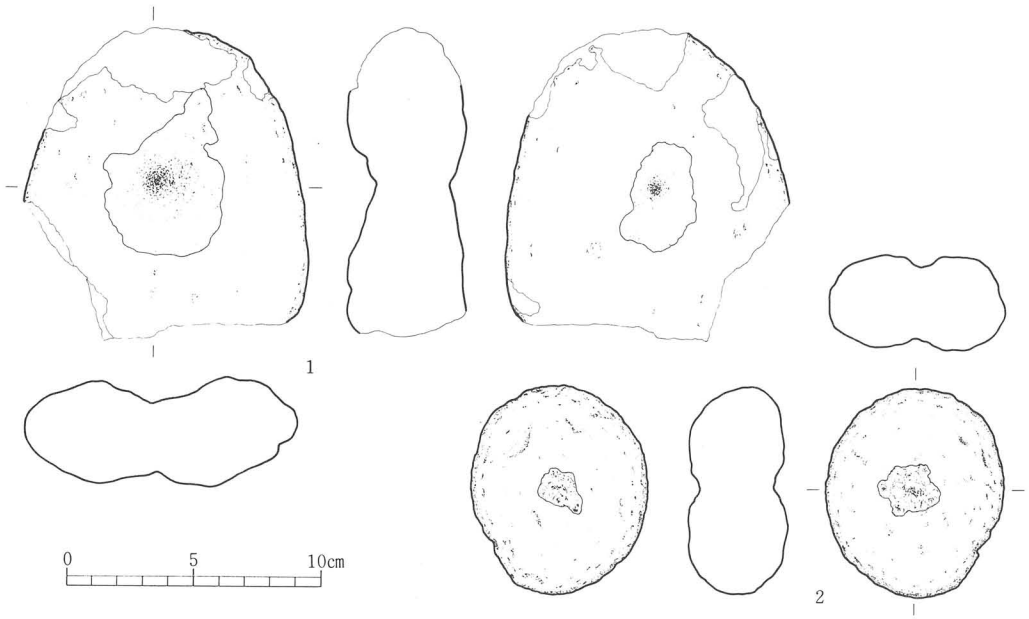
No.	種別	層位	備考
2	砥石	堆積土	有溝
3	砥石	堆積土	

No.	種別	層位	備考
4	砥石	堆積土	

第1002図　1号溝出土石器（3）

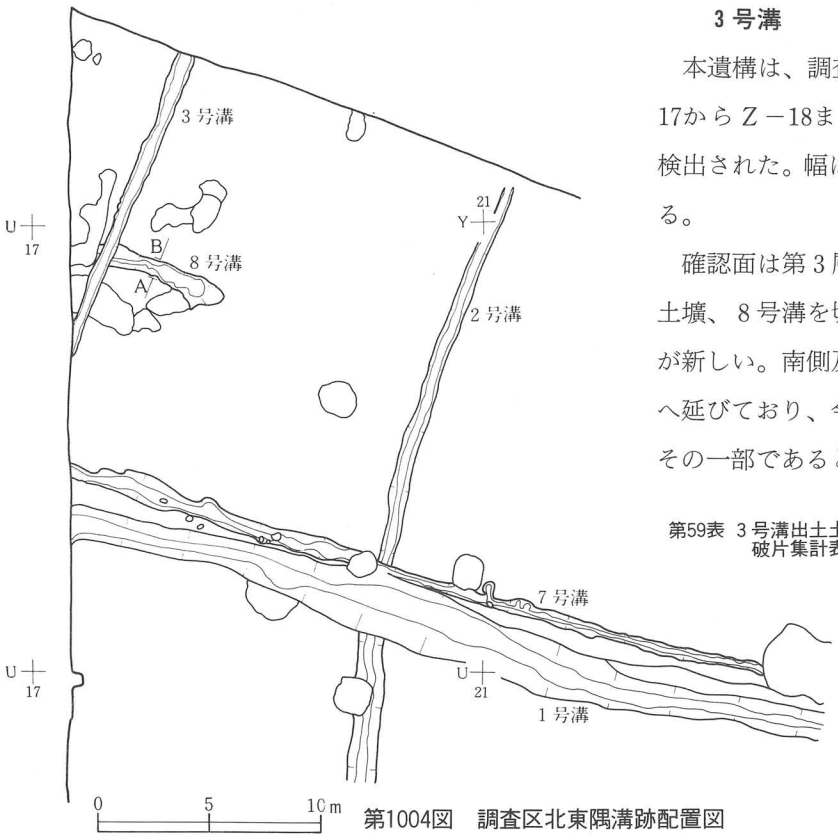
がっている。底面は皿状を呈し、ほとんど凸凹はない。底面レベルは地形に沿って緩やかに変化している。

遺物は土器、石器、陶磁器が出土している。



No.	種別	層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	礫石器	堆積土	(124)×112×42	675.5		凹－両面	凹の内面に磨痕が見られる、焼けている
2	礫石器	堆積土	84×71×40	175.0		凹－両面	

第1003図　1号溝出土石器（4）



第1004図　調査区北東隅溝跡配置図

3号溝

本遺構は、調査区の北西隅、W－17からZ－18まで約15mの長さで検出された。幅は約0.5～0.8mである。

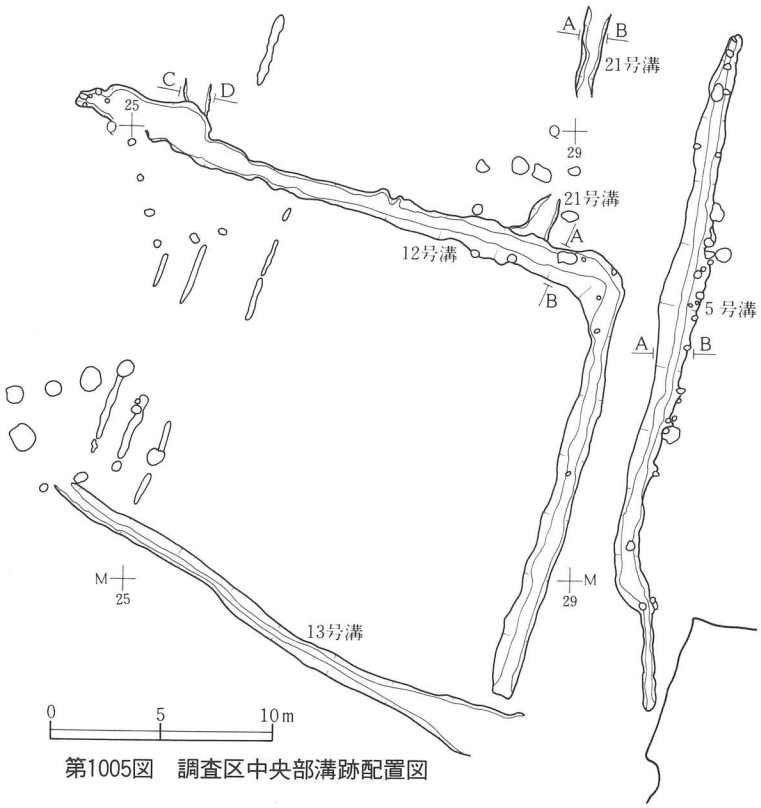
確認面は第3層上面である。6号土壙、8号溝を切っており、本遺構が新しい。南側及び北側で調査区外へ延びており、今回検出されたのはその一部であると思われる。

第59表　3号溝出土土器破片集計表

種別	須恵器		合計
器種	甕	甕or鉢	
部位	体	体	
内面	平行叩き目	マメツ	
外面	オサエ目	ミガキ(黒)	
堆積土	1	1	2
合計	1	1	2

堆積土は単層（明褐7.5YR 3/3　砂質シルト）である。

壁は5～11cm程残存している。底面から急角度で立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。底面レベルは地形に対応して緩やかに変化している。遺物は土器、石器が出土している。

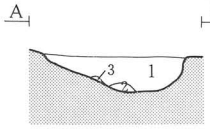


第1005図　調査区中央部溝跡配置図

5号溝

本遺構は、調査区の東側に位置し、K－29からQ－30まで丘陵の鞍部を横切るように、直線距離にして約30mの長さで検出された。幅は約0.5～1.75mである。

確認面は地区により異なり第4層～第5層上面である。3号住居跡、43号、44号、54号、57号、69号、326号土壙の全てを切って、本遺構が最も新しい。N－29からQ－30にかけて東側上端部分から壁にかけてピットがこられるが、壁面検出の際に確認されたもので、切合い関係は不明である。



第1006図
5号溝土層断面図

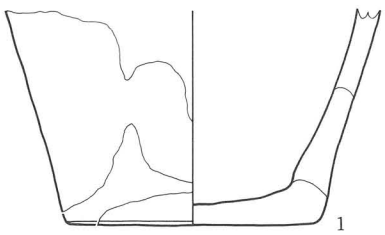
堆積土は2層に大別されるが自然堆積である。

壁は10～30cm程残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がっている。底面は概ね平坦であるがM－29以南では凸凹がみられる。底面のレベルは地形に対応して緩やかに変化している。

遺物は土器、石器が出土している。

5号溝　土層註記表

層No.	土色	土性	備考
1	暗褐　7.5YR3/4	シルト	ローム粒子（黄色スコリア）を多量に含む
2	褐　10YR4/6	シルト	ローム粒子およびロームブロックを多く含む



No.	遺構・層位	器形	外面	内面	底部	分類	備考
1	5溝・堆積土	深鉢	マメツ	ナデ（横）	ナデ		

第1007図　5号溝出土土器

6号溝

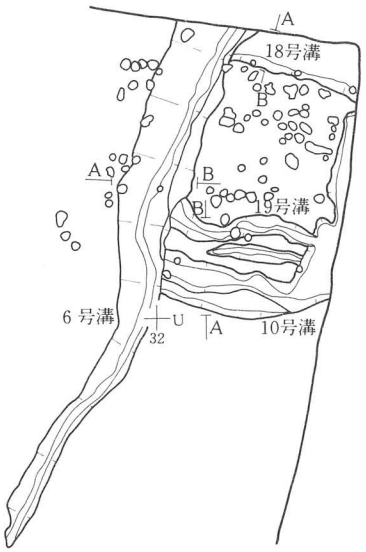
本遺構は、調査区の北東隅付近に位置し、S－30からW－32まで直線距離にして約25mの長さで検出された。幅は約0.5～2.8mである。

確認面は第4層上面である。35号土壙を切っており本遺構が新しい。また10号、18号、19号溝と交差するが、堆積土の区別がつかず切合い関係は不明である。北側の調査区外へ延びており、今回検出されたのはその一部であると考えられる。

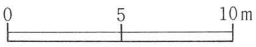
堆積土は3層に大別されるが自然堆積である。

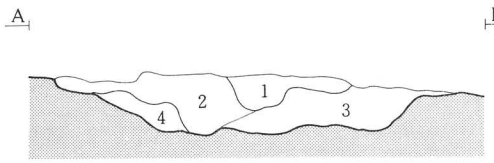
壁は15～45cm残存している。底面から緩やかに立ち上がっている。底面はU－20以南は平坦であるが、以北は凸凹がみられる。底面のレベルは地形に対応して緩やかに変化している。

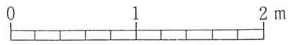
遺物は出土しなかった。



第1008図　調査区北東隅溝跡配置図







第1009図　6号溝土層断面図

6号溝　土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	黒　褐　7.5YR3/2	細砂シルト	円礫多量、炭化物粒微量、火山灰粒少量含む
2	2	暗　褐　7.5YR3/3	細砂シルト	円礫微量、炭化物粒少量、火山灰粒含む
	3	暗　褐　7.5YR3/3	細砂シルト	円礫微量、火山灰粒多量、焼土粒微量に含む
3	4	黒　褐　7.5YR3/2	細砂シルト	風化礫微量、炭化物微量、火山灰粒多量に含む

7号溝

本遺構は、調査区北西寄りに位置し、V－17からU－23まで約30cmの長さで検出されている。幅は約0.4～1.2mである。

確認面は地区により異なるが、第2層～第3層上面である。10号土壙、2号溝を切っており本遺構の方が新しい。また、U－20付近で8号土壙と接しているが、堆積土の区別がつかず切合い関係は不明である。1号溝とU－23区で風倒木痕に切られており本遺構の方が古い。西側は調査区外へ延びており、今回出土されたのはその一部であると考えられる。

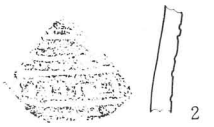
堆積土は単層（暗褐7.5YR 3/3　砂質シルト）である。

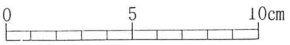
第60表　7号溝出土土器
破片集計表

種別	土師器				
器種	坏			甕	
部位	口	体	底	口	合計
内面	ロクロナデ	ロクロナデ	マメツ	ロクロナデ	
外面	ロクロナデ	ロクロナデ	マメツ	ロクロナデ	
堆積土	1	1	1	2	5
合計	1	1	1	2	5

壁は7～15cm残存している。底面から急角度で立ち上がっている。底面は皿状を呈しほとんど凸凹はない。底面レベルは地形に対応して緩やかに変化している。

遺物は土器、石器が出土している。





No.	遺構・層位	器形	外面	内面	分類	備考
1	7溝・堆積土	深鉢	隆線文、RL縄文	磨キ（横）	B I	
2	7溝・堆積土	深鉢	沈線文、刺突文	磨キ（横）	VII	

第1010図　7号溝出土土器

8号溝

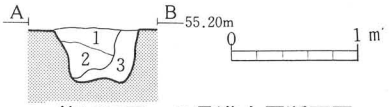
本遺構は、調査区北西隅近くに位置し、X－17からX－18まで約8 mの長さで検出されている。幅は約0.6～0.9mである。

確認面は第3層上面である。3号溝に切られており本遺構の方が古い。5号土壙を切っており本遺構の方が新しい。西側は調査区外へ延びており、今回検出されたのはその一部であると考えられる。

堆積土は2層に大別される。自然堆積である。

壁は14～32cm残存している。底面から急角度で立ち上がっている。底面には大きな凸凹はない。底面レベルは東側へ緩やかに傾斜している。

遺物は土器が出土している。



第1011図　8号溝土層断面図

8号溝　土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	黒　褐　7.5YR3/2	砂質シルト	ローム粒多量、風化礫少量含む
	2	褐　7.5YR4/4	砂質シルト	
2	3	黒　褐　7.5YR2/2	砂質シルト	ロームブロック少量含む

9号溝

本遺構は、調査区東寄りに位置しS－30からS－32まで約10mの長さで検出された。遺存状態が悪く、S－31の約3.3mを除いて溝の痕跡が確認されたのみである。

確認面は第4層上面である。6号溝、風倒木痕によって切られており、本遺構の方が古い。

堆積土は単層（褐　10YR 4/4　シルト）である。

壁は2～9 cm残存している。底面から緩やかに立ち上がる。底面レベルは地形に対応して緩やかに変化している。

遺物は出土しなかった。

10号溝

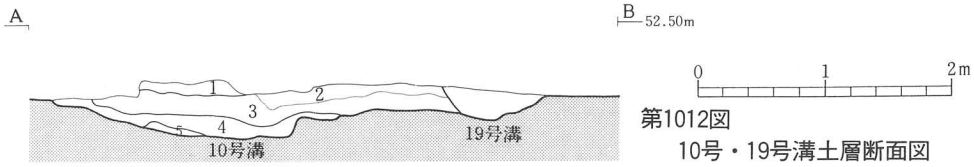
本遺構は、調査区北東隅に位置し、U－32からU－33まで約８ｍの長さで検出された。幅は約1.2～2.0mである。

確認面は第４層上面である。37号・38号土壙を切っており、本遺構の方が新しい。19号溝に切られていることより本遺構の方が古い。６号溝と交差しているが、堆積土の区別がつかず切合い関係は不明である。U－33区で北側へ広がっているが、東側が調査区外へ延びているため広がっているか曲がっているのかは不明である。また、底面が一段高くなって北側へ延びているようにもみえるが確認できなかった。

堆積土は３層に分けられる。自然堆積である。

壁は８～25cm残存している。底面から比較的緩やかに立ち上がる。底面レベルは地形に対応して東側へ傾斜している。

遺物は出土しなかった。



第1012図
10号・19号溝土層断面図

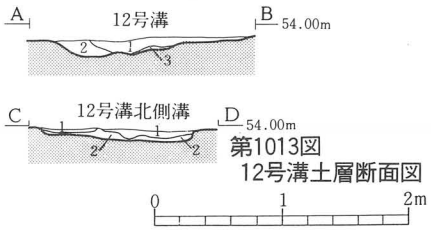
10号溝　土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	黒　褐　7.5YR3/2	シルト	円礫多量、炭化物少量、火山灰粒少量含む
2	2	暗　褐　7.5YR3/3	シルト	円礫多量、炭化物少量、火山灰粒多量に含む
	3	暗　褐　7.5YR3/3	細砂シルト	円礫微量、炭化物粒少量、火山灰粒少量含む
3	4	暗　褐　7.5YR3/4	細砂シルト	火山灰粒少量含む
4	5	暗　褐　7.5YR3/4	細砂シルト	火山灰ブロック少量、炭化物微量に含む

12号溝

本遺構は、調査区中央の東寄りに位置し、K－28からQ－24までL字形に約40mの長さで検出された。幅は約0.7～2.2mである。

確認面は地区によって異なるが第４層～第５層上面である。４号住居跡、45号、50号、52号、55号、58号土壙、１号掘立柱建物跡、21号溝を切っており、本遺構が最も新しい。Q－25で幅約１m程の溝が交差しているが、切合い関係は不明である。また、位置的に３号、８号住居跡との切合い関係も考えられるが削平のため不明である。堆積土は２層に分けられる。自然堆積である。



第1013図
12号溝土層断面図

12号溝　土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	暗　褐　7.5YR3/4	シルト	スコリア、ローム粒含む
2	2	暗　褐　10YR3/4	シルト	スコリア含む
	3	褐　10YR4/4	シルト	スコリア、炭化物含む

12号溝北側溝　土層註記表

層No.	土色	土性	備考
1	褐　10YR4/4	シルト	炭化物少量含む
2	黄　褐　10YR5/6	シルト	

壁は4～16cm残存している。底面よりの立ち上がりは所によって角度は一定ではない。底面はほぼ平坦であり、底面レベルは地形に対応して緩やかに変化している。

遺物は出土しなかった。

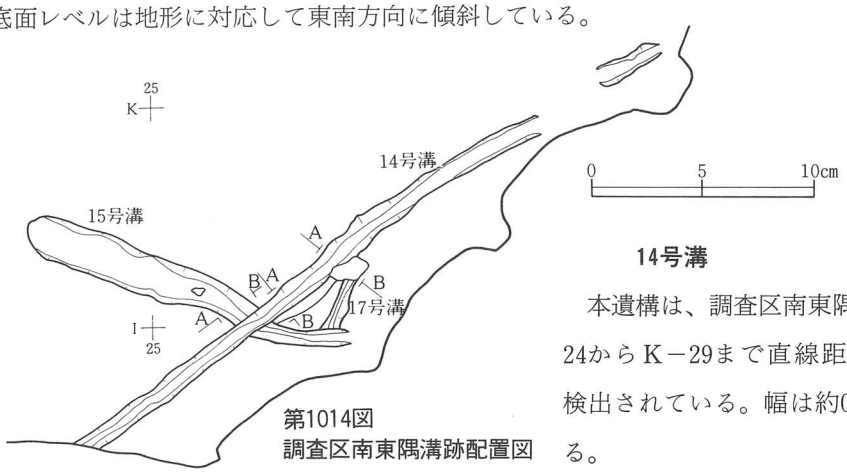
13号溝

本遺構は、調査区中央区の南東寄りに位置し、M－24からK－28まで約23mの長さで検出された。幅は0.75～2.4mである。

確認面は地区によって異なるが第4層～第5層上面である。6号住居跡を切っており本遺構の方が新しい。

堆積土は単層（暗褐　10YR 3/4　暗褐色・シルト）である。

壁は3～5 cm残存している。底面から緩やかに立ち上がっている。底面はほぼ平坦であり、底面レベルは地形に対応して東南方向に傾斜している。

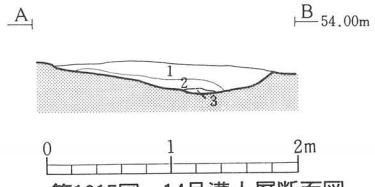


第1014図
調査区南東隅溝跡配置図

14号溝

本遺構は、調査区南東隅に位置し、G－24からK－29まで直線距離にして約30m検出されている。幅は約0.75～1.0mである。

確認面は第5層上面である。6号住居跡、86号土壙、17号溝を切っており本遺構の方が新しい。15号溝とH・I－25で交差しているが切合い関係は不明である。また、位置関係より17号住居跡との切合い関係も考えられるが削平のために不明である。南側の調査区外へ延びており、今回検出されたのはその一部と考えられる。



第1015図　14号溝土層断面図

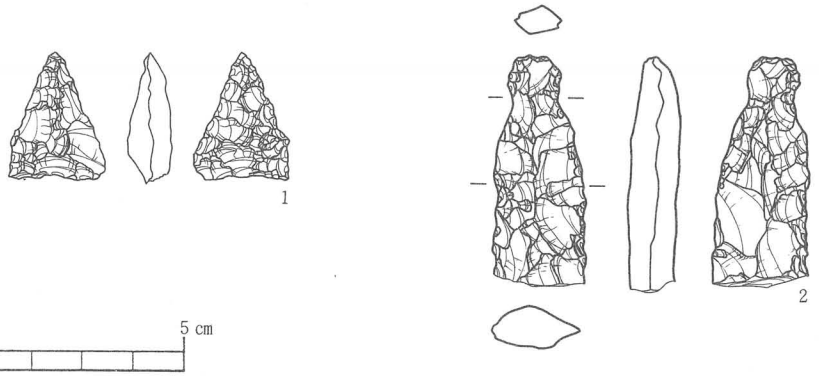
堆積土は3層に分けられる。自然堆積である。

壁は4～20cm残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がっている。底面はほぼ平坦であり、底面レベルは地形に対応して緩やかに変化している。

遺物は土器、石器が出土している。

14号溝　土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	褐　10YR4/4	シルト	スコリア含む
	2	褐　7.5YR4/4	シルト	
2	3	暗　褐　10YR3/3	砂質シルト	Fine Sand多量に含む



No.	種別	層位	長×幅×厚(mm)	重量(g)	石材	使用痕	備考
1	石鏃A	堆積土	25.60×18.65×9.00	3.10		———	
2	石匙	堆積土	(46.35)×(19.25)×9.20	7.70	頁岩	———	

第1016図　14号溝出土石器

15号溝

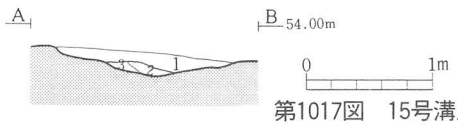
本遺構は、調査区東南寄りに位置し、Ⅰ－23からH－26まで直線距離にして約15m検出されている。幅は約0.6～1.95mである。

確認面は地区により異なるが第4層～第5層上面である。101号、331号土壙、17号溝を切っており本遺構の方が新しい。また14号溝とH・Ⅰ－25で交差しているが、切合い関係は不明である。

堆積土は2層に大別される。自然堆積である。

壁は4～10cm残存している。底面より緩やかに立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。底面レベルは地形に対して東南方向に傾斜している。

遺物は土器、石器が出土している。



第1017図　15号溝土層断面図

15号溝　土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	褐　7.5YR4/4	シルト	スコリア含む
2	2	褐　10YR4/4	砂質シルト	細砂含む
	3	黄褐　10YR5/6	シルト	細砂含む

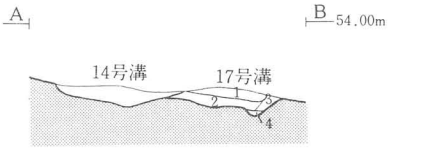
17号溝

本遺構は、調査区の南東隅に位置し、Ⅰ－24で3.5mの長さで検出された。幅は0.5～1.5mである。

確認面は第5層上面である。14号、15号溝に切られており本遺構が最も古い。

壁は5～10cm残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は皿状を呈している。底面レベルは地形と対応して変化している。

遺物は出土しなかった。



第1018図
17号溝土層断面図

17号溝　土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	暗　褐　10YR3/3	シルト	
2	2	褐　10YR4/6	シルト	
	3	褐　10YR4/3	シルト	スコリア含む
3	4	黄　褐　10YR5/8	粘度質シルト	

18号溝

本遺構は、調査区北東隅に位置し、X－32からX－33まで約5.5mの長さで検出された。幅は北側の調査区外へ広がっており不明である。また、東側の調査区外へ延びており、今回検出されたのはその一部であると考えられる。

確認面は第4層上面である。6号溝と交差しているが、堆積土の区別がつかず切合い関係は不明である。

堆積土は1層に大別される。自然堆積である。土層注記は整理時に確認できなかった。

壁は7～30cm残存している。底面から緩やかに立ち上がっている。底面に小さな凸凹がみられる。底面レベルは地形に対応して変化している。

遺物は出土しなかった。

第1019図　18号溝土層断面図

19号溝

本遺構は、北東隅付近に位置し、U・V－32からU－33まで約6.5mの長さで検出された。幅は約0.55～1.2mである。

確認面は第4層上面である。10号溝を切っており本遺構の方が新しい。また、6号溝と交差しているが、堆積土の区別がつかず切合い関係は不明である。

堆積土は単層（黒褐　7.5YR 2/2　砂質シルト）である。

壁は4～15cm残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。底面のレベルは地形に対応している。

遺物は出土しなかった。

20号溝

本遺構は、調査区南西隅に位置し、H－17からH－19まで約10mの長さで検出された。幅は南の調査区外へ広がっており不明である。また、本遺構の東・西端も途切れて南側の調査区外へ延びているものと考えられ、今回検出されたのはその一部であると考えられる。

確認面は第4層上面である。2号、16号溝に切られており本遺構の方が古い。

堆積土は単層（暗褐 10YR3/3　シルト）である。

壁の残存、底面よりの傾斜については、底面が検出されず不明である。

遺物は出土しなかった。

21号溝

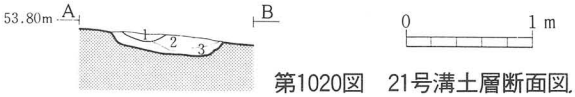
本遺構は、中央部東寄りに位置し、P－28からK－29まで約11mの長さで検出された。削平のため約4.3mの長さで途切れている。幅は約0.75～1.8mである。

確認面は第4層上面である。12号溝で切られており本遺構の方が新しい。また、位置的に1号掘立柱建物跡との切合い関係も考えられるが、削平のため不明である。

堆積土は2層に大別される。

壁は6～10cm残存している。底面より緩やかな角度で立ち上がっている。底面はほぼ平坦であり、底面のレベルは地形に対応して変化している。

遺物は出土しなかった。



第1020図　21号溝土層断面図

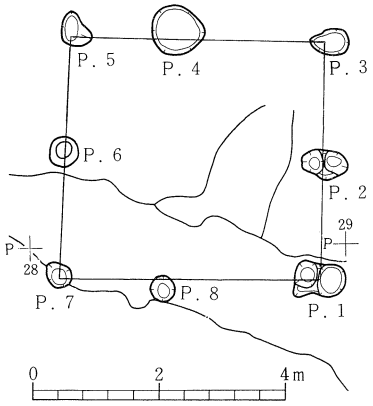
21号溝　土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	暗　褐　10YR3/4	シルト	炭化物若干含む
2	2	にぶい黄褐　10YR4/3	シルト	スコリア少量含む
	3	褐　10YR4/6	シルト	炭化物若干含む

1号掘立柱建物跡

本遺構は、調査区中央部東寄り、O・P－28に位置し、第4層上面で確認された。東西2間、南北2間の建物跡である。北側柱列では4.15m（柱間寸法は東より2.4m＋1.75m）、南側柱列では4.30m（柱間寸法は東より2.65m＋1.65m）、東側柱列では3.78m（柱間寸法は北より1.9m＋3.88m）、西側柱列では3.95m（柱間寸法は北より1.9m＋2.05m）である。建物方向は東側柱列でN－5°－Eである。12号溝に切られており本遺構の方が古い。位置的に50号土壙、21号溝との切合い関係が考えられるが削平のため不明である。

第1021図　1号掘立柱建物跡



柱穴掘り方は円形あるいは、楕円形を基調としたものである。規模は最大のもので80cm×78cm、最小のもので42cm×42cmである。柱痕跡は1個確認され径22cmの円形である。また、ピットが2個の柱穴が2個あるが明確な建て替えの痕跡はみられなかった。柱穴の深さは遺存状態の良好なもので29cmである。

本遺構に伴う遺物は出土しなかった。

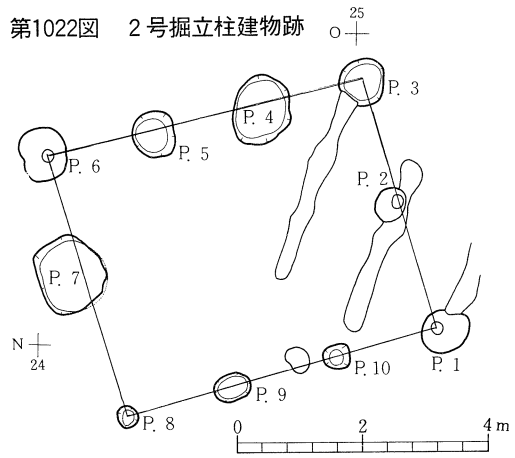
1号掘立柱建物跡柱穴

No.	1	2	3	4	5	6	7	8
形　状	不整楕円	楕　円	楕　円	円	不整楕円	円	円	円
深　さ	41、32	27、19	23	30	25	——	27	21
備　考	ピット2個	ピット2個				柱痕有		

2号掘立柱建物跡

本遺構は調査区のほぼ中央、M・N－24・25に位置し、第4層上面で確認された。桁行は3間、梁行2間の東西棟の建物跡である。北側柱列では5.15m（柱間寸法は東より1.75m＋1.75m＋1.65m）、南側柱列では5.15m（柱間寸法は東より1.7m＋1.7m＋1.75m）、東側柱列では4.15m（柱間寸法は北より2.05m＋2.1m）、西側柱列では4.3m（柱間寸法は北より2.0m＋2.3m）である。建物方向は桁南側でE－16°－Nである。小溝状遺構に切られており本遺構の方が古い。75号、76号、77号、79号土壙を切っており本遺構の方が新しい。

第1022図　2号掘立柱建物跡



柱穴掘り方は円形あるいは、楕円形を基調としたものである。規模は最大のもので120cm×108cm、最小のもので38cm×32cmである。柱痕跡は3個確認され径18cm～32cmの円形のものである。柱穴の深さは保存状態の良好なもので38cmである。

本遺構に伴う遺物は出土しなかった。

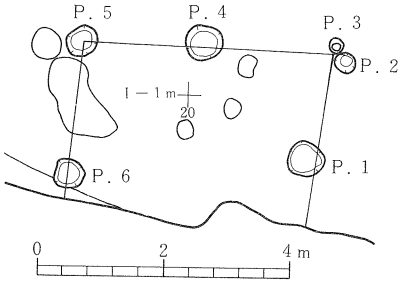
2号掘立柱建物跡柱穴

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
形　状	円	円	円	楕　円	円	不整円	不整円	円	楕　円	不整円
深　さ	——	——	25	20	16	——	40	16	18	31
備　考	柱痕有	柱痕有				柱痕有				
						深　28				

3号掘立柱建物跡

本遺構は調査区の南西隅付近、H－19・20に位置し、第4層上面で確認された。東西2間、南北1間以上の建物跡である。調査区外の南側に延びており、今回検出されたのはその一部であると考えられ、全体の規模は不明である。北側柱列では4.0m（柱間寸法は東より2.1m＋1.9m）、東側柱列では3.0m以上（柱間寸法は北より1.85m＋1.15m以上）、西側柱列では2.55m以上（柱間寸法は北より2.15m＋0.4m以上）である。建物方向はN－5°～10°－Eの範囲内と考えられる。

第1023図　3号掘立柱建物跡



柱穴掘り方は円形を基調としたものである。規模は最大のもので60cm×58cm、最小のもので24cm×22cmである。柱痕跡は1個確認され、18cm×11cmの楕円形である。柱穴の深さは保存状態の良好なもので36cmである。

3号掘立柱建物跡柱穴

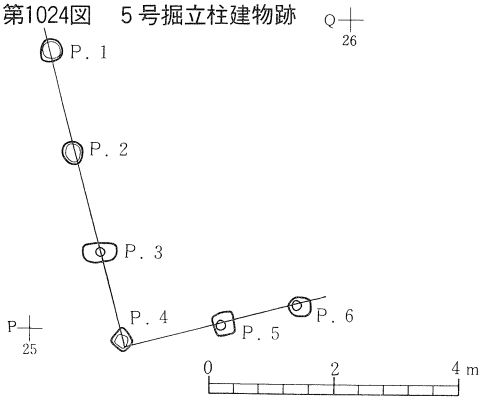
No.	1	2	3	4	5	6
形状	円	円	円	円	円	円
深さ	19	20	——	23	36	39
備考			柱痕有			
			深 17			

本遺構に伴う遺物は出土しなかった。

5号掘立柱建物跡

本遺構は調査区の中央O・P－25に位置し、第4層～第5層上面で確認された。北東部を中心に削平を受けており西側南北列で3間、南側東西列で2間を確認したのみで全体の規模は不明である。西側柱列では4.85m（柱間寸法は北より1.65m＋1.65m＋1.55m）、南側柱列では2.8m（柱間寸法は東より1.25m＋1.55m）である。建物方向は西側柱列でN－15°－Wである。位置的に8号住居あと、12号溝との切り合い関係が考えられるが削平のため不明である。

第1024図　5号掘立柱建物跡



柱穴掘り方は方形あるいは円形・楕円形のものがある。規模は最大のもので54cm×30cm、最小のもので30cm×30cmである。柱痕跡は3個確認され、径15cmの円形である。柱穴の深さは、遺存状態の良好なもので40cmである。

本遺構に伴う遺物は出土していない。

5号掘立柱建物跡柱穴

No.	1	2	3	4	5	6
形状	円	円	楕　円	方	方	楕　円
深さ	42	11	——	18	——	——
備考			柱痕有		柱痕有	柱痕有
			深 21		深 23	深 31

墓　壙

東側道路部斜面の中位、傾斜が緩やかに変わる部分に３基の墓壙が検出された。

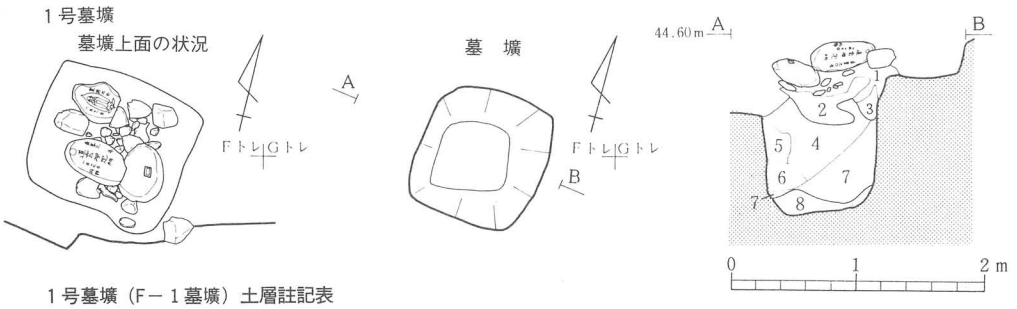
１号墓（Ｆ－１墓壙）

東側道路部Ｆ・Ｇトレンチに位置し表土下で墓石及びその台石、台石の根石と思われる河原石が検出された。墓壙は、墓石の下面より10～25cm 下がった第５層上面で確認された。規模は、長軸108cm、短軸98cm、深さは最も深い部分で掘り方上面から92cm である。平面形は、隅丸の方形である。埋土は４層に大別されるが、いずれもロームブロックや小礫を含むなど類似した様相を示している。底面はほぼ平坦であり、やや東へ傾斜している。壁は底面から急角度で立ち上がっている。

出土遺物は、埋土中より多数の鉄釘が出土している。底面付近では、木製の箱に入った柄鏡及び煙管、笄、古銭とともに人骨片、歯が出土している。古銭は布に包まれた状態のものがあり、布袋に納められていたものであると考えられる。この布には多量の籾殻がついていた。

墓石は高さ52.5cm、幅32.5cm、厚さ20.0cm である。扁平な自然石を利用している。中央上部に「日輪」がある。中央の文字は、「道雲禅定門」と戒名が記され、その右側に「貞享三（丙寅）年」（1687年）、左側に「六月十七日」、「丹野…右…(門カ)」と刻まれている。倒れている方向から、東方に面して立てられていたものと考えられる。

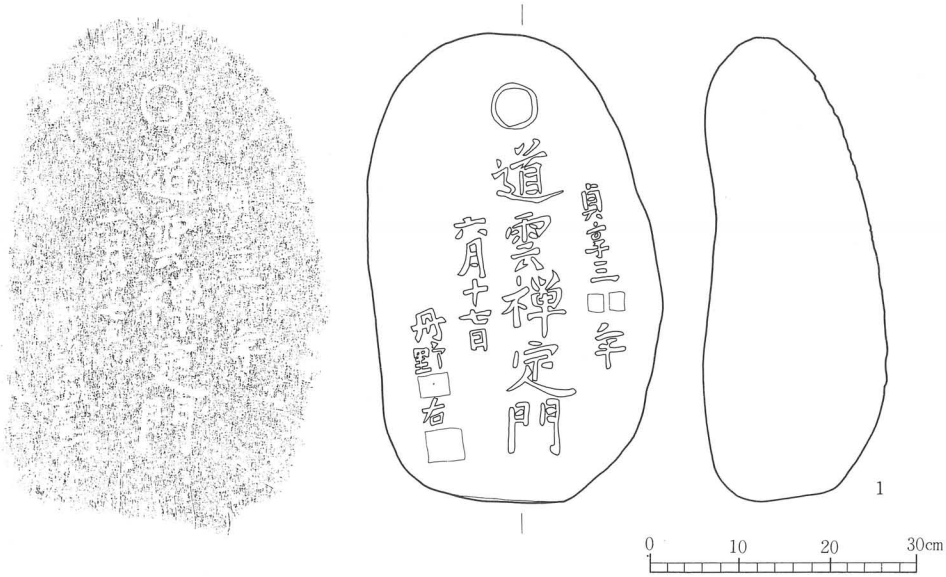
また、墓石の北側に石碑が検出されている。高さ40.0cm、幅33.0cm、厚さ13.3cm の偏平な自然石を削り、落ち着きをよくしている。中央には線描きの蓮座の上に舟形光背を彫り込み「地蔵菩薩像」を浮き出している。右側には「寛延三天」（1750年）、左側には「六月十一日」と刻まれている。年代的に１号墓の墓石の年号と64年の隔たりがあり、直接関連するものではなく、付近に立てられたものが墓壙上部に倒れ込んだものと思われる。

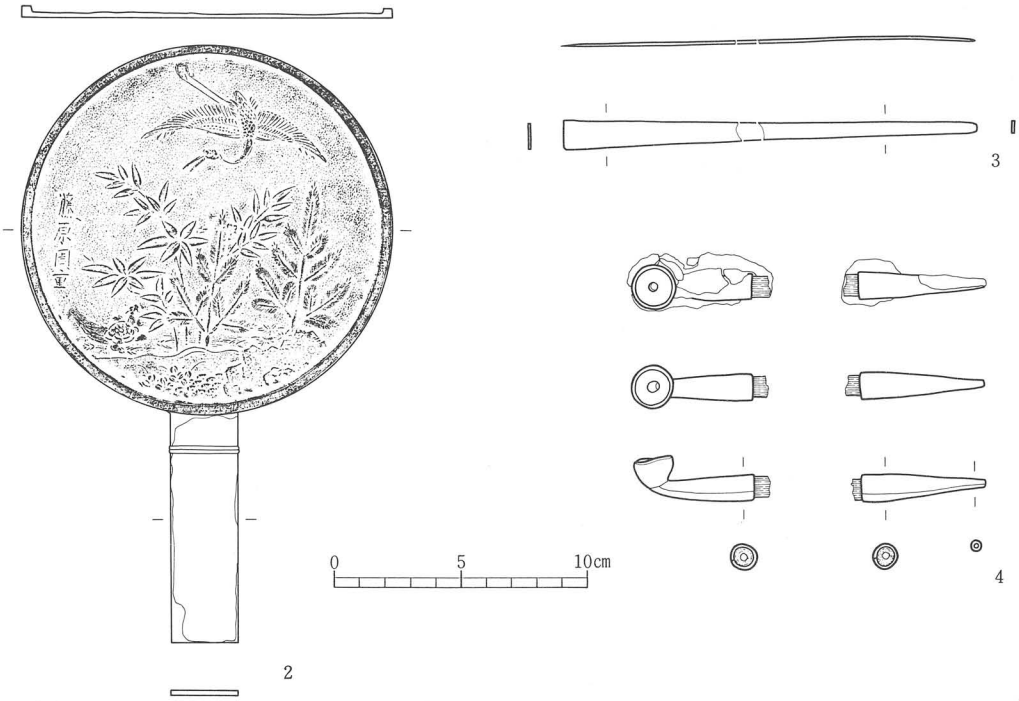


１号墓壙（Ｆ－１墓壙）土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	黒　褐　7.5YR3/2	砂質シルト	風化礫少々含む
	2	明　褐　7.5YR5/6	砂質シルト	暗褐色7.5YR3/4シルトをブロック状に含む
	3	明　褐　7.5YR5/6	砂質シルト	風化礫多量に含む
2	4	褐　　7.5YR4/3	砂質シルト	非常に柔らかい
	5	褐　　7.5YR4/4	砂質シルト	
	6	褐　　7.5YR4/3	砂質シルト	４層より堅くしまっている
	7	明　褐　7.5YR5/6	細　砂	
3	8	暗　褐　7.5YR3/3	砂質シルト	

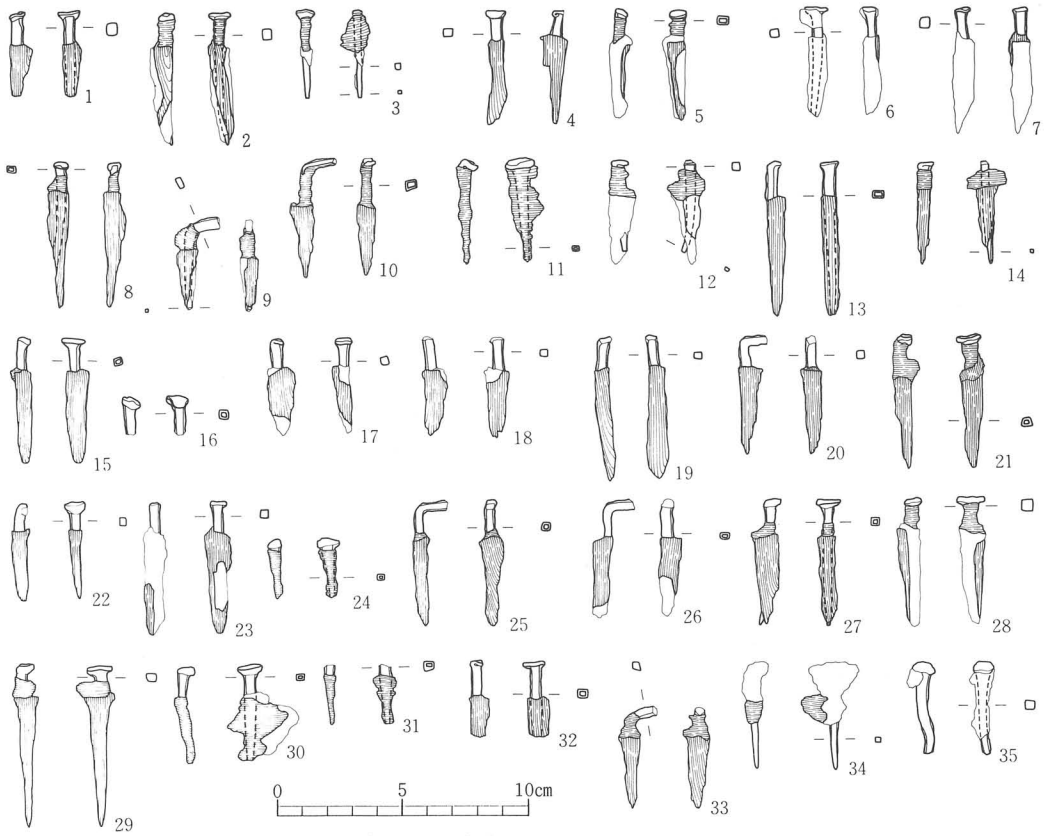
第1025図　１　号　墓





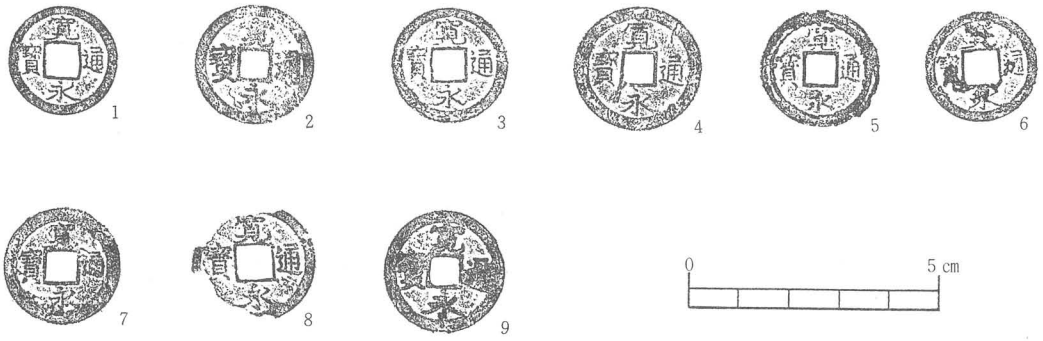
No.	種別	層位	寸法		備考
1	墓石	検出面	高さ×幅×厚さ（cm）		
			52.5×32.5×20.0		
2	柄鏡	埋土最下部	鏡	柄	柄に紙を巻き付けている。木箱の一部存在。
			長さ×幅（cm）	長さ×幅（cm）	
			23.75×14.7	9.05×2.70	重量201.5g
3	笄	埋土最下部	長さ×幅×厚さ（cm）		べっこう製。
			(16.35)×1.20×0.15		
4	煙管	埋土最下部	雁首	吸い口	銅製、櫛細工のケース？付着
			長さ×幅（cm）	長さ×幅（cm）	
			5.45×1.77	5.40×0.35	

第1026図　1号墓壙出土墓石、遺物



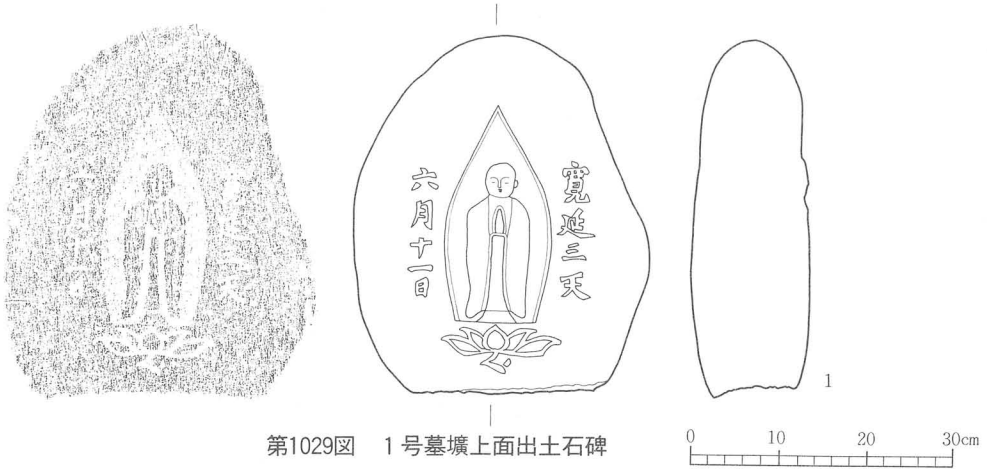
No.	層　位	長 × 幅 × 厚(mm)	備　考
1	埋　土	(34.0)×5.2×4.5	木片付着、頭有り
2	埋　土	53.2×4.5×5.0	木片・錆付着
3	埋　土	(35.7)×(3.0)×(32)	木片・錆付着
4	埋　土	——×6.0×4.0	木片付着、頭有り
5	埋　土	——×5.0×3.5	木片・錆付着、頭有り、中空の釘
6	埋　土	(44.0)×(4.0)×(5.0)	錆付着
7	埋　土	——×5.5×5.6	木片・錆付着、頭有り
8	埋　土	(44.5)×4.2×3.1	木片付着、頭有り、中空の釘
9	埋　土	(46.0)×5.5×3.0	木片・錆付着
10	埋　土	——×5.5×4.5	木片付着、中空の釘
11	埋　土	(41.3)×3.5×3.0	木片付着、頭有り、中空の釘
12	埋　土	(37.0)×4.2×4.0	木片・錆付着
13	埋　土	(61.5)×5.9×3.7	木片付着、中空の釘
14	埋　土	41.6×3.5×6.0	木片付着
15	埋　土	——×5.9×4.8	木片付着、頭有り、中空の釘
16	埋　土	(16.0)×6.0×5.0	頭有り、中空の釘
17	埋　土	——×5.2×5.0	木片・錆付着、頭有り
18	埋　土	——×6.0×4.5	木片・錆付着
19	埋　土	——×4.7×5.2	木片付着
20	埋　土	——×4.9×4.8	木片付着
21	埋　土	——×(5.2)×(4.0)	木片付着、頭有り、中空の釘
22	埋　土	——×4.2×3.8	木片付着
23	埋　土	——×6.0×4.0	木片・錆付着
24	埋　土	(24.2)×6.5×4.7	木片付着、中空の釘
25	埋　土	——×5.0×4.3	木片付着、中空の釘
26	埋　土	——×5.0×4.5	木片・錆付着、中空の釘
27	埋　土	50.5×5.8×4.9	木片付着、頭有り、中空の釘
28	埋　土	——×6.0×5.0	木片・錆付着、頭有り
29	埋　土	——×5.3×4.3	木片付着、頭有り
30	埋　土	(38.0)×6.2×4.9	木片・錆付着、頭有り、中空の釘
31	埋　土	(24.0)×5.5×4.1	木片付着、中空の釘
32	埋　土	(30.2)×5.0×4.5	木片付着、頭有り、中空の釘
33	埋土上部	——×5.0×4.0	木片付着
34	埋　土	——×4.0×3.0	木片・錆付着
35	埋　土	(37.5)×4.7×4.0	錆付着、頭有り

第1027図　1号墓壙出土鉄釘



No.	層　位	銭　名	重量(g)	備　考	No.	層　位	銭　名	重量(g)	備　考
1	埋　土	寛永通宝	1.55		6	埋　土	寛永通宝	1.90	
2	埋　土	寛永通宝	2.70		7	埋　土	寛永通宝	2.75	
3	埋　土	寛永通宝	2.30		8	埋　土	寛永通宝	(1.20)	
4	埋　土	寛永通宝	3.70		9	埋　土	寛永通宝	3.15	
5	埋　土	寛永通宝	2.95						

第1028図　１号墓壙出土古銭



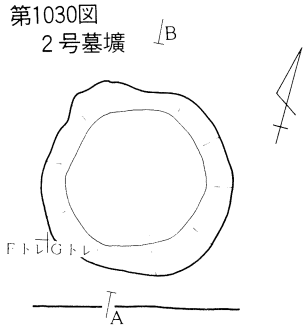
第1029図　１号墓壙上面出土石碑

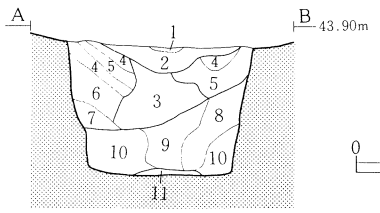
２号墓（Ｇ－１墓壙）

東側道路部Ｇトレンチに位置し、第５層上面で確認された。墓石や配石などの施設は検出されなかった。規模は長軸148cm、短軸145cm、深さは最も深い部分で107cm である。平面形は不整な円形である。埋土は４層に大別されるが、ロームブロックを含むなど類似した様相を示している。底面はほぼ平坦である。壁は底面から急な角度で立ち上がっている。

出土遺物は、底面付近より歯が出土している。また、東壁際から鉄片及び煙管の雁首が出土している。

第1030図
2号墓壙





2号墓壙（G－1墓壙） 土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	黒褐 7.5YR2/3	砂質シルト	風化礫少量含む
	2	褐 7.5YR4/3	砂質シルト	風化礫多量に含む
2	3	明黄褐 10YR6/6	砂質シルト	暗褐7.5YR3/3シルトをブロック状に含む
3	4	明黄褐 10YR6/6	砂質シルト	層No.3より堅くしまっている。
	5	暗褐 7.5YR3/4	砂質シルト	炭化物少量含む
	6	暗褐 7.5YR3/4	砂質シルト	明黄褐10YR6/6シルトをブロック状に含む
	7	暗褐 7.5YR3/4	砂質シルト	炭化物少量含む
4	8	暗褐 7.5YR3/4	砂質シルト	明黄褐10YR6/6シルトを霜ふり状に含む
	9	極暗褐 7.5YR2/3	砂質シルト	風化礫、炭化物含む
	10	暗褐 7.5YR3/3	砂質シルト	明黄褐10YR6/6シルト、細かい酸化鉄含む
5	11	灰褐 7.5YR6/2	粘度質砂	

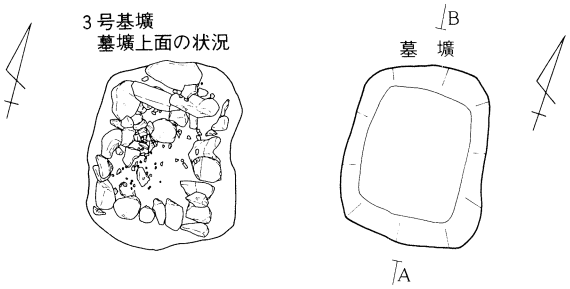
No.	層位	銭名	重量(g)	備考
1	埋土	寛永通宝	3.15	

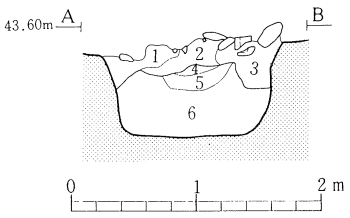
第1031図　2号墓壙出土古銭

3号墓（G－2墓壙）

東側道路部G・Hトレンチに位置し、表土下で配石が検出された。その規模は長軸115cm、短軸100cmの長方形である。墓壙は第5層上面で確認された。その規模は、長軸145cm、短軸115cm、深さは最も深い部分で73cmである。平面形は隅丸の長方形である。埋土は6層に分けられるが、ロームブロックや礫を含むなど類似した様相を示している。底面はほぼ平坦である。壁は底面から急な角度で立ち上がっている。

出土遺物は、底面付近から人骨及び煙管、鉄釘が出土している。

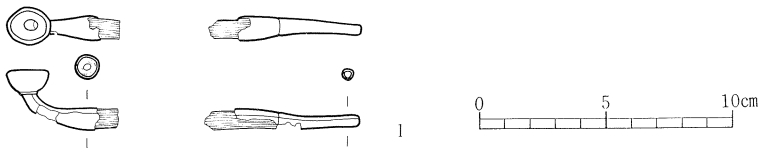




3号墓壙（G－2） 土層註記表

層位	層No.	土色	土性	備考
1	1	明褐 7.5YR5/6	砂質シルト	小円礫、風化礫含む。
	2	暗褐 7.5YR3/4	砂質シルト	
	3	褐 7.5YR4/6	粘土	細砂含む。
2	4	暗褐 7.5YR3/4	砂質シルト	褐色（7.5YR4/6）シルトが混っている。
	5	褐 7.5YR4/6	砂質粘土	暗褐色（7.5YR3/4）シルトをブロック状に含む。
	6	暗褐 7.5YR3/4	砂質シルト	しまりなくぼそぼそしている。

第1032図　3号墓壙



No.	種別	附位	雁首 長さ×幅(cm)	吸い口 長さ×幅(cm)	備考
1	煙管	埋土最下部	4.50×1.57	6.10×0.41	銅製

第1033図　3号墓壙出土遺物

小溝状遺構群

調査区中央部のやや東寄り、M－25からS－26にかけて、小溝状遺構が11条検出されている。規模・方向が近似しているため一つの群として取り扱った。確認面は地区によって異なり、第4層～第5層上面である。これは表土を剝離した際に検出された層であり、この地区は2～3層が確認されなかった地区である。規模は、幅12～47cm、深さは3～13cmである。長さは0.68～5.72mであるが、1条のものが削平を受けたために途切れていると考えられるものもある。方向はN－17°～22°－Eの範囲であるが、N－20°－Eのものが最も多い。これらは、8号住居跡、75号、76号土壙、2号掘立柱建物跡との切り合い関係も考えられるが削平のため不明である。

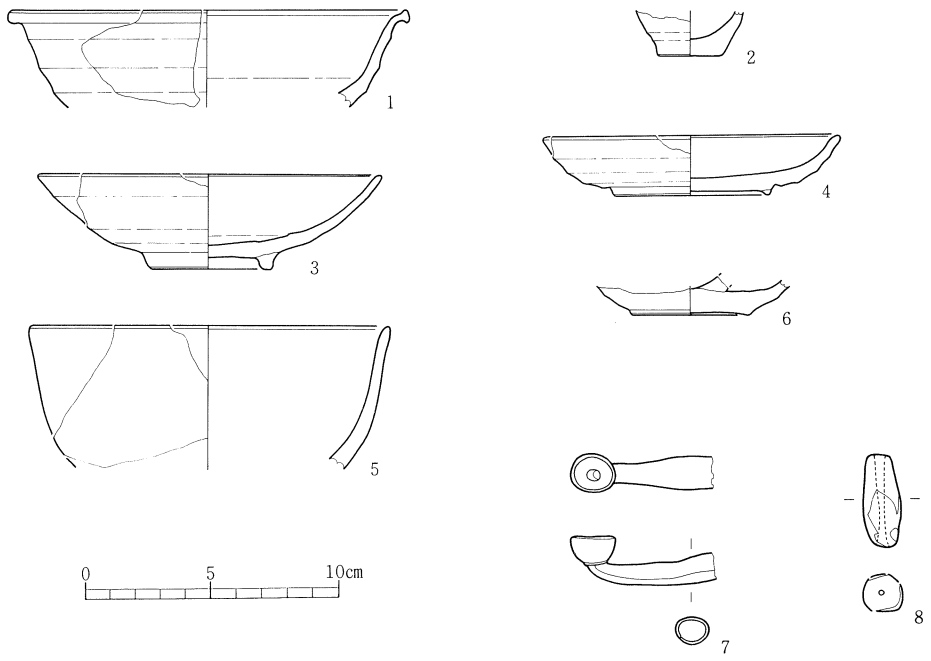
堆積土は表土と同質のものであり、しまりがなく、ボサボサしている。

遺物は出土しなかった。

これらの小溝状遺構群は、出土遺物もなく、遺構の切り合い関係からも古代まで遡るとは考え難いが、遺構の規模、方向性にある程度の規則性も認められる。性格については不明である。

遺構外の出土遺物

中世～近世以降の遺物は、東区、東側道路部の表土及び堆積土から出土している。ここでは遺構外から出土した遺物を取り上げる。遺物には陶磁器、煙管、土錘、古銭等がある。古銭については遺存状況が悪く、図示できるものはない。



No.	地区・層位	種　別	特　徴	産　地	備　考
1	道路部・1層	皿	内・外面ロクロ調整、灰釉	瀬　戸	江戸初期？
2	E－22・1層	茶入れ	内・外面ロクロ調整、鉄釉、底部回転糸切り	瀬　戸	江戸？
3	道路部・1層	皿	内・外面ロクロ調整、青緑釉、蛇ノ目釉ハギ	唐　津	底部台付17C後半～18C前半
4	道路部・1層	丸　皿	内・外面ロクロ調整	美　濃	底部台付17C初
5	Hトレ・2層	鉢　？	内・外面施釉のため調整不明	堤　？	近世
6	Hトレ・1層	燈明皿	内・外面ロクロ調整、鉄釉、底部回転糸切り	不　明	見込に芯受けあり近世
7	Cトレ・2層	煙　管	雁首　長さ×幅（cm）　5.6×1.35		銅　製
8	Cトレ・表採	土　錘			

第1034図　その他の出土遺物

X. 遺跡の構成

今回の山田上ノ台遺跡跡の発掘調査の結果、旧石器時代、縄文時代、古代及び中世以降の遺構と遺物が発見されている。弥生時代と古墳時代のものは発見されなかった。

旧石器時代

旧石器時代では、約3万数千年前に降下したとされている川崎スコリア層（俗称バンバン）より下位の前期旧石器時代に属すると考えられる文化層が4枚、上位の後期旧石器時代に属すると考えられる文化層が4枚及び約3万年前後に属すると考えられる文化層が1枚確認されており、各々の文化層に属する石器が出土している。昭和59年度の発掘調査によって、後期旧石器時代の第1文化層と第2文化層については、石器の接合関係などから2枚の独立した文化層ではなく、同一の文化層としてとらえられるべきものであるという指摘がなされており、ここではそれを受けて後期旧石器時代に属すると考えられる文化層は3枚であるとしておきたい。また、前期旧石器時代に属する石器群は、V・W－18区及びU・V－19区、U－20区には広がりを持たないことが確認されている。

縄文時代

縄文時代では、早期の土器が出土しているが、明確に遺構に伴うものではなく、該期の遺構は不明である。前期中葉から末葉にかけて若干の土器が出土しているが早期と同様遺構は検出されてはない。しかし、早期末葉の住居跡及び前期末葉大木6式の土壙群が本遺跡の北方約200mの北前遺跡で検出されており、本遺跡の調査区周辺特に北前遺跡に近い北方には遺構が存在する可能性がある。中期前葉の大木7a式期には北側の浅い谷部に遺物包含層が形成され（東区北側谷部遺物包含層）、その周囲、特に東区北西部では、遺構（土壙）が検出されているが、竪穴住居跡等は検出されていない。中期中葉、大木8式及び後葉、大木9式期には若干の土器がみられ、大木9式期の遺構（土壙）も検出されている。大木9式期には、前出の北前遺跡で遺構（竪穴住居跡）が検出され、集落としては、北前遺跡の方に中心があったものと考えられる。それが、大木10式期になると大規模な集落となり、竪穴住居跡が38軒検出され、土壙群、遺物包含層（東区西側遺物包含層）が形成される。竪穴住居跡は東区の22軒について精査を行い、構築時期まで明らかにしえたは、炉の断ち割り精査まで行った3軒（2号、5号、14号住居跡）のみであり、3軒とも大木10式第Ⅰ段階のものである。他の竪穴住居跡については、第Ⅱ段階以降と考えられるのは15号住居跡のみであるが、埋設土器の時期が不明のため確実ではない。しかし、調査区全体で見た場合、調査区の東区南東部と西区南部と大きく2つの竪穴住居跡のブロックが形成されているように看取される。西区南部の住居跡は確認面ではあるが出土する土器は、大木10式土器の第Ⅰ・第Ⅱ段階のものであり、東区と大きく変わることはない

と思われる。この点で集落内で同時期に存在した単位数については明らかではない。竪穴住居跡相互の重複関係、埋設土器の検討など今後の調査を待たなければ解決されない点である。土壙群は、貯蔵穴、落し穴などが確認されている。墓壙については不明な点が多い。その他に、土器焼成のための施設であると考えられる土壙(276号土壙)も検出されている。遺物包含層は、大木10式第Ⅰ段階、第Ⅱ段階が主体で、第Ⅲ段階、第Ⅳ段階のものも混入しており、竪穴住居跡と同時期のものであると考えられる。大木10式第Ⅲ段階、第Ⅳ段階に確実に位置付けられる遺構は不明である。

後期前葉になると、竪穴住居跡は検出されず、少数の土壙と遺物包含層（西区遺物包含層）が形成される。土器の出土量も大木10式よりかなり少量となる。しかし、遺物包含層については、昭和54年度の試掘調査で確認した際、遺存状況はかなり良好で包含される遺物量も多いという指摘がされているが、それだけの遺物包含層を形成した当該時期の集落の存在については不明である。東区の2箇所の遺物包含層にも少量の土器が混入しており、西区の北側に存在する可能性がある。しかし、西区北側の境界付近から浅い谷状の窪みになっており、その可能性については不明である。

後期中葉から後葉には若干の土器が出土しているが、遺構は確認されていない。

晩期以降の遺構と遺物については、所謂アメリカ式石鏃が1点出土しているのみで、奈良時代に至るまでの間のものは全く検出されていない。

古代

古代では、奈良時代の土壙、溝跡があり、土師器（国分寺下層式）、須恵器が出土している。平安時代では竪穴住居跡4軒、土壙、溝跡、掘立柱建物跡が検出され、土師器（表杉ノ入式）、須恵器が出土しており、墨書土器もある。その他に円面硯や須恵器甕の体部の破片を利用した転用硯も出土している。竪穴住居跡は堆積土中に灰白色火山灰が検出され、10世紀前半以前のものと考えられる。これらの遺構はほとんどが台地の縁辺部に位置しており、平坦部は大きな空間となり、その空間を区画するように溝跡が走っているという状況が看取される。

中世以降のものとして、時期不明の溝跡、掘立柱建物跡、小溝状遺構群があり、中世陶器、近世陶磁器などが出土している。また、江戸時代の墓壙が東側道路部の斜面で3基検出され、貞享三（1687）年の年号が記された墓石が残るものもあった。墓壙からは、古銭、銅鏡、煙管などが出土している。

XI．まとめ

1．山田上ノ台遺跡は名取川の形成した段丘上に位置している。

2．前期旧石器時代、後期旧石器時代、縄文時代早期、前期、中期、後期、奈良時代、平安時代、近世に亘って各時代の遺物・遺構が検出された。

3．a．前期旧石器時代の文化層が4枚確認された。

b．後期旧石器時代の文化層が3枚確認され、約3万年前前後に属する文化層が1枚確認された。

4．a．縄文時代の遺物としては、早期、前期、中期、後期の土器、石器が出土しており、特に中期末葉のものが大部分を占める。

b．中期末葉の土器は大木10式第Ⅰ・第II段階のものが主体となっている。

c．縄文時代の遺構としては、竪穴住居跡、土壙、竪穴遺構、埋設土器、遺物包含層がある。

d．竪穴住居跡は、中期末葉の大木10式期のものであり、複式炉をもつものが大部分である。

e．土壙は、中期前葉大木7a式期、中期後葉大木9式期、中期末葉大木10式期、後期初頭南境式期のものがある。

f．遺物包含層は、中期前葉大木7a式期、中期末大木10式期のものがある。

g．集落の規模は大木10式期に最大になり、後期前葉南境以降はほとんど廃棄され。晩期から奈良時代までは遺物、遺構とも存在しない。

5．a．古代では、奈良時代の土壙、溝跡が検出されている。

b．平安時代の竪穴住居跡、土壙、溝跡、掘立柱建物跡が検出されている。

6．a．中世以降では江戸時代の墓壙が検出されている。

b．時期不明のものとして掘立柱建物跡、溝跡が検出されている。

7．旧石器時代の各文化層の性格を把握するための情報を得るために、今後、より広範囲の発掘調査が必要である。

8．今後、火山灰の標式火山灰との対比、段丘の形成時期の解明、旧石器時代の自然環境の復原などが必要である。

9．縄文時代の集落跡についても、竪穴住居跡の時期、構造の解明、縄文時代の自然環境の復原にも取り組んでいく必要がある。

10．仙台市が公有化した土地の利用を促進するためにも、遺跡地の保存、活用の他、継続した学術調査を進める体制を整えていくことが急務であると考えられる。

引用・参考文献

相原淳一他（1986年）：「小梁川遺跡遺物包含層土器編」『宮城県文化財調査報告書第117集』

阿部正光・赤澤靖章（1983年）：「大境山遺跡」『瀬峰町文化財調査報告書第４集』

阿部　恵（1980年）：「宇賀崎貝塚」『宮城県文化報告書67集』

阿部　恵他（1986年）：「田柄貝塚Ⅰ－土器・土製品」『宮城県文化財報告書第111集』

一條孝夫（1978年）：「湯坪遺跡発掘調査概報」『宮城県文化財報告書第54集』

伊東信雄（1940年）：「宮城県遠田郡不動堂村素山貝塚調査報告書」『東北帝国大学法学部奥羽資料調査部研究報告第２』

伊東信雄（1957年）：「古代史」『宮城県史１』

伊東信雄・藤沼邦彦他（1969年）：「埋蔵文化財緊急発掘調査概報－長根貝塚－」『宮城県文化財調査報告書第19集』

稲野裕介他（1983年）：「滝ノ沢遺跡」『北上市文化財調査報告書第33集』

今村哲爾（1983年）：「陥穴（おとし穴）」『縄文文化の研究２』

及川　格・菅原和夫（1984年）：「山田上ノ台遺跡」『仙台市文化財調査報告書第77集』

岡村道雄（1979年）：「縄文時代石器の基礎的研究とその具体例その１」『東北歴史史料館研究紀要第５巻』

小笠原好彦（1968年）：「東北地方南部における前期末から中期初頭の縄文式土器」『仙台湾周辺の考古学的研究』

加藤　孝（1951年）：「宮城県上川名貝塚の研究－東北地方縄文文化の編年学的研究（１）－」『宮城学院女子大学研究論集Ⅰ』

加藤　孝（1960年）：「考古学上よりみた塩竈市周辺の遺跡」『塩竈市史Ⅲ別編Ⅰ』

加藤　孝（1957年）：「宮城県登米郡南方町青島貝塚発掘調査報告」『南方町史料編』

後藤勝彦他（1967年）：「西ノ浜貝塚緊急発掘調査概報」『宮城県文化財調査報告書第13集』

後藤勝彦（1968年）：「宮城県七ヶ浜町吉田浜貝塚〔Ⅰ〕」『仙台湾周辺の考古学的研究』

後藤勝彦（1969年）：「埋蔵文化財第四次緊急調査概報－南境貝塚－」『宮城県文化財調査報告第20集』

小徳　晶（1982年）：「天神山遺跡」『宮城県文化財調査報告書第89集』

佐藤甲二・斎野裕彦他（1983年）：「茂庭」『仙台市文化財調査報告書第45集』

佐藤　洋他（1980年）：「山田上ノ台遺跡」『仙台市文化財調査報告書第29集』

佐藤　洋他（1981年）：「山口遺跡発掘調査報告書」『仙台市文化財調査報告書第33集』

佐藤　洋・斎野裕彦（1982年）：「北前遺跡」『仙台市文化財調査報告書第36集』

佐藤正吉・片倉信光（1958年）：「白石市荒井縄文住居遺跡」『仙台郷土研究185』

篠原信彦・吉岡恭平他（1982～83年）：「仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報Ⅰ～Ⅱ」『仙台市文化財調査報告書第40集・第56集』

白石市（1972年）：『白石市史』別巻

菅原俊行他（1976年）：「小阿地下堤遺跡・坂ノ上遺跡」秋田市

鈴鹿良一他（1982年）：「馬見塚遺跡－縄文時代中期集落跡の発掘調査報告－」『福島県相馬市文化財調査報告書』

須藤　隆（1985年）：「東北地方における縄文集落の研究」『東北大学考古学研究報告１』

田中則和（1981年）：「六反田遺跡調査発掘報告書」『仙台市文化財調査報告書第34集』

田中則和・主浜光朗他（1984年）：「山口遺跡Ⅱ」『仙台市文化財調査報告書第61集』

中村光一・阿部正光・佐藤正人・三塚敏明（1976年）：『沼津貝塚保存管理策定事業報告書』

永瀬福男（1977年）：「古館堤頭遺跡発掘調査報告書」山本町

永瀬福男（1982年）：「貯蔵穴」季刊考古学１

鳴瀬町教育委員会（1977年）：「金山貝塚」『鳴瀬町文化財調査報告書第１集』

丹羽　茂（1971年）：「東北地方南部における中期縄文時代中・後葉土器群研究の現段階」『福島考古12号』

丹羽　茂・三浦圭介・加藤貞子（1973年）：「菅生田遺跡調査概報」『宮城県文化財調査報告書第29集』

丹羽　茂（1974年）：「福島県における縄文時代中期の住居集落研究の現状と問題点」『福島考古15号』
丹羽　茂（1981年）：「大木式土器」『縄文文化の研究第４巻』
丹羽　茂・阿部　博・小野寺祥一郎（1981年）：「清水遺跡」『宮城県文化財調査報告書第77集』
丹羽　茂・阿部　博・小野寺祥一郎（1982年）：「勝負沢遺跡」『宮城県文化財調査報告書第83集』
丹羽　茂・阿部　博・小野寺祥一郎（1982年）：「菅生田遺跡」『宮城県文化財調査報告書第92集』
芳賀良光（1968年）：「宮城県宮戸島貝塚梨木囲遺跡の研究」『仙台湾周辺の考古学的研究』
真山　悟・菊地淳一（1985年）：「小梁川東遺跡」『宮城県文化財調査報告書第107集』
松島町教育委員会（1976年）：『西ノ浜貝塚史跡保存管理計画策定事業報告書』
宮城県教育委員会（1978年）：「上深沢遺跡」『宮城県文化財調査報告書第52集』
八巻正文他（1979年）：「大木囲貝塚」『七ヶ浜町文化財調査報告書第４集』
山内清男（1929年）：「関東北に於ける繊維土器」『史前学雑誌第１巻２号』
渡部弘美・佐藤　裕（1984年）：「燕沢遺跡」『仙台市文化財調査報告書第62集』